

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 35

平成30年度発掘調査報告

(第1分冊)

名越ヶ谷遺跡

大倉幕府周辺遺跡群

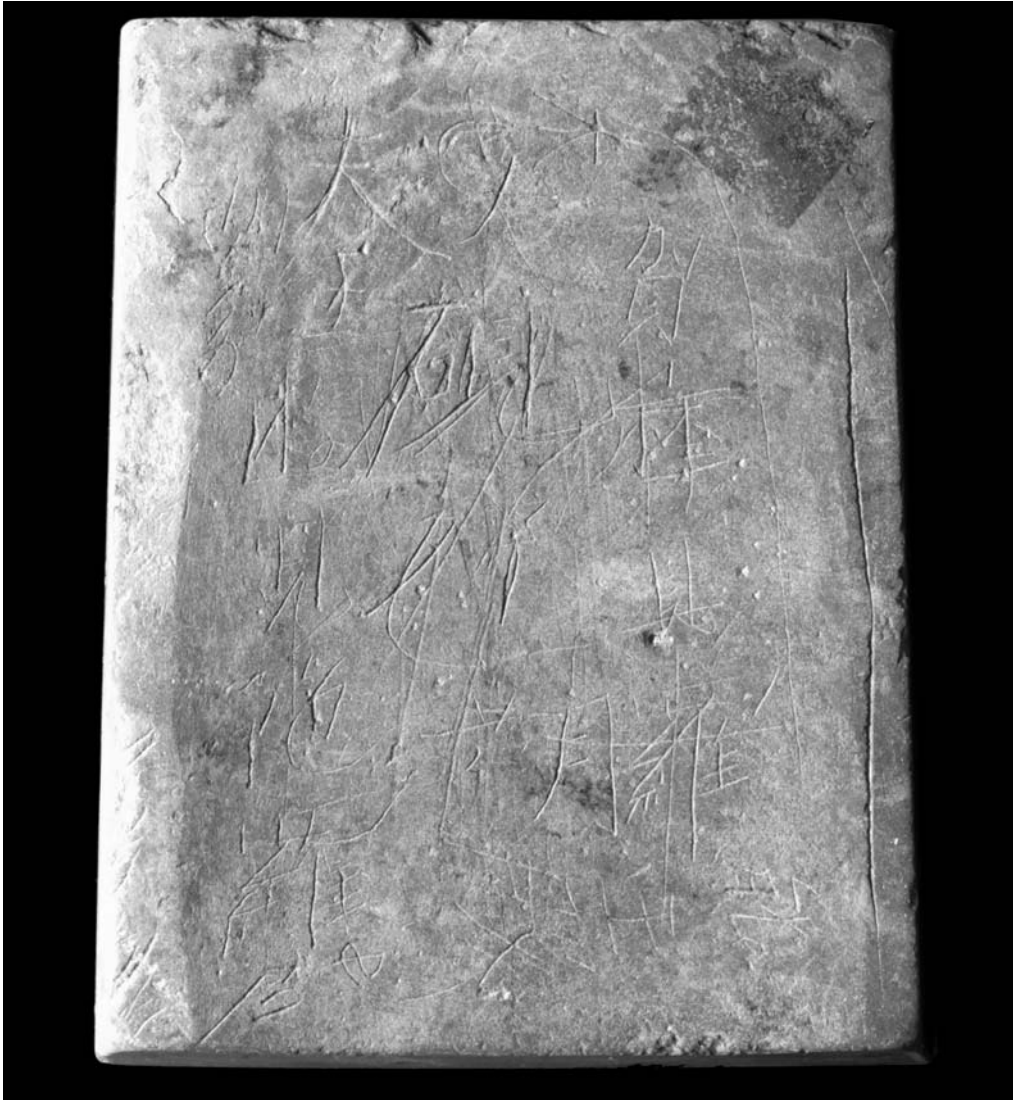
下馬周辺遺跡

川越重頼邸跡

桑ヶ谷療病院跡

平成31年3月

鎌倉市教育委員会



大倉幕府周辺遺跡群（二階堂字荏柄 3 番 6 外地点） 2 面土坑 0 2 出土の硯（裏面）



桑ヶ谷療病院跡（長谷三丁目 630 番 1 地点） 調査地点と周辺を望む（南から）

ご あ い さ つ

本市は、市域の6割以上が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。そのため、家屋や店舗の新築や建替え等に伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が行われることも多くあります。このように、私たちが日々の生活を送っていく上でやむを得ず失われる埋蔵文化財について、記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅の建築等に係る発掘調査を実施しています。本書は平成17～23・25・26・29年度に実施した、個人専用住宅の建築等に伴う発掘調査28か所の調査記録を掲載しています。

本書に収めたひとつひとつの調査成果は、武家政権発祥の地であり、今もその歴史を継承し、文化を発信する鎌倉の貴重な文化遺産です。これらの成果を広く知っていただくとともに、研究資料として活用されることを願って止みません。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、関係者の皆様に深い御理解を賜るとともに、さまざまな御協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

平成31年3月29日
鎌倉市教育委員会

例 言

- 1 本書は平成 30 年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書(第 1 分冊)である。
- 2 本書所収の調査地点及び所収分冊は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第1分冊 目次

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
本誌掲載の平成17～23、25・26・29～30年度発掘調査地点一覧	IV
平成30年度調査の概観	V
調査地点位置図	VII

1 名越ヶ谷遺跡 (No. 231) 大町三丁目 1230 番 4、7、10 外地点

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	4
第二章 調査の経過	4
第三章 検出した遺構と遺物	9
第四章 まとめ	9

2 大倉幕府周辺遺跡群 (No. 49) 二階堂字荏柄 3 番 6 外地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	23
第二章 調査の方法と経過	27
第三章 基本土層	29
第四章 発見された遺構と遺物	31
第五章 調査成果のまとめ	250

3 下馬周辺遺跡 (No. 200) 由比ガ浜二丁目 113 番 5、9 地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	322
第二章 調査の概要	327
第三章 発見された遺構と遺物	333
第四章 まとめ	351

4 川越重頼邸跡 (No. 270) 浄明寺五丁目 423 番 1、4 地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	375
第二章 発見された遺構と遺物	381
第三章 まとめ	400

5 桑ヶ谷療病院跡 (No. 294) 長谷三丁目 630 番地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	432
第二章 発見された遺構と遺物	449
第三章 まとめ	456

第1～4分冊掲載の平成17～23・25・26・29～30年度発掘調査地点一覧

第1分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目1230番4、7、10	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	城館跡	5.00	平成18年2月13日 ～平成18年2月28日
2	大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)	二階堂字荏柄3番6外	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	67.00	平成18年10月30日 ～平成19年1月15日
	大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)	二階堂字荏柄3番6外	個人専用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	54.00	平成20年2月28日 ～平成20年4月23日
3	下馬周辺遺跡 (No.200)	由比ガ浜二丁目113番5、9	自己用店舗併用住宅 (地盤の柱状改良)	都市	12.00	平成21年10月13日 ～平成21年11月13日
4	川越重頼邸跡 (No.270)	浄明寺五丁目423番1、4	個人専用住宅 (地盤の表層改良)	城館	45.00	平成22年7月1日 ～平成22年8月26日
5	桑ヶ谷療病院跡 (No.294)	長谷三丁目630番1	店舗併用住宅 (鋼管杭工事)	病院跡 遺物散布地	107.00	平成23年1月28日 ～平成23年4月28日

第2分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
6	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町三丁目2354番1、6	個人専用住宅 (表層改良工事)	城館跡	43.20	平成23年7月22日 ～平成23年10月3日
7	小町大路東遺跡 (No.233)	大町一丁目1147番	個人専用住宅 (表層改良工事)	都市	70.00	平成25年5月23日 ～平成25年9月6日
8	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目160番17	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	45.00	平成26年1月14日 ～平成26年4月11日
9	今小路西遺跡 (No.201)	由比ガ浜一丁目160番8、10	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	49.00	平成26年5月22日 ～平成26年9月19日
10	田楽辻子周辺遺跡 (No.33)	浄明寺一丁目590番2	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	41.06	平成30年2月16日 ～平成30年4月26日

第3分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
11	大倉幕府跡 (No.253)	雪ノ下三丁目648番3	集合住宅併用個人住宅 (柱状改良工事)	官衙	38.00	平成21年11月24日 ～平成22年2月19日
12	大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)	二階堂字荏柄76番4	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	42.00	平成19年2月26日 ～平成19年3月29日
13	横小路周辺遺跡 (No.259)	二階堂字稲葉越856番5	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	41.00	平成21年11月4日 ～平成21年12月28日
14	若宮大路周辺遺跡群 (No.242)	小町一丁目65番26	自己用店舗併用住宅 (鋼管杭工事)	都市	20.00	平成21年11月4日 ～平成21年11月24日
15	若宮大路周辺遺跡群 (No.242)	小町二丁目19番外	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	35.00	平成21年4月6日 ～平成21年5月12日
16	若宮大路周辺遺跡群 (No.242)	小町二丁目43番2	店舗併用個人住宅 (柱状改良工事)	都市	36.00	平成20年7月29日 ～平成20年9月22日
17	北条時房・顕時邸跡 (No.278)	雪ノ下一丁目234番2外	個人専用住宅 (基礎工事)	城館跡	12.00	平成20年6月13日 ～平成20年7月11日
18	川越重頼邸跡 (No.270)	浄明寺五丁目318番1の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	城館跡	74.00	平成21年6月30日 ～平成21年9月30日

第4分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
19	北条小町邸跡 (No.282)	雪ノ下一丁目421番1	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	27.00	平成22年3月29日 ～平成22年5月21日
20	西瓜ヶ谷遺跡 (No.213)	山ノ内字西瓜ヶ谷980番3外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	54.00	平成21年2月16日 ～平成21年3月16日
21	山ノ内上杉邸跡 (No.170)	山ノ内字東管領屋敷179番39	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	33.00	平成20年10月15日 ～平成20年11月28日
22	安国寺跡 (No.174)	山ノ内字東管領屋敷147番9外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	社寺跡	46.00	平成22年2月12日 ～平成22年5月7日
23	田楽辻子周辺遺跡 (No.33)	浄明寺一丁目652番8	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	67.00	平成20年10月10日 ～平成21年1月29日
24	名越ヶ谷遺跡 (No.231)	大町六丁目1708番23外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	21.00	平成22年5月14日 ～平成22年6月30日
25	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座一丁目919番19	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	28.00	平成20年6月27日 ～平成20年7月16日
26	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座一丁目893番9	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	13.00	平成20年7月24日 ～平成20年8月1日
27	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座六丁目742番4外	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	45.00	平成21年7月21日 ～平成21年8月26日

平成 30 年度調査の概観

平成 30 年度の緊急調査実施件数は 5 件であり、調査面積は 281.79 m²であった。これを前年度の 5 件、274.56 m²と比較してみると件数は同じものの、調査面積は 7.23 m²の微増となる。1 件あたりの調査面積は平均で 56.35 m²（前年度は 54.91 m²）であり、前年度より増加となった。

調査原因は 5 件とも個人専用住宅の建設である。これらの工種別内訳は、基礎工事が 1 件、鋼管杭工事が 1 件、柱状改良工事が 3 件となっている。今年度も鋼管杭工事や柱状改良工事が発掘調査の主体的な原因になっている傾向が顕著である。以下、各地点の調査成果の概要を紹介する。（調査面積及び調査期間等については「平成 30 年度調査地点一覧」を参照。）

1 田楽辻子周辺遺跡 (No. 33)

浄明寺一丁目に所在し、杉本寺から南西へ約 200m に位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀中頃から 15 世紀にかけての生活面が確認でき、石敷、掘立柱建物跡、溝、土坑、井戸等を確認した。遺物はかわらけ、国産陶器、瓦、鉄製品、石製品等が出土している。昨年度からの継続調査。詳細は本誌第 2 分冊の報告を参照されたい。

2 若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)

市内中心部の雪ノ下一丁目に所在し、鶴岡八幡宮から南西へ約 296m に位置している。鋼管杭工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀後半から 14 世紀初頭の生活面を確認し、土塁状遺構、板壁建物、囲炉裏等を検出した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、木製品、金属製品、石製品、骨角製品が出土している。

3 若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)

市内中心部の大町一丁目に所在し、本覚寺から南へ約 101m に位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀後半から 14 世紀前半の竪穴建物群、河川に向かう地形の落ち込み等を確認した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、ガラス製品、石製品等が出土している。

4 横小路周辺遺跡 (No. 259)

二階堂に所在し、荏柄天神社の南約 84m に位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀前半の整地面を確認し、かわらけ溜り、柱穴等を検出した。また、古代から中世の溝、地形の落ち込みを検出した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、須恵器等が出土している。

5 長谷小路周辺遺跡 (No. 236)

長谷一丁目に所在し、高德院の南東約 334m に位置している。基礎工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、関東大震災前後の廃棄坑、焼土を確認した。中世では 13 世紀後半から 14 世紀初頭の生活面を確認し、方形土坑、柱穴を検出した。出土遺物はかわらけ、国産陶器、鉄製品、銅銭、土師器が出土している。

平成30年度発掘調査地点一覧

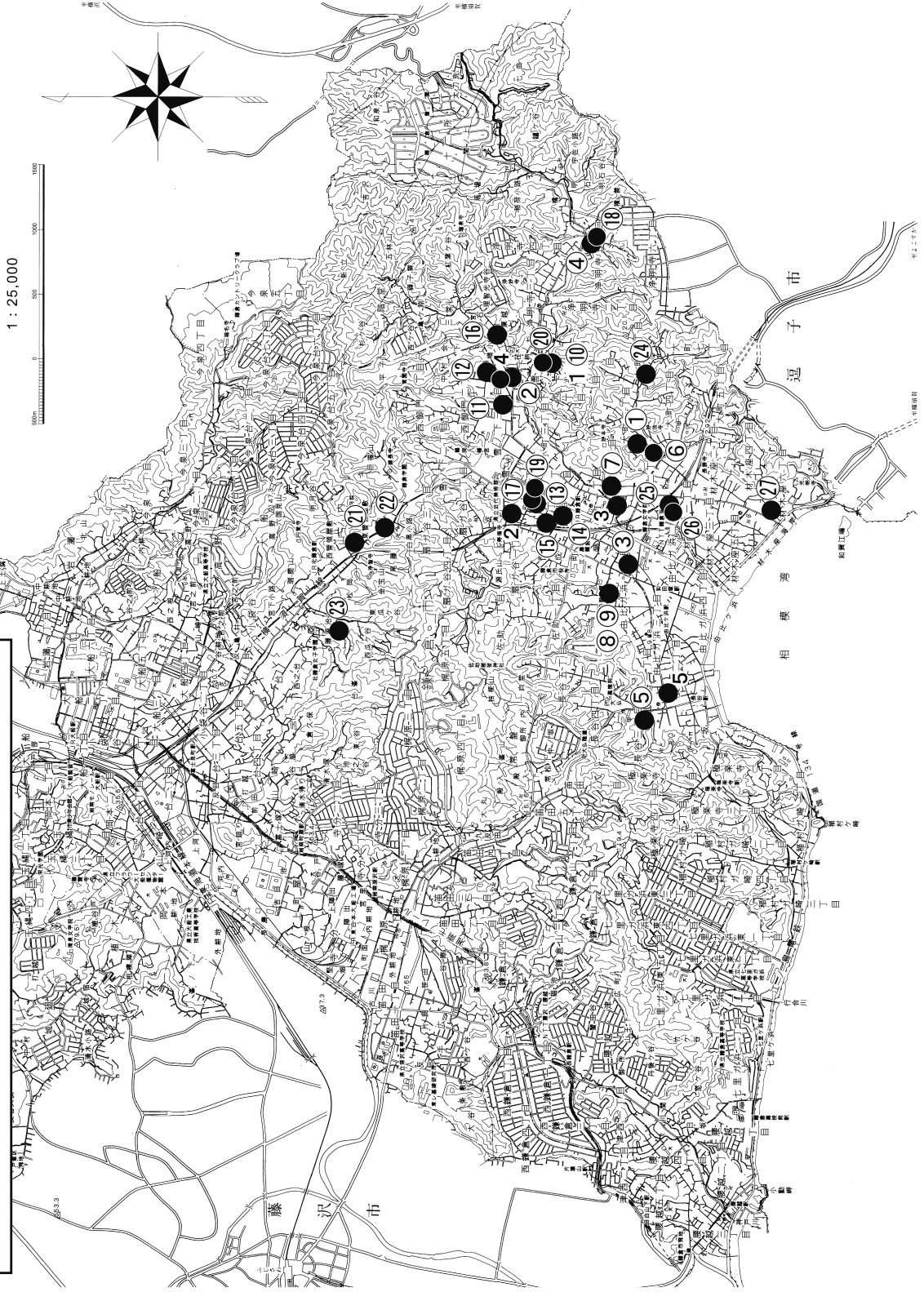
	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1	田楽辻子周辺遺跡 No.33	浄明寺一丁目590番2	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	41.06	平成30年2月16日 ～ 平成30年4月26日
2	若宮大路周辺遺跡群 No.242	雪ノ下一丁目161番43	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市遺跡	65.00	平成30年7月17日 ～ 平成30年10月26日
3	若宮大路周辺遺跡群 No.242	大町一丁目1083番1	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市遺跡	94.56	平成30年7月9日 ～ 平成30年9月14日
4	横小路周辺遺跡 No.259	二階堂字荏柄26番イの一部	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	31.97	平成30年10月16日 ～ 平成30年12月11日
5	長谷小路周辺遺跡 No.236	長谷二丁目274番1の一部、 274番2、275番6	個人専用住宅 (基礎工事)	都市遺跡	49.20	平成30年12月17日 ～ 平成31年1月25日

鎌倉市全図

平成30年度の緊急発掘調査地点(1～5)
第1～4分冊掲載の平成17～23・25・26・

29～30年度発掘調査地点(①～⑳)

※遺跡名は一覧表を参照



名越ヶ谷遺跡 (No.231)

大町三丁目1230番4、7、10地点

例 言

1. 本書は鎌倉市大町三丁目1230番4・7・10地点に所在する、個人専用住宅の新築に先だち行われた、名越ヶ谷遺跡(県遺跡台帳No.231)の発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は2006年2月13日から同年2月28日にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
3. 本書使用の遺構図及び遺物実測図、原稿執筆は福田 誠 が担当し、編集も福田が行った。
4. 本書に使用した遺構写真は森孝子が、遺物写真は福田が撮影を行った。
5. 発掘調査の体制は以下の通りである。
主任調査員 森 孝子 福田 誠 (鎌倉市教育委員会嘱託)
調 査 員 渡邊美佐子
作 業 員 (社)鎌倉市シルバー人材センター
6. 発掘調査資料(記録図面・写真・出土遺物)は、鎌倉市教育委員会が一括保管している。

目 次

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	4
第二章 調査の経過	4
第三章 検出した遺構と遺物	9
第1節 層序	
第2節 遺構と遺物	
第四章 まとめ	9

挿図目次

図1 調査地点位置と周辺の遺跡	5
図2 位置図・第1面平面図	6
図3 第2面平面図・第3面平面図	7
図4 土層断面図	8
図5 出土した遺物	11

図版目次

図版1 出土した遺物	11
図版2 第1面の調査(1)	12
図版3 第1面の調査(2)	13
図版4 第2・3面の調査	14
図版5 土層断面	15

表

遺物観察表	7
-------	---

第一章 歴史的環境と調査地点の位置

遺跡地は相模湾に面した鎌倉の沖積平野を取り囲む標高100m前後の丘陵の東方、名越ヶ谷の開口部に位置する。この谷は約600万年前の新生代第三紀に形成された凝灰砂岩と泥岩が、逆川等の浸食作用で削られ形作られたものである。縄文時代前期の海進期(約5,000~6,000年前)には、海面が現在より約10m近く上昇し入り込んだ海水により鎌倉湾が形成され、現在の鶴岡八幡宮付近まで海岸線が迫っていたと考えられる。縄文時代後期の海退期(約4,000年前)よりしだいに平野部分の陸地化が進み、弥生時代(約2,000年前)にはさらに乾燥がすすみ、海岸線付近では堆積した砂によって砂丘が形成されていった。砂丘の背後(北側)にはラグーン(後背湿地)が形成され、旧市内を流れる最大の河川である滑川をはじめ逆川、二階堂川、扇川、佐助川などが流れ込んでいた。このころから砂丘や河川によって作られた自然堤防上に点々と人々が居住を始めたと考えられている。

奈良時代には鎌倉郡の郡衙(郡役所)が置かれ、政治経済の重要な位置を占めていたと考えられる。平安期の鎌倉は、源頼義が石清水八幡宮を勧請した元八幡宮、八幡太郎義家の生まれた甘縄の館、亀ヶ谷の義朝の居館等の存在が知られ、源頼朝が鎌倉に入る1180年以前から源氏相伝の地であった。調査地点は大町三丁目1230番4・7・10地点に所在する。遺跡名の名越とは鎌倉の東南部一帯を指していたようで頼朝入府以前、名越は鎌倉の外であったと考えられている。鎌倉郷の東側にあった荏草郷の内にあり頼朝の入府以降、鎌倉に併合されていったものと思われる。名越ヶ谷の南には、後に整備される名越切通しを経て三浦さらに上総へ通じる幹線(旧東海道)が通り交通の要所、鎌倉の出入り口防御の要として重要な位置を果たしていたと考えられる。入り組んだ名越ヶ谷にはいくつかの支谷があり、その内の名越大谷には名越ヶ谷遺跡、山王ヶ谷には山王堂跡、釈迦堂口には北条時政邸跡と推定される遺跡が存在している。このように谷間奥には枝分かれした支谷が開け、釈迦堂の切通しを抜けると大倉から朝比奈へ抜けられる。このように重要な位置を占めていた名越は鎌倉時代初期から拓け、北条時政邸、名越北条氏の居館をはじめ多くの御家人たちが居住していたと思われる。

調査地点は下馬交差点から東、名越坂へ抜けていた大町大路の途中、現在の名越四ツ角を北方向の名越ヶ谷に曲がり約150m、大寶寺に至る途中に位置する。

周囲には安養院(浄土宗)、妙法寺・安国論寺・大寶寺(日蓮宗)が点在している。名越ヶ谷の入口付近に当たる名越四角周辺では、現在17地点ほど調査が行われている(図1)。

当遺跡の南側、⑪・⑫地点では、東側を南北に流れ下る逆川に向かい急激に落ち込む地形と西岸の護岸が見つかっている。⑨、⑩では数多くの柱穴と井戸等が確認されており、武家屋敷あるいは寺院の存在を指摘し、更に現在の市道に面する西側が表、逆川に面する東側が裏と想定している。

第二章 調査の経過

発掘調査は平成18年2月13日から、表土掘削及び機材の搬入を開始し同年2月28日まで行った。

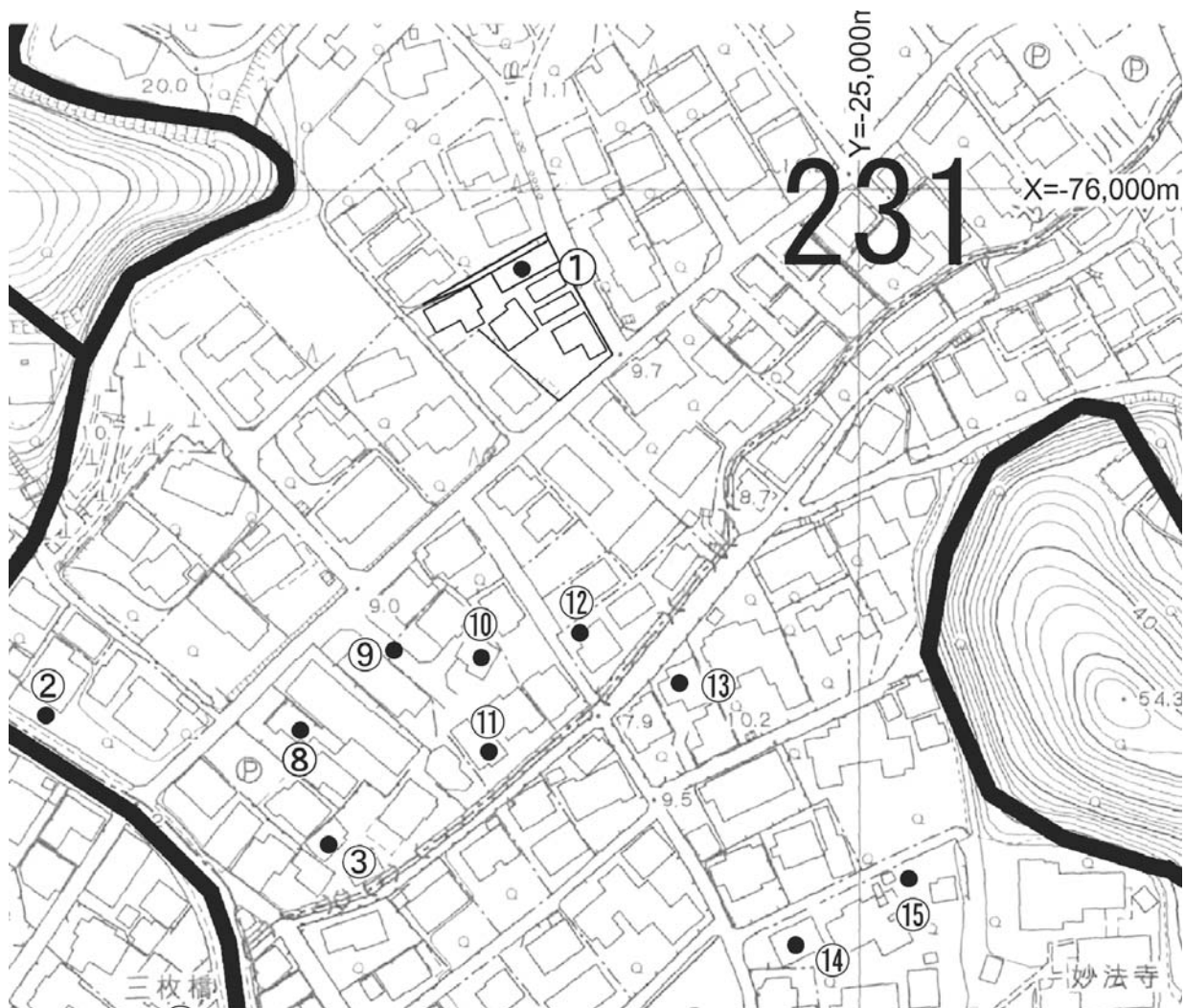
基礎の深く入る部分で埋蔵物に悪影響が及ぶことが危惧され緊急調査となったもので、試掘調査を行っていないため、近隣で行われた調査の結果を基に、建物範囲の内側にL字形の調査区を設定し東西方向を1区、南北方向を2区とした。

1区は幅100cm、長さ270cm。2区は幅100cm、長さ200cmで設定したものである。トレンチ面積の合計は約5.0㎡で、建築予定範囲の軸方向にあわせて設定したが、いずれも狭いものであり十分な調査が行

われたとは言い難い。

遺跡は北緯 $35^{\circ} 18' 52''$ 、東経 $139^{\circ} 33' 27''$ に位置し、グリットの基準とした原点1 (X=-76014.714 Y=-25,077946)、原点2 (X=-76016.779 Y=-25081.362)、原点3 (X=-76017.300 Y=-25076.375)は、市内4級基準点のB005(X=-76153.4805 Y=-25049.8502)とB006(X=-76182.7517 Y=-25033.4407)を基に設定したものである。設定した南北グリッド方位は、N- $244^{\circ} 17' 25''$ -Eである。

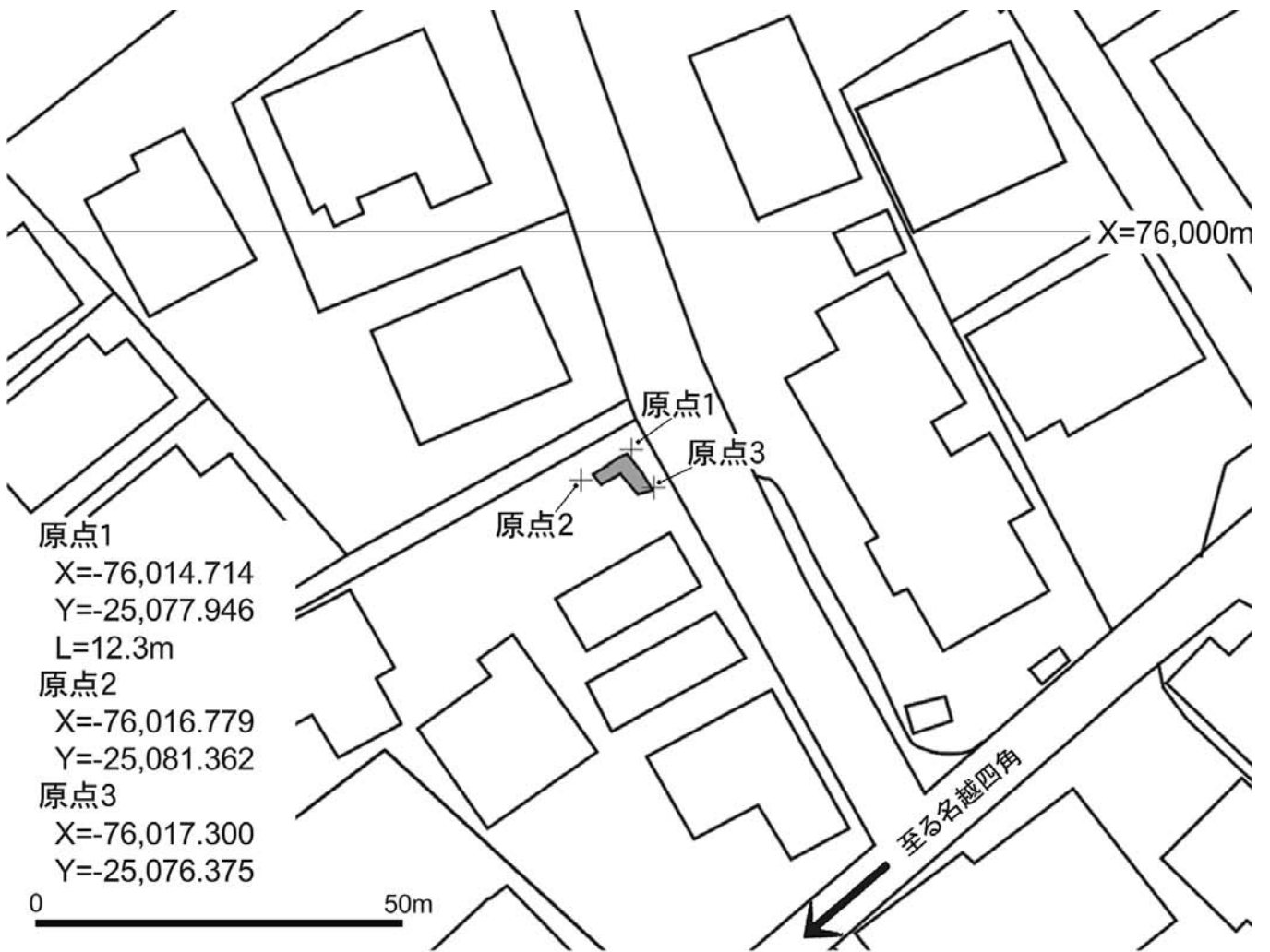
調査中に使用したレベルは、大町四丁目1872番1に設置してある3級水準点(No.53229)、11.168mを移動したもので、調査地の脇に移動した仮原点のレベルは、12.30mである。排土は、調査終了時に再び埋め戻すために周囲に山積みにした。2月28日までに器材の搬出も含め、全ての調査を終了した。検出した遺構・遺物の詳細は次章に譲る。



名越ヶ谷遺跡 231

No.	地番	調査年	報告書名	刊行年
1	大町三丁目1230番4.7.10	2006.2	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書35』「大町三丁目1230番4.7.10地点」	2019.3
2	大町三丁目1217番1	1993.7	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1』「大町三丁目1217番1地点」	1995.3
3	大町三丁目2353番2外	2007.12	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書34』「大町三丁目2353番2外地点」	2019.3
8	大町三丁目2354番1.6	2011.7	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書35』「大町三丁目2354番1.6地点」	2018.3
9	大町三丁目2356番3	2000.8	『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』「大町三丁目2356番3地点」	2001.12
10	大町三丁目2356番11	2001.1	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』「大町三丁目2356番11地点」	2003.3
11	大町三丁目2356番10	2001.4	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』「大町三丁目2356番10地点」	2003.3
12	大町三丁目1826番9	2000.8	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-2』「大町三丁目1826番9地点」	2002.3
13	大町四丁目1880番6外	1993.5	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1』「大町四丁目1880番6外地点」	1995.3
14	大町四丁目1888番	1998.12	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2』「大町四丁目1888番地点」	2000.3
15	大町四丁目1888番の一部	2007.7	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-2』「大町四丁目1888番の一部地点」	2012.3

図1 遺跡位置と周辺の遺跡



遺跡位置図

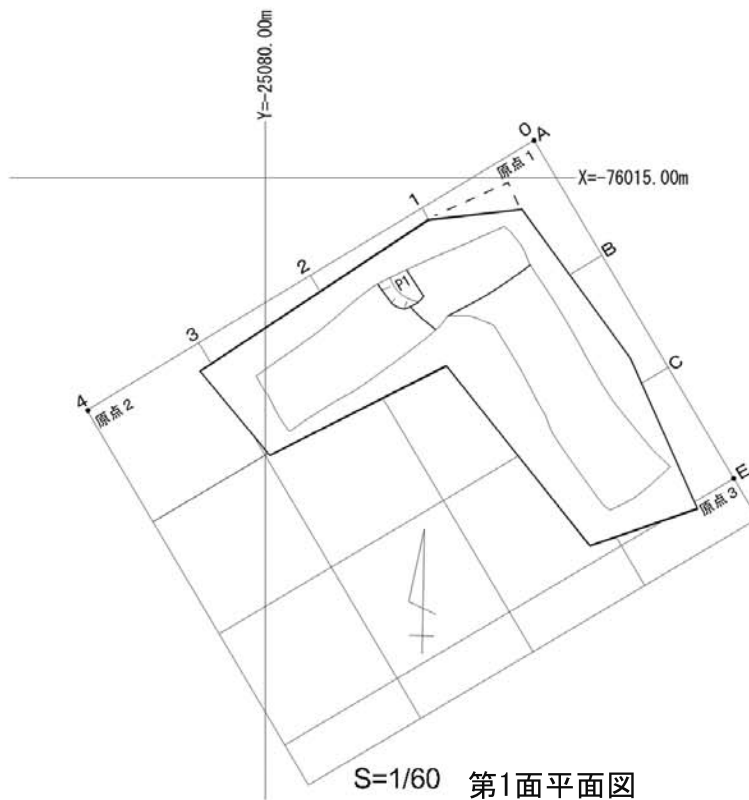
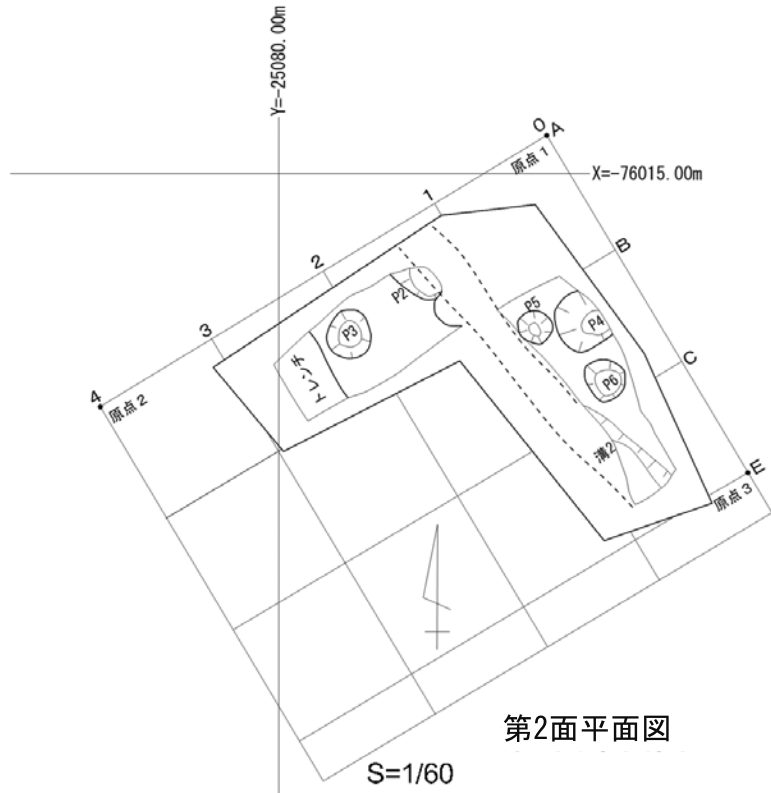
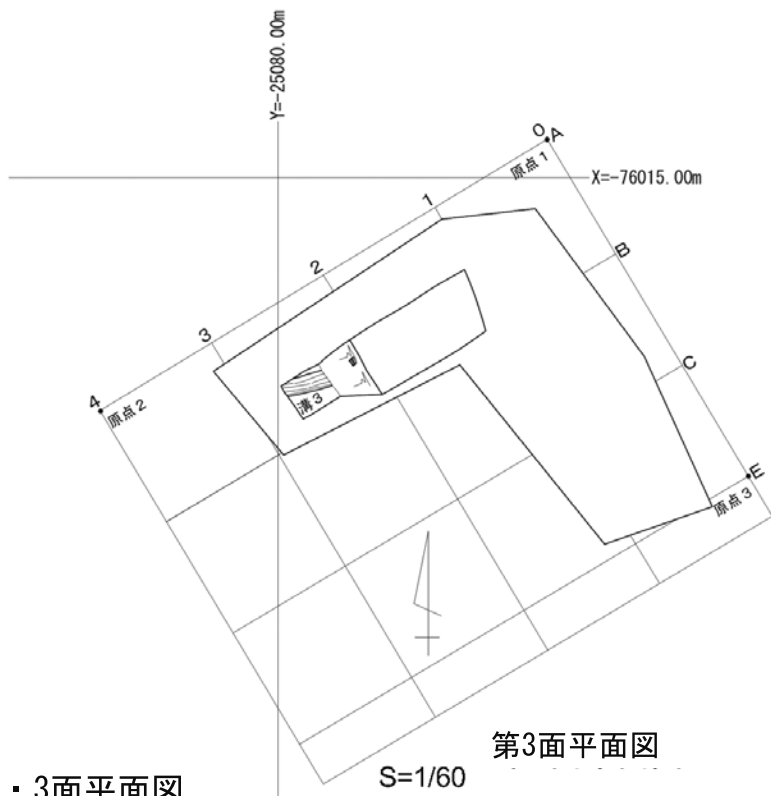


图2 位置图・第1面平面图



第2面平面図



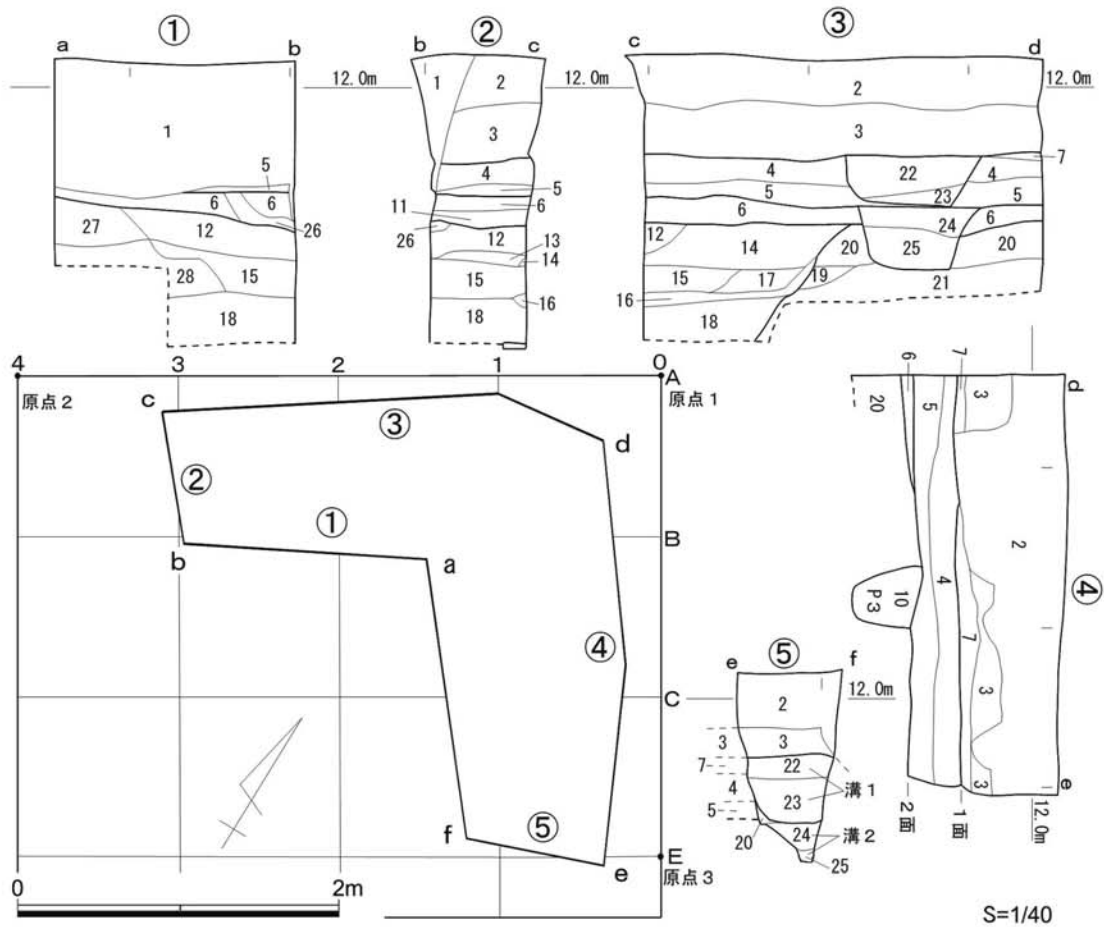
第3面平面図

〔図3 第2・3面平面図〕

遺物観察表

() は復元法量・単位cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観	察	表
-1	I区1面	褐釉	壺	-	-	-	体部片	胎土：0.5mm大の砂粒混じりのきめ細かい素地	色調：淡茶褐色 焼成：良好焼き締まる
-2	I区1面	土器	かわらけ(大)	-	-	-	底部片	胎土：極細かい石英とクサリ礫を含むきめ細かな粉質の素地	色調：明赤褐色 焼成：良好
-3	I区1面Pit1	土器	かわらけ(小)	-	-	(4.6)	底部片	胎土：極細かな緻密な素地	色調：淡赤灰色 成形：糸切り 焼成：良好、焼き締まる
-4	I区溝3	土師器	坏	-	-	-	口縁部片	胎土：きめ細かな素地に白色に微砂を含む	色調：赤褐色 焼成：良好 内面暗文 外面ヘラ削り
-5	I区溝3	土師器	甕(甗?)	-	-	-	底部片	胎土：雲母・白針・クサリ礫・黒色粒	色調：橙褐色 成形：糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-6	II区トレンチ	土師器	長甕	-	-	-	底部片	胎土：1mm大までの石英、クサリ礫、長石粒を多く含む	色調：淡茶褐色 底面、二次焼成を顕著
-7	II区溝3	土師器	坏	-	-	-	底部片	胎土：きめ細かな素地に微細な雲母、石英、クサリ礫	色調：淡赤褐色 成形：外面ヘラ削り器壁薄い
-8	表探	常滑	甕	-	-	-	口縁部片	胎土：1mm大の長石を多く含むザックリした素地	色調：淡茶褐色 焼成：良好 常滑9型式
-9	表探	土器	かわらけ	-	-	-	口縁部片	胎土：細かい素地に微細な雲母、白針、クサリ礫を含む	色調：明赤灰色 焼成：良好



1. 土丹層 (造成土)
2. 茶色粘質土層 (造成土)
3. 茶褐色粘質土層 土丹粒、加苴粒、炭化物含む
4. 土丹地業層
5. 茶褐色シルト層 やや締まりなく砂が混入している
6. 暗茶褐色粘質土層 鉄分を多く含み強く締まった粘土
7. 暗茶褐色粘質土層 砂利を含んだ締まりない土
8. 暗茶褐色粘質土層 (pit) 5~10cm大の土丹含み、締まりない土
9. 暗茶褐色粘質土層 (pit) 2~3cm大の土丹と炭化物含む
10. 暗茶灰色粘質土層 (pit 4) 腐植した木片多く含む締まりのない土
11. 黒茶褐色粘質土層 黒色シルトが混在して入る締まりの良い土
12. 茶灰色粘質土層 (溝 3) 焦茶色粘土が塊で混入する締まりよい土
13. 茶灰色粘質土層 (溝 3) 茶灰色の粘性の強いが締まりがない土
14. 茶灰色粘質土層 (溝 3) 土丹粒混じりの粘性強くやや締まる
15. 茶灰色粘質土層 (溝 3) 粘性の強いが締まりがない土、土師器片多く出土する
16. 黒灰茶色粘質土層 (溝 3) 黒色砂混入、粘性弱い土
17. 茶灰色粘質土層 (溝 3) 粘性が弱く土丹粒が多い
18. 黒色粘質土層 (溝 3) 締まりなく、径1cm大の土丹粒が多く混入する
19. 黒灰茶色粘質土層 (溝 3) 黒色砂が混入する粘性が弱い土
20. 黒茶色粘質土層 粘性ある締まりよい土
21. 茶灰色粘質土層 粘性が強く土丹、遺物を多く含む
22. 茶褐色粘質土層 (溝 1) 土丹粒、土丹を多く含む
23. 茶褐色粘質土層 (溝 1) 土丹粒少なく、拳大の土丹を多く含む
24. 茶褐色粘質土層 (溝 2) 粘性、締まりのある土
25. 茶褐色粘質土層 (溝 2) 土丹を若干含み粘性、締まりある土
26. 茶色粘土層 褐鉄を多く含む砂が混入する
27. 茶灰色粘質土層 土丹粒、黒色粘土粒が混入、締まりのよい土
28. 茶灰色粘質土層 径10cm大の土丹が入る締まりない土

図4 土層断面図

第三章 検出した遺構と遺物

第1節 層序

表土には30cmの厚さの茶色粘質土層(2)が広がる。この茶色粘質土層を掘り下げると、茶褐色粘質土層(3)の遺物包含層になる。L字形の調査地の外、南西側に地表から約60cmの厚さで造成された土丹層(1)が広がる。この場所では調査地内で確認された表土層と遺物包含層は削平されたのか確認できない。

土丹層(1)と包含層(3)を除くと第1面の土丹地業層(4)を検出した。遺構レベル海拔11.60m、層の厚さは15~20cmで、丁寧に土丹を叩き締めていた。第1面を25~30cm掘り下げると遺構レベル海拔11.25mで暗茶褐色粘質土層(6)の第2面を検出した。地表から約95cm。この第2面の下約10cm、11.15mで第3面、黒茶色粘質土層(20)を検出した。第3面の下、建築建物の基礎の入る海拔10.75mの茶灰色粘質土層(21)まで掘り下げた。3面では中世遺物の出土は無く、溝3から古代の遺物が出土している。

第2節 遺構と遺物

a. 第1面(図2・4・5、図版1・2・3・5)

表土から約60cm掘り下げると第1面(土丹地業面)を検出した。海拔11.60mで広がり、柱穴1と北~南方向に延びる溝1を断面でのみ確認した。

表採で、常滑編年9型式の甕口縁部片(図5・図版1-8)、法量不明のかわけ(図5・図版1-9)が出土した。第1面からは褐釉壺体部片(図5・図版1-1)、かわけ大(図5・図版1-2)、柱穴1からかわけ小(図5・図版1-3)が出土した。

b. 第2面(図3、図版1・4・5)

第2面は海拔11.25m前後、暗茶褐色粘質土層が広がり、柱穴2~6と溝2を検出する。柱穴に規則性は無い。溝2は幅約80cm、深さ30cmの断面U字形の南北方向に延びる溝である。

第2面では遺物の出土は無い。

c. 第3面(図3・5、図版1・4・5)

第3面は、海拔11.15m前後で広がるようである。調査地西側で溝3の落ち込みを確認した。海拔11.25mの3面から掘り込まれた溝3は、調査の限界を越えて海拔10.40mより深く落ち込む。溝は恐らく南北方向に延びると思われる。溝の幅は不明である。

第3面の溝3から土師器(図5・図版1-4~7)が出土している。いずれも細片の為に法量は不明であるが坏、長甕(甗?)である。坏は赤褐色できめ細かな雲母を含み、内面に暗文が廻る。長甕(甗?)は砂粒が多く、竈に用いられたものと考えられる。

第四章 まとめ

幅1m程のL字形の調査区、調査期間も短かく試掘調査並みの調査であった。厚い土丹地業層を掘り下げるのに手間取ってしまったが、遺構の残りは比較的良好であった。

調査地を南北に延びる溝(溝1・2)と、西側に大きく落ち込む溝3溝が確認され、僅かだが柱穴も検出されている。また中世の遺物の他に古代(古墳時代)の遺物も確認されていることから、調査地点の名越ヶ谷遺跡は中世以前から人々が生活を営み、中世に鎌倉の商業地域であった「町屋」に近接する地域に含まれ、大いに賑わったと考えられる。

参考文献

『鎌倉廃寺事典』 貫達人・河副武胤編有隣堂 1980年

『鎌倉市史』社寺編 鎌倉市教育委員会 吉川弘文館 1959年

『としよりのはなし』鎌倉市教育委員会 1971年

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会 2002年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11(第1分冊)』 鎌倉市教育委員会 1995年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11(第1分冊)』 鎌倉市教育委員会 1995年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会 2000年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会 2002年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』 鎌倉市教育委員会 2003年3月

「名越ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28(第2分冊)』 鎌倉市教育委員会 2012年3月

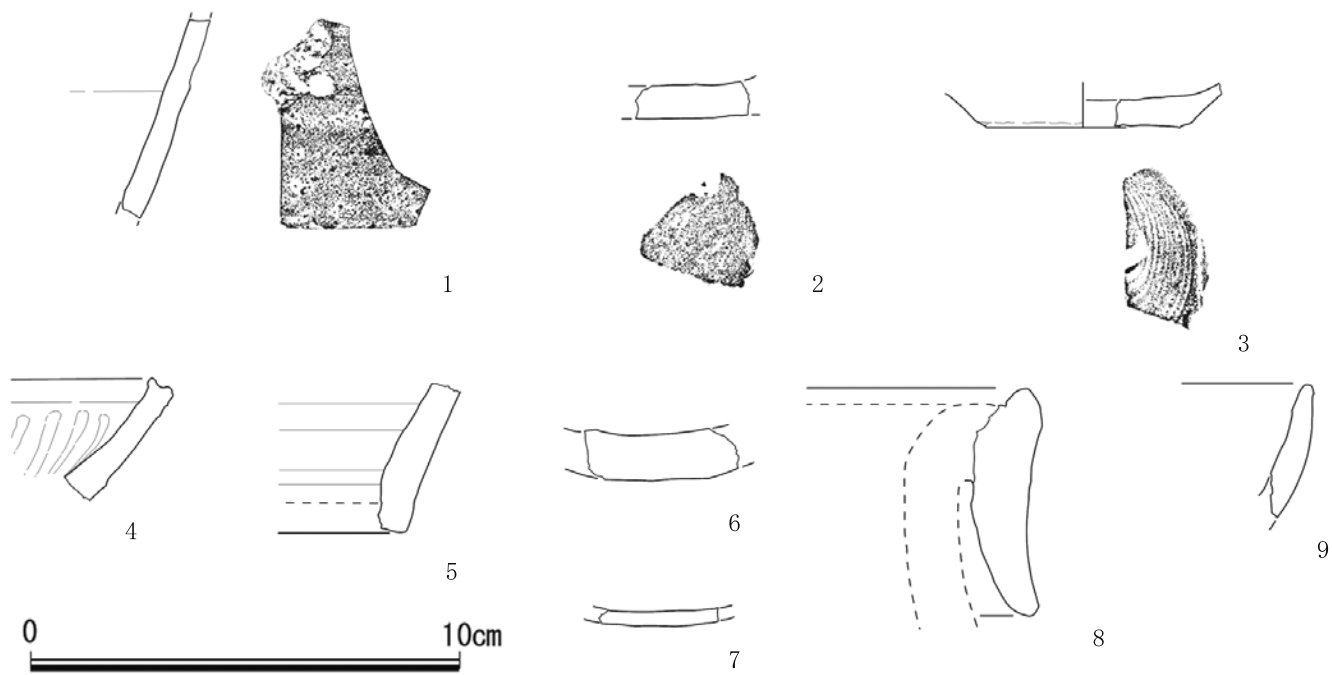
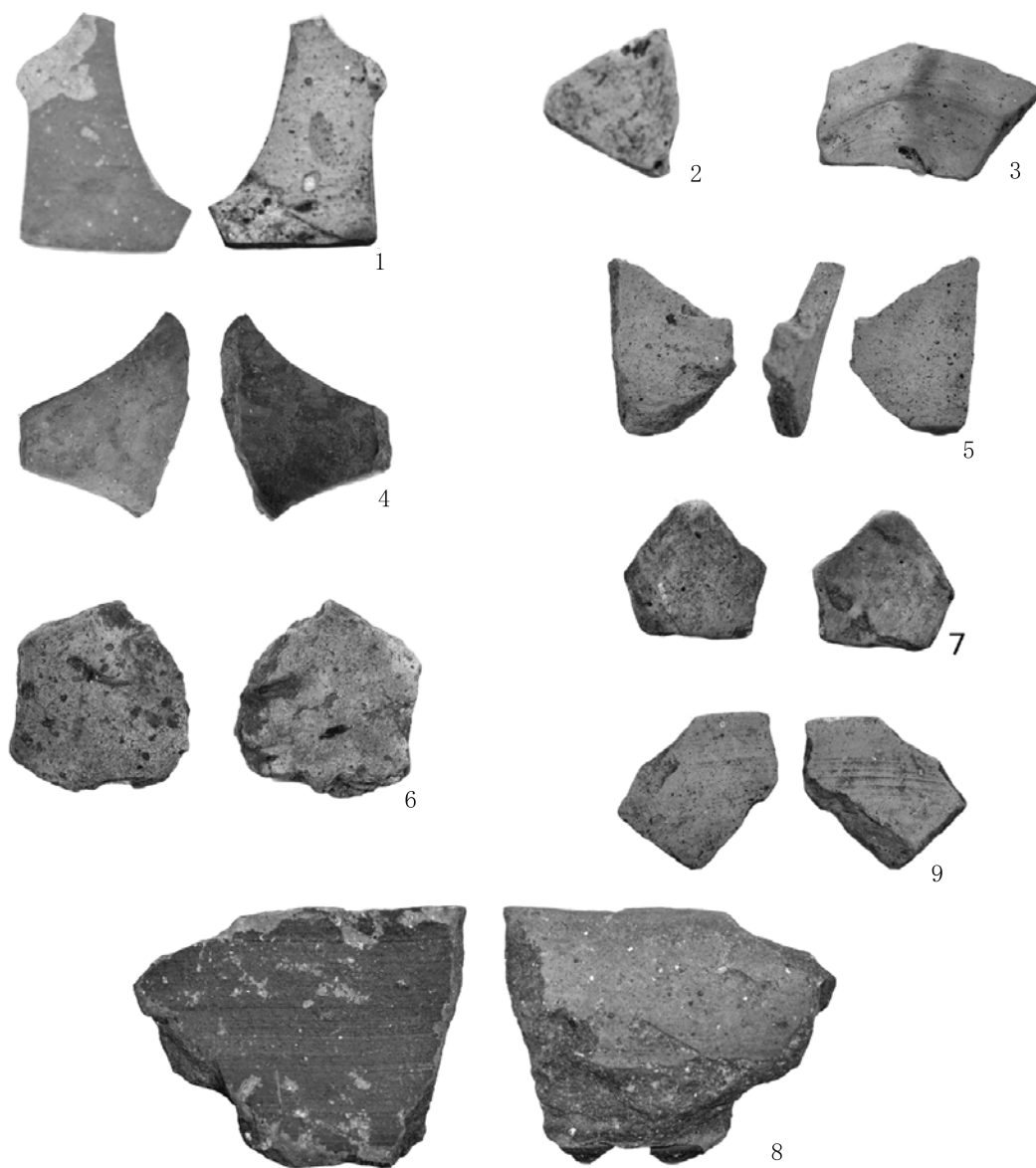


図5 出土した遺物

図版 1





1面全景 北東から



I区1面 南壁



1面全景 北東から



I区1面 南東から



I区1面 東から

1面全景 (1)



I 区 1 面 南西から



I 区 1 面 西から



II 区 1 面 全景 東から



II 区 1 面 全景 西から

1 面 全景 (2)



I区2面 東から



I区2面 南から



I区2面 南から



II区2面 北から



I区3面

2・3面



I 区西壁 ③



I 区西壁 ②



II 区東壁 ④



II 区南壁 ⑤

土层断面

おおくらばくふしゅうへん
大倉幕府周辺遺跡群 (No. 49)

二階堂字荏柄 3 番 6 外地点

例 言

1. 本報告は、鎌倉市二階堂字荏柄3番6外において実施した、大倉幕府周辺遺跡群（鎌倉市 No. 49）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として、鎌倉市教育委員会が実施した。調査は建築計画の変更に伴い2回に分け、平成18年10月30日～平成19年1月15日（地点Ⅰ＝67㎡）および平成20年2月28日～同年4月23日（地点Ⅱ＝54㎡）に実施した。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。

主任調査員	原 廣志（地点Ⅰ）、山口正紀（地点Ⅱ）（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調査員	須佐直子、須佐仁和、梅岡ケイト、岡本夏菜、中川建二 (鎌倉市文化財課 臨時的任用職員)
作業員	金丸義一、丹野正弘、永井隆三郎、沼上三代治、伴 一明、舟田峰夫、 宝珠山秀雄（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）
整理作業参加者	赤堀祐子、遠藤綾子、岡田慶子、岡本夏菜、押木弘己、神田倫子、佐藤千尋、 須佐仁和、田中 聡、梅岡ケイト、畑野 愛、原 廣志、松吉里永子、 三瓶祐子、吉田麻子、吉田桂子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
4. 本報告の作成は、以下の分担で行った。

報告書執筆・編集	押木
遺構挿図作成	岡本、押木
遺構写真図版作成	押木
遺物写真撮影	須佐（仁）、押木
遺物挿図作成	岡本、吉田（桂）
遺物写真図版作成	岡本、神田、佐藤、松吉
遺物観察表作成	岡本
5. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略号は、現地調査時には地点Ⅰを「OU」、地点Ⅱを「OUⅡ」とし、整理作業時に市教育委員会の統一基準に従って前者を「OB0618」、後者を「OBS0719」へと変更し、出土品への注記などに使用した。

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 遺構図は任意の測量方眼に基づいて提示し、図2に世界測地系座標値（第Ⅸ系：東日本大震災後の補正值）との関係を示した。
3. 挿図に示した方位標は国土座標北（Y軸）で、真北はこれより0° 09′ 25″ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水系高は、海拔値を示す。

目次

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	
第1節 遺跡の立地	23
第2節 周辺の調査成果	26
第二章 調査の方法と経過	
第1節 調査に至る経緯	27
第2節 調査の方法	28
第3節 調査の経過	28
第三章 基本土層	29
第四章 発見された遺構と遺物	
第1節 1面上の遺物	31
第2節 1面の遺構と遺物	47
第3節 2面上の遺物	84
第4節 2面の遺構と遺物	105
第5節 3面上の遺物	147
第6節 3面の遺構と遺物	164
第7節 4面上の遺物	191
第8節 4面の遺構と遺物	204
第9節 5面上の遺物	224
第10節 5面の遺構と遺物	225
第五章 調査成果のまとめ	
第1節 各遺構面の年代観と変遷	250
第2節 周辺調査成果との関連	251

挿図目次

図1 周辺の発掘調査地点	24	図12 1面上出土遺物(8)	39
図2 調査区配置図	27	図13 1面上出土遺物(9)	40
図3 基本土層図	30	図14 1面全体図	48
図4 表土などの出土遺物	31	図15 1面 溝01・02、柱穴列1～3	49
図5 1面上出土遺物(1)	32	図16 1面 土坑(1)	50
図6 1面上出土遺物(2)	33	図17 1面 土坑(2)	51
図7 1面上出土遺物(3)	34	図18 1面 土坑(3)	52
図8 1面上出土遺物(4)	35	図19 1面 土坑(4)	53
図9 1面上出土遺物(5)	36	図20 1面遺構出土遺物(1)	54
図10 1面上出土遺物(6)	37	図21 1面遺構出土遺物(2)	55
図11 1面上出土遺物(7)	38	図22 1面遺構出土遺物(3)	56

図 23	1 面遺構出土遺物 (4) ……………	57	図 62	2 面遺構出土遺物 (4) ……………	128
図 24	1 面遺構出土遺物 (5) ……………	58	図 63	2 面遺構出土遺物 (5) ……………	129
図 25	1 面遺構出土遺物 (6) ……………	59	図 64	2 面遺構出土遺物 (6) ……………	130
図 26	1 面遺構出土遺物 (7) ……………	60	図 65	2 面遺構出土遺物 (7) ……………	131
図 27	1 面遺構出土遺物 (8) ……………	61	図 66	2 面遺構出土遺物 (8) ……………	132
図 28	1 面遺構出土遺物 (9) ……………	62	図 67	2 面遺構出土遺物 (9) ……………	133
図 29	1 面遺構出土遺物 (10) ……………	63	図 68	2 面遺構出土遺物 (10) ……………	134
図 30	1 面遺構出土遺物 (11) ……………	64	図 69	2 面遺構出土遺物 (11) ……………	135
図 31	1 面遺構出土遺物 (12) ……………	75	図 70	2 面遺構出土遺物 (12) ……………	136
図 32	1 面遺構出土遺物 (13) ……………	76	図 71	2 面遺構出土遺物 (13) ……………	137
図 33	1 面遺構出土遺物 (14) ……………	77	図 72	2 面遺構出土遺物 (14) ……………	138
図 34	1 面遺構出土遺物 (15) ……………	78	図 73	2 面遺構出土遺物 (15) ……………	139
図 35	1 面遺構出土遺物 (16) ……………	79	図 74	2 面遺構出土遺物 (16) ……………	140
図 36	1 面下～2 面上出土遺物 (1) ……………	80	図 75	2 面遺構出土遺物 (17) ……………	141
図 37	1 面下～2 面上出土遺物 (2) ……………	81	図 76	2 面遺構出土遺物 (18) ……………	142
図 38	1 面下～2 面上出土遺物 (3) ……………	82	図 77	2 面遺構出土遺物 (19) ……………	143
図 39	1 面下～2 面上出土遺物 (4) ……………	83	図 78	2 面遺構出土遺物 (20) ……………	144
図 40	1 面下～2 面上出土遺物 (5) ……………	84	図 79	2 面遺構出土遺物 (21) ……………	145
図 41	2 面直上出土遺物 (1) ……………	85	図 80	2 面遺構出土遺物 (22) ……………	146
図 42	2 面直上出土遺物 (2) ……………	86	図 81	2 面遺構出土遺物 (23) ……………	147
図 43	2 面直上出土遺物 (3) ……………	87	図 82	2 面遺構出土遺物 (24) ……………	148
図 44	2 面直上出土遺物 (4) ……………	88	図 83	2 面遺構出土遺物 (25) ……………	149
図 45	2 面直上出土遺物 (5) ……………	89	図 84	2 面下～3 面上出土遺物 (1) ……………	150
図 46	2 面直上出土遺物 (6) ……………	90	図 85	2 面下～3 面上出土遺物 (2) ……………	151
図 47	2 面直上出土遺物 (7) ……………	91	図 86	2 面下～3 面上出土遺物 (3) ……………	152
図 48	2 面直上出土遺物 (8) ……………	92	図 87	2 面下～3 面上出土遺物 (4) ……………	153
図 49	2 面直上出土遺物 (9) ……………	93	図 88	2 面下～3 面上出土遺物 (5) ……………	154
図 50	2 面直上出土遺物 (10) ……………	94	図 89	2 面下～3 面上出土遺物 (6) ……………	155
図 51	2 面直上出土遺物 (11) ……………	105	図 90	2 面下～3 面上出土遺物 (7) ……………	156
図 52	2 面全体図 ……………	106	図 91	2 面下～3 面上出土遺物 (8) ……………	157
図 53	2 面 道路状遺構、溝 01・02 ……………	107	図 92	2 面下～3 面上出土遺物 (9) ……………	158
図 54	2 面 溝 1、土坑 ……………	108	図 93	3 面直上出土遺物 ……………	159
図 55	2 面 褐釉壺出土状況 ……………	108	図 94	3 面全体図 ……………	165
図 56	2 面 土坑 (1) ……………	109	図 95	3 面 道路状遺構、溝 01・02 ……………	166
図 57	2 面 土坑 (2) ……………	110	図 96	3 面 木組み遺構 ……………	167
図 58	2 面 土坑 (3) ……………	111	図 97	3 面 掘立柱建物 1 平面図 ……………	168
図 59	2 面遺構出土遺物 (1) ……………	112	図 98	3 面 掘立柱建物 1 断面図 ……………	169
図 60	2 面遺構出土遺物 (2) ……………	126	図 99	3 面 掘立柱建物 2・3 ……………	170
図 61	2 面遺構出土遺物 (3) ……………	127	図 100	3 面 土坑 (1) ……………	171

図 101	3面 土坑 (2)	172	図 128	4面 柱穴列 1・2 断面図	209
図 102	3面 土坑 (3)	173	図 129	4面 土坑	210
図 103	3面 土坑 (4)	174	図 130	4面 土坑・溝状遺構	211
図 104	3面遺構出土遺物 (1)	182	図 131	4面直上・4面遺構出土遺物	212
図 105	3面遺構出土遺物 (2)	183	図 132	4面遺構出土遺物 (1)	217
図 106	3面遺構出土遺物 (3)	184	図 133	4面遺構出土遺物 (2)	218
図 107	3面遺構出土遺物 (4)	185	図 134	4面遺構出土遺物 (3)	219
図 108	3面遺構出土遺物 (5)	186	図 135	4面遺構出土遺物 (4)	220
図 109	3面遺構出土遺物 (6)	187	図 136	4面遺構出土遺物 (5)	221
図 110	3面遺構出土遺物 (7)	188	図 137	4面遺構出土遺物 (6)	222
図 111	3面遺構出土遺物 (8)	189	図 138	4面遺構出土遺物 (7)	223
図 112	3面遺構出土遺物 (9)	190	図 139	4面下～5面上出土遺物	224
図 113	3面遺構出土遺物 (10)	191	図 140	5面全体図	226
図 114	3面下～4面上出土遺物 (1)	192	図 141	5面 溝 1・2 平面図	227
図 115	3面下～4面上出土遺物 (2)	193	図 142	5面 溝 1・2 断面図	228
図 116	3面下～4面上出土遺物 (3)	194	図 143	5面 掘立柱建物 1 平面図	229
図 117	3面下～4面上出土遺物 (4)	195	図 144	5面 掘立柱建物 1 断面図	230
図 118	3面下～4面上出土遺物 (5)	196	図 145	5面 掘立柱建物 1 断面図、土坑 1・3	231
図 119	3面下～4面上出土遺物 (6)	197	図 146	5面遺構出土遺物 (1)	232
図 120	3面下～4面上出土遺物 (7)	202	図 147	5面遺構出土遺物 (2)	233
図 121	3面下～4面上出土遺物 (8)	203	図 148	5面遺構出土遺物 (3)	234
図 122	3面下～4面上出土遺物 (9)	204	図 149	5面遺構出土遺物 (4)	235
図 123	4面全体図	205	図 150	5面遺構出土遺物 (5)	236
図 124	4面 掘立柱建物 1・2 平面図	206	図 151	5面遺構出土遺物 (6)	237
図 125	4面 掘立柱建物 1・2 断面図	207	図 152	5面遺構出土遺物 (7)	238
図 126	4面 掘立柱建物 3	208	図 153	周辺調査地の遺構展開図	249
図 127	4面 柱穴列 1～3 平面図	209			

表目次

表 1	周辺調査地点一覧	25	表 8	3面下～4面上 出土遺物観察表	191・197～201
表 2	表土～1面上出土遺物観察表	41～47	表 9	4面直上・4面遺構 出土遺物観察表	210
表 3	1面遺構 出土遺物観察表	64～74	表 10	4面遺構 出土遺物観察表	212～216・223
表 4	1面下～2面上 出土遺物観察表	94～104	表 11	4面下～5面上 出土遺物観察表	225
表 5	2面遺構 出土遺物観察表	112～125	表 12	5面遺構 出土遺物観察表	238～241
表 6	2面下～3面上 出土遺物観察表	159～164	表 13	出土遺物カウント表	242～249
表 7	3面遺構 出土遺物観察表	174～181			

写真図版目次

図版 1 1. 地点 I 1面全景(南から) 2. 地点 I 1面土坑 8(東から) 3. 地点 I 1面土坑 41(北から) 4. 地点 I 1面土坑 41 出土遺物(四葉硯) 5. 地点 I 1面土坑 42(北から)

図版 2 1. 地点 I 1面土坑 42 遺物出土状況(北から) 2. 同上 土製円盤アップ 3. 地点 I 1面 遺物出土状況(西から) 4. 同上 ローアングル(西から) 5. 地点 I 1面 ピット 34(西から) 6. 地点 I 1面ピット 9 遺物出土状況(東から) 7. 地点 I 1面 遺物出土状況(西から) 8. 地点 I 1面泥岩ブロック集中範囲(南から)

図版 3 1. 地点 I 2面全景(南から) 2. 地点 I 2面溝 1(南から) 3. 地点 I 2面土坑 35(北から) 4. 地点 I 2面ピット 23(東から)

図版 4 1. 地点 I 3面全景(東から) 2. 地点 I 3面掘立柱建物 1(北から) 3. 地点 I 3面掘立柱建物 1 Pニ-2(東から) 4. 地点 I 3面 礎石・遺物出土状況(北から) 5. 地点 I 3面 遺物出土状況(東から)

図版 5 1. 地点 I 4面全景(東から) 2. 地点 I 4面柱穴群(南から) 3. 地点 I 4面土坑 2(東から) 4. 地点 I 4面掘立柱建物 1 P12(東から) 5. 地点 I 4面掘立柱建物 1 P10(西から)

図版 6 1. 地点 I 調査区壁土層断面(南から) 2. 地点 I 5面全景(南から) 3. 地点 I 5面溝 1断面(南から) 4. 地点 I 5面溝 1 下駄出土状況(東から) 5. 地点 I 5面溝 1(北から)

図版 7 1. 地点 II 表土掘削作業(北東から) 2. 地点 II 1面道路状遺構(北から) 3. 地点 II 1面道路状遺構・溝 02(北から) 4. 地点 II 1面全景(西から)

図版 8 1. 地点 II 1面全景(東から) 2. 地点 II 1面道路状遺構・柱穴列(北から) 3. 地点 II 1面柱穴列 1・溝 01(北から) 4. 地点 II 1面柱穴列 2・溝 02(北から) 5. 地点 II 1面土坑 011 かわらけ出土状況(東から)

図版 9 1. 地点 II 1面道路状遺構下①(北から) 2.

地点 II 1面柱穴列 1・3(北から) 3. 地点 II 1面清掃作業(北から)

図版 10 1. 地点 II 2面土坑 02(南から) 2. 同上 遺物出土状況(南から) 3. 地点 II 2面土坑 06(南から) 4. 地点 II 2面土坑 08 合わせ口かわらけ(北から) 5. 地点 II 1面道路状遺構下②(北から) 6. 地点 II 2面作業風景(北から)

図版 11 1. 地点 II 2面道路状遺構(北から) 2. 地点 II 2面溝 02 遺物出土状況(かわらけ) 3. 地点 II 3面木組み遺構断面(西から) 4. 地点 II 2面下～3面道路状遺構断面(北から) 5. 地点 II 2面道路状遺構下～3面溝 01断面(北から)

図版 12 1. 地点 II 3面全景(東から) 2. 地点 II 3面道路状遺構(北から) 3. 地点 II 3面下整地土(南から) 4. 地点 II 3面西半部(北から)

図版 13 1. 地点 II 3面道路状遺構下(北から) 2. 地点 II 4面全景(西から)

図版 14 1. 地点 II 4面溝状遺構 03(東から) 2. 地点 II 4面土坑 01断面(南から) 3. 地点 II 4面土坑 03断面(西から) 4. 地点 II 4面土坑 04断面(西から) 5. 地点 II 4面ピット 040(北から) 6. 地点 II 4面ピット 093(北から)

図版 15 1. 地点 II 5面全景(西から) 2. 地点 II 5面溝 2(北から) 3. 地点 II 5面掘立柱建物 1(西から) 4. 同上(東から)

図版 16 1. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴イ-1(北から) 2. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴ロ-2断面(北から) 3. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴ロ-2(北から) 4. 地点 II 5面掘立柱建物 1-ロ-3(北から) 5. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴ロ-4(北から) 6. 地点 II 5面上 板材出土状況(北から) 7. 地点 II 調査区北壁断面(南から)

図版 17 1. 地点 II 5面上 焼土検出状況(北から) 2. 地点 II 5面 掘立柱建物 1 柱穴ロ・ハ列(北から) 3. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴ロ-2 柱材 4. 地点 II 5面掘立柱建物 1 柱穴イ-1 柱材

図版 18～63 出土遺物

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の立地

大倉幕府周辺遺跡群は鎌倉中心市街地の北東部に所在し、治承四年（1180）以降、頼朝以下源氏三代将軍が居住した大倉御所（幕府）推定地の東西と南を「コ」字状に取り囲む形で展開している（図1）。現在、御所推定地は「大倉幕府跡」の遺跡名で登録され、その西限は横浜国立大学附属小・中学校校地の東辺とされているが、かつては県道の「筋違橋」から校地内を縦断して西御門の谷戸へ抜ける道路が存在していたことから、これを幕府西限の名残とする理解がある。現在、清泉小学校南西角の市道上には「大蔵幕府旧跡」の碑が建つが、今までのところ推定地中心部での発掘例は皆無に近く、御所本体の存在を裏付ける考古学的知見は得られてない。推定地内では鎌倉時代初期の地表面に達するまでに3m以上の深さを測るケースが多く、荏柄天神社参道付近と比べ相対的に低い土地であったことが明らかとなりつつあることから、史料考証に基づいた従来の評価を疑問視する向きもある。ただ、図1-地点⑨では御所東辺とされる東御門川の前身とも見なせる鎌倉時代初期の南北大溝2条が検出されるなど御所の傍証となり得る発見もある。限定的かつ断片的な発掘成果しかない現時点では、土地の高低差のみを根拠に従来の考証結果を覆すことは性急に過ぎるだろう。資料の増加に伴い、地道に検討を積み重ねる努力が必要であろう。前述した鎌倉初期の南北大溝などは発掘によらない地中レーダー探査等でも検出できる可能性があるため、遺跡保存のためにも、地下の基礎的な情報を得ておく視点も求められよう。

本地点は「関取場跡」の石碑から国史跡永福寺跡へと向かう市道の南側に位置し、荏柄天神社参道の西側に面している。永福寺に向かう市道は『吾妻鑑』寛喜三年（1231）や建長三年（1251）の火災記事に登場する「二階堂大路」の後身と見なせ、開通時期に関する記録は残っていないものの、永福寺創建にあたり礎石や木材・瓦といった膨大な量の資材が運搬されたことを想起すれば、本格的造営に先立つ建久初年（1190）頃には一定規模の道路が開通していたと考えるのが自然であろう。

建保七（1219）年正月に起きた三代将軍実朝の横死を受け、同年（承久元年に改元）七月には摂関家から幼少の三寅（九条頼経）が将軍継嗣として迎えられ、北条義時「大倉亭」の郭内南方に新造なった邸宅が居所とされた。義時の大倉亭は史料検討を通じて二階堂大路の東にあったと考証され、嘉禄元年（1225）十二月に宇津宮辻子新御所に移転するまでの間、仮御所が郭内に所在したとされている（秋山2010・高橋2016）。現代の地理感覚からすると二階堂大路の東という理解では字句通りに受け止め難いところがあるので、東＝南辺と意識して考えるべきだろうか。ちなみに、頼経の将軍任命は新御所移転の翌年、嘉禄二年（1226）正月のことである。

荏柄天神社は、社伝によると長治元年（1104）に開かれ、大倉御所の鬼門を守る社として崇敬されたという。同社に直接関連する発掘事例はないが、図1-地点25などでは参道と同方向で延びる溝や柱穴列が検出されており、中世の土地割に一定の影響を与える地位にあったことが窺い知れる。開創が社伝どおりならば頼朝入部を遡る古社ということになり、後述する古代「荏草郷」からの集落動向を考える上で重要な手掛かりとなろう。

奈良～平安時代の当地区に目を向けると、正倉院文書の「相摸国天平七年封戸租交易帳」（735）（a）や、承平年間（931～938）成立の『和名類聚抄』（b）に見える鎌倉郡「荏草（えがや）郷」が、現存する小字名「荏柄」に通じるとされている。bは鎌倉郡所在郷として他に、鎌倉・尺度・沼浜・埼玉・梶原・

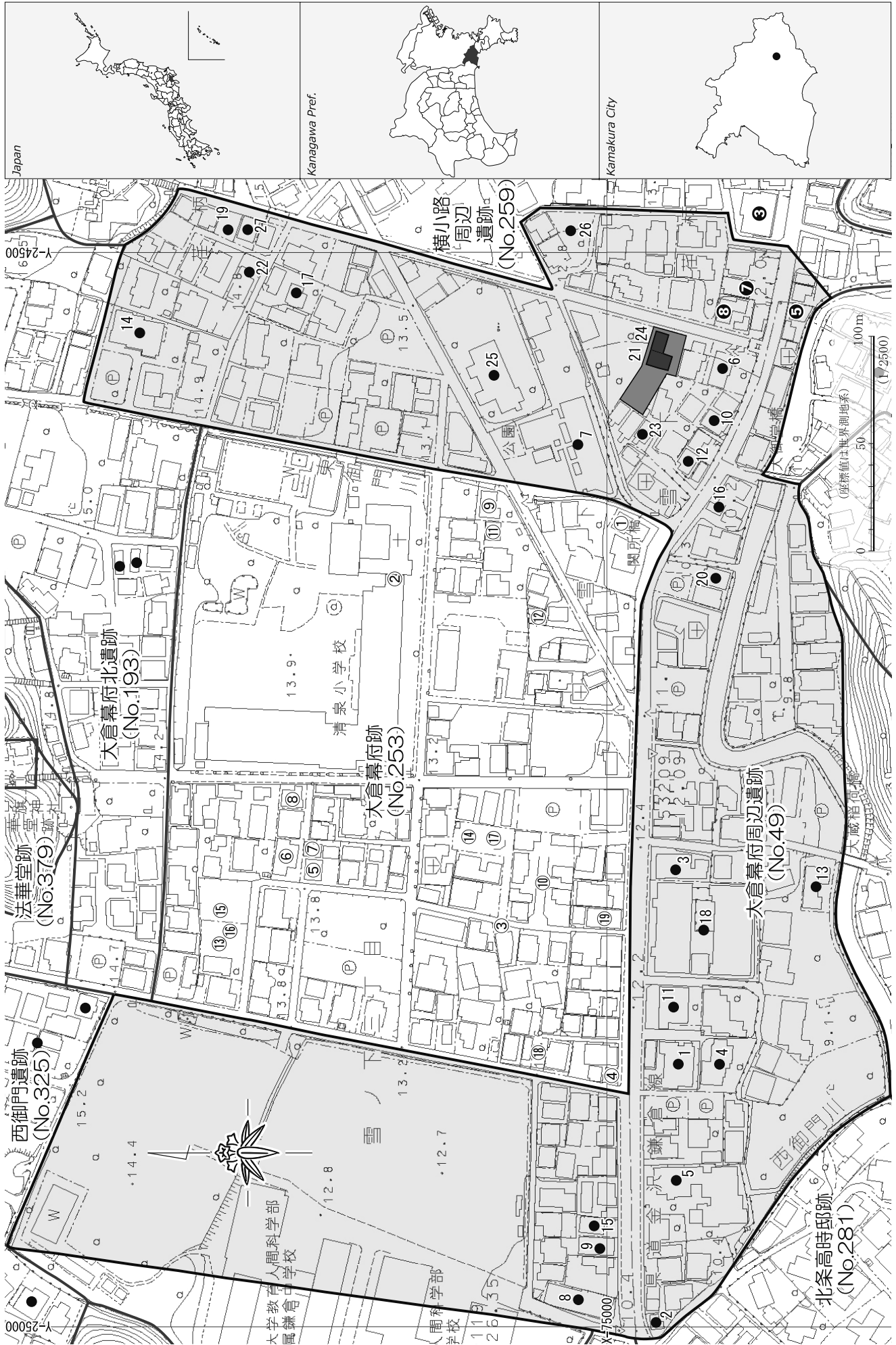


図1 周辺の発掘調査地点

表 1 周辺調査地点一覧

⑤・⑦・⑧は横小路周辺遺跡として報告

No.	地番	調査年度	面積 (㎡)	所収報告書（正式報告のみ）
大倉幕府周辺遺跡群 (No. 49)				26・⑤・⑦・⑧は横小路周辺遺跡の旧範囲内
1	雪ノ下四丁目 620 番 1	1980 年度	280	未報告
2	雪ノ下四丁目 600 番	1980 年度	トレンチ	未報告
3	雪ノ下四丁目 581 番 2	1981～1982 年度		未報告
4	雪ノ下四丁目 620 番 2	1983 年度	240	未報告
5	雪ノ下四丁目 610 番 2	1983 年度	620	未報告
6	雪ノ下四丁目 565 番 4	1989 年度	56	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 7』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1991
7	二階堂字荏柄 38 番 1	1991 年度	1000	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 1993
8	雪ノ下三丁目 606 番 1	1991 年度	350	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9 (第 3 分冊)』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1993
9	雪ノ下三丁目 607 番	1992 年度	140	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 10 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1994
10	雪ノ下字天神下 562 番 29	1994 年度	30	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 12 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 福田 誠ほか 1996
11	雪ノ下四丁目 620 番 5	1996 年度	252	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 1998
12	雪ノ下字大倉耕地 562 番 16	1999 年度	78	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 菊川 泉 2001
13	雪ノ下四丁目 580 番 10	1999 年度	129	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか 2001
14	二階堂字荏柄 58 番 4 外	2000 年度	281	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか 2002
15	雪ノ下三丁目 607 番 1	2001 年度	44	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 降矢順子ほか 2004
16	雪ノ下四丁目 567 番 7	2002 年度	25	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 2004
17	二階堂字荏柄 27 番 3 の一部	2002 年度	54	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 22 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 原 廣志 2006
18	雪ノ下四丁目 581 番 5	2003 年度	1630	『大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉遺跡調査会 齋木秀雄ほか 2007
19	二階堂字荏柄 76 番 7 外	2005 年度	33	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 30 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 伊丹まどかほか 2014
20	雪ノ下四丁目 570 番 1	2006 年度	32	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 30 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄 2014
21	二階堂字荏柄 3 番 6 外	2006 年度	67	本報告 (第 1 期調査 = 地点 I)
22	二階堂字荏柄 76 番 4	2006 年度	42	未報告
23	雪ノ下字天神前 562 番 30	2007 年度	26	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 32 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 沖元 道 2016
24	二階堂字荏柄 3 番 6 外	2007～2008 年度	54	本報告 (第 2 期調査 = 地点 II)
25	二階堂字荏柄 38 番 2	2011～2012 年度	1552	未報告
26	二階堂字荏柄 12 番 8	2016 年度	64	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2018
27	二階堂字荏柄 76 番 12	2018 年度	40	未報告
⑤	二階堂字横小路 110 番 3	1996 年度	18	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 野本賢二 1998
⑦	二階堂字荏柄 10 番 6	1998 年度	96	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 福田 誠ほか 2000
⑧	二階堂字荏柄 10 番 1	2000 年度	40	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 19』鎌倉市教育委員会 原 廣志ほか 2003
大倉幕府跡 (No. 253)				
①	雪ノ下四丁目 569 番	1989 年度	162	『大倉幕府周辺遺跡群』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団 馬淵和雄 1990
②	雪ノ下三丁目 707 番 1	1990 年度	30	未報告
③	雪ノ下三丁目 651 番 8	1997 年度	15	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 15 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 汐見一夫 1999
④	雪ノ下三丁目 618 番 4	2000 年度	24	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 汐見一夫 2002
⑤	雪ノ下三丁目 701 番 14	2002 年度	45	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 滝澤晶子 2005
⑥	雪ノ下三丁目 701 番 3	2002 年度	81	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 馬淵和雄ほか 2005
⑦	雪ノ下三丁目 701 番 1	2003 年度	16	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 鍛冶屋勝二 2005
⑧	雪ノ下三丁目 704 番 3 外	2005 年度	56	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 27 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 福田 誠 2011
⑨	雪ノ下三丁目 637 番 4	2006 年度	68	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 27 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 熊谷 満 2011
⑩	雪ノ下三丁目 629 番 1	2007 年度	170	『大倉幕府跡発掘調査報告書』株式会社 博通 宮田 眞 他 2011
⑪	雪ノ下三丁目 637 番 6 外	2007 年度	25	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 伊丹まどか 2018
⑫	雪ノ下三丁目 635 番 2 外	2008 年度	47	『大倉幕府跡発掘調査報告書』有限会社 鎌倉遺跡調査会 熊谷 満ほか 2012
⑬	雪ノ下三丁目 693 番 8	2009 年度	33	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 31 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2015
⑭	雪ノ下三丁目 648 番 3	2009 年度	38	未報告
⑮	雪ノ下三丁目 694 番 18	2009 年度	42	『大倉幕府跡 (No. 253) 発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか 2013
⑯	雪ノ下三丁目 693 番 1	2009 年度	56	『大倉幕府跡 (No. 253) 発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか 2013
⑰	雪ノ下三丁目 648 番 8	2010 年度	54	未報告
⑱	雪ノ下三丁目 618 番 8、 653 番 10	2013 年度	29	『大倉幕府跡 (No. 253) 発掘調査報告書』株式会社 博通 滝澤晶子ほか 2017
⑲	雪ノ下三丁目 628 番 1	2014 年度	73	『大倉幕府跡 (No. 253) 発掘調査報告書』株式会社 博通 宮田 眞ほか 2018
横小路周辺遺跡 (No. 259)				
⑤	二階堂字荏柄 9 番 1	1987～1988 年度	500	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 6』鎌倉市教育委員会 菊川英政 1990

地点番号は、図 1 に対応

大島の各郷名を掲げている。奈良時代の鎌倉郡衙（郡家）は今小路西遺跡（御成小学校地点）の調査で発見されており、a・bに加え、綾瀬市宮久保遺跡出土の天平五年銘木簡にも記載されている「鎌倉郷」を郡衙周辺に当てる見方が有力である。「荏草郷」比定地の当地周辺でも古代遺物が発見されることは珍しくなく、後節で述べるように、天神社参道沿いの微高地上には一定規模の集落が展開していたことが考えられる。

第2節 周辺の調査成果

大倉幕府周辺遺跡群では、現在までに30地点で発掘調査が実施され、この中には横小路周辺遺跡として報告された字荏柄の3地点も含まれる（図1・表1）。地点7では旧二階堂大路に並行する大規模な溝が検出され、鎌倉時代初期から近世にかけて20数回もの造り替えが確認されている。位置的に見て二階堂大路の北側溝と考えると大過なく、鎌倉時代前期には北岸に沿った形で柱穴が並ぶことから、板塀など遮蔽施設が付帯する時期もあったと考えられる。また図1の範囲から東に外れてしまうが、横小路周辺遺跡の一地点でも調査区の南端部で南東に落ち込む斜面堆積が確認されており（野本1999）、この北辺ラインが旧二階堂大路と概ね並行することから、これも大路北側溝の延伸部であった可能性を指摘できる。

先述したように大倉御所推定地の東側一帯は微高地となっており、中世基盤層の検出レベルも高い。こうした幕府中枢近くの微高地上では、頼朝入部後のごく早い段階から武家の宿館や寺院地として土地利用が進んでいったことが発掘調査の結果により明らかとされている。地点7・25では鎌倉時代前半の土器（かわらけ）一括廃棄土坑が複数基検出され、特に地点25での古相かわらけの一括出土を受けて、近年では在地土器編年の再構築に向けた取り組みが活発化している（八重樫・高橋2016など）。ただ、地点25については正式報告書が未刊行であるため、土器が示す各年代における土地利用の実態は詳らかとなっていない。

微高地エリアでは、古代以前に遡る遺構・遺物の検出事例も多い。詳しい報告はないが、地点7・25では古墳時代～平安時代の竪穴住居や掘立柱建物・井戸に加え、幾筋かの蛇行する旧河道が確認されている。地点25では中世基盤層下から大型の薬研堀が発見され、出土した灰釉陶器の碗から10世紀後半以降の開削であることが指摘でき（押木2016）、具体的な年代とともに、堀の性格や開削主体者の実像が注目される。この他、図1の東範囲外となるが横小路周辺遺跡（市立第二小学校地点＝向荏柄遺跡）で平安時代の竪穴住居7軒が、地点⑫では中世基盤層の下で2間×2間以上の総柱式掘立柱建物1棟が検出されるなど、古代「荏草郷」を構成する施設が点在していた状況が把握されつつある。

県道金沢鎌倉線の南側では、地点11・18で弥生時代中期後葉～後期後半の竪穴住居が数多く分布し、近在の未報告地点でも同時期の住居が多数確認されているという。鎌倉平野部では最も古く、まとまりをもった住居展開といえ、微高地上を居住域とし、周囲の低地帯を水田生産域に置いた拠点集落として評価できる。地点18では古墳時代前期初頭の方形周溝墓が単基で確認され、居住域から墓域への土地利用の変化のみならず、地域を統括する首長墓の萌芽をも窺うことができる。

本章は、拙稿2018の第一章を一部改変した上で転載した。

参考文献

- ・野本賢二ほか 1999「横小路周辺遺跡（No.259）二階堂字横小路93番11地点」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15（第2分冊）』鎌倉市教育委員会

- ・秋山哲雄 2010『都市鎌倉の中世史』吉川弘文館
 - ・押木弘己 2016「相模国における古代末期の土器様相」『鎌倉かわらけの再検討—大倉幕府周辺遺跡の一括資料の分析から』鎌倉かわらけ研究会
 - ・高橋慎一郎 2016「御所と邸宅」『現代語訳吾妻鑑』別巻 吉川弘文館
 - ・八重樫忠郎・高橋一樹編 2016『中世武士と土器』高志書院
 - ・特定非営利活動法人鎌倉考古学研究所 2016『「二階堂地域を学ぶⅠ」資料集』
- この他、表1に掲載した調査報告書は割愛した。

第二章 調査の方法と経過

第1節 調査に至る経緯

本調査は、個人専用住宅の建設に先立つ埋蔵文化財の記録保存を目的として実施した。建築計画では建物の基礎工事として鋼管杭を打ち込み、また地下室を築造する設計にもなっていたことから、鎌倉市教育委員会では周辺での埋蔵文化財の調査成果を踏まえ、建築工事に先立ち事前の発掘調査が必要との判断を示した。この結果を受け、平成18年10月30日～平成19年1月15日に67㎡を対象とする発掘

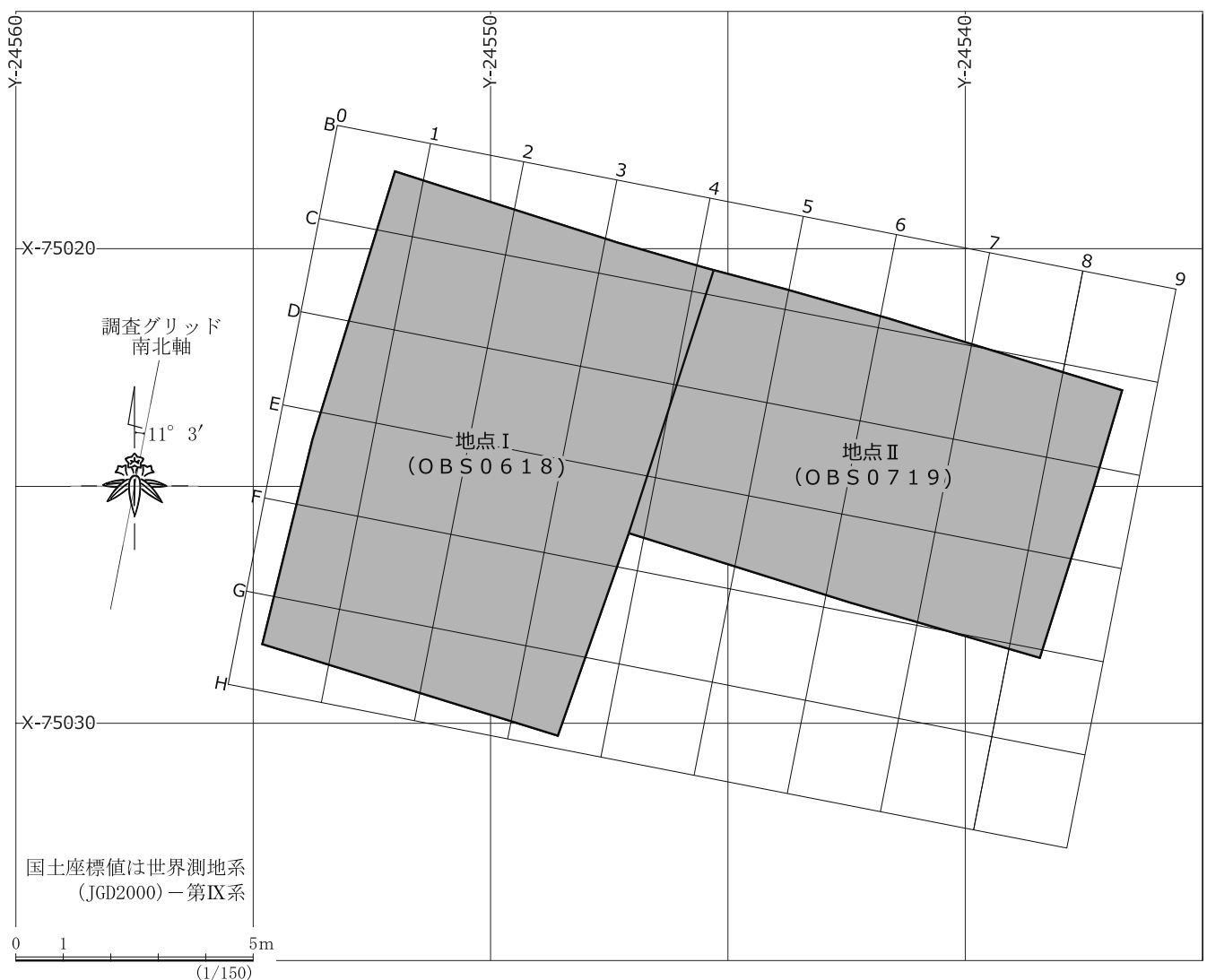


図2 調査区配置図

調査を実施し（地点Ⅰ）、この後、建築計画の変更に伴い、新たに鋼管杭を打ち込む54㎡について追加調査を平成20年2月28日～同年4月23日に行った（地点Ⅱ）。

なお、地点Ⅰの調査面積については、『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 平成18年度発掘調査報告（第1分冊）』（鎌倉市教育委員会2007-VIII頁）で122.40㎡と記していたが、誤りである（地点Ⅰ・Ⅱの合計値を示した可能性がある）。

第2節 調査の方法

地点Ⅰ・Ⅱともに表土掘削は重機によって行い、遺物包含層以下は人力での掘削に移行して順次遺構の確認と掘削、次いで写真撮影・測量図作成などの記録作業を進めた。

測量に当たっては図1・表1の地点⑧で使用した2m単位の測量方眼（グリッド）を用い、本地点の調査範囲に合わせて南北軸（x軸）にアルファベットA～Hを、東西軸（y軸）には算用数字0～9を付した。各グリッドの名称は、北西角のx・y軸を基点に「B-0グリッド」などと呼称した。平面図の作成には光波測距儀で測定した座標値を方眼紙にプロットする方法を取った。

上記地点⑧では任意の測量方眼と鎌倉市4級基準点E180・E181との関係から国家座標系への合成も済んでいたことから、地点Ⅰ・Ⅱ調査区についても改めて国家座標系の測量図に合成する作業を行い、本報告においては世界測地系座標値（JGD2011）に変換した成果図を掲載した（図2）。

第3節 調査の経過

以下、現地作業の進捗状況について、調査日誌にもとづいて概要を述べる。

地点Ⅰの表土掘削は平成18年10月24日に実施し、同月30日には調査用具の搬入と現場環境の整備を行って本格的に調査に着手した。重機掘削後、遺物包含層以下は人力による掘削に移行し、順次写真撮影と図面作成に当たった。11月中旬には第1面の記録を終え、以下、12月上旬に第2面、12月中旬に第3面、12月下旬には第4面の記録を終えた。明けて平成19年には第4面下の確認トレンチを掘削し始め、拡張等を経て1月中旬には第4面下（第5面）の記録を終了した。1月15日には調査用具の撤収を行って現地での作業工程を全て終了した。

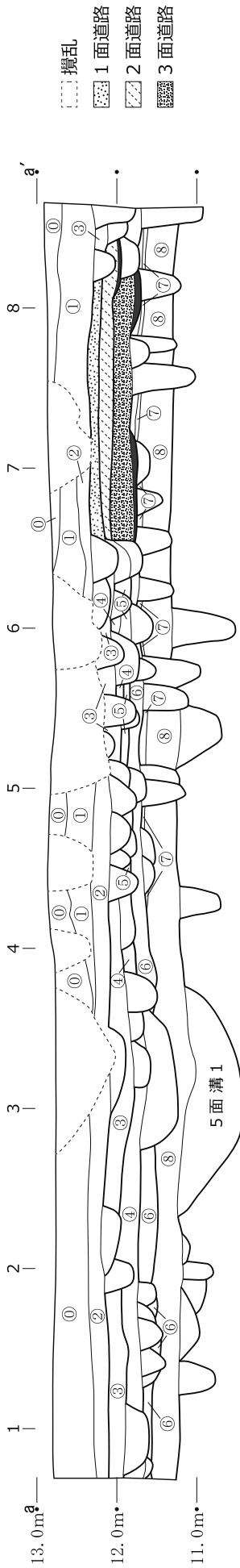
地点Ⅱの表土掘削は平成20年2月27日に実施し、同日から翌日にかけて調査用具の搬入と現場環境の整備を行って本格的に調査に着手した。調査手順は地点Ⅰと同様に進め、3月上旬には第1面の記録を終えた。次いで3月下旬に第2面、4月初頭に第3面、同月中旬には第4面の記録を終えて第5面に向けて掘削を開始した。第5面は中世基盤層の上面で、4月下旬には掘削・記録作業を終え同月23日に調査用具を撤収して現地での調査工程は完了した。

整理作業は平成26年度の後半から着手した。途中、調査担当者が不在となったため作業は一時中断したが、平成28年度の後半に再開した後は他遺跡の整理作業と並行しながら断続的に作業を進めた。平成30年度には報告書の執筆・編集作業を始め、同年度末の本書刊行に至る。これら一連の整理作業は、鎌倉市教育委員会文化財課分室において行った。

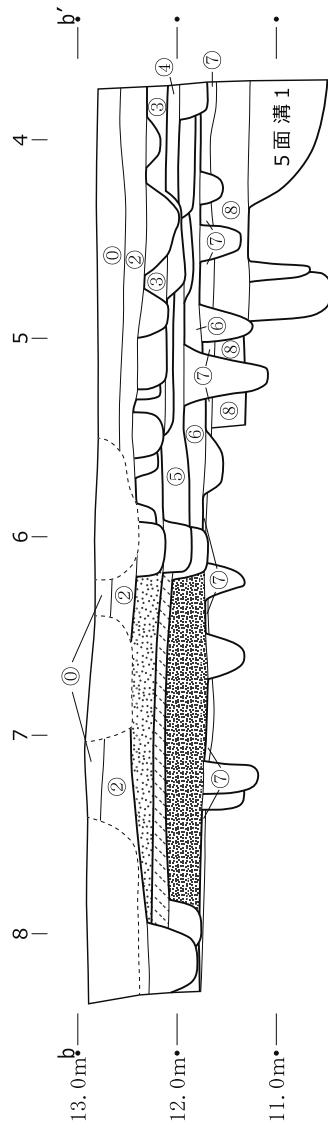
第三章 基本土層

本地点は滑川北岸の沖積微高地に立地する。現地表面の標高は12.8～13.0 m前後で、北東角が最も高く、南および西に向けて若干下がる地形となっている。前章でも述べたように、本地点の5面は中世基盤層で、地元の遺跡調査者が「ネチャ」と呼ぶ夾雑物の少ない黒褐色粘質土が堆積している。今回は地表面より1.8 m下の標高11.2 m前後で検出された。その後、中世を通じて泥岩ブロック（土丹）による盛土造成が繰り返され、下層より4面→3面→2面→1面という順で、整地および生活面としての土地利用がなされていた（図3）。3面から1面までは地点Ⅱの東部で南北方向に延びる道路状遺構が検出され、この部分の整地は泥岩粒を主体とし、他のエリアに比べて堅固に構築されていた。1面は標高12.0～12.3 m前後で検出され、これより上位には褐色の砂質土が堆積し、近世～近代の形成層と考えられている。

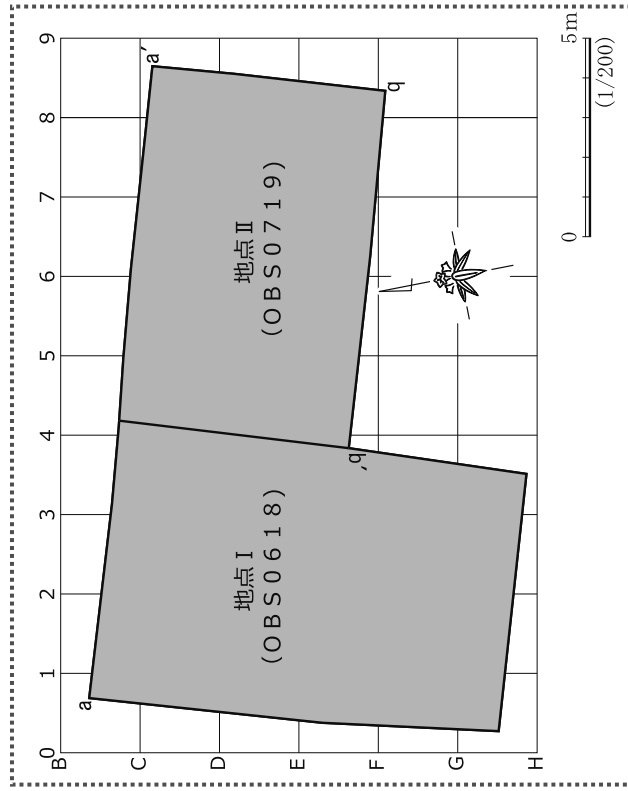
近在の遺跡では中世の整地面が10枚強も積み重ねられ、全体の厚さでは2 m近くにまで及ぶ地点もある。こうしたところでは中世基盤層自体が低く、大雨時の冠水などの影響を受けやすい土地であったと考えられる。そのため、頻繁に土地の嵩上げを繰り返した結果が、上記の堆積状況となって現代まで残されたのであろう。本地点は、本来の地形が微高地であった故に、盛り土の頻度が比較的少なかったものと考えられる。



0 1 2m
(1/80)



13.0m
12.0m
11.0m



基本土層説明

- ① 褐色土
 - ② 明褐色土
 - ③ 褐色土
 - ④ 褐色土
 - ⑤ 灰褐色土
 - ⑥ 褐色土
 - ⑦ 暗褐色土
 - ⑧ 明褐色土
- 表土。
 1 ~ 3 cm大の泥岩粒多量。かわらけやや多く、炭粒少量。縮まりあり。
 砂質土。泥岩粒、かわらけ片、炭粒多量。縮まりややあり。
 粘質土。泥岩粒、かわらけ片多量、炭粒少量。縮まりあり。
 粘質土。2 ~ 5 cm大の泥岩粒多量、かわらけ片、炭粒少量。縮まりあり。
 弱粘質土。5 cm大の泥岩ブロック少量、かわらけ片、炭粒微量。縮まりややあり。
 粘質土。泥岩粒多量、かわらけ片、炭粒少量。縮まりややあり。
 粘質土。泥岩粒、褐鉄粒多量。縮まりややあり。
 粘質土。10 ~ 30cm大の泥岩ブロック多量。縮まりあり。

図3 基本土層図

第四章 発見された遺構と遺物

上述のように、今回の発掘調査では中世基盤層の上面を含む5枚の中世遺構面が検出された。以下、最上層の1面から順に、発見された遺構と出土遺物について概要を述べる。なお、地点Ⅰ・Ⅱではそれぞれ独自の遺構番号を付したため、土坑・ピットの類では各遺構面で同じ番号が2例発生してしまっている。本報告では番号改変の煩を避け、地点Ⅰ検出分についてはオリジナルの番号を掲載し、地点Ⅱの検出遺構については番号の冒頭に「0」を付し、「土坑01」や「ピット01」などと表現することにした。地点Ⅱでも「ピット列1」など整理時点で遺構群の名称を付した事例については、その限りではない。

第1節 1面上の遺物（図4～13、表2）

図4には主に表土掘削時の出土遺物を、図5～13には1面を検出するまでの出土遺物を掲載した。図4上段のかわらけは全てロクロ成形品で、体部～口縁が直線的もしくは外反気味に開くものが主体となり、14世紀後半～15世紀前半頃に位置付けられる。他に小片ながら瀬戸の灰釉平碗や鍔付き瓦質

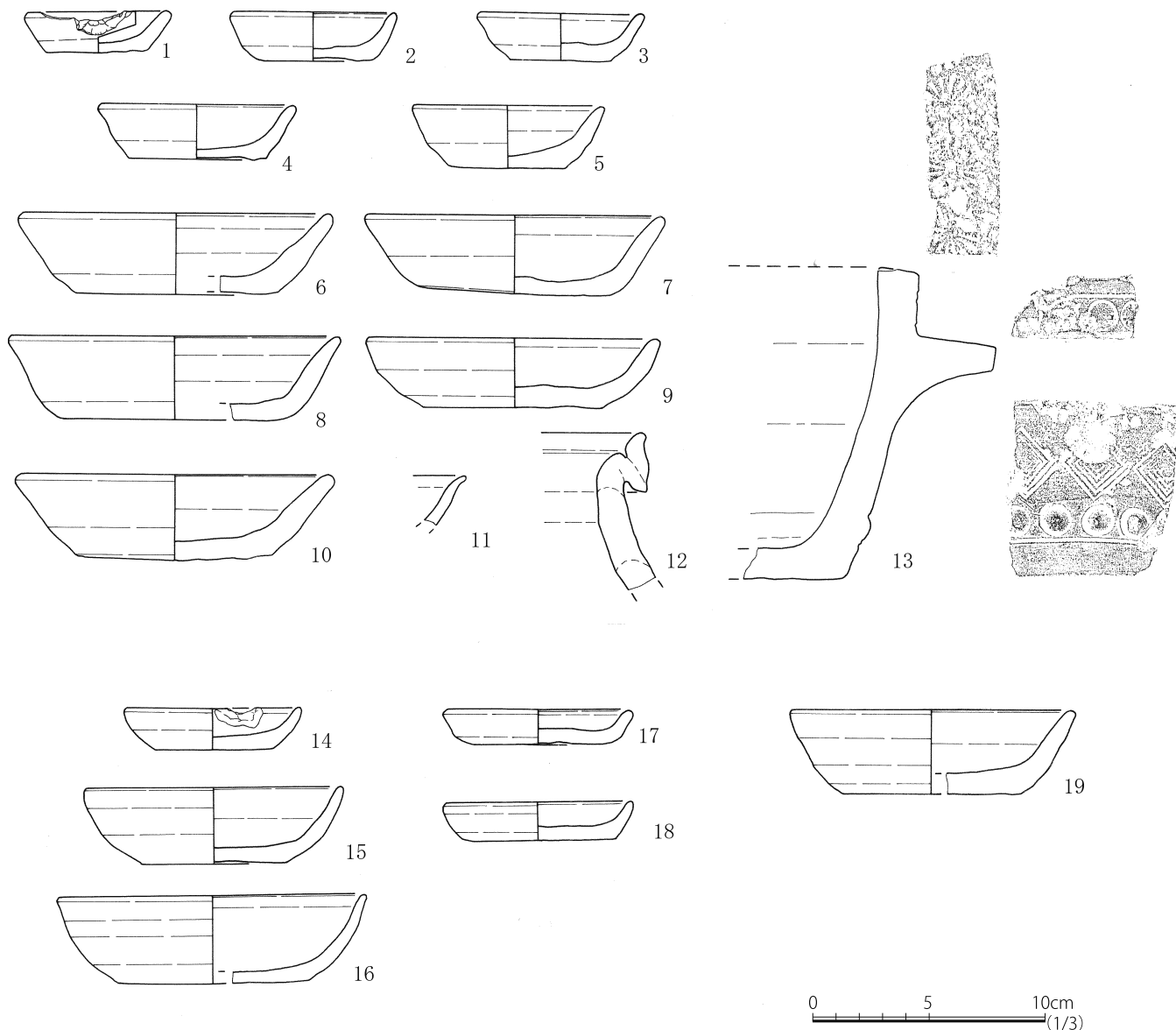


図4 表土などの出土遺物

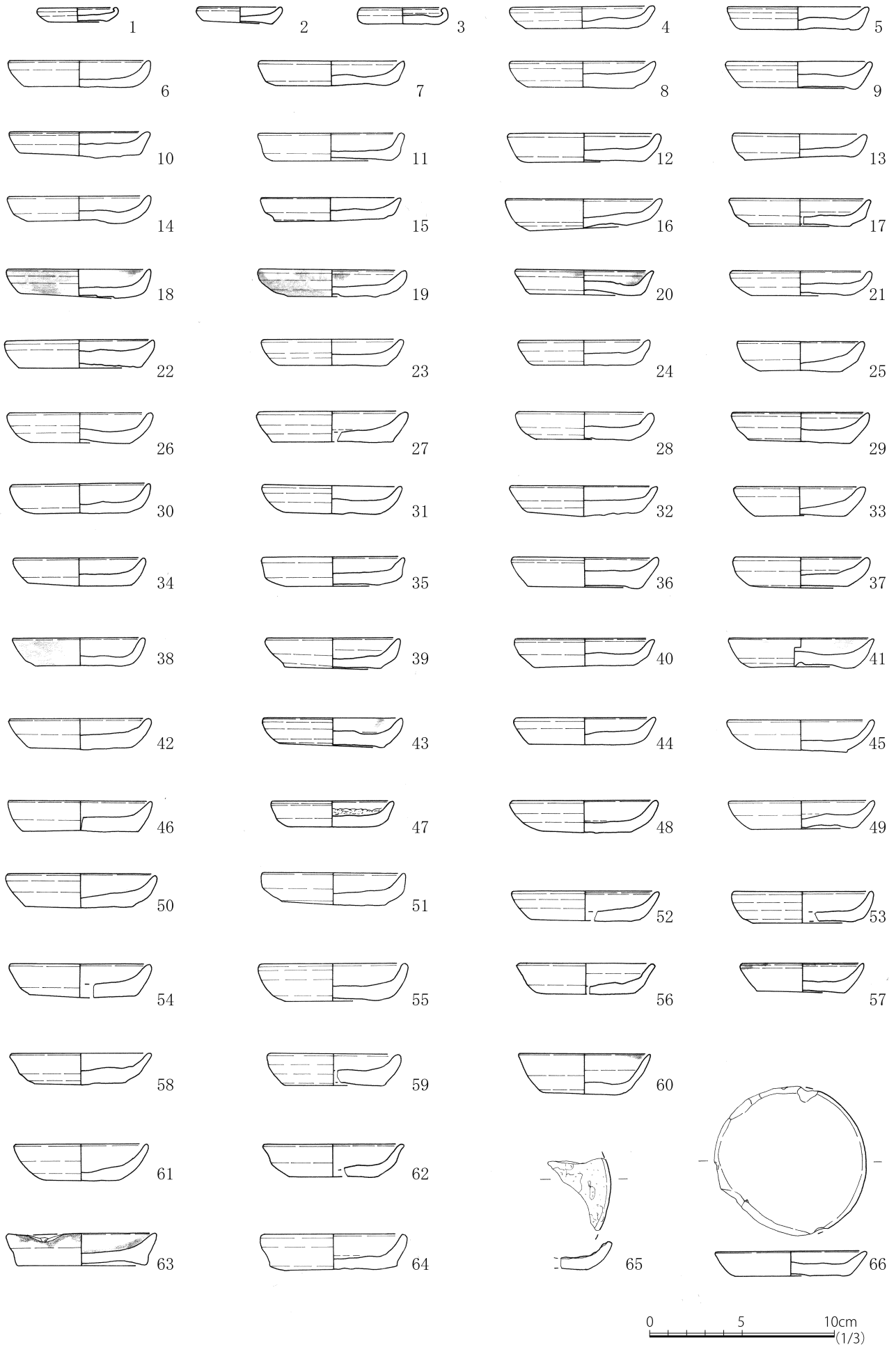


图5 1面上出土遺物(1)

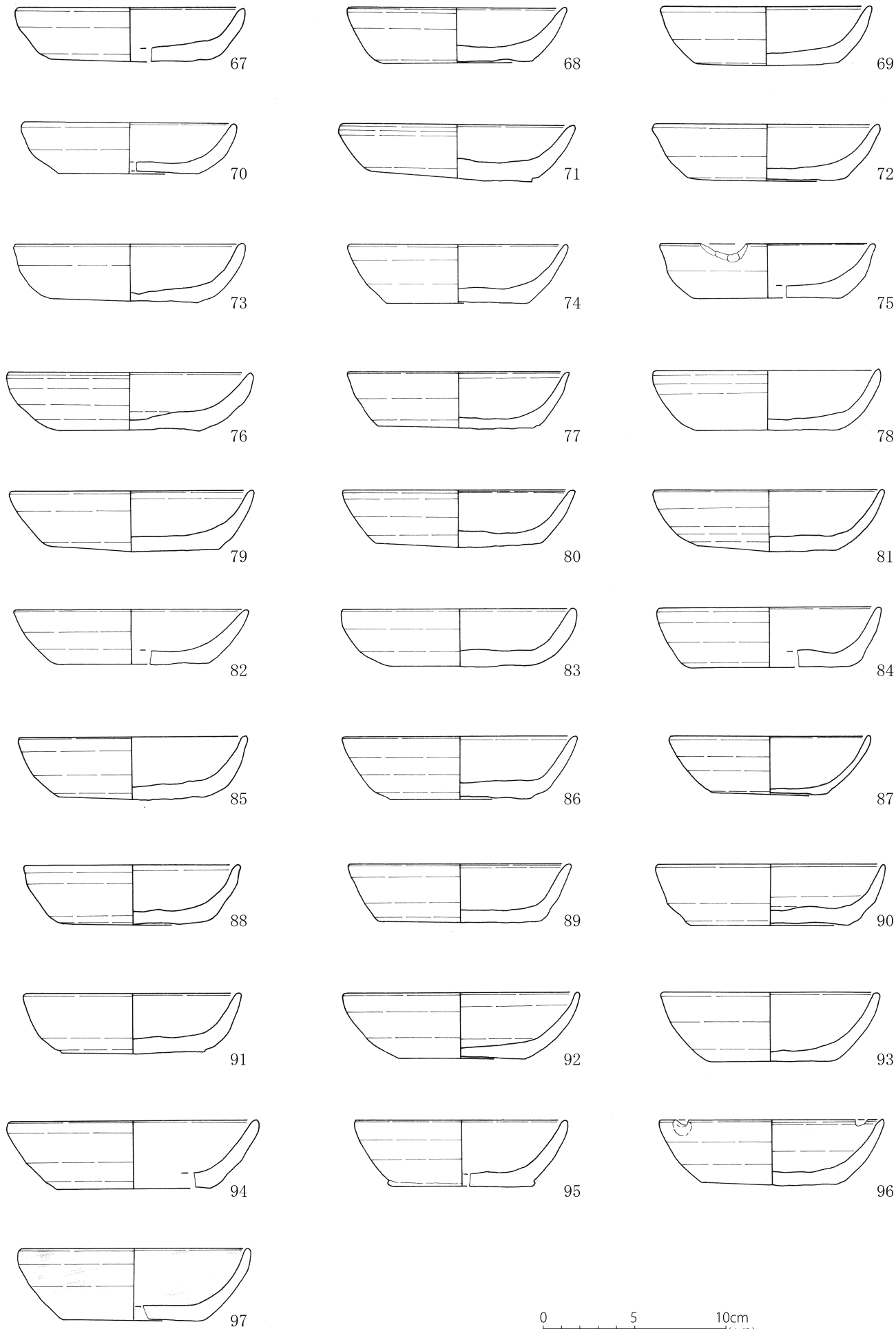


图6 1面上出土遺物(2)

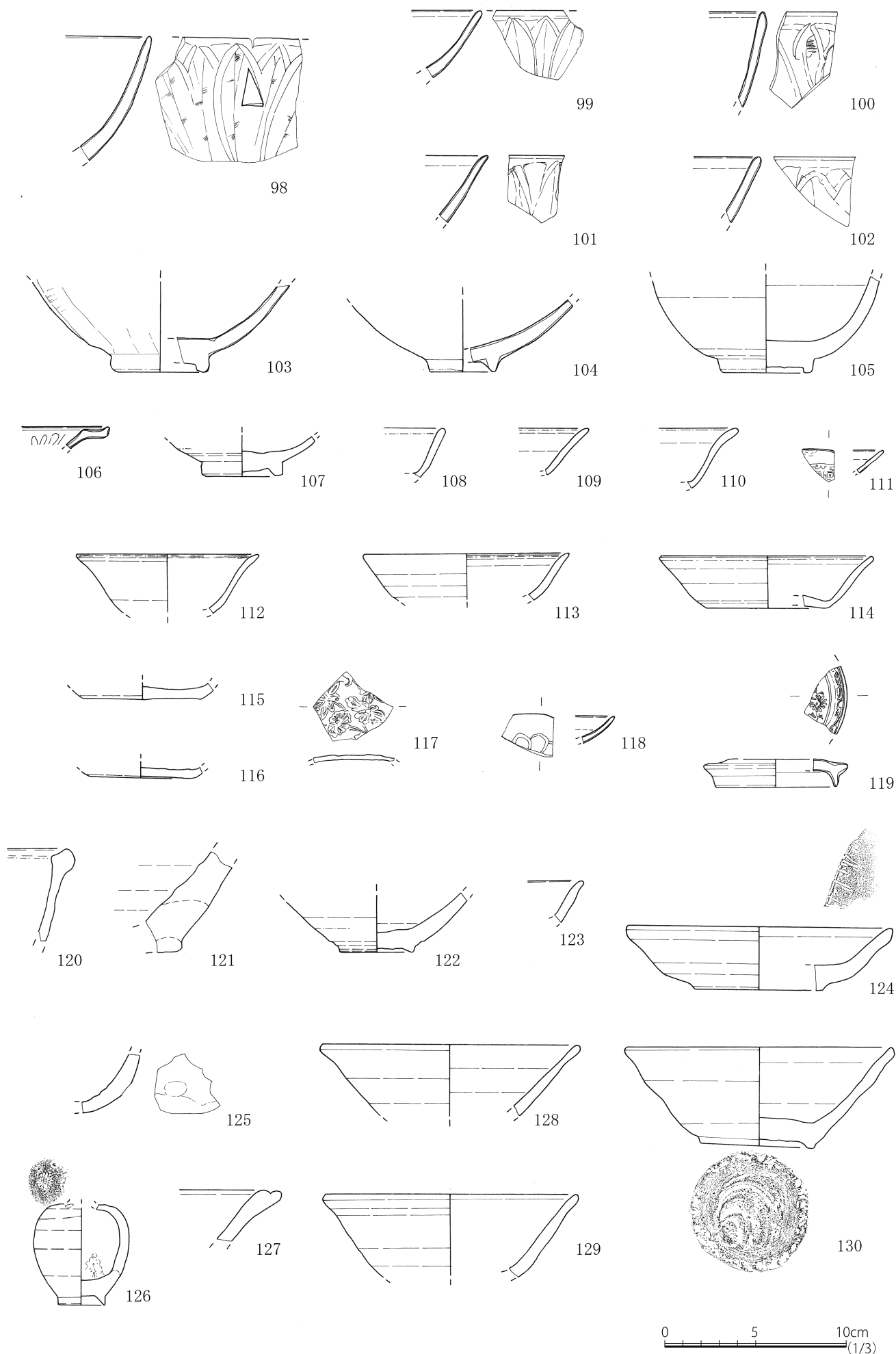


图7 1面上出土遺物(3)

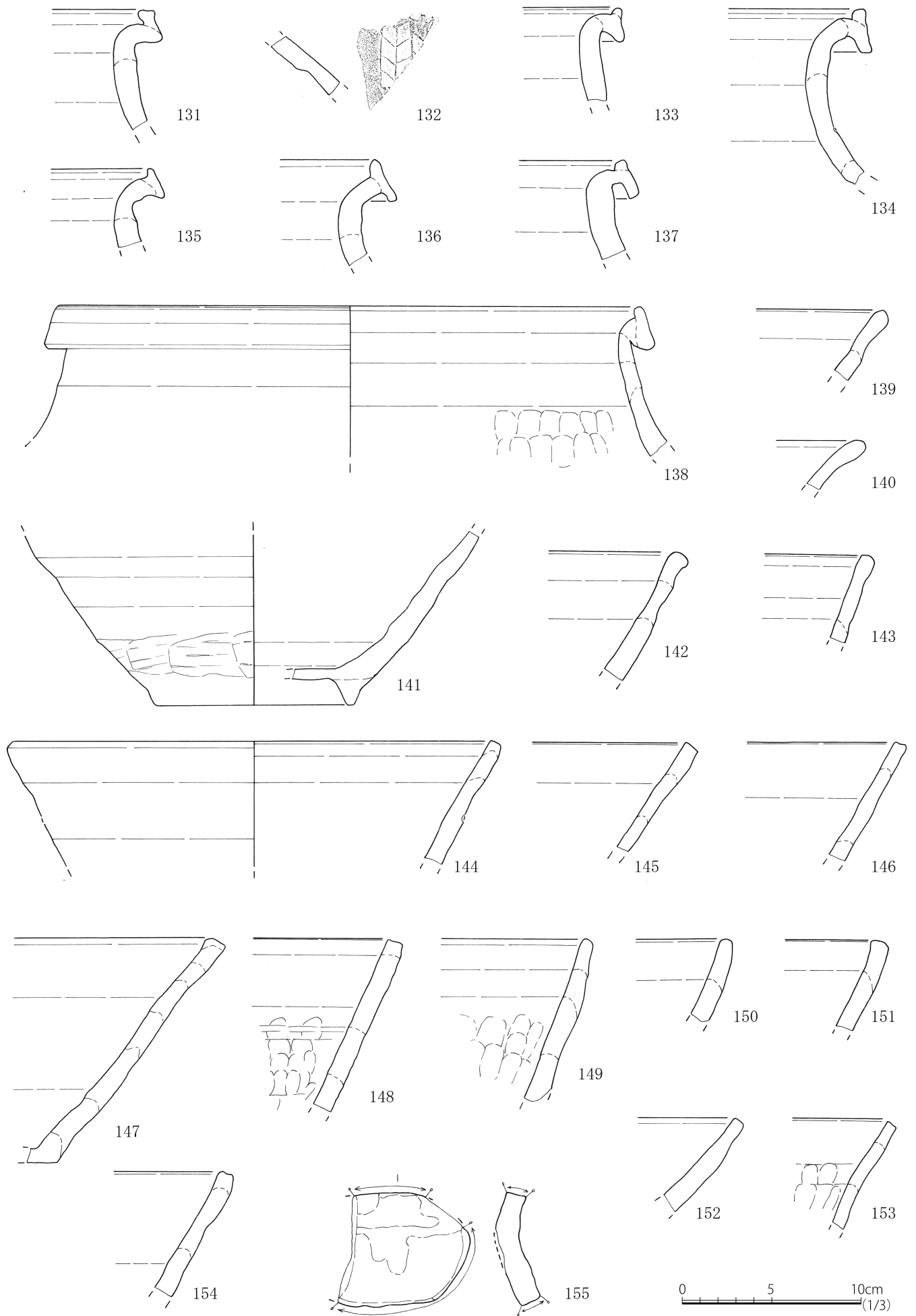


图8 1面上出土遺物(4)

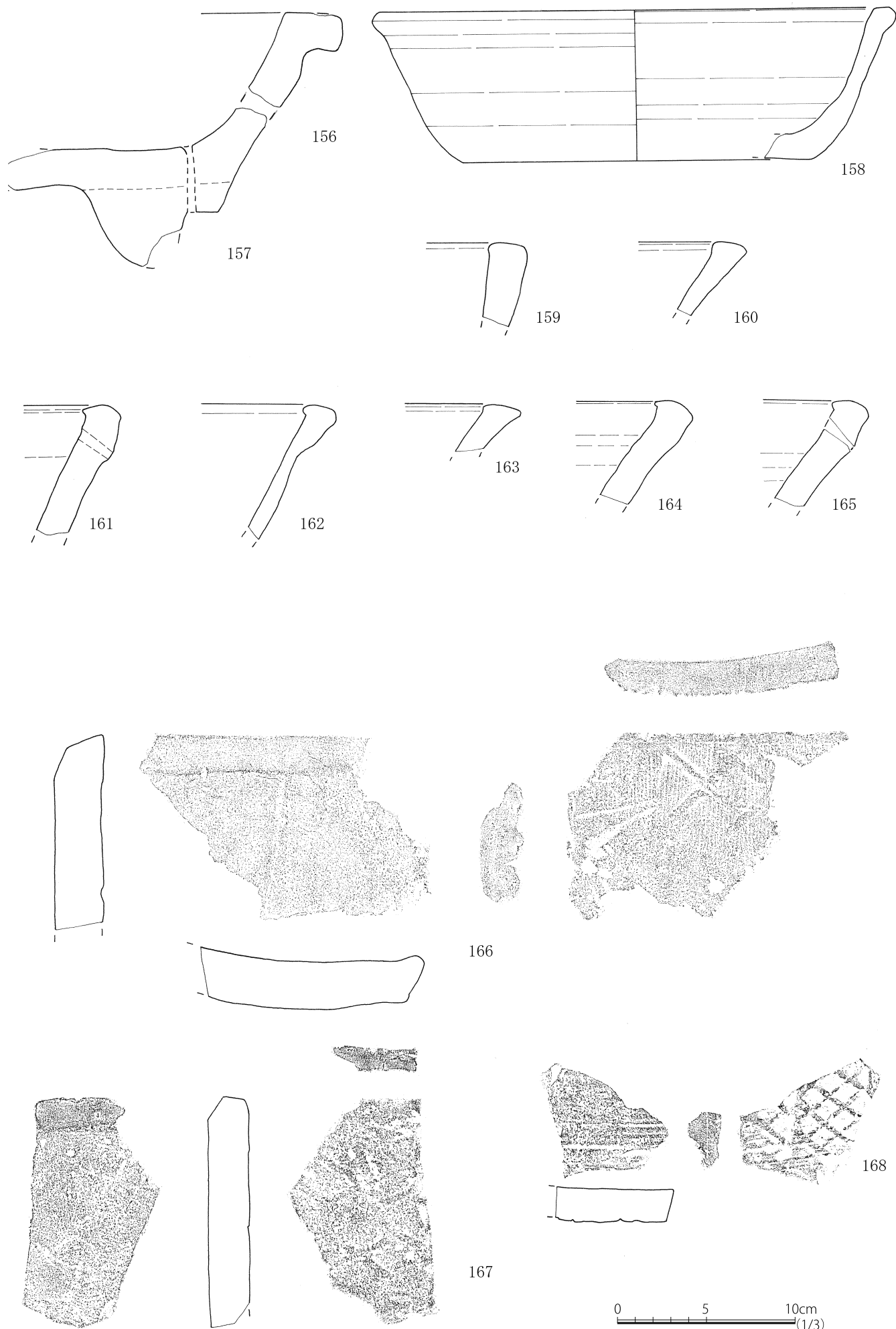
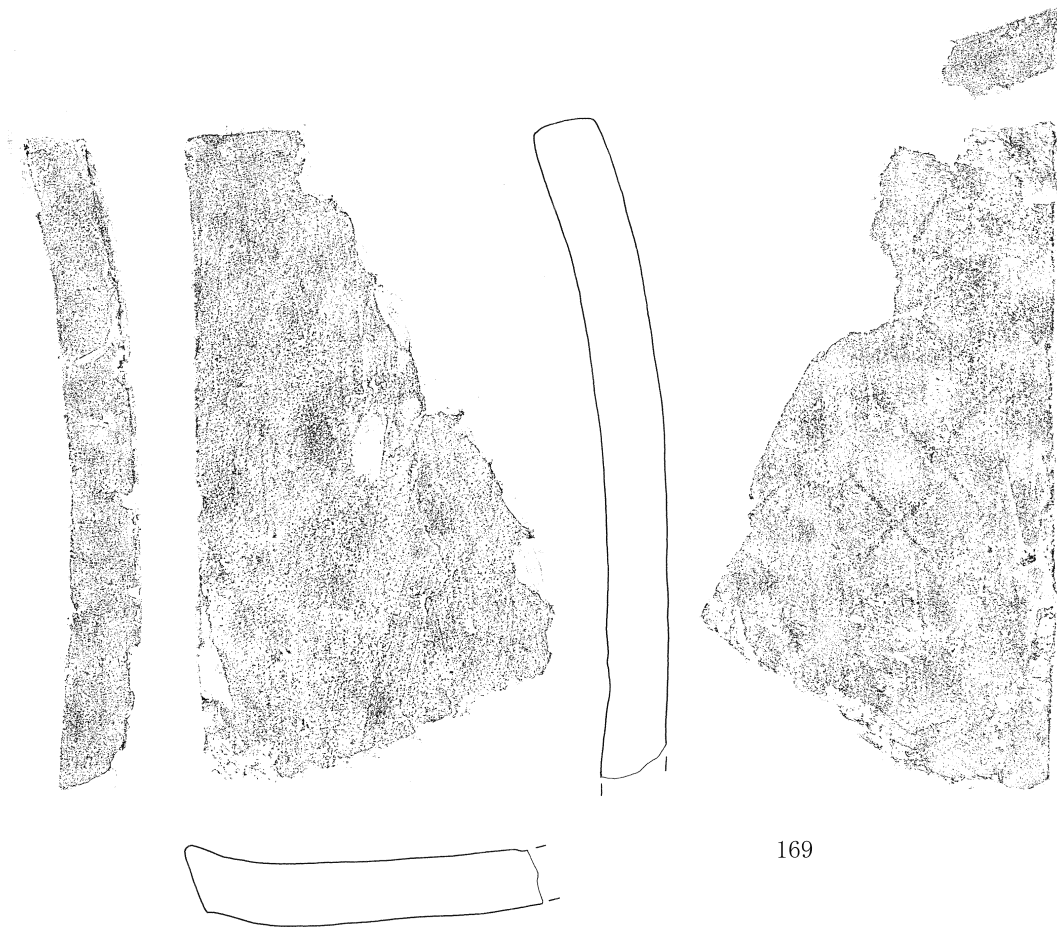
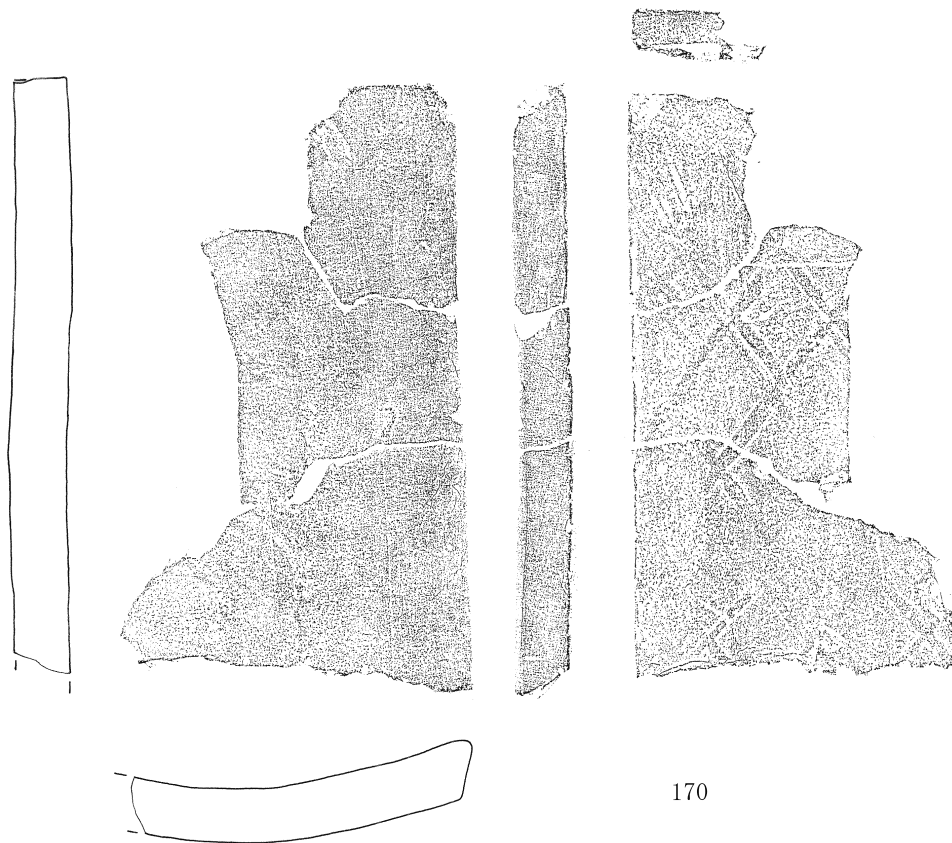


图9 1面上出土遺物(5)



169



170

0 5 10cm
(1/3)

图 10 1 面上出土遺物 (6)

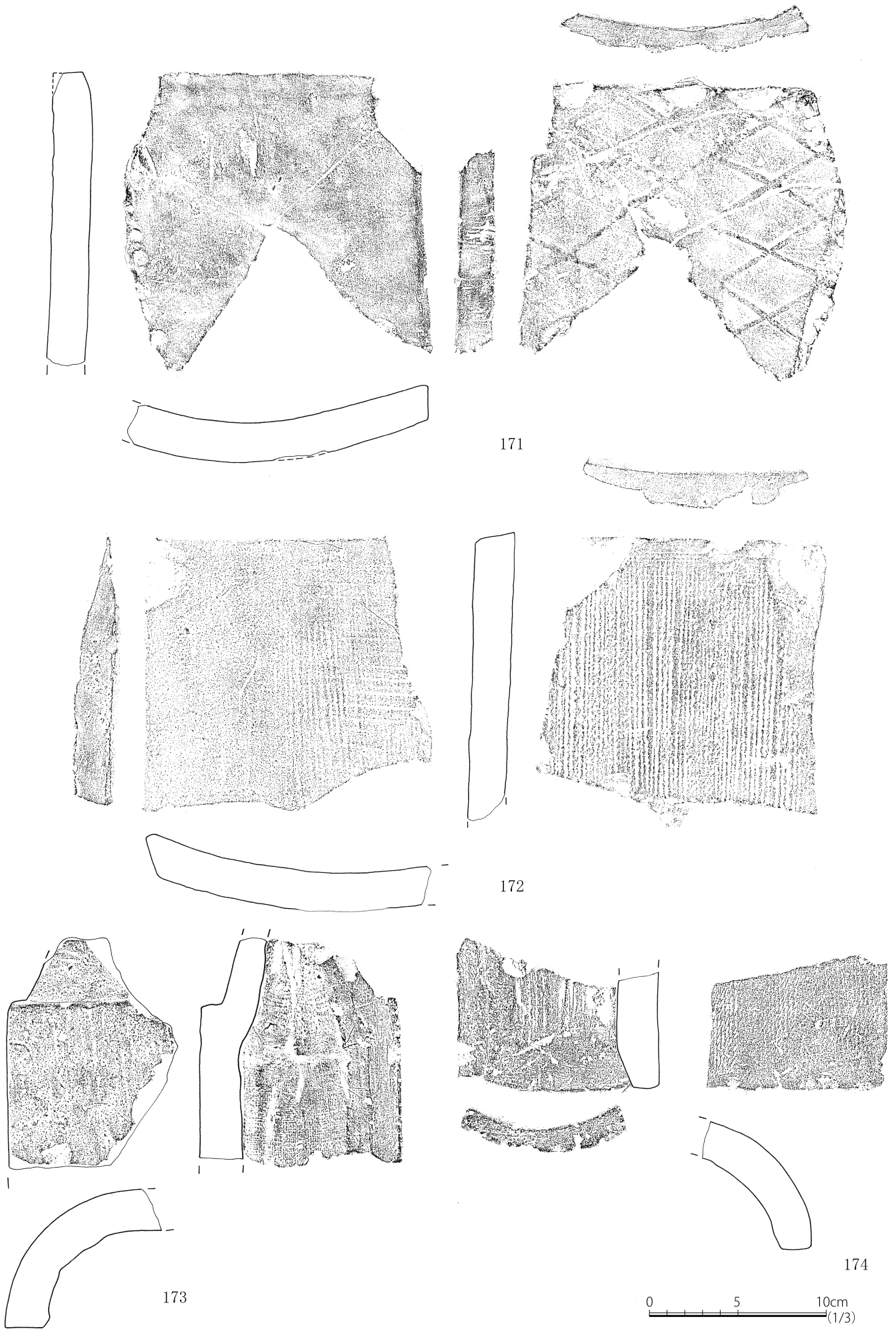


图 11 1 面上出土遺物 (7)

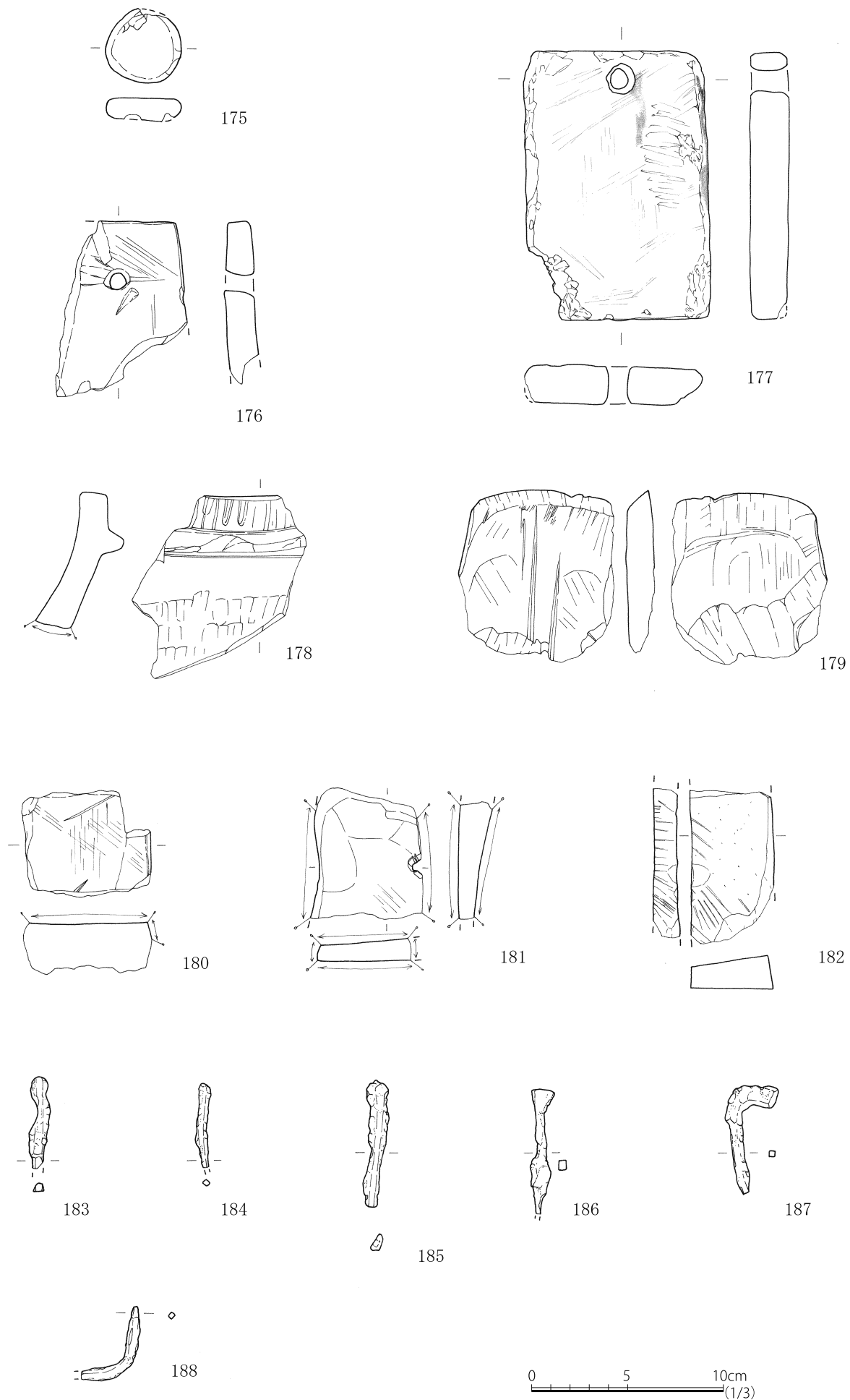


图 12 1 面上出土遺物 (8)

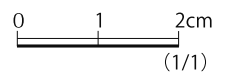
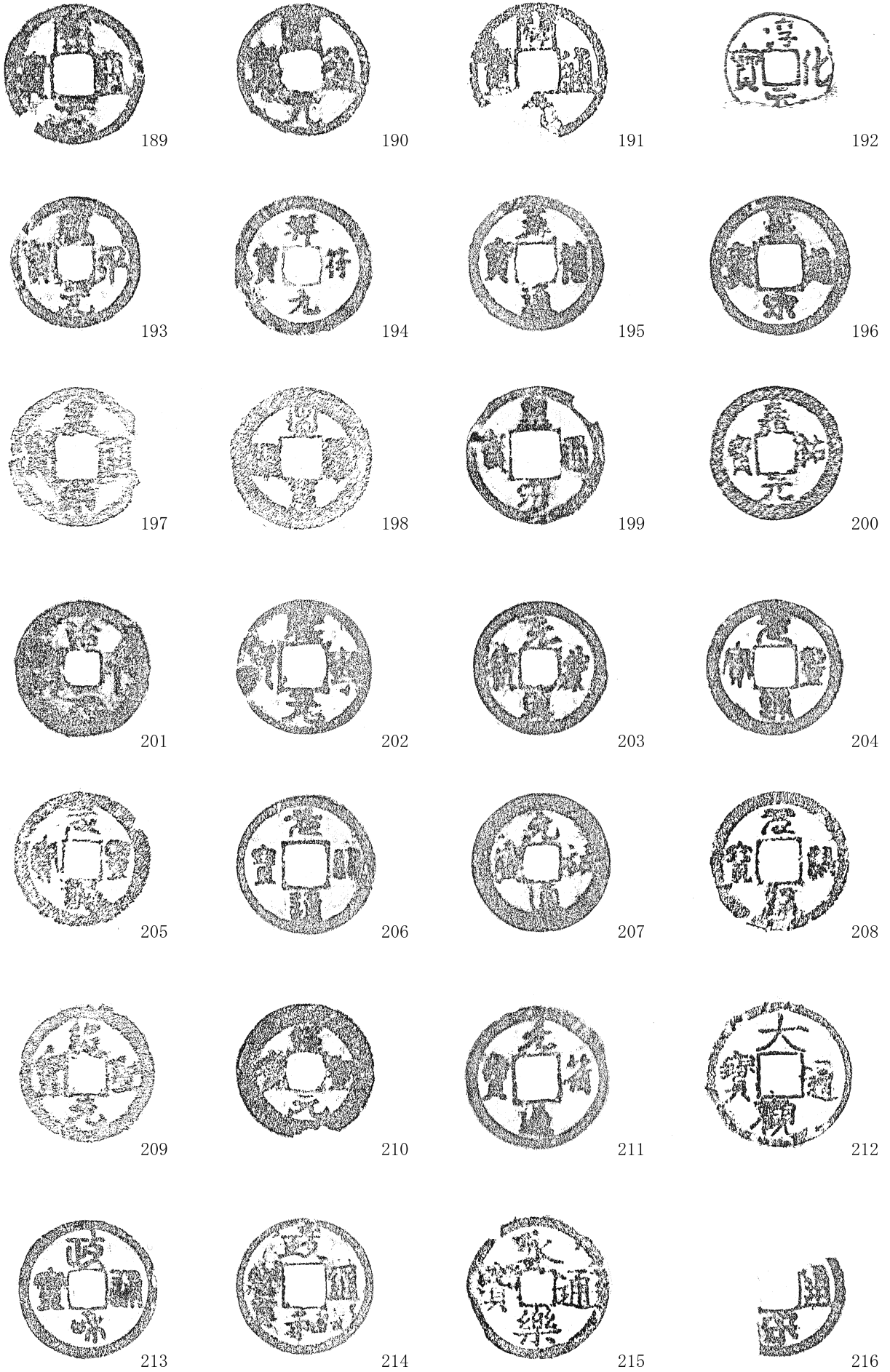


图 13 1 面上出土遗物 (9)

表2 表土～1面上 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ナヲ状	板状	スノコ状		
図4 表土などの出土遺物												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.0	4.4	1.8	完形	○		○		橙	白針 口縁部一部打ち欠き
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.9)	(5.0)	2.1	ほぼ完形 歪み大	○		○		黄橙	白針 口縁煤付着
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.3)	2.0	1/4	○		○		黄橙	白針
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(5.9)	2.4	1/2	○		○		橙	白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.1	3.7	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
6	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.7)	3.5	1/3	○				黄橙	白針
7	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.3	3.5	ほぼ完形	○		○		橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.1)	(10.1)	3.6	1/5	○		○		黄橙	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(7.6)	3.0	1/4	○		○		橙	白針
10	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	8.5	3.7	3/4	○		○		黄橙	白針
11	陶器	瀬戸 碗か皿か	—	—	[2.2]	口小片					利-フ 灰	
12	陶器	常滑 甕	—	—	[6.8]	口小～ 胴片					茶	6型式
13	瓦質土器	火鉢	—	—	[13.5]	口小～ 底小					黒灰	河野IVC類(D2類) 連珠文貼り付け+亀甲文押印
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.0)	1.8	1/4	○		○		黄橙	0面土坑04 白針 口縁部打ち欠き
15	土器	ロクロ かわらけ・大	(10.9)	(6.2)	3.3	1/2	○		○		黄橙	0面土坑04 雲母
16	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.4)	3.8	1/8	○		○		黄橙	0面土坑04 雲母
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.5)	1.5	1/4	○		○		黄灰	0面土坑06 白針
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	6.6	1.6	1/3	○		○		黄灰	0面土坑06 白針
19	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(7.6)	3.7	1/4	○		○		橙	0面土坑010 白針
図5 1面上出土遺物(1)												
1	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.3)	(3.0)	0.8	1/2	○		○		黄橙	内折れ
2	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.6	3.8	0.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
3	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.7	4.0	0.9	4/5	○		○		黄灰	内折れ
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.4)	1.2	1/3	○		○		黄灰	白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.6)	1.3	1/2	○		○		黄灰	白針
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.2	1.5	1/3	○		○		黄橙	白針
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.1	1.4	1/3	○				黄橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.4	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.4	1.4	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
10	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.7	1.3	1/4	○		○		暗灰黄	白針 内外全体が黒色に変色
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.5	1.5	4/5	○		○		黄橙	白針
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.6	1.6	4/5	○		○		黄灰	白針
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	6.0	1.5	ほぼ完形	○				黄橙	白針
14	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.3	完形	○		○		黄灰	白針 外面全体が黒色に変色
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.1	1.3	2/3	○		○		橙	白針
16	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	5.3	1.6	4/5	○		○		黄橙	白針 砂質
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.8)	1.5	1/3	○				黄橙	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	サテ状	板状	スノコ状		
18	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.8	1.5	4/5	○		○		黄灰	白針 内外面煤付着
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(5.0)	1.4	1/4	○		○		橙	白針 内外面黒色に変色
20	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.2	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 内外面一部煤付着
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.6)	1.2	1/2	○		○		橙	白針
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.9)	1.5	1/2	○		○		橙	白針
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.1)	1.5	2/3	○		○		橙	白針
24	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.8)	1.4	1/2	○		○		黄灰	白針
25	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(4.6)	1.6	1/4	○		○		橙	白針
26	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.5)	1.5	1/3	○		○		橙	白針
27	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.6)	1.7	1/4					黄橙	1面土坑19 白針
28	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.4)	1.5	1/3	○		○		橙	白針
29	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.1	1.6	4/5	○		○		橙	白針
30	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.2)	1.6	1/3	○		○		黄灰	白針
31	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.2)	1.6	1/4	○		○		黄灰	白針
32	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.3)	1.7	2/3	○				黄橙	白針、砂質
33	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.1)	(5.0)	1.6	1/4	○		○		橙	白針
34	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.7	1.6	4/5	○				黄橙	白針、砂質
35	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.2)	1.6	1/3	○		○		橙	白針
36	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.3)	1.6	1/3	○				黄灰	白針
37	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.3	1.7	4/5	○		○		橙	白針
38	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.6	1.5	1/3	○		○		黄橙	白針 内外面一部黒色に変色
39	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.4	1.7	4/5	○		○		橙	白針
40	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.5	1.5	3/4	○		○		黄灰	白針、砂質
41	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.8)	1.6	1/3	○		○		黄橙	白針 内外面煤付着 外底面の中央に非貫通孔
42	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.7	4/5	○		○		黄橙	白針
43	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.7	1.5	完形					橙	白針 内外面一部黒色に変色
44	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.9	1.5	2/3	○		○		黄灰	白針
45	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.2	2.2	4/5	○		○		黄灰	白針
46	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.4)	1.7	1/2	○		○		黄橙	白針
47	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.8)	(4.9)	1.4	1/6					灰褐	埴塼として使用か
48	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.9	1.8	4/5	○		○		黄橙	白針、砂質 外面一部煤付着
49	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.9	1.5	3/4	○		○		橙	白針
50	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.9	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
51	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.8	1.7	4/5	○		○		黄橙	白針
52	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.9)	1.6	1/4	○				黄橙	1面土坑19 白針
53	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.7)	1.7	1/2			○		橙	白針 砂質
54	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.0	1.9	口小～ 底1/2	○				黄橙	白針
55	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.9)	1.9	3/4	○		○		橙	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サテ状	板状	スコ状		
56	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(4.9)	1.7	口小～ 底1/2			○		黄橙	白針
57	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.8	1.6	完形	○		○		橙	白針 口縁一部煤付着
58	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.1	1.7	1/2	○		○		橙	白針
59	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.6)	1.8	1/3	○		○		橙	白針
60	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(4.5)	2.2	口小～ 底2/3	○				黄灰	白針 口縁部、外底部煤付着
61	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(3.9)	2.0	4/5	○		○		橙	白針
62	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	1.8	1/8	○				黄橙	白針
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(7.2)	1.7	1/6	○		○		黄橙	白針 口縁部一部煤付着、打ち欠き
64	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(7.1)	2.0	1/3	○		○		橙	白針
65	土器	かわらけ転用品	—	—	[1.5]	口小片					暗茶褐	取瓶として転用か
66	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.5	1.3	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部擦痕あり
図6 1面上出土遺物(2)												
67	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(8.9)	3.0	1/3	○		○		黄橙	白針 内外底黒く変色
68	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.3	3.0	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑19 白針
69	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.5)	(8.0)	3.3	1/3	○		○		黄橙	白針
70	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(7.8)	2.8	2/3	○		○		橙	白針
71	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.8	2.9	4/5	○		○		橙	1面土坑19 白針、砂質
72	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.7)	3.1	1/3	○		○		黄灰	白針
73	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.1	3.1	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
74	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(7.9)	3.2	2/3	○		○		橙	白針
75	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.7)	(8.4)	3.0	1/4	○		○		橙	白針 口縁一部打ち欠き
76	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(6.8)	3.2	1/3	○		○		黄橙	白針
77	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.9)	3.0	口小～ 底完存	○		○		黄橙	白針、内面調整が粗い 内外面黒色に変色
78	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(7.9)	3.3	1/3	○		○		黄灰	白針
79	土器	ロクロ かわらけ・大	13.4	9.3	3.3	3/4	○				橙	1面土坑19 白針、砂質
80	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.2)	3.2	1/3	○		○		黄橙	白針 内底面煤付着
81	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	7.5	3.4	4/5	○		○		橙	白針
82	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.4)	3.0	1/4	○		○		黄橙	白針
83	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(8.0)	3.2	1/6	○		○		橙	白針
84	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(8.9)	3.3	1/2	○				黄橙	白針
85	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.2	3.4	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針、砂質
86	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	7.8	3.4	口小～ 底完存	○		○		橙	白針、砂質
87	土器	ロクロ かわらけ・大	11.0	6.2	3.2	4/5	○		○		黄橙	白針
88	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.7)	(6.0)	3.3	1/3	○		○		橙	白針
89	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	9.0	3.2	1/3	○		○		黄橙	白針
90	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.6	3.3	2/3	○		○		黄灰	白針
91	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(7.9)	3.3	2/3	○		○		黄灰	白針
92	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(6.9)	3.6	1/3	○		○		淡橙	白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ナラ状	板状	スノコ状		
93	土器	ロクロかわらけ・大	(11.8)	(6.6)	3.8	口小～底完存	○		○		黄灰	白針
94	土器	ロクロかわらけ・大	13.6	8.6	3.8	1/3	○				黄橙	白針
95	土器	ロクロかわらけ・大	(11.6)	(8.0)	3.6	1/6	○		○		黄灰	白針
96	土器	ロクロかわらけ・大	(12.2)	(7.8)	3.6	1/4	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き、煤付着
97	土器	ロクロかわらけ・大	(12.5)	(7.8)	4.0	1/3	○		○		黄灰	白針 内外面煤付着
図7 1面上出土遺物(3)												
98	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[6.9]	口小片					灰緑 透明	大宰府Ⅱ類
99	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[3.7]	口小片					青灰 半透明	大宰府Ⅱ類
100	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[5.3]	口小片					灰緑 半透明	大宰府Ⅱ類
101	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[3.7]	口小片					明灰緑 不透明	大宰府Ⅱ類
102	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[3.7]	口小片					灰青緑 不透明	大宰府Ⅱ類
103	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	(4.6)	[4.9]	体片～ 底1/2					灰緑 半透明	大宰府Ⅲ-1類 黒色粒
104	磁器	龍泉窯系青磁 碗	—	(3.4)	[4.0]	体片～ 底1/2					緑灰 不透明	大宰府Ⅰ-1類
105	磁器	龍泉窯系青磁 無文碗	—	(4.8)	[5.4]	体片～ 底2/3					暗灰緑 不透明	
106	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	—	[1.2]	口小片					灰緑 不透明	大宰府Ⅲ-3b類
107	磁器	白磁 口禿碗	—	(3.9)	[2.2]	体片～ 底完存					青灰 透明	大宰府Ⅸ類
108	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.7]	口小片					灰緑 半透明	大宰府Ⅸ類
109	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.5]	口小片					青灰 透明	大宰府Ⅸ類
110	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[3.3]	口小片					灰白 透明	大宰府Ⅸ類
111	磁器	白磁 口禿印花皿	—	—	[1.3]	口小片					白 透明	大宰府Ⅹ類か 内面型押し
112	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[3.3]	口小片					灰白 半透明	大宰府Ⅸ類 口唇部煤付着
113	磁器	白磁 口禿皿	(11.3)	—	[2.6]	口1/4					灰青 透明	大宰府Ⅸ類
114	磁器	白磁 口禿皿	(11.6)	(6.7)	2.9	底1/3					白 透明	大宰府Ⅸ類
115	磁器	白磁 口禿皿	—	(6.6)	[1.0]	底1/2					灰白 不透明	大宰府Ⅸ類
116	磁器	白磁 口禿皿	—	(5.3)	[7.0]	底1/3					灰青 透明	大宰府Ⅸ類
117	磁器	白磁 合子蓋	—	—	—	天井部					白 透明	
118	磁器	青白磁 口禿皿	—	—	[1.5]	口小片					灰青 透明	白磁Ⅹ類の可能性もあり
119	磁器	高麗青磁 蓋	(6.7)	最大径 (8.0)	[1.5]	1/6					青灰 透明	壺蓋か 天頂部に菊花文+唐草文の象嵌
120	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	[5.1]	口小片					黄灰	
121	陶器	褐釉壺	—	—	[5.5]	底小片					灰褐	
122	陶器	瀬戸 天目茶碗	—	(4.0)	[3.3]	体片～ 底1/2					黒褐	黒色粒・白色粒
123	陶器	瀬戸 緑釉小皿	—	—	[2.3]	口小片					灰緑	
124	陶器	瀬戸 卸皿	(14.7)	(7.1)	3.5	1/8					緑灰	
125	陶器	瀬戸 碗カ	—	—	—	体片					暗茶褐	
126	陶器	瀬戸 耳付小壺	—	(2.5)	[5.5]	体片～ 底1/2					灰	菊花文押印 小壺Ⅰ類
127	陶器	瀬戸 片口鉢	—	—	[2.8]	口片～ 体片					灰黒	長石
128	陶器	尾張型 山茶碗	(14.4)	—	[3.9]	1/8					灰	白色粒
129	陶器	尾張型 山茶碗	(14.0)	—	[4.6]	口片1/6					灰	長石

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サヲ状	板状	スコ状		
130	陶器	尾張型山茶碗	14.6	6.4	5.5	完形					灰	高台に靱殻痕
図8 1面上出土遺物(4)												
131	陶器	常滑甕	—	—	[6.8]	口小～胴片					赤褐	長石
132	陶器	常滑甕	—	—	—	口小～胴片					灰褐	長石
133	陶器	常滑甕	—	—	[5.2]	口小～胴片					暗茶褐	長石
134	陶器	常滑甕	—	—	[9.8]	口小～胴片					灰	長石
135	陶器	常滑甕	—	—	[4.4]	口小～胴片					茶褐	長石
136	陶器	常滑甕	—	—	[6.0]	口小～胴片					暗褐	長石
137	陶器	常滑甕	—	—	[5.6]	口小～胴片					褐	長石
138	陶器	常滑甕	(32.6)	—	[8.4]	口小～胴片					赤褐	長石
139	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[3.9]	口小片					赤褐	長石
140	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[2.8]	口片～体片					灰	長石
141	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	(11.0)	[9.7]	体片～底1/3					灰	長石
142	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[7.2]	口小片					灰	長石
143	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.9]	口小片					灰	長石
144	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	(27.1)	—	[7.0]	口1/6					灰	長石
145	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[6.1]	口小片					茶褐	長石
146	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[6.7]	口小片					灰	長石
147	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[12.6]	口片～底片					暗赤褐	長石
148	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[9.7]	口小～体片					明茶褐	長石
149	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[9.1]	口小～体片					暗茶褐	長石
150	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[4.6]	口小片					褐	長石
151	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.1]	口小片					明茶褐	長石
152	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.3]	口片～体片					灰	長石
153	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[6.1]	口小片					暗赤褐	長石
154	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[7.0]	口小片					暗灰褐	長石
155	陶器	常滑転用研磨具	長さ6.2	幅[6.7]	厚さ1.5	甕胴部片					暗灰	長石
図9 1面上出土遺物(5)												
156	土器	火鉢	—	—	[5.4]	口1/3					灰橙	1面土坑29 河野ⅡE類(C3類)157と同一個体だが接合せず
157	土器	火鉢	—	—	[8.8]	底小片					灰橙	河野ⅡE類(C3類)156と同一個体脚部に4ヶ所の穿孔
158	瓦質土器	火鉢	(29.2)	(19.8)	8.5	1/3					黄灰	河野ⅡA類(C1類)二次焼成を受ける
159	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.7]	口小片					黄橙	白色粒
160	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.1]	口小片					黄橙	河野Ⅰ類(A類)黒色粒・白色粒
161	瓦質土器	火鉢	—	—	[7.3]	口小～体片					暗灰	河野Ⅰ類(A類)黒色粒・白色粒
162	瓦質土器	火鉢	—	—	[7.6]	口小～体片					灰橙	河野Ⅰ類(A類)黒色粒・白色粒
163	瓦質土器	火鉢	—	—	[2.7]	口小片					黄橙	河野Ⅰ類(A類)黒色粒・白色粒
164	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.8]	口小片					灰	河野Ⅰ類(A類)黒色粒・白色粒
165	瓦質土器	火鉢	—	—	[6.0]	口小片					灰	河野Ⅰ類(A類)黒色粒・白色粒
166	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.7	狭端面片側辺					灰	永福寺女瓦CorD類

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サテ状	板状	スコ状		
167	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					灰白	永福寺女瓦CorD類
168	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.8	広端面 片側辺					橙	永福寺女瓦B類 黒色粒・白色粒
図10 1面上出土遺物(6)												
169	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					黒灰	永福寺女瓦CorD類 黒色粒・白色粒 歪み大
170	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	狭端面 片側辺					黄橙	永福寺女瓦CorD類
図11 1面上出土遺物(7)												
171	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					灰黒	永福寺女瓦CorD類 黒色粒・白色粒
172	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					暗灰	永福寺女瓦A類 白色粒
173	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.4	玉縁～ 筒部					灰	永福寺男瓦A類 黒色粒・白色粒
174	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.3	筒部					暗灰	永福寺男瓦A類 黒色粒・白色粒
図12 1面上出土遺物(8)												
175	土製品	かわらけ転用 円盤	直径 4.0	—	厚さ 1.2	ほぼ完形					黄橙	
176	石製品	滑石鍋転用 温石	長さ [8.0]	幅 [6.5]	厚さ 1.6	一部欠損					灰黒	
177	石製品	滑石鍋転用 温石	長さ 14.1	幅 9.6	厚さ 2.1	一部欠損					黒灰	一部煤付着
178	石製品	滑石鍋転用 用途不明	長さ [9.0]	幅 [8.2]	厚さ 1.7	不明					灰黒	加工途中か
179	石製品	滑石鍋転用 用途不明	長さ [9.0]	幅 [8.0]	厚さ 1.5	不明						加工途中か
180	石製品	砥石	長さ [6.6]	幅 [5.5]	—	不明					暗灰褐	中砥
181	石製品	砥石	長さ [6.7]	幅 5.5	厚さ 1.6	両端欠損					黄灰	中砥 上野産 穿孔
182	石製品	砥石	長さ [7.9]	幅 4.4	厚さ 1.7	両端欠損					白	中砥 伊予産
183	鉄製品	釘	長さ [4.7]	幅 0.3	厚さ 0.4	下端欠損					—	
184	鉄製品	釘	長さ [4.4]	幅 0.4	厚さ 0.4	下端欠損					—	
185	鉄製品	釘	長さ 6.6	幅 0.2	厚さ 0.3	完形					—	
186	鉄製品	釘	長さ [6.5]	幅 0.4	厚さ 0.5	下部欠損					—	
187	鉄製品	釘	長さ 7.7	幅 0.3	厚さ 0.4	完形					—	
188	鉄製品	釘	長さ [5.5]	幅 0.3	厚さ 0.3	上端欠損					—	
図13 1面上出土遺物(9)												
189	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	開元通寶(真書) 中国唐代 621年初鑄
190	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	開元通寶(真書) 中国唐代 621年初鑄
191	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	開元通寶 中国唐代 621年初鑄
192	銅製品	銭	直径 2.0	孔径 0.6	厚さ 0.1	一部欠損					—	1面土坑012 淳化元寶 中国北宋代 990年初鑄
193	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	咸平元寶(真書) 中国北宋代 998年初鑄
194	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	祥符元寶(真書) 中国北宋代 1009年初鑄
195	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	天禧通寶(真書) 中国北宋代 1017年初鑄
196	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	皇宋通寶(真書) 中国北宋代 1038年初鑄
197	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	皇宋通寶(真書) 中国北宋代 1039年初鑄
198	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	皇宋通寶(篆書) 中国北宋代 1039年初鑄
199	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形					—	皇宋通寶(真書) 中国北宋代 1038年初鑄
200	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	嘉祐通寶(真書) 中国北宋代 1056年初鑄
201	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	治平元寶(真書) 中国北宋代 1064年初鑄

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	外底面圧痕				色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サテ状	板状	スノコ状		
202	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	灑寧元寶(真書) 中国北宋代 1068年初鑄
203	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	元豊通寶(行書) 中国北宋代 1078年初鑄
204	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	元豊通寶(篆書) 中国北宋代 1078年初鑄
205	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	元豊通寶(篆書) 中国北宋代 1078年初鑄
206	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	元祐通寶(篆書) 中国北宋代 1086年初鑄
207	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	元祐通寶(行書) 中国北宋代 1086年初鑄
208	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	元祐通寶(篆書) 中国北宋代 1086年初鑄
209	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	紹聖元寶(真書) 中国北宋代 1094年初鑄
210	銅製品	銭	直径 2.9	孔径 0.12	厚さ 0.6	完形					—	紹聖元寶(行書) 中国北宋代 1094年初鑄
211	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	元符通寶(行書) 中国北宋 1098年初鑄
212	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	大觀通寶 中国北宋代 1107年初鑄
213	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	政和通寶(篆書) 中国北宋代 1111年
214	銅製品	銭	直径 2.1	孔径 0.1	厚さ 0.1	完形					—	政和通寶(分楷) 中国北宋代 1111年
215	銅製品	銭	直径 2.2	孔径 0.4	厚さ 0.1	完形					—	永樂通寶(真書) 中国明代 1408年初鑄
216	銅製品	銭	直径 2.2	孔径 0.5	厚さ 0.1	完形					—	□宋通□(真書)

火鉢（河野 1993- IV C 類）が出土しており、総体として 14 世紀以降の遺物が中心となる。

図 4 下段のかわらけも全てロクロ成形品で、内湾器形のものなど上段より古相の特徴が見て取れる。

図 5 以下は 1 面上包含層の出土遺物である。かわらけはロクロ成形品が占め、内湾基調の個体が主体となる中、小皿では低平な資料が大半を占めており身深器形の個体は僅少である。大皿は口径 11 cm 台後半～12 cm 台のものが中心で確実な中型品の存在は認められない。舶載品以下の陶磁器類は小片資料が大部分を占め、大宰府分類の龍泉窯系青磁碗Ⅱ・Ⅲ類（蓮弁文碗）や、白磁碗・皿Ⅸ類（口禿碗・皿）が中心となる。国産陶器類のうち、瀬戸製品は断片的な資料のみで年代の特定が難しいが、常滑産の甕は 5～6b 型式で占められている。瓦質火鉢は河野分類のⅠ・Ⅱ類が占め、瓦は永福寺Ⅱ期以降の製品が含まれる。総体としては 13 世紀後半～14 世紀前半という、鎌倉で最も質・量的に厚みを増す時期の遺物構成であることが指摘できよう。

第 2 節 1 面の遺構と遺物

1 面の検出遺構（図 14～19）

1 面は標高 12.0～12.2 m 前後で検出され、図 14 に遺構全体図を示した。西半部（地点Ⅰ）では全域で土坑およびピットが検出されたが、明確な柱並びは確認できていない。東半部（地点Ⅱ）では南北に延びる道路状遺構 1 条と溝 2 条、これに並行するピット列 3 列などを確認した。道路状遺構は N16° E と、現行の荏柄天神社参道と概ね同方向で延びる。幅は約 4 m を測り、調査区外に続く中、5.8 m の長さを確認した。東西両側辺には幅 40cm、深さ 30cm ほどの小規模な溝が取り付く（溝 01・02）。ピット列は道路状遺構の東側で 1 列（列 2）、西側で 2 列（列 1・3）を確認し、列 3 が列 1 を切って構築されていた。列 1 は溝 01 の肩を切っており、列 3 が溝 01 の西に、列 2 が溝 02 の東方に各々 20～30cm 離れて展開していたことから、列 2・3 は同時期に存在していた可能性がある。各列とも 100～120 cm 間隔で並ぶ

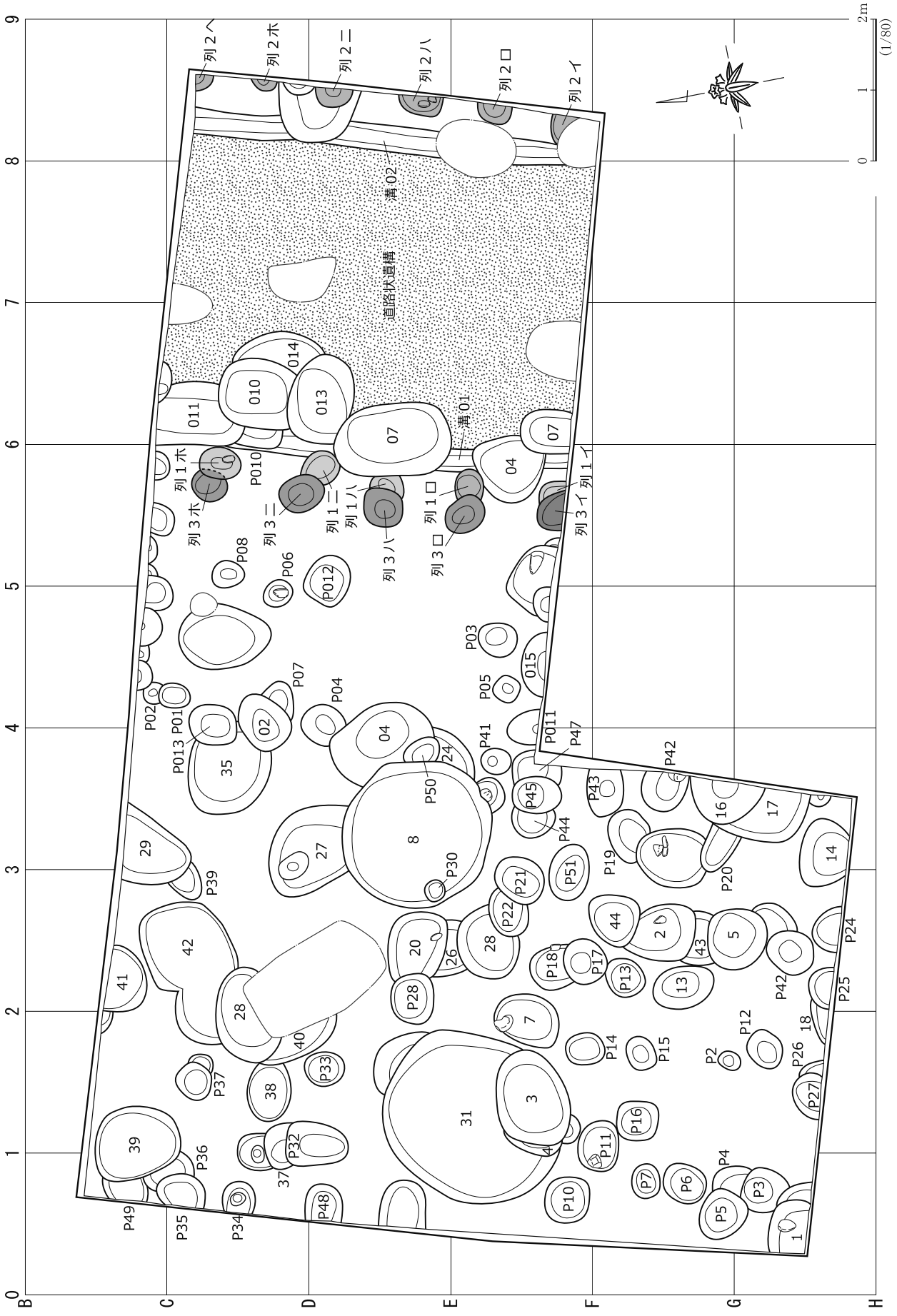
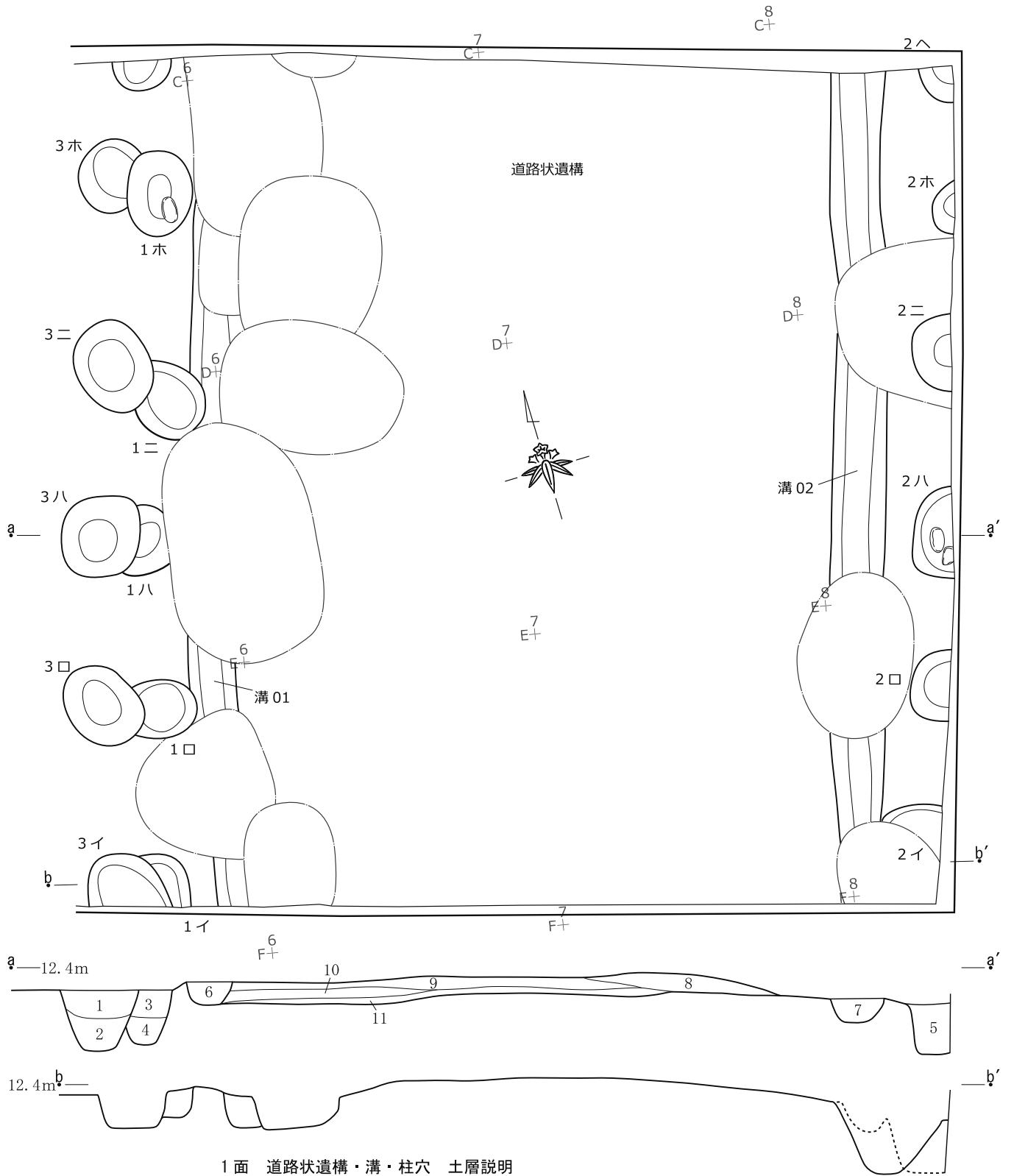


图 14 1 面全体图



1面 道路状遺構・溝・柱穴 土層説明

P3-ハ	1	褐色土	粘質土。泥岩ブロック多量、炭粒ごく少量。縮まりあり。
	2	褐色土	粘質土。泥岩粒やや多く炭粒ごく少量。縮まりややあり。
P1-ハ	3	褐色土	粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりややあり。
	4	褐色土	粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。縮まりややあり。
P2-ハ	5	褐色土	粘質土。泥岩ブロックやや多く炭粒少量。縮まりなし。
溝01	6	褐色土	粘質土。泥岩粒少量。縮まりなし。
溝02	7	褐色土	粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりなし。
道路状遺構	8	褐色土	粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりなし。
	9	褐色土	泥岩ブロックによる整地層。縮まり強い。
	10	灰褐色土	砂質土。泥岩粒ごく少量、小礫混入。縮まりややあり。
	11	褐色土	粘質土。泥岩粒多量。縮まりあり。

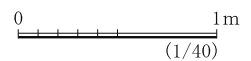
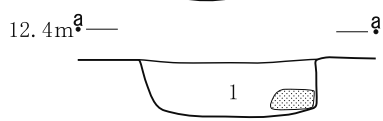
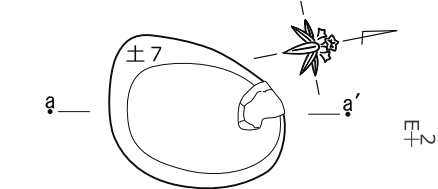
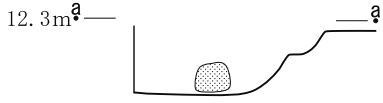
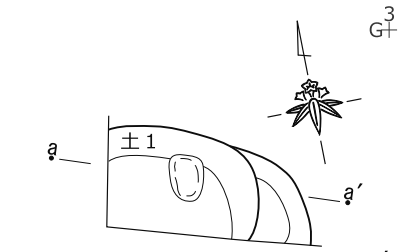
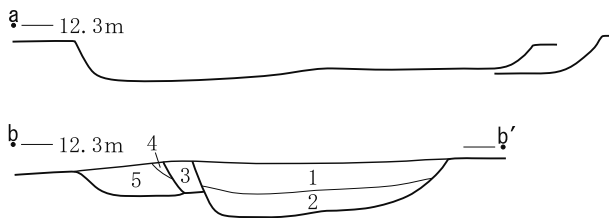
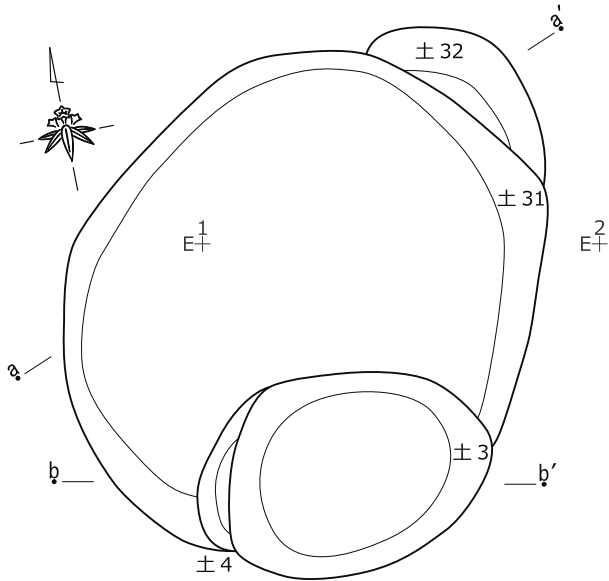


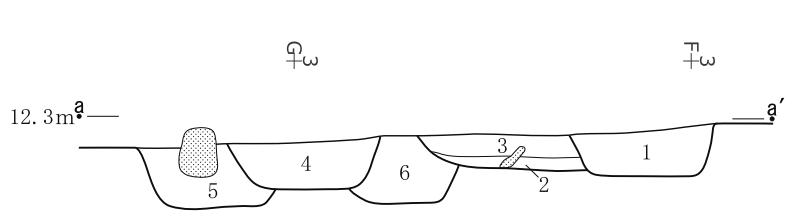
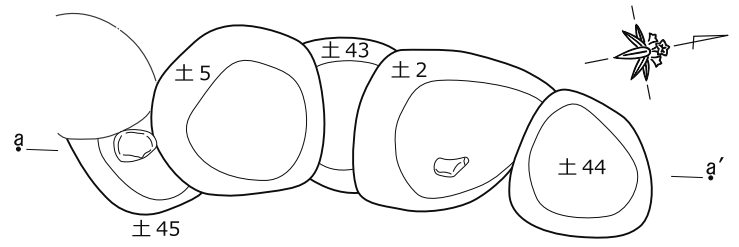
図15 1面 溝01・02、柱穴列1～3



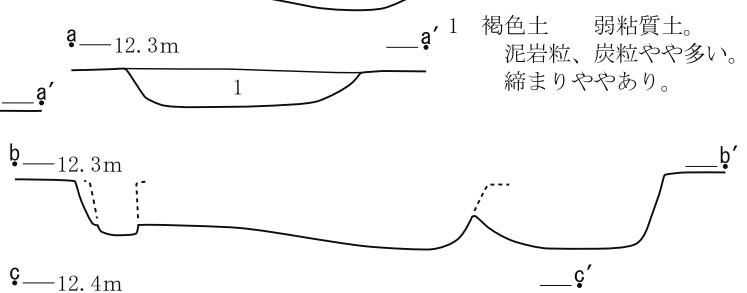
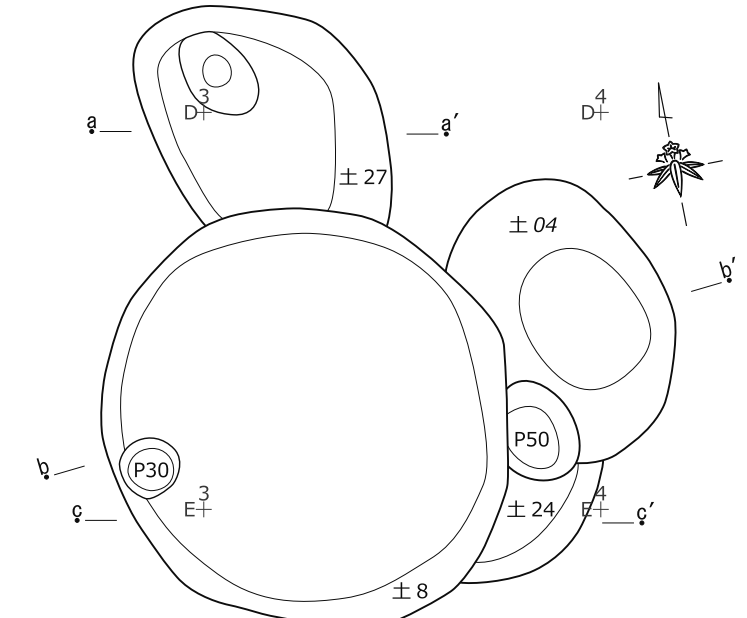
1 褐色土 砂質土。泥岩粒ブロック多量。縮まりなし。



- 土坑 3
- 1 褐色土 砂質土。泥岩ブロック多量。縮まりなし。
 - 2 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒やや多い。縮まりなし。
- 土坑 04
- 3 褐色土 砂質土。泥岩ブロック多量、炭粒やや多い。縮まりなし。
- 土坑 31
- 4 褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりなし。
 - 5 明褐色土 砂粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒少量。縮まりなし。



- 土坑 44
- 1 暗褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒やや多い。縮まりややあり。
- 土坑 2
- 2 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。
 - 3 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量。縮まりなし。
- 土坑 4
- 4 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量。縮まりなし。
- 土坑 45
- 5 褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。
- 土坑 46
- 6 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。縮まりなし。



- 土坑 8
- 1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。
 - 2 褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりややあり。
 - 3 褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック多量、炭粒やや多い。
 - 4 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量。縮まりややあり。
- 土坑 24
- 5 明褐色土 砂粘質土。泥岩粒、炭粒やや多い。縮まりなし。

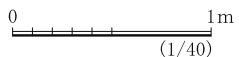
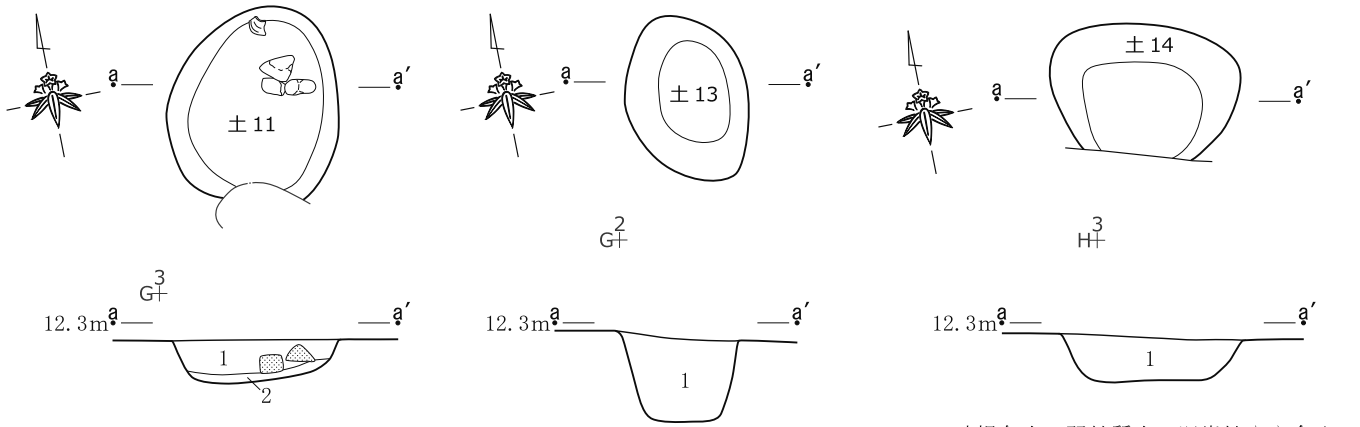


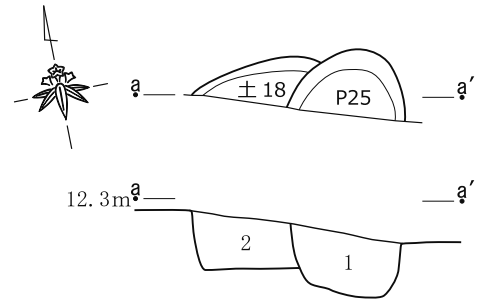
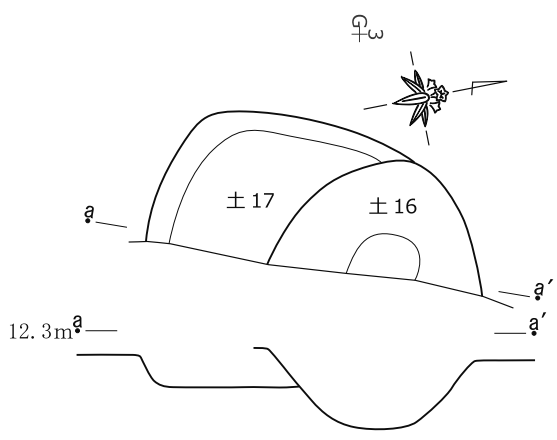
図 16 1面 土坑 (1)



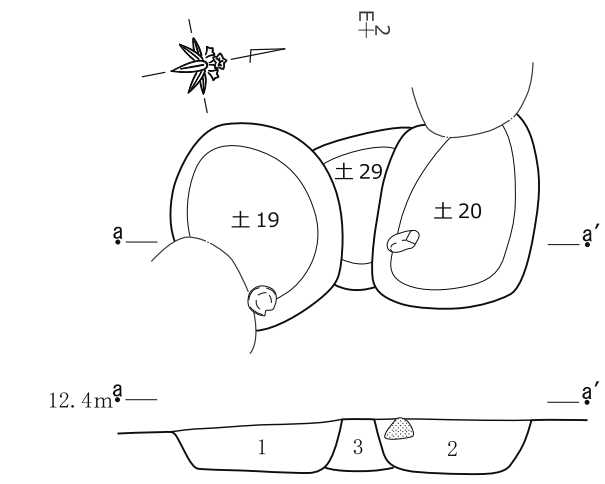
1 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。
 2 褐色土 粘質土。泥岩粒多量。縮まりなし。

1 褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック多量。縮まりなし。

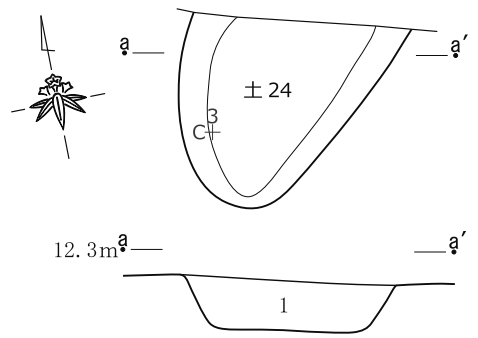
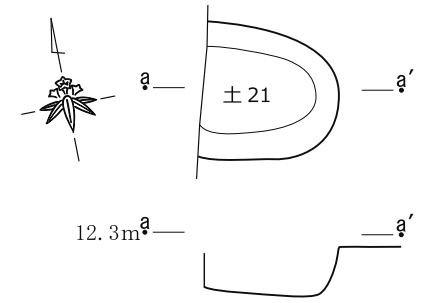
1 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒多量。縮まりなし。



Pit25 1 褐色土 粘質土。泥岩粒ブロック多量。縮まりなし。
 土坑 18 2 褐色土 粘質土。泥岩粒ブロックやや多い。縮まりややあり。



土坑 19 1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒やや多い。縮まりなし。
 土坑 20 2 褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりなし。
 土坑 26 3 褐色土 弱粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒少量。縮まりなし。



1 明褐色土 砂質土。拳大の泥岩ブロック、褐鉄粒多量。炭粒少量。縮まりややあり。

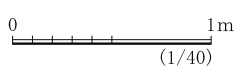
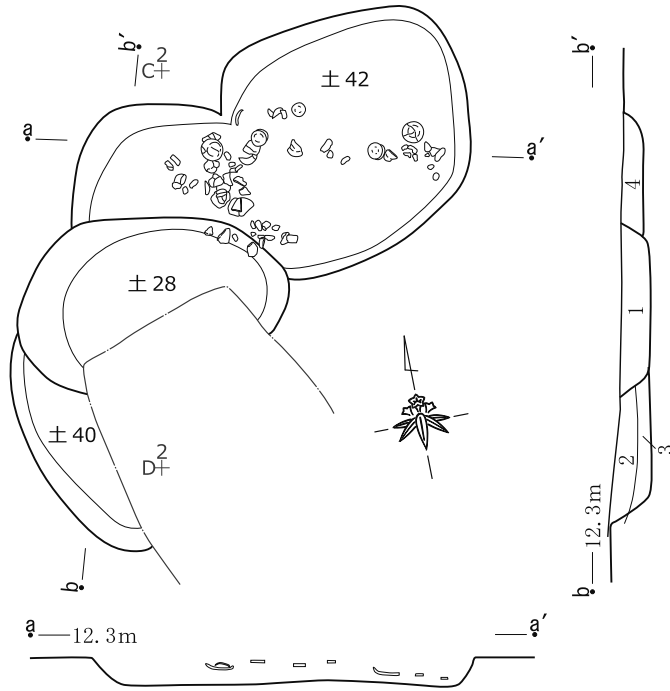
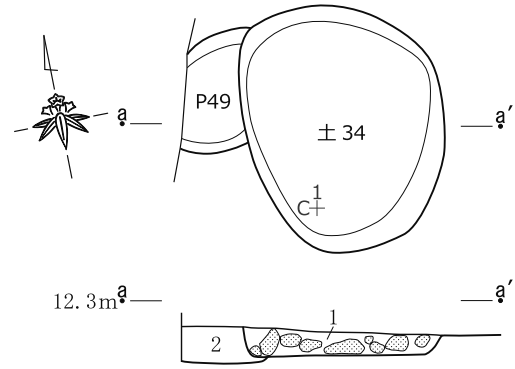


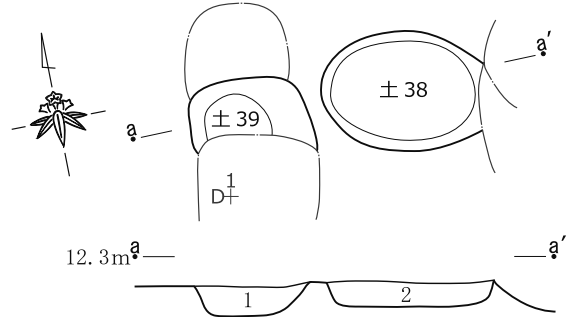
図 17 1面 土坑 (2)



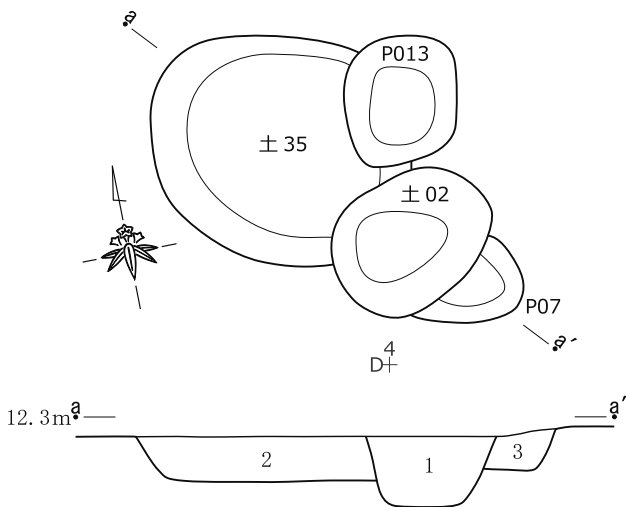
- 土坑 28 1 明褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりややあり。
 土坑 40 2 明褐色土 砂質土。泥岩粒やや多い。縮まりなし。
 土坑 40 3 褐色土 弱粘質土。泥岩粒やや多い。縮まりなし。
 土坑 42 4 暗褐色土 砂質土。炭粒多量。縮まりなし。



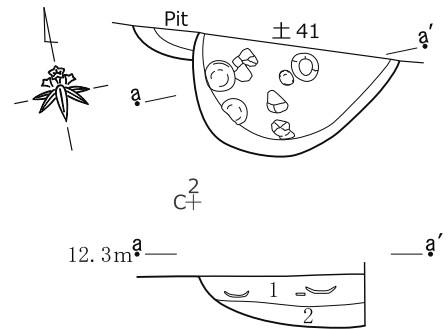
- 土坑 34 1 褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量、砂岩ブロック、炭粒少量。縮まりややあり。
 Pit49 2 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。縮まりややあり。



- 土坑 39 1 褐色土 粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒微量。縮まりなし。
 土坑 38 2 褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりなし。



- 土坑 02 1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒少量。縮まりなし。
 土坑 035 2 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。縮まりなし。
 Pit07 3 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。縮まりなし。



- 1 暗褐色土 砂質土。炭粒多量。縮まりなし。
 2 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。

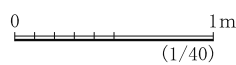


図 18 1面 土坑 (3)

ものの広狭一定していない箇所もある。こうした中、列2・3は概ね対極の位置にあり、一定の計画性
 の元に構築されたものと見なせる。列2以東の空間構成は調査範囲外のため不明であるが、現時点では
 道路の両脇に板塀などの簡易な遮蔽施設が構築されていたものと理解したい。各ピットの深さは40cm

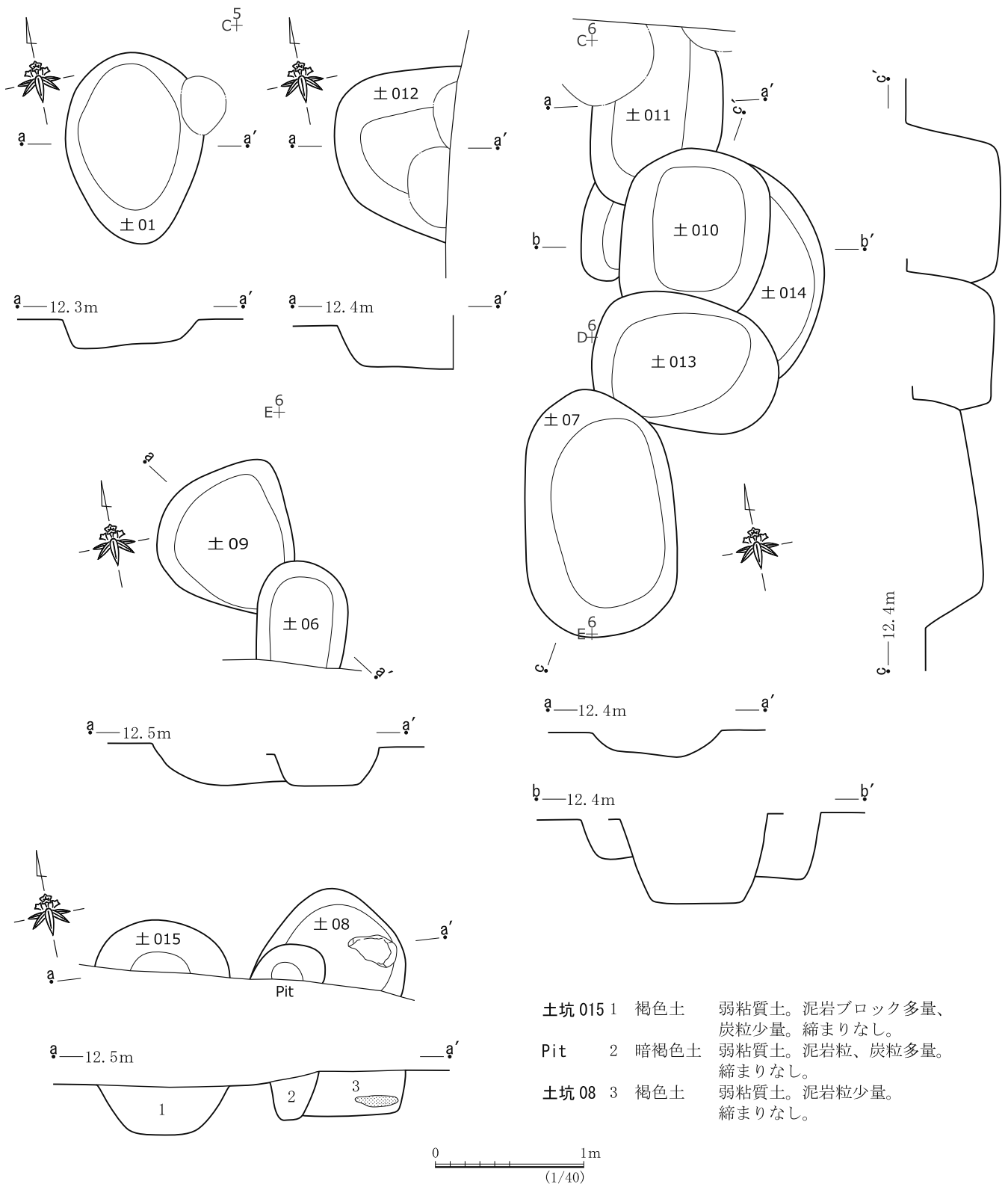


図 19 1面 土坑 (4)

前後で、埋土は褐色粘質土を基調とする (図 15)。

図 16 ~ 19 には 1面 で検出された土坑の個別図面を掲載した。底面が広く浅い断面皿形のものが多く、直径 2 m を超える円形プランを呈するものも見られた。土坑については、用途を限定できるものはない。各遺構の形状・サイズ・埋土などは各図を参照されたい。

1面遺構の出土遺物 (図 20 ~ 35、表 3)

図 20 ~ 35 には 1面遺構からの出土遺物を掲載した。個々の特徴については図面と遺物観察表 (表 3) を参照されたい。遺物全体の様相としては 1面上包含層と近似した様相を呈し、かわらけは大皿・小皿

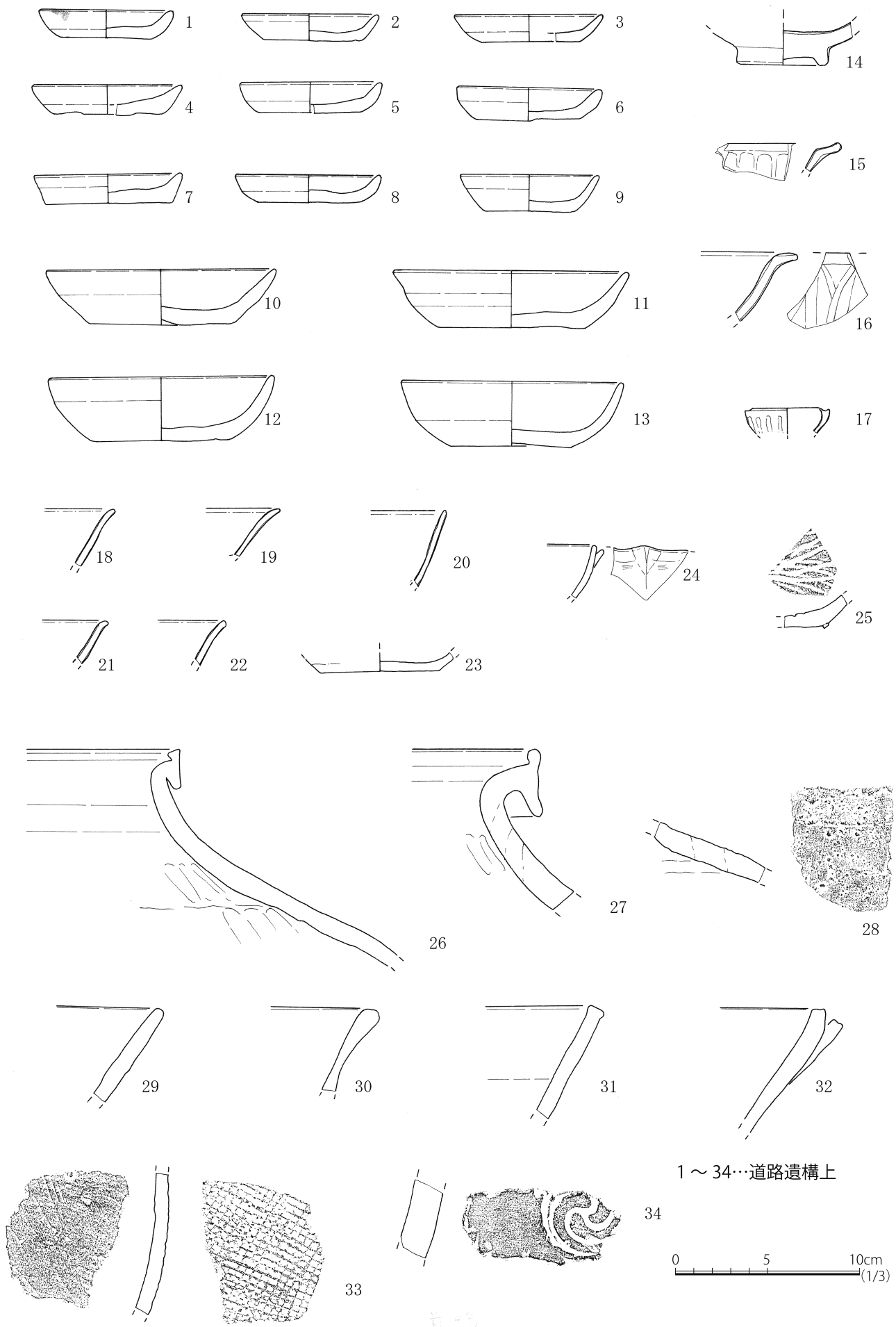
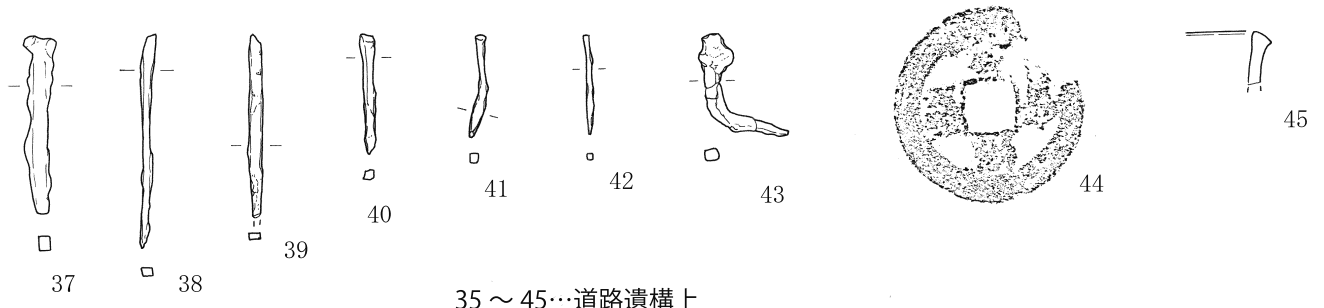
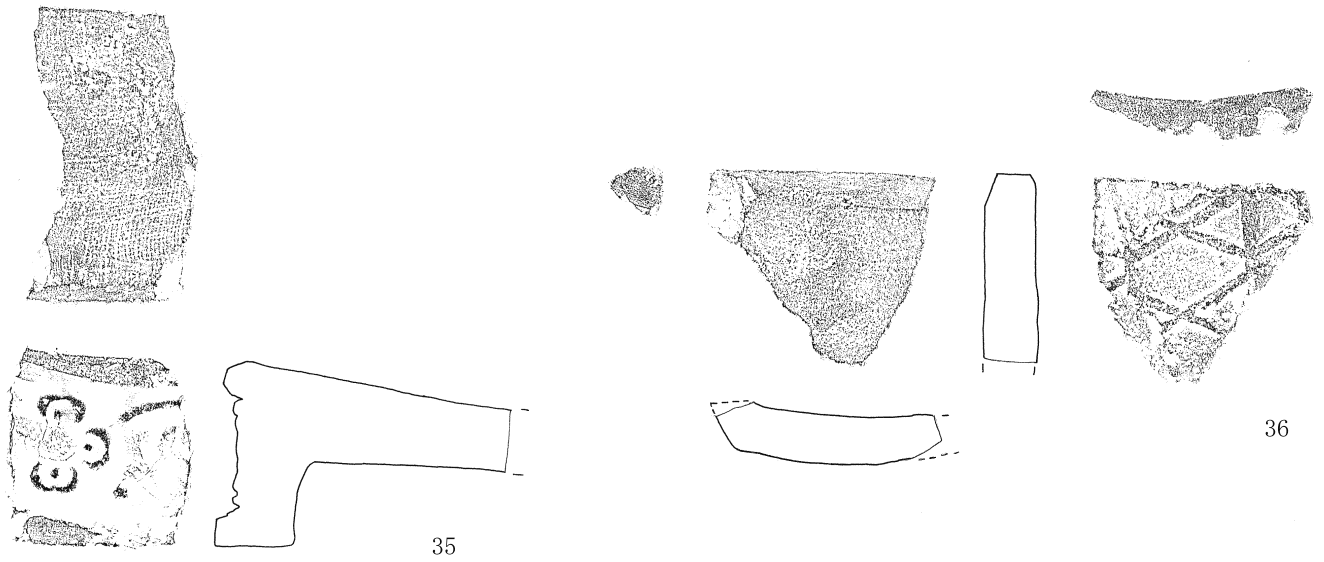
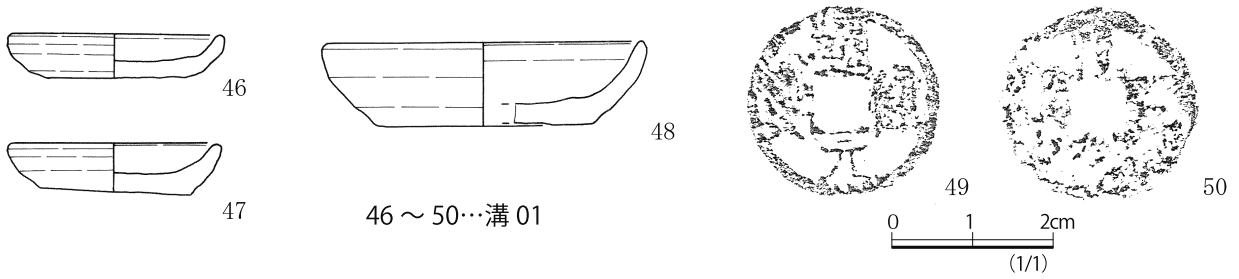


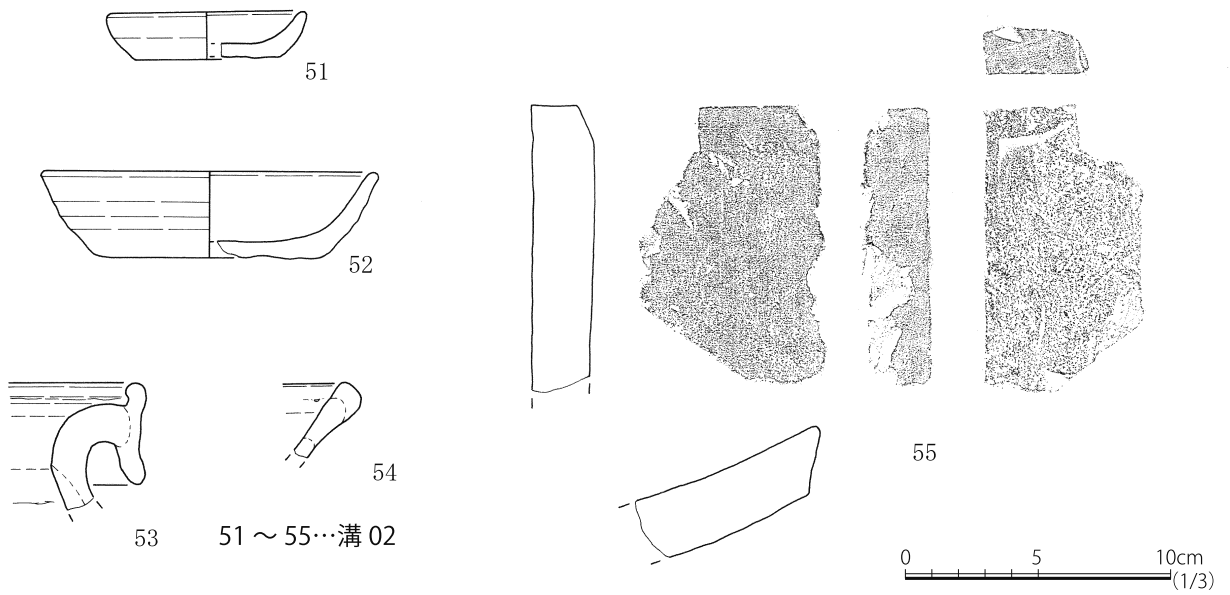
图 20 1 面遺構出土遺物 (1)



35 ~ 45...道路遺構上

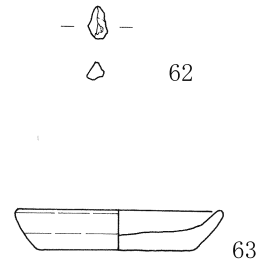
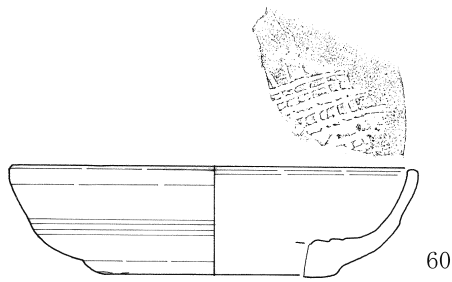


46 ~ 50...溝 01



51 ~ 55...溝 02

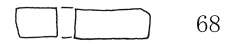
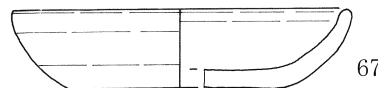
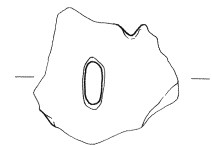
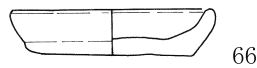
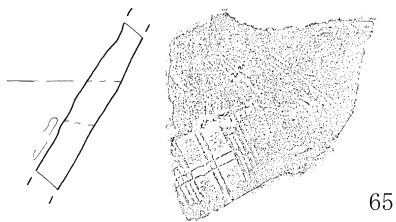
图 21 1 面遺構出土遺物 (2)



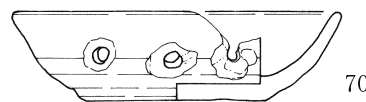
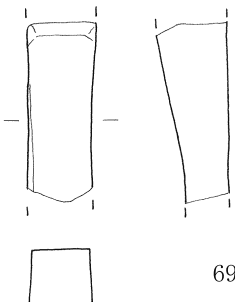
56～62…ピット列1



64



63～67…ピット列2



68～70…ピット列3

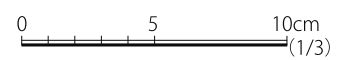


図22 1面遺構出土遺物(3)

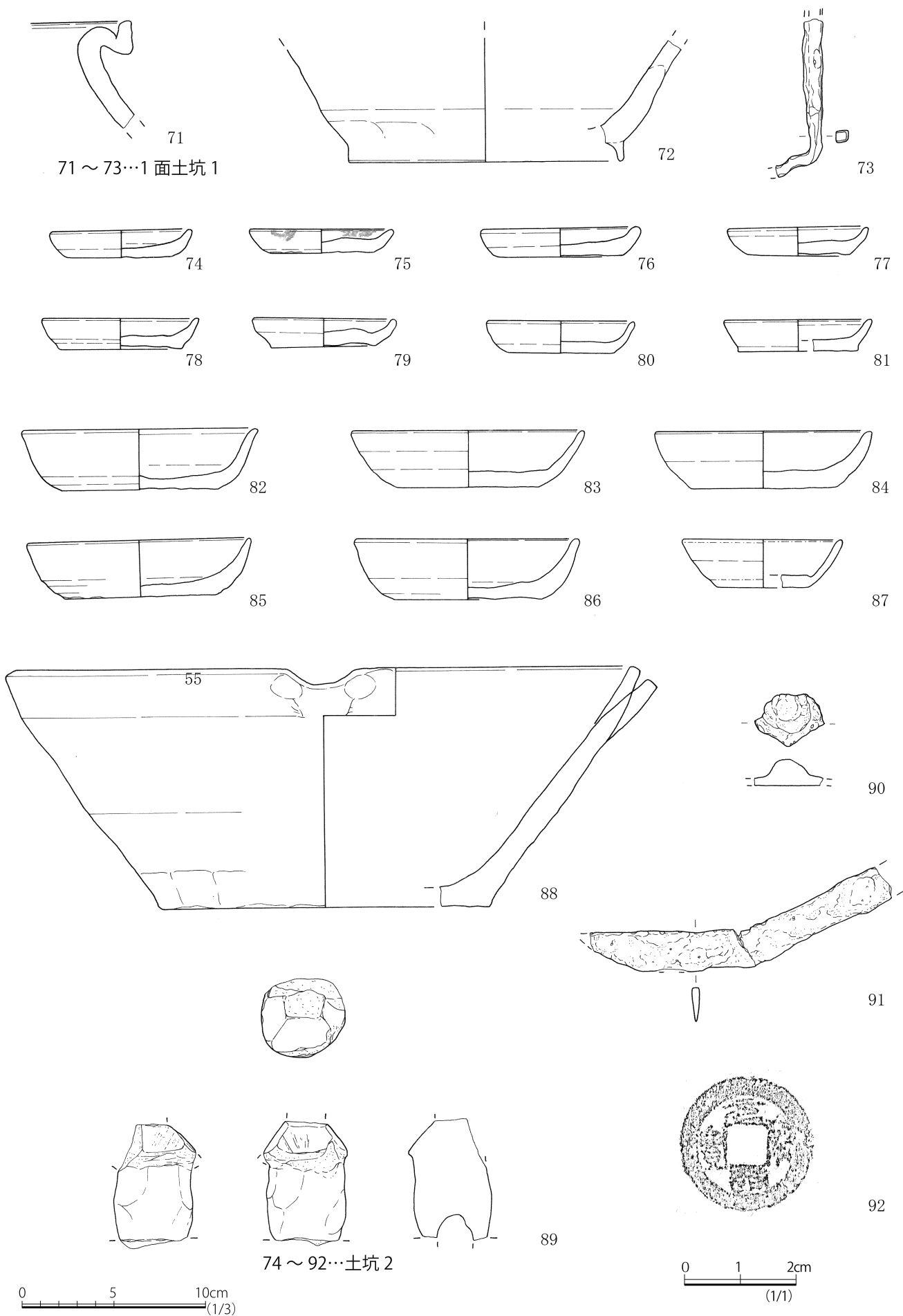
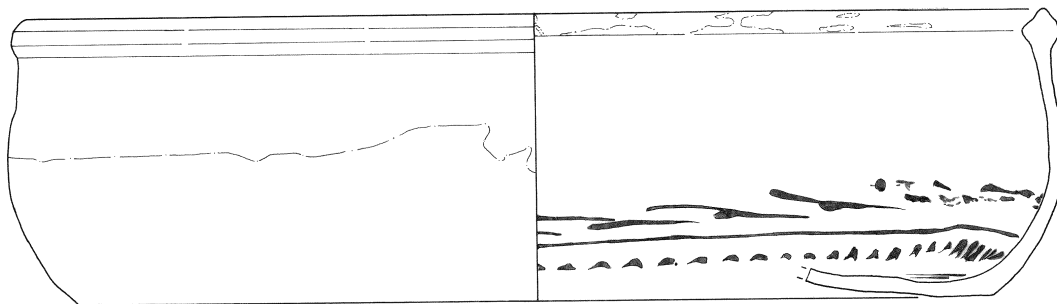
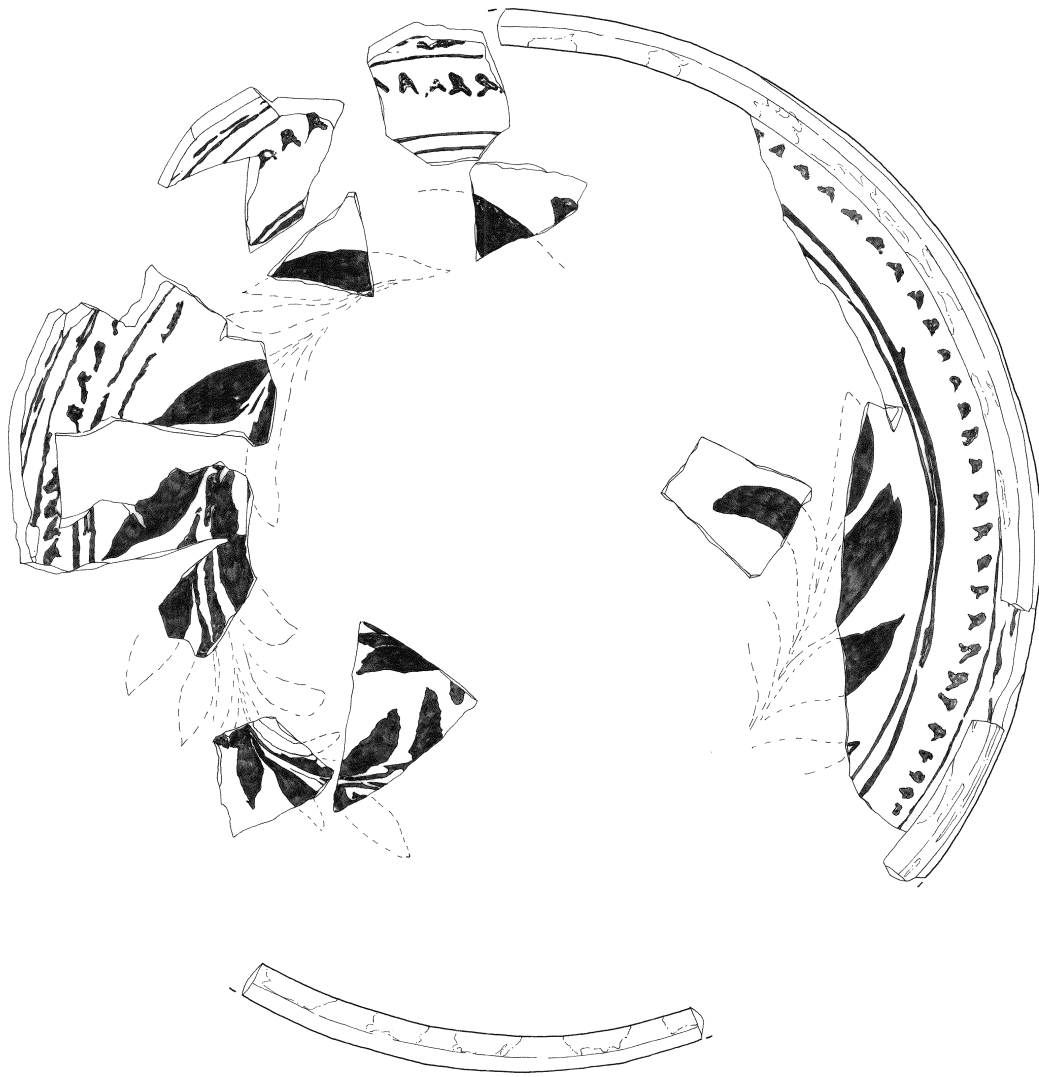


图 23 1 面遺構出土遺物 (4)



93

93…土坑 2

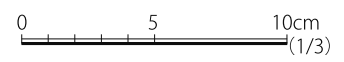


图 24 1 面遺構出土遺物 (5)

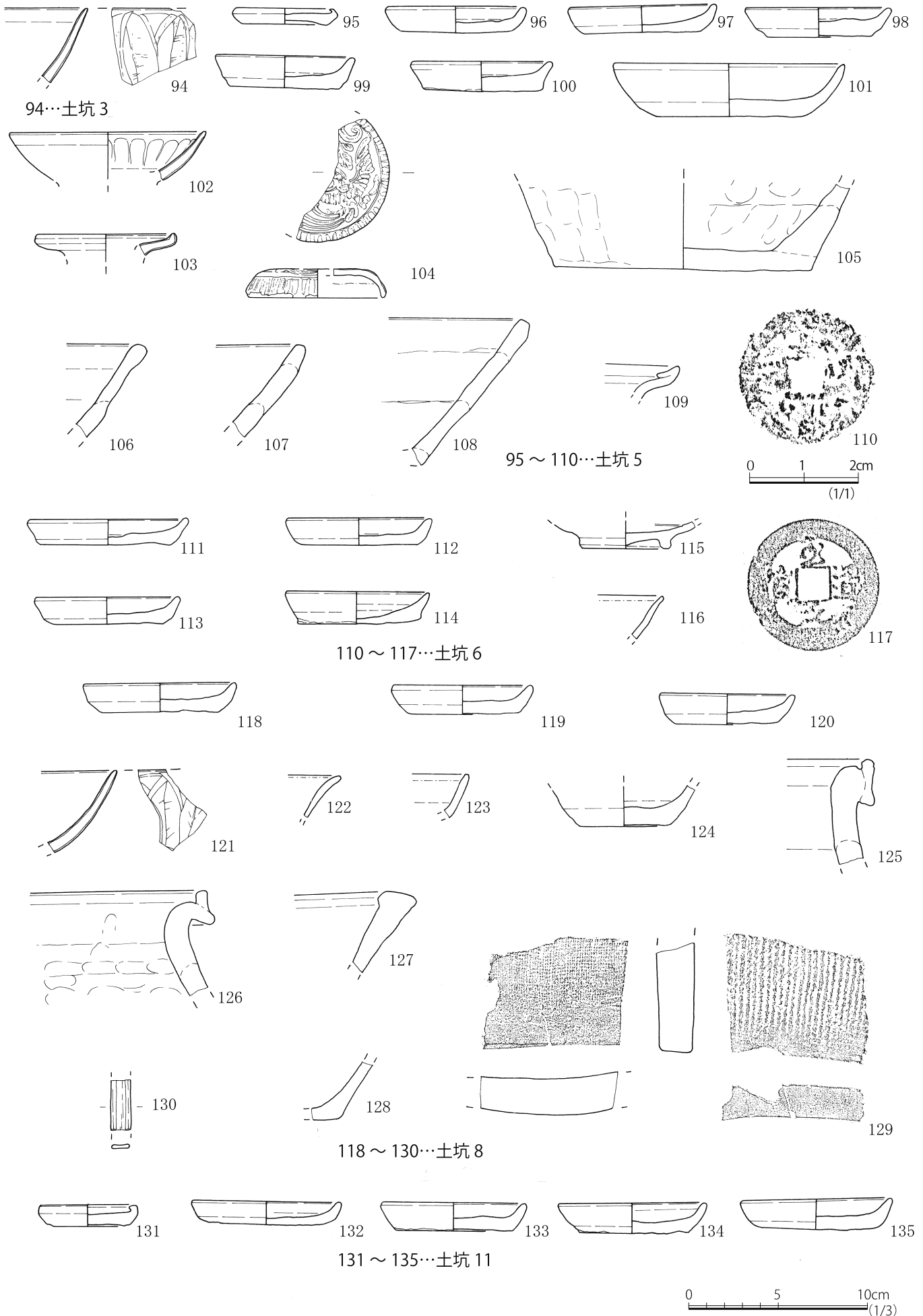
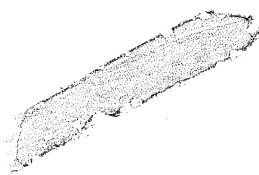
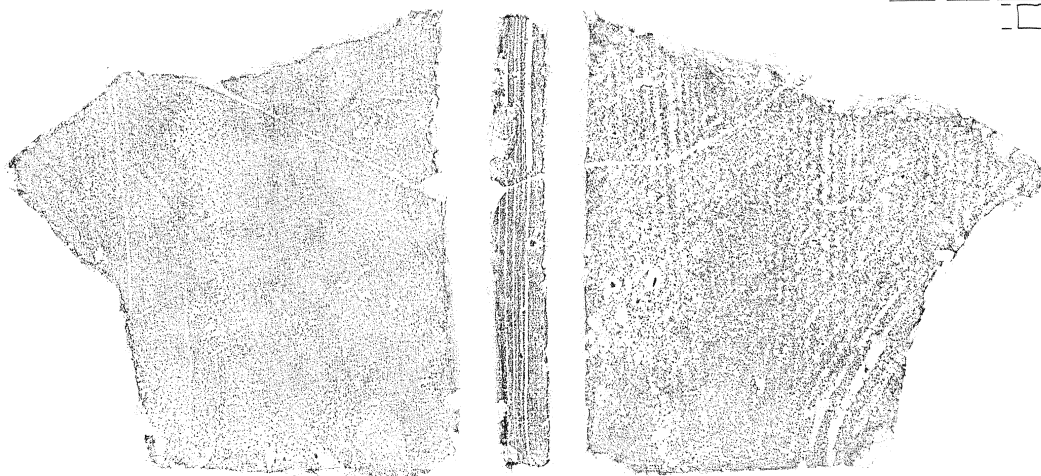
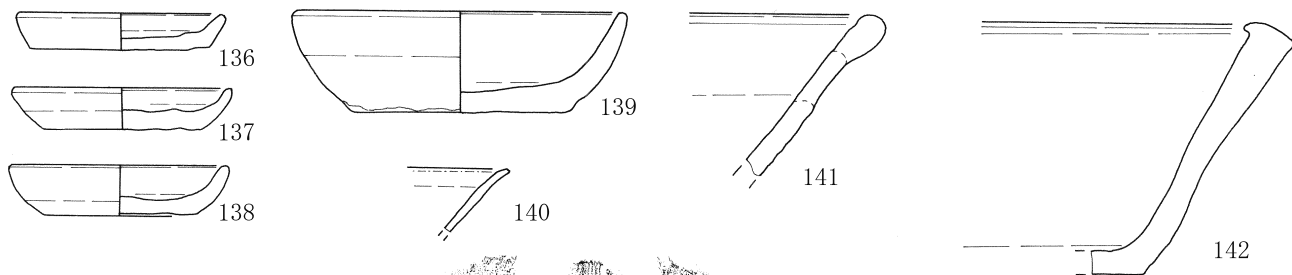
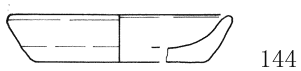


图 25 1 面遺構出土遺物 (6)

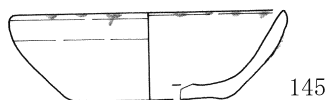
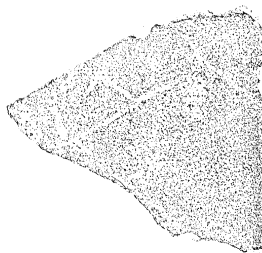


143

136 ~ 143...土坑 12



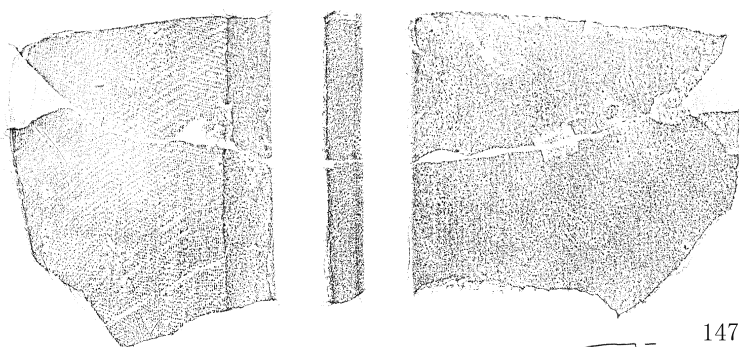
144



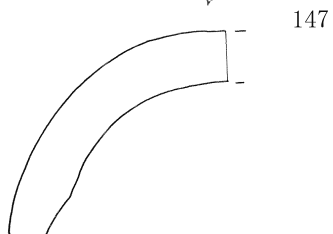
145



146



144 ~ 147 土坑 13



147

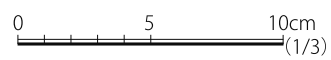


图 26 1 面遺構出土遺物 (7)

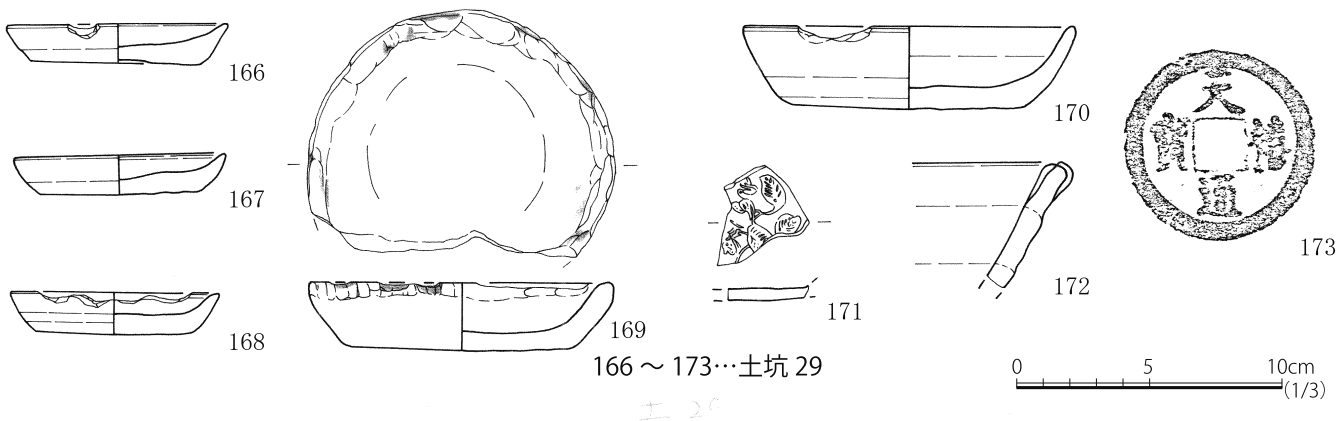
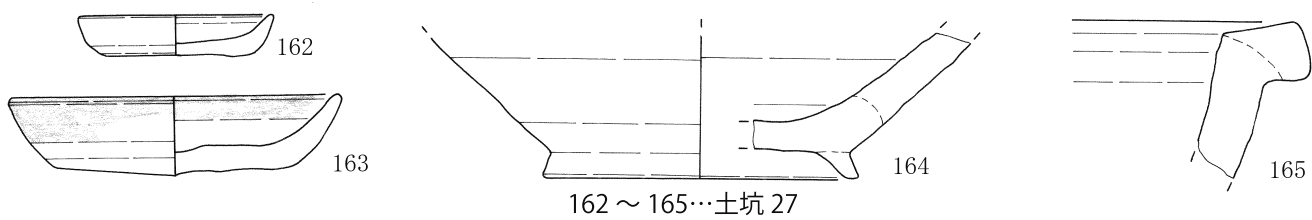
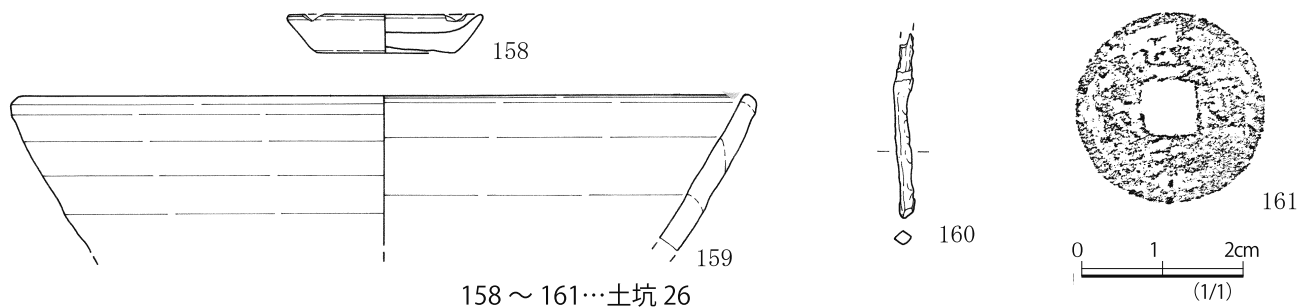
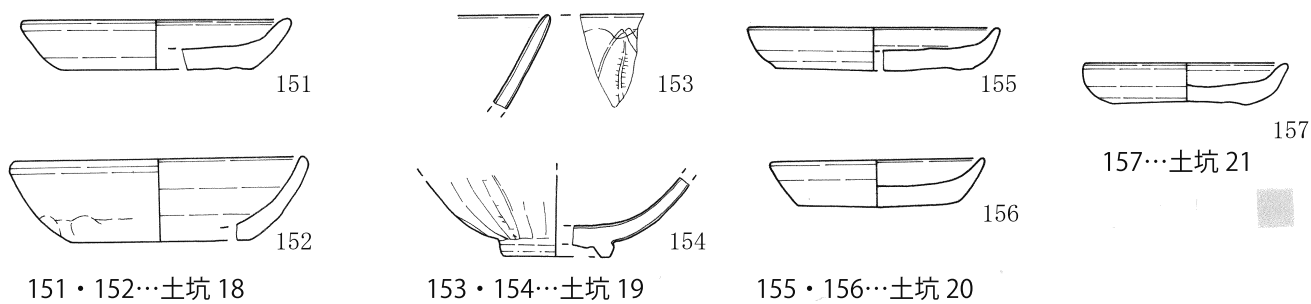
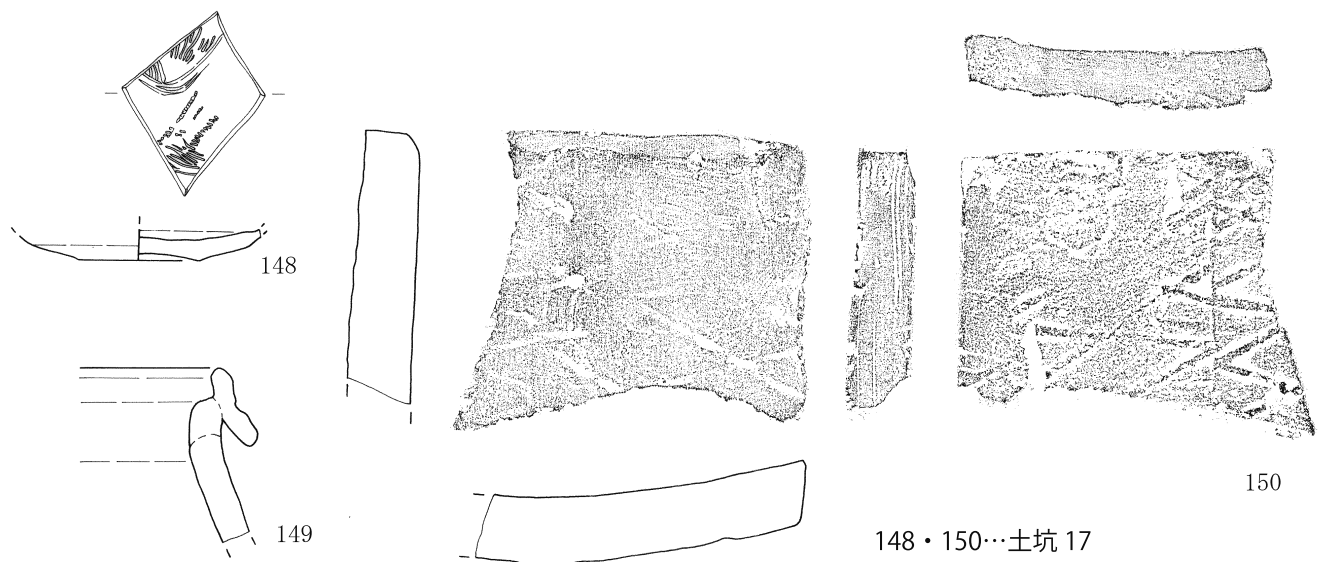


图 27 1 面遺構出土遺物 (8)

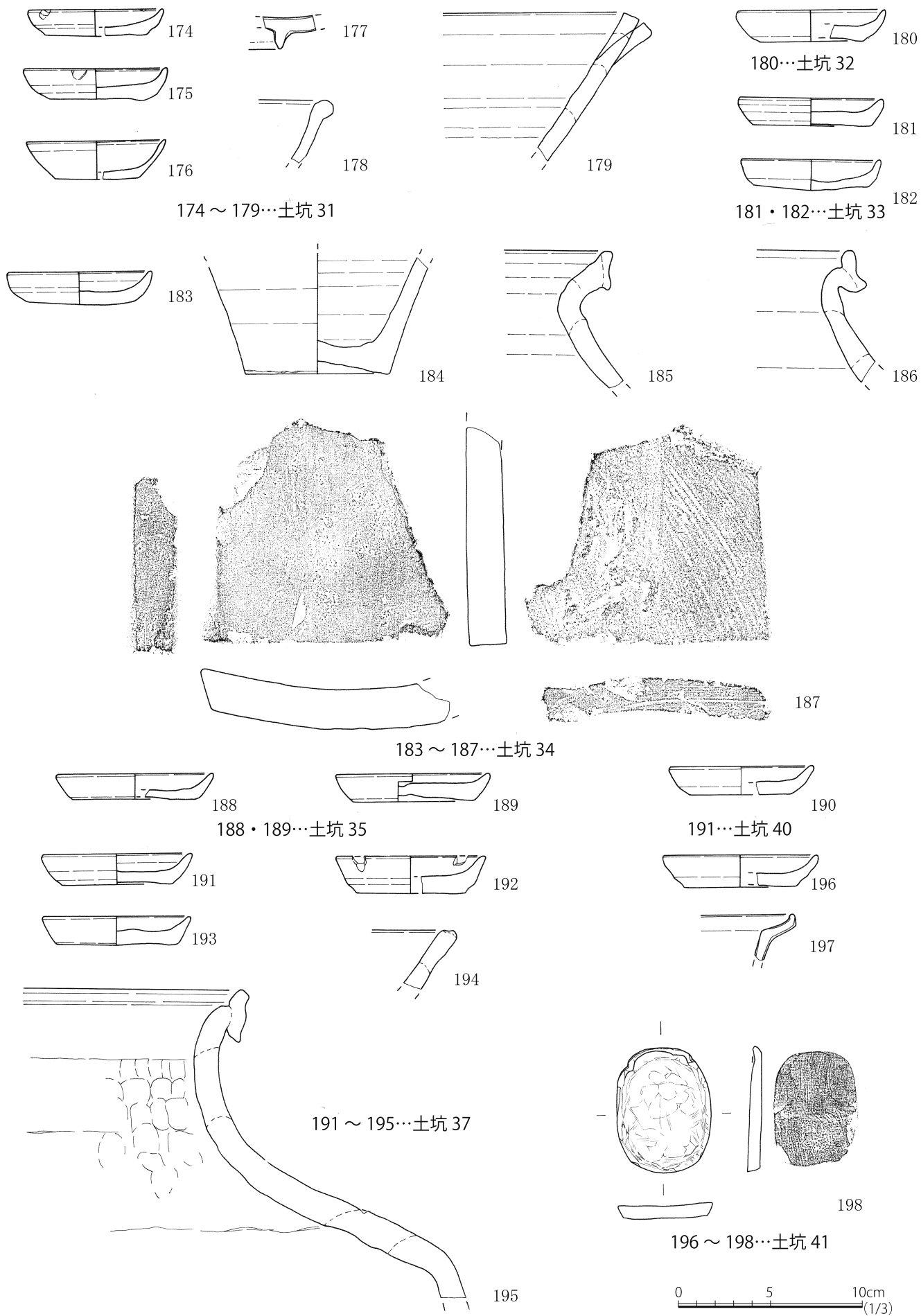


图 28 1 面遺構出土遺物 (9)

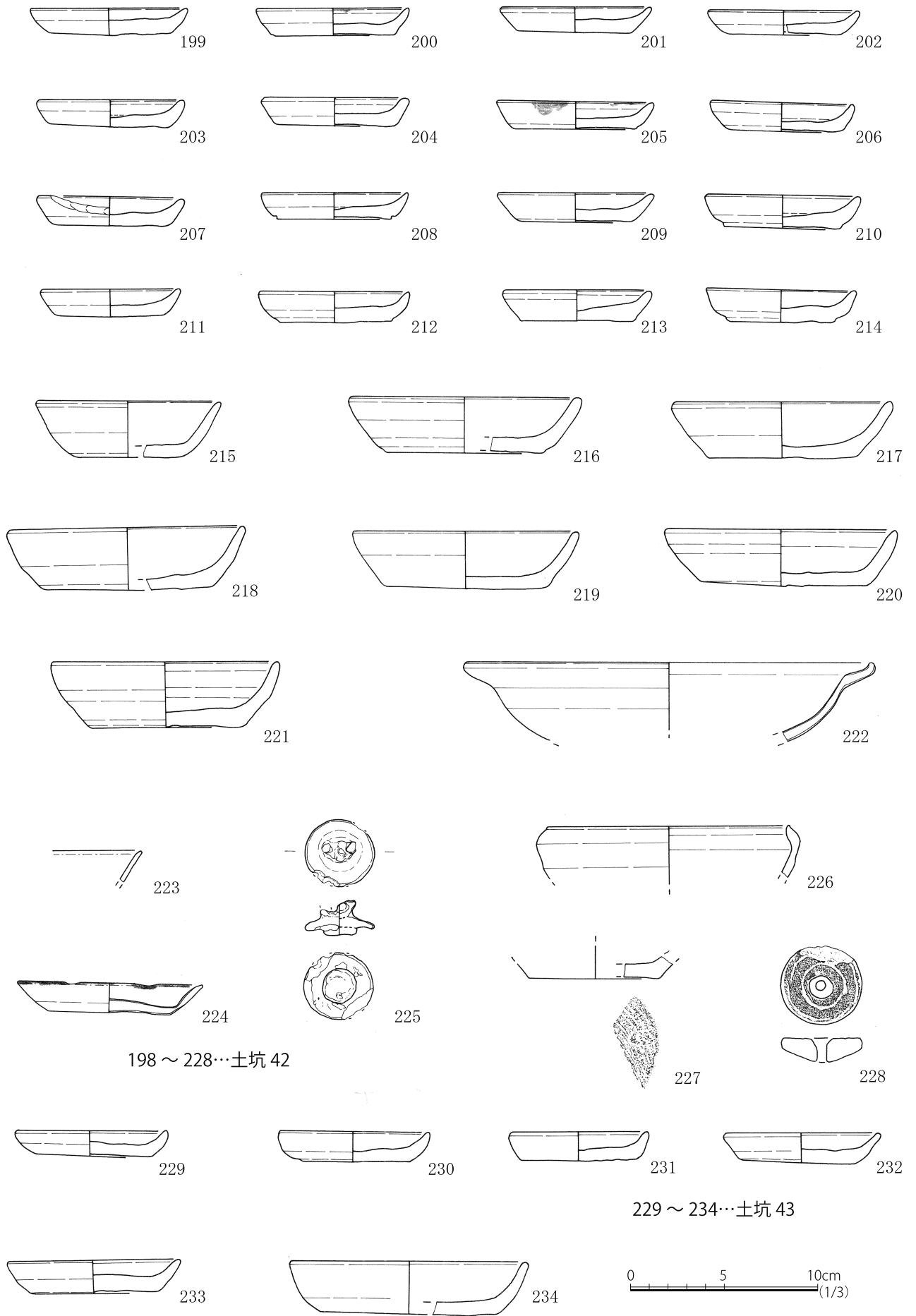


图 29 1 面遺構出土遺物 (10)

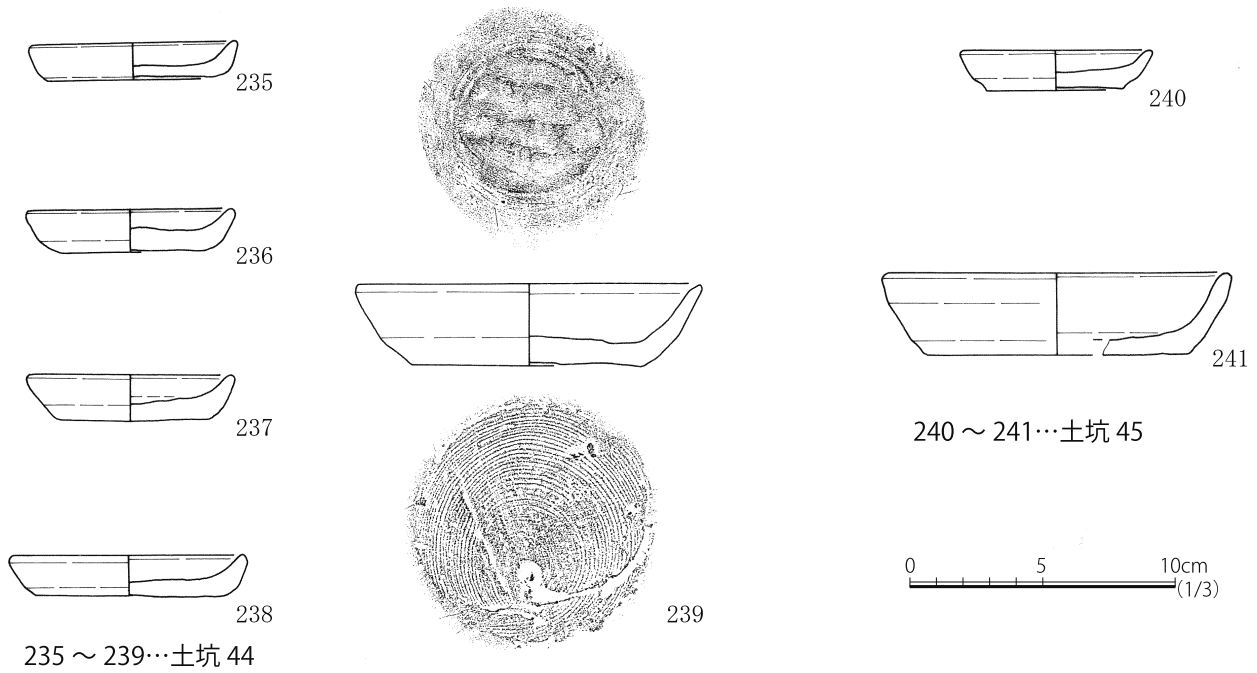


図 30 1面遺構出土遺物 (11)

表 3 1面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	サワラ状	板状	スコ状		
1	土器	ロクロかわらけ・小	(7.2)	(5.2)	1.5	1/3	○		○		黄橙	1面道路遺構上白針 口縁部煤付着
2	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	5.4	1.4	完形	○		○		黄灰	1面道路遺構上白針
3	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(5.4)	1.5	1/4	○		○		橙	1面道路遺構上白針
4	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.6	1/4	○		○		黄橙	1面道路遺構上白針
5	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(5.8)	1.6	1/3	○		○		橙	1面道路遺構上白針
6	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.9	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面道路遺構上白針
7	土器	ロクロかわらけ・大	(8.0)	(7.0)	1.6	1/2	○		○		黄橙	1面道路遺構上白針
8	土器	ロクロかわらけ・小	7.8	5.7	1.5	3/4	○		○		黄橙	1面道路遺構上白針
9	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(5.0)	2.0	1/3	○		○		黄橙	1面道路遺構上白針
10	土器	ロクロかわらけ・小	(12.4)	(8.0)	3.1	1/6	○		○		黄橙	1面道路遺構上白針
11	土器	ロクロかわらけ・大	(12.7)	(8.0)	3.1	口小～1/2底小	○		○		黄橙	1面道路遺構上白針
12	土器	ロクロかわらけ・大	(12.2)	(7.8)	3.5	1/3	○		○		黄橙	1面道路遺構上白針
13	土器	ロクロかわらけ・大	(12.1)	(6.6)	3.5	1/3	○		○		橙	1面道路遺構上白針
14	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	(4.6)	[2.4]	底ほぼ完存					緑灰不透明	1面道路遺構上大宰府I類
15	磁器	龍泉窯系青磁折縁皿	—	—	[1.6]	口小片					青灰半透明	1面道路遺構上大宰府坏III-3 b類
16	磁器	龍泉窯系青磁折縁鉢	—	—	[3.7]	口小片					緑灰透明	1面道路遺構上大宰府坏III-4類
17	磁器	青白磁合子身	(3.7)	—	[1.4]	1/3					水青透明	1面道路遺構上
18	磁器	白磁口禿皿	—	—	[3.1]	口小片					乳白透明	1面道路遺構上大宰府IX類
19	磁器	白磁口禿皿	—	—	[2.6]	口小片					淡青白透明	1面道路遺構上大宰府IX類
20	磁器	白磁口禿皿	—	—	[4.1]	口小片					乳白透明	1面道路遺構上大宰府IX類
21	磁器	白磁口禿皿	—	—	[2.3]	口小片					乳白透明	1面道路遺構上大宰府IX類
22	磁器	白磁口禿皿	—	—	[2.4]	口小片					乳白透明	1面道路遺構上大宰府IX類

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サヲ状	板状	スコ状		
23	磁器	白磁 口禿皿	—	(6.4)	[1.0]	底 1/4					淡青灰 透明	1面道路遺構上 大宰府IX類
24	陶器	瀬戸 入子	—	—	[2.9]	口小片					灰	1面道路遺構上 輪花形
25	陶器	尾張型 特殊山茶碗	—	—	[1.8]	底小片					暗茶褐	1面道路遺構上 内面にヘラによる線刻
26	陶器	常滑 甕	—	—	[11.8]	口小～ 胴片					茶褐	1面道路遺構上 6型式 長石
27	陶器	常滑 甕	—	—	[8.6]	口小～ 胴片					暗茶褐	1面道路遺構上 6型式 長石
28	陶器	常滑 甕	—	—	—	口小～ 胴片					暗褐	1面道路遺構上 長石
29	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[5.2]	口小～ 体片					茶褐	1面道路遺構上 長石
30	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[4.5]	口小～ 体片					灰	1面道路遺構上 長石
31	陶器	常滑 片口鉢II類	—	—	[6.1]	口小～ 体片					暗茶褐	1面道路遺構上 長石
32	陶器	常滑 片口鉢II類	—	—	[6.8]	口小～ 体片					橙	1面道路遺構上 長石
33	陶器	東播系 甕	—	—	—	胴片					灰	1面道路遺構上
34	瓦質土器	火鉢	—	—	—	体片					灰橙	1面道路遺構上 体部外面に巴文の押印

図21 1面遺構出土遺物(2)

35	瓦	軒平瓦	瓦当幅 7.0	内区幅 4.0	顎面幅 3.0	瓦当部					灰	1面道路遺構上 永福寺I01f 上外区幅1.5 下外区幅1.0 唐草文
36	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	狭端面 片側辺					灰	1面道路遺構上 永福寺女瓦D類
37	鉄製品	釘	長さ 6.6	幅 0.4	厚さ 0.5	完形					—	1面道路遺構上
38	鉄製品	釘	長さ 8.1	幅 0.4	厚さ 0.3	完形					—	1面道路遺構上
39	鉄製品	釘	長さ (6.9)	幅 0.5	厚さ 0.3	下端欠損					—	
40	鉄製品	釘	長さ 4.5	幅 0.4	厚さ 0.4	完形					—	
41	鉄製品	釘	長さ 3.9	幅 0.4	厚さ 0.4	完形					—	
42	鉄製品	釘	長さ 3.7	幅 0.4	厚さ 0.4	完形					—	
43	鉄製品	釘	長さ 5.7	幅 0.5	厚さ 0.5	完形					—	
44	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	一部欠損					—	1面道路遺構上 紹聖元寶 中国北宋代 1094年初鑄
45	陶器	須恵器 壺	—	—	[1.9]	口小片					暗灰	1面道路遺構上
46	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.3)	1.6	1/3	○		○		黄橙	1面溝01 雲母
47	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.9	2/3	○		○		黄灰	1面溝01 白針 内外面一部黒色に変色
48	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.4)	3.1	1/3	○		○		黄橙	1面溝01 白針
49	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	1面溝01 開元通寶 中国唐代 621年初鑄
50	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.2	完形					—	1面溝01 銭銘不明
51	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(5.4)	1.7	1/4	○		○		橙	1面溝02 白針 内面煤付着
52	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(8.8)	3.3	1/3	○		○		橙	1面溝02 白針
53	陶器	常滑 甕	—	—	[4.8]	口小～ 胴片					暗褐	1面溝02
54	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[2.8]	口小片					灰	1面溝02 白色粒
55	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.4	狭端面 片側辺					灰	1面溝02 永福寺女瓦D類

図22 1面遺構出土遺物(3)

56	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.0)	1.6	1/6	○		○		黄灰	1面P01-イ 白針 外面黒色に変色
57	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.5	1/6	○				黄橙	1面P01-ロ 白針、砂質
58	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.0)	1.7	1/4	○		○		黄橙	1面P01-ロ 白針、砂質
59	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.7	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	1面P01-ロ 白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サワラ状	板状	スコ状		
60	陶器	瀬戸 御皿	(15.2)	(9.0)	4.1	1/8					灰	1面P01-ハ
61	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					暗茶褐	1面P01-ハ 長石
62	ガラス	小片	縦 1.2	横 0.7	厚さ 0.7	不明					水青	1面P01-ニ
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.5	4/5	○		○		黄橙	1面P02-イ 白針
64	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	狭端面 片側辺					暗灰	1面P02-イ
65	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					暗茶褐	1面P02-ロ 長石
66	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.2	1.7	4/5	○		○		黄橙	1面P02-ホ 白針
67	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.4)	3.0	1/4	○		○		黄橙	1面P02-ホ 白針
68	土器	ロクロ 穿孔かわらけ	長さ [5.0]	幅 5.0	厚さ 1.3	完形	○		○		黄橙	1面P03-イ 焼成前に3ヶ所の穿孔 側面は打ち欠きか
69	石製品	砥石	長さ [6.7]	幅 2.4	厚さ 2.1	両端欠損					灰白	1面P03-ハ 中砥 伊予産
70	土器	ロクロ かわらけ・大	12.0	6.7	3.3	4/5	○				黄灰	1面P03-ニ 側面に3ヶ所の穿孔 口縁部の一部打ち欠き

図23 1面遺構出土遺物(4)

71	陶器	常滑 甕	—	—	[5.9]	口片～ 胴片					灰褐	1面土坑1 長石
72	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	(16.0)	[6.7]	1/6以下					灰	1面土坑1 長石
73	鉄製品	釘	長さ [9.5]	幅 0.5	厚さ 0.4	上端部欠 損					—	1面土坑1
74	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.0	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
75	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.3	1/2	○		○		黄橙	1面土坑2 白針 口縁部煤付着
76	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.9	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
77	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.4	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
78	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.7	1.6	完形	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
79	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.6	3/4	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
80	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
81	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.7)	1.6	1/3	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
82	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.6)	3.3	1/4	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
83	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	7.8	3.1	2/3	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
84	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(8.0)	3.1	2/3	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
85	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(8.4)	3.1	1/3	○		○		黄橙	1面土坑2 白針
86	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.0)	3.3	1/2	○		○		黄灰	1面土坑2 白針
87	磁器	白磁 口禿皿	(8.6)	(4.8)	2.6	1/3	○		○		灰白 半透明	1面土坑2 大宰府Ⅸ類
88	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	(34.0)	(18.2)	13.1	口小～ 底1/6					暗赤褐	1面土坑2 長石
89	土製品	泥塔	最大径 2.9	—	高さ [4.5]	不明					橙	1面土坑2 宝塔形 白針
90	鉄製品	蓋	縦 [2.9]	横 [3.3]	厚さ 1.8	不明					—	1面土坑2
91	鉄製品	刀子	長さ [16.7]	幅 2.0	厚さ 0.4	不明					—	1面土坑2
92	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	1面土坑2 元祐通寶 中国北宋代 1086年

図24 1面遺構出土遺物(5)

93	陶器	泉州窯系 黄釉鉄絵盤	(38.2)	(34.4)	10.8	1/4以下					黄褐	2面土坑2
----	----	---------------	--------	--------	------	-------	--	--	--	--	----	-------

図25 1面遺構出土遺物(6)

94	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	—	[4.3]	口小片					灰緑 半透明	1面土坑3 大宰府Ⅱ類
95	土器	ロクロ かわらけ・極小	5.6	4.8	0.9	完形	○		○		灰橙	1面土坑5 内折れ 白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サヲ状	板状	スコ状		
96	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	6.5	1.5	2/3	○		○		黄橙	1面土坑5 白針
97	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	6.7	1.5	3/4	○		○		橙	1面土坑5 白針
98	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.6	3/4	○		○		橙	1面土坑5 白針
99	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	6.5	1.8	1/2	○		○		黄橙	1面土坑5 白針
100	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.6	1.6	ほぼ完形			○		黄橙	1面土坑5 白針
101	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.9)	(8.7)	3.0	1/2	○		○		黄橙	1面土坑5 白針 口唇部に擦痕
102	磁器	龍泉窯系青磁 皿	(11.1)	—	[2.7]	口片1/4~ 体片					暗灰緑 不透明	1面土坑5
103	磁器	龍泉窯系青磁 瓶	(7.7)	—	[1.2]	口片1/4					灰緑 半透明	1面土坑5 黒色粒
104	磁器	青白磁 合子蓋	(7.6)	天頂径 (6.4)	1.6	1/3					青灰 透明	1面土坑5 天頂部鳳凰+体部蓮弁
105	陶器	常滑 壺	—	(14.5)	[4.8]	胴片~ 底1/8以下					灰褐	1面土坑5 長石 内面やや摩耗
106	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[5.2]	口小片					灰	1面土坑5 長石
107	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.2]	口小片					灰~黄橙	1面土坑5 長石
108	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[8.3]	口小~底 片					灰褐	1面土坑5 長石
109	土製品	伊勢系 土鍋	—	—	[1.9]	口小片					灰橙	1面土坑5
110	銅製品	銭	直径 2.6	孔径 0.5	厚さ 0.16	完形					—	1面土坑5 銭銘不明
111	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	7.3	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑6 白針
112	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.4)	1.5	1/2	○		○		黄橙	1面土坑6 白針
113	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.5	1/2	○		○		黄橙	1面土坑6 白針
114	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	7.0	1.8	完形	○		○		黄橙	1面土坑6 白針
115	磁器	白磁 口禿碗	—	(5.0)	[1.6]	体片~底 1/3					灰白 半透明	1面土坑6 大宰府Ⅸ類
116	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.4]	口小片					灰白 半透明	1面土坑6 大宰府Ⅸ類
117	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	1面土坑6 至道元寶 中国北宋代 995年初鑄
118	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.6)	1.6	1/2	○		○		黄橙	1面土坑8 白針
119	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.2)	1.6	1/2	○		○		橙	1面土坑8 白針
120	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	6.0	1.7	ほぼ完形	○		○		黄灰	1面土坑8 白針
121	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	—	[4.5]	口小~ 体片					灰緑 半透明	1面土坑8 大宰府Ⅱ類
122	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.4]	口小片					灰白 半透明	1面土坑8 大宰府Ⅸ類
123	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.4]	口小片					灰白 不透明	1面土坑8 大宰府Ⅸ類
124	陶器	渥美・湖西型 片口山茶碗	(14.8)	(5.4)	[2.3]	体片~ 底1/2					灰白	1面土坑8 図35-379と同一個体
125	陶器	常滑 甕	—	—	[5.6]	口小~ 胴片					茶褐	1面土坑8 5~6型式 長石
126	陶器	常滑 甕	—	—	[5.9]	口小~ 胴片					茶褐	1面土坑8 6型式 長石
127	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.5]	口小片					黄橙	1面土坑8 河野Ⅰ類(A類) 黒色粒・白色粒 128と同一個体か
128	瓦質土器	火鉢	—	—	[3.2]	底小片					黄橙	1面土坑8 黒色粒・白色粒 127と同一個体か
129	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	広端面 両側縁欠損					灰	1面土坑8 永福寺女瓦A類
130	骨製品	筭	長さ [2.8]	幅 1.2	厚さ 0.2	両端欠損					灰	1面土坑8
131	土器	ロクロ かわらけ・極小	(5.4)	(4.6)	1.2	1/4	○		○		黄橙	1面土坑11 内折れ 白針
132	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.4)	1.3	2/3	○		○		黄橙	1面土坑11 白針
133	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.6)	1.6	2/3	○		○		黄橙	1面土坑11 白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	斜ラ状	板状	スコ状		
134	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.2	1.7	完形	○		○		黄橙	1面土坑11 白針
135	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	7.2	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	1面土坑11 白針
図26 1面遺構出土遺物(7)												
136	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.9)	1.4	3/4	○		○		黄橙	1面土坑12 白針
137	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.6	1/2	○		○		黄橙	1面土坑12 白針
138	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	6.0	1.9	2/3	○		○		黄橙	1面土坑12 白針
139	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.6)	3.8	1/2	○		○		黄橙	1面土坑12 白針
140	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.4]	口小～ 体片					灰白 半透明	1面土坑12 大宰府IX類
141	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[6.3]	口小～ 体片					灰	1面土坑12 長石
142	瓦質土器	火鉢	—	—	[9.5]	口小～ 底片					暗灰褐	1面土坑12 河野I類(A類)
143	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	広端面 片側片					灰黒	1面土坑12 永福寺女瓦I類
144	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.4)	1.8	1/3	○		○		黄橙	1面土坑13 白針
145	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	(5.8)	3.3	1/4	○		○		黄橙	1面土坑13 白針、やや粉質 口唇部に煤付着
146	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.7	不明					暗灰	1面土坑13 永福寺E類
147	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.0	筒部 片側辺					灰褐色	1面土坑13 永福寺男瓦A類
図27 1面遺構出土遺物(8)												
148	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文皿	—	(4.7)	[1.1]	体片～ 底1/3					青灰 透明	1面土坑17
149	陶器	常滑 甕	—	—	[6.6]	口小～ 体片					赤褐	1面土坑17
150	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.4	狭端面 片側辺					灰	1面土坑17 永福寺女瓦CorD類
151	土器	ロクロ かわらけ・小	(10.1)	(7.3)	1.9	1/4	○				黄橙	1面土坑18 白針
152	土器	手づくね 白かわらけ・大	(11.0)	(9.1)	(3.1)	1/6					黄灰白	1面土坑18 黒色粒
153	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	[3.5]	口小片					灰緑 半透明	1面土坑19 大宰府II類
154	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	—	(4.0)	[3.1]	体片～ 底1/4					青灰 透明	1面土坑19 大宰府II類
155	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.5)	(7.5)	1.6	1/8	○				黄橙	1面土坑20 白針
156	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.1)	1.7	1/4	○		○		黄灰	1面土坑20 白針
157	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.8	1.5	4/5	○		○		黄橙	1面土坑21 白針
158	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(5.2)	1.6	1/4	○		○		黄橙	1面土坑26 白針 口縁部打ち欠き
159	陶器	常滑 片口鉢II類	(27.8)	—	[5.8]	口1/6					茶褐	1面土坑26 白色粒
160	鉄製品	釘	長さ [7.0]	幅 0.4	厚さ 0.5	上端欠損					—	1面土坑26
161	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	1面土坑26 政和通寶(分楯) 中国北宋代 1111年初鑄
162	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.6	1.5	ほぼ完形	○		○		橙	1面土坑27 白針 砂質
163	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(9.1)	3.1	1/2	○		○		橙	1面土坑27 白針 口縁・外底煤付着
164	常滑	常滑 片口鉢I類	—	(11.8)	[5.6]	体片～ 底1/4					暗灰	1面土坑27 長石 内面煤付着
165	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.9]	口小片					灰褐	1面土坑27 河野IIA類(C1類) 黒色粒・白色粒
166	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.5	1.5	3/4	○		○		黄橙	1面土坑29 長石 口縁部打ち欠き
167	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.1)	1.5	1/2	○				黄橙	1面土坑29 長石
168	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.0)	1.6	1/4	○		○		黄橙	1面土坑29 長石 口縁部打ち欠き
169	土器	ロクロ かわらけ・大	11.4	8.4	2.5	3/4	不鮮 明				黄橙	1面土坑29 長石 口縁部外面ケズリ、内面擦痕 煤付着
170	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.8	3.1	ほぼ完形	○		○		黄灰	1面土坑29 長石 口縁部打ち欠き

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サヲ状	板状	スコ状		
171	磁器	白磁 印花文皿	—	—	—	底小片					青灰 透明	1面土坑29 大宰府Ⅹ類 内面型押し植物文
172	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.2]	口小片					灰	1面土坑29
173	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	1面土坑29 天祐通寶 中国北宋代 1017年初鑄
図28 1面遺構出土遺物(9)												
174	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(5.5)	1.5	1/2	○		○		橙	1面土坑31 白針、口縁部打ち欠き
175	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.7	2/3	○		○		橙	1面土坑31 白針、口縁部打ち欠き
176	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.7)	2.1	1/4	○				黄橙	1面土坑31 白針
177	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	—	[1.8]	底小片					灰緑 半透明	1面土坑31 大宰府Ⅲ類
178	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[3.4]	口小片					黄灰緑	1面土坑31
179	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[8.1]	口小～ 体片					明褐	1面土坑31
180	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.6)	1.7	1/3	○		○		橙	1面土坑32 白針
181	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(6.4)	1.5	1/3	○				黄灰	1面土坑33 白針
182	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.3)	1.7	1/3	○		○		黄橙	1面土坑33 白針
183	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.8	4/5	○		○		黄橙	1面土坑34 白針
184	陶器	褐釉壺	—	(8.0)	[6.3]	底1/3					暗茶褐	1面土坑34 黒色粒・黒色粒
185	陶器	常滑 甕	—	—	[7.5]	口小～ 胴片					赤褐	1面土坑34 5型式 長石
186	陶器	常滑 甕	—	—	[7.2]	口小～ 胴片					暗灰	1面土坑34 5～6型式 長石
187	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	広端面 片側片					灰	1面土坑34 黒色粒
188	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.9)	1.3	1/3	○		○		橙	1面土坑35 白針 底部外面黒色に変色
189	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.7)	1.5	1/3	○		○		黄灰	1面土坑35 白針、砂質
190	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.6)	1.5	1/3	○		○		黄灰	1面土坑40 白針
191	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.7	1/2					黄橙	1面土坑37 白針 内外面一部黒色に変色
192	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.9)	2.0	1/3	○				黄橙	1面土坑37 白針 口縁部打ち欠き
193	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.5)	1.5	1/2					橙～ 暗灰	1面土坑37 白針 内外一部黒色に変色
194	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[3.2]	口小片					明褐	1面土坑37 長石
195	陶器	常滑 甕	—	—	[16.7]	口小～ 胴片					赤褐	1面土坑37 長石
196	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.2)	1.8	1/4	○		○		橙	1面土坑41
197	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	—	[2.5]	口小片					灰緑 半透明	1面土坑41 大宰府Ⅲ類
198	石製品	硯	長さ 6.8	幅 5.1	厚さ 0.7	完形					暗灰	1面土坑41 高島硯(消費地で四葉硯に再加工)
図29 1面遺構出土遺物(10)												
199	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.6)	1.5	1/3	○				黄灰	1面土坑42 白針
200	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.2)	1.5	2/3	○		○		黄灰	1面土坑42 白針 口唇部一部煤付着
201	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.1	1.4	4/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
202	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.8)	1.3	1/2	○				黄橙	1面土坑42 白針
203	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.1	1.5	ほぼ完形	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
204	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.3	1.5	4/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
205	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.4	1.5	3/4	○		○		黄灰	1面土坑42 白針 口縁内外一部煤付着
206	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.6	1.5	4/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
207	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.2)	1.6	4/5	○		○		黄橙	1面土坑42 白針 口縁の一部擦る

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サヲ状	板状	スコ状		
208	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.4	1/4	○				黄橙	1面土坑42 白針
209	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.8)	1.6	1/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
210	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.4	1.8	4/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
211	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(5.6)	1.5	2/3	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
212	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.7	4/5	○				黄灰	1面土坑42 白針
213	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.9)	1.7	2/3	○				黄橙	1面土坑42 白針
214	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.4)	1.8	2/3	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
215	土器	ロクロ かわらけ・中	(9.8)	(5.0)	3.0	1/4	○		○		黄橙	1面土坑42 白針
216	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(8.4)	3.0	1/4	○				黄灰	1面土坑42 白針
217	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(8.0)	3.1	1/3	○		○		黄橙	1面土坑42 白針
218	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	8.9	3.4	4/5	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
219	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.7)	3.1	2/3	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
220	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	8.7	3.1	2/3	○		○		黄灰	1面土坑42 白針
221	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.0)	3.5	2/3	○		○		黄橙	1面土坑42 白針
222	磁器	龍泉窯系青磁 折縁鉢	(21.7)	—	[4.2]	1/3					緑青 透明	1面土坑42 大宰府坏Ⅲ-3類と同形か
223	磁器	白磁 口禿皿	口縁部 片	—	[1.7]	口小片					灰白 半透明	1面土坑42 大宰府Ⅸ類
224	磁器	白磁 口禿皿	(9.8)	(6.5)	1.6	2/3					灰白 透明	1面土坑42 大宰府Ⅸ類 口縁部タール付着
225	磁器	青白磁 蓋	直径 3.8	受部内径 1.8	高さ 1.8	ほぼ完形					青白 半透明	1面土坑42
226	陶器	常滑 片口碗	(13.0)	—	[2.8]	口小片1/6					灰色	1面土坑42 白色粒・黒石粒 227と同一個体
227	陶器	常滑 片口碗	—	(7.0)	[1.2]	底小片1/6					灰色	1面土坑42 白色粒・黒石粒 226と同一個体
228	土製品	独楽	外径 4.4	孔径 0.6	厚さ 1.8	ほぼ完形					灰褐	1面土坑42
229	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.5	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑43 白針 内外一部黒色に変色
230	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.1	1.6	ほぼ完形	○		○		橙	1面土坑43
231	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(6.2)	1.6	1/2	○		○		黄灰	1面土坑43 白針
232	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.4	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	1面土坑43 白針
233	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(6.6)	1.8	1/3	○		○		黄灰	1面土坑43 白針
234	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(9.3)	3.0	1/3	○		○		橙	1面土坑43 白針 内面一部煤付着
図30 1面遺構出土遺物(11)												
235	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(6.9)	1.4	1/4	○		○		橙	1面土坑44 白針
236	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.5	1/3	○		○		黄灰	1面土坑44 白針
237	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑44 白針
238	土器	ロクロ かわらけ・小	9.8	7.3	1.6	4/5	○		○		黄橙	1面土坑44 白針
239	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	9.0	3.1	ほぼ完形	○		○		灰橙	1面土坑44
240	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.2)	1.5	2/3	○		○		黄橙	1面土坑45 砂質
241	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.9)	(10.1)	3.1	1/3	○		○		橙	1面土坑45 白針
図31 1面遺構出土遺物(12)												
242	土器	ロクロ かわらけ・中	11.2	6.1	3.4	3/4	○		○		黄橙	1面土坑02 白針 内外面一部煤付着
243	土器	ロクロ かわらけ・中	11.3	6.8	3.4	1/2	○		○		黄橙	1面土坑02 白針
244	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	6.0	3.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面土坑02

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テラ	テラ状	板状	スコ状		
245	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[3.3]	口小片					乳白 透明	1面土坑02 大宰府IX類
246	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					暗褐	1面土坑02 長石
247	鉄製品	釘	長さ [6.0]	幅 0.4	高さ 0.5	上端欠損					—	1面土坑02
248	鉄製品	釘	長さ [6.6]	幅 0.5	高さ 0.5	下端欠損					—	1面土坑02
249	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	(5.6)	1.6	1/4	○		○		黄灰	1面土坑04 白針
250	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.9	1.5	1/2	○		○		黄灰	1面土坑04 白針
251	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.8	1.7	1/2	○		○		黄灰	1面土坑04 白針 内外面黒色に変色
252	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.3)	1.5	1/3	△		○		黄灰	1面土坑04 白針
253	石製品	砥石	長さ [5.3]	幅 4.0	高さ [3.5]	両端欠損					橙灰	1面土坑04 中砥
254	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(7.0)	1.6	1/6	○		○		黄灰	1面土坑07 白針
255	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.4	1/4	○		○		黄橙	1面土坑07 白針
256	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.6	ほぼ完形	○		○		黄灰	1面土坑07 白針
257	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.8)	3.0	1/4	○		○		黄灰	1面土坑07 白針 穿孔
258	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(7.6)	3.0	1/3	○		○		黄灰	1面土坑07 白針 内外面黒色に変色
259	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(7.6)	3.1	口小～ 1/3底小	○		○		黄橙	1面土坑07 白針
260	土器	手づくね かわらけ・小	(9.9)	—	1.8	1/5	○				黄灰	1面土坑07 白針
261	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.6	1/3	○				黄灰	1面土坑07 白針
262	磁器	龍泉窯系青磁 鑄蓮弁文碗	—	(4.9)	[3.2]	体片～ 1/4底小					灰緑 半透明	1面土坑07 大宰府II類
263	陶器	常滑 片口鉢II類	—	—	[5.5]	口小片					暗赤	1面土坑07
264	瓦	軒丸瓦	—	—	—	瓦当部					黒灰	1面土坑07 巴文
265	瓦	平瓦	—	—	高さ 2.1	広端面 片側辺					黒灰	1面土坑07
266	瓦	平瓦	—	—	高さ 2.1	狭端面 片側辺					暗灰	1面土坑07
267	石製品	砥石	長さ [4.4]	幅 2.3	高さ 2.0	両端欠損					乳白	1面土坑07 中砥
図32 1面遺構出土遺物(13)												
268	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(7.0)	1.5	1/4	○		○		黄橙	1面土坑08 白針
269	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.7	1.5	3/4	○		○		黄橙	1面土坑08 白針、砂質
270	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.2)	2.9	1/3	○		○		黄橙	1面土坑08 白針、砂質
271	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(7.6)	3.0	1/3	○		○		黄灰	1面土坑08 白針、やや粉質
272	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	7.8	3.1	3/4	○		○		黄橙	1面土坑08 白針
273	磁器	白磁 口禿皿	(11.1)	—	[1.9]	口小1/3					青味白 半透明	1面土坑08 大宰府IX類
274	石製品	軽石	長径 4.3	短径 4.0	高さ 1.6	完形					黄灰	1面土坑08 全体に擦痕
275	瓦	軒平瓦	—	—	—	瓦当片					暗灰	1面土坑09 白色粒 連珠文
276	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.4)	1.8	1/2	○		○		橙	1面土坑10 白針 口縁部一部煤付着
277	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.2)	1.9	1/3	○				黄橙	1面土坑10 白針
278	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.4	3.4	1/3	○		○		橙	1面土坑10 白針
279	陶器	瀬戸 入子	—	4.0	[1.3]	底完存					灰白	1面土坑10 内面赤色の付着物
280	陶器	常滑 片口鉢II類	—	—	[3.8]	口小片					暗褐	1面土坑10 長石
281	鉄製品	釘	長さ 5.7	幅 0.7	高さ 0.5	完形					—	1面土坑10

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	斜ラ状	板状	スコ状		
282	鉄製品	釘	長さ 6.7	幅 0.3	高さ 0.4	完形					—	1面土坑010
283	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(6.8)	1.5	1/4	○		○		黄橙	1面土坑011 白針
284	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.8)	1.5	1/4	○		○		黄橙	1面土坑011 白針
285	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	1.7	完形	○		○		黄橙	1面土坑011 白針
286	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.5	1.6	完形	○		○		黄橙	1面土坑011 白針
287	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.4)	(7.0)	3.3	1/4	○		○		黄灰	1面土坑011
288	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(7.2)	3.4	1/4	○		○		黄灰	1面土坑011
289	鉄製品	釘	長さ [6.7]	幅 0.4	高さ 0.6	下端欠損					—	1面土坑011
290	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.8)	1.5	1/3	○		○		橙	1面土坑012 白針
291	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.9)	(5.4)	1.6	1/4	○		○		黄橙	1面土坑012
292	磁器	龍泉窯系青磁 碗	—	5.0	[1.8]	底完存					ホ-ブ 半透明	1面土坑012 大宰府Ⅰ類
293	陶器	常滑 甕	—	—	[3.0]	口小片					暗褐	1面土坑012 6型式
294	土器	火鉢	—	—	[5.8]	口小片					橙	1面土坑012 河野Ⅱ類(C類)
295	鉄製品	釘	長さ [5.0]	幅 0.5	高さ 0.5	下端欠損					—	1面土坑012
296	鉄製品	釘	長さ [6.8]	幅 0.4	高さ 0.4	下端欠損					—	1面土坑012
297	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	—	3.4	1/3	○				黄橙	1面土013 白針
図33 1面遺構出土遺物(14)												
298	石製品	硯	長さ [4.3]	幅 4.3	高さ [1.0]	両端欠損					灰	1面P7 高嶋硯カ
299	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.7	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	1面P13 白針
300	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.3	1.6	ほぼ完形	○		○		橙	1面P13 白針
301	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	[3.4]	口小片					淡青灰 透明	1面P13 大宰府Ⅱ類
302	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	8.9	3.3	4/5	○		○		橙	1面P16 白針
303	鉄製品	釘	長さ 9.2	幅 0.5	高さ 0.7	完形					—	1面P16
304	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.2)	1.6	1/3	○		○		黄橙	1面P17
305	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(7.6)	1.8	1/3	○		○		黄橙	1面P17
306	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	6.5	1.8	1/2	○		○		黄灰	1面P17 白針
307	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.9)	2.0	1/3	○		○		橙	1面P17 白針
308	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	9.7	3.2	3/4	○		○		黄橙	1面P17 白針
309	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	[2.9]	口小片					灰緑 透明	1面P17 大宰府Ⅱ類
310	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	3.4	[2.5]	底小片					暗緑 半透明	1面P17 大宰府Ⅲ類
311	磁器	龍泉窯系青磁 折腰碗	(11.5)	—	[3.3]	口1/6					緑灰 不透明	1面P17 大宰府坏Ⅲ-1類カ
312	陶器	尾張型 小皿	7.8	4.6	1.8	3/4					灰	1面P17 白色粒
313	陶器	常滑 甕	—	—	[6.8]	口小片					灰黒	1面P17 5型式 長石
314	陶器	常滑 甕	—	—	[8.2]	口小片					茶褐	1面P17 5型式 長石
315	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	(24.2)	—	[5.6]	口1/6					灰	1面P17 長石
316	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.6)	1.5	1/2	○		○		黄橙	1面P18
317	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.1)	1.6	1/3	○		○		黄灰	1面P18
318	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.0)	1.8	1/4	○		○		黄橙	1面P18

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サワラ状	板状	スコ状		
319	土器	ロクロかわらけ・小	(8.4)	(6.6)	1.7	1/3	○		○		橙	1面P18
320	土器	ロクロかわらけ・小	(12.8)	(9.1)	(3.6)	1/4	○		○		橙	1面P18
321	陶器	常滑甕	—	—	[8.1]	口小～胴片					茶褐	1面P18 5型式長石
322	瓦器	坏	10.3	5.0	3.0	2/3					黒灰	1面P18 楠葉型カ 底部内面に11弁の花文
図34 1面遺構出土遺物(15)												
323	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	6.4	1.6	完形	○		○		橙	1面P19 白針
324	土器	ロクロかわらけ・小	(7.7)	(5.9)	1.5	1/2	○		○		黄橙	1面P19 白針 内外黒色に変色
325	土器	ロクロかわらけ・小	7.6	6.4	1.6	ほぼ完形	○		○		橙	1面P19 白針
326	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	6.3	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面P19
327	土器	高台付かわらけ	(8.7)	4.1	4.0	2/3					黄橙	1面P19 白針
328	磁器	龍泉窯系青磁 柳掻蓮弁文碗	—	—	[3.9]	口小片					淡緑 透明	1面P19 大宰府 I-6類カ
329	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.1]	口小片					灰緑 半透明	1面P19 大宰府IX類 口縁部煤付着
330	陶器	尾張型 山茶碗	—	(6.4)	[5.0]	体片～ 底1/2					灰	1面P19 白色粒・黒色粒 高台に粗穀痕
331	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.4	2/3	○		○		橙	1面P20 白針
332	磁器	白磁 柳掻文皿	—	(3.0)	[1.1]	底小1/3					淡青白 半透明	1面P20 大宰府 I類
333	土器	ロクロかわらけ・大	11.6	7.2	3.1	3/4	○		○		橙	1面P21 白針
334	土器	ロクロかわらけ・大	12.0	8.2	3.4	1/2	○		○		橙	1面P21 白針
335	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(6.4)	1.5	1/3	○		○		橙	1面P22 白針
336	土器	ロクロかわらけ・小	(8.4)	(6.2)	1.6	1/2	○		○		黄橙	1面P22 白針
337	土器	ロクロかわらけ・大	(11.8)	(8.0)	3.3	1/3	○		○		黄橙	1面P22白針 口唇部と底部内面に煤付着
338	瓦器	坏	(9.3)	(6.2)	2.6	底小1/6～ 口小片					黒	1面P22 楠葉型カ 輪花形
339	土器	ロクロかわらけ・大	(11.6)	(8.2)	2.8	1/2	○		○		黄橙	1面P24 白針
340	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.6]	口小片					緑味灰 透明	1面P24 大宰府IX類 口縁部煤付着
341	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[3.0]	口小片					緑	1面P24
342	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(6.0)	1.6	1/2	○		○		橙	1面P26
343	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	6.1	1.6	完形	○		○		黄橙	1面P26
344	土器	ロクロかわらけ・小	(8.2)	(5.6)	1.8	1/2	○		○		橙	1面P27
345	青白磁蓋	青白磁 合子蓋	4.7	天頂径 3.3	1.5	1/2					青白 半透明	1面P27
346	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	広端面 片側辺					灰褐	1面P27 八幡宮 I期瓦と同類
347	常滑	常滑甕	—	—	—	口小～ 胴片					暗赤褐	1面P29 6型式 長石
348	石製品	滑石鍋転用品 温石カ	長さ [5.3]	幅 [7.4]	厚さ 1.3	不明					灰黒	1面P29 加工途中カ
349	土器	ロクロかわらけ・小	(9.0)	(7.5)	1.4	1/4	○		○		黄橙	1面P30 内外面煤付着
350	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	[4.8]	口小片					灰緑 半透明	1面P30 大宰府 II類
351	土器	ロクロかわらけ・小	(8.2)	(6.7)	1.6	1/3	○		○		黄橙	1面P32 白針
352	土器	ロクロかわらけ・大	(10.6)	(6.5)	3.2	1/3	○		○		橙	1面P32 白針
353	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.2	完形					—	1面P32 皇宋通寶 中国北宋代 1038年初鑄
図35 1面遺構出土遺物(16)												
354	土器	ロクロかわらけ・大	(12.0)	(8.7)	2.9	1/2弱	○		○		橙	1面P33 白針
355	土器	ロクロかわらけ・大	(13.3)	(8.3)	3.5	1/3	○		○		黄橙	1面P33 白針、粉質

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サワラ	板状	スコ状		
356	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	6.0	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	1面P34 白針
357	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.5	1.4	ほぼ完形	○		○		橙	1面P34 白針
358	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.4	1.5	4/5	○		○		橙	1面P34 白針、粉質
359	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.8	1.7	5/6	○		○		黄橙	1面P34 白針
360	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.8	1.6	4/5	○		○		黄橙	1面P36 白針 口縁部煤付着
361	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.9)	1.8	1/2	○		○		橙	1面P36
362	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.6	3/4	○		○		黄橙	1面P37 白針 内外面黒色に変色
363	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(7.6)	3.9	2/3	○		○		橙	1面P38 底部内面に煤付着
364	瓦質土器	火鉢	—	—	—	脚部					黄橙	1面P38 白針 非貫通孔あり
365	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(6.6)	1.7	2/3	○		○		黄橙	1面P44 白針 口縁部一部煤付着
366	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	7.9	3.4	4/5	○		○		黄橙	1面P44 白針
367	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.4	3.7	2/3	○		○		黄橙	1面P44 白針 内面一部煤付着
368	陶器	尾張型 特殊山茶碗	—	—	[2.7]	口小片					黄橙	1面P44
369	陶器	常滑 甕	—	—	[6.8]	口小～ 胴片					茶褐	1面P44 5型式 長石・黒色粒
370	瓦質土器	火鉢	—	—	[3.0]	口小片					黄橙	1面P44 黒色粒
371	石製品	基石	長さ 1.2	幅 1.8	厚さ 0.6	完形					黒	1面P44
372	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形					—	1面P44 開元通寶 中国唐代 854年初鑄
373	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.6	ほぼ完形	○		○		橙	1面P46 白針
374	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.0)	1.9	2/3	○		○		黄橙	1面P46 白針
375	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(7.6)	2.9	1/2	○		○		黄橙	1面P46 白針
376	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	(15.6)	—	[3.3]	口小片1/6					緑灰 半透明	1面P46 大宰府Ⅱ類
377	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	(16.8)	—	[3.8]	口小片1/4					灰緑 半透明	1面P46 大宰府Ⅱ類
378	磁器	白磁 口禿碗	—	—	[3.7]	口小片					灰白 不透明	1面P46 大宰府Ⅸ類 黒色粒
379	陶器	渥美 片口山茶碗	(14.8)									図25-124と接合
380	陶器	尾張型 山茶碗	15.0	6.9	4.5	1/3					灰	1面P46 口縁部に煤付着
381	陶器	常滑 転用研磨具	長さ [8.2]	幅 [6.6]	厚さ 1.5	甕胴部片					茶褐	1面P50 側辺と外面側を研磨に使用
382	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(5.5)	1.6	1/4	○		○		黄橙	1面P011 白針 口縁部煤付着
383	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.6	1.6	3/4	○				黄灰	1面P011 砂質
384	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.5	1.6	2/3	○		○		黄橙	1面P011 白針
385	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.2]	口小片					青白 透明	1面P011
386	鉄製品	釘	長さ (5.6)	幅 0.4	厚さ 0.5	完形					—	1面P011
387	鉄製品	釘	長さ 6.2	幅 0.7	厚さ 0.5	完形					—	1面P011
388	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	1面P011 皇宋通寶 中国北宋代 1038年初鑄
389	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	1面P011 開元通寶 中国唐代 621年初鑄
390	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.2)	1.8	1/3	○				黄灰	1面P013 白針 口縁部煤付着

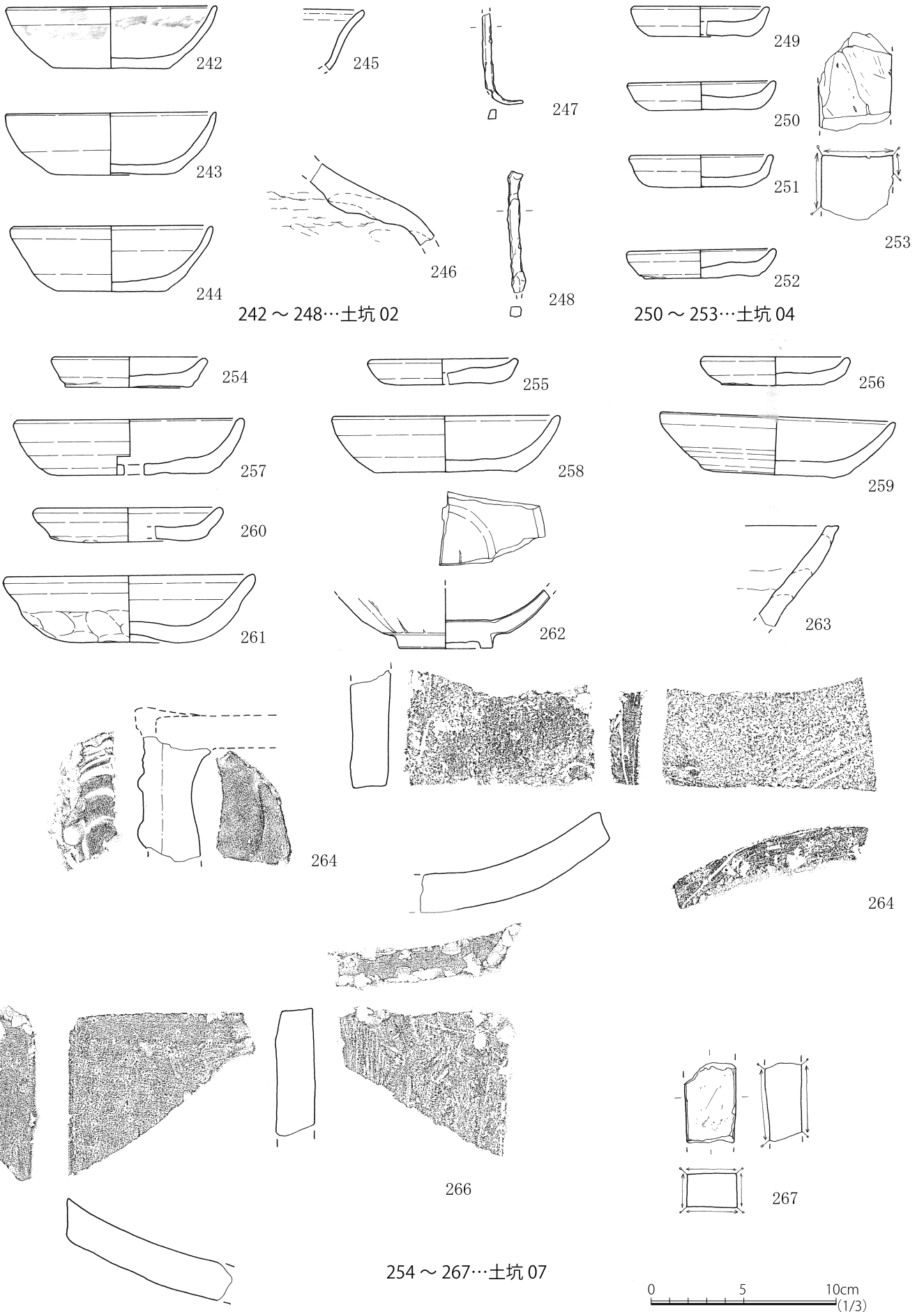


图 31 1 面遺構出土遺物 (12)

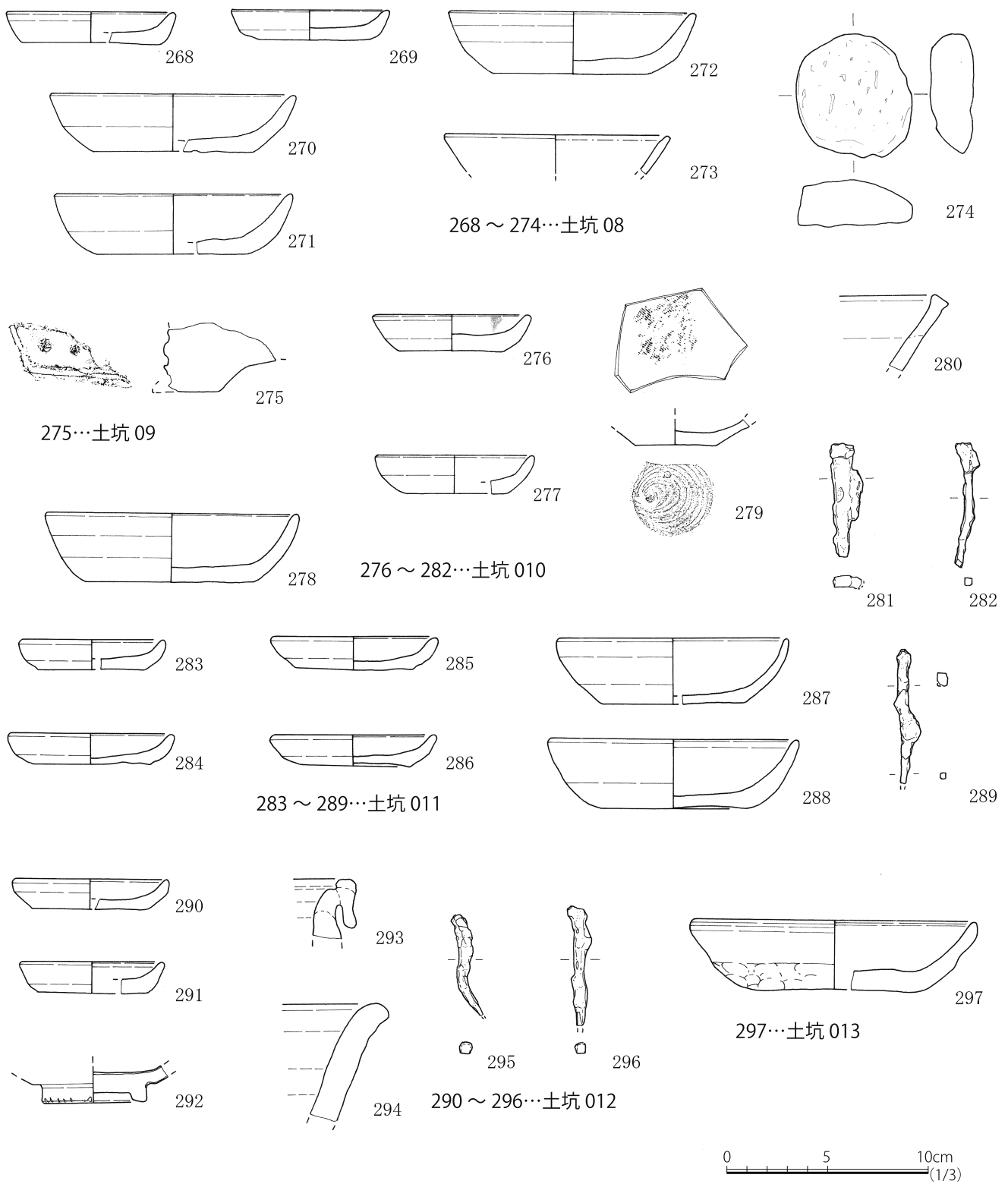
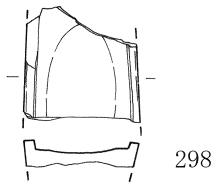


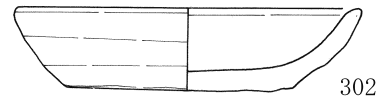
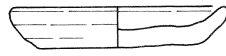
図 32 1 面遺構出土遺物 (13)

とも低平で底の広いものが主体となり、ロクロ成形品の他、手づくね成形品も若干量ながら含まれる。常滑甕は 6b 型式が下限で、他の国産・舶載陶磁器類を見ても 13 世紀後半までの生産品が主体になると思われる。特徴的な遺物として図 20-25 や図 35-368 が挙げられ、尾張型山茶碗の内面に焼成前の刻線が放射状に入る。368 は口縁部の小片で、山形の放射状刻線が見える。両者は直接には接合しないが、同一個体である可能性が高い。図 34-327 は柱状高台をもつかかわらけで、古瀬戸中 - I 期様式の仏供に酷似した形態を呈する。おそらく、かわらけ工人の手による模倣品であろう。

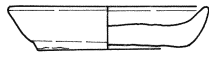


298

298...P13



302



299



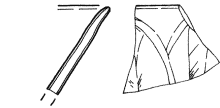
300



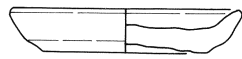
303

299 ~ 301...P13

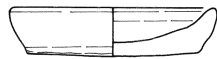
302 • 303...P16



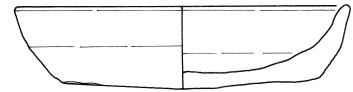
301



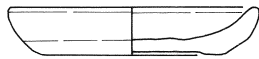
304



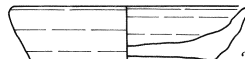
306



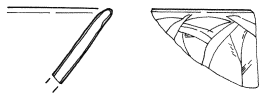
308



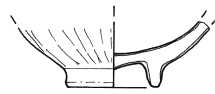
305



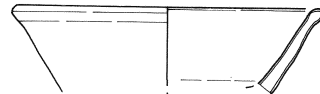
307



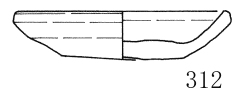
309



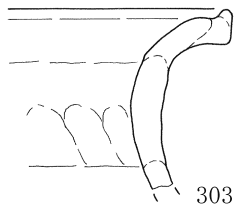
310



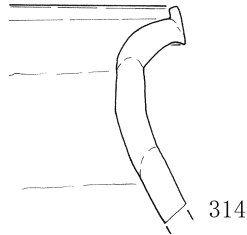
311



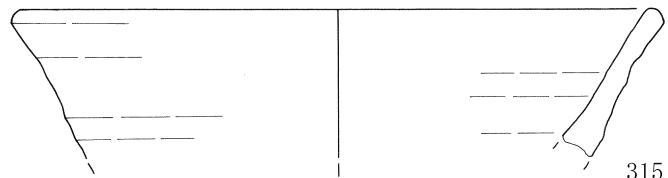
312



303



314



315

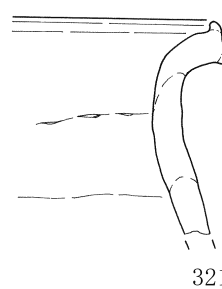
304 ~ 315...P17



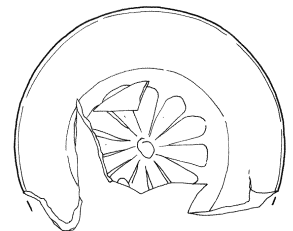
316



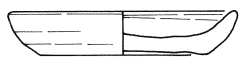
319



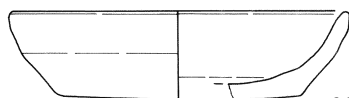
321



322



317



320



318

316 ~ 322...P18

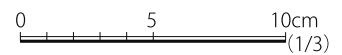


图 33 1 面遺構出土遺物 (14)

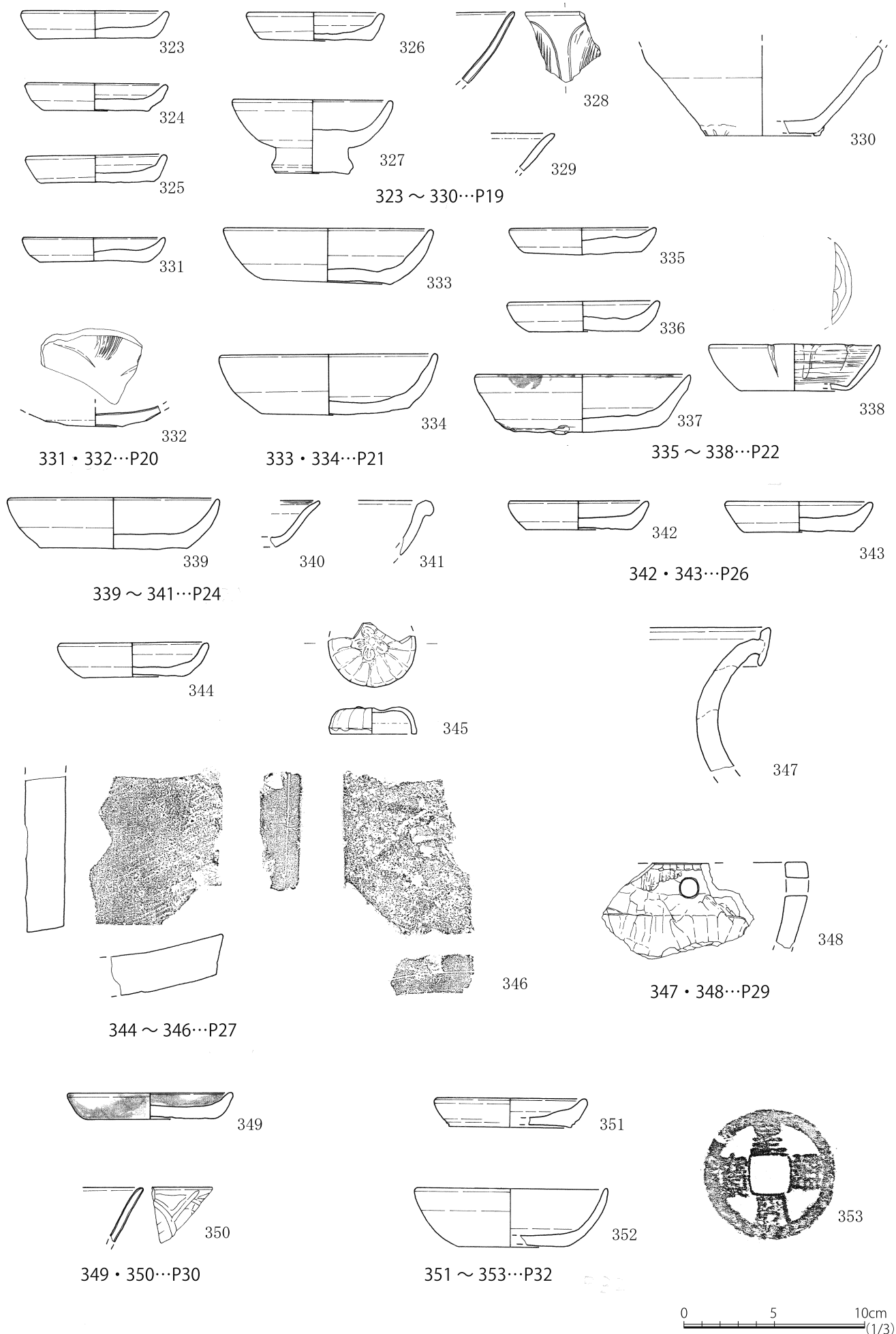


图 34 1 面遺構出土遺物 (15)

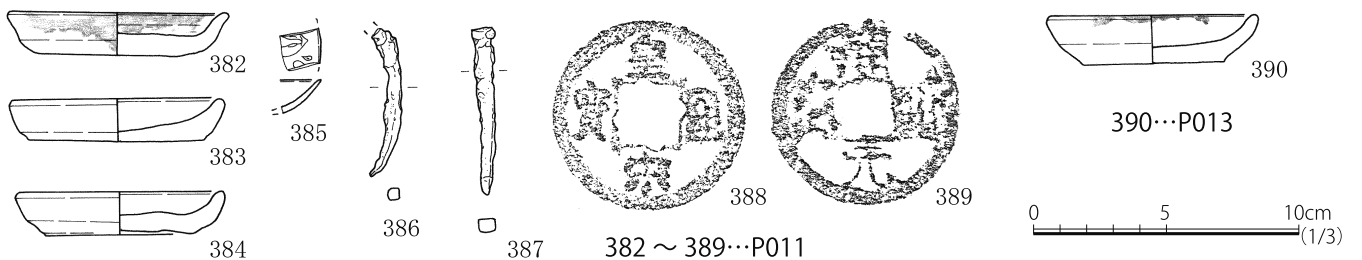
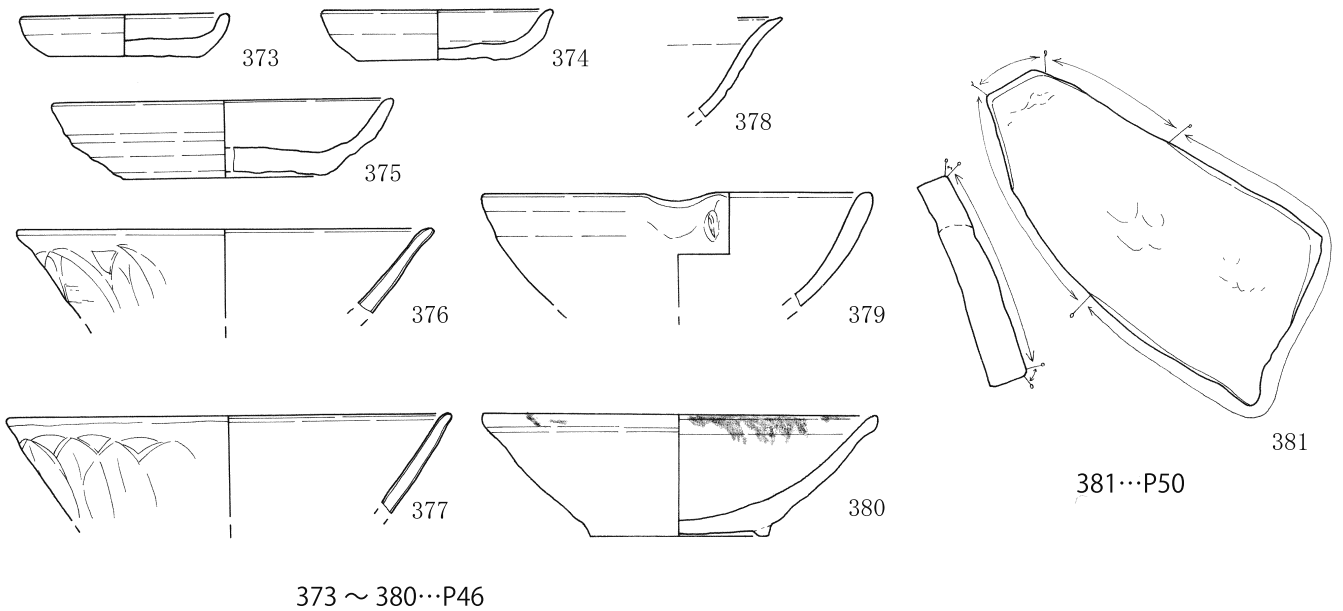
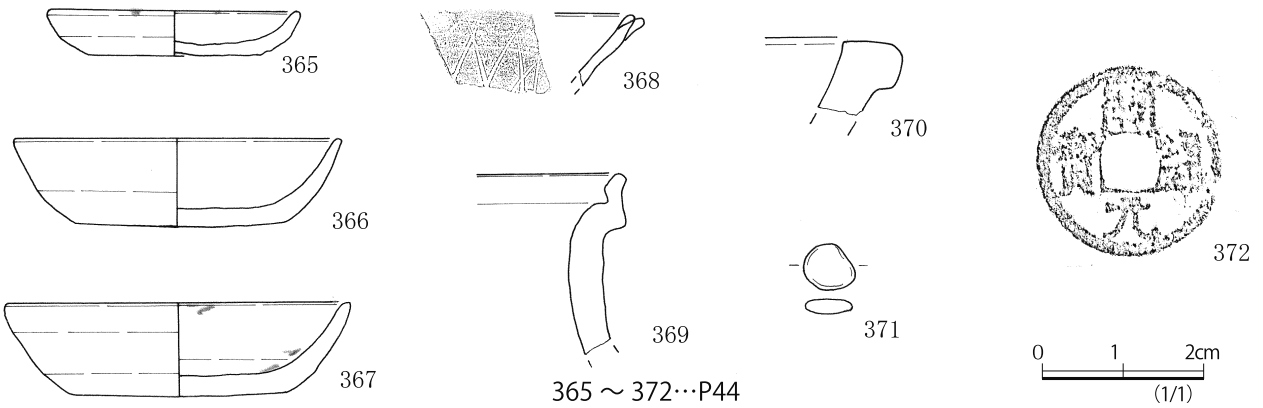
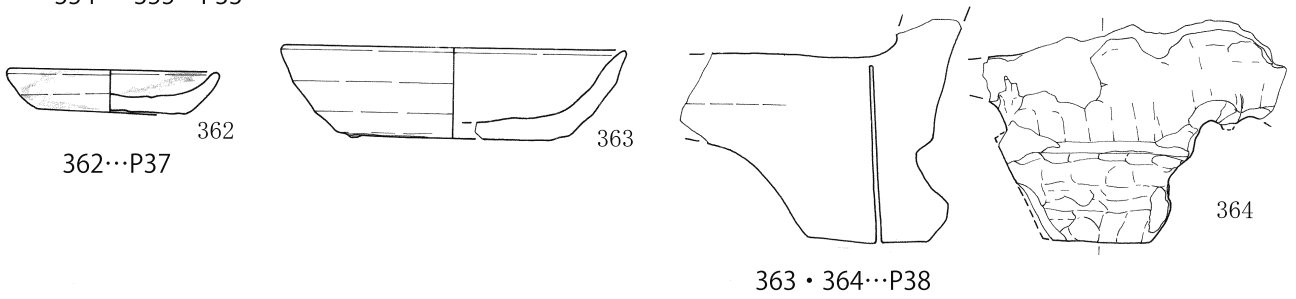
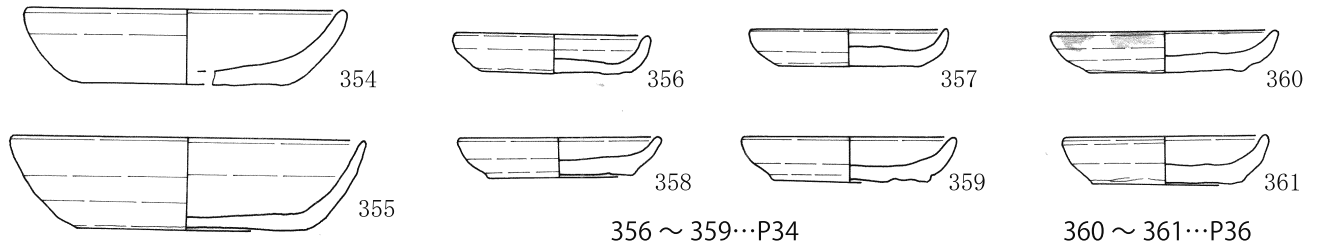


图 35 1 面遺構出土遺物 (16)

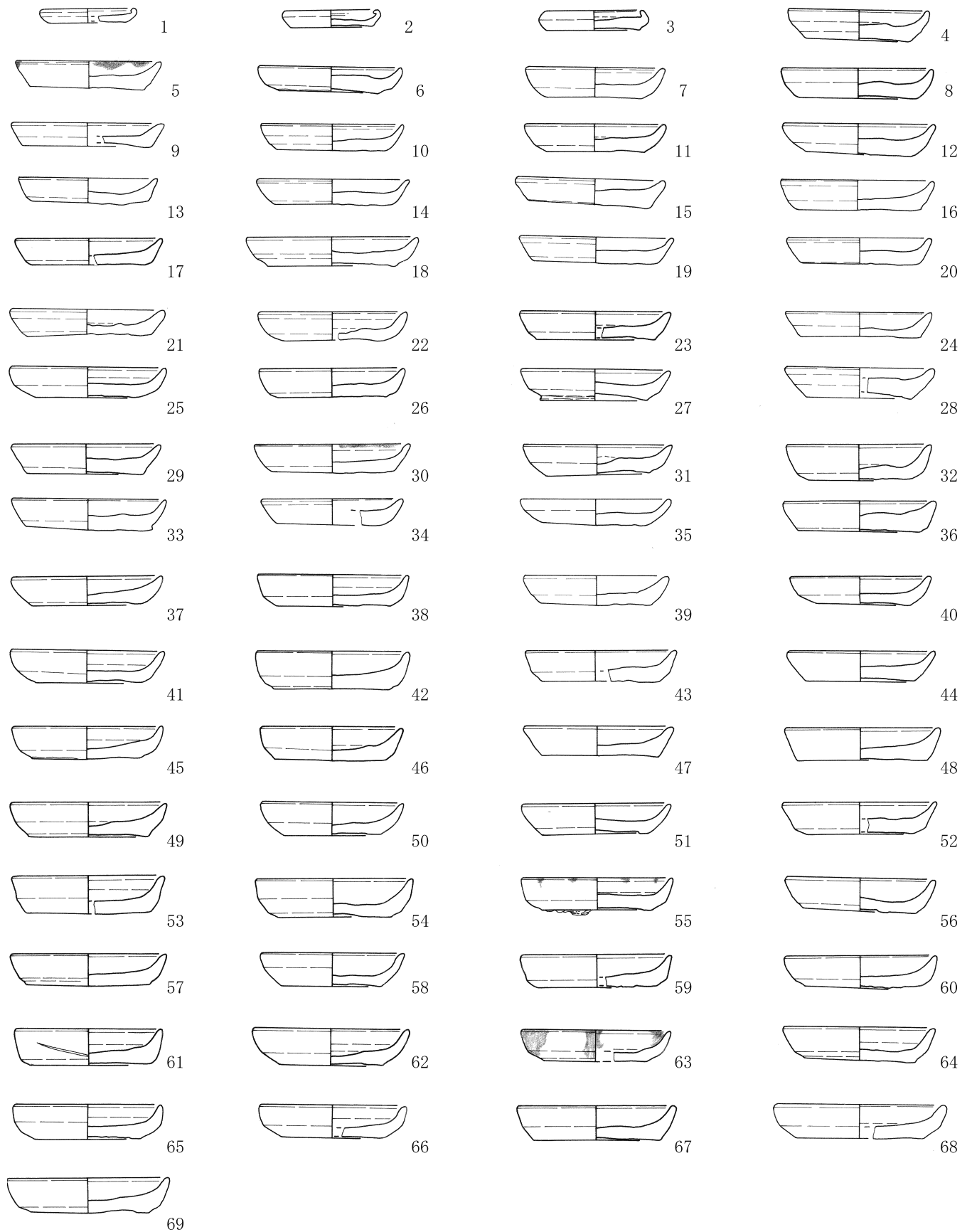


图 36 1 面下~2 面上出土遺物 (1)

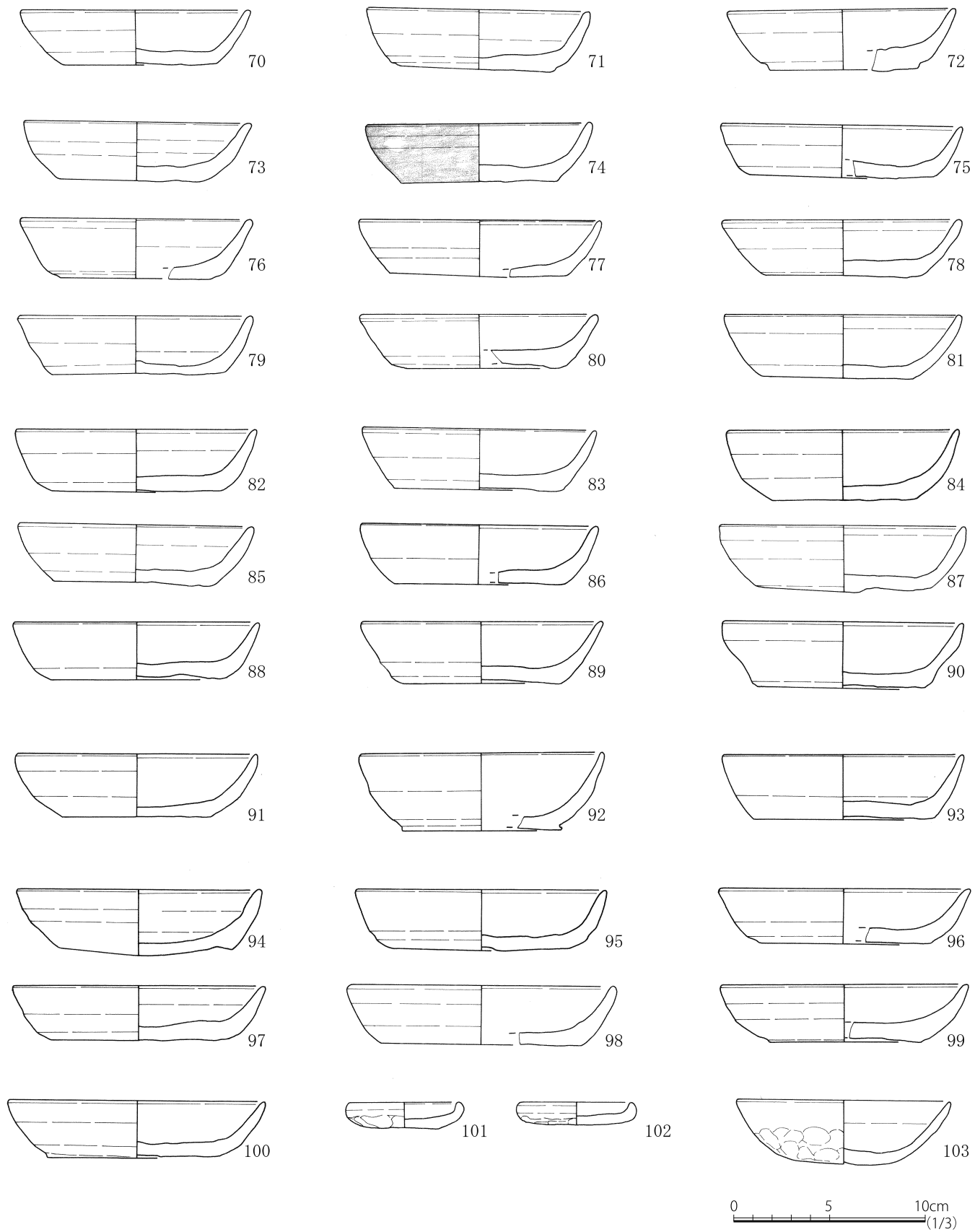


图 37 1 面下~2 面上出土遺物 (2)

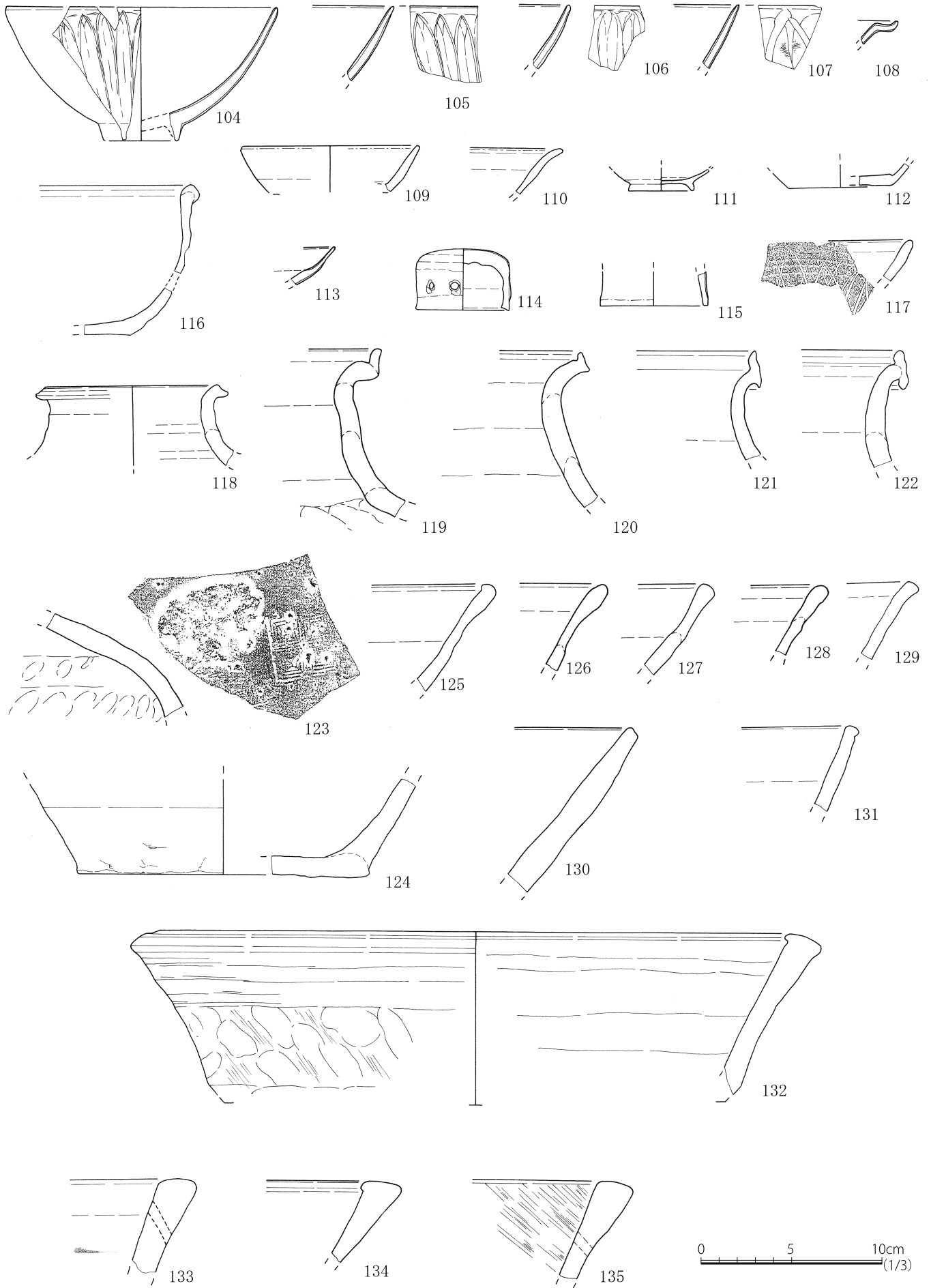


图 38 1 面下~2 面上出土遺物 (3)

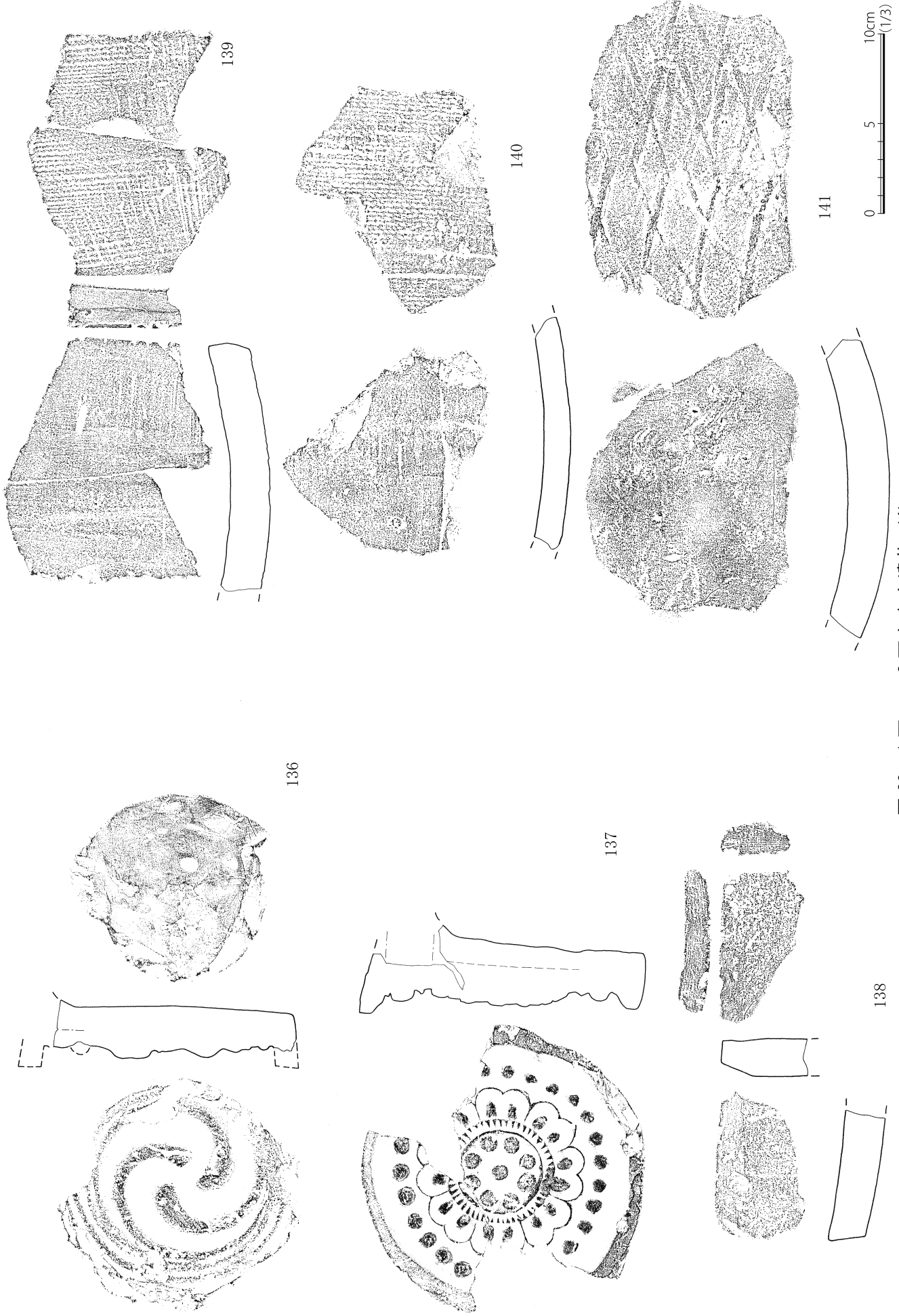


图 39 1 面下~2 面上出土遺物 (4)

第3節 2面上の遺物（図36～51、表4）

図36～40に1面下から2面まで掘り下げる際の出土遺物を、図41～51には2面直上の出土遺物を掲載した。

1面下のかわりはロクロ成形品が大部分を占め、手づくね成形品がごく僅かに含まれる。図37-103の手づくね大皿は身深で皿というより坏に近く、この種の資料では最末期の様相を呈している。ロクロ成形品には確実な中皿はなく、大皿・小皿ともに底広で低平な器形のもの为主体となる。舶載陶磁器は龍泉窯系青磁碗のⅡ・Ⅲ類や白磁碗・皿Ⅸ類、常滑甕は5～6a型式が占めている。瓦質火鉢類は河野Ⅰ類が占め、14世紀後半まで下る要素は見られない。瓦は永福寺Ⅰ期の所用品が多いがⅡ期の資料も認められる。かわらけを中心に見ると、手づくね成形品がほぼ消失する13世紀中葉～第3四半期頃の遺物構成といえるだろう。図38-117は口縁～体部の内面に山形放射状刻線を有する山茶碗で、前記の図35-368と同一個体であろう。

2面直上の出土かわらけもロクロ成形品が主体となるが、僅かながら手づくね成形品が増してくる。

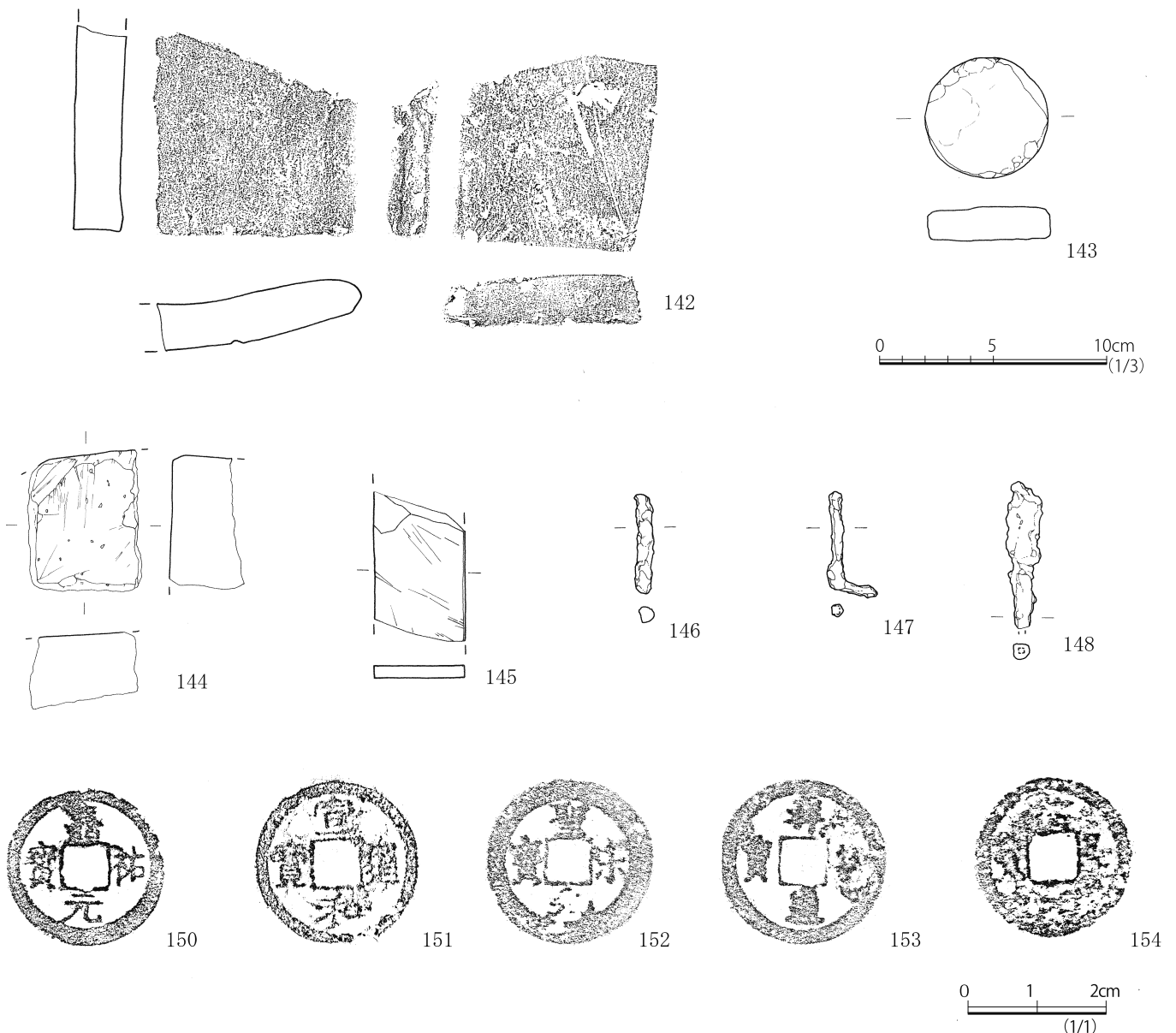


図40 1面下～2面上出土遺物（5）

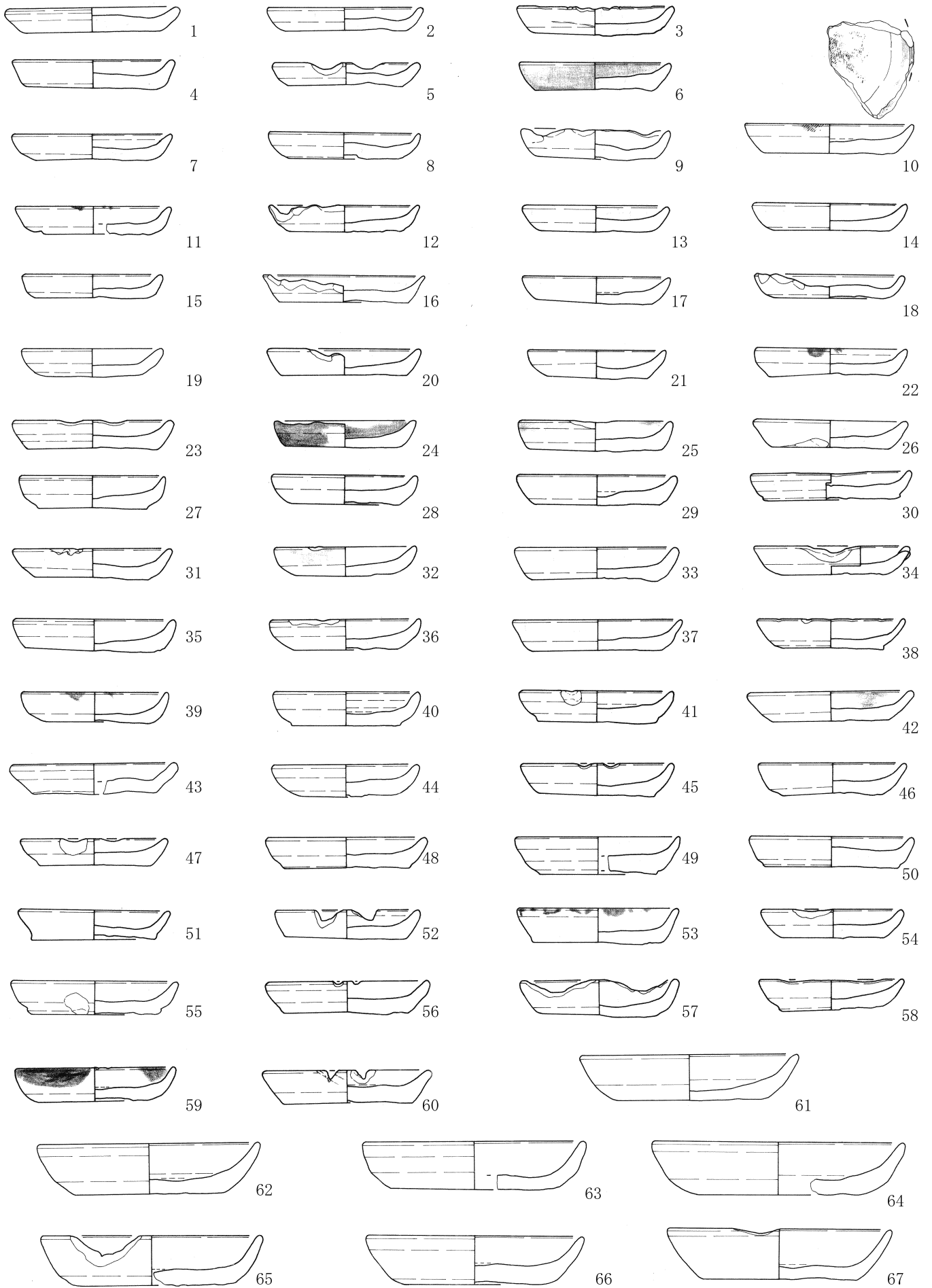


图 41 2 面直上出土遺物 (1)

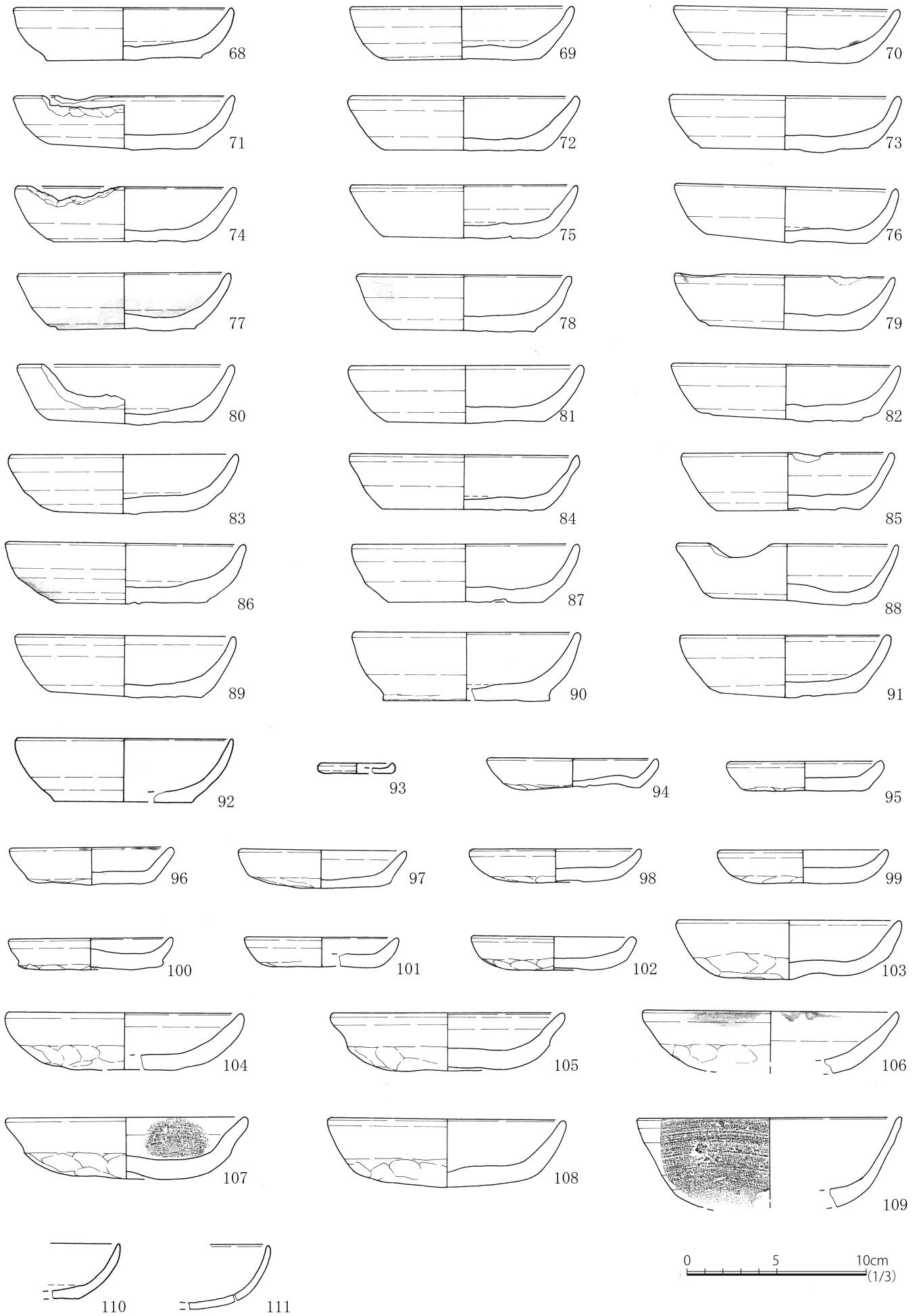


图 42 2 面直上出土遺物 (2)

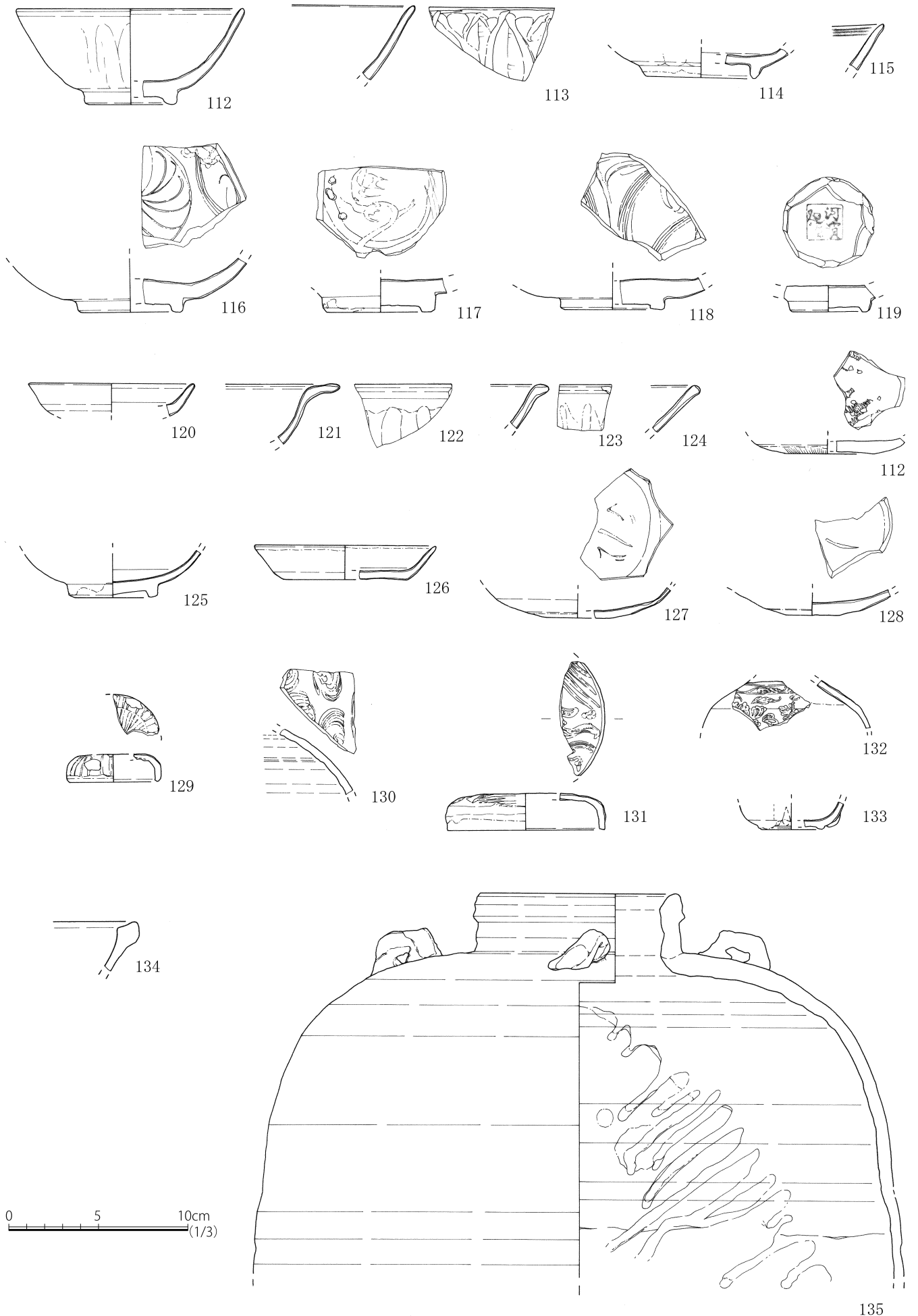


图 43 2 面直上出土遺物 (3)

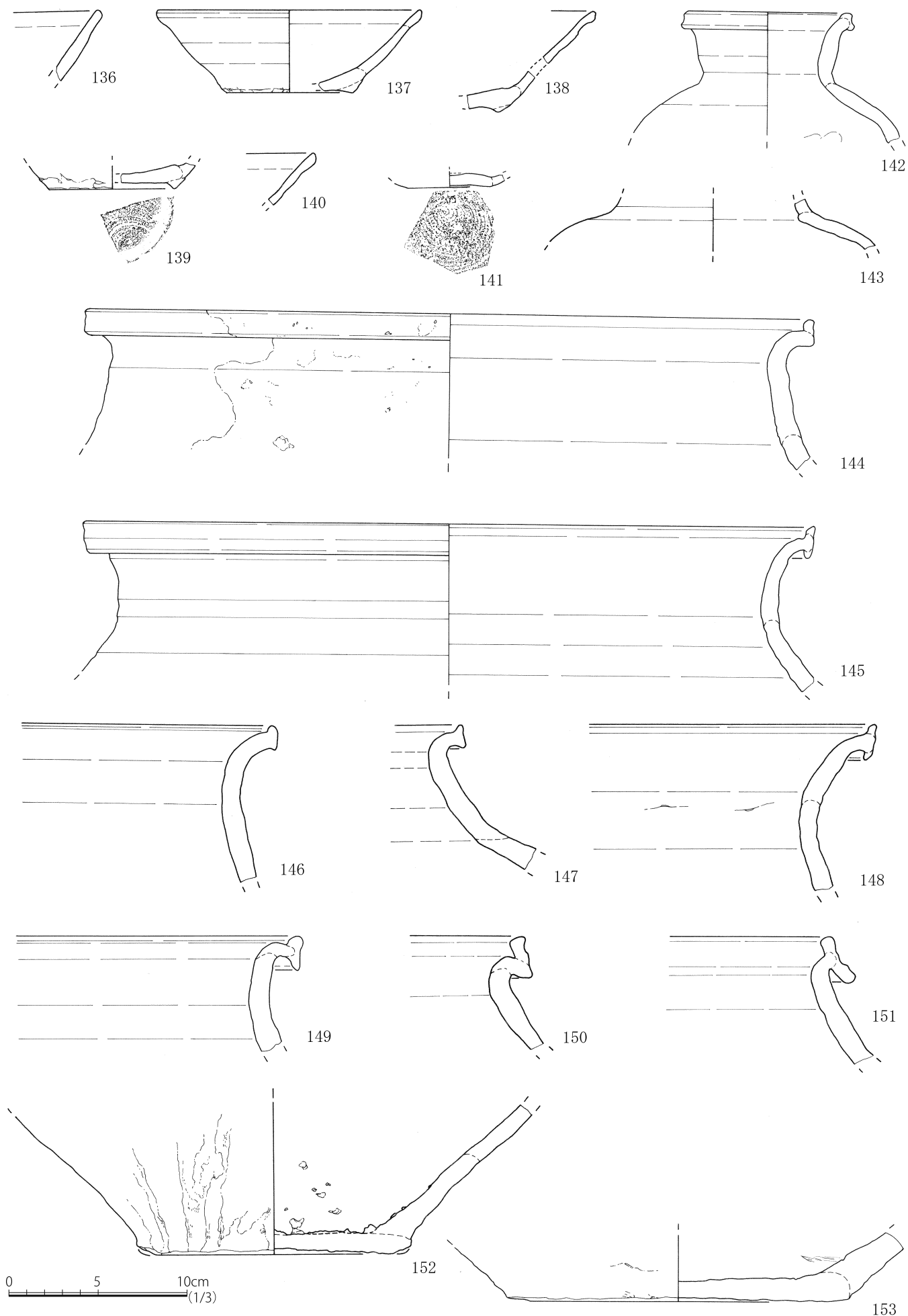


图 44 2 面直上出土遺物 (4)

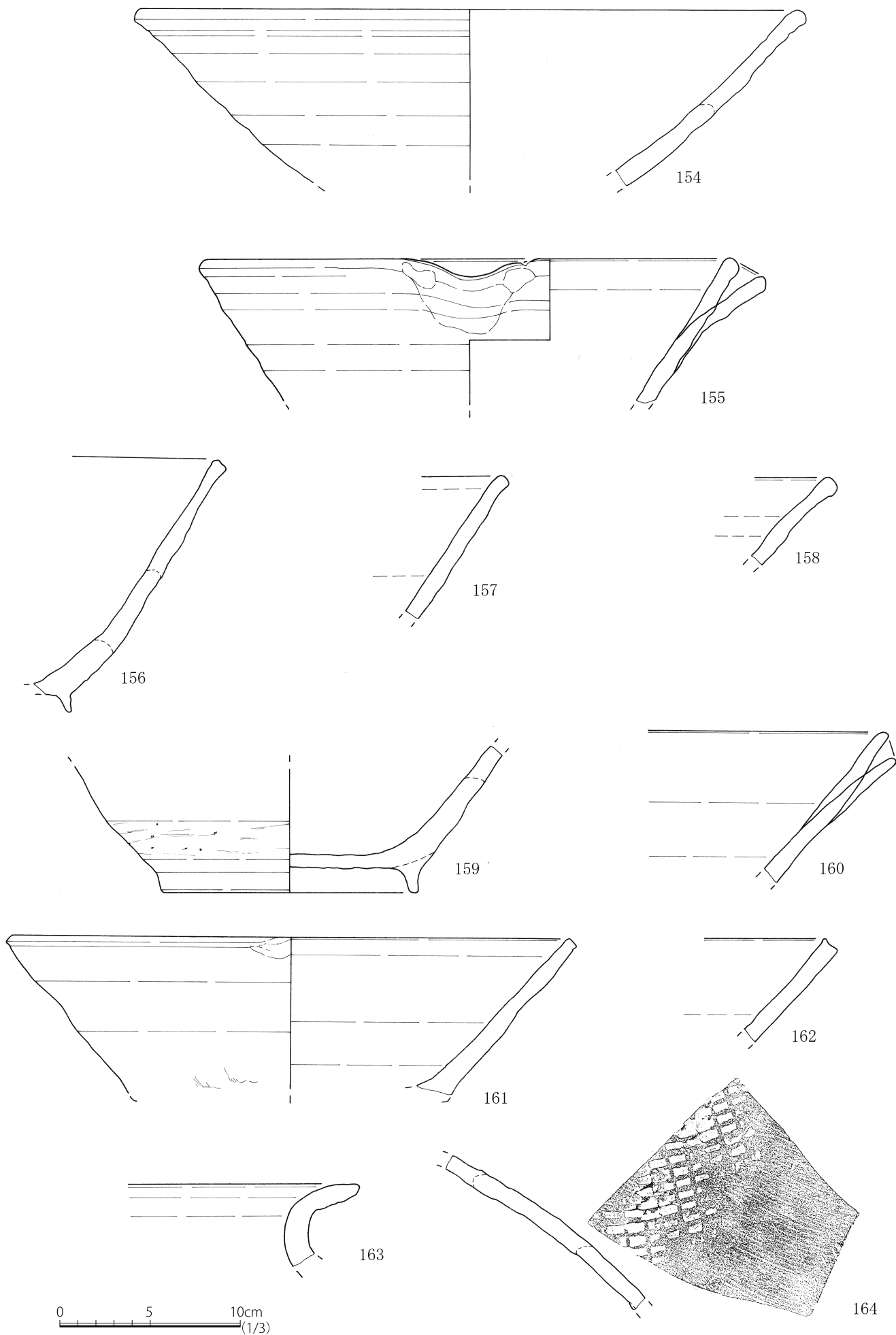


图 45 2 面直上出土遺物 (5)

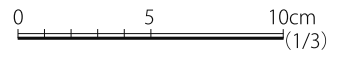
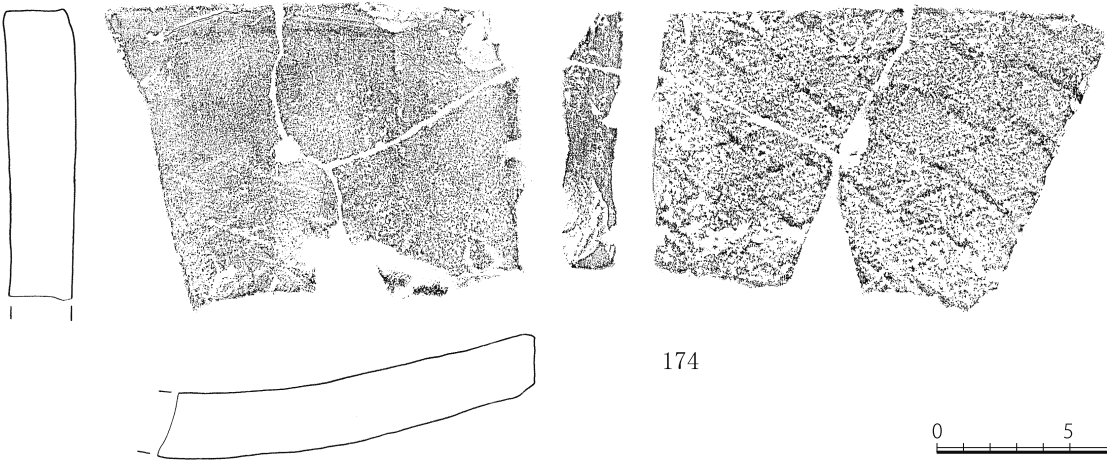
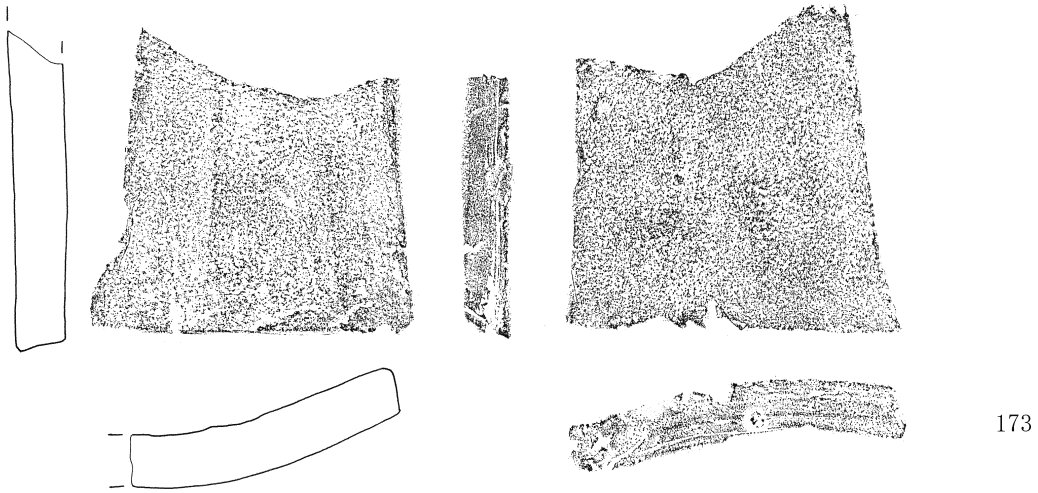
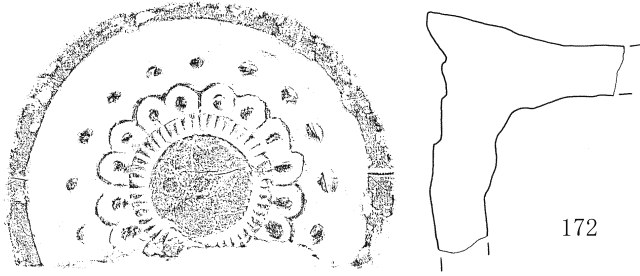
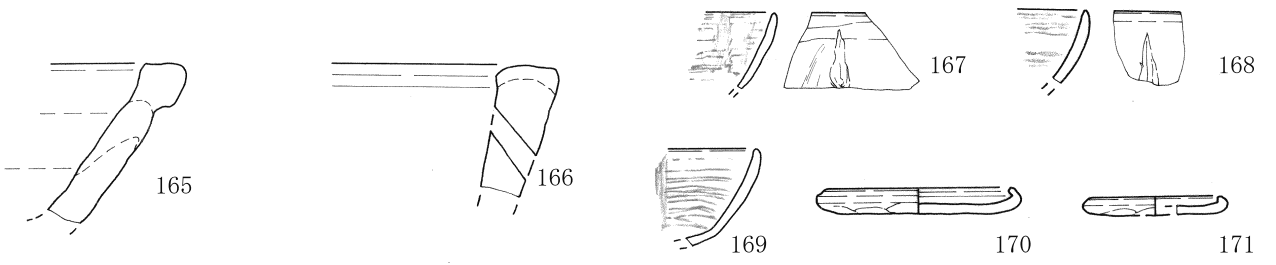
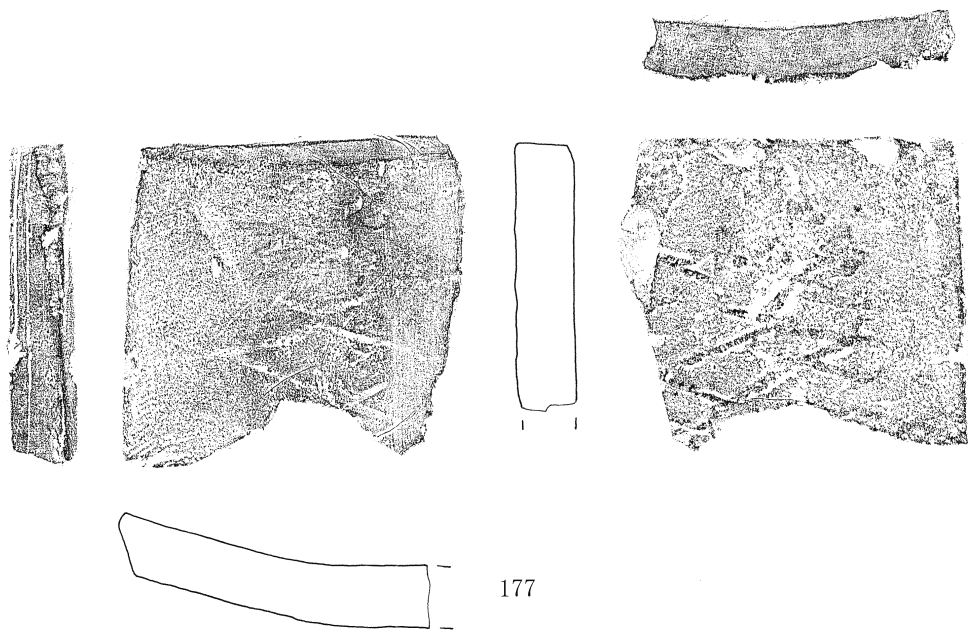


图 46 2 面直上出土遺物 (6)



图 47 2 面直上出土遺物 (7)



0 5 10cm
(1/3)

图 48 2 面直上出土遺物 (8)

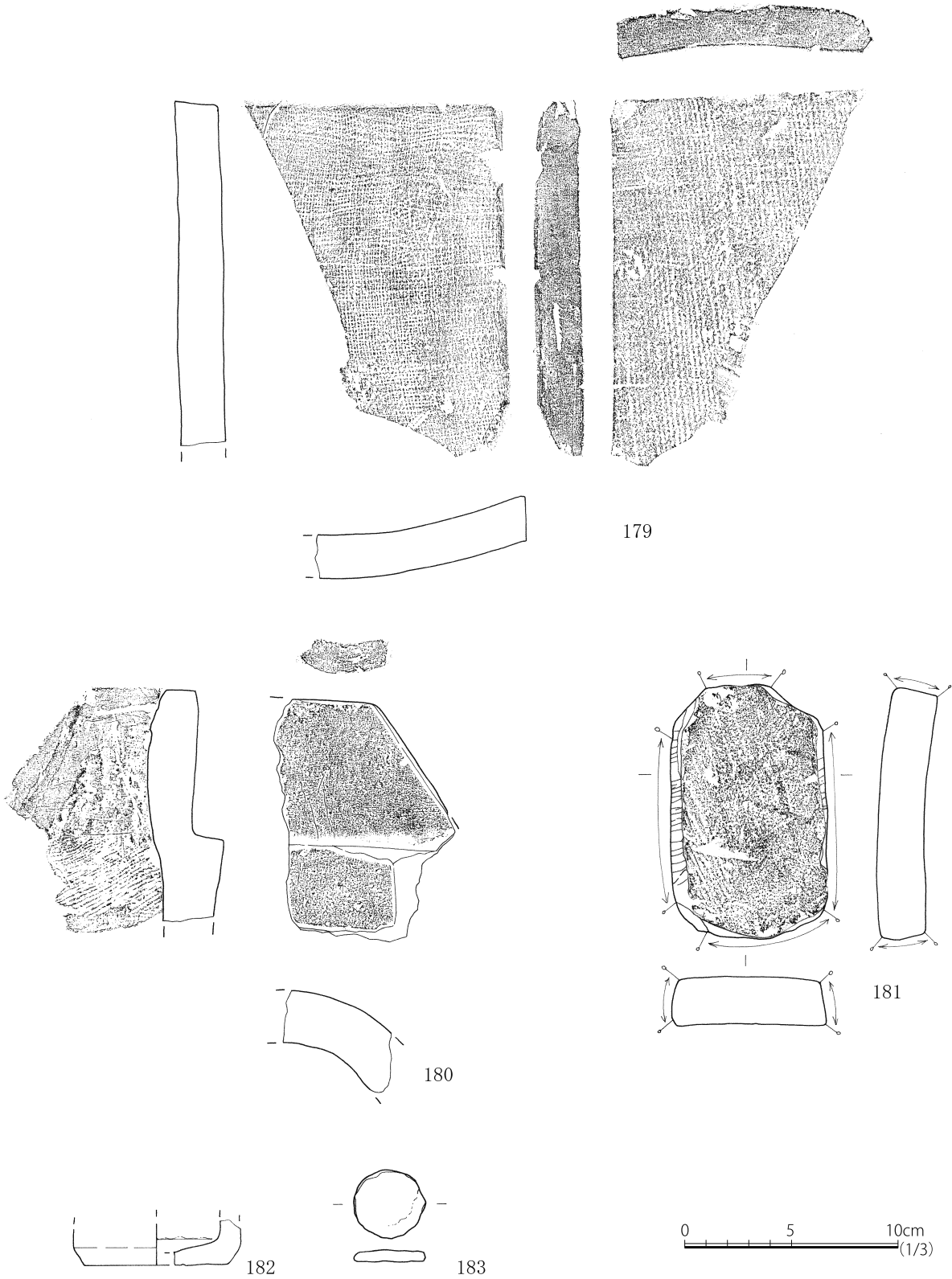


図 49 2面直上出土遺物 (9)

ロクロかわらけには中型品はなく、大皿・小皿とも底広で低平で同法量の手づくねかわらけと近似した器形を呈している。図 42-109 の手づくねかわらけは口径はさほど大きくないが、身深の碗形態を取るため特大品とした。船載品では龍泉窯系の青磁碗Ⅰ類が目立つようになるが、同坏Ⅲ類や白磁皿Ⅸ類もあり、新旧の要素が混在している。国産陶器類では尾張型山茶碗の5～6型式、常滑甕も5～6a型式が中心となる。瓦質火鉢Ⅰ類や永福寺Ⅱ期瓦の存在なども併せて見ると、13世紀中葉頃の遺物構成と見なせよう。

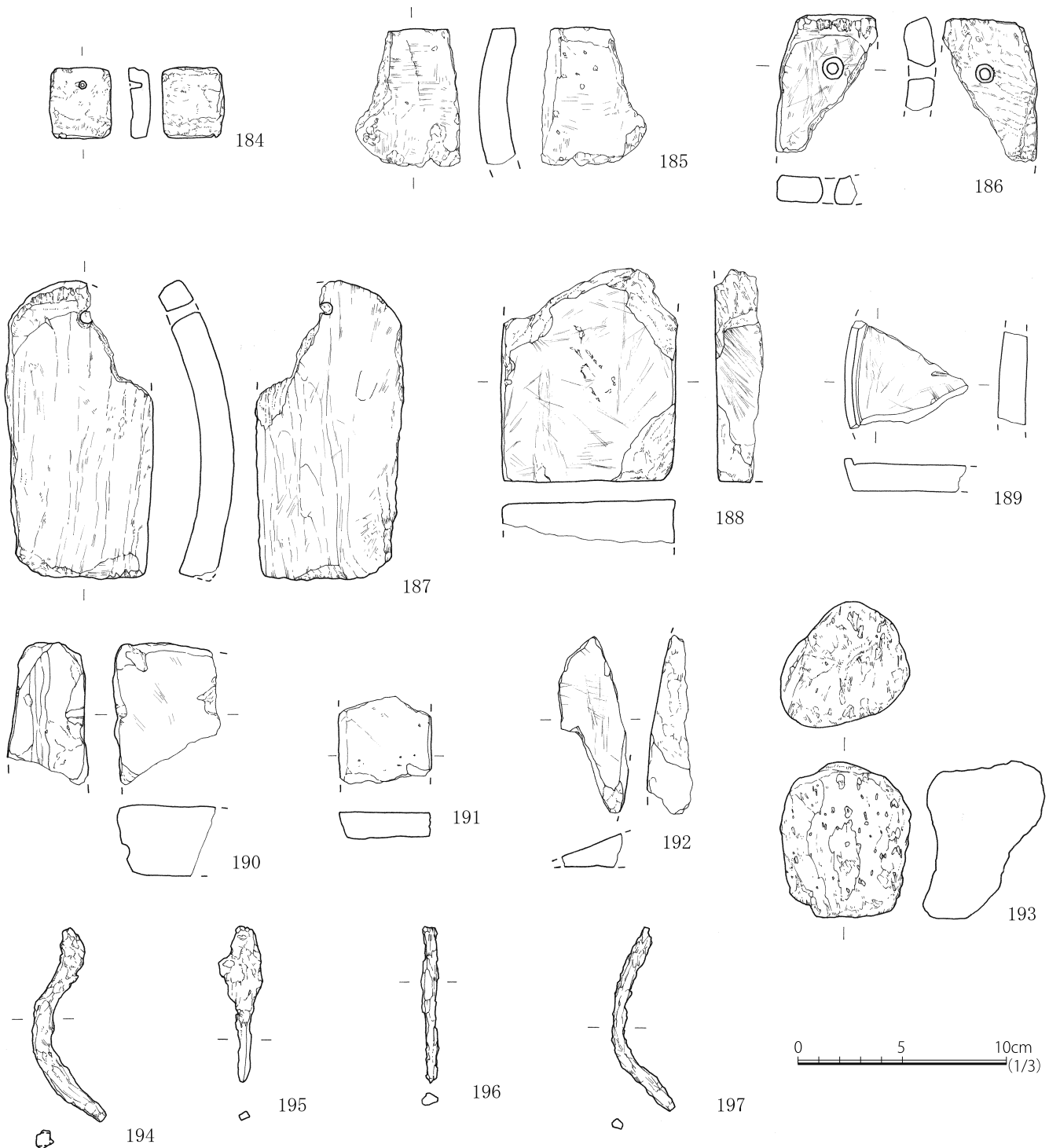


図50 2面直上出土遺物(10)

表4 1面下~2面上 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナラ	ナラ状	板状	スコ状		
図36 1面下~2面上出土遺物(1)												
1	土器	ロクロかわらけ・極小	(4.9)	(4.0)	0.8	1/3	○		○		橙	内折れ 白針
2	土器	ロクロかわらけ・極小	(4.9)	(4.4)	0.9	1/6以下	○				黄橙	内折れ 白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サテ状	板状	スコ状		
3	土器	ロクロ かわらけ・極小	5.2	4.8	1.0	2/3	○				黄橙	白針、砂質
4	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.4	1.6	完形	○				橙	白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.0	1.5	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部煤付着
6	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	1.4	3/4	○		○		黄灰	白針、砂質
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.0)	1.6	1/3	○		○		黄橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.1)	1.7	1/2	○		○		黄灰	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(7.0)	1.2	1/3	○		○		黄灰	白針
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.0)	1.4	1/3	○		○		黄灰	白針
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	5.3	1.5	1/3	○				黄橙	白針
12	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.7	2.1	4/5	○				黄灰	白針、砂質
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	6.3	1.3	完形	○		○		黄灰	白針 内面と底部外面に煤付着
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.4	1.3	4/5	○		○		黄灰	白針
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.4	1.4	2/3	○		○		橙	白針
16	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.6	1.6	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.4	1/3	○		○		黄灰	白針、やや粉質
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(7.0)	1.5	1/3	○		○		黄灰	白針
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.6)	1.4	1/3	○		○		黄灰	白針
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.2)	1.4	1/3	○		○		黄灰	白針
21	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.6	1.5	1/2	○		○		黄灰	白針
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.1)	1.5	1/4					黄灰	白針
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.3)	1.5	1/3	○		○		黄橙	白針
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.3	1.3	4/5	○		○		黄灰	白針
25	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(5.6)	1.6	1/3	○		○		橙	白針
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.7	1.5	3/4	○		○		黄橙	白針
27	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.8	1.6	4/5	○		○		橙	白針、砂質
28	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.6)	1.6	1/3	○		○		黄灰	白針
29	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.3	1.5	完形	○				黄橙	白針
30	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.4	1.5	1/2	○		○		黄橙	白針 内外面に煤付着
31	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	2.1	完形	○		○		黄橙	白針
32	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.3	1.8	2/3	○		○		橙	白針
33	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.7	1.6	完形	○		○		黄橙	白針
34	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(6.0)	1.4	1/3	○		○		橙	白針
35	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.6	1.4	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
36	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.5	1.6	2/3	○				黄橙	白針、砂質
37	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.8	1.5	2/3	○				黄灰	白針、砂質
38	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.0)	1.7	1/3	○				橙	白針
39	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.9	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
40	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	1.6	2/3	○		○		橙	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サヲ状	板状	スコ状		
41	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.6	1.7	4/5	○				黄橙	白針
42	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.3)	2.0	1/3	○		○		黄橙	白針
43	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.4)	1.6	1/3	○		○		黄灰	白針
44	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.8	1.5	3/4	○				黄灰	白針
45	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.9	1.8	3/4	○		○		黄橙	白針、砂質
46	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.0	1.8	3/4	○		○		茶灰	白針 内面一部に煤付着
47	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.2	1.6	4/5	○				黄橙	白針、砂質
48	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.8	1.7	ほぼ完形	○				橙	白針、砂質
49	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	6.3	1.8	1/2	○				黄橙	白針
50	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.2	1.8	2/3	○		○		黄橙	白針
51	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.5	1.6	4/5	○		○		橙	白針、砂質
52	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(5.6)	1.7	1/2	○		○		黄橙	白針、砂質
53	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.6)	2.0	1/2	○				黄灰	白針、やや粉質
54	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	6.0	2.0	2/3	○		○		黄橙	白針、砂質
55	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	(7.8)	1.7	1/2	○		○		黄橙	白針、砂質 口唇部の一部に煤付着
56	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.8	完形	○		○		黄灰	白針
57	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.5)	1.8	1/4	○		○		黄灰	白針
58	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(5.3)	1.8	1/3	○		○		橙	白針
59	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.3)	1.8	1/2	○		○		黄灰	白針
60	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.2	1.7	完形	○		○		黄灰	白針
61	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.3)	1.9	1/3	○				黄灰	白針、砂質
62	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	5.5	1.9	1/2	○		○		黄灰	白針、砂質
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.3)	1.7	1/2	○				黄灰	白針 内外面の一部に煤付着
64	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.9	1.8	4/5	○		○		茶褐	白針
65	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	5.7	1.9	1/3	○		○		黄橙	白針
66	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.4)	1.7	1/3	○				橙	白針
67	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.8)	1.8	1/2	○		○		黄灰	白針
68	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(6.8)	1.8	1/3	○				黄橙	白針、砂質
69	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.4	1.9	4/5	○		○		黄灰	白針
図37 1面下～2面上出土遺物(2)												
70	土器	ロクロ かわらけ・大	12.0	8.1	2.8	ほぼ完形	○		○		橙	白針 内外面の一部に煤付着
71	土器	ロクロ かわらけ・大	11.5	8.1	3.2	2/3	○		○		黄灰	白針
72	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.9)	(7.8)	3.2	1/3	○		○		橙	白針 内外面の一部に煤付着
73	土器	ロクロ かわらけ・大	11.9	7.9	3.1	4/5	○		○		黄橙	白針
74	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(8.2)	3.0	2/3	○		○		黄灰	白針 外面全体が黒色に変色
75	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(7.5)	2.7	1/2	○		○		黄橙	白針
76	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.0)	3.1	1/3	○		○		黄灰	白針
77	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(9.4)	2.9	1/3	○		○		黄灰	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	斜ラ状	板状	スコ状		
78	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.0	3.0	3/4	○		○		黄灰	白針
79	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	9.2	3.0	4/5	○		○		橙	白針
80	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.3)	(9.3)	2.7	1/3	○		○		黄灰	白針
81	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	7.9	3.3	4/5	○		○		黄橙	白針 内面に煤付着
82	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.8)	3.3	1/2	○		○		黄橙	白針
83	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.8)	3.2	1/3	○		○		黄橙	白針
84	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	7.6	3.6	完形	○		○		黄橙	白針
85	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(8.5)	3.1	1/3	○		○		黄橙	白針
86	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.8)	3.1	1/2	○				橙	白針
87	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.5)	3.5	1/3	○		○		黄灰	白針
88	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.1)	3.0	3/4	○		○		淡橙	白針、やや粉質
89	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(8.2)	3.3	1/3	○		○		黄橙	白針、砂質
90	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.6	3.3	2/3	○		○		橙	白針
91	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	7.8	3.2	2/3	○		○		橙	白針
92	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(8.4)	4.0	1/3	○		○		黄橙	白針、砂質
93	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	9.8	3.3	4/5	○				黄橙	白針、やや粉質
94	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	8.9	3.4	4/5	○		○		橙	白針
95	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(9.0)	3.2	1/3	○		○		橙	白針
96	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(9.0)	2.8	1/2	○		○		黄橙	白針
97	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(9.3)	2.8	1/3	○		○		橙	白針
98	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(10.6)	3.1	1/3	○		○		黄橙	白針
99	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.0)	3.0	1/3弱	○				橙	白針
100	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	8.9	3.0	2/3	○		○		橙	白針
101	土器	手づくね かわらけ・極小	5.8	6.2	1.4	完形					黄灰	内折れ 白針
102	土器	手づくね かわらけ・極小	5.8	6.0	1.2	完形	○				黄灰	内折れ 白針
103	土器	手づくね かわらけ・大	11.2	9.7	3.3	4/5					黄橙	白針 口唇部に煤付着

図38 1面下～2面上出土遺物(3)

104	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	(14.8)	(4.2)	7.3	1/8以下					灰緑 不透明	大宰府Ⅲ-2類
105	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[4.1]	口小片					灰緑 半透明	大宰府Ⅲ-2類
106	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[3.5]	口小片					灰青 不透明	大宰府Ⅲ類カ
107	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[3.5]	口小片					灰緑 半透明	大宰府Ⅱ類カ
108	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	—	[1.4]	口小片					淡灰緑 不透明	大宰府坏Ⅲ類
109	磁器	白磁 口禿皿	(9.7)	—	[2.6]	口1/6					灰白 半透明	大宰府Ⅸ類
110	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.5]	口小片					灰白 透明	大宰府Ⅸ類
111	磁器	白磁 皿	—	(3.6)	[1.2]	底1/4					青味白 透明	大宰府Ⅸ類
112	磁器	白磁 口禿皿	—	(5.8)	[1.2]	底1/3					白 不透明	大宰府Ⅸ類
113	磁器	青白磁 皿	—	—	[2.1]	口小片					水青 透明	
114	磁器	青白磁 梅瓶蓋	5.2	天頂径 5.0	3.4	4/5					青灰 不透明	

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サヲ状	板状	スコ状		
115	磁器	青白磁 梅瓶蓋	(5.9)	—	[1.9]	1/3					灰白 不透明	
116	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	—	口小～ 底片					緑黄	
117	陶器	尾張型 特殊山茶碗	—	—	[2.2]	口小片					灰橙	
118	陶器	常滑 壺	(9.7)	—	[4.3]	口1/6～ 胴片					暗茶褐	長石
119	陶器	常滑 甕	—	—	[9.2]	口小～ 胴片					灰黒	5型式 白色粒・黒色粒
120	陶器	常滑 甕	—	—	[8.6]	口小～ 胴片					暗茶褐	5型式 長石・黒色粒
121	陶器	常滑 壺	—	—	[5.9]	口小～ 胴片					灰～ 灰黒	5～6型式 長石
122	陶器	常滑 甕	—	—	[6.5]	口小～ 胴片					暗灰褐	6型式
123	陶器	常滑 甕	—	—	—	肩小片					灰茶褐	長石・黒色粒
124	陶器	常滑 甕	—	(16.0)	[5.3]	底1/4					灰褐	
125	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[5.9]	口小片					灰	長石
126	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.8]	口小片					灰	長石
127	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[5.0]	口小片					灰	長石
128	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[3.9]	口小片					灰	長石
129	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.2]	口小片					灰白	
130	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[9.0]	口小片					茶褐	長石・黒色粒
131	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[4.9]	口小片					灰褐	
132	瓦質土器	火鉢	(35.2)	—	[9.5]	口1/4～ 体片					茶灰～ 灰黒	
133	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.2]	口小片					黄橙	胴部穿孔
134	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.4]	口小片					灰橙	
135	土器	火鉢	—	—	[5.4]	口小片					暗灰褐	黒色粒・赤色粒・白針
図39 1面下～2面上出土遺物(4)												
136	瓦	軒丸瓦	瓦当径 (15.5)	内区径 (7.8)	—	瓦当部					薄灰黒	三巴文
137	瓦	軒丸瓦	瓦当径 15.5	内区径 9.5	中房径 5.8	瓦当部					灰黒	顎面幅3.0 外区幅3.3 八葉複弁蓮華文(永福寺Ⅰ期)
138	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	狭端面 片側辺					黒灰	河内・和泉系(極楽寺出土) 粉質
139	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	両端不明					灰	白色粒・黒色粒
140	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.4	不明					暗灰橙	永福寺Ⅰ期 A類
141	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	不明					灰黒	永福寺C類に類似
図40 1面下～2面上出土遺物(5)												
142	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.4	狭端面 片側辺					灰黒	永福寺女瓦D類カ
143	土製品	円盤	径 5.5	—	厚さ 1.5	完形					黄灰	
144	石製品	砥石	長さ [6.2]	幅 [4.9]	厚さ 2.9	不明					灰黄	中砥 伊予産
145	石製品	砥石	長さ [6.6]	幅 5.1	厚さ 0.6	両端欠損					黄灰白	仕上げ砥(鳴滝)
146	鉄製品	釘	長さ 4.4	幅 0.6	厚さ 0.7	完形					—	
147	鉄製品	釘	長さ 5.9	幅 0.5	厚さ 0.5	完形					—	
148	鉄製品	釘	長さ [7.7]	幅 0.6	厚さ 0.6	下端欠損					—	
150	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.2	完形					—	嘉祐元寶 中国北宋代 1056年初鑄
151	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.2	完形					—	宣和通寶(行書) 中国北宋代 1119年初鑄
152	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.5	厚さ 0.1	完形					—	聖宋元寶(行書) 中国北宋代 1101年初鑄

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テ [△]	テ [▽] 状	板状	スコ状		
153	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	祥符通寶(行書) 中国北宋代 1008年初鑄
154	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形						紹聖元寶 中国北宋代 1094年初鑄
図41 2面直上出土遺物(1)												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.4)	1.4	1/3	○				橙	白針
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(6.7)	1.3	口小～ 底3/4	○				橙	白針 口縁部打ち欠き
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.4	1.6	4/5	○		○		黄灰	白針 口縁部一部擦痕+切り込み痕
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.3	1.6	4/5	○		○		橙	白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.4	1.3	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針 口縁部一部打ち欠き
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.5	1.5	4/5	○		○		暗灰	白針 内外面全体に煤付着
7	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.1	1.4	3/4	○		○		黄灰	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.1)	1.5	口小～ 底3/4	○		○		橙	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.2)	1.7	1/2	○				黄橙	白針 口縁部打ち欠き
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(7.1)	1.6	1/6	○		○		黄橙	白針 口縁部黒色の付着物、内外面全体 に赤色の付着物
11	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(5.7)	1.6	1/2	○		○		橙	白針 口唇部に煤付着
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.2)	1.5	2/3	○		○		黄灰	白針 口縁部打ち欠き
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.2)	1.5	1/2	○		○		黄橙	白針
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.5	1.5	4/5	○				橙	白針
15	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	6.4	1.3	1/2	○		○		黄灰	白針 口唇部の一部に煤付着
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(7.2)	1.5	2/3	○		○		黄灰	白針 口縁部打ち欠き
17	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.4	1.5	2/3	○		○		黄橙	白針
18	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.0)	1.3	2/3	○		○		黄灰	白針 口縁部打ち欠き
19	土器	手づくね かわらけ・小	7.6	5.6	1.6	1/2	○				橙	白針
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(7.1)	1.5	1/2	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
21	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.6	1.6	2/3	○		○		黄橙	白針
22	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.5	1.6	2/3	○		○		黄灰	白針 口唇部に煤付着
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.3)	1.5	1/3	○		○		黄灰	白針 口縁部打ち欠き
24	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.6	1.5	1/2	○		○		黄灰	白針 打ち欠き 内外面に煤付着
25	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(7.4)	1.7	1/2	○		○		黄橙	白針 口縁部一部に擦痕 口縁部煤付着
26	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.5)	1.6	1/2	○				黄灰	白針
27	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.9	1/2	○		○		橙	白針
28	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(5.9)	1.6	4/5	○		○		黄橙	白針
29	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.9	1.7	ほぼ完形	○				橙	白針
30	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.2)	1.6	2/3	○		○		黄橙	白針 打ち欠き 内面中央部に浅い凹み(焼成前)
31	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.3	1.6	4/5	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
32	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	1.6	4/5	○		○		黄灰	白針 口縁部煤付着+擦痕
33	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.9	1.7	4/5	○		○		橙	白針
34	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	5.7	1.6	1/2	△		○		黄橙	白針 口縁部注口状
35	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.8)	1.8	1/2	○		○		黄灰	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	斜ラ状	板状	スコ状		
37	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.2	1.7	3/4	○		○		黄灰	白針
38	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.5	1.6	4/5	○		○		橙	白針 口縁部に擦痕
39	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.8	1.7	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口唇部一部に煤付着
40	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.0)	1.9	1/2	○				橙	白針
41	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.5)	1.8	1/3	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
42	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	6.4	1.6	4/5	△		○		黄橙	白針 内外面一部に煤付着
43	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	(6.9)	1.7	1/3	○				黄灰	白針
44	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.2)	1.8	2/3	○		○		橙	白針 内面に煤付着
45	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.4	1.8	完形	△		○		橙	白針 口縁部打ち欠き
46	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	5.5	1.7	4/5	○		○		黄橙	白針
47	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.1	1.5	完形	○				黄灰	白針 口縁部打ち欠き
48	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	7.0	1.7	4/5	○		○		黄灰	白針
49	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(6.5)	2.1	1/2	○		○		黄橙	白針
50	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.4)	1.7	2/3	○		○		黄灰	白針
51	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.9	1.7	完形	○				黄橙	白針 口唇部一部に煤付着
52	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.8	1.6	完形	○		○		黄灰	白針 口縁部一部打ち欠き、煤付着
53	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.0	1.9	完形	○		○		黄灰	白針 口縁部に煤付着
54	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.5)	1.6	1/3	○		○		黄灰	白針 口縁部打ち欠き
55	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(7.0)	1.9	1/3	○		○		黄橙	白針
56	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.0	1.7	完形	○		○		橙	白針 口縁部打ち欠き
56	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.7)	1.7	1/2	○		○		黄灰	白針 口縁部一部に擦痕
57	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.1	2.1	3/4	○		○		橙	白針 全体の1/4を打ち欠く
58	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	5.6	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	白針 口縁部に擦痕
59	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.2	1.9	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 内外煤付着 口縁部打ち欠き+切り込み痕
60	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.2)	1.9	2/3	○		○		黄灰	白針 口縁部一部打ち欠き 内外面黒色に変色
61	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.0)	2.5	1/3					橙	白針
62	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(8.3)	2.7	1/3	○		○		黄橙	白針 外面に煤付着
63	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(9.3)	2.7	1/3	○		○		橙	白針 口縁部一部に煤付着
64	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(8.9)	3.0	1/3	○		○		黄橙	白針
65	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	7.8	2.8	4/5	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
66	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.9)	(7.3)	2.7	1/3	○		○		黄橙	白針
67	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.3)	(8.5)	2.8	1/3	○				黄橙	白針 口縁部一部に擦痕
図42 2面直上出土遺物(2)												
68	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.7	2.9	ほぼ完形	○		○		橙	白針
69	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	8.8	2.9	ほぼ完形	○		○		橙	白針
70	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(8.0)	3.0	1/4	○		○		黄橙	白針 内面一部に煤付着
71	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.3	3.0	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
72	土器	ロクロ かわらけ・大	12.6	8.9	3.1	3/4	○				橙	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テ ラ	テラ 状	板 状	スコ 状		
73	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(9.5)	3.1	1/3	○		○		黄橙	白針
74	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.1	3.1	1/2	○				黄橙	白針 口縁部打ち欠き
75	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.7	3.0	4/5	○				黄橙	白針
76	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	9.0	3.1	4/5	○		○		橙	白針
77	土器	ロクロ かわらけ・大	11.8	7.7	3.1	完形	○		○		橙	白針 内外面に煤付着
78	土器	ロクロ かわらけ・大	11.6	8.0	3.1	完形	○		○		橙	白針 内外面一部に煤付着
79	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	8.5	3.0	完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き、煤付着
80	土器	ロクロ かわらけ・大	11.9	8.6	3.3	4/5	○		○		黄橙	白針 口縁打ち欠き
81	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.9	3.2	1/3	○		○		黄橙	白針
82	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.3	3.1	完形	○		○		橙	白針
83	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(7.9)	3.3	1/2	○		○		橙	白針
84	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	9.0	3.1	1/3	○				黄橙	白針
85	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.7)	(8.0)	3.2	1/2	○		○		黄橙	白針 口縁部一部つまみ出し
86	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	8.4	3.4	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
87	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(8.6)	3.2	1/3	○		○		橙	白針 内面黒色に変色
88	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	8.3	3.2	完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
89	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.4	3.4	ほぼ完形	△		○		黄橙	白針
90	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(9.3)	3.8	1/2	○		○		黄灰	白針
91	土器	ロクロ かわらけ・大	11.5	8.1	3.5	4/5	○				黄灰	白針
92	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(7.8)	3.6	口1/6					黄橙	搬入系
93	土器	白かわらけ 手づくね・極小	(4.0)	—	0.6	口1/4					黄白	内折れ
94	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	1.8	ほぼ完形	○				黄灰	白針
95	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	—	1.7	1/4	○				黄橙	白針 底部外面に煤付着
96	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	2.1	完形	○				黄灰	白針 口縁部に煤付着
97	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	2.1	4/5	○				黄橙	白針
98	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.9	2/3	○				橙	白針
99	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.9	1/4	○				黄橙	白針
100	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	—	1.8	1/2	○				黄橙	白針
101	土器	手づくね かわらけ・小	(8.3)	—	1.7	1/3	○				橙	白針
102	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	1.9	1/4	○				黄橙	白針
103	土器	手づくね かわらけ・大	12.3	—	3.3	ほぼ完形	○				黄橙	白針
104	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	—	3.2	1/3	○				黄灰	白針 底部内面中央に煤付着
105	土器	手づくね かわらけ・大	12.8	—	3.2	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
106	土器	手づくね かわらけ・大	(14.1)	—	[3.4]	1/3	○				黄灰	白針 口縁部に黒色の付着物
107	土器	手づくね かわらけ・大	13.2	—	3.5	4/5	○				橙	白針 底部外面に煤付着
108	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	3.8	1/3	○				黄灰	白針
109	土器	手づくね かわらけ・特大	(14.6)	—	[5.0]	1/6					黄灰	内外煤付着 体部外面下部ヨコミガキ
110	土器	ロクロ 白かわらけ・大	—	—	[3.1]	口小～ 底小	○				黄白	

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サヲ状	板状	スコ状		
111	土器	手づくね 白かわらけ・大	—	—	[3.5]	口小～ 底小					黄白	
図43 2面直上出土遺物(3)												
112	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	(12.7)	(5.0)	[5.3]	底小 1/4					灰青 半透明	大宰府Ⅱ類 非接合片から図上復元
113	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[4.1]	口小片					緑灰 透明	大宰府Ⅱ類
114	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	(6.2)	[1.7]	底1/4					灰 透明	大宰府Ⅲ類
115	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.6]	口小片					青灰 透明	大宰府Ⅰ類
116	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	(5.6)	[3.0]	底1/2					灰 透明	大宰府Ⅰ-3類
117	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	5.8	[1.8]	底2/3					灰青 透明	大宰府Ⅰ類
118	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	(5.4)	[1.8]	底1/2					灰緑 半透明	大宰府Ⅰ-3類
119	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	(4.2)	[1.5]	底完存					青灰 半透明	大宰府Ⅱ-d類 底部内面に「河濱遺範」の印文
120	磁器	龍泉窯系青磁 皿	(9.2)	—	[1.8]	口1/8					灰 透明	大宰府Ⅰ類カ
121	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	—	[3.4]	口小片					灰緑 不透明	大宰府ⅢorⅣ類の相似形 二次焼成を受ける
122	磁器	龍泉窯系青磁 折縁皿	—	—	[2.4]	口小片					灰青 不透明	外面に蓮弁文カ
123	磁器	龍泉窯系青磁 折腰皿	—	—	[2.6]	口小片					灰青 半透明	大宰府Ⅲ-1類カ
124	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文皿	—	(5.0)	[0.9]	底1/4					灰 透明	大宰府Ⅰ類
125	磁器	白磁 口禿碗	—	4.0	[2.5]	体片～ 底完存					青白 透明	大宰府Ⅸ類
126	磁器	白磁 口禿皿	(10.1)	(7.0)	1.9	口小～ 底1/4					灰白 不透明	大宰府Ⅸ類
127	磁器	白磁 皿	—	(3.6)	[1.7]	底2/3					青白 透明	
128	磁器	白磁 皿	—	(3.0)	[1.5]	底1/4					青白 透明	
129	磁器	青白磁 合子蓋	(4.9)	天頂径 (4.1)	1.5	1/4					緑灰 透明	
130	磁器	青白磁 梅瓶	—	—	—	体片					灰青 透明	
131	磁器	青白磁 合子蓋	(8.8)	天頂径 (8.6)	2.0	1/4					水 透明	
132	磁器	青白磁 壺類	—	—	—	体片					青白灰 透明	
133	磁器	青白磁 小壺カ	—	(3.3)	[1.5]	底1/4					水 透明	または合子身カ 二次焼成を受ける
134	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	[2.8]	口小片					黄灰	
135	陶器	褐釉四耳壺	(11.0)	—	[21.5]	口3/4 ～肩部					茶褐	長石
図44 2面直上出土遺物(4)												
136	陶器	南部系 山茶碗	—	—	[3.9]	口小片					灰	渥美・湖西型カ 長石
137	陶器	尾張型 山茶碗	(14.6)	(7.0)	5.6	口小～ 底2/3					灰	長石
138	陶器	尾張型 山茶碗	—	—	[5.6]	口小～ 底片					灰	長石
139	陶器	南部系 山茶碗	—	(7.0)	[0.9]	底1/4					灰	渥美・湖西型カ 長石
140	陶器	尾張型 山茶碗	—	—	[2.9]	口小片					灰	長石
141	陶器	尾張型 小皿	—	(4.7)	[0.6]	底1/4					灰	長石
142	陶器	常滑 壺	(9.0)	—	[7.3]	口1/4～ 胴片					暗灰	長石
143	陶器	常滑 壺	—	—	[2.8]	胴片					暗茶褐	長石
144	陶器	常滑 甗	(40.4)	—	[8.5]	口1/6～ 胴片					灰緑～ 黒褐	5型式 長石
145	陶器	常滑 甗	(40.4)	—	[9.2]	口1/4～ 胴片					暗褐～ 灰褐	5～6型式 長石
146	陶器	常滑 甗	—	—	[8.7]	口小～ 胴片					灰緑	5型式 長石
147	陶器	常滑 甗	—	—	[8.0]	口小～ 胴片					褐	5型式 長石

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サヲ状	板状	スコ状		
148	陶器	常滑甕	—	—	[9.3]	口小～胴片					灰	6型式長石
149	陶器	常滑甕	—	—	[6.4]	口小～胴片					緑灰～暗緑	6型式長石
150	陶器	常滑甕	—	—	[5.8]	口小～胴片					茶褐	5～6型式長石
151	陶器	常滑甕	—	—	[7.0]	口小～胴片					褐	6型式長石
152	陶器	常滑甕	—	(14.5)	[8.3]	底1/3					茶褐	長石
153	陶器	常滑甕	—	(19.2)	[4.0]	底1/3					灰橙	長石
図45 2面直上出土遺物(5)												
154	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(36.5)	—	[9.7]	口1/4					灰	長石 内面使用により摩耗
155	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(30.0)	—	[8.0]	口1/4					灰	長石 内面使用により摩耗
156	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[14.1]	口小～底小片					灰	長石 口縁部に煤付着
157	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[7.8]	口小片					灰	長石
158	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.8]	口小片					灰	長石 内面使用により摩耗
159	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	14.0	[8.1]	体片～底完存					灰	長石 内面使用により摩耗
160	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[8.3]	口小片					茶褐	長石
161	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	(32.8)	—	[8.6]	口小～底1/6					灰～暗灰	長石
162	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.7]	口小片					灰褐	長石
163	陶器	渥美甕	—	—	[4.6]	口小片					暗灰	
164	陶器	常滑甕	—	—	—	体片					暗灰	長石
図46 2面直上出土遺物(6)												
165	土器	火鉢	—	—	[6.0]	口小片					灰白	河野Ⅱ類(C類)
166	土器	火鉢	—	—	[5.0]	口小片					灰橙	黒色粒
167	瓦器	坏	—	—	[2.9]	口小片					灰	輪花形白色粒
168	瓦器	碗	—	—	[2.7]	口小片					灰	輪花形白色粒
169	瓦器	碗	—	—	[3.6]	口小片					灰	輪花形白色粒
170	瓦器	手づくね内折れ皿	(6.9)	—	1.0	1/6					灰	白色粒
171	瓦器	手づくね内折れ皿	(4.9)	—	0.7	1/4					灰	白色粒
172	瓦	軒丸瓦	瓦当径14.4	内区径8.1	中房径3.7	瓦当部					黒灰	蓮華文外区幅3.2
173	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.0	広端面片側辺					黒灰	壬生寺系 黒色粒・白色粒
174	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.7	狭端面片側辺					灰	永福寺Cord類 白色粒
図47 2面直上出土遺物(7)												
175	瓦	平瓦	長さ[27.9]	幅21.0	厚さ3.8	狭端面両側辺					黄橙	中央に釘穴
図48 2面直上出土遺物(8)												
176	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.9	狭端面片側辺					黒灰	永福寺女瓦A類 白色粒
177	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.4	狭端面片側辺					灰	白色粒
178	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.5	不明					赤褐	永福寺女瓦F類 長石
図49 2面直上出土遺物(9)												
179	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.2	狭端面片側辺					灰	永福寺女瓦A類 白色粒
180	瓦	丸瓦	—	—	厚さ2.5	玉縁～筒部					黄橙	白色粒
181	瓦	平瓦転用品用途不明	長さ11.9	幅7.2	厚さ2.3	不明					灰	側面を削り整形
182	土器	壺	—	(6.7)	[2.1]	1/3					黄橙	

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サヲ状	板状	スコ状		
183	土製品	かわらけ転用 円盤	直径 3.2	—	厚さ 0.5	完形					黄橙	白針
図50 2面直上出土遺物(10)												
184	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ 3.4	幅 3.0	厚さ 0.9	ほぼ完形					灰橙	加工途中カ
185	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ [6.5]	幅 [5.0]	厚さ 1.4	不明					灰	温石カ 加工途中
186	石製品	滑石鍋転用品 温石	長さ [6.7]	幅 [4.1]	厚さ 1.3	一部欠損					暗黒灰	
187	石製品	滑石鍋転用品 温石	長さ 14.2	幅 7.0	厚さ 1.6	一部欠損					灰	
188	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ [10.2]	幅 8.4	厚さ [2.0]	不明					黒灰	温石カ 加工途中
189	石製品	硯	長さ [5.2]	幅 [5.9]	厚さ 1.4	不明					灰褐	中国北部産 玄武岩質
190	石製品	砥石	長さ [6.7]	幅 [5.1]	厚さ 3.3	一部残存					灰褐	荒砥
191	石製品	砥石	長さ [4.0]	幅 4.5	厚さ 1.3	両端欠損					黄灰	中砥
192	石製品	砥石	長さ [8.5]	幅 [3.0]	厚さ 1.5	一部残存					灰	仕上げ砥
193	石製品	軽石 加工品	長径 7.5	短径 6.3	厚さ 5.7	不明					黄灰	全体に研磨痕
194	鉄製品	釘	長さ 10.7	幅 0.7	厚さ 0.6	完形					—	
195	鉄製品	釘	長さ 7.4	幅 0.5	厚さ 0.3	完形					—	
196	鉄製品	釘	長さ 7.4	幅 0.8	厚さ 0.5	完形					—	
197	鉄製品	釘	長さ 9.8	幅 0.6	厚さ 0.5	完形					—	
図51 2面直上出土遺物(11)												
198	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	元豊通寶(篆書) 中国北宋代 1078年初鑄
199	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	皇宋通寶(篆書) 中国北宋代1038年初鑄
200	銅製品	銭	直径 2.6	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	祥符通寶(真書) 中国北宋代 1009年初鑄
201	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	嘉祐元寶(行書) 中国北宋代 1056年初鑄
202	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	淳熙元寶(行書) 中国南宋代 1174年
203	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	景德元寶(行書) 中国北宋代 1004年初鑄
204	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	天聖元寶(篆書) 中国北宋代 1023年初鑄
205	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	開元通寶(行書) 中国唐代 621年初鑄
206	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	元祐通寶(行書) 中国北宋代 1086年初鑄
207	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	聖宋元寶(篆書) 中国北宋代 1101年初鑄
208	銅製品	銭	直径 2.6	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	政和通寶(篆書) 中国北宋代 1111年初鑄
209	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	宋通元寶 中国北宋代 960年初鑄
210	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	嘉祐通寶(篆書) 中国北宋代 1056年初鑄
211	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	天口通寶(行書)
212	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形 二枚重ね					—	聖宋元寶 中国北宋代 1101年初鑄
213	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	景德元寶(行書) 中国北宋代 1004年初鑄
214	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	景德元寶(行書) 中国北宋代 1004年初鑄
215	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	元□□□ 判読不明
216	銅製品	銭	直径 2.6	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	□□元寶 (行書)判読不明

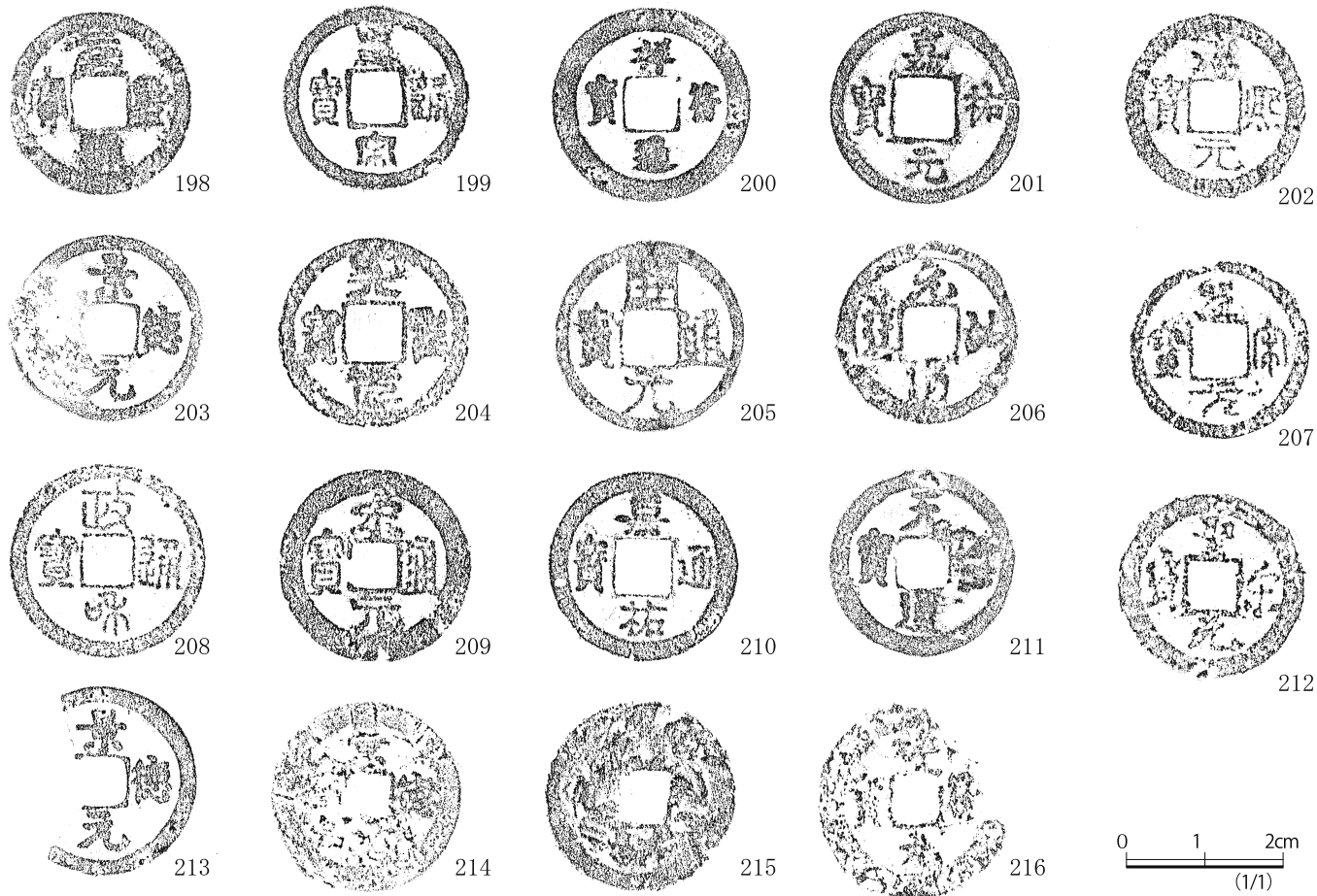


図 51 2面直上出土遺物 (11)

第4節 2面の遺構と遺物

2面の検出遺構 (図 52 ~ 58)

2面は標高 11.8 ~ 11.9 m前後で検出された。地点 I では土坑・ピット多数の他、南北に延びる溝状遺構が検出された。ピットは多数が重複して確認されたものの柱並びの復元には至らなかった。溝 1 は北端は確認できたが南側は調査区外に続き、6 m以上の長さをもつことが確認された。上幅は 100 cm、底面幅は 60 ~ 70 cmを測る。底面は平坦で横断面は矩形~逆台形に近い。確認面からの深さは最大で 40 cmを測り、底面標高は 11.5 ~ 11.7 mで南側が深い (図 54)。

地点 II では1面と同じ位置で南北に延びる道路状遺構が検出され、東西両辺では小規模な側溝も検出された。N18° Eで延び、やはり現行の荏柄天神社参道と概ね同方向である。路面幅は 3.8 mで、調査範囲の中では 5.8 mの長さまで確認できた。西側溝の溝 01 は上幅 50 cm、底面幅 35cmを測り、断面形が U字形を呈する。東側溝の溝 02 は東肩が調査区外に位置するため、正確な幅員は確認できなかった。ともに路面から 20 ~ 40 cmの深さを有し、底面標高は 11.7 ~ 11.9 m前後を測り南側が僅かに低い。

その他、2面検出の土坑については、図 56 ~ 58 を参照されたい。

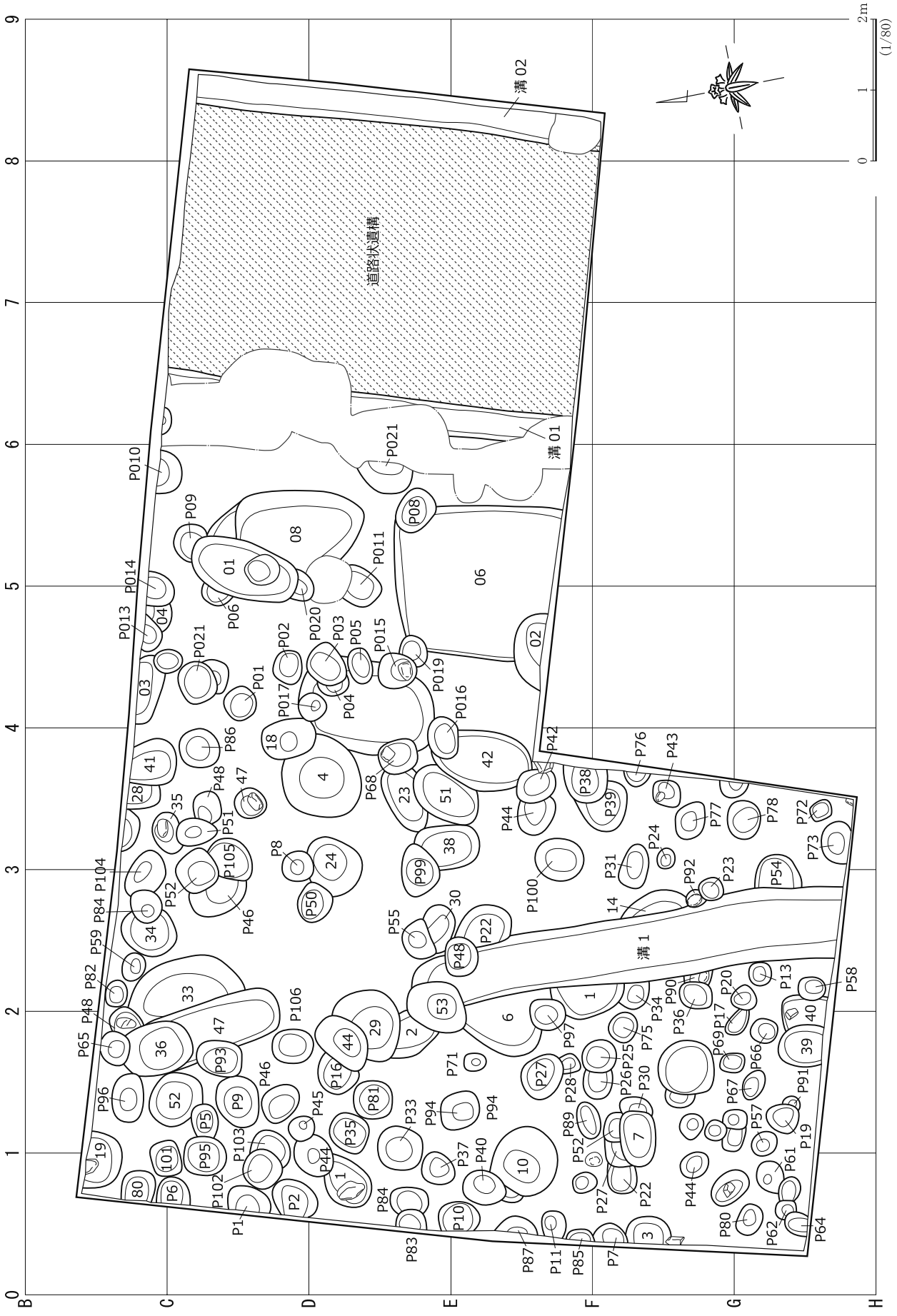
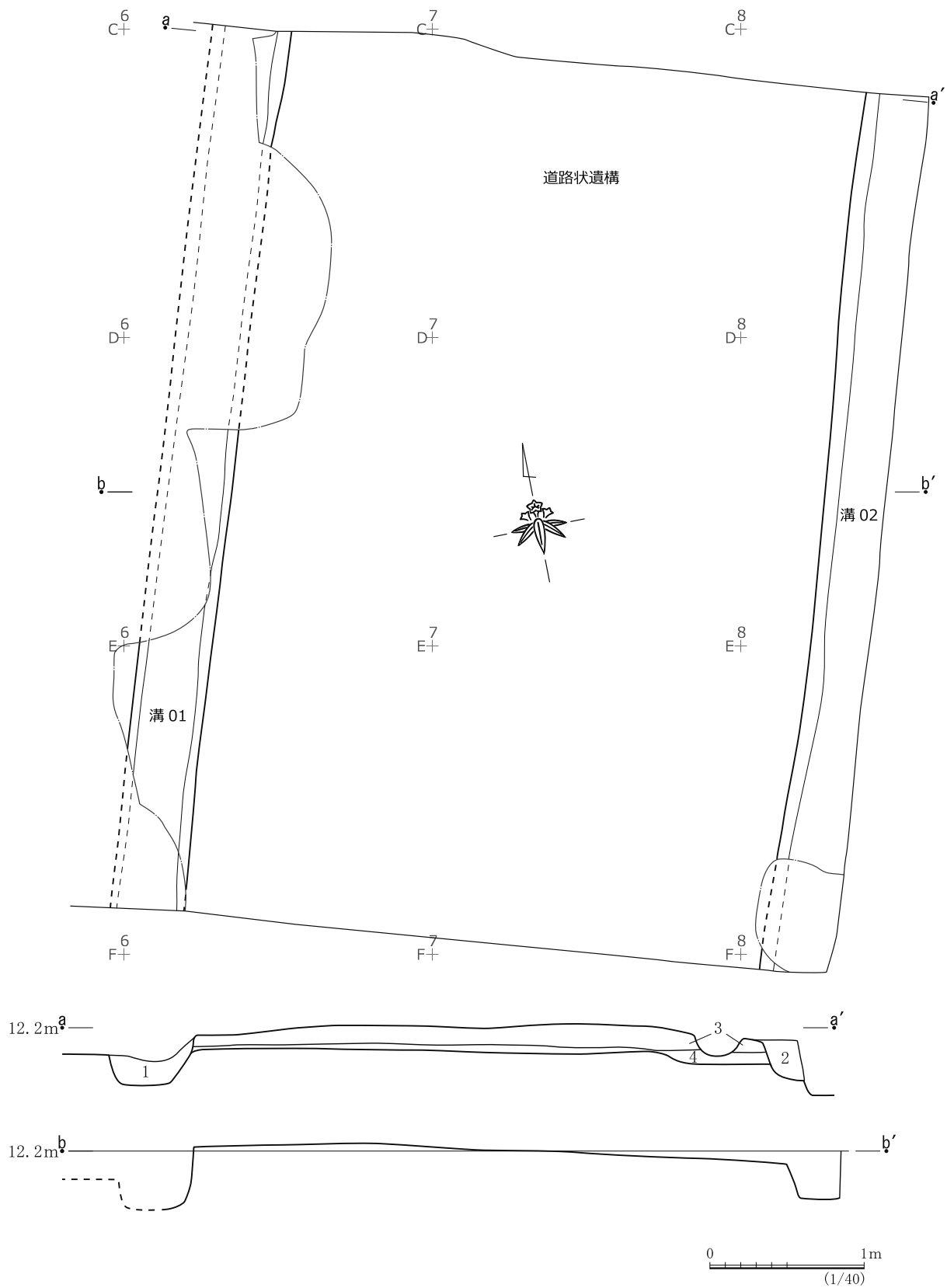


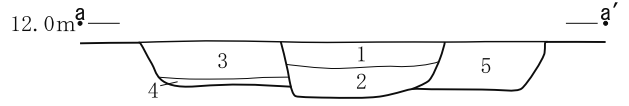
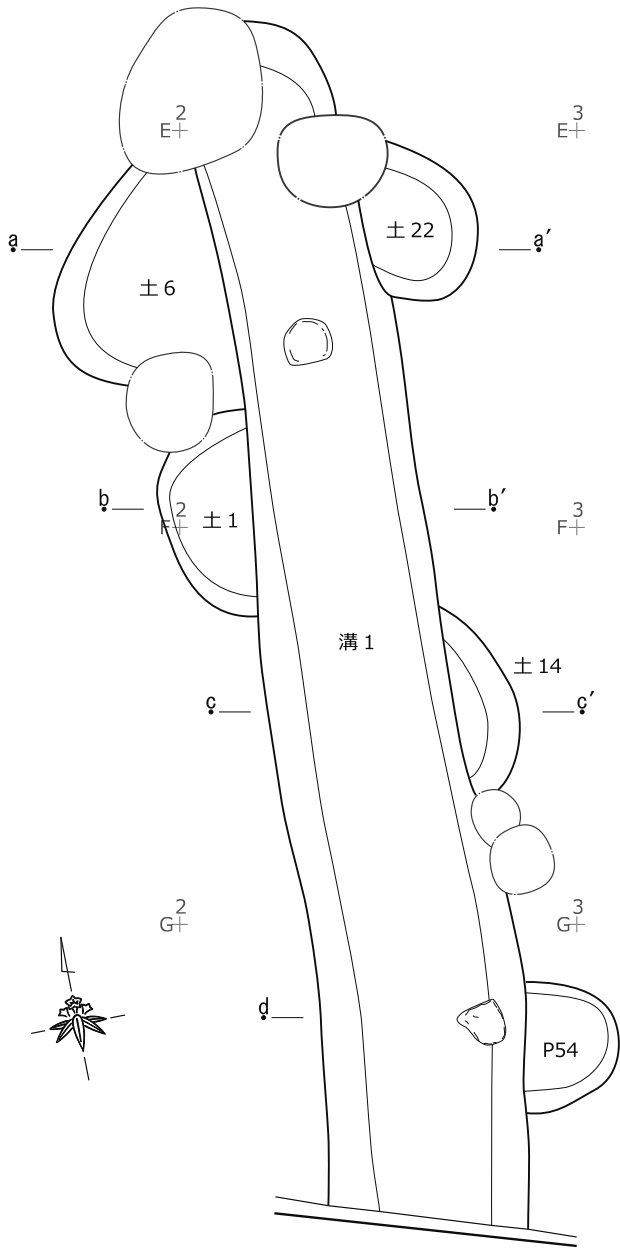
图 52 2面全体图



道路状遺構、溝01・02 土層説明

- | | | | |
|-------|---|------|-------------------------------|
| 溝01 | 1 | 褐色土 | 砂質土。5～10cm大の泥岩ブロック多量。縮まりややあり。 |
| 溝02 | 2 | 灰褐色土 | 弱粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒少量。縮まりややあり。 |
| 道路状遺構 | 3 | 褐色土 | 粘質土。40cm大の泥岩ブロック多量。道路整地層。 |
| | 4 | 黄褐色土 | 弱粘質土。混入物なし。縮まりあり。 |

図53 2面 道路状遺構、溝01・02



2面 溝1、土坑6·22 土層說明

- 溝1 [1 暗褐色土 弱粘質土。炭粒多量、泥岩粒少量。
 2 褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。
 土坑6 [3 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。
 4 炭層
 土坑22 [5 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。

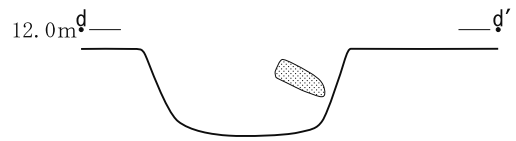


图 54 2面 溝1、土坑

²
D+

³
D+

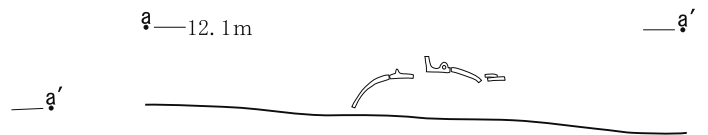
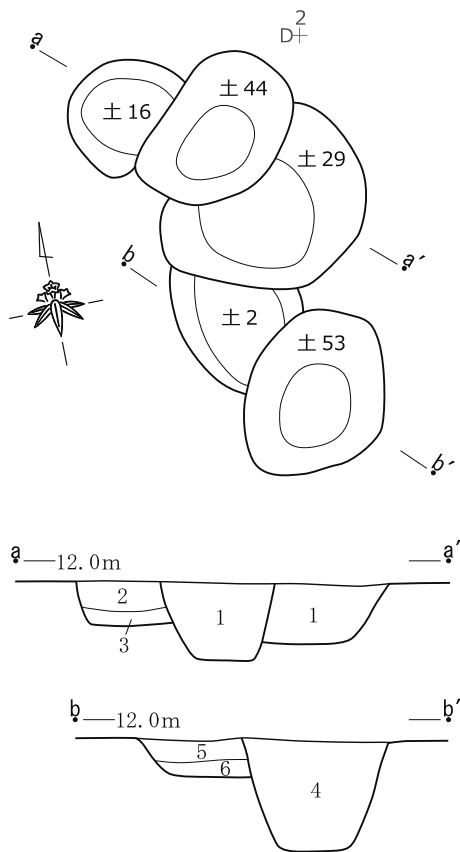
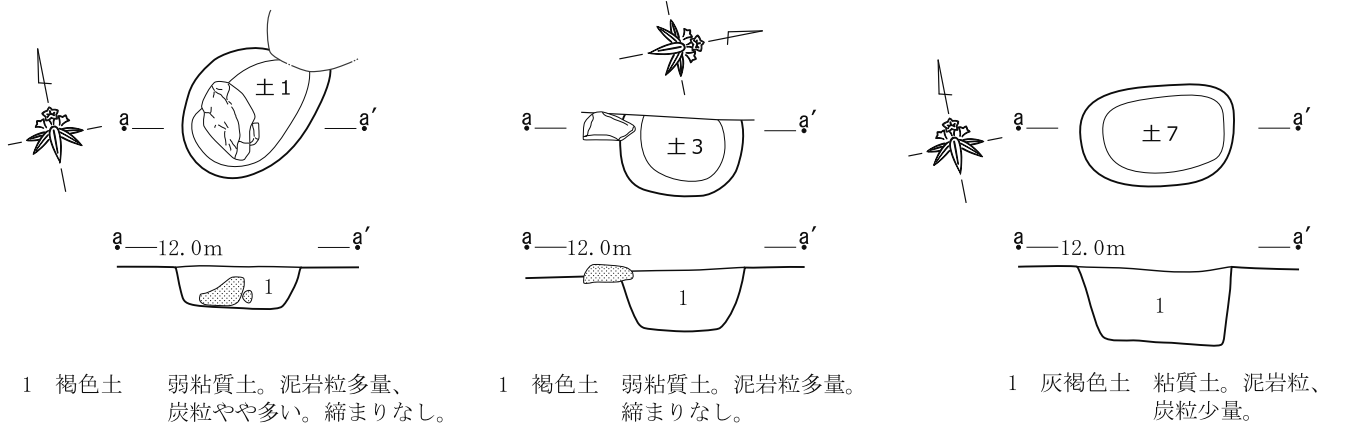
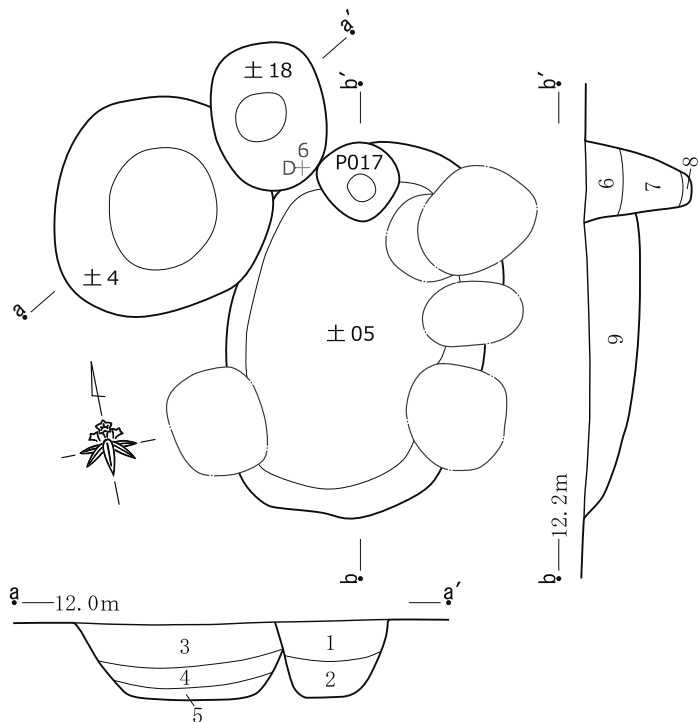


图 55 2面 褐釉壺出土狀況



- 土坑 29・44 1 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。
 2 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。
- 土坑 16 3 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。
- 土坑 53 4 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。
- 土坑 2 5 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。
 6 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量。縮まりなし。



- 土坑 18 1 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。
 2 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。
- 土坑 4 3 褐色土 粘質土。泥岩粒多量。
 4 炭層
 5 褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒微量。
- Pit 017 6 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒多量。縮まりなし。
 7 明褐色土 砂質土。炭粒少量。縮まりややあり。
 8 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。縮まりなし。
- 土坑 05 9 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。縮まりややあり。

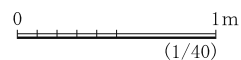
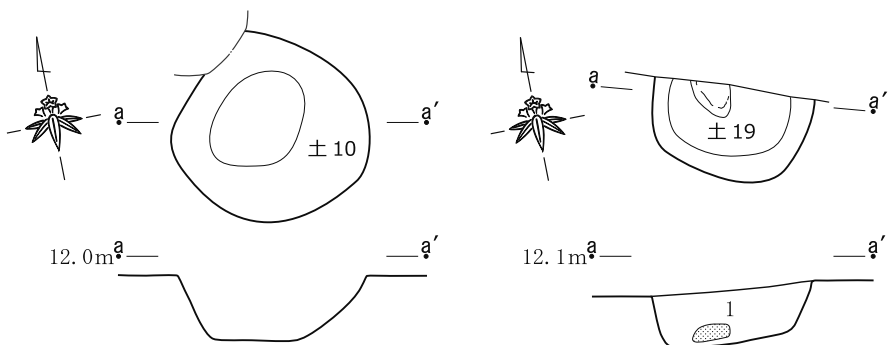
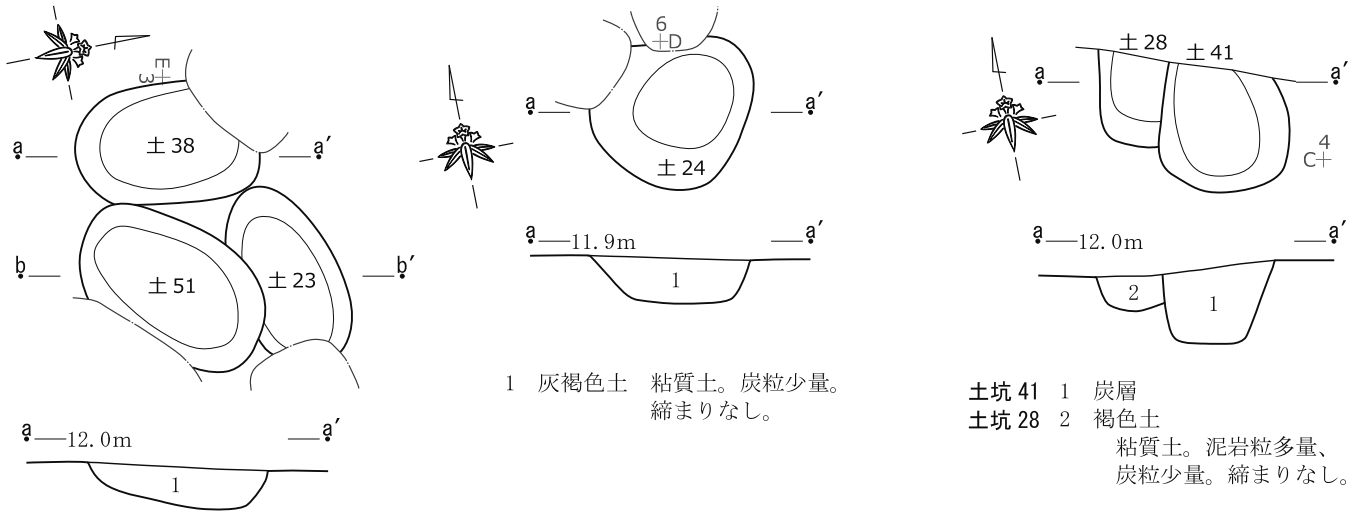
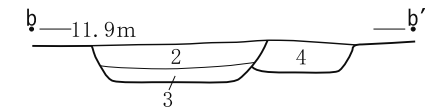


図 56 2面 土坑 (1)

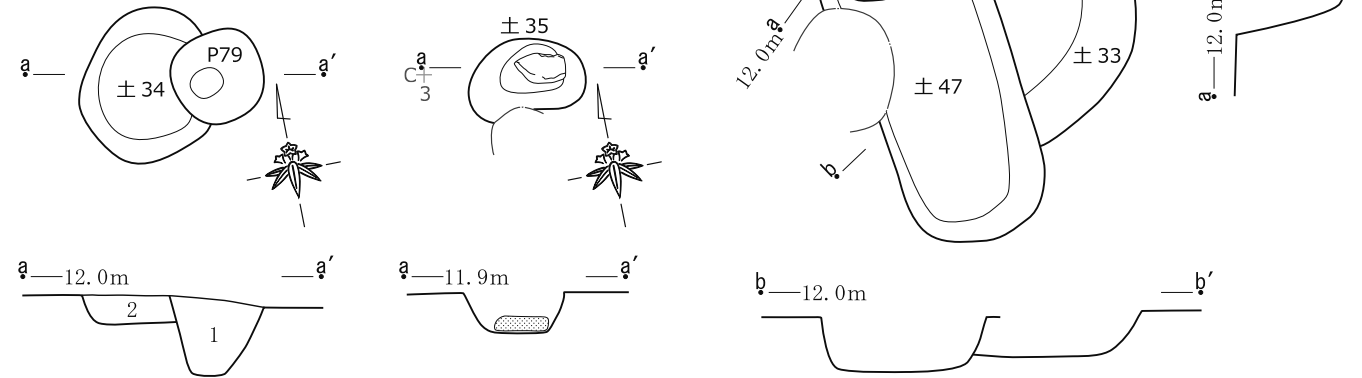


1 灰褐色土 粘質土。炭粒少量。
縮まりなし。

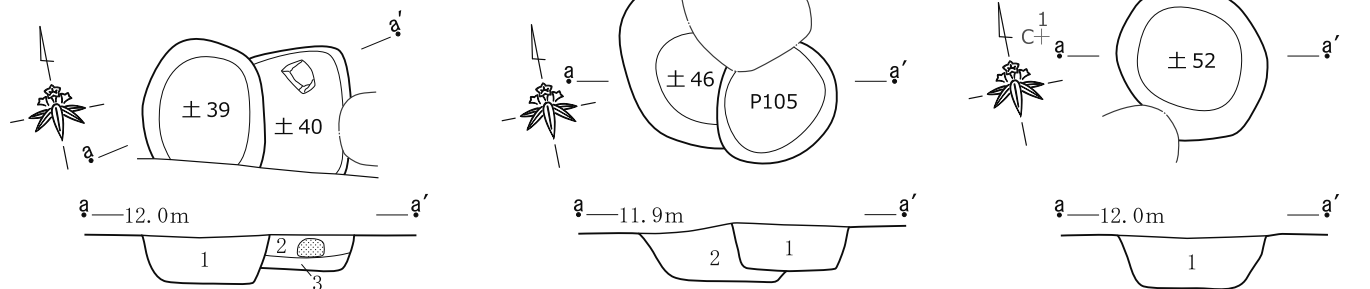
土坑 41 1 炭層
土坑 28 2 褐色土
粘質土。泥岩粒多量、
炭粒少量。縮まりなし。



土坑 38 1 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。
土坑 51 2 灰褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量。
土坑 23 3 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。
土坑 23 4 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。



Pit79 1 灰褐色土 粘質土。泥岩粒、
炭粒少量。
土坑 34 2 褐色土 粘質土。泥岩粒、
炭粒やや多い。



土坑 39 1 灰褐色土
粘質土。泥岩粒、炭粒少量。

土坑 40 2 暗褐色土
弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒多量。
土坑 40 3 灰褐色土
粘質土。泥岩粒、炭粒少量。

Pit105 1 褐色土
粘質土。泥岩粒、炭粒少量。
縮まりなし。

土坑 46 2 暗褐色土
弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。
縮まりなし。

1 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、
炭粒少量。

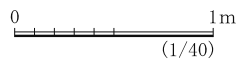
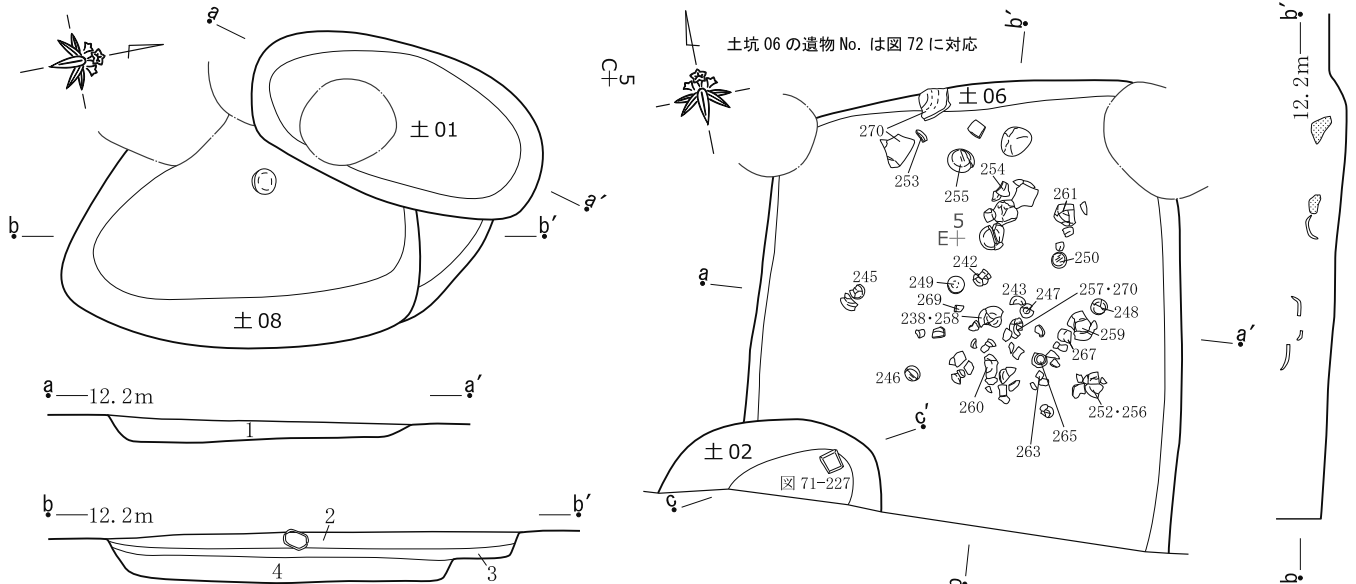
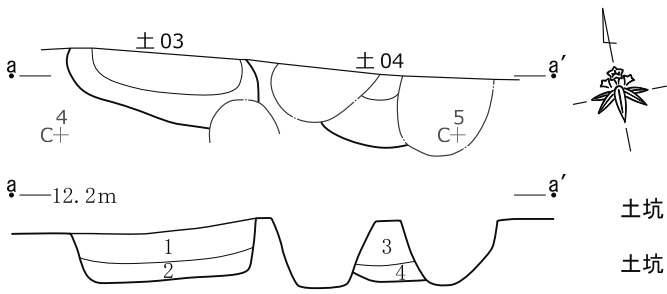
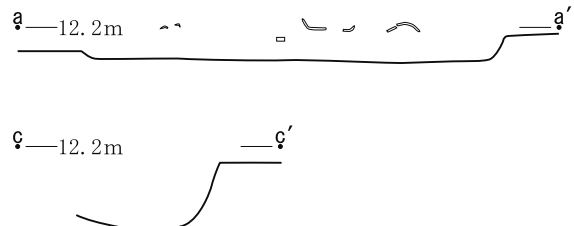


図 57 2面 土坑 (2)



- 土坑 01 1 暗褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック多量、炭粒少量。
縮まりなし。
- 土坑 08 { 2 褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック多量。
3 炭層
4 灰褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒やや多い。
縮まりなし。



- 土坑 03 { 1 灰褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりなし。
2 黄灰色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。縮まりなし。
- 土坑 04 { 3 灰褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、炭粒少量。縮まりなし。
4 炭層 泥岩粒少量。縮まりなし。

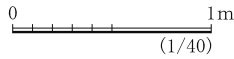


図 58 2 面 土坑 (3)

2面遺構の出土遺物（図59～83、表5）

遺物個々の説明については省略するので、各図ならびに遺物観察表（表5）を参照されたい。

全体の傾向を述べると、かわらけはロクロ成形品が主体となるも手づくね成形品も少量だが含まれている。ロクロかわらけに確実な中型品は見られず、大・小ともに底広で低平な資料が中心となる。常滑の甕は5型式が大部分を占め、6型式に下る資料は僅かである。舶載陶磁器は遺存良好な資料が少ないものの白磁碗Ⅸ類も何点か見られるので、極端には古く遡らないだろう。瓦質火鉢はかわらけ質に近いⅡA類があり、瓦は永福寺Ⅱ期の製品が入る。総体としては13世紀中葉頃の遺物構成といえるだろう。特異な遺物に図71-227の線刻硯がある。裏面に針状工具による細線で「(賀摩具羅(鎌倉))」など複数の漢字が刻まれている。現時点では十分に読み切れていないが、「龍王殿」や「陀羅」といった仏典に関わる字句が記されたものと推察できる。図72-268は底部内面に焼成前の放射状刻線が施され、1面遺構出土の図20-25などと同一個体と考えられる。

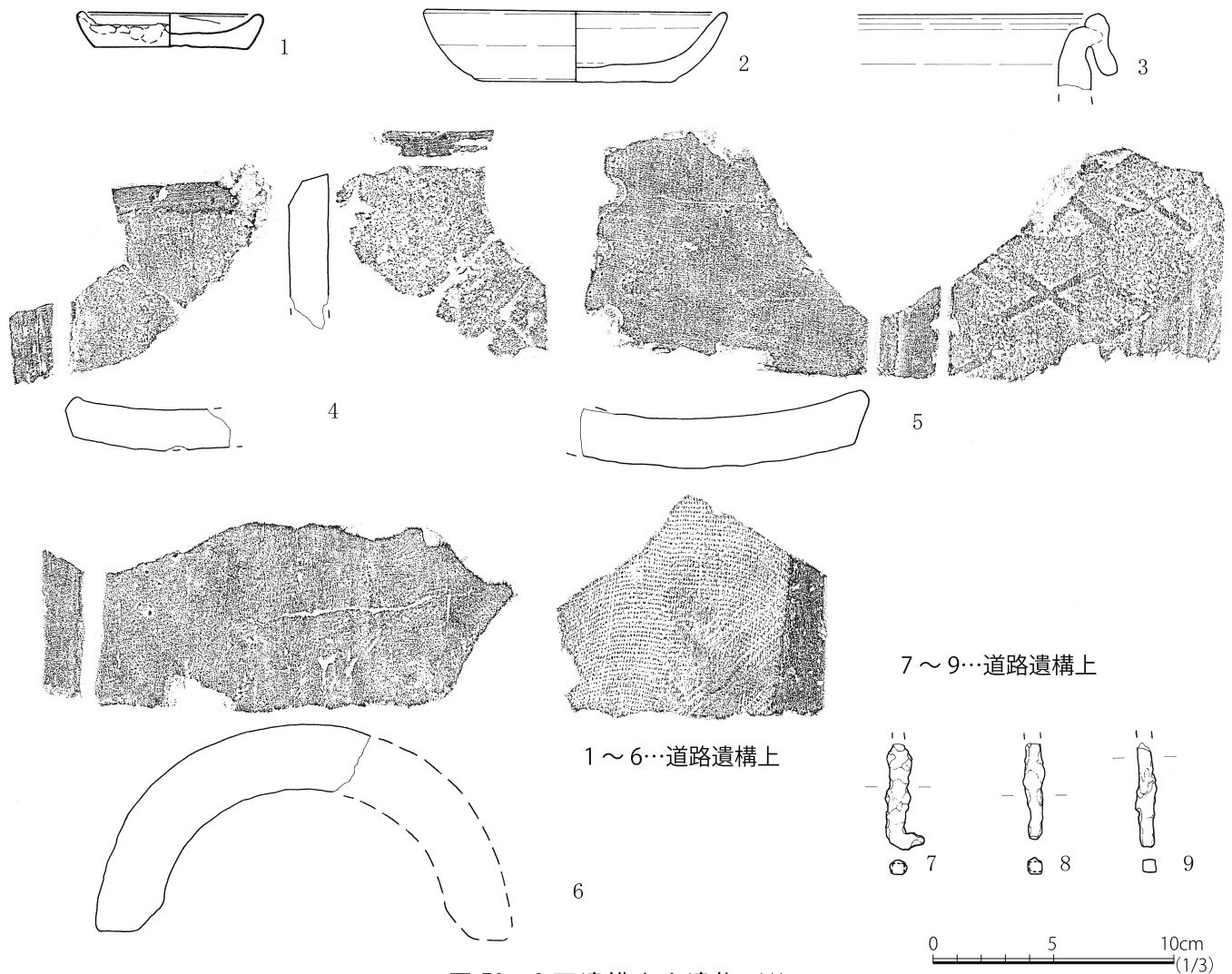


図59 2面遺構出土遺物（1）

表5 2面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ナヲ状	板状	スコ状		
図59 2面遺構出土遺物(1)												
1	土器	ロクロかわらけ・小	7.4	6.3	1.4	ほぼ完形	○		○		橙	2面道路状遺構 白針 口縁部打ち欠き
2	土器	ロクロかわらけ・大	12.4	7.7	3.0	3/4	○		○		橙	2面道路状遺構 白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	斜ラ状	板状	スコ状		
3	陶器	常滑甕	—	—	[3.1]	口小片					灰褐	2面道路状遺構 6b型式 長石
4	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.6	狭端面 片側辺					灰	2面道路状遺構 白色粒
5	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	広端面 片側辺					黒灰	2面道路遺構上 黒色粒・白色粒
6	瓦	丸瓦	—	幅 [16.8]	厚さ 2.7	筒部					暗灰	2面道路遺構上 黒色粒・白色粒
7	鉄製品	釘	長さ [5.1]	幅 0.5	厚さ 0.5	上端欠損					—	2面道路状遺構
8	鉄製品	釘	長さ [4.0]	幅 0.7	厚さ 0.4	上端欠損					—	2面道路状遺構
9	鉄製品	釘	長さ [4.3]	幅 0.6	厚さ 0.5	上端欠損					—	2面道路状遺構

図60 2面遺構出土遺物(2)

10	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.8)	1.4	1/4	○		○		黄橙	2面溝1 白針
11	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	6.2	1.7	2/3	○		○		黄橙	2面溝1 白針
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.3)	1.6	1/2	○		○		黄灰	2面溝1 白針
13	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.0	1.7	4/5	○		○		橙	2面溝1 白針
14	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	6.6	1.9	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面溝1 白針 口縁部打ち欠き、煤付着
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.7	1.4	完形	○		○		黄灰	2面溝1 白針 口縁部一部に擦痕、煤付着
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.3)	1.6	2/3	○		○		黄橙	2面溝1 白針
17	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.4)	1.7	1/3	○		○		黄灰	2面溝1 白針 口縁部打ち欠き、擦痕
18	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.8	1.8	4/5	○		○		黄灰	2面溝1 白針
19	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.4	1.9	4/5	○		○		黄橙	2面溝1 白針
20	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.3)	(8.4)	2.7	口小～ 底1/2	○		○		橙	2面溝1 白針
21	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(9.5)	2.7	1/3	○		○		黄橙	2面溝2 白針 外面一部黒色に変色
22	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	9.0	2.8	1/3	○		○		黄橙	2面溝1 白針
23	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.2)	3.0	1/3	○		○		黄橙	2面溝1 白針 口唇部一部煤付着
24	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	8.8	3.0	1/3	○		○		橙	2面溝1 白針
25	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(9.1)	3.3	1/3	○				橙	2面溝1 白針
26	土器	ロクロ かわらけ・大	12.0	8.6	3.7	4/5	○		○		黄橙	2面溝1 白針 口縁部打ち欠き、擦痕、煤付着
27	土器	手づくね かわらけ・小	(9.7)	—	(1.3)	1/3	○				黄灰	2面溝1
28	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	1.8	1/2	○				黄灰	2面溝1 白針 口唇部全体煤付着
29	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	1.9	1/3	○				橙	2面溝1 白針
30	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	—	3.0	1/3	○				灰橙	2面溝1 白針
31	土器	手づくね かわらけ・大	11.0	—	3.2	3/4	○				黄橙	2面溝1 白針
32	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	—	3.5	完形	○				黄橙	2面溝1 白針 内外面煤付着
33	土器	手づくね 白かわらけ	—	—	[2.4]	口小片					淡黄	2面溝1
34	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	[3.6]	口小片					明灰緑 半透明	2面溝1
35	磁器	龍泉窯系青磁 折縁鉢	—	—	[4.2]	口小片					灰緑 不透明	2面溝1
36	磁器	青白磁 蓋	(3.5)	天頂径 (3.6)	1.8	1/2					青白 透明	2面溝1
37	陶器	泉州窯系 黄釉盤	(33.3)	(26.8)	8.4	1/4					緑灰	2面溝1 白色粒
38	陶器	褐釉壺	—	頸部径 (12.1)	[4.3]	肩1/6					赤褐	2面溝1 黒色粒・白色粒
39	陶器	常滑 鉢	(14.0)	—	[4.8]	口1/4					灰	2面溝1 長石

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サヲ状	板状	スコ状		
40	陶器	常滑甕	—	—	[6.7]	口小～胴片					赤褐色	2面溝1 5～6型式 長石
41	陶器	常滑甕	45.6	—	[10.4]	口小片					暗褐	2面溝1 5型式 長石
図61 2面遺構出土遺物(3)												
42	陶器	常滑甕	—	—	—	肩部片					暗褐	2面溝1 長石
43	陶器	常滑甕	—	—	—	肩部片					暗褐	2面溝1 長石
44	陶器	常滑甕	—	—	—	肩部片					褐	2面溝1 長石
45	陶器	常滑甕	—	—	—	肩部片					暗褐	2面溝1 長石
46	陶器	常滑甕	—	—	—	肩部片					褐	2面溝1 長石
47	瓦器	坏	(9.9)	(5.2)	3.0	口小片					灰	2面溝1 輪花形
図62 2面遺構出土遺物(4)												
48	瓦	軒丸瓦	瓦当径 (14.2)	内区径 (7.8)	中房径 4.0	瓦当部					灰黒	2面溝1 八葉複弁連華文 永福寺1期YAI01g
49	瓦	鬼瓦	—	—	—	一部					暗灰	2面溝1
50	瓦	軒丸瓦	—	—	—	瓦当部 一部					灰白～ 灰黒	2面溝1 文様不明
51	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	狭端面 片側辺					暗灰	2面溝1
52	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					灰白	2面溝1
53	瓦	瓦 転用研磨具	長さ [6.4]	幅 [3.1]	厚み 2.2	不明					灰	2面溝1 4面を研磨に使用
54	石製品	砥石	長さ 6.8	幅 2.5	厚さ 1.0	完形					灰白	2面溝1 鳴滝・奥殿産 仕上げ砥
55	石製品	滑石鍋転用品 温石カ	長さ [9.2]	幅 [4.6]	厚さ 2.7	不明					黒褐	2面溝1 表面煤付着
図63 2面遺構出土遺物(5)												
56	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.0)	1.5	2/3	○		○		黄橙	2面土坑2 白針
57	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	1.5	1/3	○		○		橙	2面土坑2 白針
58	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(8.0)	1.6	1/2	○		○		橙	2面土坑2 白針
59	土器	手づくね かわらけ・大	(12.7)	(10.9)	3.1	1/3	○				橙	2面土坑2 白針
60	陶器	渥美 片口鉢	—	(14.0)	[7.0]	体片～ 底1/4					灰	2面土坑2 黒色粒・白色粒 内面摩耗
61	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.2	1/2	○				黄橙	2面土坑4 白針
62	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.7	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑4 白針
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.8	口小～ 底小1/4	○				黄橙	2面土坑4 白針
64	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(9.4)	3.2	1/2	○		○		黄橙	2面土坑4 白針
65	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	—	1.8	1/4	○				橙	2面土坑4 白針
66	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.3]	口小片					淡青 透明	2面土坑4
67	土器	ロクロ かわらけ・極小	6.4	4.1	1.0	4/5	○				黄灰	2面土坑6 白針 内折れ
68	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(7.2)	1.5	1/2	○		○		橙	2面土坑6 白針 内外面一部に煤付着
69	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.8	1.7	2/3	○		○		黄灰	2面土坑6 白針 口縁部一部に擦痕
70	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.7	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑6 白針
71	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.8)	1.7	1/3	○		○		黄灰	2面土坑6 白針
72	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(10.0)	2.3	1/4	○		○		黄灰	2面土坑6 白針 体部上半を打ち欠き研 磨後、灯明皿に
73	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.5)	2.9	1/4	○				黄灰	2面土坑6 白針
74	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(10.0)	3.0	1/5	○				橙	2面土坑6 白針
75	土器	ロクロ かわらけ・大	12.9	8.7	3.3	2/3	○		○		黄桃	2面土坑6 白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サワ状	板状	スコ状		
76	土器	ロクロ かわらけ・大	13.0	9.4	3.1	4/5	○		○		黄灰	2面土坑6 白針
77	土器	手づくね かわらけ・大	13.1	—	3.6	1/3	○				黄灰	2面土坑6 白針 外面全体と内面一部黒色に変色
78	磁器	白磁 壺	—	—	[2.4]	口小片					灰 透明	2面土坑6
79	陶器	常滑 甕	(24.8)	—	[8.0]	口1/4					黒褐	2面土坑6 長石
80	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[7.5]	体～ 底部片					灰	2面土坑6 長石
81	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.0	筒部 片側面					暗灰	2面土坑6 永福寺男瓦A類 白色粒

図64 2面遺構出土遺物(6)

82	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	(12.2)	(3.4)	1/2	○				黄灰	2面土坑7 白針 内外面煤付着
83	陶器	渥美 甕	—	—	—	肩部片					灰	2面土坑7
84	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類か	—	—	[5.9]	口小片					茶褐	2面土坑8 長石
85	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.4)	1.6	1/3	○				黄橙	2面土坑10 白針
86	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.2)	2.0	1/2	○				黄橙	2面土坑10 白針
87	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	[2.3]	口小片					灰サマ 透明	2面土坑10 大宰府Ⅱ類
88	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[1.6]	口小片					灰白 半透明	2面土坑10 大宰府Ⅸ類
89	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[8.9]	体～ 底部1/6					灰	2面土坑10 長石
90	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.4)	1.6	1/3	○		○		黄灰	2面土坑11 白針
91	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.0	1.8	1/3	○		○		黄灰	2面土坑11 白針
92	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.7	1/2	○				橙	2面土坑11 白針 口縁部一部打ち欠き
93	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	8.7	2.9	4/5	○				黄橙	2面土坑11 白針
94	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	9.4	3.0	3/4	○		○		黄灰	2面土坑11 白針
95	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(8.8)	3.3	1/4	○				橙	2面土坑11 白針 口縁部一部打ち欠き
96	磁器	白磁 端反碗	—	—	[2.4]	口小片					灰白 不透明	2面土坑11
97	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(9.8)	2.9	1/3	○		○		橙	2面土坑14 白針
98	陶器	常滑 甕	(34.4)	—	[7.3]	口1/3					暗褐	2面土坑14 長石
99	陶器	渥美 甕	—	—	—	肩部片					黒褐	2面土坑14 長石
100	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.0]	口小片					灰	2面土坑14 長石
101	陶器	尾張型 山茶碗	—	(7.2)	—	1/4					灰白	2面土坑14 白色粒 高台に靱殻圧痕
102	瓦質土器	火鉢	—	—	[6.3]	口小片					灰白	2面土坑18
103	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.6)	1.6	1/4	○		○		黄橙	2面土坑19 白針 内外面一部煤付着
104	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(9.0)	2.8	1/4	○		○		黄橙	2面土坑19 白針 内外面全体煤付着
105	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	[2.8]	口小片					灰サマ 半透明	2面土坑19 大宰府Ⅱ類
106	陶器	常滑 甕	—	—	[6.2]	口小片					灰	2面土坑19 長石
107	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.8]	口小～ 体片					灰	2面土坑19 長石 108と同一個体カ
108	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[5.1]	体～底部 片					灰	2面土坑19 長石 107と同一個体カ
109	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.3)	2.1	1/2	○		○		黄灰	2面土坑22 白針

図65 2面遺構出土遺物(7)

110	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.4	1.7	ほぼ完形	○		○		橙	2面土坑23 白針
111	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	1.9	完形	○				黄橙	2面土坑23 白針 口縁部全体に煤付着
112	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	2.9	1/3	○		○		黄橙	2面土坑23 白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テ	テラ状	板状	スコ状		
113	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[4.4]	口小片					灰褐	2面土坑23 長石
114	瓦	軒平瓦	瓦当幅 3.5	内区幅 1.8	顎面幅 2.4	顎部					暗灰	2面土坑23 上外区0.7 下外区1.0 偏行 唐草文
115	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.4)	1.8	1/4	○		○		橙	2面土坑24 白針
116	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.7	2/3	○				黄橙	2面土坑24 白針
117	瓦器	坏	—	—	—	底片					灰黒	2面土坑24 楠葉型 底部内面に暗文
118	陶器	渥美 甕	—	—	—	体片					暗灰	2面土坑24 黒色粒
119	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.5	1/3	○				黄橙	2面土坑25 白針
120	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.6	1/5	○				黄橙	2面土坑26 白針 内底煤付着
121	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(7.0)	1.4	1/2	○		○		黄灰	2面土坑28 白針
122	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.4)	1.5	2/3	○		○		黄橙	2面土坑28 白針
123	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.3	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑28 白針 内外面に黒色の付着物
124	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.2)	1.6	1/2	○		○		黄橙	2面土坑28 白針
125	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.6)	1.6	1/2	○		○		黄灰	2面土坑28 白針
126	瓦	平瓦転用品 用途不明	—	—	厚さ 2.0	広端面・ 両側面欠					灰	2面土坑28 白色粒 凸面に擦痕
127	土器	高台付皿か	—	(4.0)	[3.6]	底完					淡橙	2面土坑29 柱状高台
128	陶器	常滑 甕	29.3	—	[8.2]	口1/2~ 胴片					茶褐	2面土坑29 5型式 図66-131と同一個体カ 長石
129	陶器	渥美 片口鉢	(29.8)	(13.8)	10.1	1/4					暗灰~灰	2面土坑29 黒色粒・白色粒
130	瓦器	備前系 碗	(11.0)	—	[3.3]	口1/4 ~体片					灰	2面土坑29 黒縁瓦器質碗
図66 2面遺構出土遺物(8)												
131	陶器	常滑 甕	—	—	—	体片					暗褐	2面土坑34 図65-128と同一個体カ 長石
132	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.8)	1.7	1/3	○		○		黄灰	2面土坑30 白針
133	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.5)	2.7	2/3	○		○		橙	2面土坑30 白針
134	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.6)	2.8	1/2	○		○		1黄橙	2面土坑30 白針
135	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.0)	3.0	1/3	○		○		黄橙	2面土坑30 白針
136	陶器	常滑 甕	—	—	[4.1]	口小~ 体片					暗褐	2面土坑30 長石
137	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	(7.0)	1.7	口小~ 底1/4	○		○		黄橙	2面土坑33 白針
138	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.4)	1.4	1/2	○		○		黄橙	2面土坑33 白針
139	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.3	1/3	○				黄橙	2面土坑33 白針
140	土器	ロクロ かわらけ・小	(10.0)	(7.4)	1.8	2/3	○		○		黄橙	2面土坑33 白針
141	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.6)	1.6	2/3	○		○		黄橙	2面土坑33 白針
142	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.6)	1.7	1/3	○		○		黄灰	2面土坑33 白針 外面一部黒色に変色
143	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.0	1.9	1/2	○		○		橙	2面土坑33 白針
144	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(8.4)	2.9	1/2	○				黄灰	2面土坑33 白針
145	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.9	3.1	完形	○		○		黄橙	2面土坑33 白針
146	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	2.0	1/4	○				黄灰	2面土坑33 白針 外面一部に煤付着
147	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	2.9	1/4	○				黄灰	2面土坑33 白針
148	陶器	尾張型 山茶碗	15.5	8.0	5.0	体片~ 底略完存					灰	2面土坑33 黒色粒・白色粒
149	陶器	常滑 甕	—	—	[7.1]	口小片					茶	2面土坑33 5型式 長石

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サテ状	板状	スコ状		
150	陶器	常滑 甕	—	—	[7.8]	口小片					茶	2面土坑33 5型式 長石
151	陶器	常滑 甕	(52.0)	—	[11.1]	口1/6~ 胴片					茶褐	2面土坑33 5型式 長石 152と同一個体カ
152	陶器	常滑 甕	—	(15.4)	[8.5]	底1/2 ~胴片					茶褐	2面土坑33 長石 151と同一個体カ
153	陶器	常滑 片口鉢I類	(32.3)	—	[32.3]	1/4					灰	2面土坑33 長石
154	陶器	渥美 甕	—	—	[5.2]	口小片					暗灰	2面土坑33 黒色粒・白色粒
図67 2面遺構出土遺物(9)												
155	陶器	渥美 甕	—	—	—	体片					灰褐	2面土坑33 黒色粒・白色粒
156	瓦器	坏	(9.8)	(5.1)	3.2	1/4					黒褐	2面土坑33 輪花形
157	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	不明					灰黒	2面土坑33 凹凸面に粗い離れ砂
158	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	6.9	1.7	完形	○		○		黄灰	2面土坑35 白針 焼成段階で割れたカ
159	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.4)	3.0	口小~ 底完存	○		○		橙	2面土坑35 白針 内面に煤付着
160	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.5)	1.5	1/4	○		○		黄灰	2面土坑36 白針
161	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.6)	1.5	1/4	○		○		黄灰	2面土坑36 白針
162	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.6)	1.7	1/4	○		○		黄灰	2面土坑36 白針 内外面黒色に変色
163	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	6.4	1.9	2/3	○		○		黄灰	2面土坑36 白針
164	土器	ロクロ かわらけ・小	(11.1)	(7.5)	3.1	口小~ 底1/2	○		○		黄橙	2面土坑36 白針
165	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	—	2.2	完形					黄灰	2面土坑36 白針
166	土器	手づくね かわらけ・大	12.8	—	2.9	4/5	○				橙	2面土坑36 白針
167	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.2	1/3	○				黄橙	2面土坑36 白針
168	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	[2.3]	口小片					灰緑 不透明	2面土坑36
169	磁器	白磁小碗	—	—	—	体片					白 透明	2面土坑36
170	磁器	白磁 口禿皿	(10.4)	—	[1.7]	口小1/4					灰白 半透明	2面土坑36 大宰府IX類
171	磁器	白磁 口禿碗	(15.6)	—	[1.8]	口小1/6					灰白 不透明	2面土坑36
172	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[7.5]	口小片					灰	2面土坑36
173	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(7.0)	1.3	1/4	○		○		橙	2面土坑38 白針
174	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.7)	1.5	1/3	○		○		黄橙	2面土坑38 白針
175	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.2)	3.0	口小~ 底1/4	○		○		橙	2面土坑38 白針
176	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[4.9]	口小片					灰緑 透明	2面土坑38 大宰府I-4類
177	陶器	瀬戸 入子	(6.1)	(3.6)	1.2	1/2					灰	2面土坑38 二次焼成を受けたカ
178	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.8	1/2	○				橙	2面土坑39 白針
179	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.6	1/3	○				黄橙	2面土坑39 白針
180	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.4	3/4	○				黄橙	2面土坑39 白針 底部外面黒色に変色
図68 2面遺構出土遺物(10)												
181	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.8)	1.9	1/5	○				橙	2面土坑40 白針
182	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.0	3/4	○				橙	2面土坑40 白針
183	土器	手づくね 白かわらけ・大	(12.0)	—	[3.1]	1/4	○				黄白	2面土坑40
184	土器	手づくね 白かわらけ・大	—	—	[3.1]	口小~ 体片					黄白	2面土坑40 口縁部内外面に煤付着
185	磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	—	—	[2.1]	口小片					青灰 半透明	2面土坑40
186	磁器	同安窯系青磁 皿	—	—	[1.3]	口小片					緑灰 透明	2面土坑40

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サヲ状	板状	スコ状		
187	瓦	平瓦	—	幅 17.2	厚さ 2.2	狭端面					灰黒～ 暗灰	2面土坑40 黒色粒・白色粒
188	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.2)	1.6	1/3	○		○		黄橙	2面土坑41 白針
189	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.2)	3.1	4/5	○		○		黄橙	2面土坑41 白針
190	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.5	1/4	○		○		黄橙	2面土坑41 白針 内面一部に煤付着
191	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(5.6)	1.7	1/2	○		○		黄橙	2面土坑42 白針
192	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.8	2.7	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑42 白針 内外面一部黒色に変色
193	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	(7.4)	1.6	1/2					黄灰	2面土坑42 白針 口縁部一部と底部外面煤付着
194	土器	手づくね かわらけ・大	(12.6)	—	3.2	1/3					橙	2面土坑42 白針
195	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.5]	口小～体 片					水青 透明	2面土坑42
196	陶器	常滑 片口鉢I類	(30.8)	(14.6)	14.3	口小～ 底ほぼ完存					灰	2面土坑42 長石
197	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(8.0)	1.9	1/4	○		○		黄橙	2面土坑44 白針
198	土器	ロクロ かわらけ・小	10.0	8.0	2.5	4/5 歪み大	○		○		黄橙	2面土坑44 白針
199	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.2	1/3					黄橙	2面土坑44 白針
200	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	6.9	1.7	3/4	○		○		黄灰	2面土坑46 白針 口唇部に煤付着
201	瓦器	坏	(9.8)	—	[2.4]	1/5					灰白	2面土坑46 輪花形
202	石製品	軽石 加工品	長径 6.9	短径 4.9	厚さ 4.4	完形					灰	2面土坑46
図69 2面遺構出土遺物(11)												
203	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	1.7	1/3	○		○		橙	2面土坑47 白針
204	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	(7.2)	1.8	1/4	○		○		黄橙	2面土坑47 白針
205	陶器	常滑 四耳壺カ	—	—	—	肩部片					暗灰緑	2面土坑47 5型式 長石
206	陶器	常滑 甕	—	—	—	肩部片					暗褐	2面土坑47 長石
207	陶器	渥美 甕	—	—	[11.7]	口小～ 胴片					緑灰	2面土坑47
208	瓦	軒平瓦	瓦当部 幅 6.7	内区幅 4.5	顎面幅 1.9	顎部					灰	2面土坑47 上外区幅0.9 下外区幅1.3 脇区幅1.2 宝相華唐草文 永福寺YNI01e2と同範
209	土器	ロクロ かわらけ・極小	(6.0)	(5.0)	1.0	1/2	○				黄橙	2面土坑51 内折れ 白針 内外面一部黒色に変色
210	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.0)	1.6	1/3	○		○		黄橙	2面土坑51 白針
211	陶器	常滑 甕	—	—	[7.0]	口小～ 胴片					黒褐	2面土坑51 6型式 長石
212	瓦質土器	火鉢	(41.5)	(30.0)	10.2	1/4					灰黒	2面土坑51 黒色粒・白色粒
図70 2面遺構出土遺物(12)												
213	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.5	2.0	3/4	○		○		黄橙	2面土坑52 白針
214	陶器	常滑 甕	—	—	[10.0]	胴～ 底小片					褐	2面P49 長石 底部外面に焼成時の付着物
215	瓦	丸瓦	—	18.6	厚さ 2.7	筒部					暗灰	2面土坑52 永福寺男瓦A類 黒色粒・白色粒
216	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.6	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑53 白針 外底面に擦痕
217	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.0)	1.5	1/3					黄橙	2面土坑53 白針
218	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.3	1/3	○				黄灰	2面土坑53 白針
219	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.3	1/3	○				黄橙	2面土坑53 白針
220	陶器	渥美 片口鉢	—	—	[3.2]	口小片					灰褐色	2面土坑53 黒色粒・白色粒
221	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(5.8)	1.7	1/3	○		○		橙	2面土坑54 白針、砂質
図71 2面遺構出土遺物(13)												
222	土器	ロクロ かわらけ・小	7.0	5.1	1.4	1/3	○		○		橙	2面土坑01 白針、砂質

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	斜ラ状	板状	スコ状		
223	鉄製品	釘	長さ [9.8]	幅 0.8	厚さ 0.6	上端欠損					—	2面土坑01
224	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.4)	1.5	3/4	○		○		黄灰	2面土坑02、白針
225	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	(4.9)	1.7	1/4	○		○		黄灰	2面土坑02、白針
226	土器	ロクロ かわらけ・大	11.5	8.6	3.2	4/5	○		○		黄橙	2面土坑02 底部外面付近に砂質かわらけ片混入
227	石製品	硯	長さ 9.8	幅 8.0	厚さ 1.5	ほぼ完形					灰	2面土坑02 美作高田硯(頁岩質・台形硯)裏面に線刻文字
228	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.3)	1.5	1/4	○		○		橙	2面土坑03 白針、砂質
229	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.4)	1.8	1/4	○				黄橙	2面土坑03 白針
230	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	—	3.6	1/4	○				黄灰	2面土坑03 白針
231	銅製品	用途不明	直径 1.4	高さ 0.6	厚さ 0.2	完形か					—	2面土坑04 釘隠しなどか
232	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	6.0	1.4	完形	○		○		黄灰	2面土坑05 白針、砂質
233	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.4)	1.5	1/4	○		○		黄橙	2面土坑05 白針
234	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(8.6)	2.9	1/4	○		○		黄灰	2面土坑05 白針
235	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	7.9	3.4	1/8	○		○		橙	2面土坑05 白針
236	磁器	龍泉窯系青磁 鑄蓮弁文碗	—	5.1	[2.2]	体片～ 底完存					青灰 不透明	2面土坑05 大宰府Ⅱ類
237	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	2面土坑05 開元通寶(行書)中国唐代 621年初鑄

図72 2面遺構出土遺物(14)

238	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.6	1.5	3/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針、砂質
239	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.4	1.3	2/3	○		○		黄灰	2面土坑06 白針
240	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.0)	1.4	1/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針 内面黒色に変色
241	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.1)	1.4	1/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針 内外面黒色に変色
242	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.0	1.6	2/3	○		○		黄灰	2面土坑06 白針
243	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.2)	1.6	1/2	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
244	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.5)	1.5	1/4	△		○		黄灰	2面土坑06 白針
245	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	6.1	1.5	1/2	○				黄橙	2面土坑06 白針
246	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.0	1.5	ほぼ完形			○		黄灰	2面土坑06 白針 口縁部一部黒色に変色
247	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.6	1.7	1/2	○		○		黄橙	2面土坑06 白針、砂質
248	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.9	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面土坑06 白針、砂質
249	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.9	1.5	ほぼ完形	○				黄橙	2面土坑06 白針、砂質
250	土器	ロクロ かわらけ・小	5.5	4.6	1.2	完形	○		○		黄橙	2面土坑06 白針 内面一部に煤付着
251	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.7	1.8	2/3	△				橙	2面土坑06 白針 内外面一部黒色に変色
252	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.2	2.8	1/2	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
253	土器	ロクロ かわらけ・大	11.7	8.9	2.8	4/5			○		橙	2面土坑06 白針、砂質 口唇部一部に煤付着
254	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(10.1)	2.8	1/2	○		○		黄灰	2面土坑06 白針、砂質 口唇部一部に煤付着
255	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	9.3	3.0	完形	○		○		橙	2面土坑06 白針
256	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.7)	(8.0)	3.0	1/4	○		○		黄灰	2面土坑06 白針、砂質
257	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.4)	(7.5)	3.3	1/3	○		○		橙	2面土坑06 白針、砂質
258	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(6.5)	3.5	1/3	○		○		黄橙	2面土坑06 白針、砂質
259	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	7.7	3.4	2/3	△		○		橙	2面土坑06 白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サワラ状	板状	スコ状		
260	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(7.5)	3.4	1/4	○		○		橙	2面土坑06 白針
261	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.5)	(9.6)	3.5	1/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
262	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	[3.4]	口小片					青灰 透明	2面土坑06
263	磁器	龍泉窯系青磁 無文碗	—	—	[3.3]	口小片					灰緑 不透明	2面土坑06
264	磁器	青磁 碗	—	—	[2.3]	口小片					灰 不透明	2面土坑06
265	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	4.9	[2.3]	体～ 底完存					緑 半透明	2面土坑06
266	磁器	龍泉窯系青磁 碗	—	(7.4)	[1.8]	底1/6					灰青 不透明	2面土坑06
267	磁器	白磁 口禿皿	(9.7)	(5.8)	2.2	1/4					灰白 透明	2面土坑06 大宰府IX類
268	陶器	尾張型 特殊山茶碗	—	(6.0)	[2.3]	底1/4					灰白	2面土坑06
269	陶器	常滑 甕	—	—	[3.6]	口小～ 胴片					灰	2面土坑06 黒色粒・白色粒
270	陶器	常滑 甕	—	(16.0)	[13.7]	胴～ 底1/2					茶褐	2面土坑06 黒色粒・白色粒
271	石製品	基石か	直径 1.9	—	厚さ 0.6	完形					黒	2面土坑06
272	鉄製品	釘	長さ 4.8	幅 0.6	厚さ 0.4	完形					—	2面土坑06
273	鉄製品	釘	長さ 4.1	幅 0.5	厚さ 0.3	完形					—	2面土坑06
274	鉄製品	釘	長さ 4.6	幅 0.4	厚さ 0.4	完形					—	2面土坑06
275	鉄製品	釘	長さ [2.7]	幅 0.6	厚さ 0.4	下端欠損					—	2面土坑06
276	鉄製品	釘	長さ [3.3]	幅 0.5	厚さ 0.6	下端欠損					—	2面土坑06
277	鉄製品	釘	長さ [5.0]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損					—	2面土坑06
278	鉄製品	釘	長さ [3.7]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損					—	2面土坑06
279	鉄製品	釘	長さ [4.9]	幅 0.4	厚さ 0.4	上端欠損					—	2面土坑06
280	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	2面土坑06 紹熙元寶(行書) 中国南宋代 1190年初鋳

図73 2面遺構出土遺物(15)

281	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.0)	(4.7)	1.3	1/4	○		○		橙	2面土坑06 白針 内折れ
282	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	6.0	1.5	4/5	○		○		黄橙	2面土坑06 白針、砂質
283	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.6)	1.3	1/3	○		○		黄灰	2面土坑06 白針
284	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.9)	1.5	1/4	○		○		橙	2面土坑06 白針、砂質
285	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.7)	1.5	1/3	○		○		橙	2面土坑06 白針、砂質
286	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.9	1.7	4/5	○		○		黄橙	白針
287	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(6.0)	1.5	1/2	○		○		橙	白針
288	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.7)	1.6	1/4	○		○		黄灰	2面土坑06 白針、砂質
289	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.8	1.5	3/4	△		○		黄灰	2面土坑06 白針、砂質
290	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.5	1/2	○		○		黄灰	2面土坑06 白針
291	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.8)	1.6	1/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
292	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.7)	(8.0)	3.1	1/3	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
293	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	7.7	3.1	完形	○		○		橙	2面土坑06 白針
294	土器	ロクロ かわらけ・大	11.7	8.0	3.0	2/3	○		○		黄灰	2面土坑06 白針
295	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	(7.0)	3.2	1/4	○		○		黄橙	2面土坑06 白針
296	陶器	瀬戸 平碗	—	(4.6)	[5.0]	体片～ 底1/4					灰白	2面土坑06

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サワラ状	板状	スコ状		
297	陶器	尾張型山皿	—	(4.4)	[1.5]	底1/3					灰	2面土坑06 長石
298	陶器	常滑甕	—	—	[6.6]	口小～胴片					暗灰	2面土坑06 白色粒
299	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[3.7]	口小片					灰	2面土坑06 白色粒
300	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[8.8]	口小～体片					赤褐	2面土坑06 白色粒
301	瓦質土器	火鉢	—	—	[9.6]	口小～底小片					黄灰	2面土坑06 河野Ⅰ類(A類) 黒色粒
302	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.1	広端面片側辺					灰	2面土坑06 永福寺女瓦A類
303	石製品	硯	長さ[3.1]	幅[4.8]	高さ1.0	不明					黒灰	2面土坑06
304	石製品	砥石	長さ[7.3]	幅5.1	厚さ4.6	両端欠損					灰黄白	2面土坑06 中砥 伊予産か
305	鉄製品	釘	長さ4.4	幅0.5	厚さ0.4	完形					—	2面土坑06
306	鉄製品	釘	長さ4.5	幅0.6	厚さ0.6	完形					—	2面土坑06
307	鉄製品	釘	長さ[4.3]	幅0.5	厚さ0.5	下端欠損					—	2面土坑06
308	鉄製品	釘	長さ[4.5]	幅0.4	厚さ0.3	下端欠損					—	2面土坑06
309	鉄製品	釘	長さ[4.0]	幅0.3	厚さ0.3	下端欠損					—	2面土坑06
310	鉄製品	釘	長さ[4.0]	幅0.5	厚さ0.5	上端欠損					—	2面土坑06
311	鉄製品	釘	長さ5.5	幅0.4	厚さ0.3	完形					—	2面土坑06
312	鉄製品	釘	長さ[6.8]	幅0.4	厚さ0.3	上端欠損					—	2面土坑06
313	鉄製品	釘	長さ6.1	幅0.7	厚さ0.5	完形					—	2面土坑06
314	鉄製品	刀子	長さ[14.0]	幅1.2	厚さ0.4	一部欠損					—	2面土坑06
315	銅製品	銭	直径2.5	孔径0.6	厚さ0.1	完形					—	2面土坑06 天禧通寶(真書) 中国北宋代 1017年初鑄
316	銅製品	銭	直径2.5	孔径0.7	厚さ0.1	完形					—	2面土坑06 元豊通寶(行書) 中国北宋代 1078年初鑄
317	銅製品	銭	直径2.5	孔径0.7	厚さ0.1	完形					—	2面土坑06 元祐通寶(篆書) 中国北宋代 1086年初鑄
318	銅製品	銭	直径2.5	孔径0.6	厚さ0.1	完形					—	2面土坑06 大観通寶(真書) 中国北宋代 1109年初鑄
319	銅製品	銭	直径2.4	孔径0.7	厚さ0.1	完形					—	2面土坑06 皇口通寶(真書)
320	土器	ロクロかわらけ・大	(12.4)	(8.4)	2.8	1/4	○		○		黄橙	2面土坑08 白針
321	土器	ロクロかわらけ・大	12.1	8.2	3.0	完形	○		○		橙	2面土坑08 白針 322と合わせ口
322	土器	ロクロかわらけ・大	12.4	7.7	3.0	完形	○		○		橙	2面土坑08 白針 321と合わせ口
図74 2面遺構出土遺物(16)												
323	磁器	白磁口禿碗	(11.3)	—	[2.9]	口1/4					灰黄白透明	2面P1 大宰府IX類 口唇部煤付着
324	土器	ロクロかわらけ・小	(8.2)	(6.0)	1.6	1/3	○		○		黄橙	2面P2 白針
325	銅製品	銭	直径2.4	孔径0.6	厚さ0.1	完形					—	2面P2 紹聖元寶(篆書) 中国北宋代 1094年初鑄
326	土器	ロクロかわらけ・小	(8.3)	(6.7)	1.6	完形	○		○		黄橙	2面P5 口縁打ち欠き 口縁部煤付着
327	陶器	泉州窯系盤	—	—	[4.0]	底小片					灰緑	2面P6
328	土器	ロクロかわらけ・大	—	—	[2.8]	口小片					暗灰	2面P9 埴塼として使用か
329	陶器	常滑甕	—	—	[5.8]	口小～体片					赤褐	2面P9
330	土器	手づくねかわらけ・小	8.3	5.9	2.1	1/2					黄橙	2面P10 白針
331	土器	手づくねかわらけ・大	(13.2)	(12.2)	2.9	1/3	○				黄灰	2面P10 白針
332	土器	ロクロかわらけ・大	(12.8)	(9.8)	3.1	1/3	○		○		黄灰	2面P11 白針 内外全体に煤付着
333	土器	手づくねかわらけ・小	(9.0)	(7.3)	1.6	1/4					黄灰	2面P14 白針

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サヲ状	板状	スコ状		
334	土器	手づくね かわらけ・大	(14.8)	(12.0)	3.1	1/3					黄灰	2面P14 白針
335	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	[2.2]	口小片					灰青 不透明	2面P14
336	陶器	常滑 壺	—	14.6	[8.0]	体片～ 底完存					灰橙	2面P17 内外面一部に煤付着
337	瓦器	坏	—	—	—	底小片					暗灰	2面P17 底部花文
338	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.7	広端面 片側辺					暗灰	2面P17 永福寺女瓦A類
339	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	6.4	1.7	3/4	△		○		黄灰	2面P19 白針 口縁部擦痕、煤付着
340	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(5.8)	1.6	1/3	○		○		黄灰	2面P19 白針
341	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.8	1.8	ほぼ完形	○		○		橙	2面P19 白針
342	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.6	1.7	3/4	△		○		橙	2面P19 白針
343	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.8	1.8	2/3	○		○		黄橙	2面P19 白針
344	土器	ロクロ かわらけ・大	12.1	8.7	2.8	3/4	○		○		黄灰	2面P19 白針
345	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(9.7)	3.0	3/4	△		○		黄灰	2面P19 白針 底部内面に回転成形痕
図75 2面遺構出土遺物(17)												
346	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	—	3.2	3/4	○				黄橙	2面P20 底内外面に煤付着
347	陶器	灰釉陶器 碗	—	(8.7)	[2.0]	底小1/6					灰	2面P20
348	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	広端面 片側辺					灰	2面P20 永福寺女瓦A類
349	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(6.5)	1.4	1/3	○		○		黄灰	2面P23 白針、砂質
350	土器	手づくね かわらけ・小	(10.0)	(8.5)	2.1	1/3	○				黄橙	2面P27 白針
351	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(6.4)	1.9	1/2	○		○		橙	2面P30 白針
352	陶器	渥美 片口鉢	—	—	[6.3]	口小～ 体片					灰	2面P31 内外面煤付着
353	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	7.5	1.3	ほぼ完形	○		○		黄灰	2面P33 白針
354	土器	ロクロ かわらけ・小	(11.5)	(9.0)	2.2	1/3	○				黄灰	2面P33 白針 口縁部打ち欠き、擦り痕、煤付着
355	土器	南伊勢系 土鍋	—	—	[10.3]	口小～ 体片					黄灰	2面P35 2面P106で同一個体出土カ
356	石製品	用途不明	長さ (3.5)	幅 (1.9)	厚さ (0.3)	不明					黄灰	2面P35 石英質 二次加工途中カ
357	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.9	狭端面 両側面欠損					灰白	2面P35 八幡宮斜格子目ABに類似
358 了	磁器	龍泉窯系青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	[2.2]	口小片					青緑 透明	2面P38 大宰府Ⅱ類
図76 2面遺構出土遺物(18)												
358 イ	瓦	平瓦	—	—	厚さ 3.1	狭端面 片側辺					暗灰	2面P39 永福寺女瓦A類 白色粒
359	土器	ロクロ・小	(7.1)	(5.0)	1.8	口小～ 底1/6	○		○		黄橙	2面P40
360	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[3.5]	底小片					灰褐	2面P40 底部外面に木葉痕
361	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	狭端面 片側辺					灰	2面P40 永福寺女瓦A類 黒色粒・白色粒
362	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.3	1.5	3/4	○		○		黄橙	2面土坑52 白針
363	土製品	かわらけ転用 円盤	直径 3.2	—	厚さ 0.8	完形					黄橙	2面P44
図77 2面遺構出土遺物(19)												
364	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(5.6)	1.3	1/4	○		○		黄灰	2面P45 白針
365	土器	ロクロ かわらけ・小	9.5	7.4	1.6	1/2	○				橙	2面P45 白針
366	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.6	1/4	○				橙	2面P45 白針 口縁部内外煤付着
367	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[3.5]	口小片					緑灰	2面P45 368と同一個体カ
368	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[4.0]	底小片					緑灰	2面P45 367と同一個体カ

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サヲ状	板状	スコ状		
369	陶器	常滑甕	—	(15.6)	[3.5]	底1/4					茶褐	2面P45 長石
370	土器	ロクロかわらけ・小	(8.8)	(6.2)	2.0	口小～底小1/4	○		○		黄灰	2面P46 白針
371	土器	ロクロかわらけ・小	(10.8)	(7.8)	2.4	1/4	○				黄灰	2面P46 白針
372	土器	手づくねかわらけ・小	9.6	—	2.0	ほぼ完形	○				黄橙	2面P46 白針 外面に墨書有り(判読不明)
373	土器	ロクロかわらけ・小	(9.6)	(8.0)	1.6	1/4	○		○		黄灰	2面P48 白針
374	土器	ロクロかわらけ・小	(9.2)	(6.4)	1.9	1/4	○		○		橙	2面P48 白針
375	陶器	瀬戸平碗	—	—	[2.7]	口小片					緑灰	2面P50
376	土器	ロクロかわらけ・小	(7.6)	(5.8)	1.3	1/8	○				黄灰	2面P52 白針
377	土器	ロクロかわらけ・小	(8.6)	(5.4)	1.6	1/2	○		○		黄橙	2面P52 白針
378	土器	ロクロかわらけ・大	(12.8)	(6.8)	3.2	1/3	○		○		黄橙	2面P52 白針
379	土器	ロクロかわらけ・大	13.3	10.4	2.6	3/4	○		○		黄橙	2面P55 白針
380	土器	ロクロかわらけ・大	(12.6)	(9.5)	2.8	1/4	○		○		橙	2面P55 白針
381	陶器	常滑甕	—	—	[9.7]	口小～胴片					灰緑	2面P55 長石
382	陶器	常滑甕	—	—	—	胴片					灰褐	2面P55
383	瓦	軒平瓦	—	—	厚さ3.4	瓦当部欠損					黄灰	2面P55 白色粒 上外区幅2.0
384	土器	手づくねかわらけ・大	(12.0)	—	3.4	1/3	○				橙	2面P56 白針
385	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	6.0	[1.8]	体片～底完存					暗灰緑半透明	2面P57 大宰府 I or II 類
386	土器	ロクロかわらけ・小	9.2	7.2	1.7	完形	○				橙	2面P58 白針 口縁部に煤付着
図78 2面遺構出土遺物(20)												
387	土器	ロクロかわらけ・小	(8.9)	(7.0)	1.4	1/6	○				黄橙	2面P59 白針 口縁部に煤付着
388	土器	ロクロかわらけ・小	8.8	6.7	1.7	2/3			○		黄橙	2面P59 白針 口縁部一部打ち欠き、ケズリ
389	陶器	常滑片口鉢I類	—	—	—	口小片					黒褐	2面P59 長石
390	土器	ロクロかわらけ・小	(8.1)	(5.7)	1.6	1/3	○		○		橙	2面P65 白針
391	土器	ロクロかわらけ・小	8.4	7.2	1.9	ほぼ完形	○				黄橙	2面P65 白針
392	土器	ロクロかわらけ・大	13.3	9.7	3.4	3/4			○		黄橙	2面P65 白針
393	磁器	白磁口禿碗	—	—	[2.7]	口小片					灰白半透明	2面P65 大宰府IX類
394	瓦質土器	坏	—	—	[2.9]	口小片					灰白	2面P65 輪花形
395	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.5	広端面片側辺					暗灰	2面P65 黒色粒・白色粒
396	陶器	常滑片口鉢I類	—	—	[10.6]	口小～体片					灰	2面P70 長石
397	土器	ロクロかわらけ・大	13.0	9.1	3.3	3/4	○		△		橙	2面P72 白針 内面に工具痕
398	土器	ロクロかわらけ・小	(8.9)	(5.8)	1.5	1/4	○		○		黄灰	2面P73 白針 内外面に煤付着
399	陶器	常滑片口鉢I類	—	—	[3.9]	口小片					暗灰	2面P73
400	土器	ロクロかわらけ・小	(8.2)	(6.4)	1.5	口小～底完存	○				黄橙	2面P77 白針 底部中央に焼成後の穿孔
401	土器	手づくねかわらけ・大	13.0	—	3.2	ほぼ完形	○				橙	2面P77 白針 口縁部一部に煤付着
402	土器	ロクロかわらけ・小	8.0	5.8	1.5	1/3	○		○		橙	2面P79 白針 内外面に煤面付着
403	土器	ロクロかわらけ・小	(8.5)	(6.4)	1.5	1/3	○		○		黄橙	2面P79 白針
404	常滑	常滑甕	—	(14.1)	[6.7]	底1/2					赤褐	2面P82 長石
405	瓦質土器	火鉢	—	—	[4.6]	口小片					灰褐	2面P82 河野 I 類(A類)

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナブ	ナラ状	板状	スコ状		
406	鉄製品	鍋カ	—	—	[3.0]	口小片					—	2面P82
407	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.8	広端面 両端欠損					灰褐	2面P85 白色粒
408	土器	手づくね かわらけ・大	(14.2)	—	3.5	1/2	○				橙	2面P88
図79 2面遺構出土遺物(21)												
409	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	7.0	1.6	完形	○		○		橙	2面P93 白針 口縁部打ち欠き 内底穿孔
410	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.3	1.3	ほぼ完形	○		○		黄灰	2面P93 白針
411	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.5	1.5	完形	○		○		黄橙	2面P93 白針 打ち欠き痕
412	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(7.4)	1.7	1/4	○		○		黄橙	2面P93 白針 口縁部に煤付着
413	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.6)	1.8	1/3	○		○		橙	2面P93 白針
414	土器	ロクロ かわらけ・大	12.0	7.6	2.5	4/5	○		○		黄橙	2面P93 白針 口縁煤付着
415	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.4)	3.2	2/3	○		○		橙	2面P93 白針
416	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(8.8)	3.3	1/3	○		○		黄橙	2面P93 白針
417	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	[2.4]	口小片					暗灰緑 透明	2面P93
418	磁器	龍泉窯系青磁 折腰皿	—	(6.0)	[2.7]	体片～ 底1/4					青灰 透明	2面P93 大宰府坏Ⅲ-1類
419	磁器	白磁 口禿皿	(10.0)	(6.5)	1.9	1/8					淡青灰 透明	2面P93 大宰府Ⅸ類
420	陶器	常滑 甕	—	—	[6.4]	口小～ 胴片					暗灰	2面P93 長石 二次焼成受ける
421	陶器	産地不明 鉢	—	—	[5.0]	体片～ 底小					灰	2面P93 猿投産カ 内面摩耗
422	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ [6.3]	幅 [5.1]	厚さ 1.8	不明					黒灰	2面P93 温石カ
423	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.0)	1.6	口小～ 底1/4	○		○		黄橙	2面P94 白針
424	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.7)	2.8	1/3	○		○		黄橙	2面P94 白針
425	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.2)	(8.9)	3.3	1/4	○		○		橙	2面P94 白針
426	磁器	龍泉窯系青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	[3.0]	口小片					灰ナブ 透明	2面P94 大宰府Ⅱ類
427	陶器	常滑 壺	(10.0)	—	[7.8]	口1/3					暗褐	2面P94 白色粒
428	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.6	筒部					灰	2面P94 永福寺男瓦A類
429	磁器	青白磁 合子蓋	—	—	[1.6]						水青 透明	2面P95
430	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	6.0	1.5	ほぼ完形	○		○		黄灰	2面P96 白針
431	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.4)	1.5	1/4	△		○		黄橙	2面P96 白針 口縁部に煤付着
432	陶器	常滑 甕	—	—	[5.8]	口小～ 胴片					ナブ	2面P96 5型式
図80 2面遺構出土遺物(22)												
433	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.8	広端面 片側辺					灰	2面P98 永福寺女瓦Cord類 黒色粒・白色粒
図81 2面遺構出土遺物(23)												
434	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.6	1.6	1/2	○		○		橙	2面P99 白針
435	陶器	泉州窯系 盤	—	—	—	底小片					灰緑	2面P99
436	陶器	常滑 甕	—	—	[7.7]	口小～ 胴片					暗赤褐	2面P99 5型式 長石
437	磁器	白磁 水滴	—	(6.2)	[16.2]	胴片						注口、取手部接合せず
438	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(6.2)	1.9	2/3	○		○		橙	2面P101 白針
439	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.6)	1.6	2/3	○		○		黄橙	2面P101 白針
440	陶器	常滑 甕	—	—	[6.5]	口小～ 胴片					暗灰	2面P101 5型式
441	陶器	常滑 甕	—	—	[7.8]	口小～ 胴片					灰褐	2面P101 5型式

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	サテ状	板状	スコ状		
442	陶器	渥美甕	—	—	[7.5]	口小～胴片					暗灰	2面P101
443	土器	ロクロかわらけ・小	8.4	6.4	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	2面P105 白針
444	土器	ロクロかわらけ・小	(6.8)	(5.0)	1.7	1/2	○		○		黄橙	2面P105 白針
445	土器	ロクロかわらけ・小	(8.6)	(6.2)	1.9	1/4	○		○		黄橙	2面P105 白針
446	土器	ロクロかわらけ・大	(12.8)	(8.8)	3.3	3/4	○		○		黄橙	2面P105 白針
447	陶器	尾張型片口鉢	—	—	[5.0]	口小片					灰	2面P105 長石
448	土器	ロクロかわらけ・大	(12.1)	(9.0)	2.7	1/4	○		○		橙	2面P106 白針
図82 2面遺構出土遺物(24)												
449	土器	ロクロかわらけ・小	9.4	6.4	1.7	1/2	○		○		黄灰	2面P104 白針
450	瓦	軒平瓦	瓦当幅 4.6	内区幅 2.0	顎面幅 3.9	一部欠損					灰白～ 灰黒	2面P104上 外区幅1.4 下外区幅1.2 脇区幅0.9 連珠文(極楽寺GN03と同範or同類カ)
図83 2面遺構出土遺物(25)												
451	瓦質土器	火鉢	—	—	[11.3]	口小～底小					黄褐	2面P02
452	瓦質土器	火鉢	—	—	[10.2]	口小～底小					黄褐	2面P03
453	土器	ロクロかわらけ・小	(8.2)	(5.6)	1.4	1/8	○		○		黄橙	2面P010 白針
454	陶器	渥美甕	—	—	—	体片					灰	2面P010 白色粒・黒色粒
455	石製品	石英火打ち石	長さ 2.5	幅 1.7	厚さ 1.3	完形					黄味 灰白	2面P010
456	土器	ロクロかわらけ・小	(8.5)	(7.1)	1.3	1/2	○		○		黄灰	2面P011 白針、砂質
457	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	広端面片側辺					灰黒	2面P011 鶴岡八幡宮 I 期瓦と同類
458	石製品	滑石鍋	—	—	[5.3]	口小片					銀白	2面P015
459	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	2面P015 紹聖元寶(行書) 中国北宋代 1094年初鑄
460	土器	ロクロかわらけ・大	(13.4)	(9.3)	2.8	1/4	○		○		灰橙	2面P016 白針、砂質
461	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.8	厚さ 0.1	完形					—	2面P016 景祐元寶 中国北宋代 1034年初鑄
462	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(5.7)	1.7	1/3	○		○		橙	2面P018 白針
463	陶器	渥美・湖西型山茶碗	—	—	[3.8]	口小片					灰	2面P018 図113-245(3面P014)と同一体
464	陶器	尾張型山茶碗	(15.6)	(6.9)	(4.9)	1/8					灰	2面P019 長石
465	鉄製品	釘	長さ 6.1	幅 0.3	厚さ 0.3	完形					—	2面P019
466	石製品	砥石	長さ [8.5]	幅 4.7	厚さ [3.2]	不明					暗灰	2面P022 中砥
467	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形					—	2面P022 景口元寶

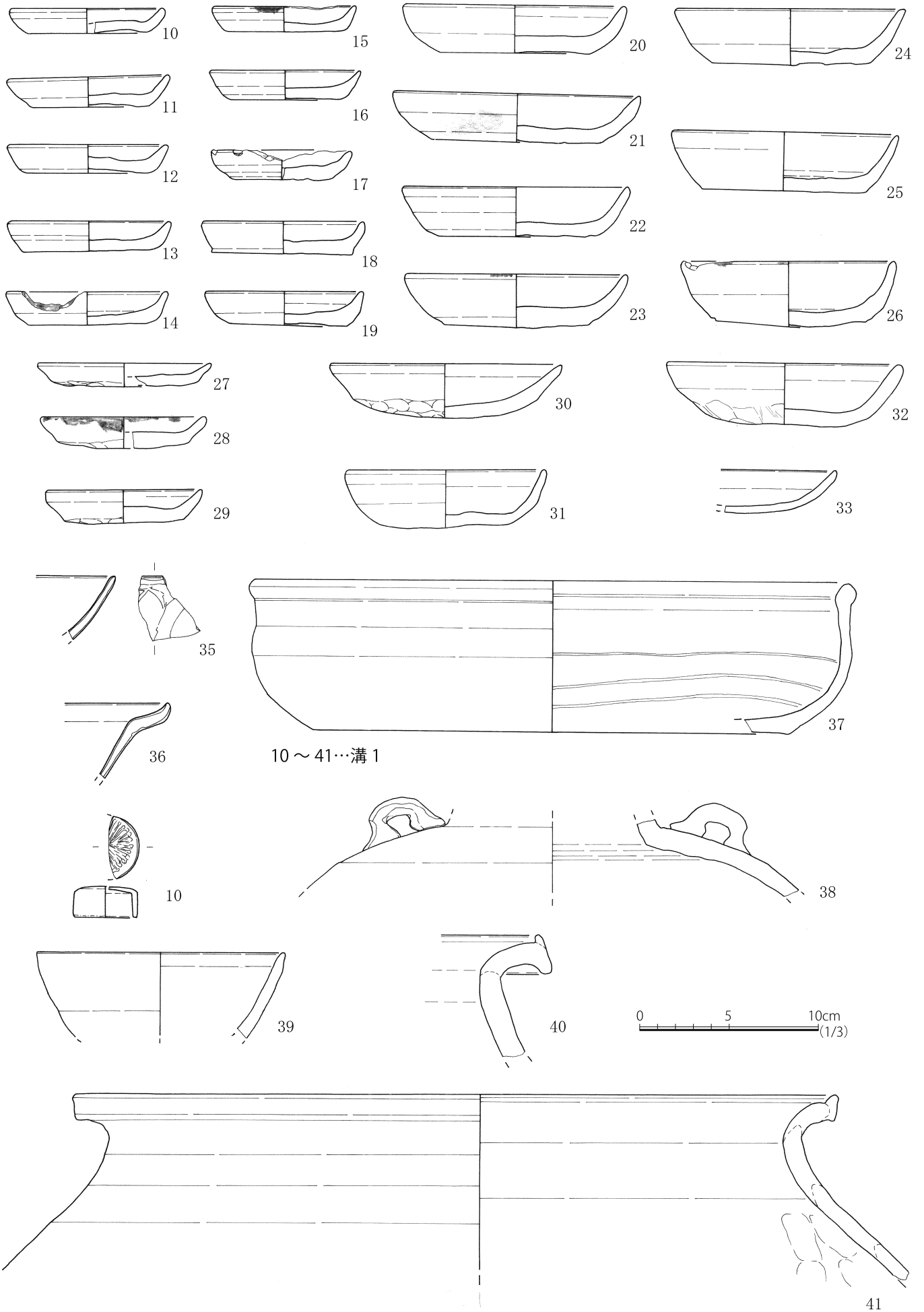


图 60 2面遺構出土遺物 (2)

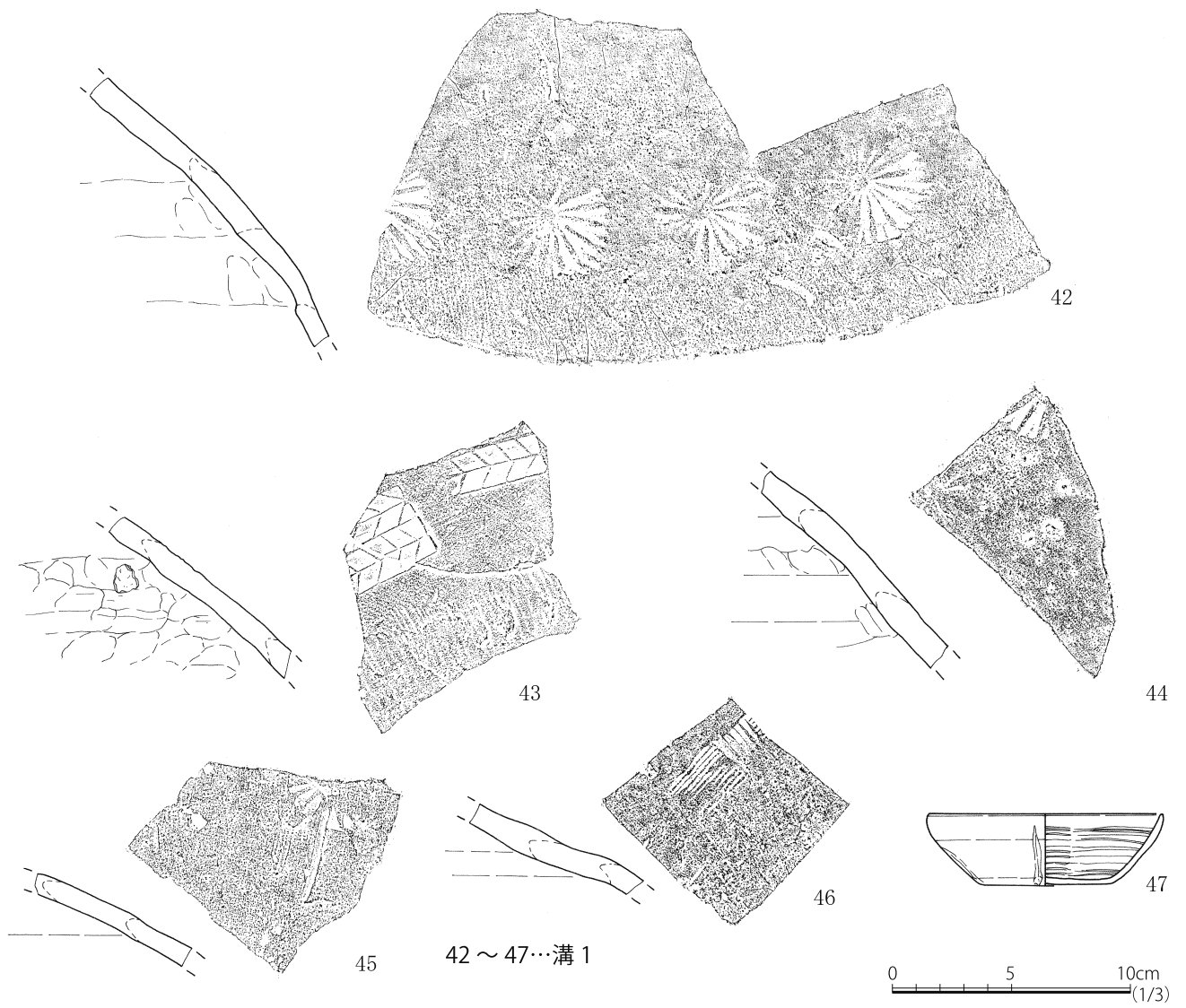


图 61 2面遺構出土遺物 (3)

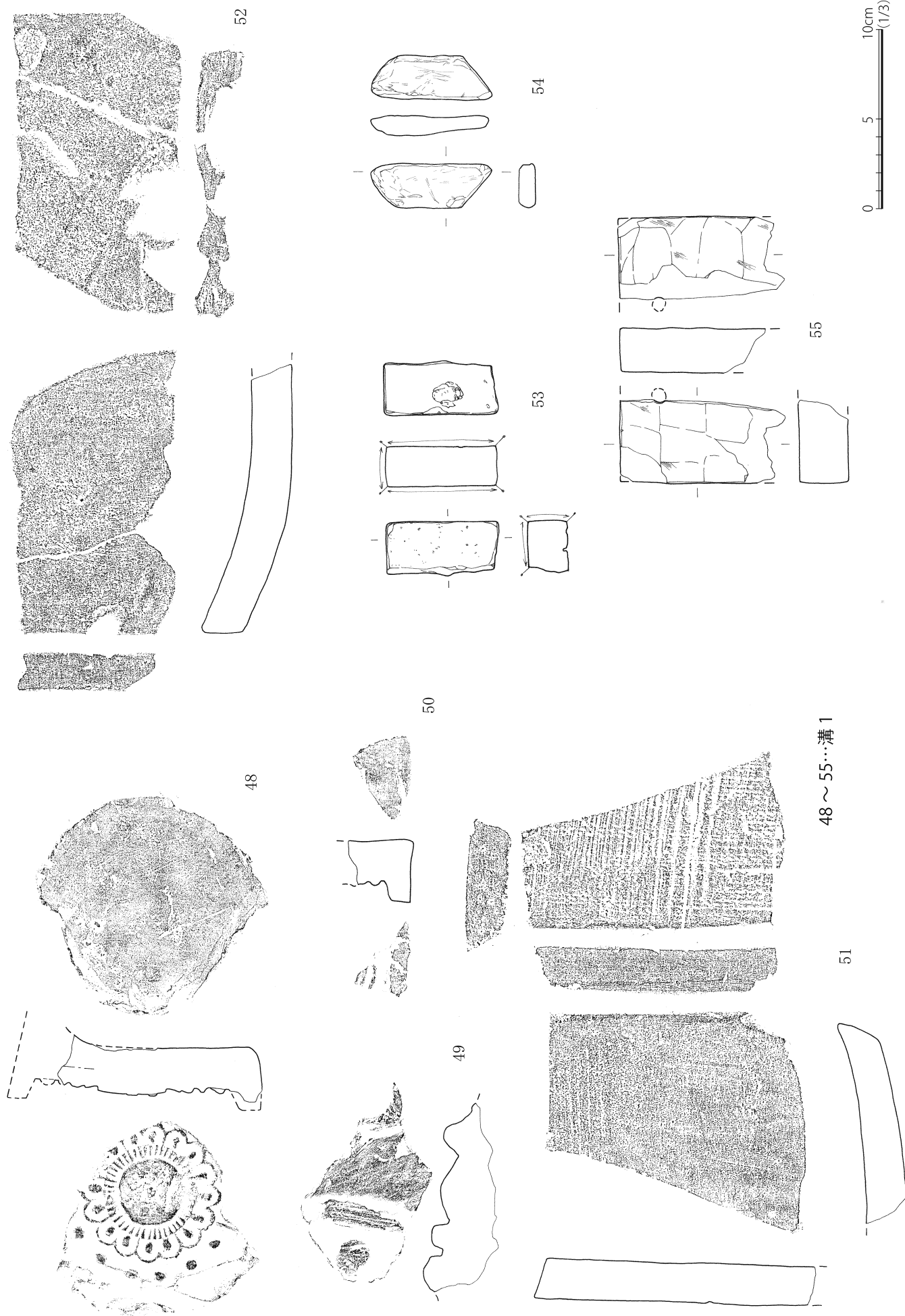


图 62 2 面遺構出土遺物 (4)

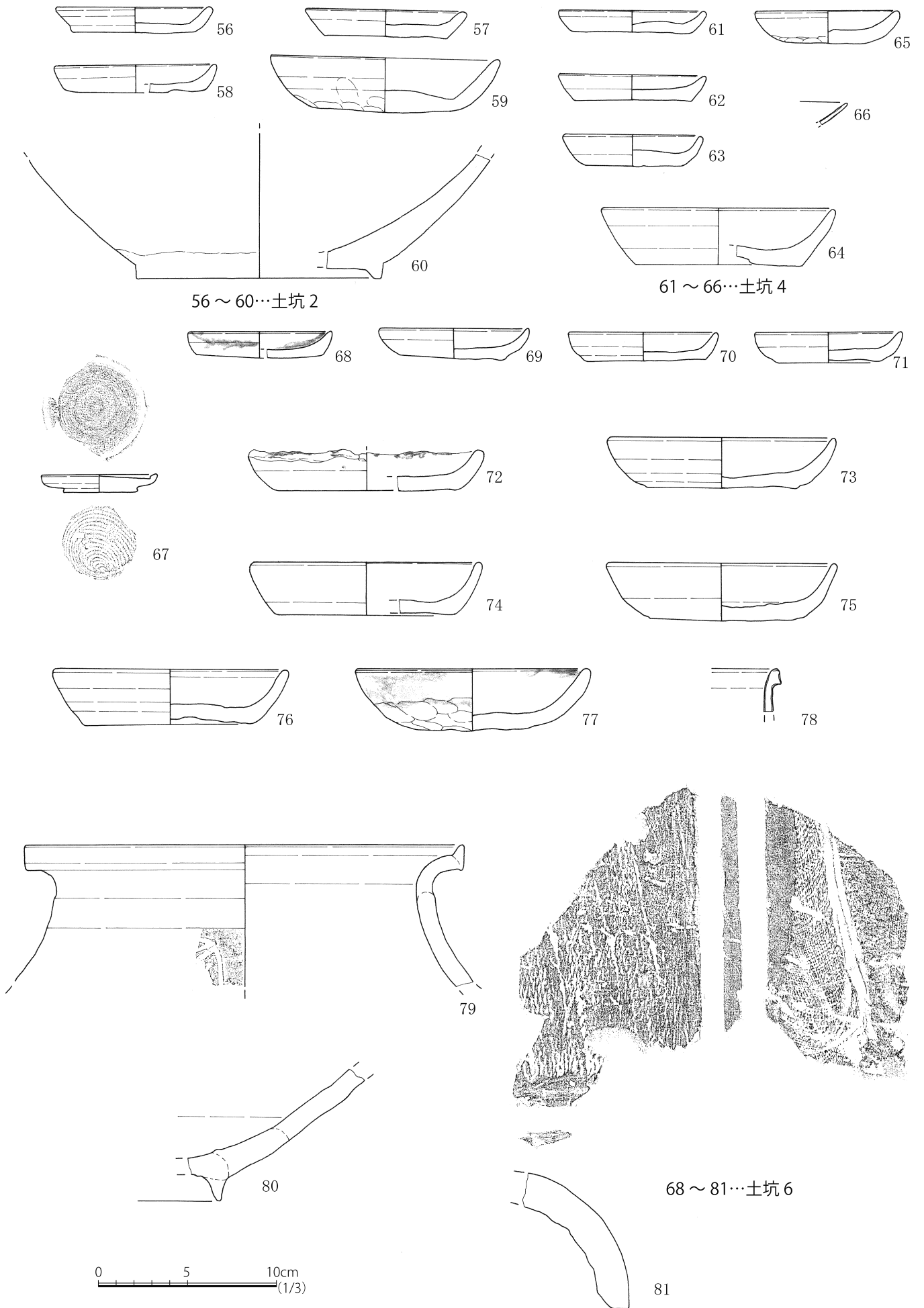
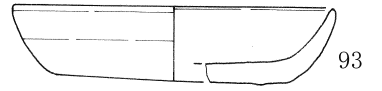
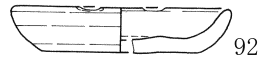
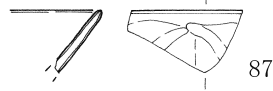
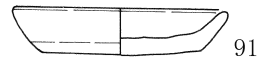
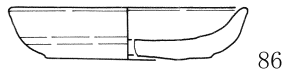
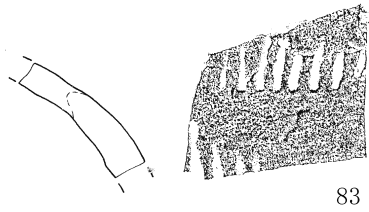
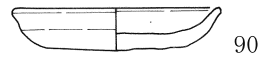
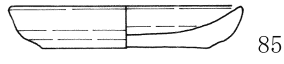
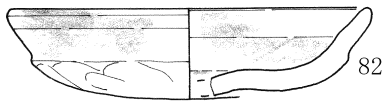
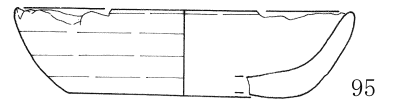
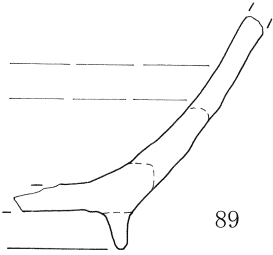
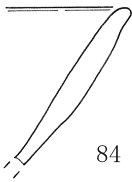
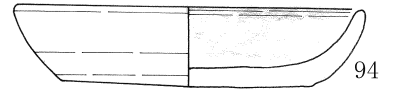
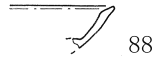


图 63 2 面遺構出土遺物 (5)

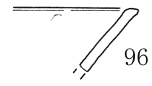


82·83…土坑7

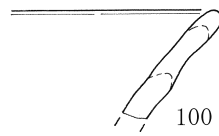
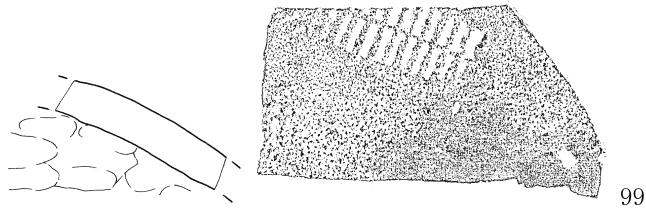
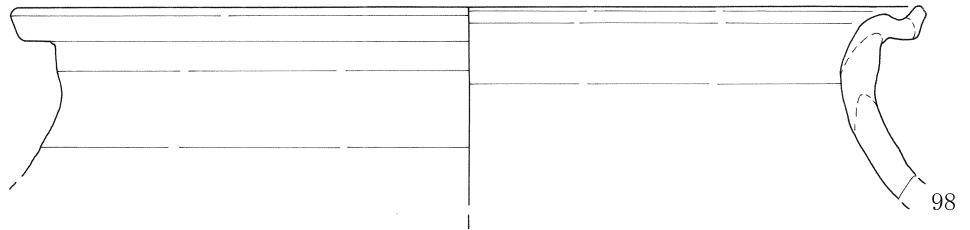
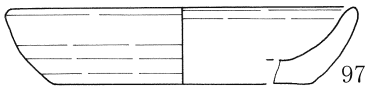


84…土坑8

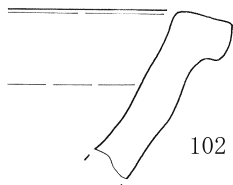
85~89…土坑10



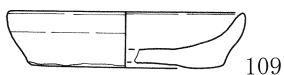
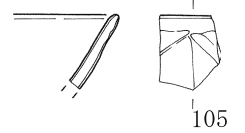
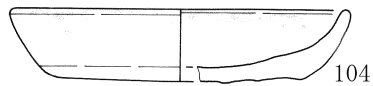
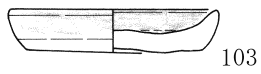
90~96…土坑11



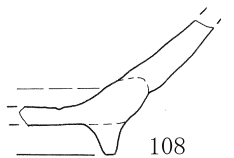
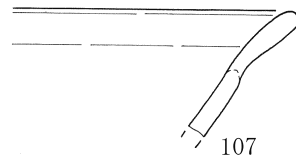
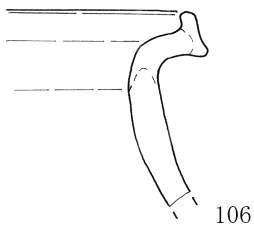
97~101…土坑14



102…土坑18



109…土坑22.



103~108…土坑19

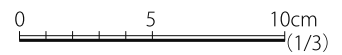


图64 2面遺構出土遺物(6)

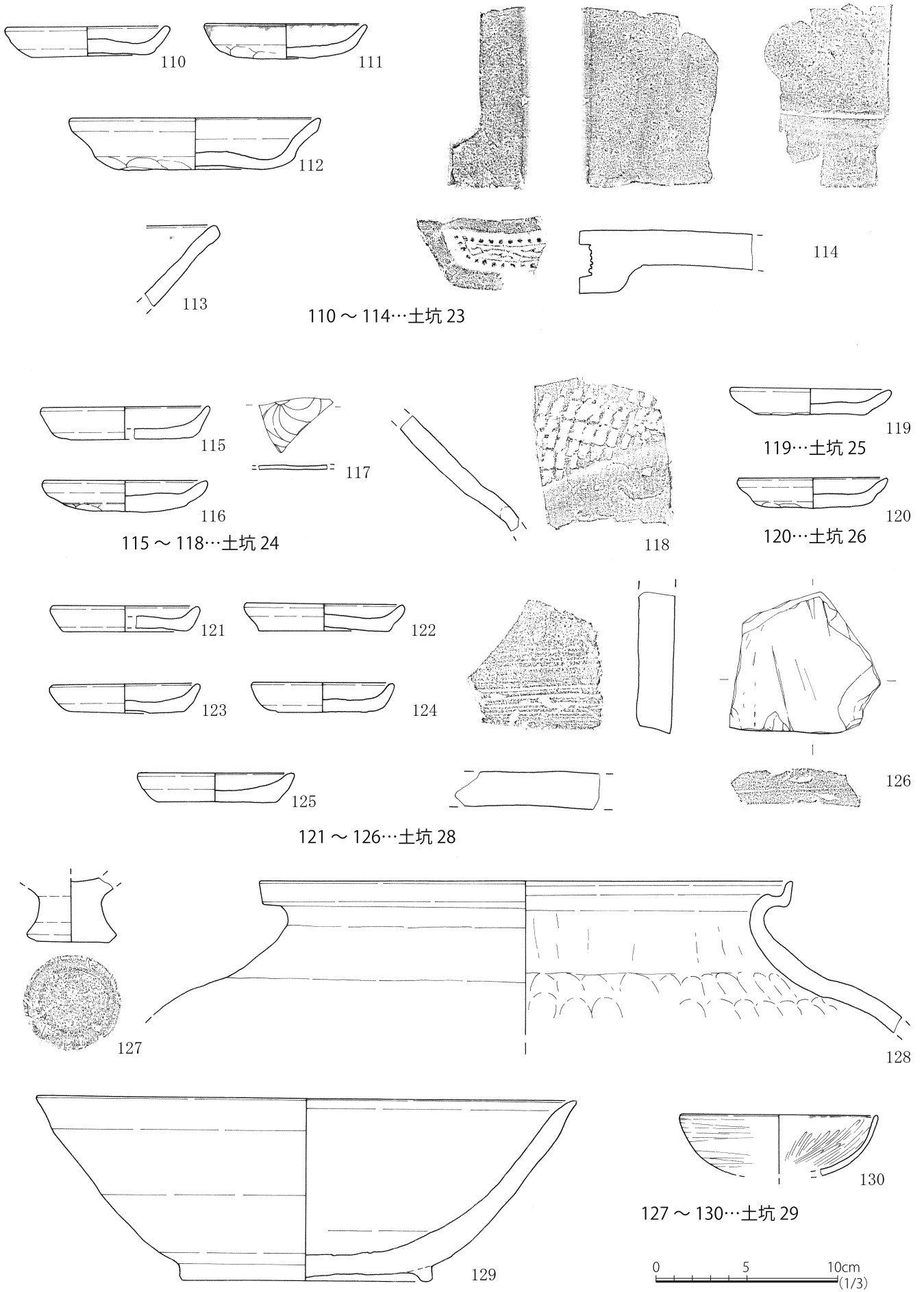


图 65 2 面遺構出土遺物 (7)

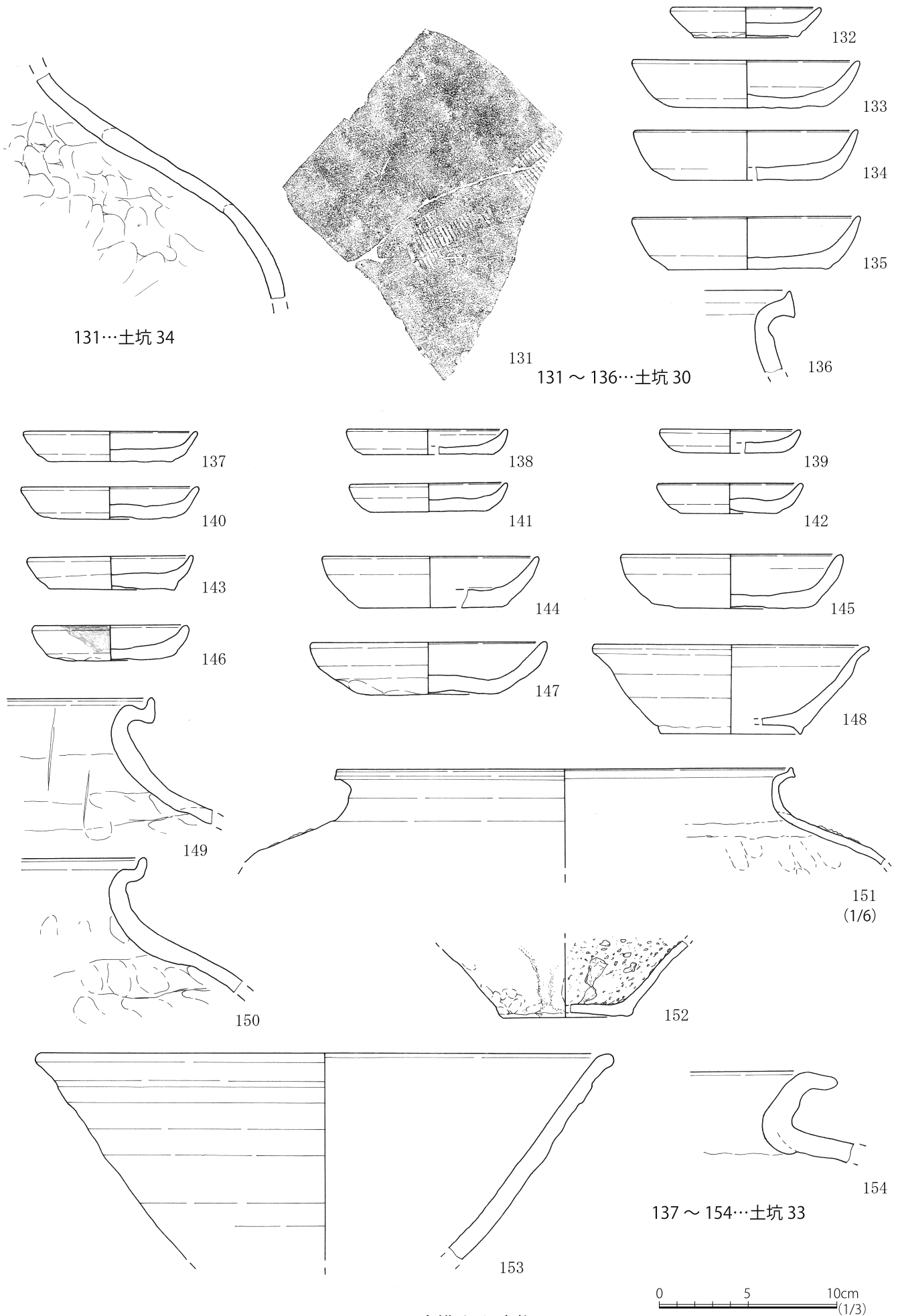


图 66 2 面遺構出土遺物 (8)

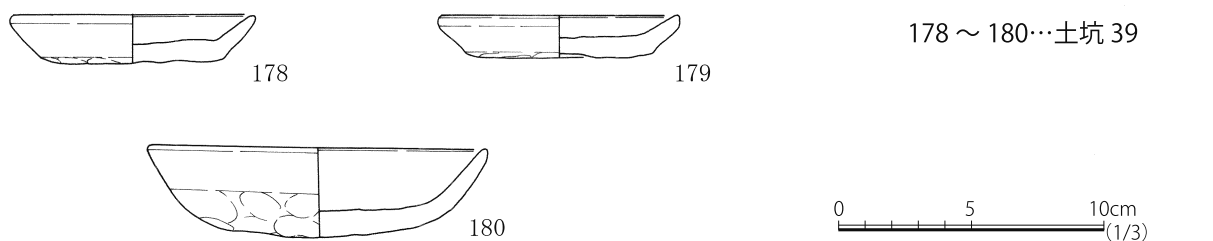
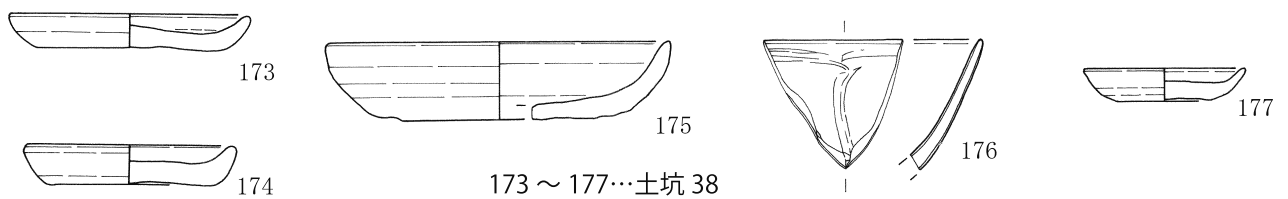
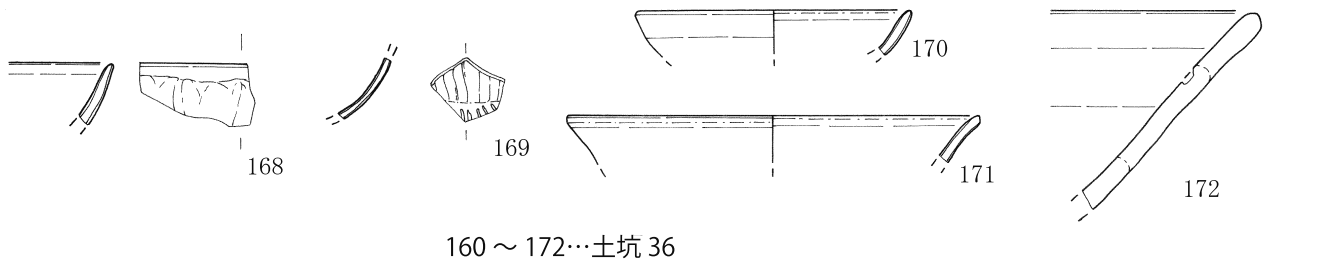
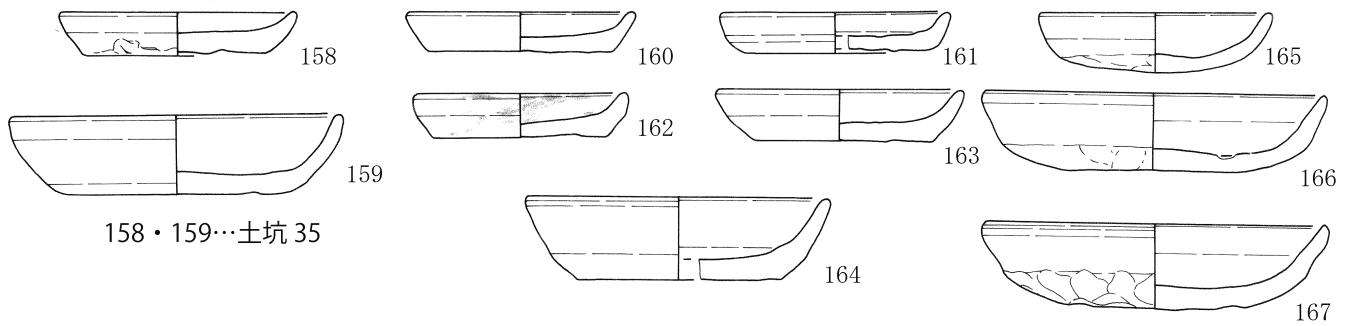
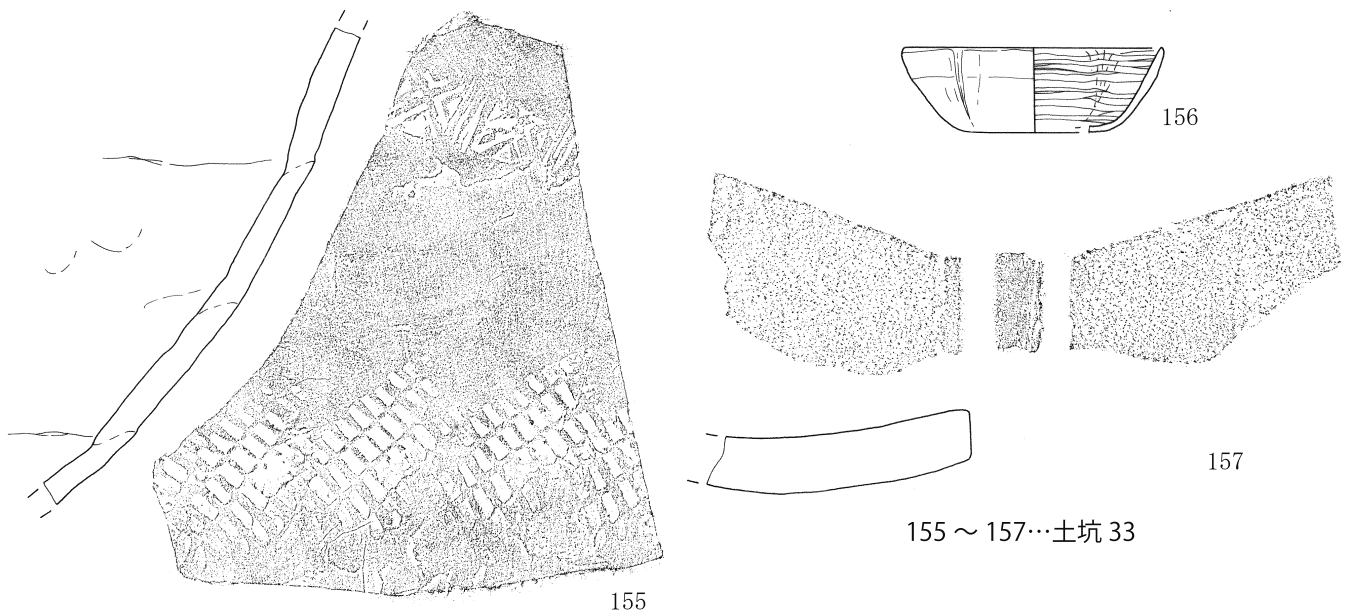


图 67 2 面遺構出土遺物 (9)

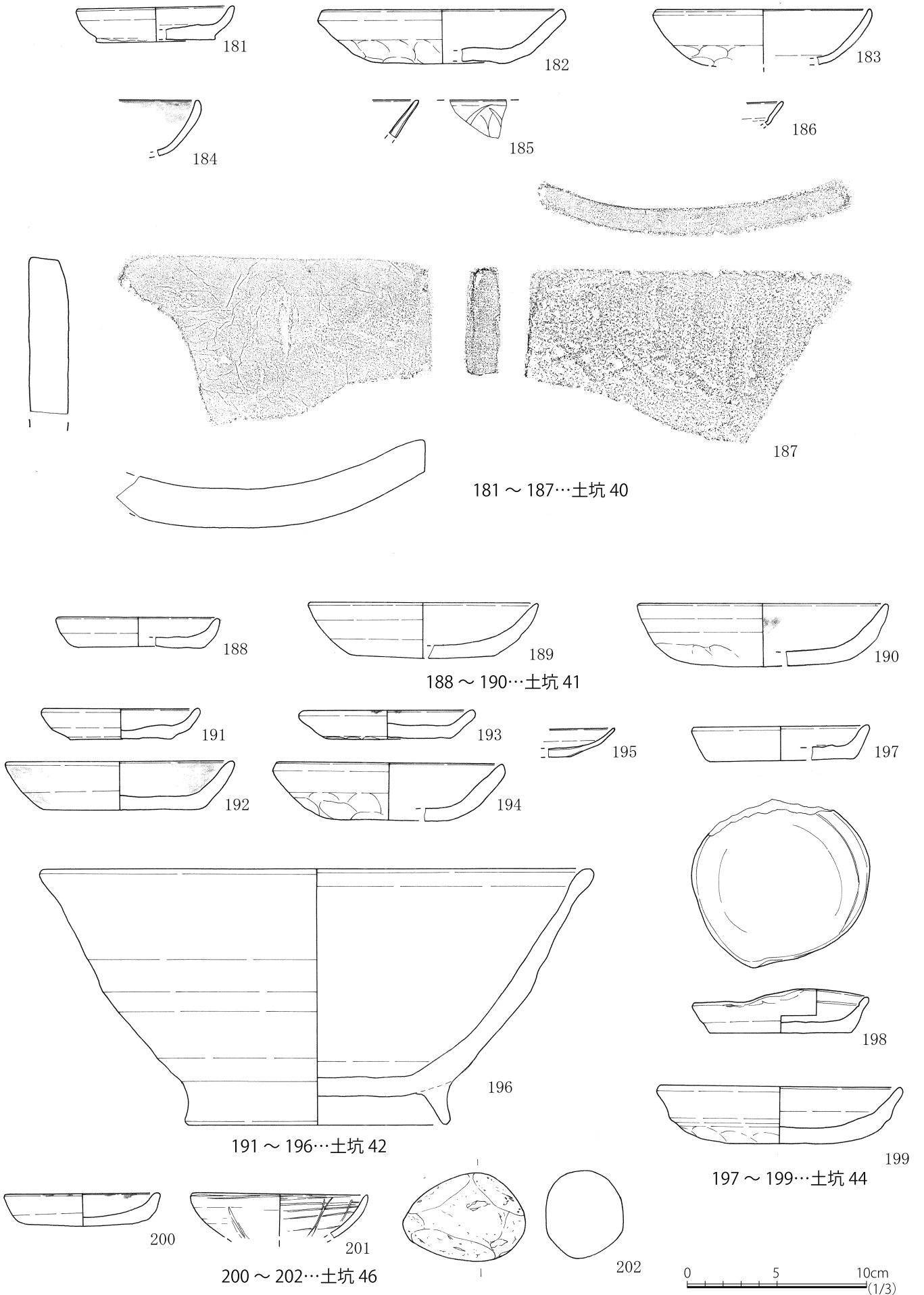
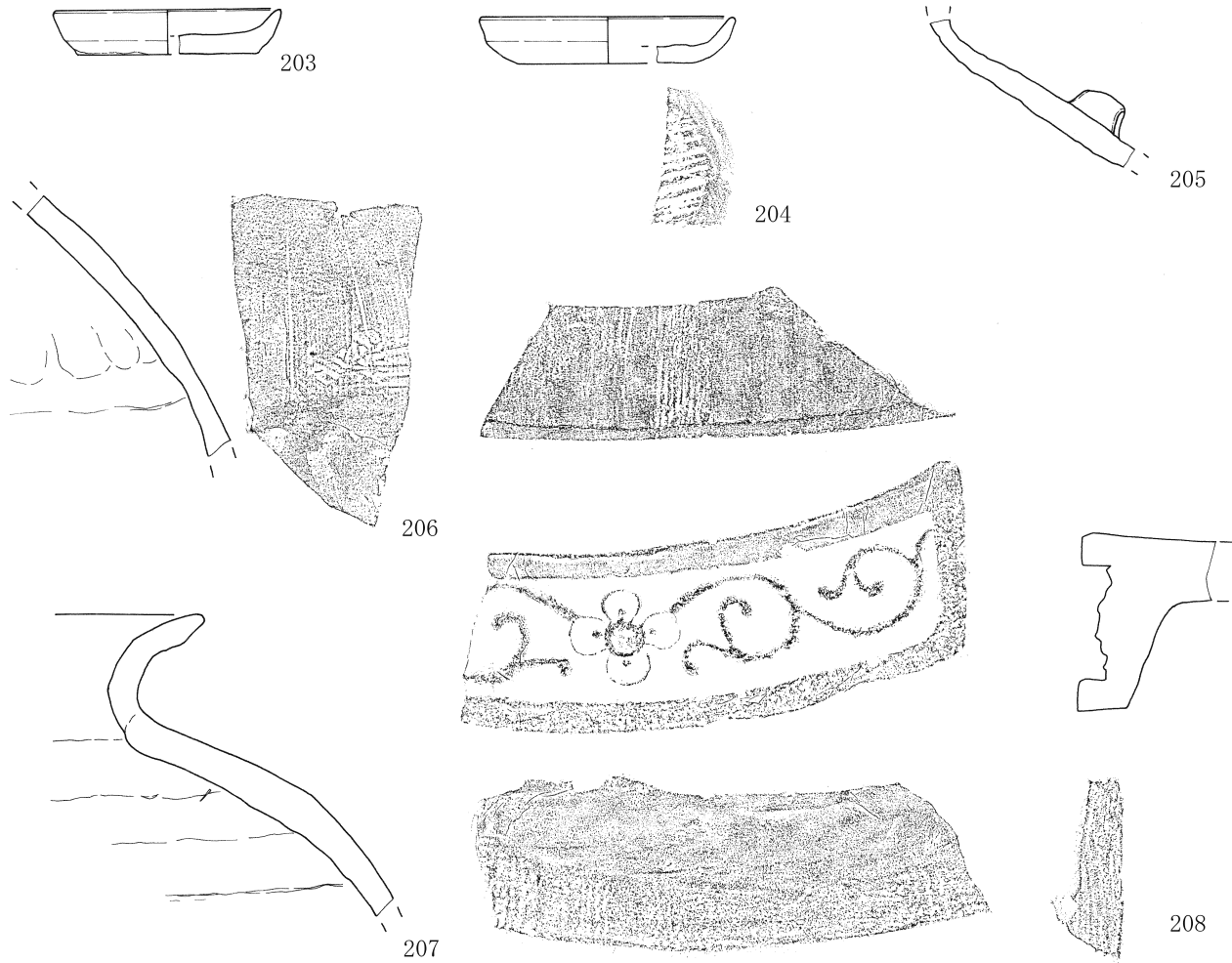
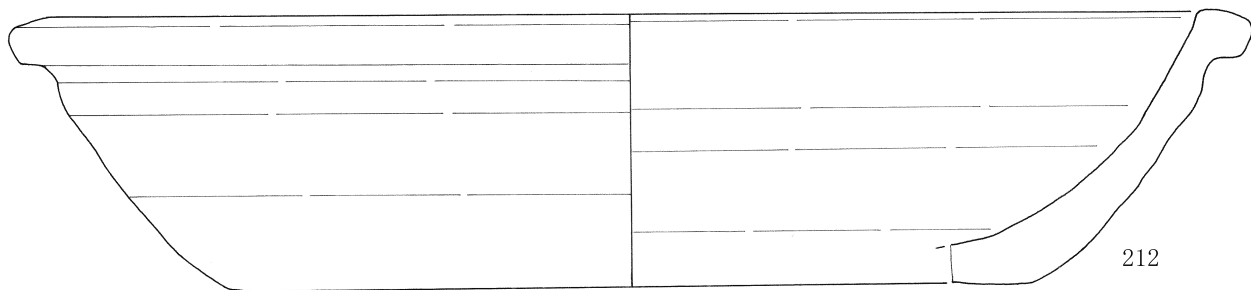
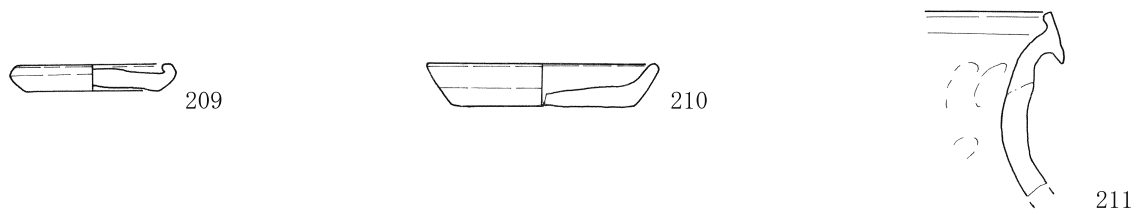


图 68 2 面遺構出土遺物 (10)



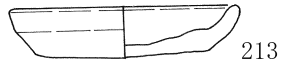
203 ~ 208...土坑 47



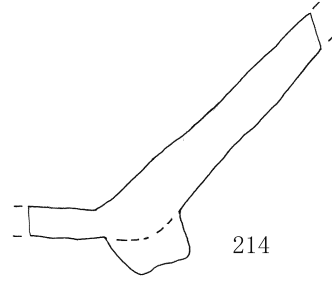
209 ~ 212...土坑 51

0 5 10cm
(1/3)

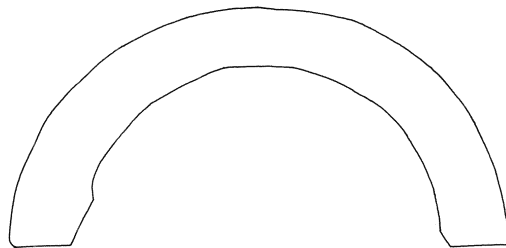
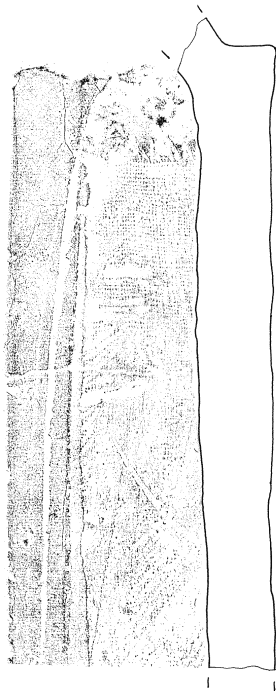
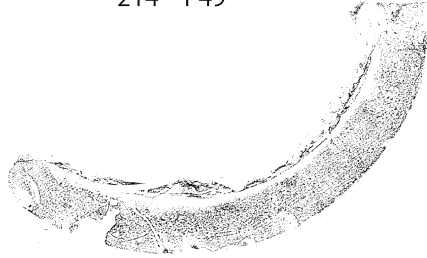
图 69 2 面遺構出土遺物 (11)



213...土坑 52

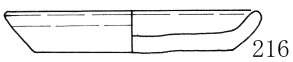


214...P49

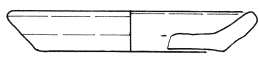


215

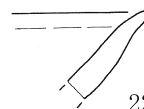
215 ~ 220...土坑 53



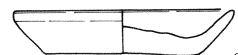
216



217



220



221

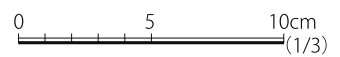
221...土坑 54



218



219



10cm (1/3)

图 70 2 面遺構出土遺物 (12)

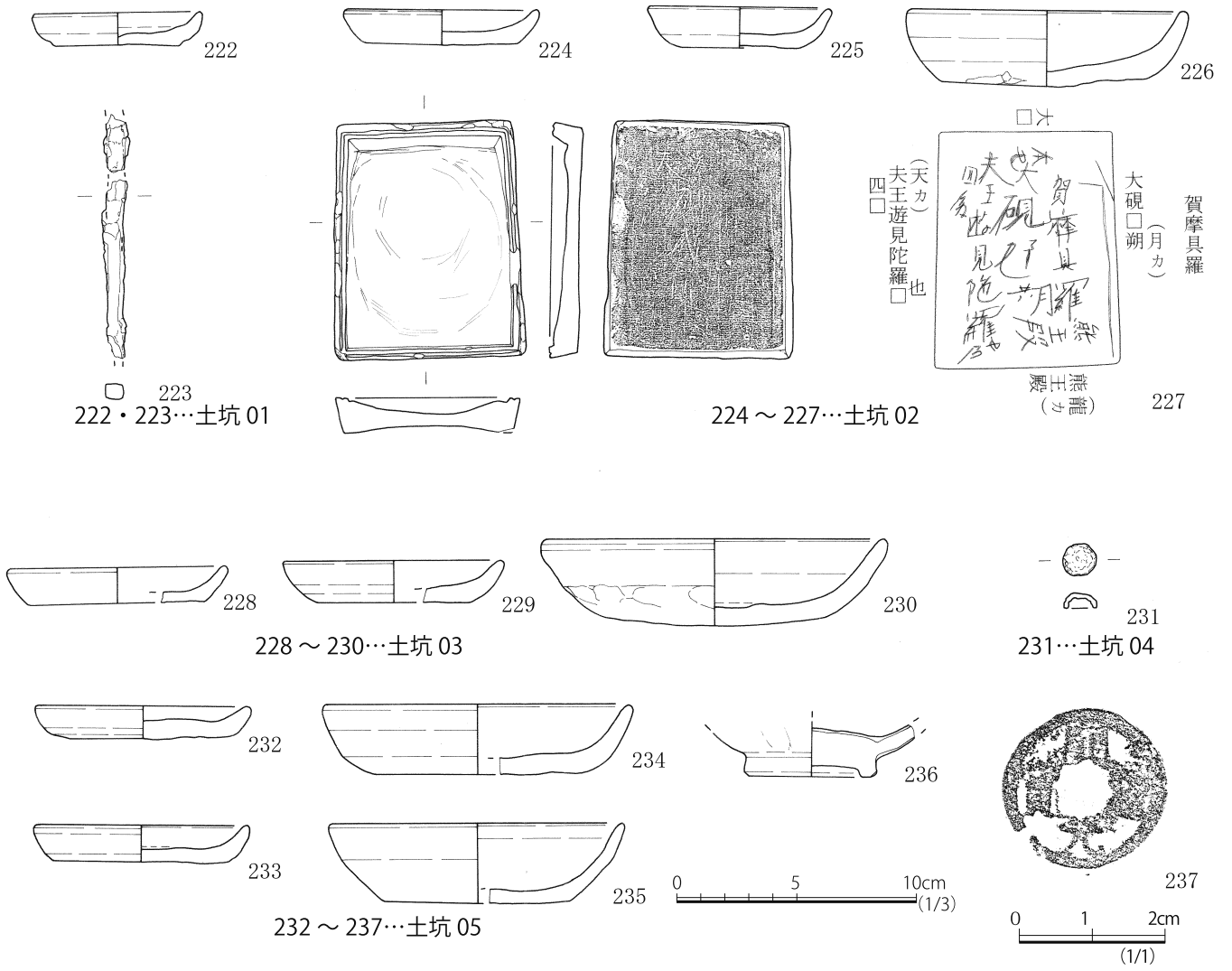


图 71 2 面遺構出土遺物 (13)

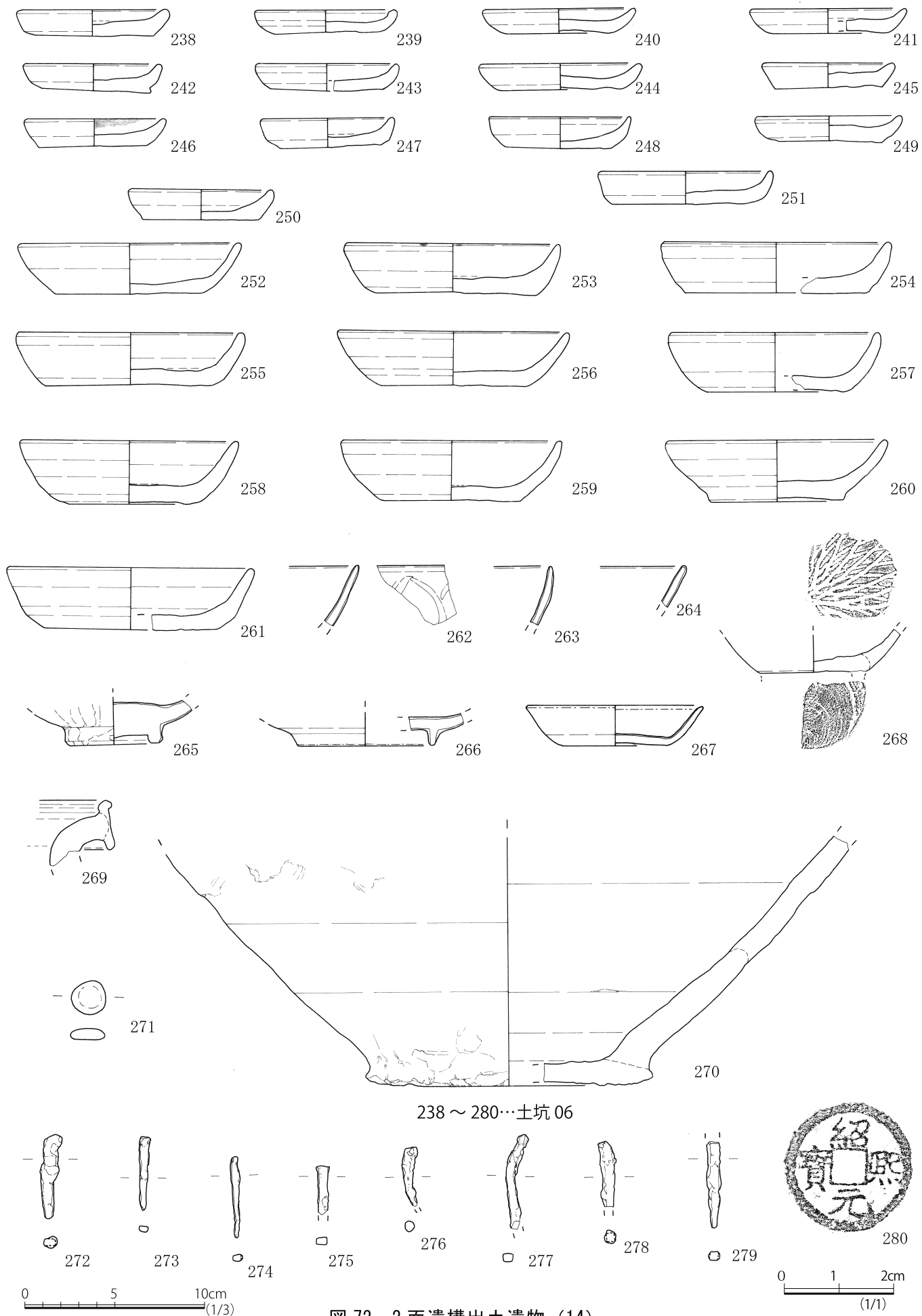


图 72 2 面遺構出土遺物 (14)

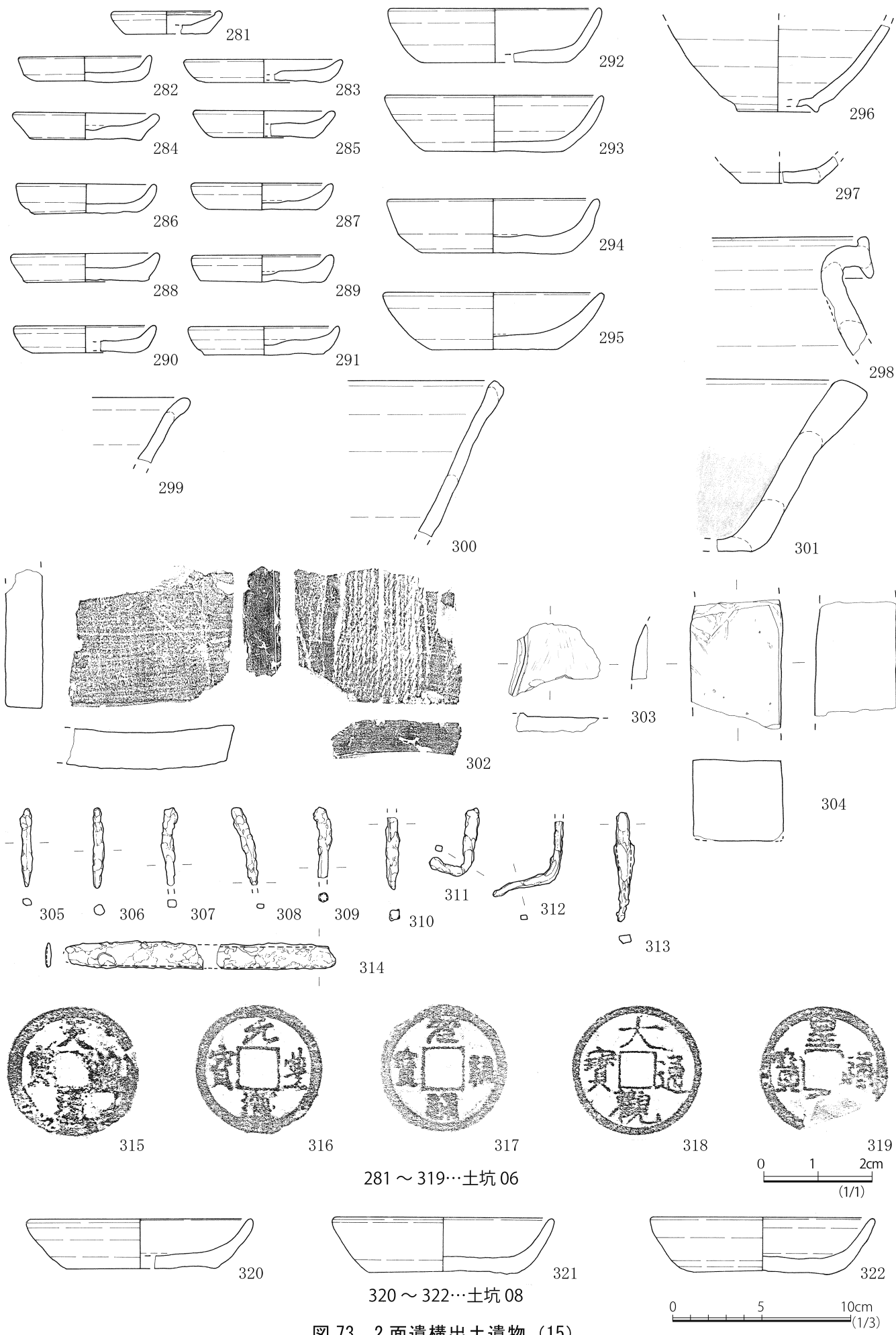


图 73 2 面遺構出土遺物 (15)

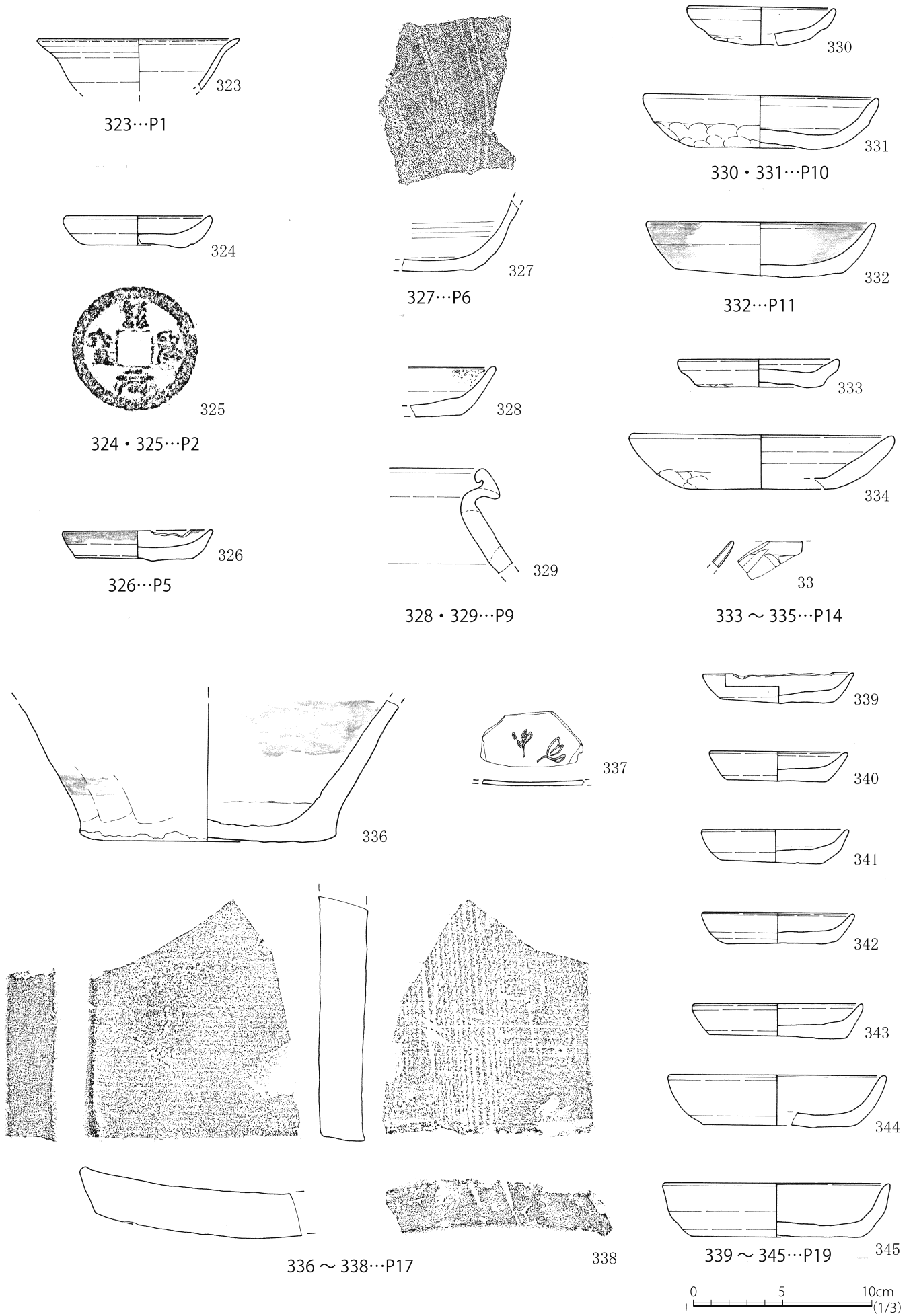


图 74 2面遺構出土遺物 (16)

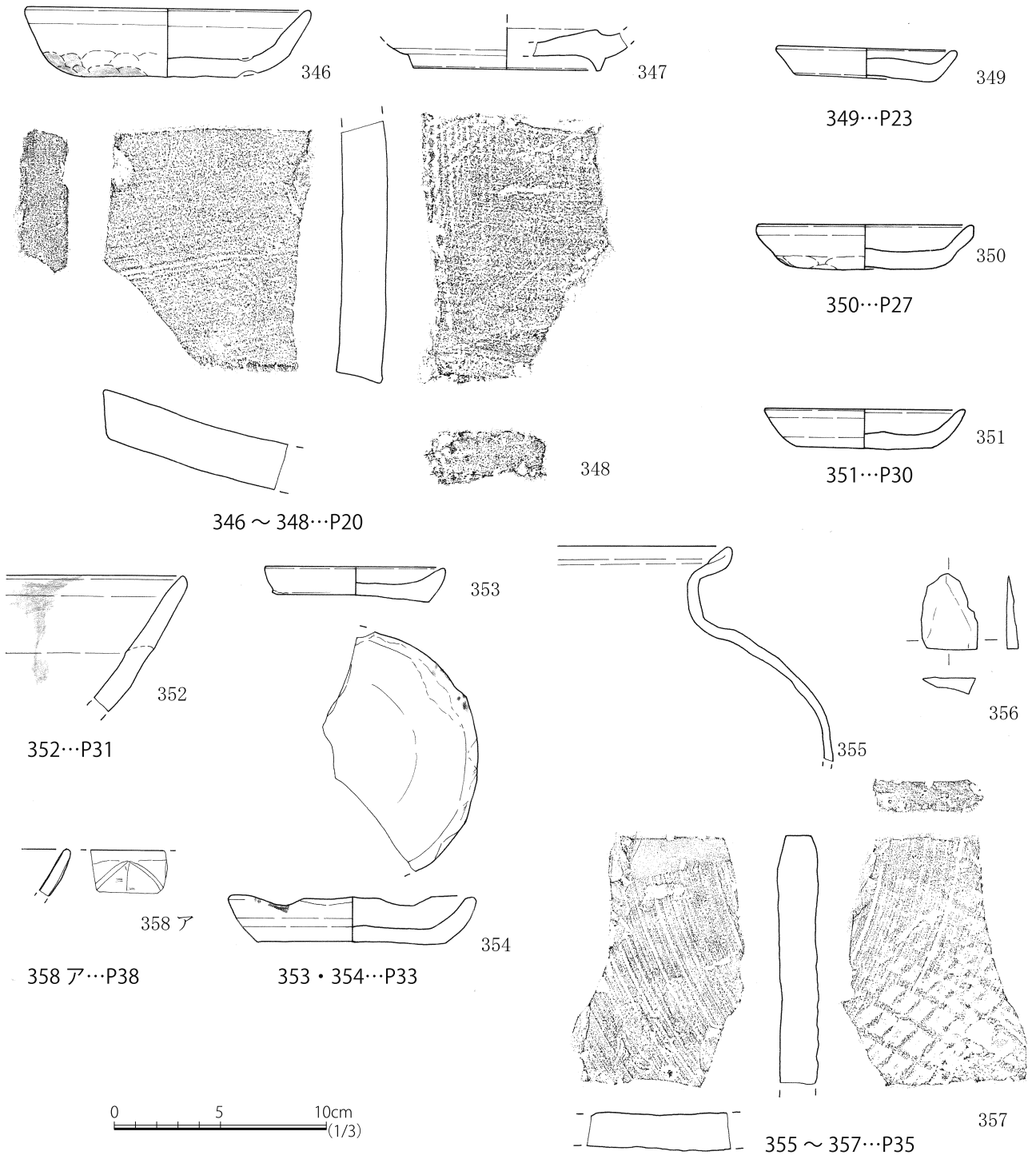


図 75 2面遺構出土遺物 (17)

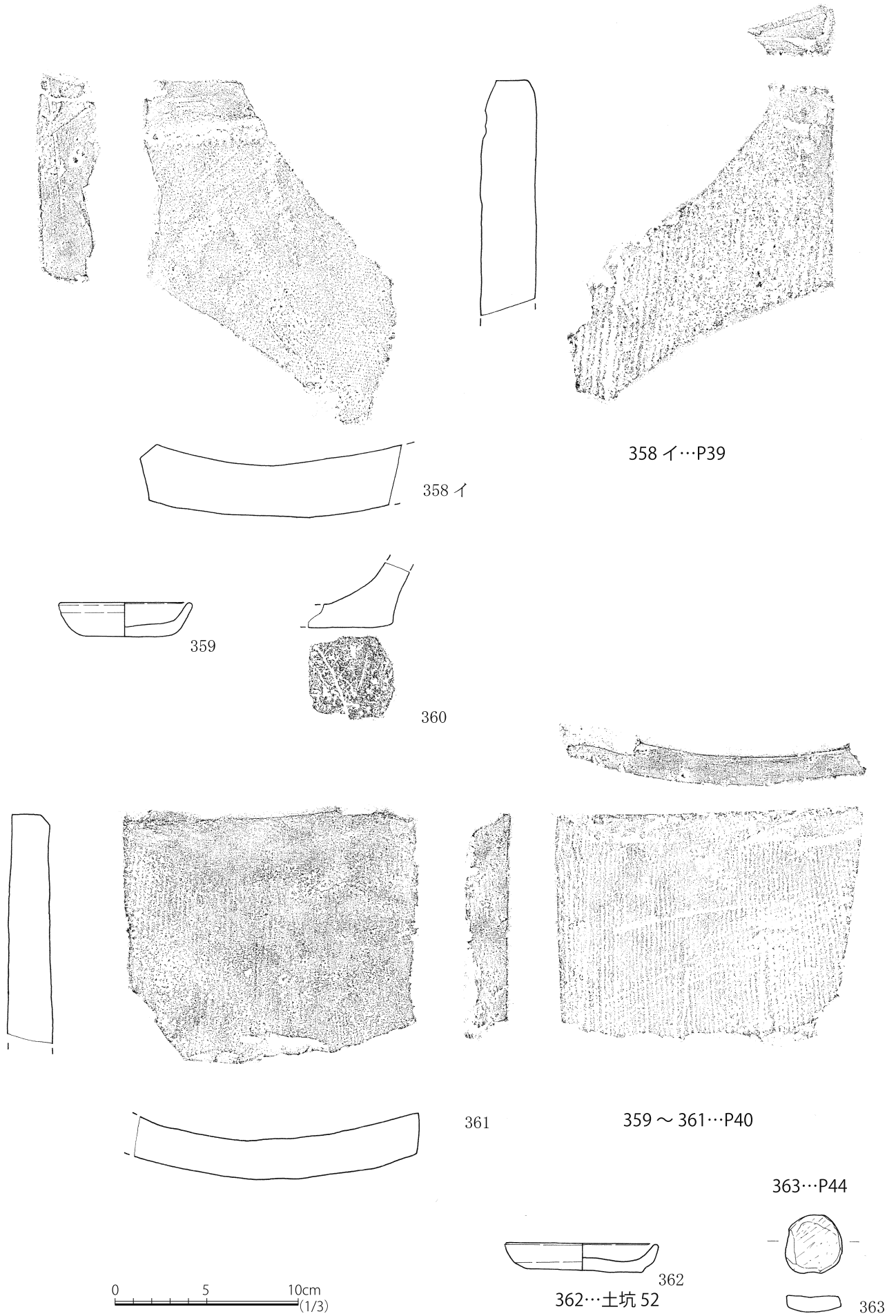


图 76 2 面遺構出土遺物 (18)

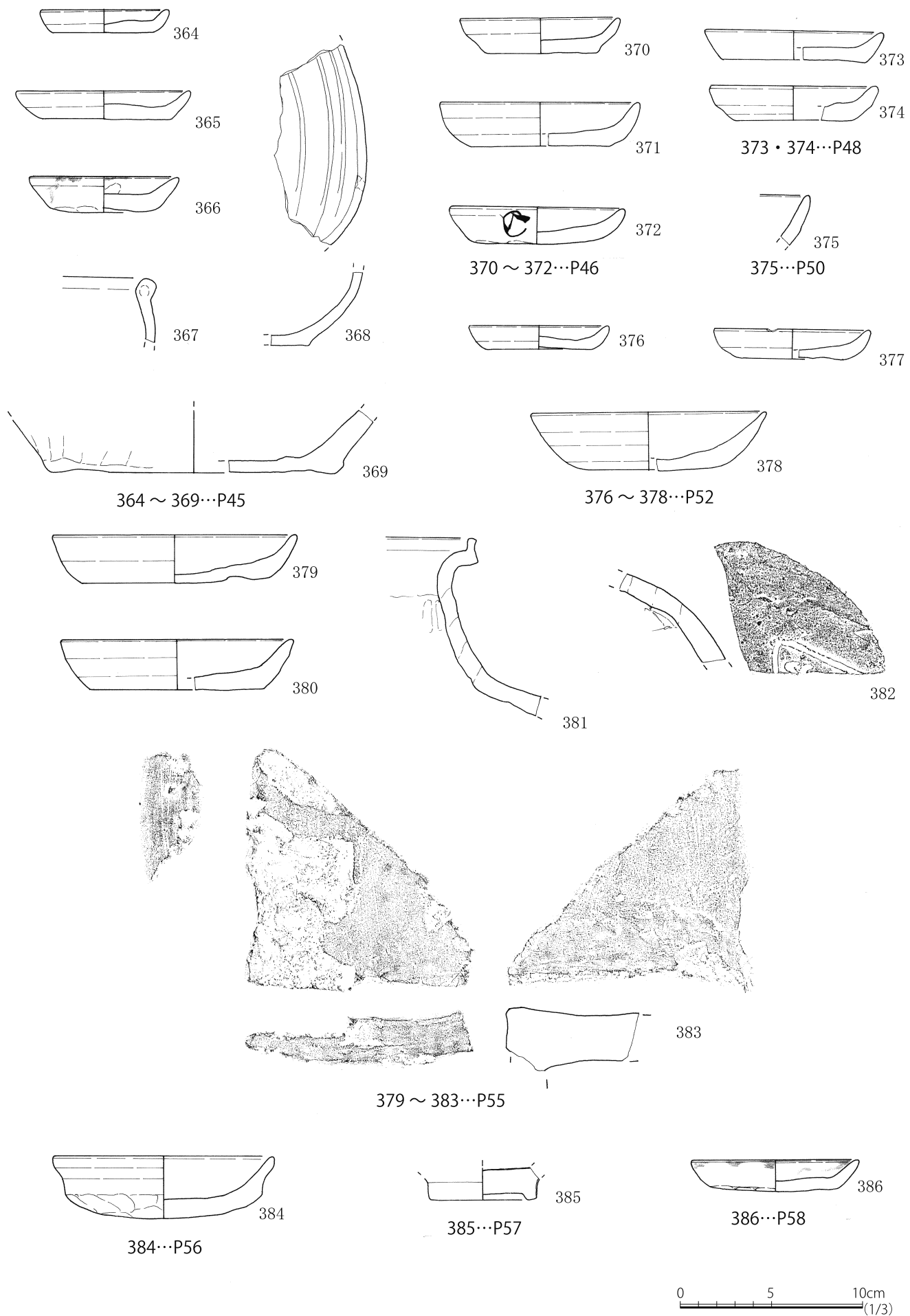


图 77 2 面遺構出土遺物 (19)

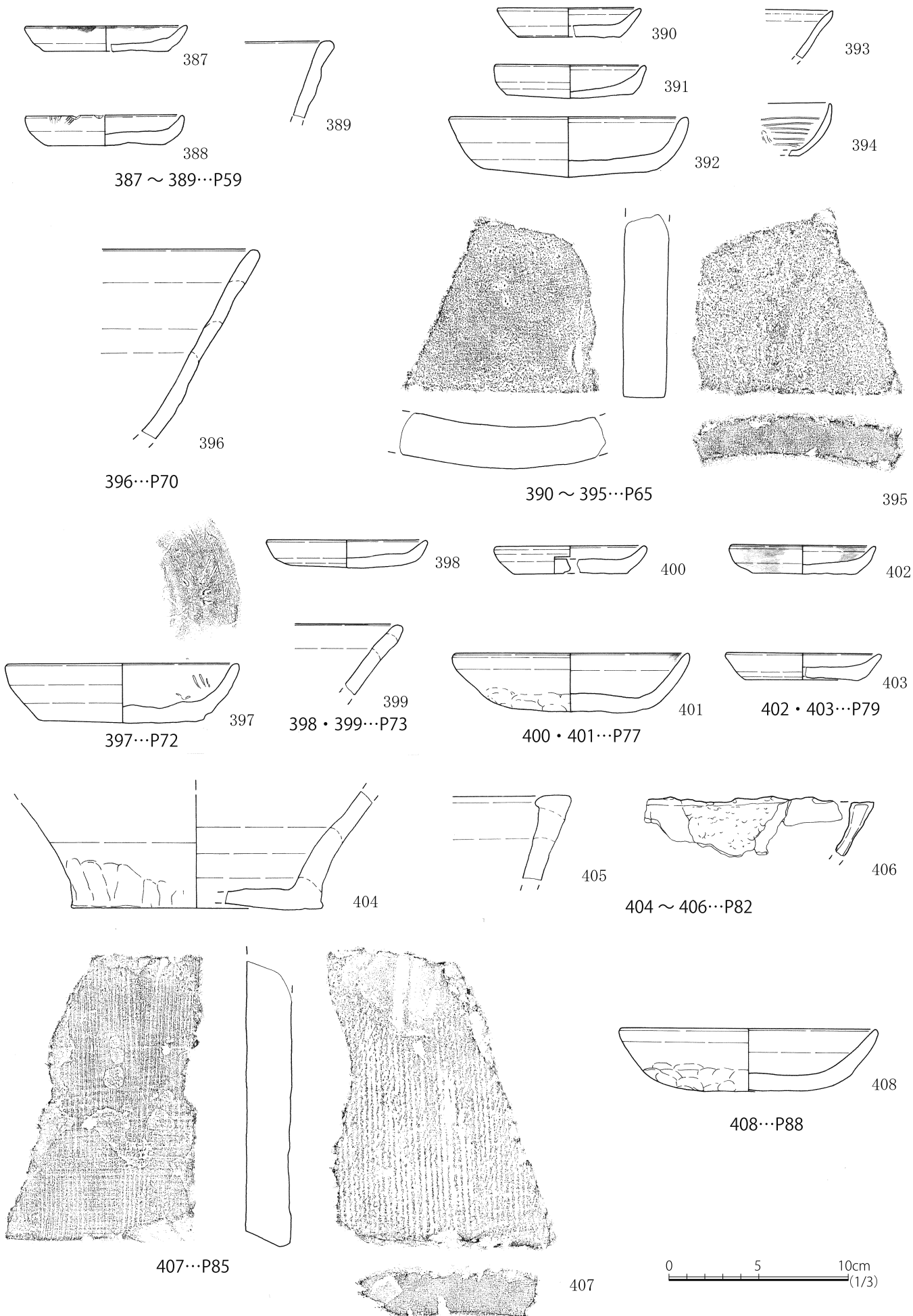
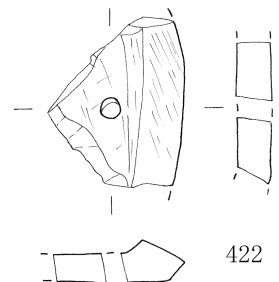
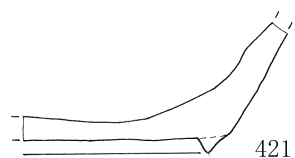
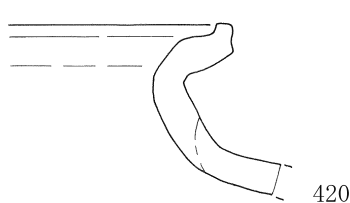
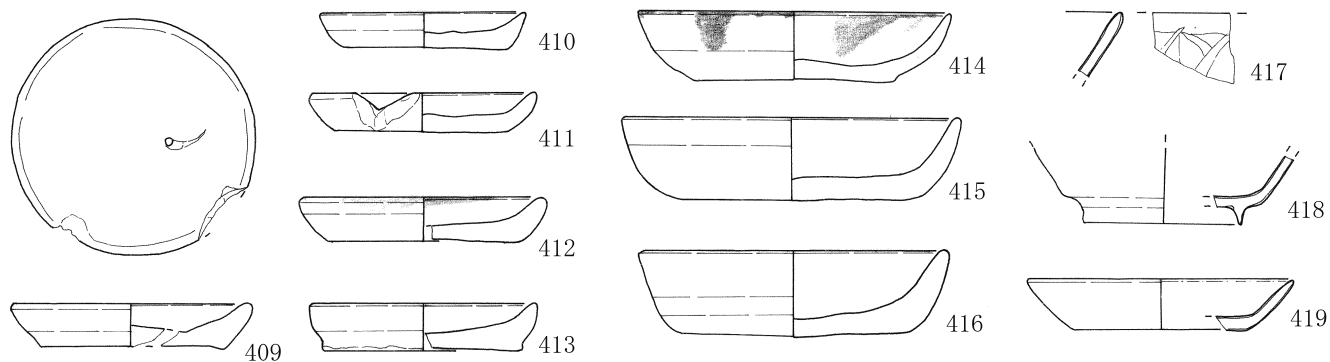
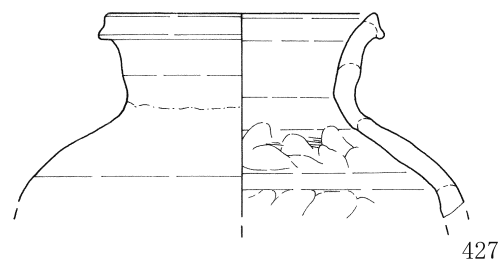
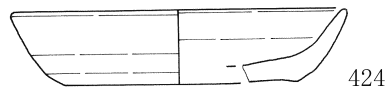
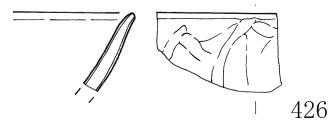
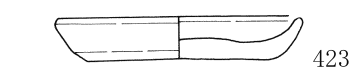


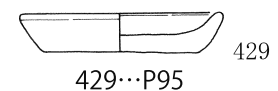
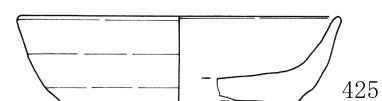
图 78 2 面遺構出土遺物 (20)



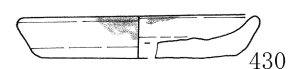
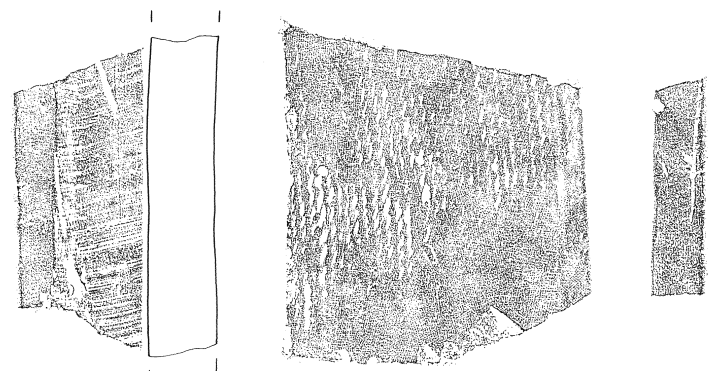
409 ~ 422...P93



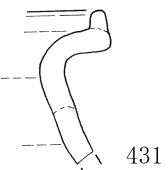
423 ~ 428...P94



429...P95

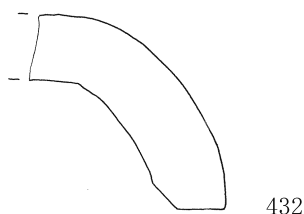


430



431

430 ~ 432...P96



432

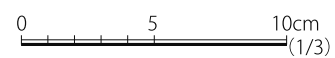
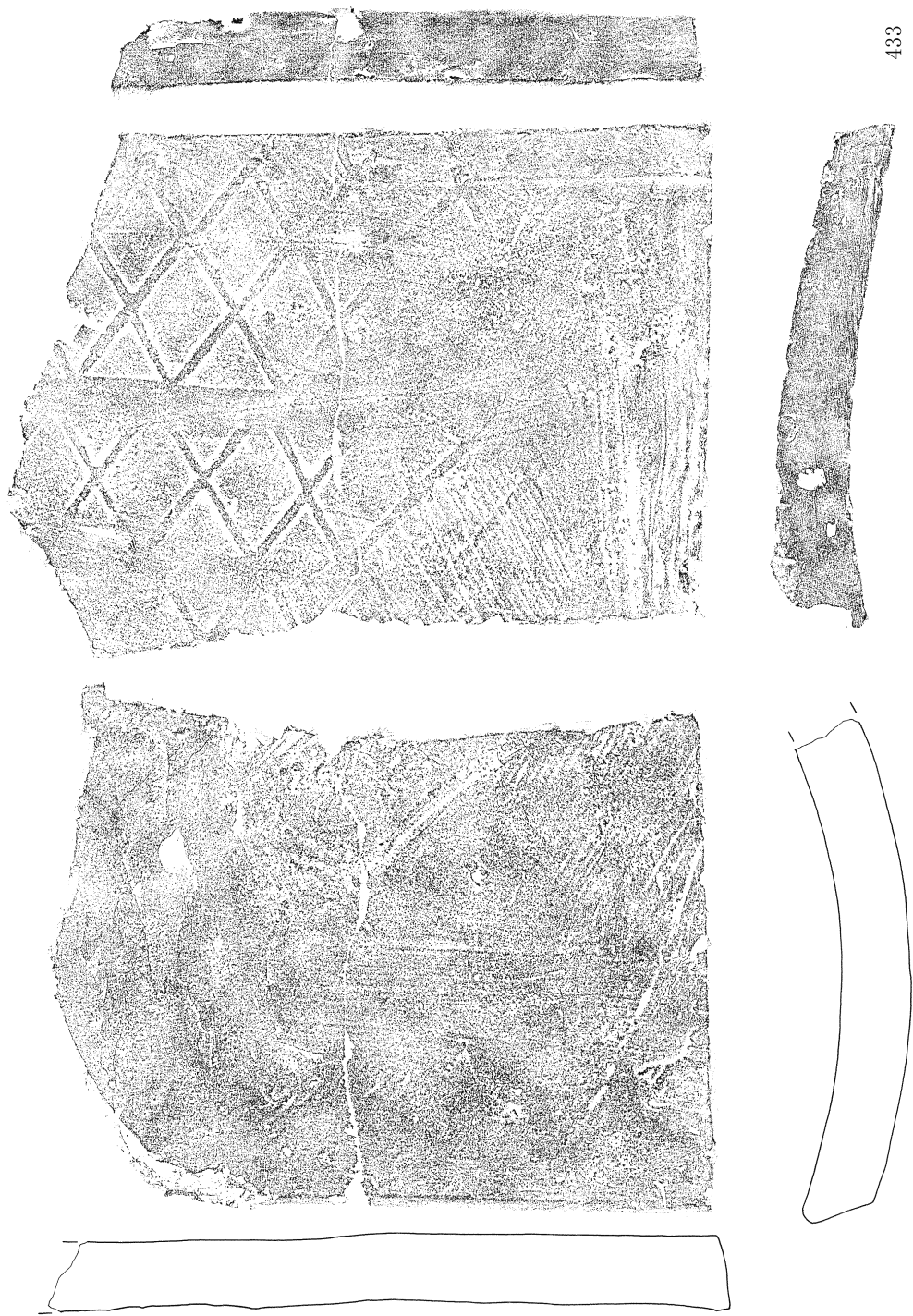


图 79 2 面遺構出土遺物 (21)



433

433...P98

0 5 10cm
(1/3)

图 80 2 面遺構出土遺物 (22)

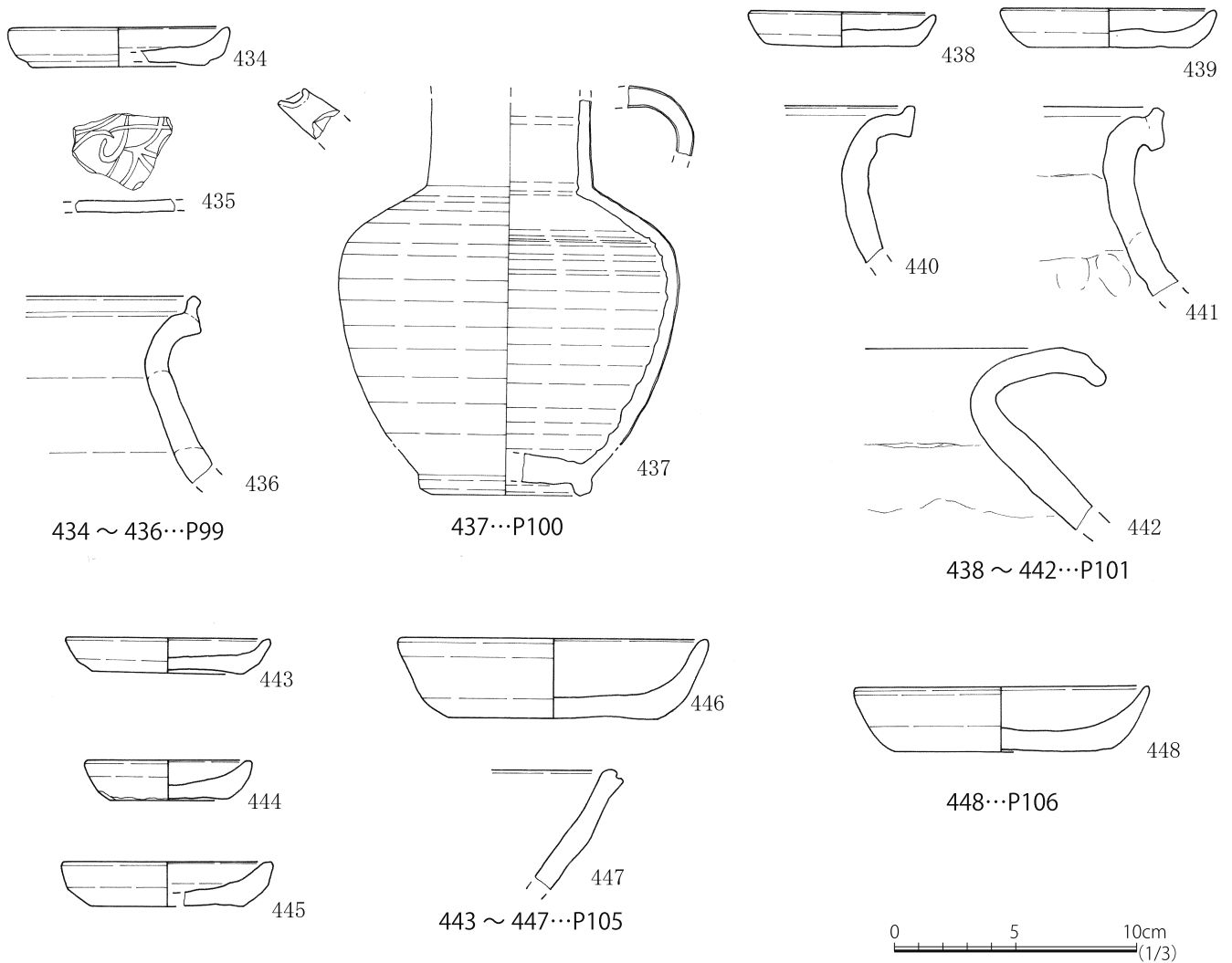
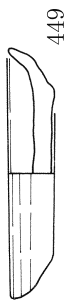


図 81 2面遺構出土遺物 (23)

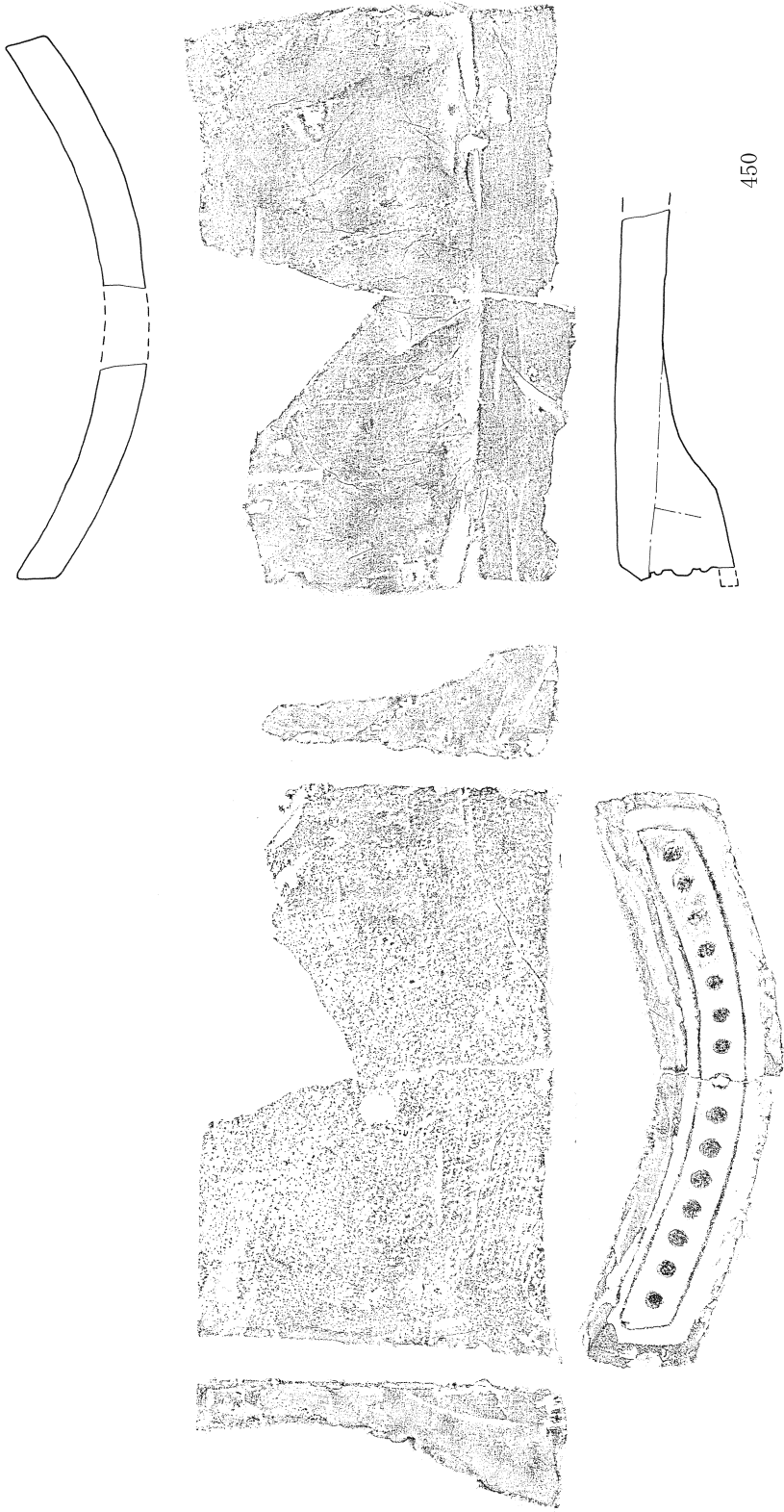
第5節 3面上の遺物 (図 84 ~ 93、表 6)

図 84 ~ 92 に 2 面下から 3 面まで掘り下げる際の出土遺物を、図 93 には 3 面直上の出土遺物を掲載した。2 面下掘り下げ時の資料では、かわらけはロクロ成形品が主体となる中、手づくね成形品も一定量が見られ、2 面段階に比べて確実に増加している。ロクロかわらけには中型品がなく、底広・低平な作りで手づくねの器形とに相関性が見られる。手づくねかわらけは、大・小ともに口縁端部の面取りナデを施さない個体が多い。舶載陶磁器は小片資料に限られるが、龍泉窯系青磁の碗・皿は I・II 類が占めている。常滑甕は 5 型式が大部分を占め、片口鉢は I 類が主体となる。瓦は永福寺 II 期の所用品を含む。全体としては 13 世紀第 2 四半期の遺物構成で、ごく僅かだが、これを下る要素も散見される。

3 面直上の出土遺物は掲載個体数が少ないため傾向を見出すには不十分だが、かわらけは手づくねの小皿のみ、瓦は永福寺 I 期平瓦のみの掲載となった。大きく捉えて、13 世紀前半の遺物様相を示していよう。



449



450

449・450…P104



图 82 2 面遺構出土遺物 (24)

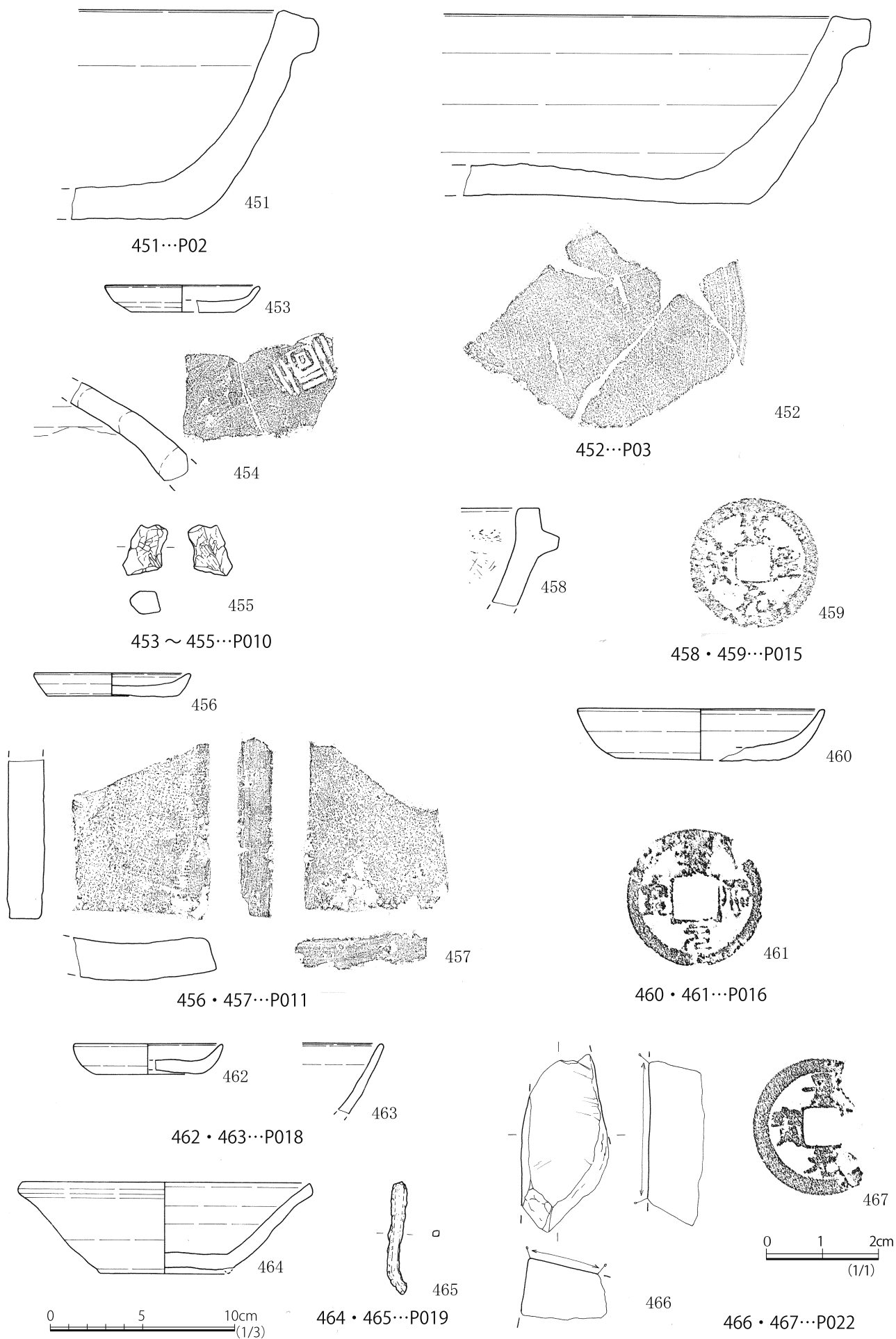


图 83 2 面遺構出土遺物 (25)

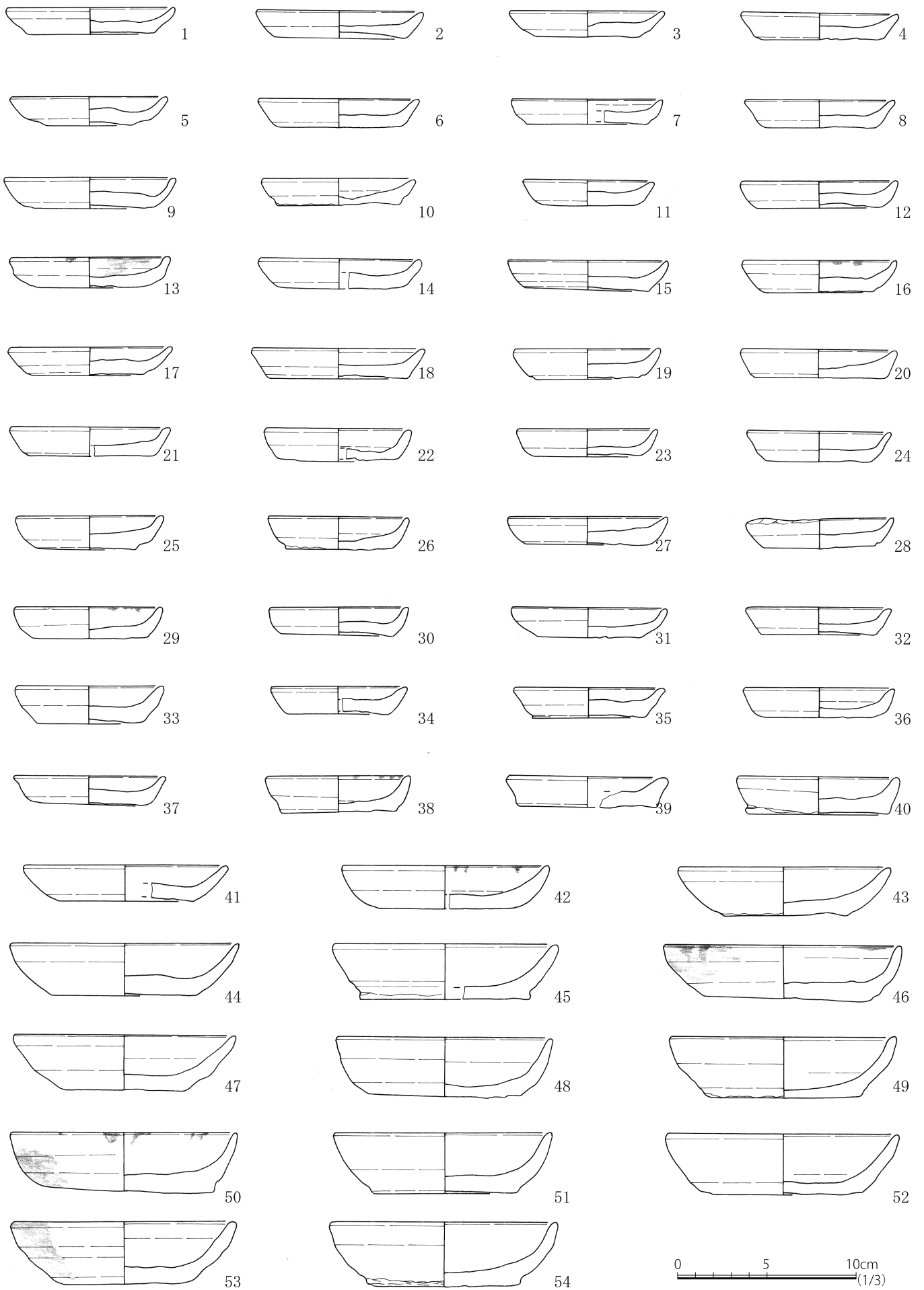


图 84 2 面下~3 面上出土遺物 (1)

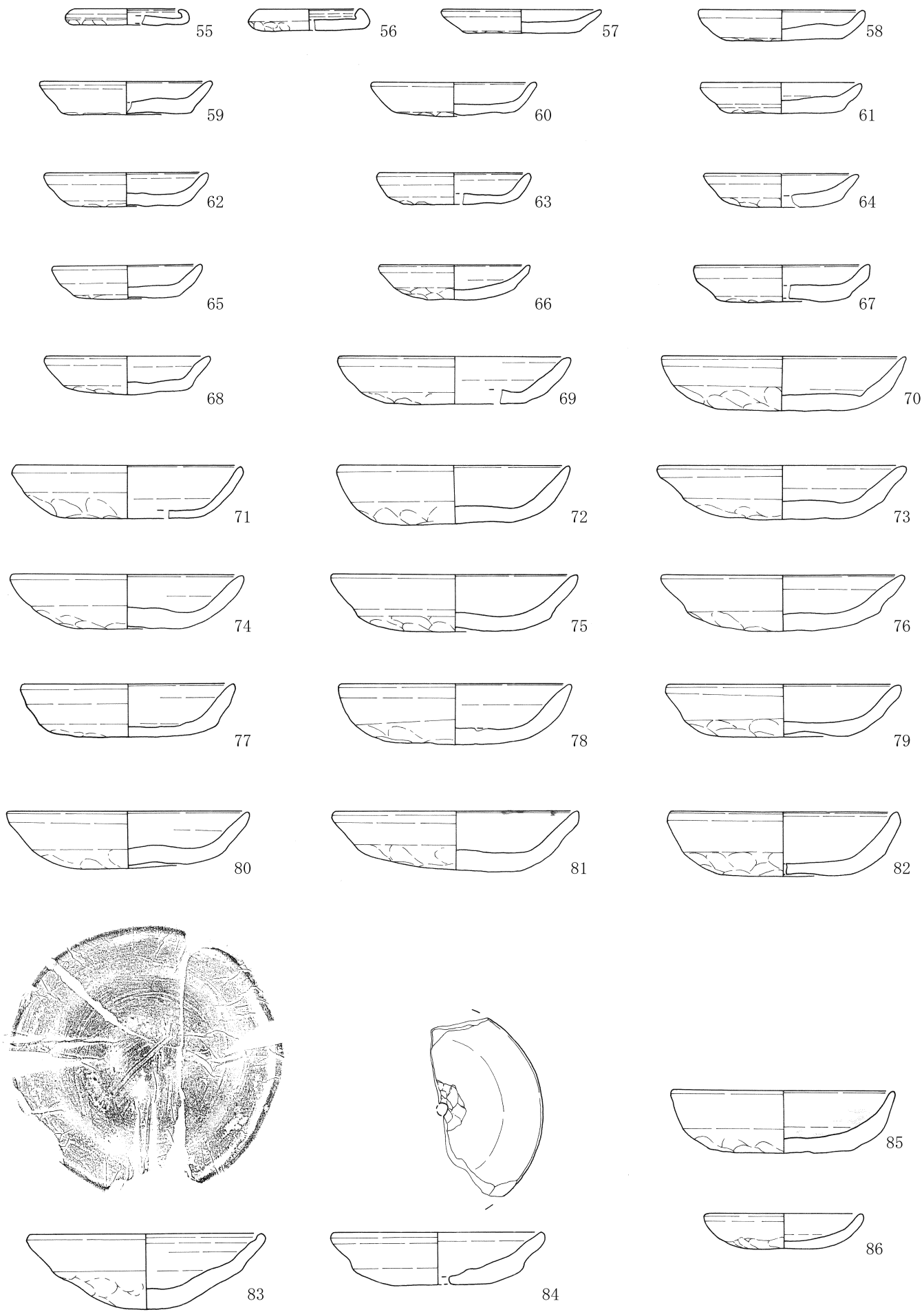
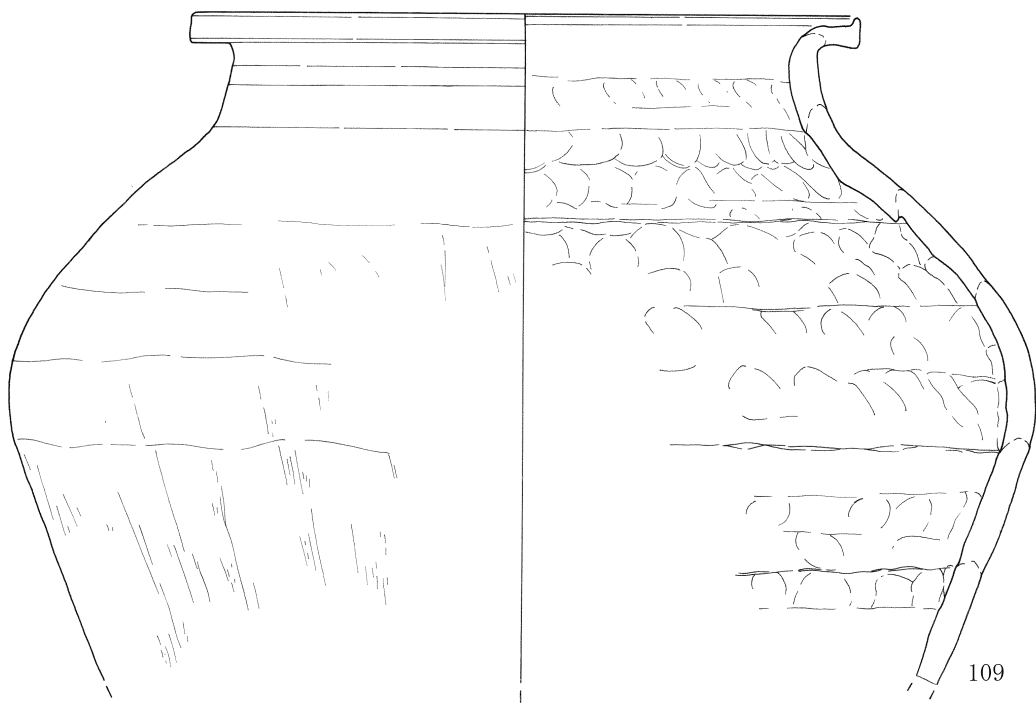
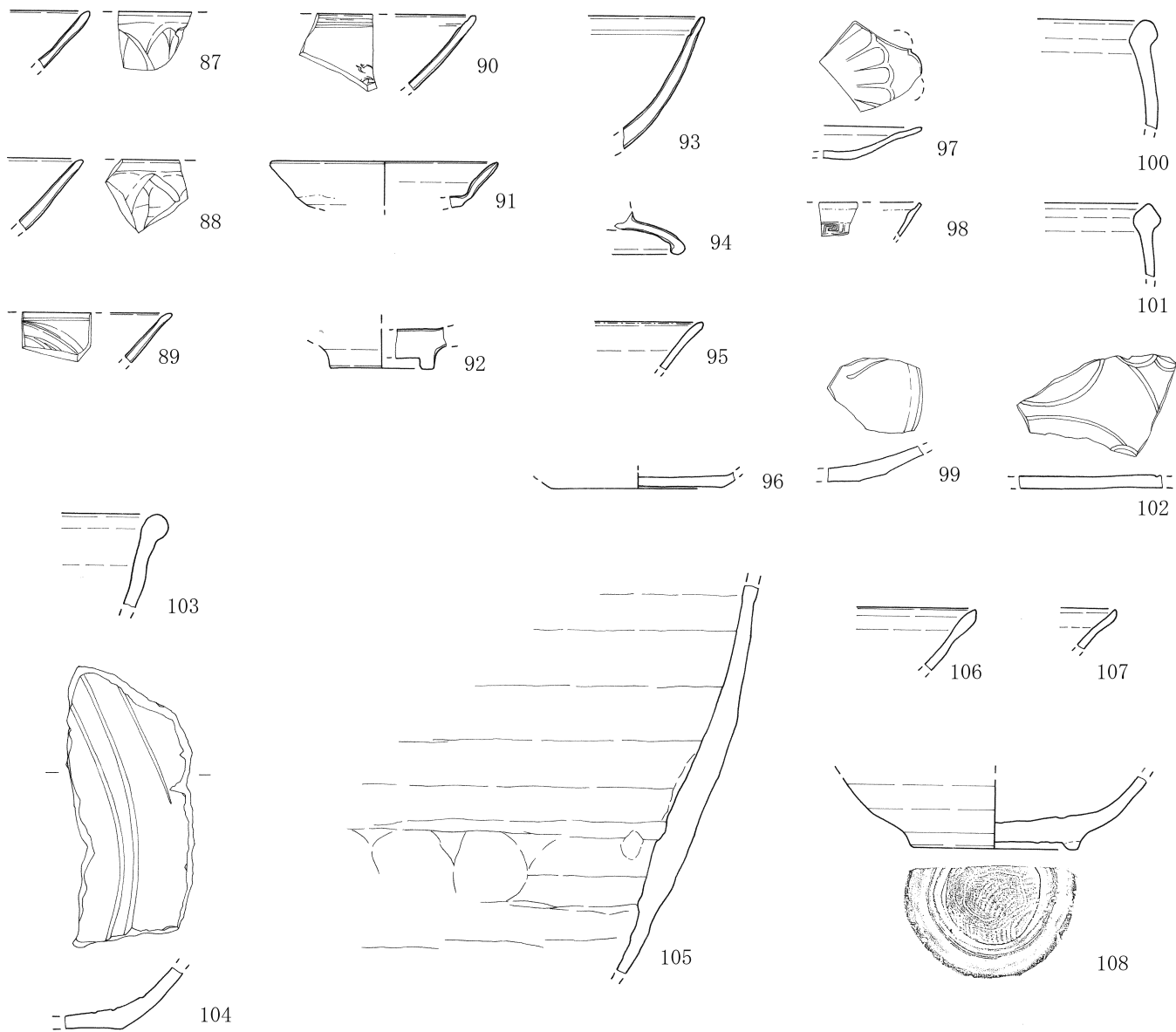


图 85 2 面下~3 面上出土遺物 (2)



0 5 10cm (1/3)

图 86 2 面下 ~ 3 面上出土遗物 (3)

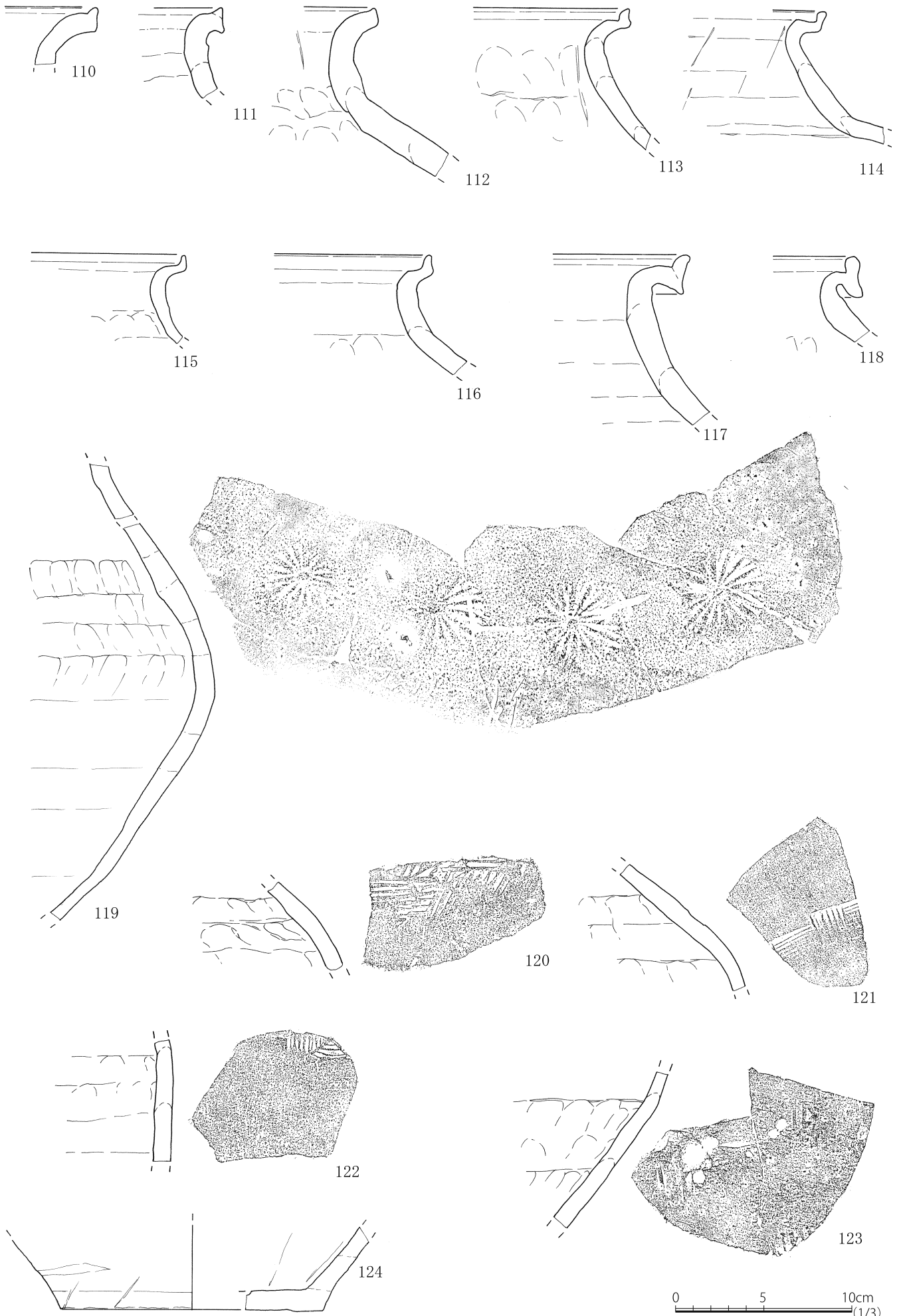


图 87 2 面下~3 面上出土遺物 (4)

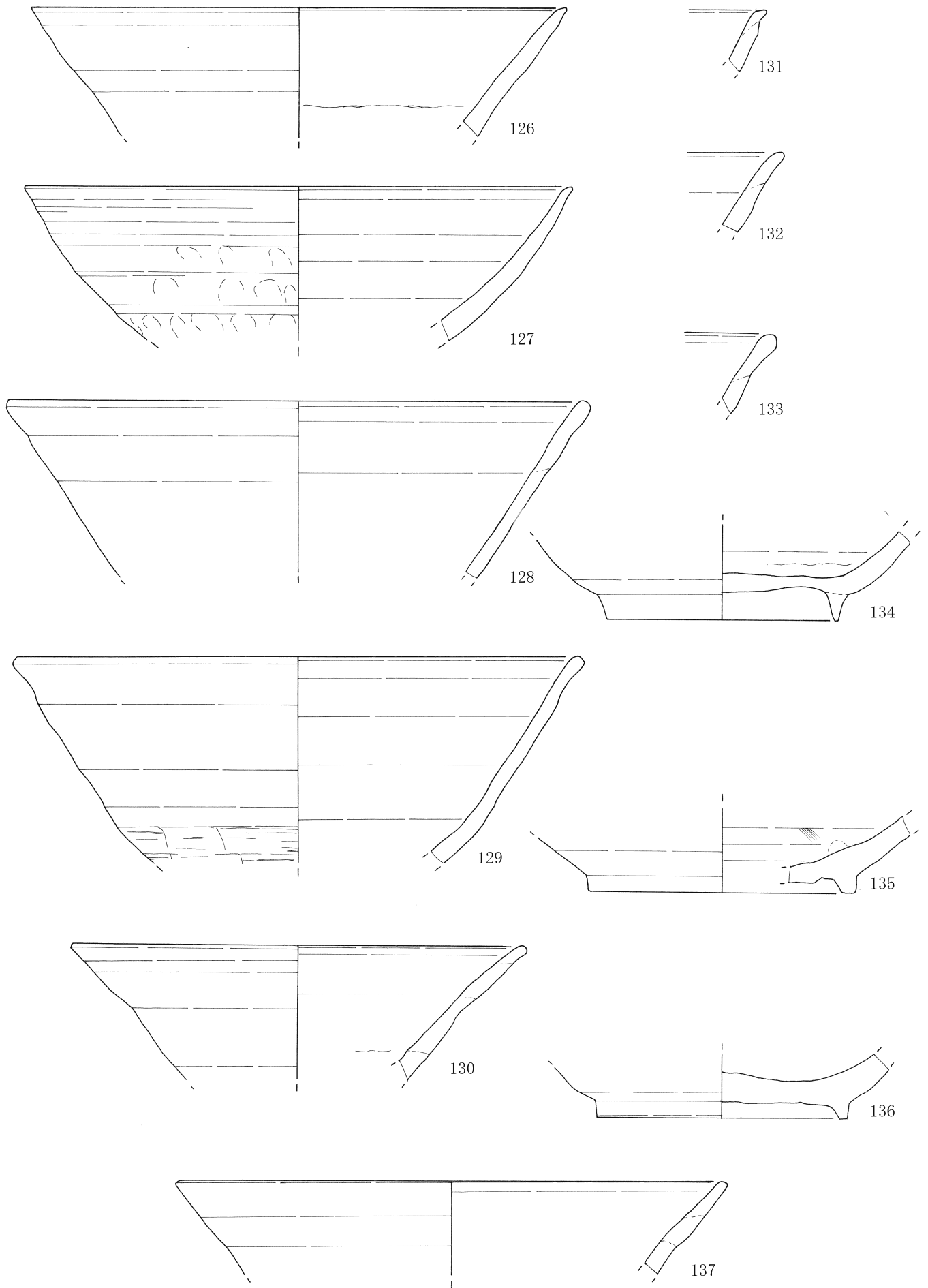


图 88 2 面下~3 面上出土遺物 (5)

0 5 10cm (1/3)

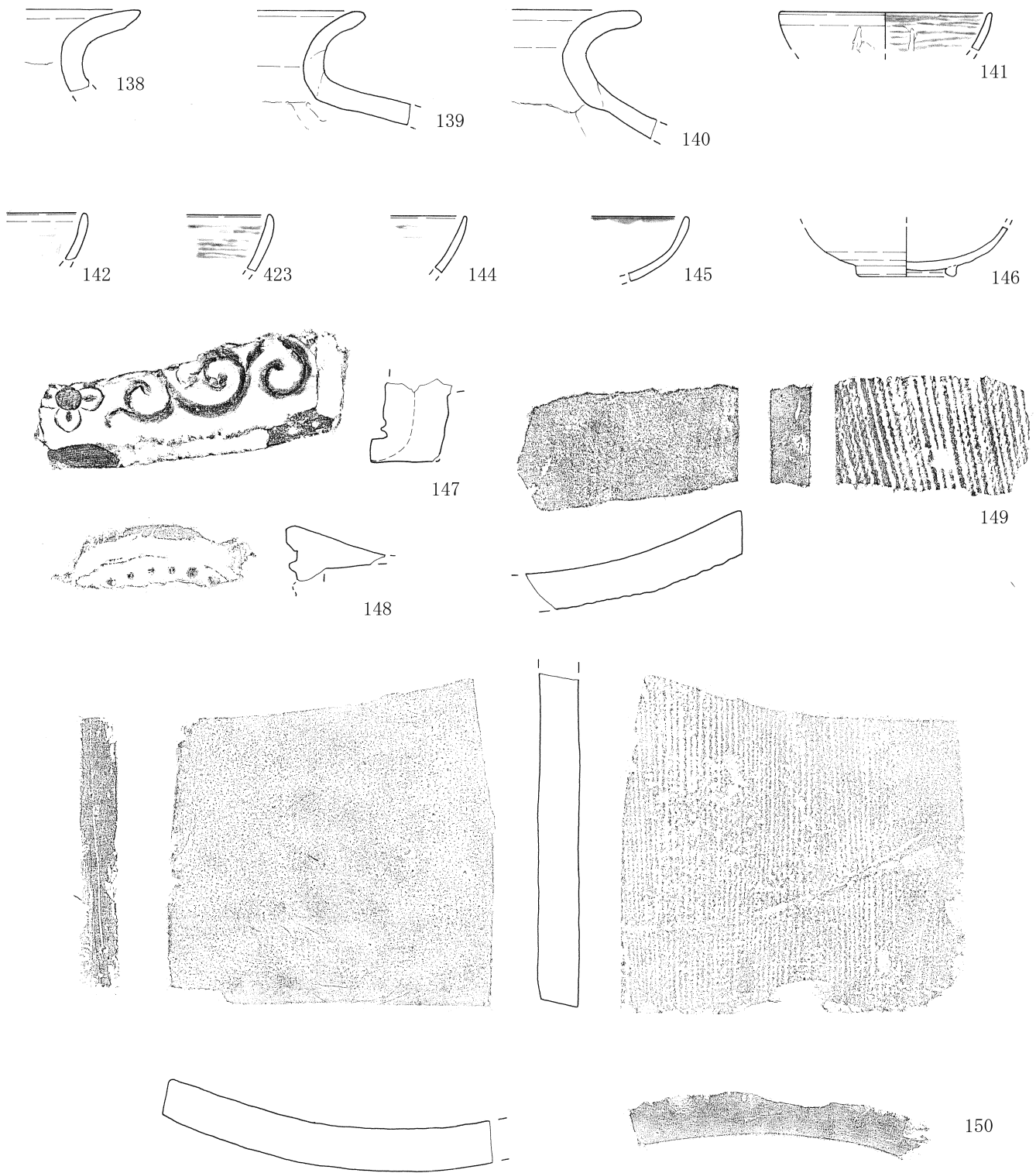
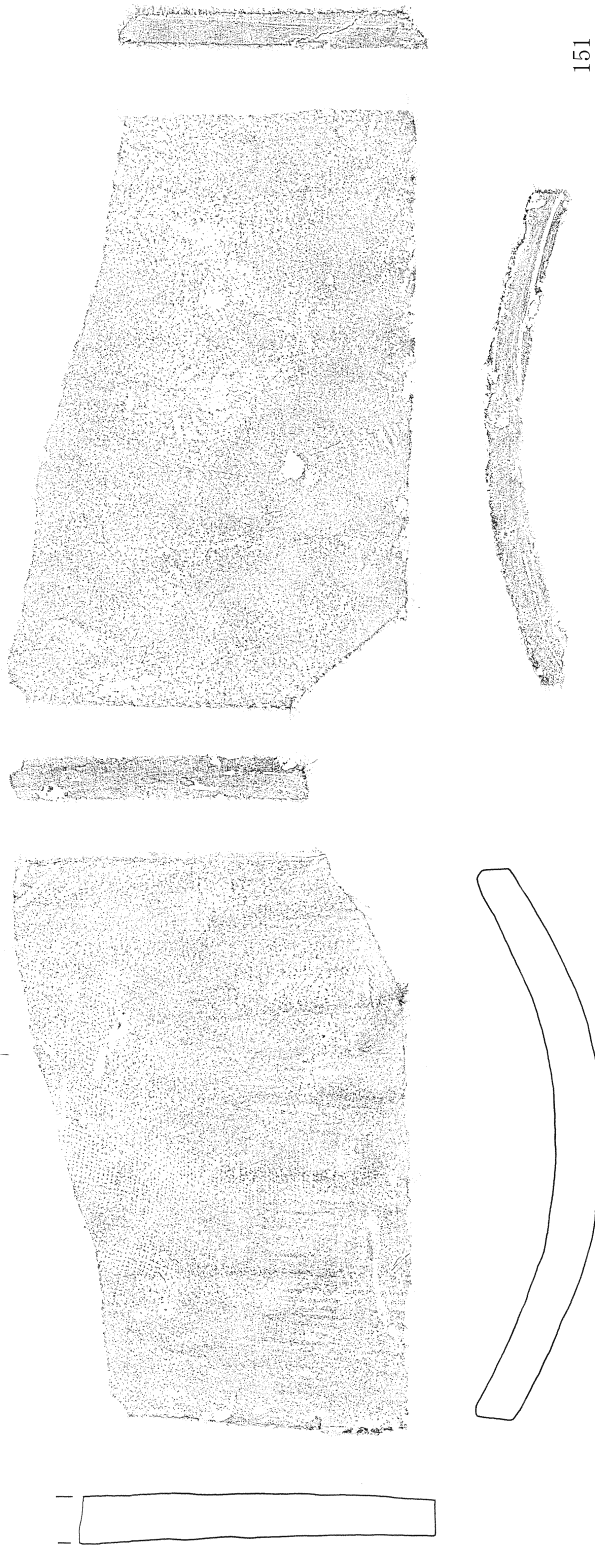


图 89 2 面下~3 面上出土遺物 (6)

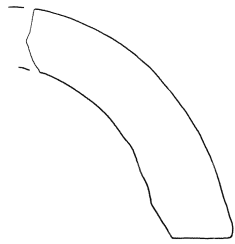
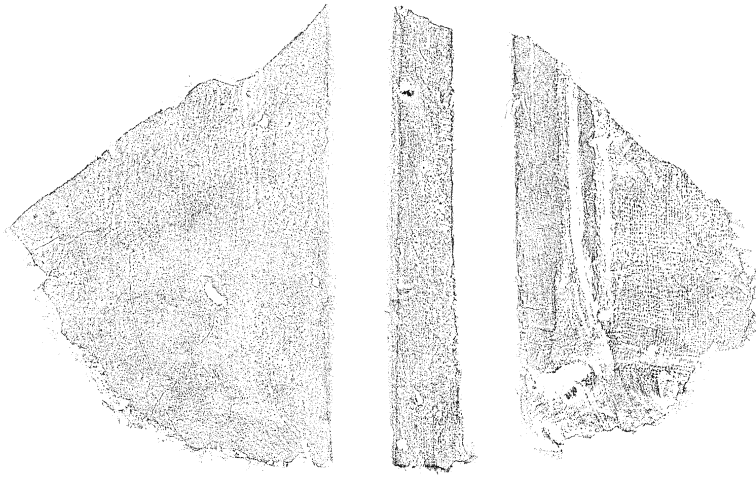


151

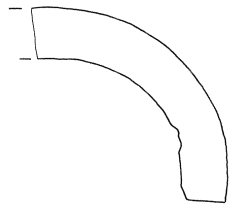
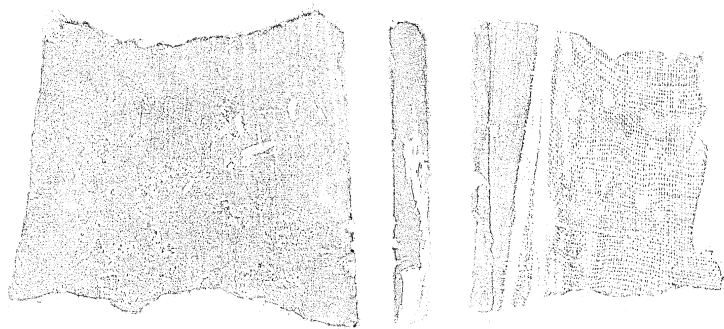
152



图 90 2 面下~3 面上出土遺物 (7)

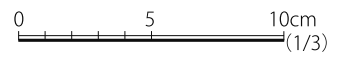


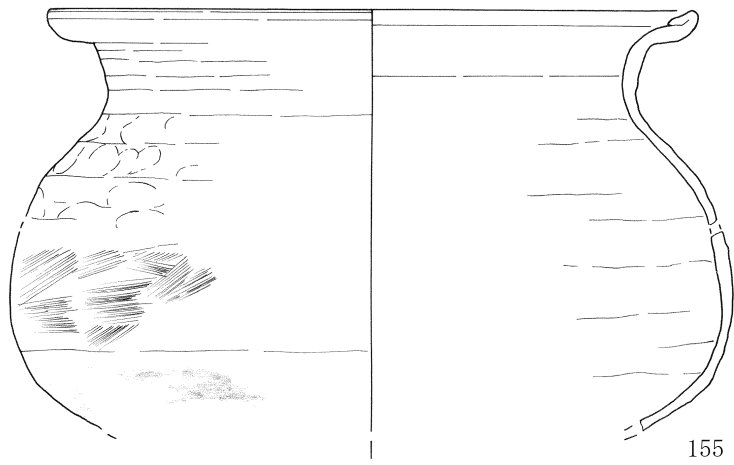
153



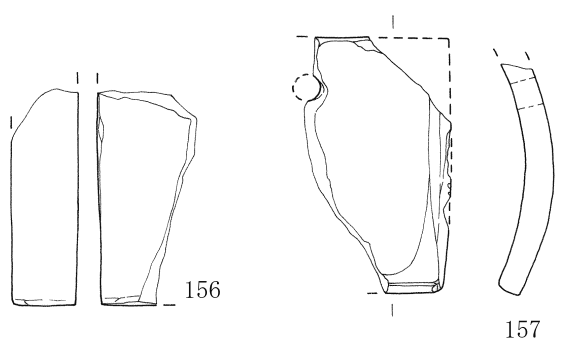
154

图 91 2 面下~3 面上出土遺物 (8)



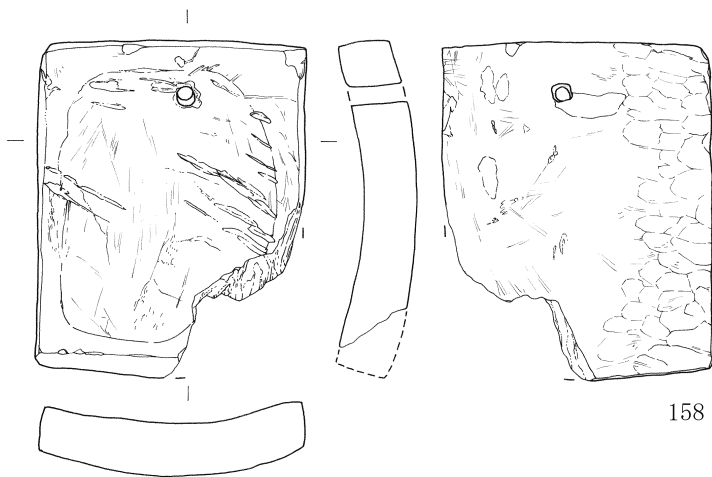


155

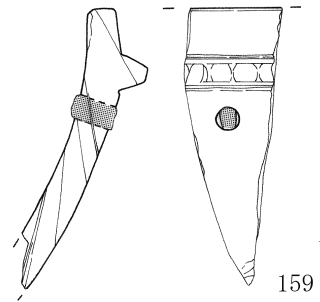


156

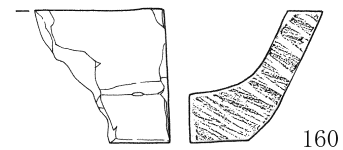
157



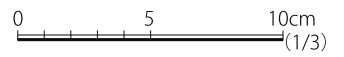
158



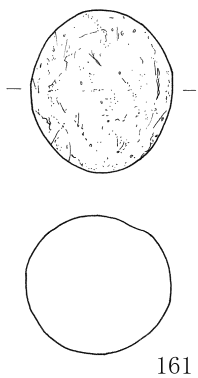
159



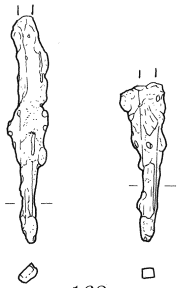
160



(1/3)

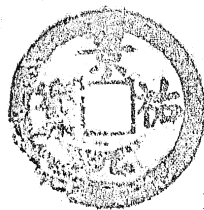


161

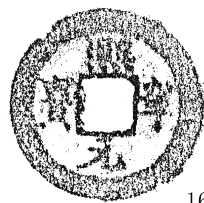


162

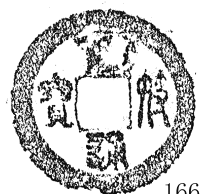
163



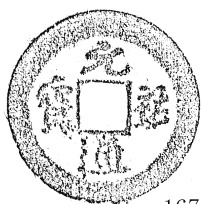
164



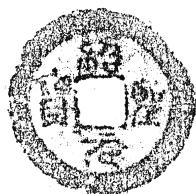
165



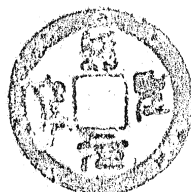
166



167



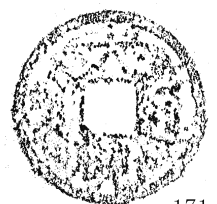
168



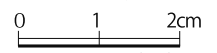
169



170



171



(1/1)

图 92 2 面下~3 面上出土遗物 (9)

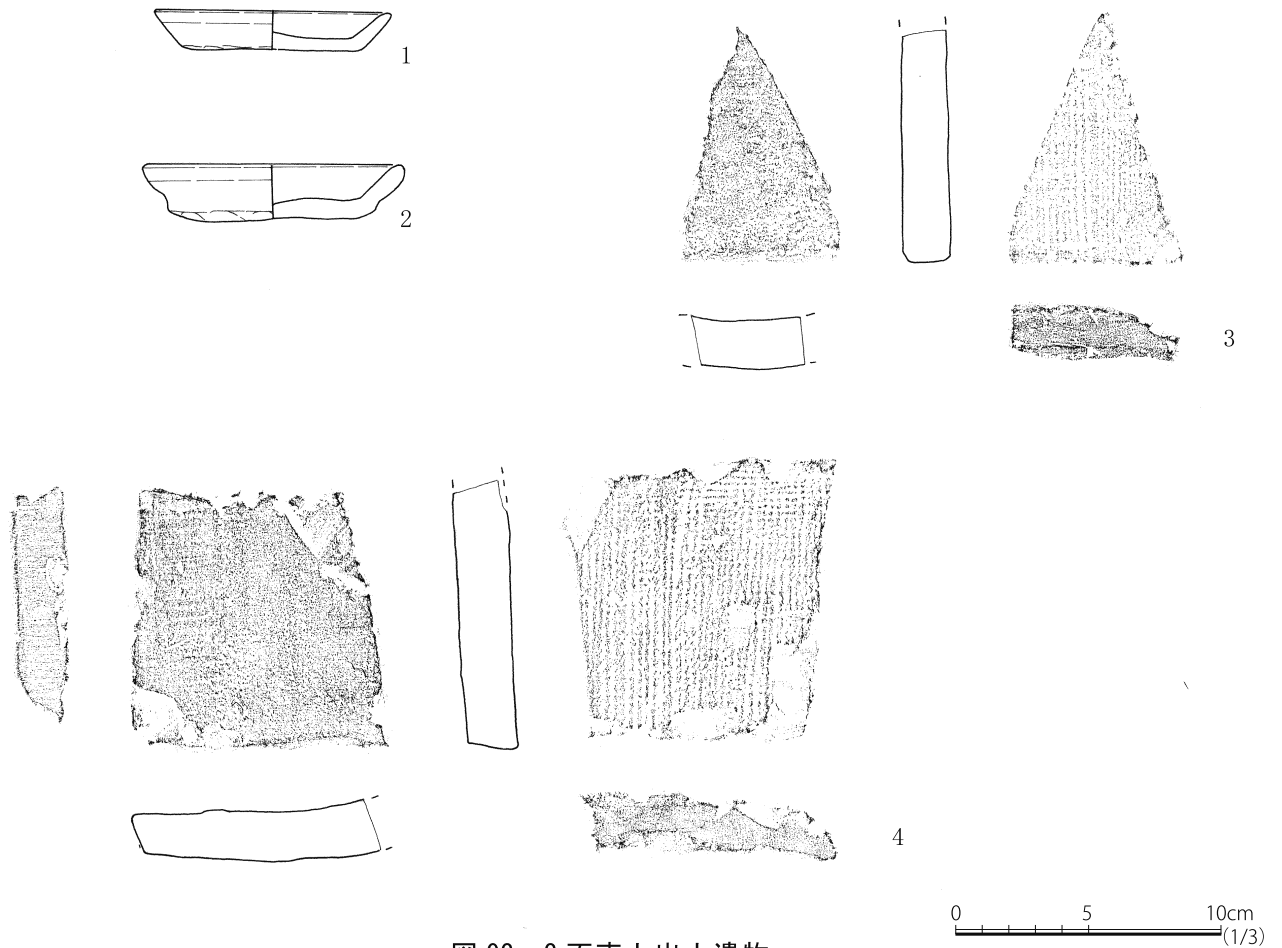


図 93 3面直上出土遺物

表 6 2面下～3面上 出土遺物観察表

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナラ [*]	ナラ [△] 状	板状	スコ状		
図84 2面下～3面上出土遺物(1)												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	6.8	1.5	2/3	△		○		黄灰	白針
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(7.6)	1.5	1/4	○		○		黄橙	白針
3	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	5.9	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き、擦痕
4	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	6.4	1.5	2/3	○		○		黄灰	白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(5.0)	1.6	1/3	○		○		黄橙	白針
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.0)	1.6	1/2	○		○		黄橙	白針
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.0)	1.4	1/3	○		○		橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.2)	1.6	1/4	○		○		黄橙	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(7.2)	1.7	1/2	○		○		橙	白針
10	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.8)	1.5	1/2	○		○		黄橙	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サテ状	板状	スコ状		
11	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.2	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.2)	1.5	1/2	○		○		黄橙	白針
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.0)	1.7	3/4	○		○		黄橙	白針 内外煤付着
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.2)	1.7	1/4	○				橙	白針 底部外面に煤付着擦痕
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.0	1.6	2/3	○		○		黄橙	白針 内面黒色に変色
16	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	5.9	1.8	4/5	○		○		黄灰	白針 口唇部煤付着
17	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	6.2	1.6	完形	○		○		黄灰	白針 外面一部に煤付着
18	土器	ロクロ かわらけ・小	9.6	7.7	1.7	4/5	○		○		黄灰	白針
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.6)	1.7	1/3	○		○		橙	白針
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.6)	1.6	1/4	○		○		黄橙	白針
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	1.6	1/3	○				黄灰	白針、やや粉質
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.8)	1.8	1/2	○		○		黄橙	白針
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.5	1/4	○		○		橙	白針
24	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	6.0	1.7	3/4	○		○		黄橙	白針
25	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.8	1.9	3/4	○		○		橙	白針
26	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	6.2	1.9	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針
27	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	7.0	1.5	1/3	○		○		黄灰	白針
28	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.6	1.7	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針 内外面黒色に変色 口縁部一部に擦痕
29	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.6	1.9	完形	○		○		黄灰	白針 口縁部煤付着
30	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.4	2.1	3/4	○		○		黄橙	白針、砂質
31	土器	ロクロ かわらけ・小	8.7	5.8	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
32	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	6.4	1.5	1/3	○		○		橙	白針、砂質
33	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.0)	2.1	1/2	○		○		黄橙	白針 内面黒色に変色
34	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	(5.8)	1.5	1/4	○		○		橙	白針
35	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.3	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
36	土器	ロクロ かわらけ・小	8.3	6.2	1.7	1/3	○		○		黄橙	白針
37	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	6.4	1.6	4/5	○		○		黄灰	白針
38	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.5	2.0	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針、砂質 口縁部一部煤付着
39	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(8.0)	1.7	1/3					黄橙	白針、やや粉質
40	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	8.1	2.2	ほぼ完形	○				黄灰	白針
41	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(7.8)	2.0	1/3	○		○		黄灰	白針
42	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(8.0)	2.4	1/4	○				黄橙	白針 口唇部一部に煤付着
43	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(7.6)	2.8	1/4	○		○		橙	白針 口縁部黒色に変色
44	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(8.2)	2.9	1/3	○		○		黄橙	白針
45	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.8)	3.1	1/4	○		○		黄橙	白針
46	土器	ロクロ かわらけ・大	13.3	9.5	3.0	完形	○		○		黄橙	白針 内外面一部に煤付着
47	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(7.0)	3.1	1/2	○		○		黄橙	白針
48	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	8.6	3.4	1/2	○		○		黄灰	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テ [△]	テ [▽] 状	板状	スコ状		
49	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.0)	3.4	口小～ 底1/4	○				黄橙	白針
50	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	10.0	3.3	2/3	○		○		黄橙	白針 内外面に煤付着
51	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	8.3	3.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	白針 口縁部打ち欠き
52	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(9.4)	3.4	1/2	○		○		黄橙	白針
53	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(7.8)	3.5	2/3	○		○		黄橙	白針 外面一部煤付着
54	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	8.8	3.6	2/3	○				黄灰	白針
図85 2面下～3面上出土遺物(2)												
55	土器	白かわらけ 手づくね・極小	(6.2)	—	0.9	1/4					乳白	内折れ
56	土器	手づくね かわらけ・極小	(5.8)	—	1.2	1/4					橙	内折れ
57	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.3	1/3 歪み大	○				黄灰	白針
58	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.7	2/3	○				黄橙	白針
59	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.8	1/3					橙	白針
60	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.8	1/2	○				黄灰	白針 割れ口二次加工カ
61	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.7	1/3	○				黄橙	白針 口縁部に擦痕
62	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.8	1/2					橙	白針
63	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.7	1/2	○				黄橙	白針
64	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	1.8	1/2	○				黄橙	白針
65	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.8	1/2					橙	白針
66	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.9	1/2	○				橙	白針
67	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	2.0	1/2	○				黄灰	白針
68	土器	手づくね かわらけ・大	9.2	—	2.1	完形	○				黄橙	白針
69	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	2.6	1/3	○				橙	白針 口縁部に擦痕
70	土器	手づくね かわらけ・大	13.4	—	3.0	完形	○		○		黄橙	白針
71	土器	手づくね 白かわらけ・大	(12.6)	—	2.9	1/3	○				白橙	
72	土器	手づくね かわらけ・大	12.7	—	3.2	ほぼ完形	○		○		黄灰	白針
73	土器	手づくね かわらけ・大	13.5	—	3.0	3/4	○				黄灰	白針
74	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.0	2/3	○				橙	白針
75	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.1	2/3	○		○		黄橙	白針
76	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.1	1/2	○				橙	白針
77	土器	手づくね かわらけ・大	(11.8)	—	2.9	1/2	○				黄橙	白針 外面に煤付着
78	土器	手づくね かわらけ・大	12.8	—	3.4	2/3	○				黄橙	白針
79	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	—	2.9	完形	○				橙	白針
80	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	—	3.1	3/4	○				黄灰	白針
81	土器	手づくね かわらけ・大	13.4	—	3.2	4/5	○				黄橙	白針 口唇部一部に煤付着
82	土器	手づくね かわらけ・大	(12.4)	—	3.5	1/2	○				黄灰	白針 口唇部一部に煤付着
83	土器	手づくね かわらけ・大	12.9	—	4.1	4/5		○			黄橙	白針 内外面煤付着
84	土器	手づくね かわらけ・大	(11.8)	—	2.9	1/3					黄橙	白針 底部焼成後に穿孔
85	土器	手づくね かわらけ・大	(12.2)	—	3.4	2/3	○				黄橙	白針 内外面煤付着

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サヲ状	板状	スコ状		
86	土器	手づくね 白かわらけ・小	8.5	—	2.0	完形	○				灰白	
図86 2面下～3面上出土遺物(3)												
87	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[2.5]	口小片					明灰緑 不透明	大宰府Ⅱ類
88	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[3.1]	口小片					黄緑灰 半透明	大宰府Ⅱ類
89	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.2]	口小片					灰緑 半透明	大宰府Ⅰ-2類
90	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.3]	口小片					灰緑 透明	大宰府Ⅰ-2類
91	磁器	同安窯系 青磁皿	(9.8)	—	[2.0]	口小1/6 ～体片					灰緑 透明	大宰府Ⅰ類
92	磁器	龍泉窯系青磁 碗	—	(4.4)	[1.8]	体片～ 底小1/3					青緑灰 半透明	大宰府Ⅰ・Ⅱ類
93	磁器	龍泉窯系青磁 碗	—	—	[5.8]	口小片					黄緑灰 不透明	大宰府Ⅰ類
94	磁器	景德鎮窯 器種不明	—	—	[1.8]	不明					青白 不透明	二次焼成を受ける
95	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.0]	口小片					灰白 不透明	大宰府Ⅸ類
96	磁器	白磁 口禿皿	—	(7.4)	[7.0]	1/4					灰白 不透明	大宰府Ⅸ類
97	磁器	青白磁 輪花皿	—	—	—	口小～ 体片					青白 半透明	内面菊花文型押し
98	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.5]	口小片					青白 透明	内面雷文 白磁皿Ⅹ類カ
99	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.5]	体片					青白 半透明	
100	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	[4.7]	口小片					黄緑	
101	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[4.0]	口小片					緑銀	
102	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	[3.2]	口小片					黄緑	
103	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	—	底片					黄緑	104と同一個体カ
104	陶器	泉州窯系 黄釉盤	—	—	[3.1]	体片～ 底片					黄緑	103と同一個体カ
105	陶器	褐釉壺	—	—	—	胴片					暗茶褐	黒色粒・白色粒
106	陶器	尾張型 山茶碗	—	—	[2.6]	口小片					灰	白色粒
107	陶器	尾張型 山茶碗	—	—	[1.7]	口小片					灰	白色粒
108	陶器	渥美・湖西型 山茶碗	—	(7.0)	[3.2]	体片～ 底1/2					灰白	
109	陶器	常滑 甕	(25.2)	—	[24.9]	口1/4～ 胴片					淡灰褐	5型式 長石
図87 2面下～3面上出土遺物(4)												
110	陶器	常滑 甕	—	—	[3.3]	口小片					暗褐	5型式 長石
111	陶器	常滑 甕	—	—	[5.1]	口小片					暗茶褐	5～6型式 長石
112	陶器	常滑 甕	—	—	[9.5]	口小片					暗茶褐	5型式 長石
113	陶器	常滑 甕	—	—	[8.0]	口小～ 胴片					茶褐	5型式 長石
114	陶器	常滑 甕	—	—	[8.2]	口小～ 胴片					茶褐	5型式 長石
115	陶器	常滑 甕	—	—	[5.2]	口小～ 胴片					茶褐	5型式 長石
116	陶器	常滑 甕	—	—	[7.5]	口小～ 胴片					暗茶褐	5型式 長石
117	陶器	常滑 甕	—	—	[9.7]	口小～ 胴片					茶褐	5～6型式 長石
118	陶器	常滑 甕	—	—	[4.9]	口小～ 胴片					灰褐	6型式 長石
119	陶器	常滑 甕	—	—	—	体片					灰緑	長石
120	陶器	常滑 甕	—	—	—	肩部片					茶灰	長石
121	陶器	常滑 甕	—	—	—	肩部片					灰褐	長石
122	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					灰褐	長石

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サヲ状	板状	スコ状		
123	陶器	常滑甕	—	—	—	胴片					灰	長石
124	陶器	常滑甕	—	(15.0)	[4.8]	胴片～底1/4					茶褐	長石
図88 2面下～3面上出土遺物(5)												
126	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	(30.0)	—	[7.2]	口1/6					茶褐	長石
127	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(30.6)	—	[8.3]	口1/4～体片					灰	長石
128	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(32.4)	—	[9.8]	口1/8以下					灰	長石
129	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(31.2)	—	[11.3]	口1/6～体片					灰	
130	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	(25.2)	—	[7.5]	口1/8					灰褐	長石
131	陶器	渥美片口鉢	—	—	[3.5]	口小片					灰褐	長石
132	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.4]	口小片					灰橙	長石
133	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.5]	口小片					灰橙	長石
134	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	(13.0)	[4.9]	体片～底1/6					灰褐	長石
135	陶器	渥美片口鉢	—	(15.0)	[4.3]	体片～底1/6					灰褐	長石
136	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	(14.0)	[3.6]	体片～底完存					灰	長石
137	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	(30.1)	—	[5.2]	口1/4					茶褐	長石
図89 2面下～3面上出土遺物(6)												
138	陶器	渥美甕	—	—	[4.1]	口小～胴片					灰褐	白色粒・黒色粒
139	陶器	渥美甕	—	—	[5.5]	口小～胴片					灰緑	白色粒・黒色粒
140	陶器	渥美甕	—	—	[6.3]	口小～胴片					灰褐	白色粒・黒色粒
141	瓦器	碗	(10.2)	—	[1.8]	1/4					暗灰	
142	瓦器	碗	—	—	[2.2]	口小片					灰白	
143	瓦器	碗	—	—	[2.8]	口小片					灰	
144	瓦器	碗	—	—	[2.7]	口小片					暗灰	
145	瓦器	碗	—	—	[3.2]	口小片					灰	
146	瓦器	碗	—	4.6	[2.5]	体片～底完存					灰	
147	瓦	軒平瓦	—	—	厚さ3.1	瓦当一部					暗灰	顎面幅3.0 唐草文
148	瓦	鑑瓦(軒丸瓦)	—	—	—	瓦当上部					灰	永福寺創建期 蓮華文
149	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.0	不明					灰	永福寺女瓦A類 白色粒
150	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.1	広端面片側辺					暗灰	永福寺女瓦A類 白色粒
図90 2面下～3面上出土遺物(7)												
151	瓦	平瓦	—	幅21.0	厚さ1.9	広端面					灰黒	極楽寺旧境内の壬生寺系と類似
152	瓦	平瓦	—	—	厚さ2.4	狭端面片側辺					灰黄	東海産瓦の焼成不良品か再火熱を受けたもの
図91 2面下～3面上出土遺物(8)												
153	瓦	丸瓦	—	—	厚さ2.6	筒部片側辺					灰黒	永福寺男瓦A類カ
154	瓦	丸瓦	—	—	厚さ1.9	筒部片側辺					灰	永福寺男瓦A類
図92 2面下～3面上出土遺物(9)												
155	土器	南伊勢系鍋	(24.8)	—	[16.0]	口1/4～胴片					黄灰	
156	石製品	滑石鍋転用品用途不明	長さ[8.2]	幅[3.7]	厚さ2.5	不明					黒灰	温石カ
157	石製品	滑石鍋転用品温石	長さ[9.6]	幅[5.5]	厚さ1.1	一部欠損					黒灰	
158	石製品	滑石鍋転用品温石	長さ12.9	幅10.2	厚さ2.1	一部欠損					黒灰	

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テラ	テラ状	板状	スコ状		
159	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ [10.5]	幅 [3.4]	高さ 2.3	不明					黒灰	穿孔部に鉄製品残存
160	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ [5.0]	幅 [4.9]	高さ 1.8	不明					黒灰	
161	石製品	軽石	長径 6.2	短径 5.3	高さ 5.2	完形					灰白	用途不明
162	鉄製品	釘	長さ [8.6]	幅 [0.5]	高さ [0.2]							
163	鉄製品	釘	長さ [6.0]	幅 [0.4]	高さ [0.4]							
164	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	高さ 0.1	完形					—	景祐元俸(真書) 中国北宋代 1034年初鑄
165	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	高さ 0.1	完形					—	濼寧元寶 中国北宋代 1068年初鑄
166	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	高さ 0.1	完形					—	元祐通寶 中国北宋代 1086年初鑄
167	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	高さ 0.1	完形					—	元祐通寶(行書) 中国北宋代 1086年初鑄
168	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	高さ 0.1	完形					—	紹聖元寶 中国北宋代 1094年初鑄
169	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	高さ 0.2	完形					—	紹聖元寶(篆書) 中国北宋代 1094年初鑄
170	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.6	高さ 0.1	完形					—	聖宋元寶(行書) 中国北宋代 1101年初鑄
171	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	高さ 0.1	完形					—	大觀通寶 中国北宋代 1107年初鑄
図93 3面直上出土遺物												
1	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.5	1/3	○				黄橙	白針
2	土器	手づくね かわらけ・大	9.5	—	2.0	4/5	○				黄橙	白針
3	瓦	平瓦	—	—	高さ 1.8	広端面 両側辺欠損					灰褐	永福寺女瓦A類
4	瓦	平瓦	—	—	高さ 1.9	広端面 片側辺					灰褐	永福寺女瓦A類

第6節 3面の遺構と遺物

3面の検出遺構（図94～103）

3面は標高11.7～12.0mで確認された。地点Iでは1・2面と同様、土坑とピットが多数検出され、この中で掘立柱建物3棟を復元することができた。遺構間の重複や調査区外への展開もあり全体プランの把握には至らず不確定な要素も残すが、図94・97～99に復元案を示した。

掘立柱建物1は、現地調査の段階で桁行3間×梁行3間の総柱式建物と認識できた。大よそ正方形の平面プランを呈し、床面積は $6 \times 6 \text{ m} = 36 \text{ m}^2$ 前後と推測される。柱材および柱痕は確認できなかったが、柱間距離は桁行・梁行ともに200cmを基調とし、一部180cm前後となる箇所があった。建物の中心軸は真北を取り、後に述べる道路状遺構とは 20° ほどの偏差がある点、注意が必要である。この他、建物に係る柱穴の規模や埋土様相などは、図97・98を参照されたい。

建物2・3は整理作業の段階で復元し、ほぼ同じ位置で建物3から建物2への建て替えがあったものと判断した。ともに桁行3間×梁行2間で、新しい段階の建物2は東西 $5.9 \times$ 南北 $4.0 \text{ m} = 23.6 \text{ m}^2$ に、古段階の建物3は東西 $5.6 \times$ 南北 $3.6 \text{ m} =$ 約 20.2 m^2 の床面積を有していたと考えられる。柱間距離は建物2が2mを基調としながら若干の広狭があり、建物3は1.8mを基調としつつ偏差が見て取れる。ともに桁行側の建物中心軸は $N86^\circ E$ を測り、建物1と同様、真北を基調とする建物軸線の採用が想定できる。他、柱穴個々のサイズなどは、図99を参照されたい。

地点IIでは1・2面と同位置で南北に延びる道路状遺構を確認した。この3面検出時のものが最古期のもので、東西に両側溝が伴う。路面幅は約3.2mで、両側溝は上幅50～60cm、底面幅30～40cmを



图 94 3 面全体图

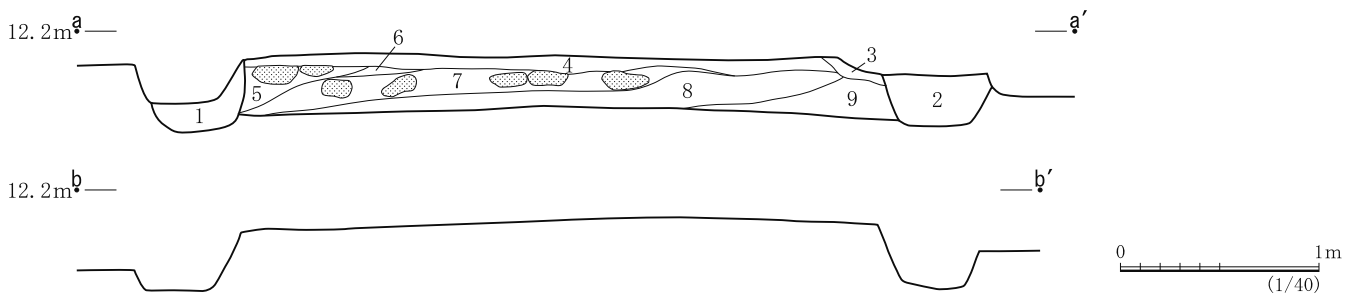
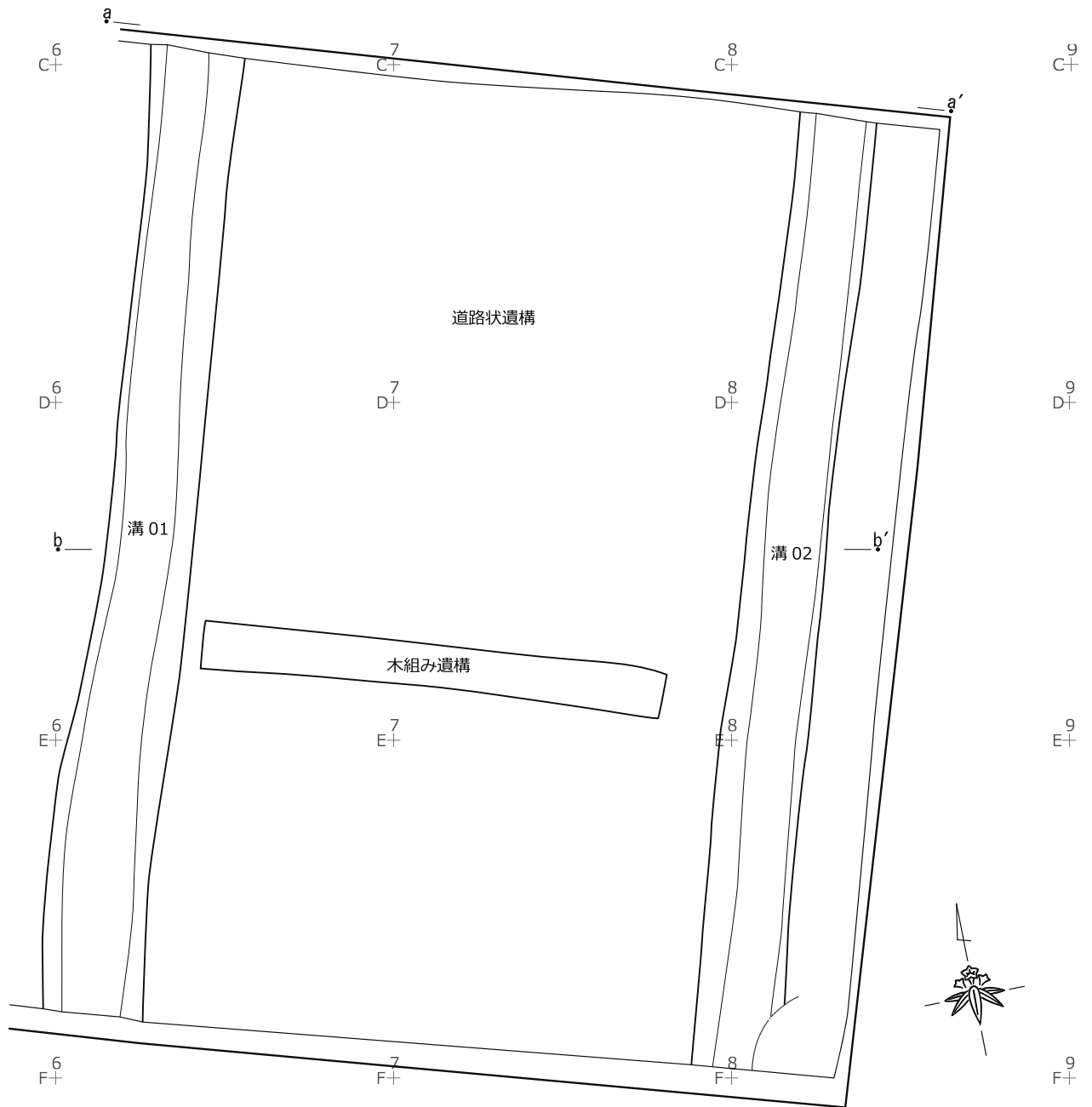


图 95 3面 道路状遺構、溝 01・02

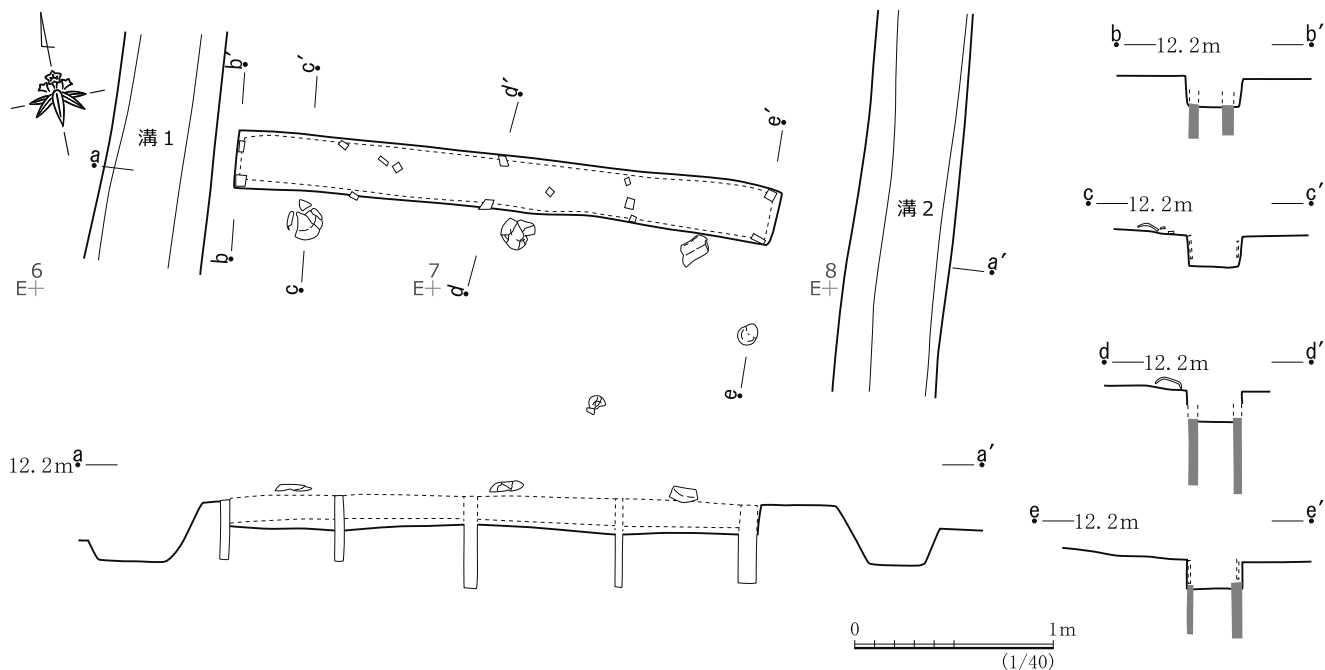


図 96 3面 木組み遺構

測る。南北とも調査区外に続き、5.8 mの長さまで確認できた。走方向はN18° Eを指す。路面標高は12.0～12.1 m、側溝底面の標高は11.70～11.75 mを計測し、検出しえた範囲においては路面・側溝底面ともに明確な高低差を見出せなかった（図 95）。検出中央部近くでは道路面上を走方向に直交する長方形の溝状土坑が検出され、掘り込みの各側面に横板を木杭で抑えた木組み護岸の痕跡が残っていた（図 96）。東西長280×南北幅30cmで、路面から掘り方底面までの深さは15cmを測る。底面には四隅を起点に長辺の両側辺に沿って杭が60～70 cm間隔、深さ15～30 cmで打ち込まれ、これで各側面の横板を支えていた。木材は腐朽が進んでいたものの、僅かながら残存していた。他、南辺外側の道路面上に完形に近いかわらけが伏せた状態で検出されるなど、特異な状況が見られた。本遺構と近似した事例は、名越ヶ谷遺跡（大町四丁目1901番外地点）の2面で確認されている。上幅60×全長960cm、深さ70 cmと本例とは比較にならないほど大きく、道路面や側溝を貫いて切っている。同地点の報告書では遺構の性格に関する見解は示されていないが、建物や板塀状柱穴列との配置状況からは、何らかの区画機能を有していた可能性を推察できる。ただ、形態は近いものの、遺構の規模や他遺構との配置状況が大きく異なるため、性格・用途について即座に同一視することは控えるべきだろう。

この他、3面検出の土坑を図100～103に抽出して掲載したので、サイズや埋土状況といった諸属性の確認に利用されたい。

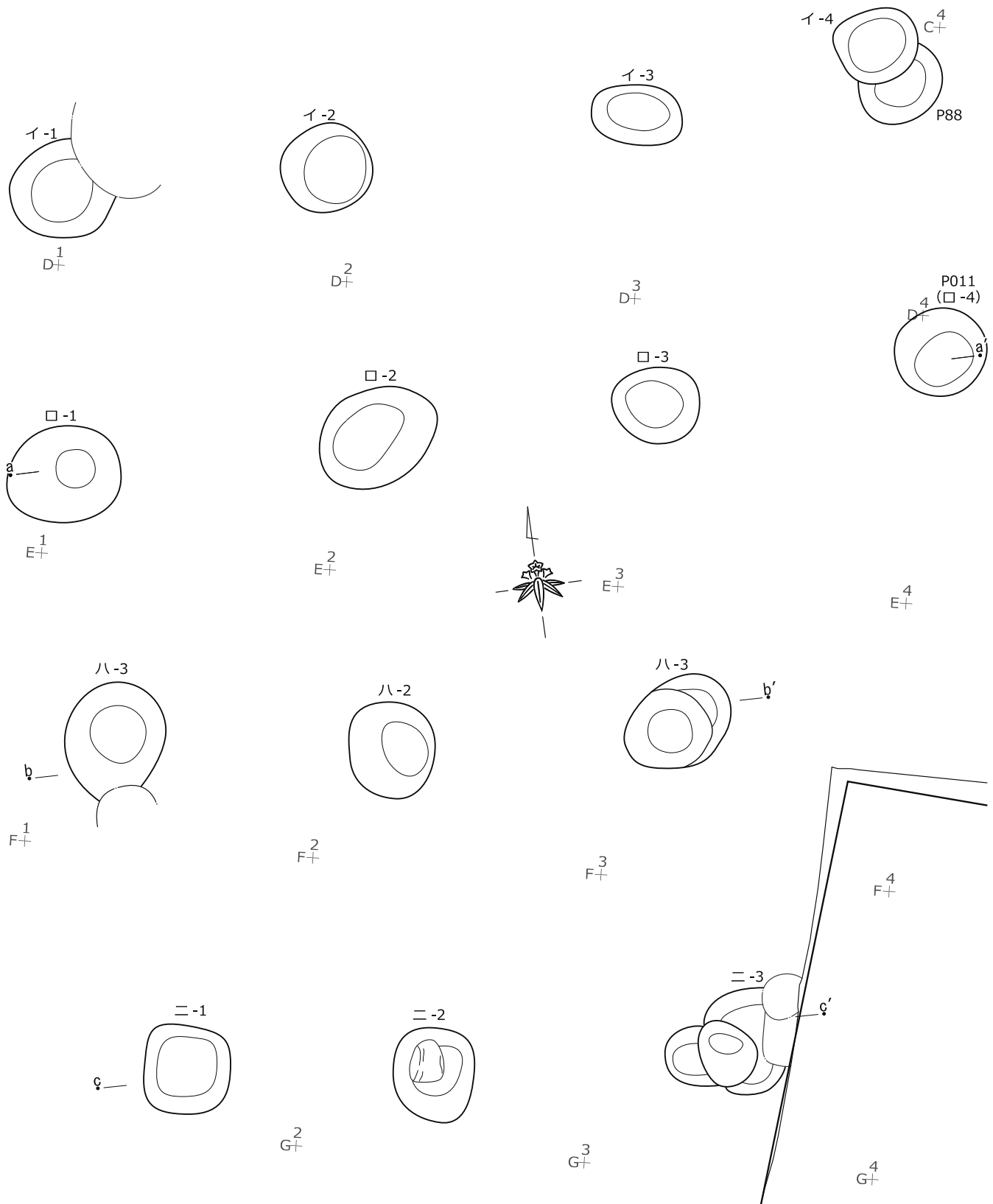
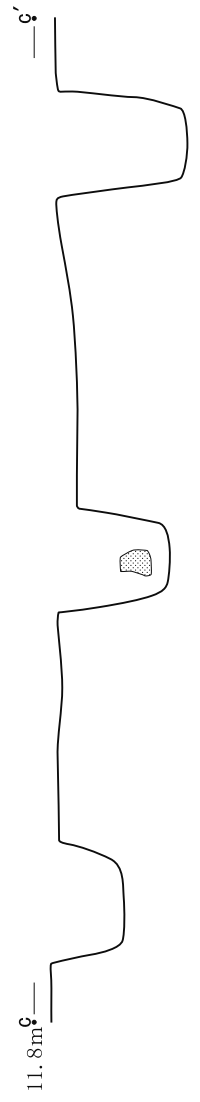
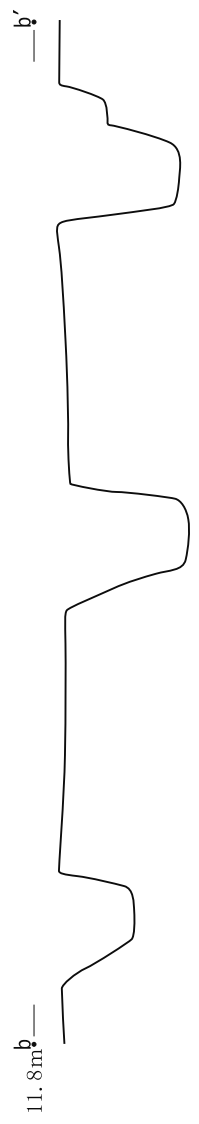
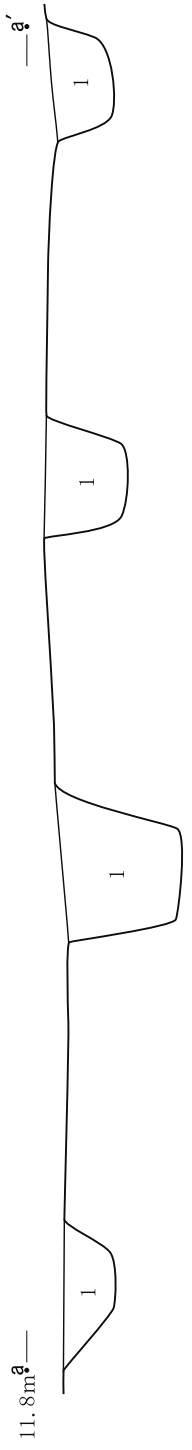


图 97 3面掘立柱建物1平面图



3面 掘立柱建物 1 土層説明

1 暗褐色土 粘質土。泥岩粒・炭粒少量、黄色土ブロック微量。縮まりなし。

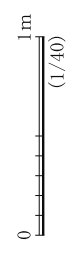


図 98 3面 掘立柱建物 1 断面図

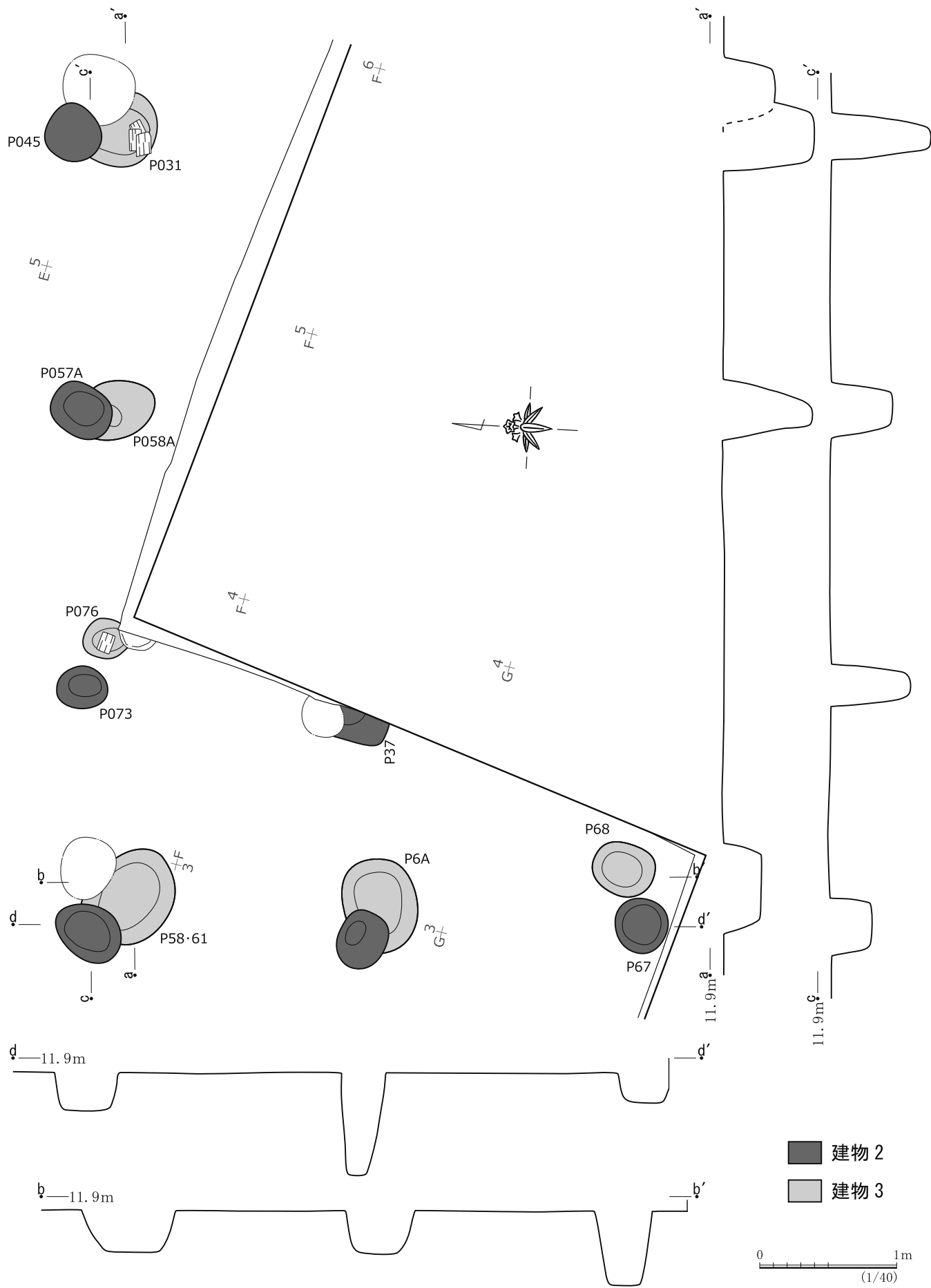
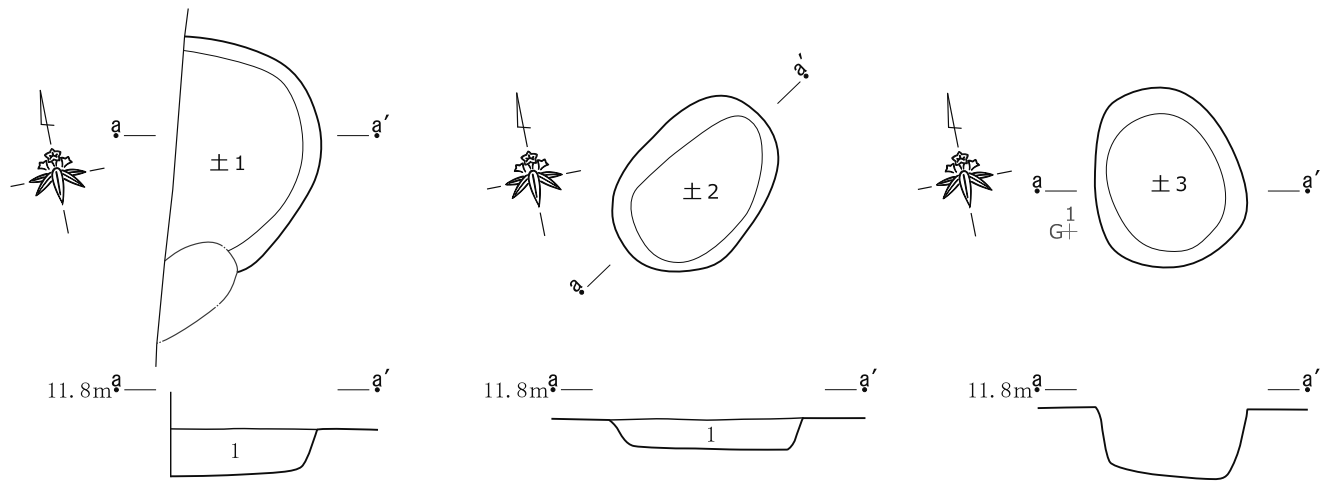
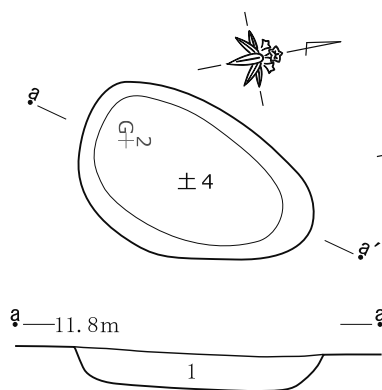


图 99 3 面 掘立柱建物 2 · 3

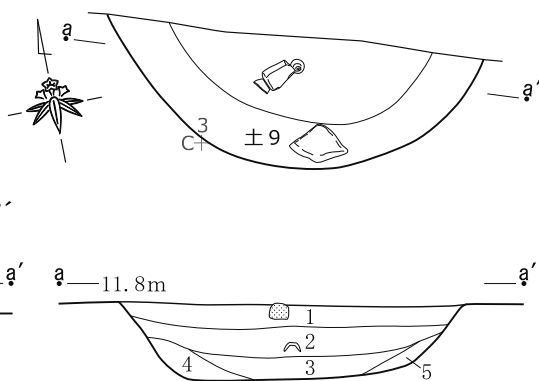


1 暗褐色土 粘質土。泥岩粒多量。
褐鉄粒混入。
縮まりややあり。

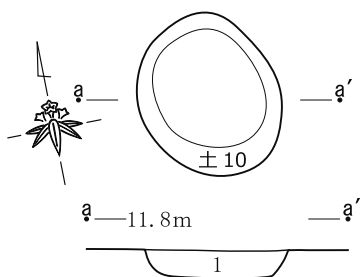
1 褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量、
炭粒やや多い。



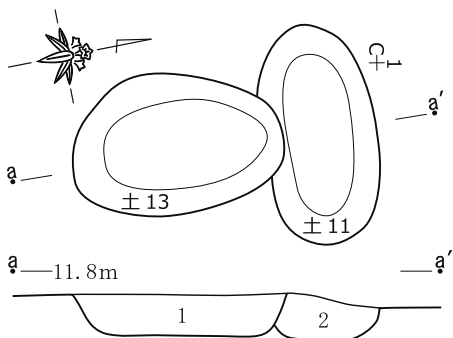
1 褐色土 粘質土。泥岩粒、
炭粒少量。縮まりなし。



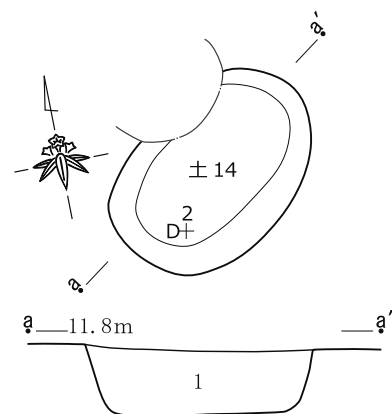
- 1 暗褐色土 砂質土。泥岩粒、
炭粒少量。縮まりなし。
- 2 褐色土 粘質土。炭粒少量。
縮まりあり。
- 3 暗褐色土 粘質土。泥岩粒、
褐鉄粒多量、炭粒少量。
縮まりなし。
- 4 褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量、
炭粒少量。縮まりややあり。
- 5 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、
炭粒多量。縮まりなし。



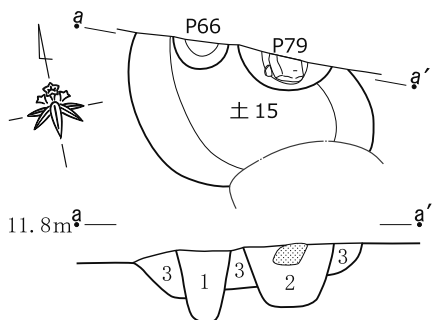
1 暗褐色土 粘質土。泥岩粒少量、
炭粒多量。



土坑 13 1 灰褐色土 粘質土。泥岩粒少量、
炭粒微量。縮まりあり。
土坑 11 2 暗褐色土 粘質土。泥岩粒少量、
炭粒やや多い。縮まりなし。



1 褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック、
炭粒やや多い。縮まりなし。



Pit66 1 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。
Pit79 2 褐色土 弱粘質土。泥岩粒、炭粒多量。縮まりなし。
土坑 15 3 褐色土 弱粘質土。炭粒少量。縮まりややあり。

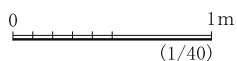


図 100 3面 土坑 (1)

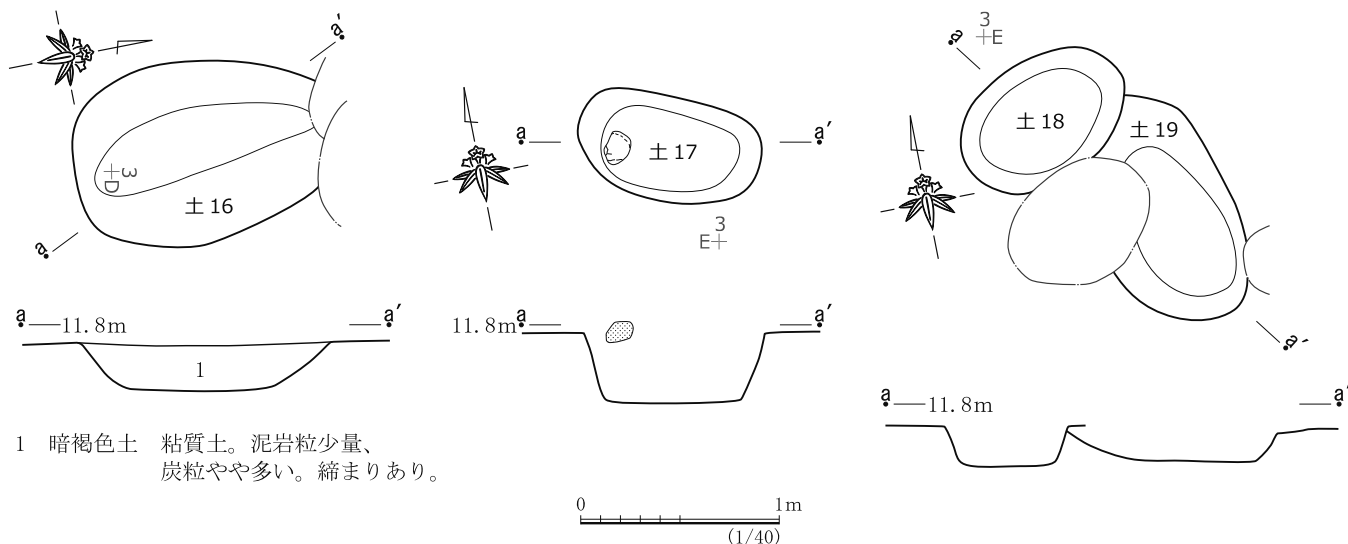


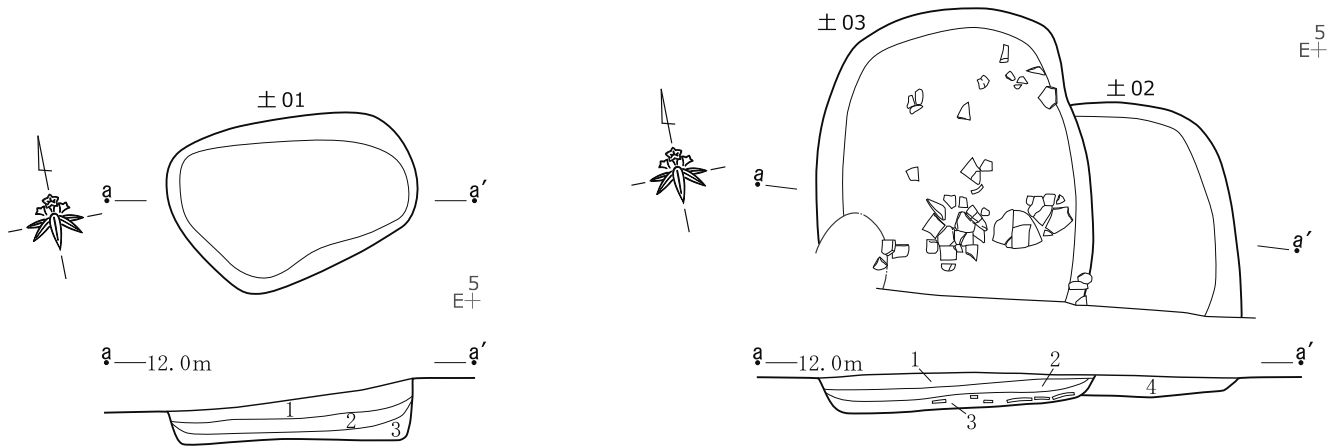
図 101 3面 土坑 (2)

3面遺構の出土遺物 (図 104 ~ 113、表 7)

遺物個々の説明については省略するので、各図ならびに遺物観察表 (表 7) を参照されたい。

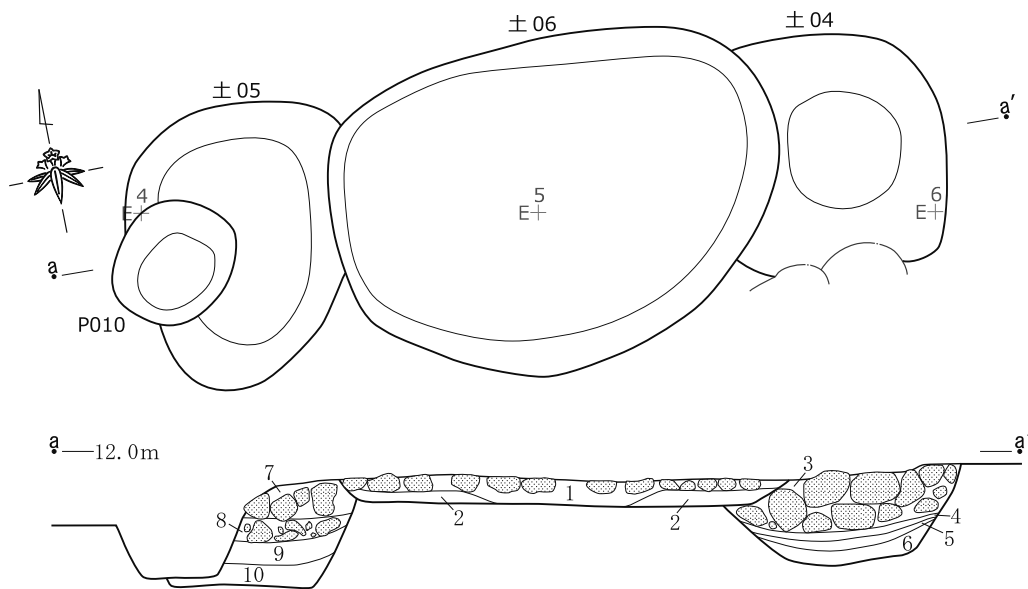
各遺構とも図示できる遺物の絶対量は少ないが、全体的な傾向については以下のようにまとめることができる。

かわらけはロクロ成形品が主体をなす遺構と、手づくね成形品が量的に拮抗する遺構とが見られる。手づくねには器壁が厚く身深器形のものが多く認められ、同種でも後発的要素が散見される。常滑甕は 5 型式が主体をなし、渥美甕も一定量が見て取れる。舶載陶磁器では龍泉窯系青磁碗・皿 I 類が主体となる。瓦は概ね永福寺 I 期の所用品が占めており、総じて 13 世紀第 2 四半期頃の遺物構成と見なせる。ただ、小片だが図 105-45 の古瀬戸卸皿は前 III ~ IV 期に下る要素があるので、一部に 13 世紀中葉以降の資料を含んでいよう。よって、2 面とは大きな時間差は見出しにくい。



- 1 暗褐色土 弱粘質土。泥岩ブロックやや多く、炭粒少量。縮まりなし。
- 2 暗褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック少量、炭粒微量。縮まりややあり。
- 3 灰褐色土 粘質土。泥岩粒少量、炭粒やや多い。縮まりなし。

- II-土3
 - 1 褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒やや多い。縮まりややあり。
 - 2 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒少量、炭粒やや多い。縮まりなし。
- II-土2
 - 3 暗褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック少量、炭粒多量。縮まりなし。
 - 4 暗褐色土 弱粘質土。泥岩粒やや多く、炭粒多量。縮まりなし。



- II-土6
 - 1 褐色土 弱粘質土。泥岩ブロック多量。縮まりややあり。
 - 2 暗褐色土 砂質土。泥岩粒少量、炭粒やや多い。縮まりややあり。
- II-土4
 - 3 褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量、炭粒少量。
 - 4 灰褐色土 砂質土。泥岩粒やや多く、炭粒微量、褐鉄粒多量。縮まりなし。
 - 5 灰褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒やや多い。縮まりなし。
 - 6 灰褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりややあり、粘性あり。
- II-土5
 - 7 褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量。炭粒少量。縮まりなし。
 - 8 褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量、炭粒やや多い。粘土ブロック混入。縮まりなし。
 - 9 暗褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒、褐鉄粒多量。縮まりなし。
 - 10 暗褐色土 粘質土。泥岩ブロック、炭粒多量。縮まりややあり。

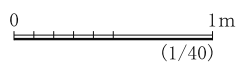


図 102 3面 土坑 (3)

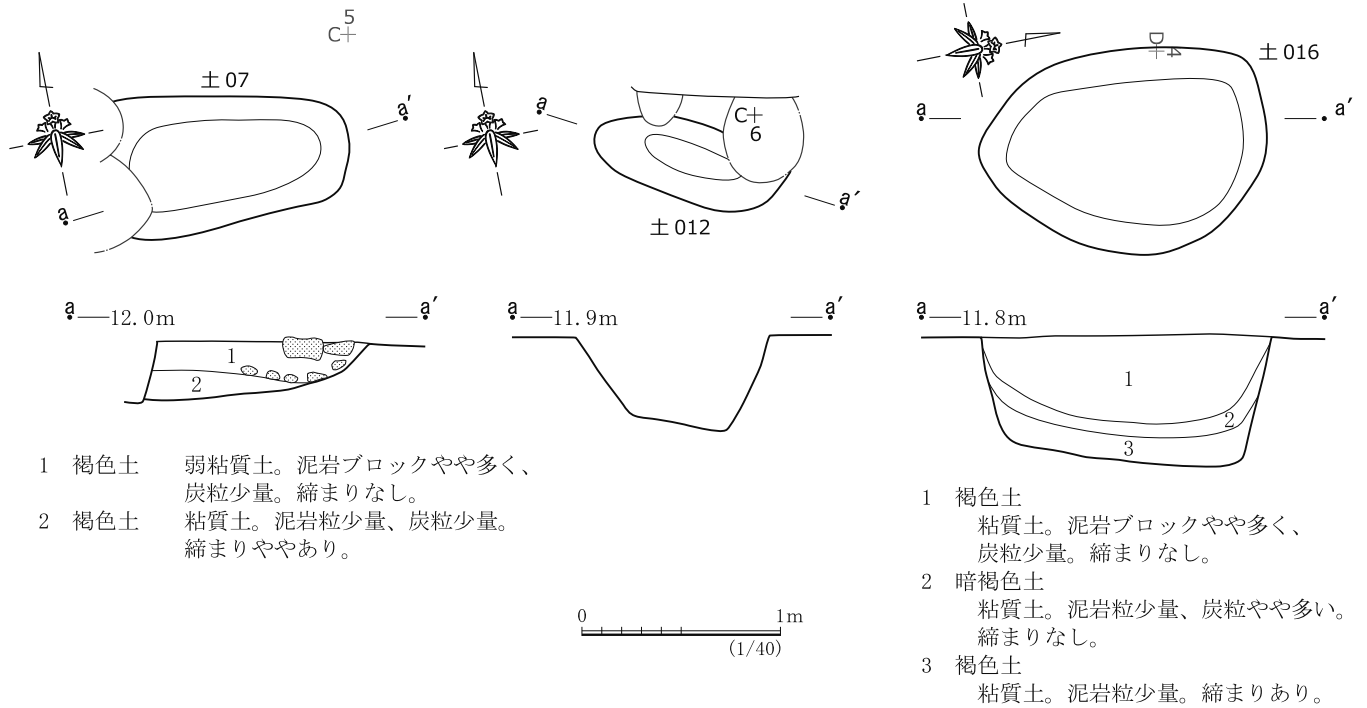


図 103 3面土坑 (4)

表 7 3面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナラ	ナラ状	板状	スコ状		
図104 3面遺構出土遺物(1)												
1	土器	ロクロかわらけ・小	(8.4)	(6.3)	1.6	1/3	○		○		橙	3面道路遺構上 白針
2	土器	ロクロかわらけ・小	8.4	6.8	1.7	4/5	○		○		黄灰	3面道路遺構上 白針、砂質
3	土器	ロクロかわらけ・小	8.3	6.0	1.8	ほぼ完形	○		○		黄橙	3面道路遺構上 白針
4	土器	ロクロかわらけ・小	8.8	6.3	1.9	4/5	○		○		黄橙	3面道路遺構上 白針
5	土器	ロクロかわらけ・大	13.3	9.2	3.0	ほぼ完形	○		○		橙	3面道路遺構上 白針
6	土器	ロクロかわらけ・大	13.1	9.2	3.4	3/4	○		○		橙	3面道路遺構上 白針
7	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	(5.9)	[1.7]	1/4底小					灰緑 不透明	3面道路遺構上 大宰府 I or II類
8	陶器	尾張型山茶碗	—	(7.0)	[2.0]	1/6底小					灰	3面道路遺構上 白色粒・黒色粒 内面摩耗
9	陶器	常滑甕	—	—	[7.4]	口小片					暗茶褐	3面道路遺構上
10	瓦質土器	火鉢	—	—	[7.0]	口小片					黄灰	3面道路遺構上 河野 I 類 (A類)
11	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.8	狭端面 片側辺					灰	3面道路遺構上 永福寺女瓦A類カ
12	鉄製品	釘	長さ [9.2]	幅 0.4	厚さ 0.3	ほぼ完形					—	3面道路遺構上
13	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	3面道路遺構上 皇宋通寶 中国北宋代 1039年初鑄
14	土器	ロクロかわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.6	1/6	○				黄灰	3面溝01 白針
15	土器	ロクロかわらけ・小	(8.0)	(6.0)	1.9	1/6	○				黄橙	3面溝01 白針 口縁部煤付着
16	土器	手づくねかわらけ・小	(8.1)	—	1.7	口小～ 1/2底小	○		○		黄橙	3面溝01 白針
17	土器	手づくねかわらけ・小	(9.5)	(7.8)	1.7	1/3	○				黄橙	3面溝01 白針 口唇部煤付着
18	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	—	[3.0]	口小片					淡灰緑 透明	3面溝01 大宰府 I 類
19	磁器	白磁蓋	1.6	—	高さ 1.5	完形					白 透明	3面溝01
20	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.9	狭端面 片側辺					灰	3面溝01 永福寺 I 期女瓦A類カ

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サテ状	板状	スコ状		
21	鉄製品	釘	長さ [7.3]	幅 0.7	厚さ 0.5	下端欠損					—	3面溝01
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(7.2)	2.0	1/3	○		○		黄橙	3面溝02 白針 内外面一部黒色に変色
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.2)	1.6	1/4	○		○		黄灰	3面溝02 白針
24	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	1.9	完形	○				橙	3面溝02 白針 粘土板結合法で成形
25	土器	手づくね かわらけ・大	(13.7)	—	3.7	1/4	○		○		黄灰	3面溝02 白針
26	土器	手づくね かわらけ・大	—	—	—	底一部	○				橙	3面溝02 白針 焼成後に穿孔
27	磁器	龍泉窯系青磁 鎬蓮弁文碗	—	—	[3.9]	口小片					オリーブ黄 半透明	3面溝02 大宰府Ⅱ類
28	陶器	常滑 甕	—	(15.0)	[5.6]	胴片～ 底2/5					暗褐	3面溝02 長石
29	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	狭端面 片側辺					黒灰	3面溝02 永福寺女瓦A類
30	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形					—	3面溝02 皇宋通寶(真書) 中国北宋代 1038年初鋳

図105 3面遺構出土遺物(2)

31	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	(7.9)	1.9	1/2	○		○		橙	3面建1-イ-2 白針
32	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	—	1.6	1/4	○				橙	3面建1-イ-2 白針
33	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.6)	1.8	2/3	○				黄橙	3面建1-イ-2 白針
34	陶器	渥美 甕	—	—	[12.5]	口小～ 胴片					オリーブ 灰	3面建1-イ-2 黒色粒・白色粒
35	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(7.1)	1.8	1/4	○		○		黄橙	3面建1-イ-3 白針
36	土器	手づくね かわらけ・大	13.6	—	3.3	1/2	○		○		黄橙	3面建1-イ-3 白針 外面全体に煤付着
37	土器	手づくね かわらけ・大	(12.2)	—	3.1	1/3					黄橙	3面建1-イ-4 白針
38	土器	手づくね かわらけ・小	(9.8)	—	1.8	1/4					黄灰	3面建物1-ロ-1 白針 内外一部煤付着
39	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.8	1/3	○				黄橙	3面建物1-ロ-1 白針
40	陶器	渥美 甕	—	—	[2.3]	口小片					灰緑	3面建物1-ロ-1
41	陶器	渥美 甕	—	—	[5.9]	口小～ 胴片					灰緑	3面建物1-ロ-1
42	陶器	常滑 甕	—	—	[13.5]	口小～ 胴片					灰	3面建物1-ロ-1 43と同一個体
43	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					灰	3面建物1-ロ-1 42と同一個体
44	陶器	渥美 甕	—	—	[10.4]	口小～ 胴片					灰	3面建物1-ロ-1
45	陶器	瀬戸 卸皿	(14.4)	—	[3.2]	口1/8					灰緑	3面建1-ロ-2 白色粒
46	陶器	常滑 壺	—	—	[2.2]	口小片					暗茶褐	3面建1-ロ-2 長石
47	陶器	常滑 甕	—	—	[8.8]	口小～ 胴片					暗茶褐	3面建1-ロ-2 長石
48	陶器	常滑 甕	—	—	[8.0]	口小～ 胴片					暗茶褐	3面建1-ロ-2 長石
49	陶器	常滑 甕	—	—	[7.8]	口小～ 胴片					暗茶褐	3面建1-ロ-2 長石
50	陶器	渥美 甕	—	—	[5.2]	口小～ 胴片					灰緑	3面建1-ロ-2 長石
51	陶器	渥美 甕	—	—	[5.1]	口小～ 胴片					灰緑	3面建1-ロ-2 長石
52	陶器	渥美 甕	—	—	[6.0]	口小～ 胴片					暗灰	3面建1-ロ-2 長石
53	陶器	渥美 甕	—	—	—	胴片					灰褐	3面建1-ロ-2 長石

図106 3面遺構出土遺物(3)

54	陶器	渥美 片口鉢	(32.8)	(14.0)	9.5	口小～ 底1/6					灰褐	3面建1ロ-2 黒色粒・黒色粒 口縁部に再加工
55	瓦	軒平瓦	—	—	—	瓦当一部					暗灰	3面建1ロ-2 下外区幅1.5 陰刻下向き剣頭文
56	石製品	砥石	長さ [4.6]	幅 1.8	厚さ 1.0	両端欠損					灰緑	3面建1ロ-2 上野産 中砥
57	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.9	1/3	○				黄橙	3面建1-ハ-1 白針、砂質 口縁部に煤付着

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ゲ	形状	板状	スロ状		
58	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	—	1.7	1/4					黄灰	3面建1-ハ-1 白針、砂質
59	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	—	1.9	1/2	○				黄灰	3面建1-ハ-2 白針
60	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	—	2.0	1/2					黄橙	3面建1-ハ-2 白針
61	土器	手づくね かわらけ・大	(14.5)	—	3.0	1/3					黄灰	3面建1-ハ-2 白針 内面に粘土塊付着
62	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	1.7	1/4	○				橙	3面建1-ハ-3 白針
63	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.6	1/4	○				黄橙	3面建1-ハ-3 白針 口縁部煤付着
64	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.6]	口小片					半透明	3面建1-ハ-3 大宰府I類
65	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					灰緑	3面建1ニ-2 長石
66	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.4	1/3	○				黄灰	3面土坑1 白針
67	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.2	筒部 片側辺					灰	3面土坑1 白色粒
68	土器	手づくね かわらけ・小	(8.1)	—	1.6	1/4	○				橙	3面土坑2 白針
69	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.5)	(8.8)	3.6	口小～ 底1/4	○		○		黄橙	3面土坑3 白針
70	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(6.9)	2.1	1/4	○		○		黄橙	3面土坑4 白針
71	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	2.1	完形					橙	3面土坑4 白針
72	磁器	青白磁 折縁皿	(10.1)	—	[1.3]	口1/8					青白 半透明	3面土坑4 口縁部輪花形(22弁)内面型押し蓮弁文
図107 3面遺構出土遺物(4)												
73	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.0)	1.4	2/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
74	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.0	1.4	ほぼ完形	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
75	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.6)	1.5	2/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
76	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.4)	(6.8)	1.7	1/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
77	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(5.6)	1.7	2/3	○				黄灰	3面土坑9 白針、やや粉質
78	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	7.2	1.8	ほぼ完形	○				橙	3面土坑9 白針 底部外面に擦痕
79	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(6.4)	1.4	1/4	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
80	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	5.9	1.5	2/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針、やや粉質
81	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	1.5	1/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
82	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	6.4	1.7	ほぼ完形	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
83	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	6.2	1.8	3/4	○		○		黄橙	3面土坑9 白針、やや粉質
84	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.5	1.6	4/5	○		○		黄橙	3面土坑9 白針 口唇部に煤付着
85	土器	ロクロ かわらけ・小	8.1	6.0	1.7	2/3	○		○		黄灰	3面土坑9 白針 口縁部注口状、煤付着
86	土器	ロクロ かわらけ	—	5.7	[1.7]	体片～ 底完存					黄橙	3面土坑9 白針、砂質
87	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(7.2)	3.5	1/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
88	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.0	3.0	4/5	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
89	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(8.0)	3.2	2/3	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
90	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(9.8)	3.3	2/3	○		○		黄灰	3面土坑9 白針
91	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(7.6)	3.5	1/4	○		○		黄橙	3面土坑9 白針
92	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.8	1/2					茶褐	3面土坑9 白針 全体に黒色に変色
93	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	—	3.1	1/4	○				黄橙	3面土坑9 白針
94	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	—	3.5	1/3					黄橙	3面土坑9 白針、砂質

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サテ状	板状	スコ状		
95	陶器	渥美甕	—	—	—	体片					灰緑	3面土坑9
96	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.8	不明					灰白	3面土坑9 八幡宮1期と同類カ 割れ口に擦痕
97	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.2)	1.6	1/4	○		○		黄灰	3面土坑10 白針
98	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.3)	1.5	1/4	○		○		黄灰	3面土坑10 白針
99	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(10.0)	3.3	1/3	○		○		黄橙	3面土坑10 白針
100	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.6	4/5					黄橙	3面土坑10 白針
101	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	—	1.7	1/4					黄橙	3面土坑11 白針
102	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	2.4	1/4					黄橙	3面土坑11 白針
103	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.4	1/4					黄橙	3面土坑11 白針
104	磁器	同安窯系青磁 櫛撞文碗	—	—	—	体片					淡緑 透明	3面土坑11 大宰府1類
105	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.2)	1.8	1/2	○		○		黄橙	3面土坑13 白針
106	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	2.0	4/5					黄橙	3面土坑13 白針
107	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	3.0	1/3					黄橙	3面土坑13 白針
108	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.1	1/3					黄橙	3面土坑13 白針
109	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.1	1/3					黄橙	3面土坑13 白針
図108 3面遺構出土遺物(5)												
110	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.6)	1.4	1/4	○		○		黄灰	3面土坑14 白針
111	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(6.6)	1.7	1/5					黄橙	3面土坑14 白針
112	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(5.8)	2.4	ほぼ完形	○				黄灰	3面土坑14 白針、砂質
113	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	—	2.1	ほぼ完形	○				橙	3面土坑14 白針
114	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.2	口小～ 底1/2					黄橙	3面土坑14 白針
115	陶器	常滑 甕	(19.9)	—	[5.9]	口小～ 胴片					茶褐	3面土坑14 5型式
116	陶器	渥美 甕	—	—	[8.0]	口小～ 胴片					緑灰	3面土坑14
117	陶器	渥美 甕	—	—	[6.3]	口小～ 胴片					黄緑灰	3面土坑14
118	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.8)	1.3	2/3	○		○		黄橙	3面土坑15 白針 内外面一部に煤付着
119	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(5.4)	1.4	1/3	○		○		黄灰	3面土坑15 白針
120	土器	ロクロ かわらけ・小	8.2	5.9	1.6	ほぼ完形	○		○		黄橙	3面土坑15 白針 内面全体黒色に変色
121	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.4)	1.7	1/6	○		○		黄橙	3面土坑15 白針
122	土器	ロクロ かわらけ・小	8.5	6.2	1.7	完形	○		○		黄橙	3面土坑15 白針
123	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.2	1.8	4/5	○				黄橙	3面土坑15 白針
124	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.6)	1.8	1/3	○		○		黄橙	3面土坑15 白針 口縁部一部に煤付着
125	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.9	3/4	○				黄灰	3面土坑15 白針
126	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.0)	(8.2)	3.1	1/3	○		○		黄橙	3面土坑15 白針
127	土器	ロクロ かわらけ・大	13.2	9.8	3.4	2/3	○		○		黄灰	3面土坑15 白針 外底面に擦痕
128	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	—	3.2	1/2	○				黄橙	3面土坑15 白針
129	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.0]	口小片					灰緑 透明	3面土坑15
130	陶器	尾張型 山茶碗	—	—	[2.3]	口小片					灰	3面土坑15 長石
131	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[2.3]	口小片					灰	3面土坑15 長石

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナラ	ナラ状	板状	スノ状		
132	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	縦 [4.2]	横 [5.9]	厚さ 1.2	不明					灰黒	3面土坑15
133	陶器	渥美甕	—	—	—	体片					暗褐	3面土坑16 白色粒
134	陶器	渥美甕	—	—	[2.8]	口小片					灰黒	3面土坑16 黒色粒・白色粒
135	瓦	平瓦	—	—	[2.0]	端面不明					灰	3面土坑16 永福寺女瓦A類
図109 3面遺構出土遺物(6)												
136	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	7.4	1.8	3/4	○	○			黄橙	3面土坑17 白針
137	土器	手づくね かわらけ・大	(14.2)	—	4.0	1/4	○				黄橙	3面土坑17 白針
138	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.5	1/4	○	○			黄橙	3面土坑18
139	土器	手づくね かわらけ・大	(12.9)	—	3.7	1/3	○				黄橙	3面土坑18 口縁部に煤付着
140	土器	手づくね かわらけ・小	(8.1)	—	2.2	1/4	○				黄橙	3面土坑19 白針
141	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	(16.0)	—	[4.6]	1/6					灰緑 透明	3面土坑19 大宰府I類
142	土器	ロクロ かわらけ・極小	(6.7)	(5.4)	1.1	1/3	○	○			黄橙	3面土坑01 内折れ 白針
143	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.2)	1.5	1/4	○	○			橙	3面土坑01 白針
144	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(7.8)	3.2	1/4	△	○			黄橙	3面土坑01 白針
145	磁器	白磁 口禿皿	—	—	[2.5]	口小～ 底小片					灰白 不透明	3面土坑01
146	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[4.8]	口小片					灰	3面土坑01 長石
147	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[8.5]	口小～ 体片					灰	3面土坑01 口縁部に粘土の塊付着
148	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.3)	1.5	1/3	○	○			黄橙	3面土坑02 白針
149	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(7.4)	1.4	1/4	○	○			黄灰	3面土坑02 白針
150	土器	ロクロ かわらけ・小	—	6.1	[1.0]	底小片	○	○			黄灰	3面土坑02 白針
151	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	(9.4)	2.8	1/3	○	○			黄橙	3面土坑02 白針
152	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[9.5]	口小～ 体片					灰	3面土坑02 白色粒
153	陶器	尾張型 山皿	(8.1)	(4.1)	1.6	1/2					灰	3面土坑02 白色粒
154	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.3	広端面 片側辺					灰	3面土坑02 永福寺女瓦A類
155	石製品	滑石鍋転用品	長さ [11.0]	幅 [6.7]	厚さ 1.7	不明					暗灰	3面土坑02
156	石製品	硯	長さ [3.2]	幅 5.6	厚さ 1.2	不明					暗青灰	3面土坑02 高島硯カ
157	鉄製品	刀子	長さ [24.6]	幅 2.0	厚さ 0.3	茎一部 欠損					—	3面土坑02 刃長16.5 茎長[8.2]
図110 3面遺構出土遺物(7)												
158	陶器	常滑 甕	—	—	[6.6]	口小～ 胴片					黒褐	3面土坑04 5型式 白色粒
159	陶器	常滑 広口壺	(19.7)	(15.0)	33.6	口1/4～ 底2/5					茶褐	3面土坑03 5型式
160	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					灰	3面土坑04 白色粒
161	土器	白かわらけ 手づくね・小	(8.2)	—	1.3	1/3					灰白	3面土坑05
162	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.7	1/4	○				黄灰	3面土坑05 白針
163	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	2.9	1/3	○				橙	3面土坑05 白針 口縁部一部煤付着
164	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[4.2]	口小片					灰	3面土坑05 長石
165	鉄製品	刀子	長さ [12.5]	幅 1.7	厚さ 0.4	茎部欠損					—	3面土坑05 刃幅 1.7 茎幅 1.0 刃厚 0.4 茎厚 0.3
166	鉄製品	磬か	長さ 4.9	幅 [7.4]	厚さ 0.5	不明					—	3面土坑05
167	鉄製品	釘	長さ [3.3]	幅 0.5	厚さ 0.5	上端欠損					—	3面土坑05
168	土器	ロクロ かわらけ・小	—	6.0	[1.5]	底完存					黄灰	3面土坑06

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サワラ状	板状	スコ状		
169	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	—	1.6	1/4	○				黄灰	3面土坑06 白針
170	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	2.0	1/4	○				黄灰	3面土坑06 白針
171	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[4.0]	口小片					灰	3面土坑06 長石
172	陶器	渥美 甕	—	—	[3.7]	口小片					暗灰	3面土坑06
173	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	—	1.7	1/4	○				黄灰	3面土坑07 白針
174	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	3.0	1/2	○				黄灰	3面土坑07 白針
175	土器	手づくね かわらけ・小	(8.1)	—	1.8	1/3	○				橙	3面礎石P01 白針
図111 3面遺構出土遺物(8)												
176	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(7.6)	1.9	3/4					黄橙	3面P4 内外面に煤付着
177	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.3	1.9	完形	○		○		黄橙	3面P6 白針 口縁部打ち欠き
178	土器	手づくね かわらけ・小	(8.9)	—	1.7	1/3	○				黄灰	3面P6 白針
179	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.5)	(9.4)	3.1	4/5	○		○		黄橙	3面P6 白針
180	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[6.6]	口小～ 体片					灰緑 透明	3面P6 白針
181	土器	手づくね かわらけ・小	(9.5)	—	1.6	1/3	○				黄橙	3面P7 白針
182	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	2.6	1/3	○				黄橙	3面P7 白針 口縁部煤付着
183	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	2.0	1/4	○				橙	3面P8 白針
184	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					暗灰 黄緑	3面P8 長石
185	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	(7.0)	1.9	1/4	○		○		黄橙	3面P9 白針
186	陶器	常滑 甕	—	—	—	体片					暗灰 黄緑	3面P14
187	陶器	渥美 片口鉢	—	—	[5.7]	口小片					灰褐	3面P17
188	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.0)	1.5	1/4	○				橙	3面P18 白針
189	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	2.6	1/4					黄橙	3面P20 白針
190	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	—	1.4	1/4	○				黄橙	3面P23 白針、やや粉質 口縁部一部に擦痕
191	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.8	1/2	○				黄灰	3面P23 白針 内外面一部黒色に変色
192	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	—	3.0	1/2	○				黄橙	3面P23 白針 内外面一部黒色に変色
193	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.3)	1.7	1/6	○		○		黄橙	3面P24 白針
194	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	2.1	ほぼ完形	○				黄橙	3面P24 白針 口縁部打ち欠き
195	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(9.2)	3.0	3/4	○		○		黄橙	3面P25 白針
196	陶器	常滑 甕	—	(17.0)	[6.7]	胴片～ 底1/4					暗褐	3面P30 長石
197	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	2.0	1/4	○				黄橙	3面P31 白針 内外煤付着
198	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	3.3	1/2	○				黄灰	3面P33 白針
199	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(7.4)	1.8	1/6	○				黄橙	3面P34 白針
200	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.5)	1.4	1/4	○		○		黄橙	3面P35 白針
201	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.7	完形	○				黄橙	3面P35 白針 口縁部打ち欠き、煤付着
202	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	—	1.9	1/4	○				黄橙	3面P38 白針 口縁部打ち欠き、内外煤付着
203	鉄製品	釘	長さ 5.9	幅 0.6	厚さ 0.5	完形					—	3面P40
204	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[4.3]	口小片					緑灰	3面P42 白色粒
205	陶器	泉州窯系 緑釉盤	—	—	[5.2]	口小片					緑灰	3面P42 白色粒

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	斜ラ状	板状	スコ状		
206	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	8.3	3.5	口小～ 底完存	○		○		橙	3面P44 白針、砂質
207	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	—	3.4	口小1/3					橙	3面P47 白針
208	磁器	青白磁 劃花文碗	—	—	[3.2]	口小片					水青 透明	3面P47 輪花形カ
209	瓦器	輪花碗	—	—	[2.0]	口小片					白	3面P47
図112 3面遺構出土遺物(9)												
210	土器	ロクロ かわらけ・小	9.1	7.2	1.5	1/2	○		○		黄橙	3面P48 白針
211	土器	手づくね かわらけ・大	(12.8)	(11.0)	3.0	1/3					黄橙	3面P48 白針
212	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	11.1	3.2	2/3	○				黄灰	3面P48 白針
213	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.8)	1.6	1/4	○		○		黄橙	3面P52 内外煤付着
214	磁器	龍泉窯系青磁 鑄蓮弁文碗	—	—	[2.2]	口小片					刺-ブ灰 透明	3面P53
215	陶器	泉州窯 盤	—	—	[2.2]	口小片					灰緑	3面P54
216	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	(7.4)	1.4	1/3					黄灰	3面P55 白針
217	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	(8.2)	1.5	1/4	○				橙	3面P55 白針
218	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	(11.2)	2.7	1/4	○				黄橙	3面P60 白針
219	陶器	常滑 甕	—	—	[7.5]	口小片					褐	3面P60 白色粒
220	土器	手づくね かわらけ・大	13.0	12.0	3.2	ほぼ完形					黄橙	3面P61
221	陶器	常滑 甕	—	(15.0)	[3.4]	底小1/3					赤褐	3面P62 白色粒
222	石製品	砥石	長さ [3.4]	幅 3.1	厚さ 0.9	不明					明緑灰	3面P62 中砥
223	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(9.0)	3.7	1/3	○		○		黄橙	3面P63 白針
224	土器	手づくね かわらけ・小	9.5	7.6	1.7	4/5	○				黄橙	3面P63 白針
225	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	(7.0)	1.6	1/4					橙	3面P63 白針
226	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	7.9	2.0	ほぼ完形	○				黄橙	3面P63 白針 口縁部打ち欠き
227	土器	手づくね かわらけ・小	10.0	2.7	2.0	2/3	○				橙	3面P63 白針
228	土器	手づくね かわらけ・小	(9.8)	(8.2)	2.3	1/4	○				黄橙	3面P63 白針
229	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文皿	—	(3.9)	[1.5]	底小1/2～ 体片					淡黄灰 透明	3面P63
230	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	高台径 (5.4)	[5.4]	底小1/4～ 体片					灰緑 透明	3面P63
231	土器	手づくね かわらけ・大	(14.6)	(13.0)	2.8	口小～ 1/4底小	○				黄橙	3面P65 白針
232	土器	手づくね かわらけ・大	(14.8)	(13.4)	3.2	1/4	○				黄橙	3面P65 白針
233	陶器	常滑 甕	—	—	[3.2]	口小片					灰褐	3面P66
234	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	(9.0)	2.2	1/3	○				黄橙	3面P67 白針 口縁～外面煤付着
235	土器	手づくね かわらけ・大	(13.7)	(12.1)	3.6	1/3	○				黄橙	3面P67 白針 口縁～外面煤付着
236	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.2)	1.8	1/4	○		○		橙	3面P74 白針 口縁部一部引っ掻き痕
237	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	15.0	[3.4]	体片～ 底完存					明茶褐	3面P74 長石
238	石製品	球状製品 用途不明	直径 5.8	—	—	完形					暗黄灰	3面P74 砂岩質
図113 3面遺構出土遺物(10)												
239	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	(8.6)	2.1	1/4	○				橙	3面P5A 白針
240	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文皿	(10.2)	(5.3)	2.2	口1/8					灰白 透明	3面P6A
241	陶器	常滑 甕	(19.6)	—	[6.4]	口1/6					褐	3面P7A 3面土坑14と同一個体
242	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.0)	1.5	1/4	○		○		黄灰	3面P8A 白針 口縁部煤付着

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ [△]	サヲ [△] 状	板状	スコ状		
243	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	(7.9)	1.6	1/4	○				橙	3面P02 白針
244	陶器	瀬戸 瓶子	—	(12.0)	[5.1]	1/6					灰白	3面P04 瓶子Ⅱ類、または水注
245	陶器	渥美・湖西型 山茶碗	—	(5.8)	[2.3]	底1/4					灰	3面P014 図83-463(2面P018)と同一個体
246	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.4)	1.7	1/4	○		○		黄橙	3面P016 白針 内外面に煤付着
247	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.3	1/4	○				黄灰	3面P016A 白針 内外面黒色に変色
248	土器	手づくね かわらけ・大	(12.9)	—	3.4	1/4	○				黄橙	3面P016A
249	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.0]	口小片					明褐	3面P018 長石
250	鉄製品	釘	長さ [4.5]	幅 0.5	厚さ 0.5	下端欠損					—	3面P018

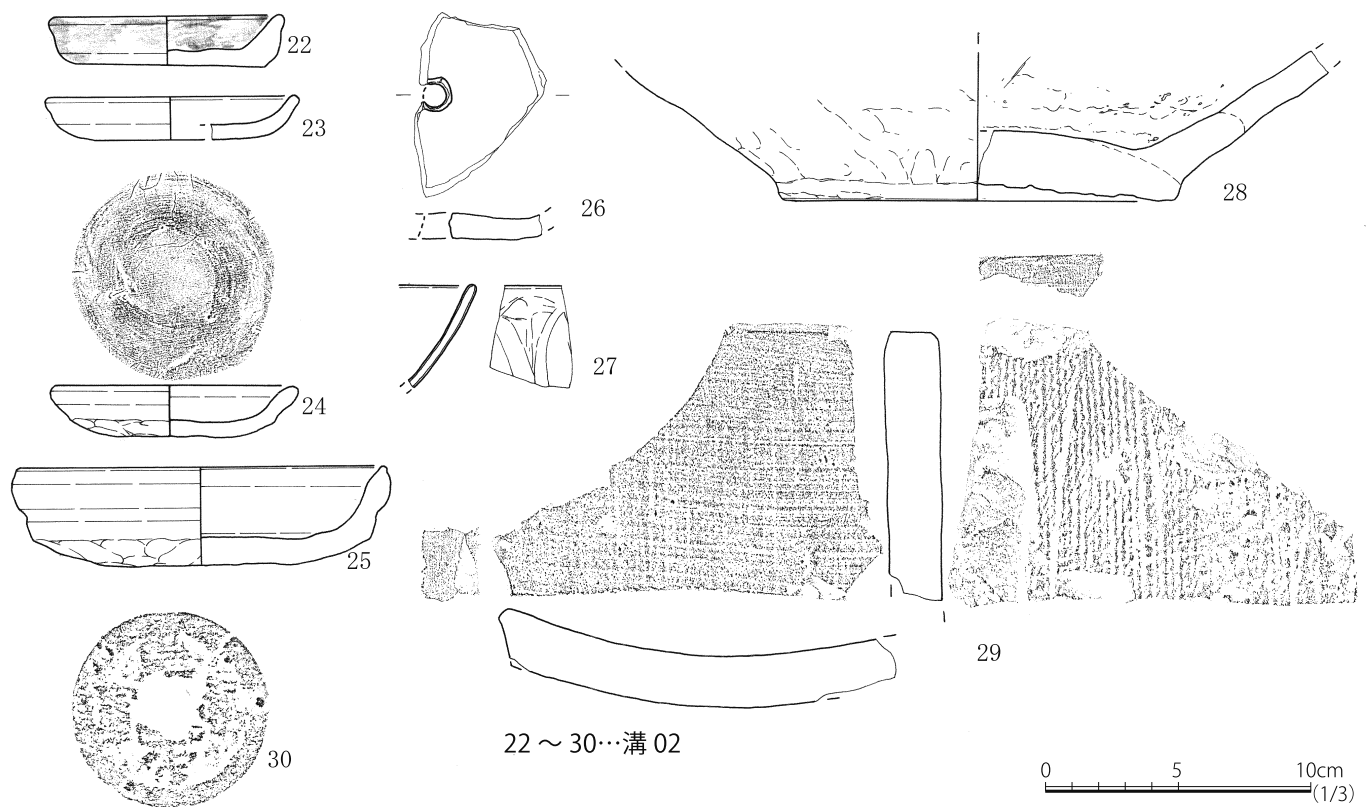
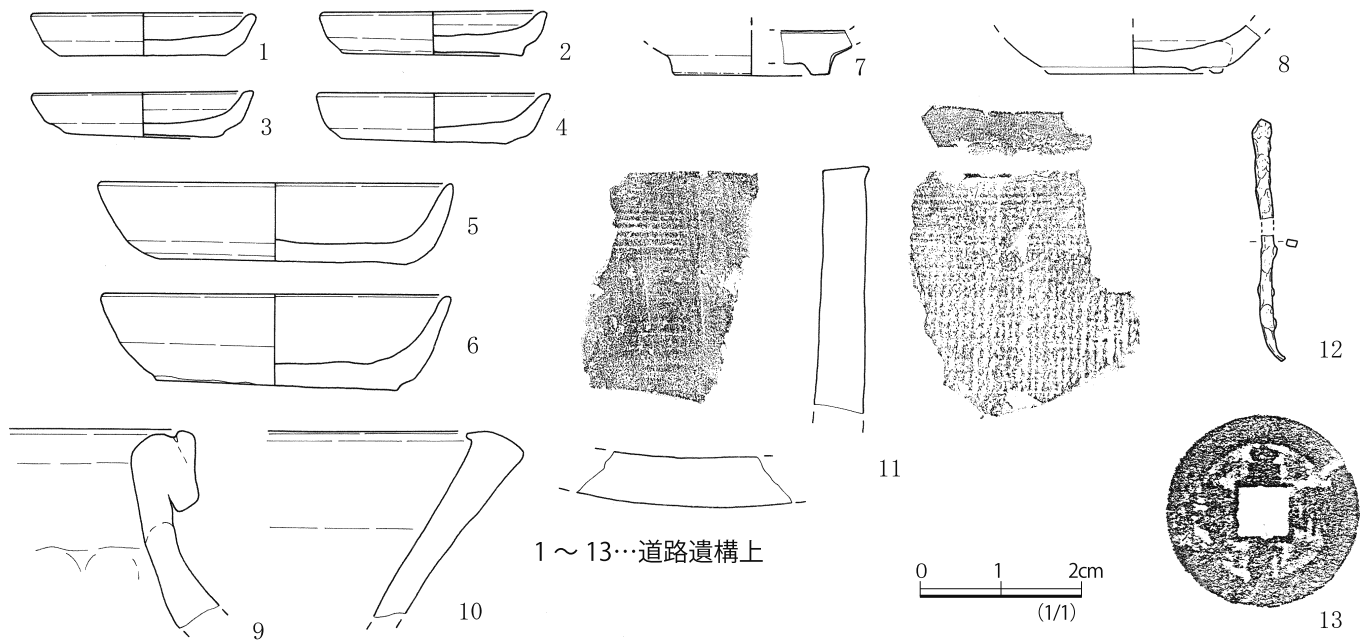


图 104 3面遺構出土遺物(1)

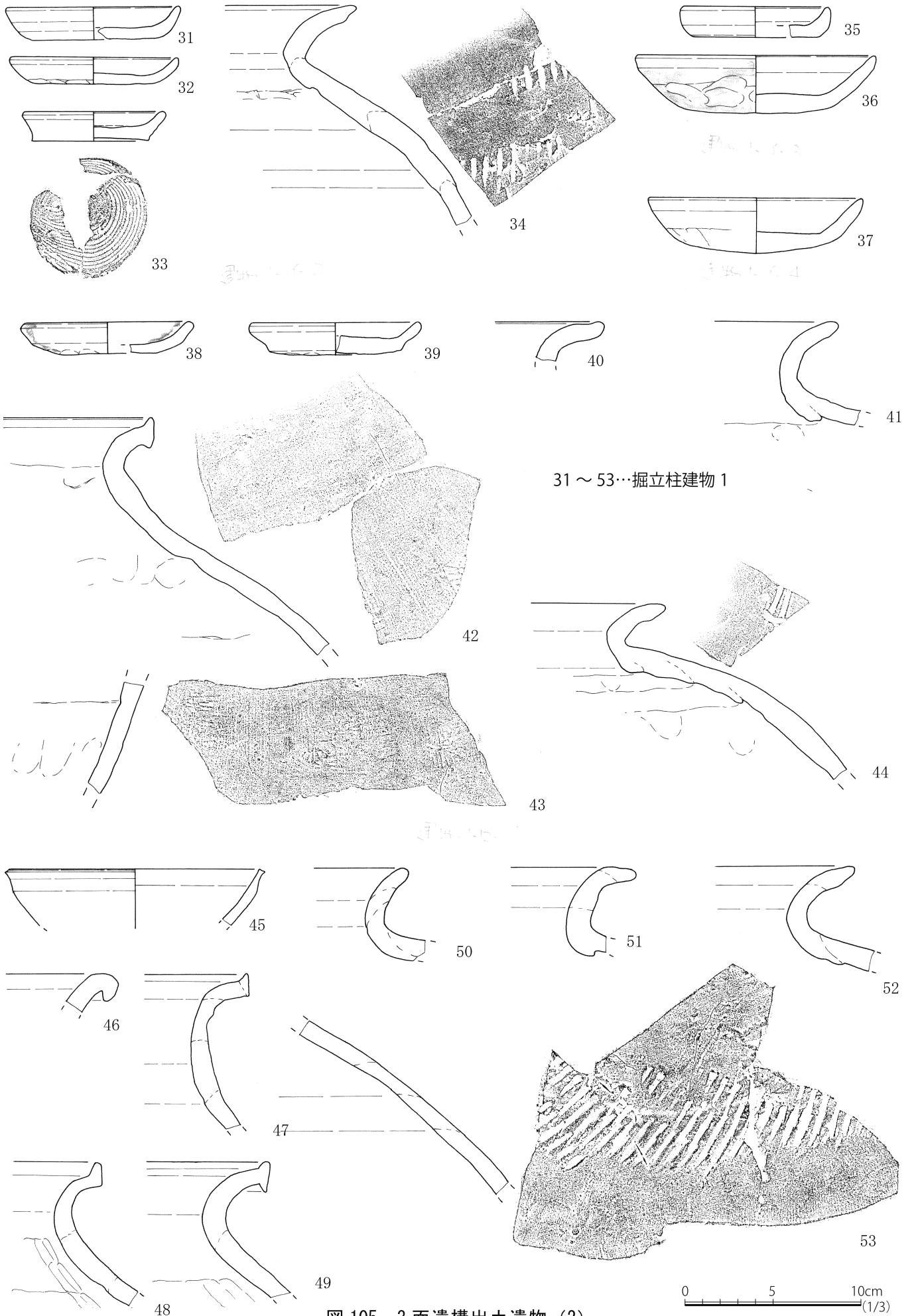


图 105 3 面遺構出土遺物 (2)

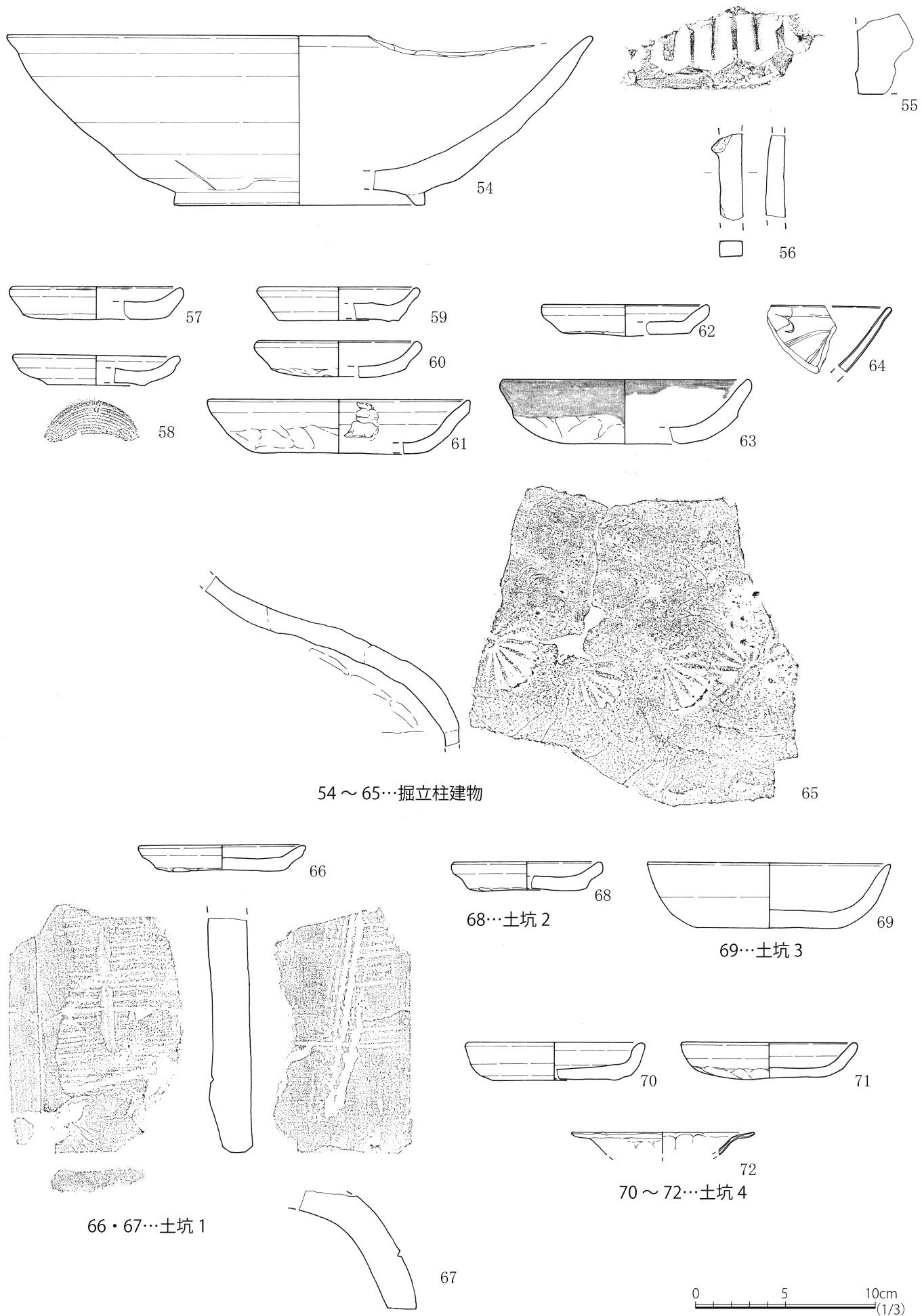
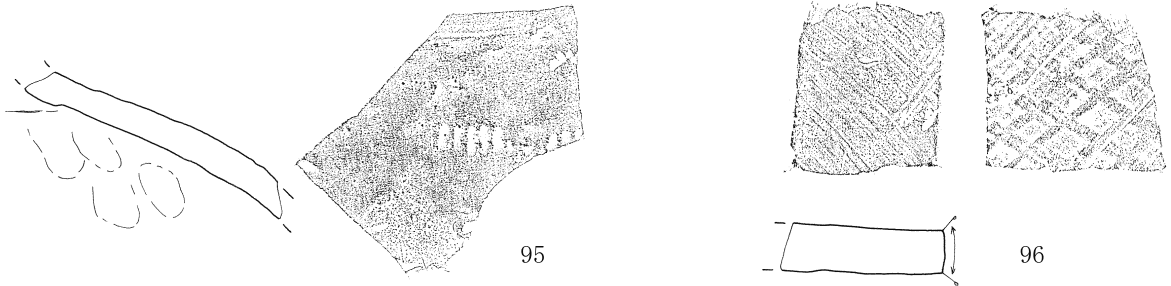
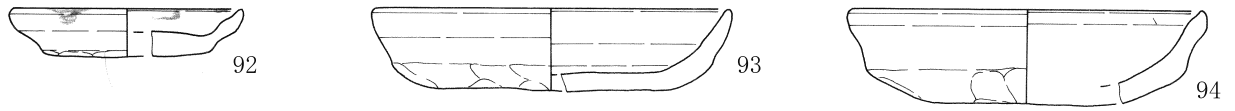
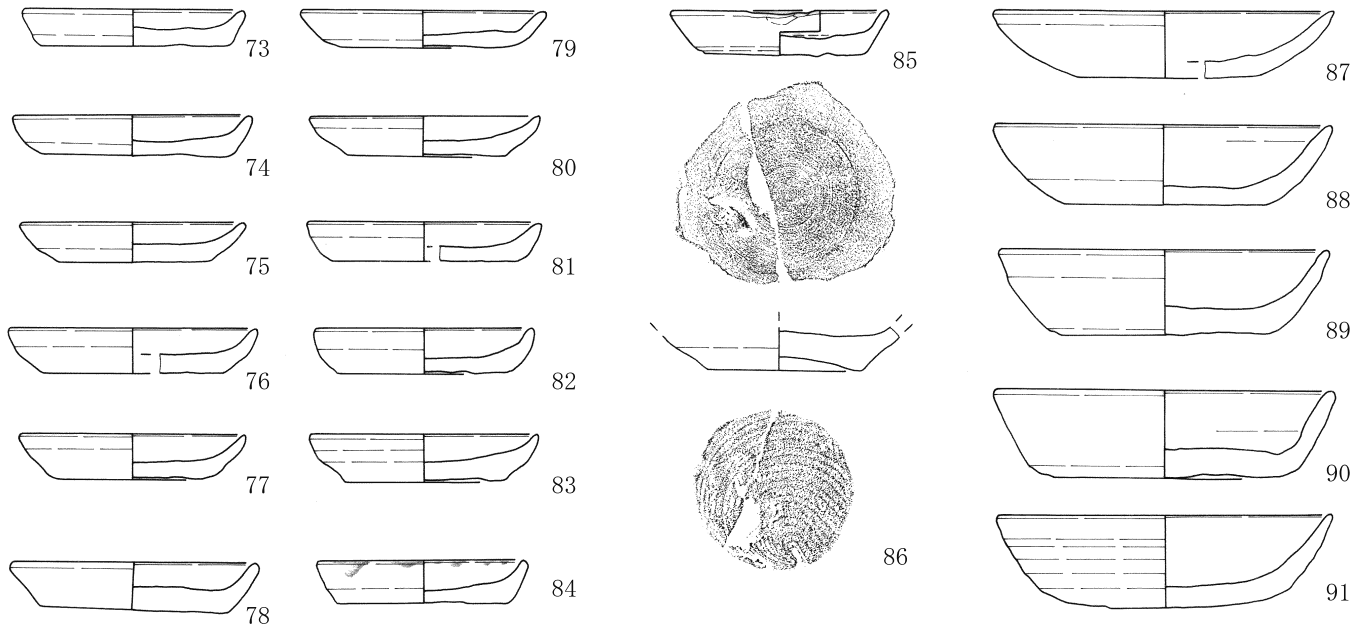
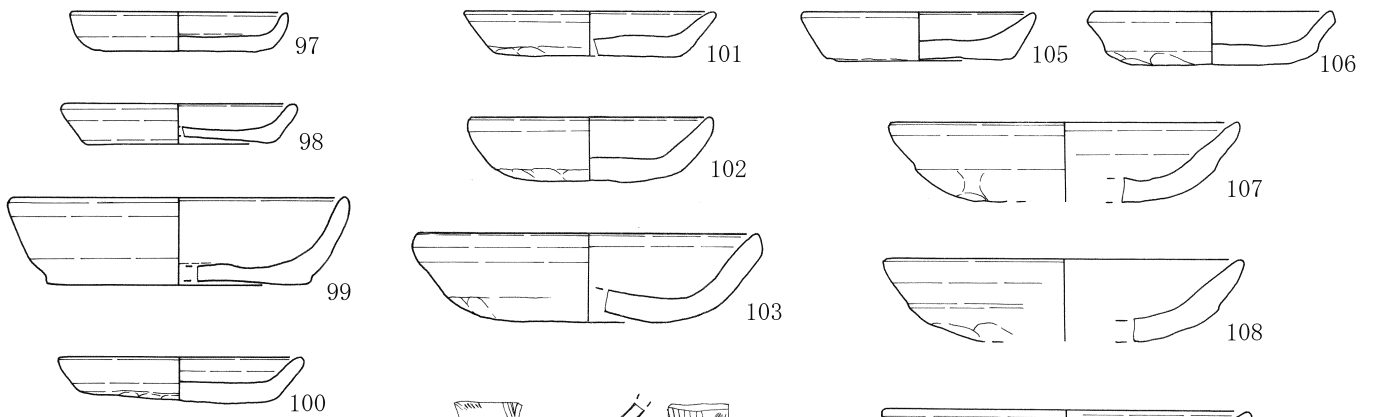


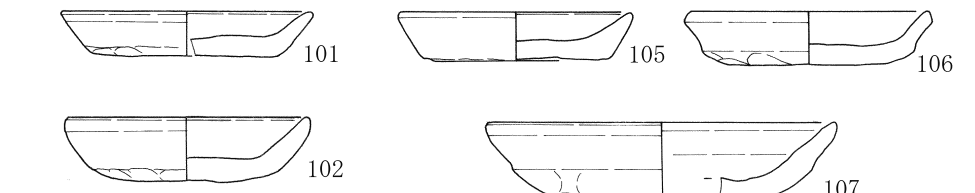
图 106 3面遺構出土遺物 (3)



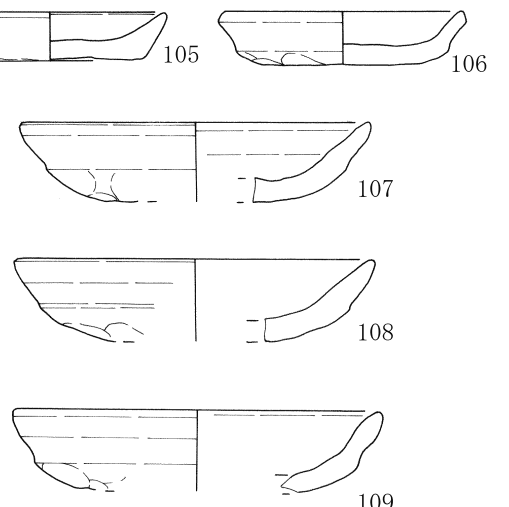
73 ~ 96...土坑 9



97 ~ 100...土坑 10



101 ~ 104...土坑 11



105 ~ 109...土坑 13

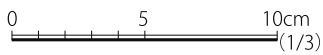
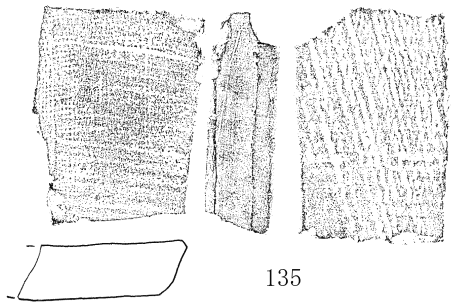
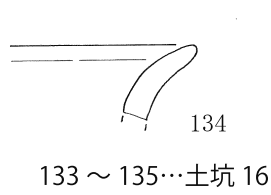
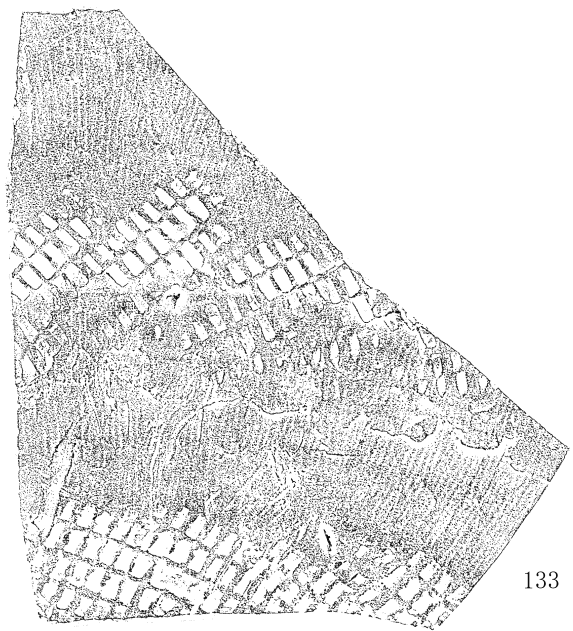
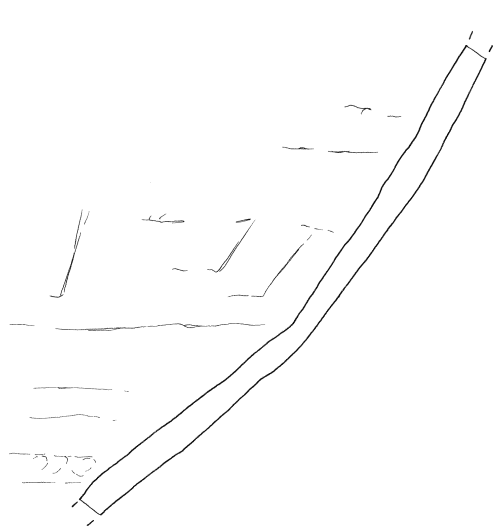
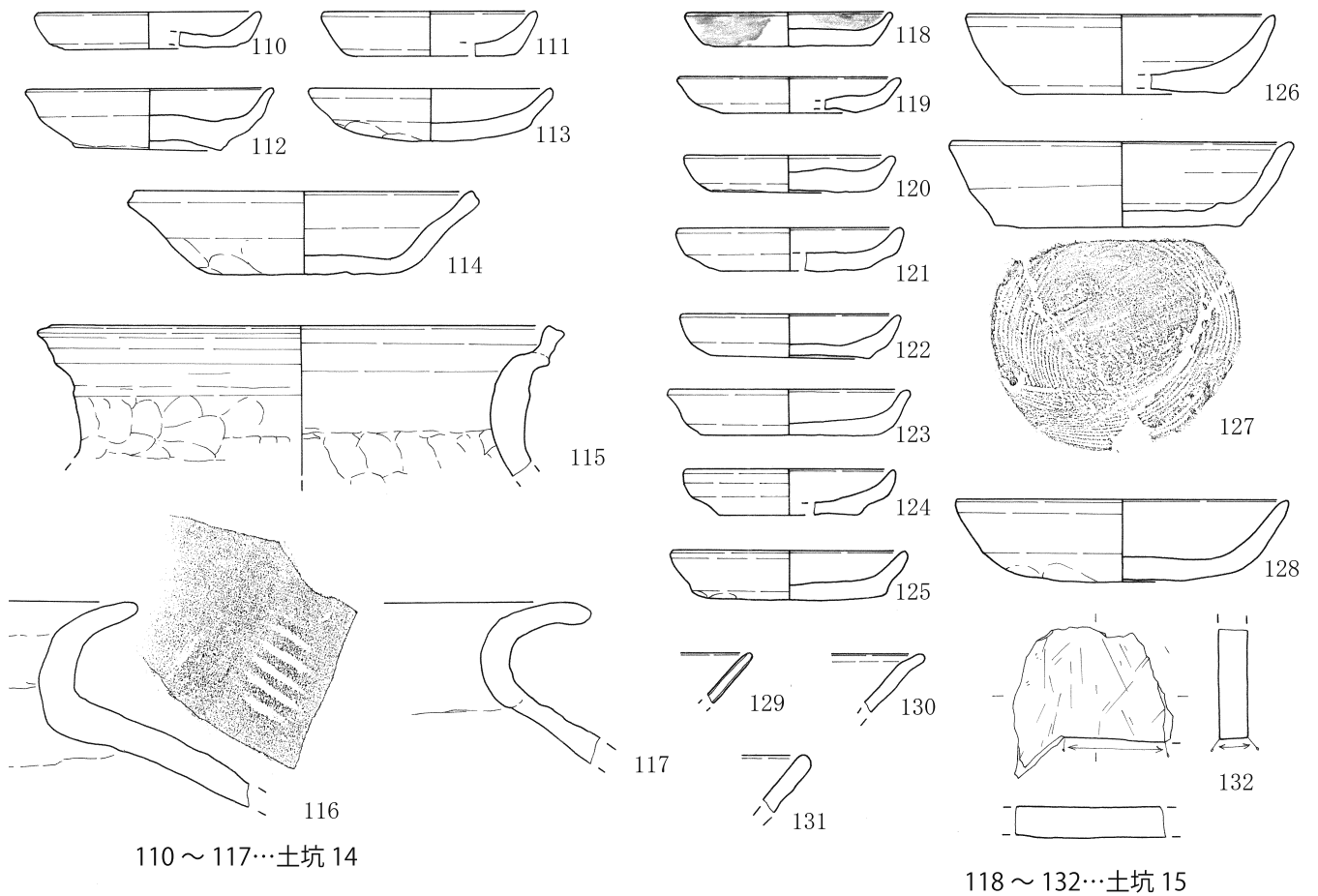


图 107 3 面遺構出土遺物 (4)



0 5 10cm (1/3)

图 108 3 面遺構出土遺物 (5)

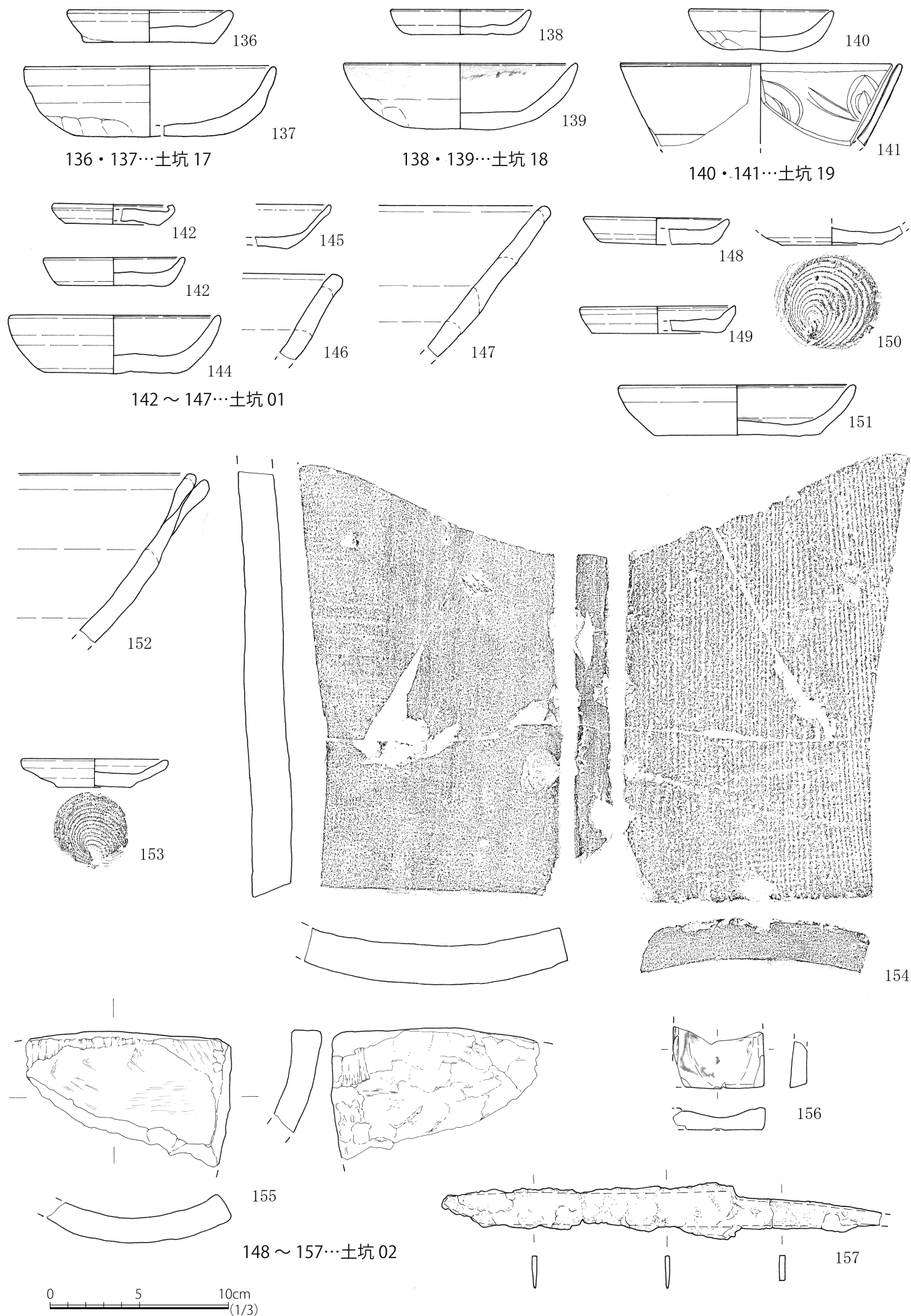
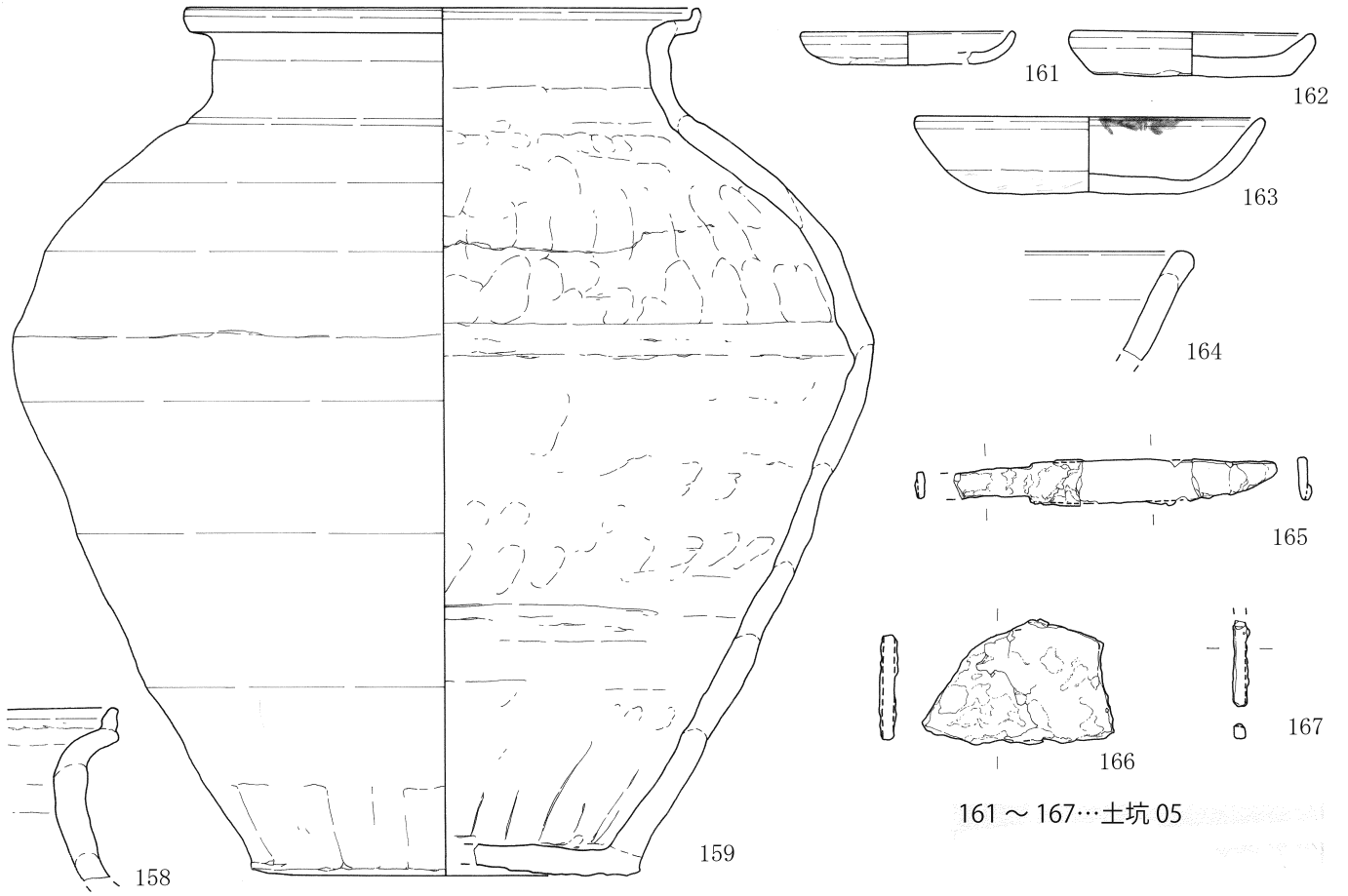
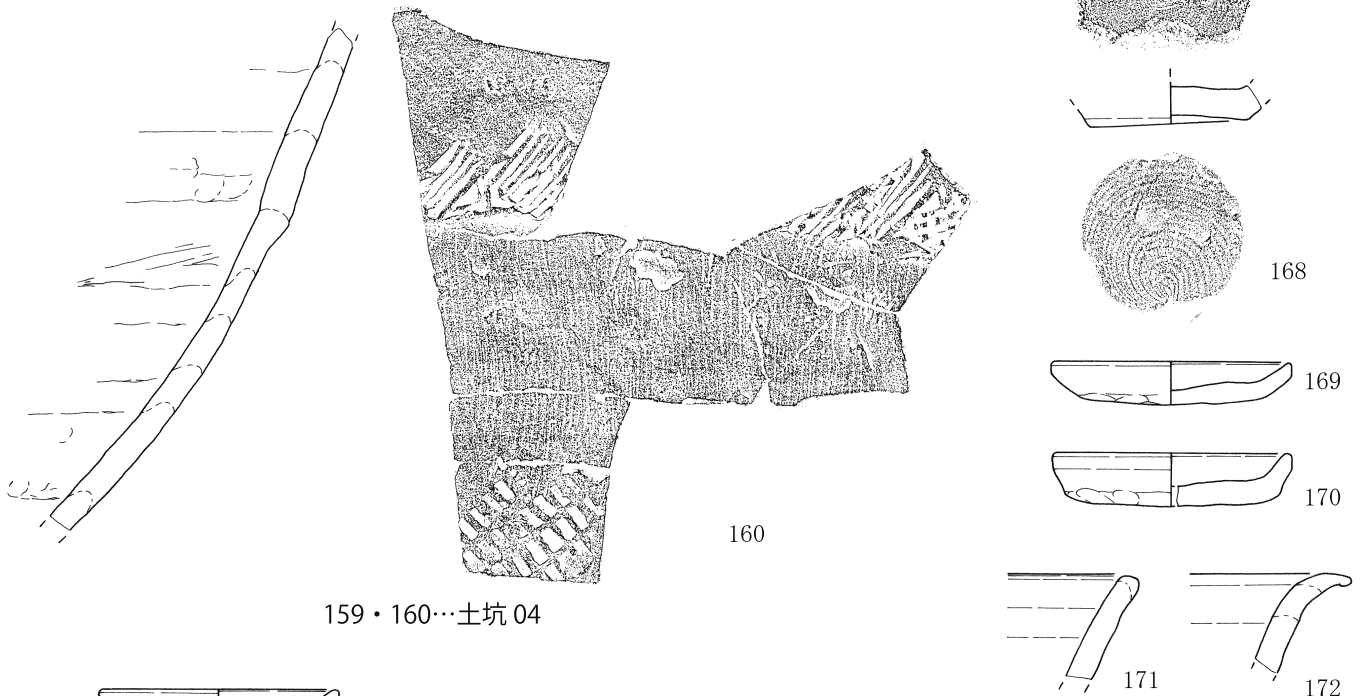


图 109 3面遺構出土遺物 (6)



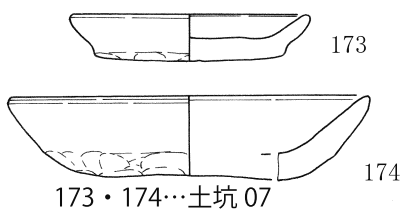
161 ~ 167...土坑 05

158...土坑 03

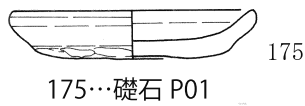


159 · 160...土坑 04

168 ~ 172...土坑 06



173 · 174...土坑 07



175...礎石 P01

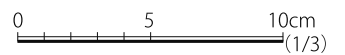


图 110 3 面遺構出土遺物 (7)

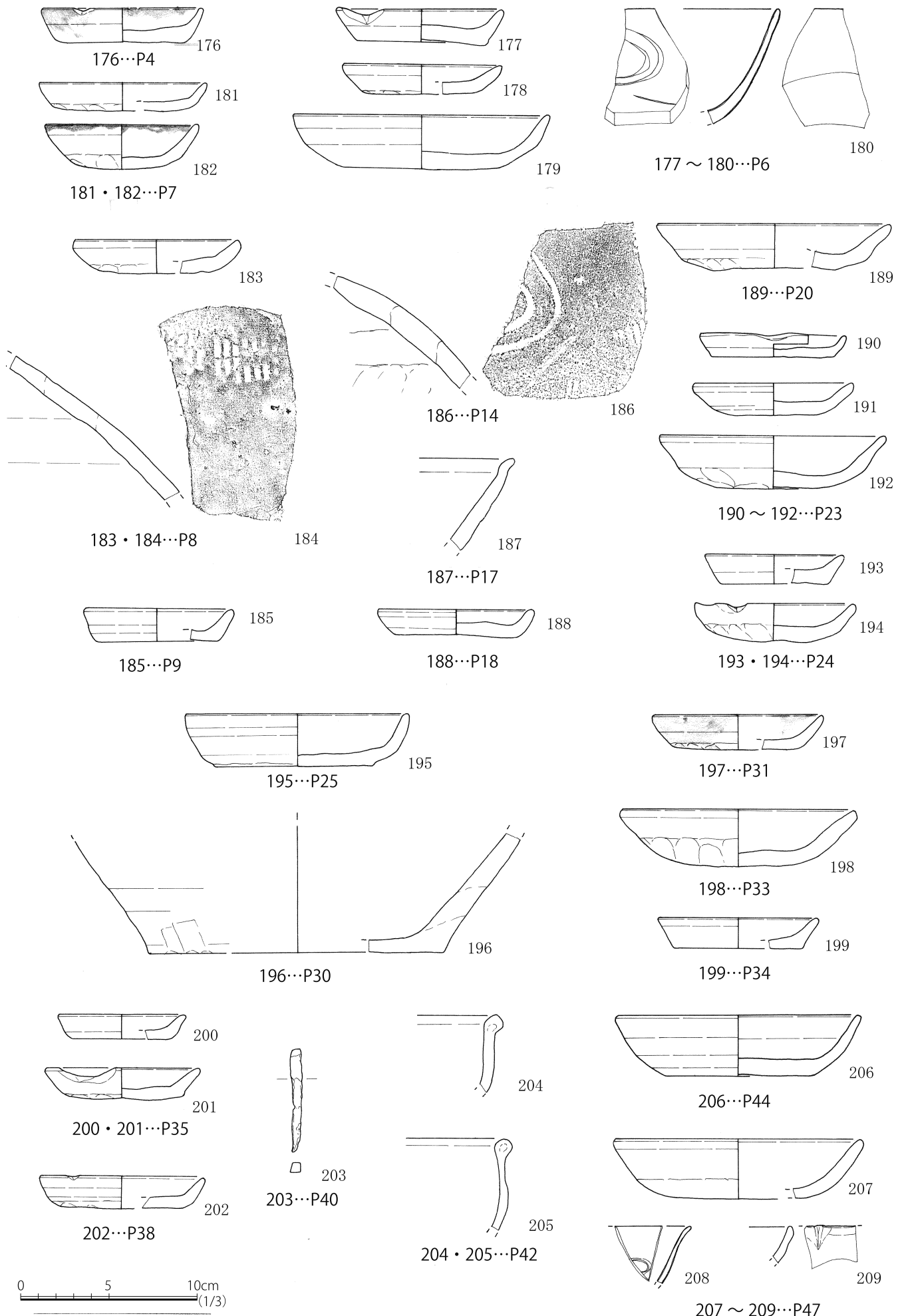


图 111 3面遺構出土遺物 (8)

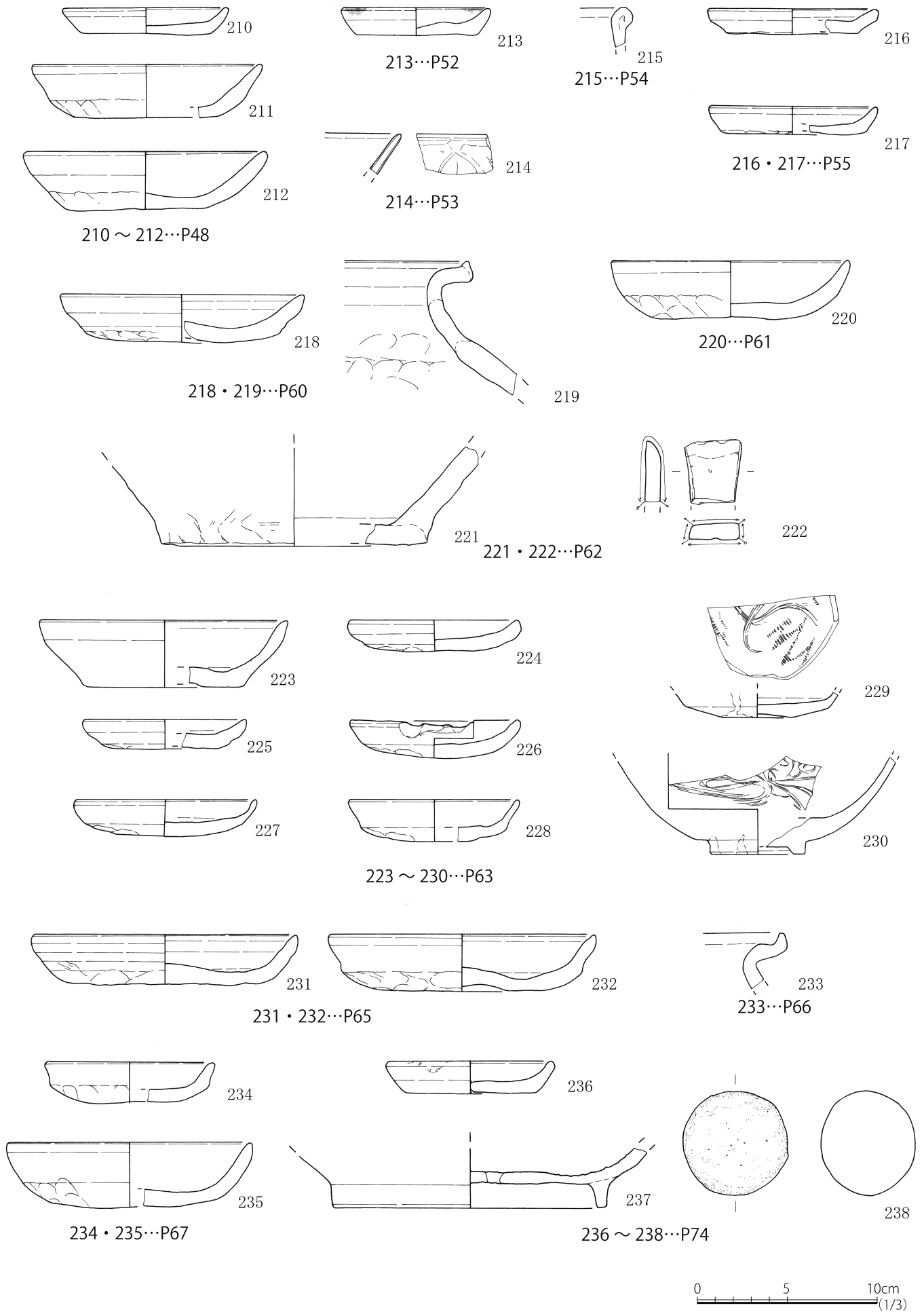


图 112 3面遺構出土遺物 (9)

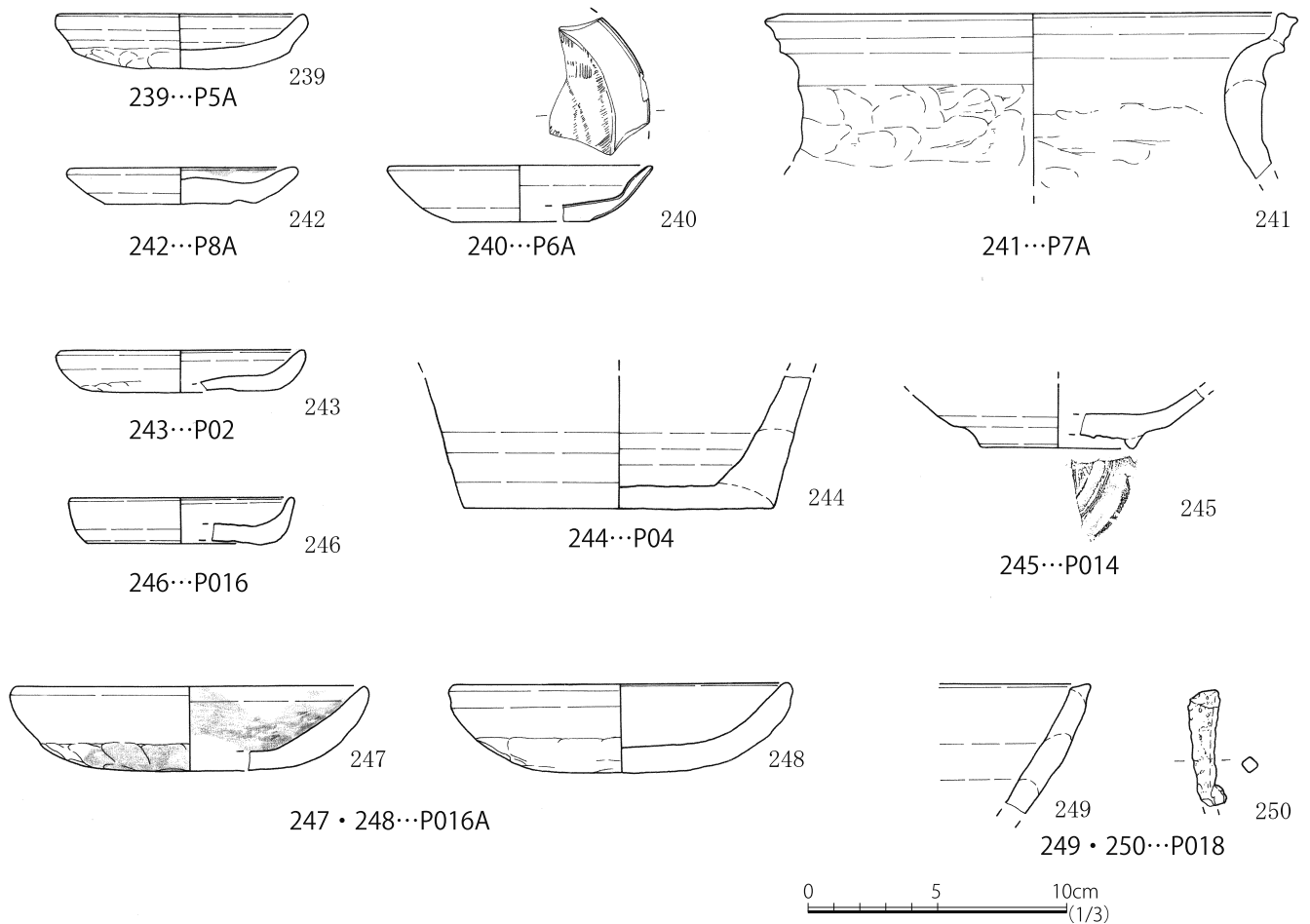


図 113 3面遺構出土遺物 (10)

第7節 4面上の遺物 (図 114 ~ 131、表 8・9)

図 114 ~ 130 には3面下から4面まで掘り下げる際の出土遺物を、図 131 には4面直上の出土遺物を掲載した。図示できた資料を見る限り、ロクロかわらけと手づくねかわらけの構成比は拮抗しており、上面に比べ手づくねの存在感は確実に増している。常滑甕は5型式、舶載品は龍泉窯系青磁碗・皿I類、瓦は永福寺I期の所用品が占めている。4面直上の丸瓦 (図 131-1) も永福寺I期に属し、これら総体として13世紀前葉の遺物構成と見なせる。

表 8 3面下~4面上 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナ [°]	ナ [°] 状	板状	ス ^コ 状		
図114 3面下~4面上出土遺物(1)												
1	土器	白かわらけ ロクロ・極小	(5.5)	(4.9)	1.0	1/4					桃白	やや粉質 内折れ
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.4)	1.5	1/3	○		○		黄灰	
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.0)	1.6	1/4	○		○		橙	
4	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	7.4	1.7	4/5	○		○		橙	白針、砂質
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	6.4	1.7	1/3	○		○		黄灰	白針
6	土器	ロクロ かわらけ・小	9.5	7.8	1.7	2/3	○		○		黄橙	白針

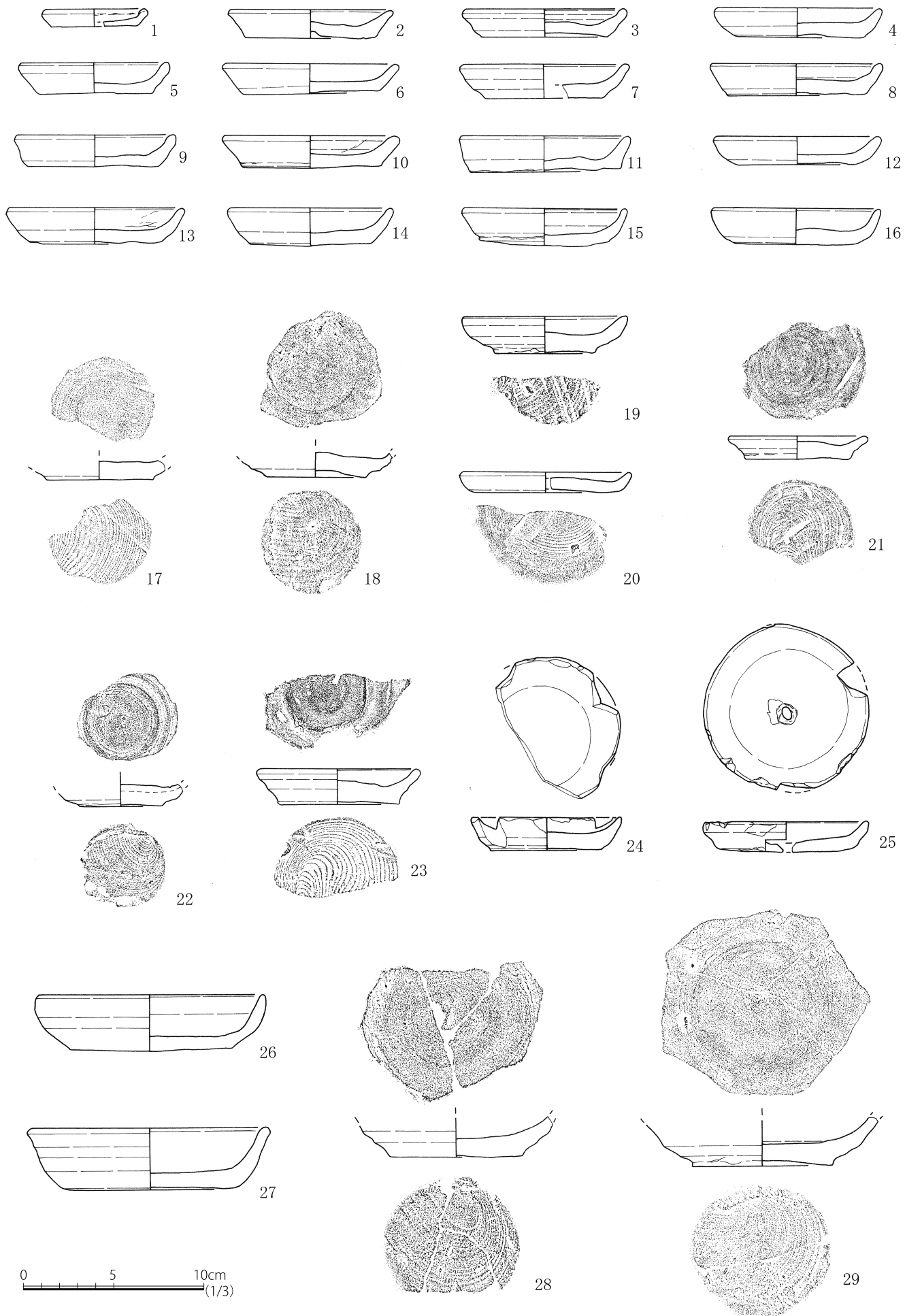


图 114 3 面下~4 面上出土遺物 (1)

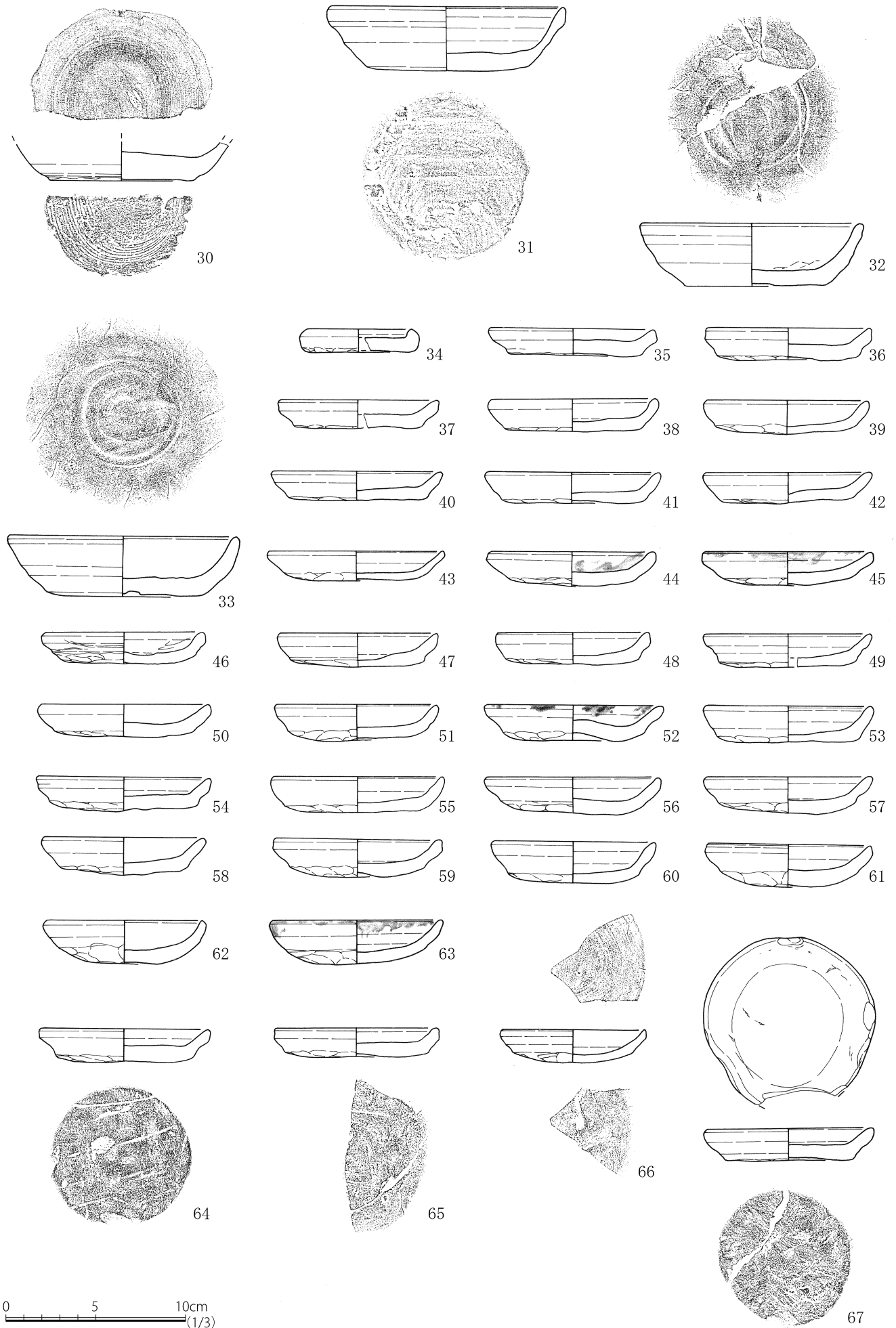


图 115 3 面下~4 面上出土遺物 (2)

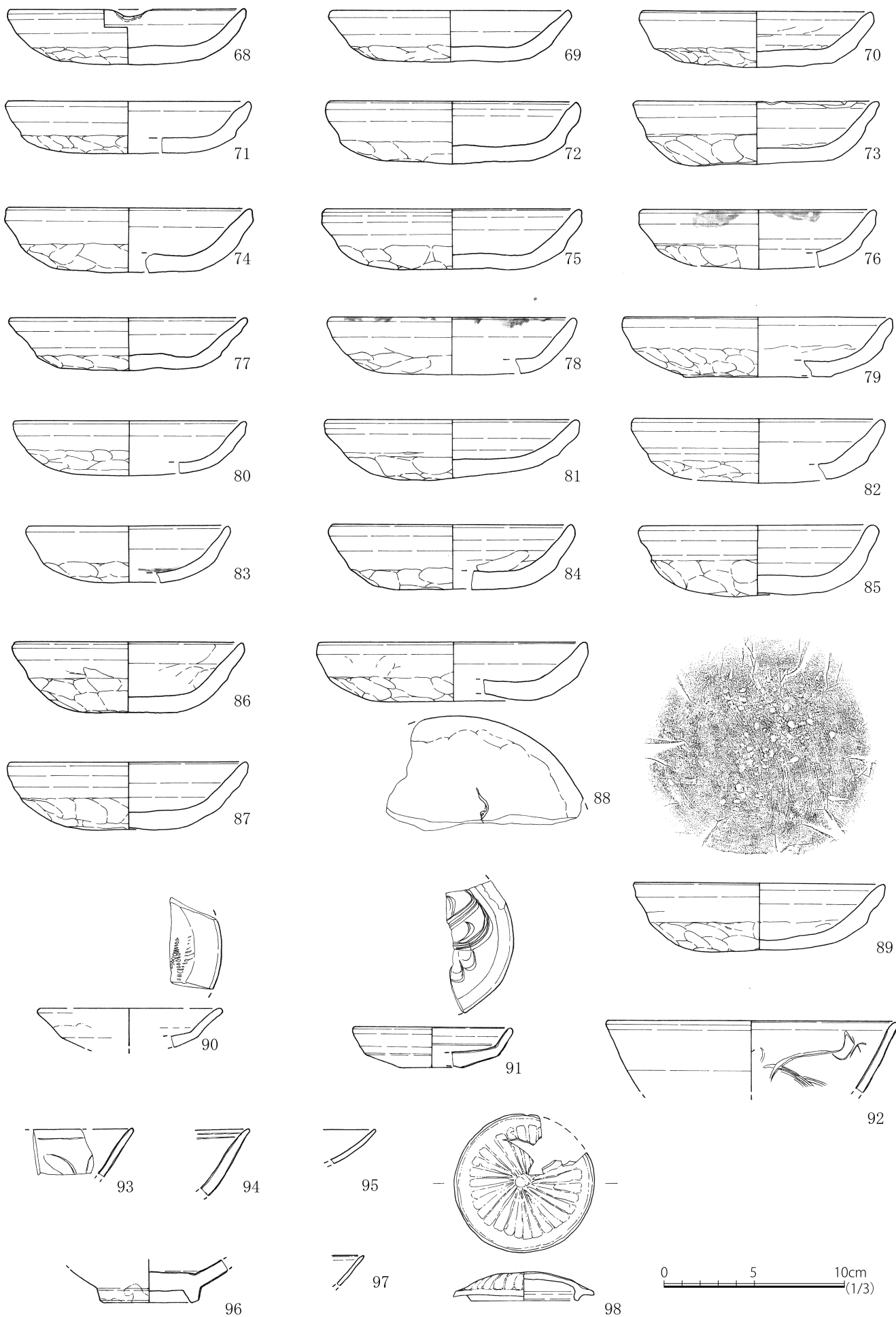


图 116 3 面下~4 面上出土遺物 (3)

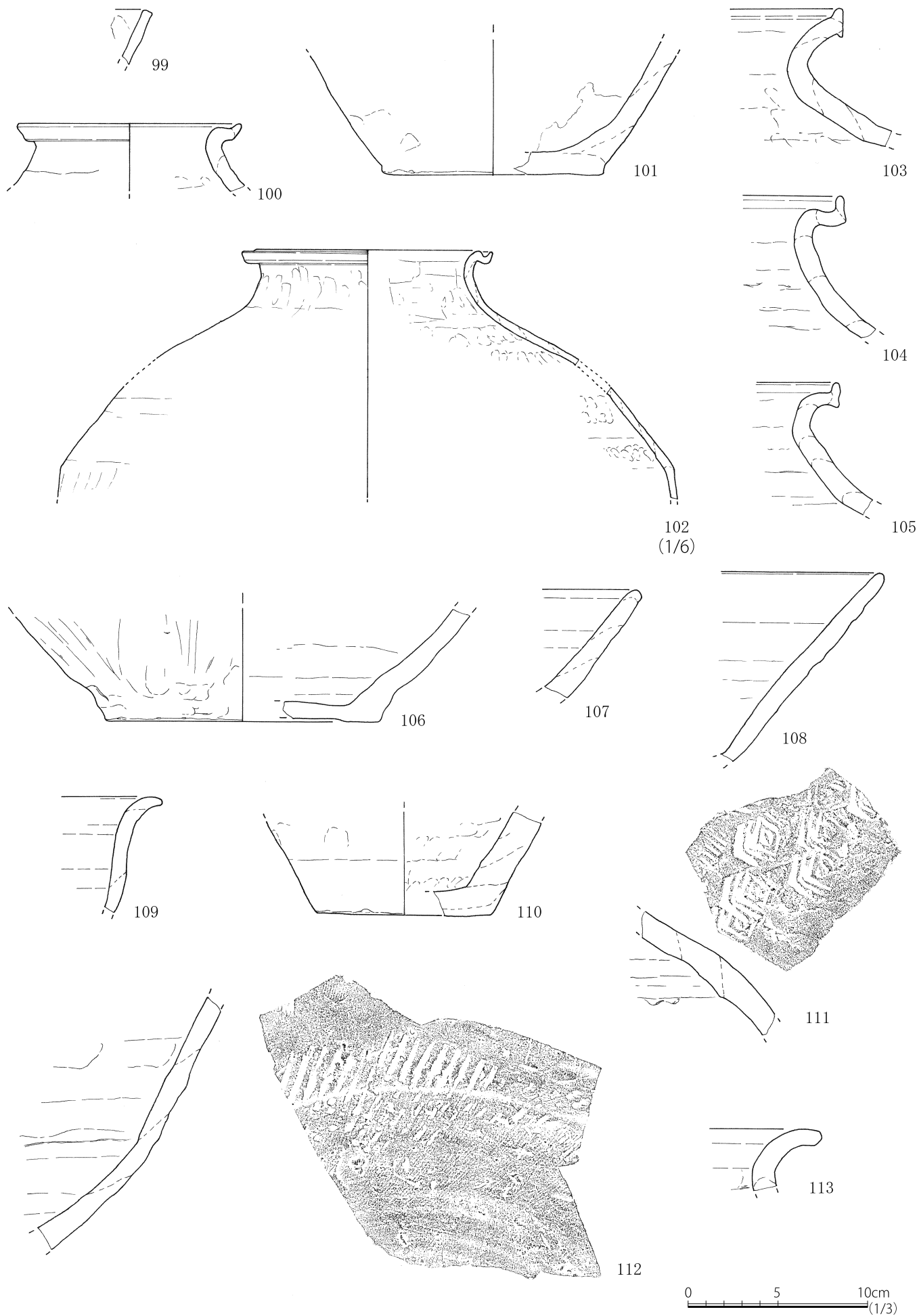
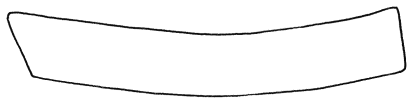
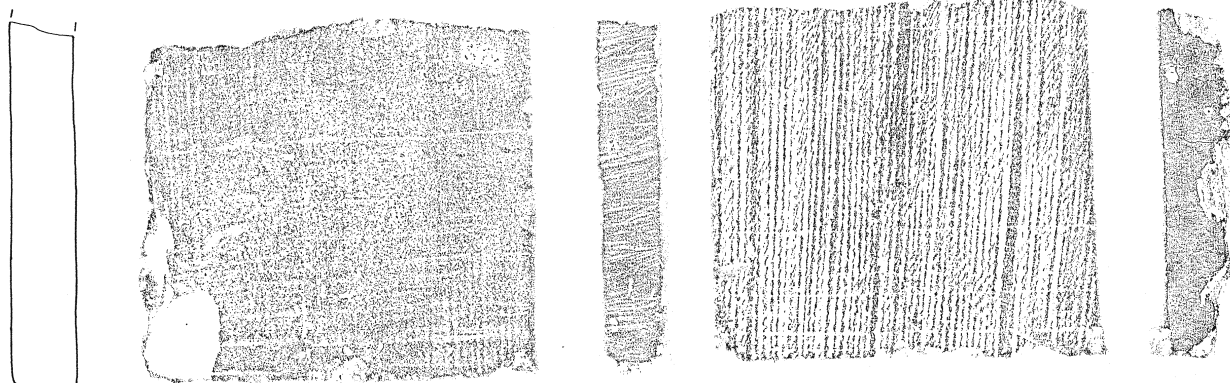
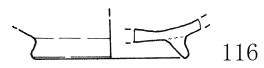
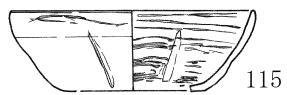
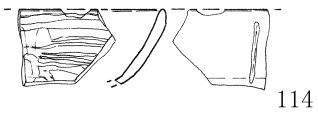
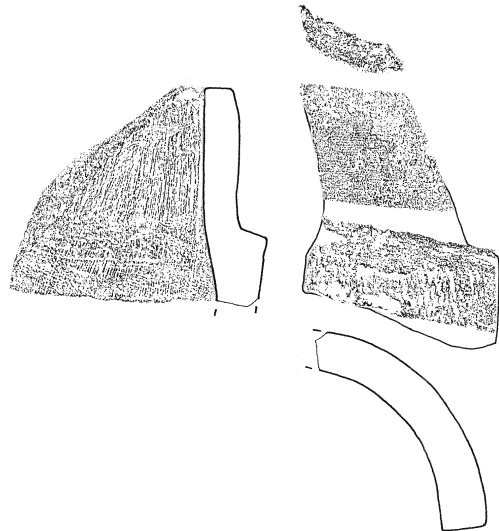
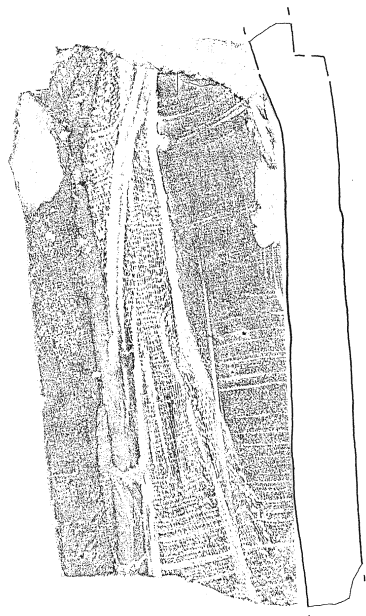


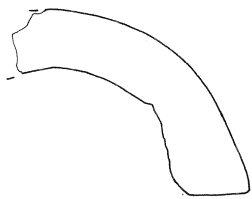
图 117 3 面下~4 面上出土遗物 (4)



117



119



118

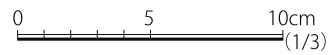


图 118 3 面下~ 4 面上出土遺物 (5)

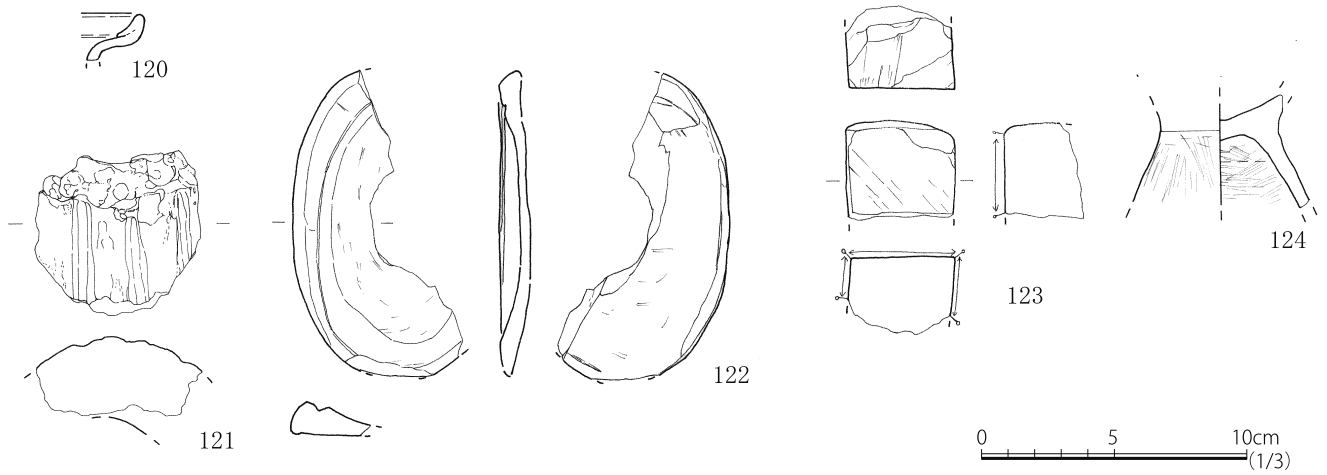


図 119 3 面下～4 面上出土遺物 (6)

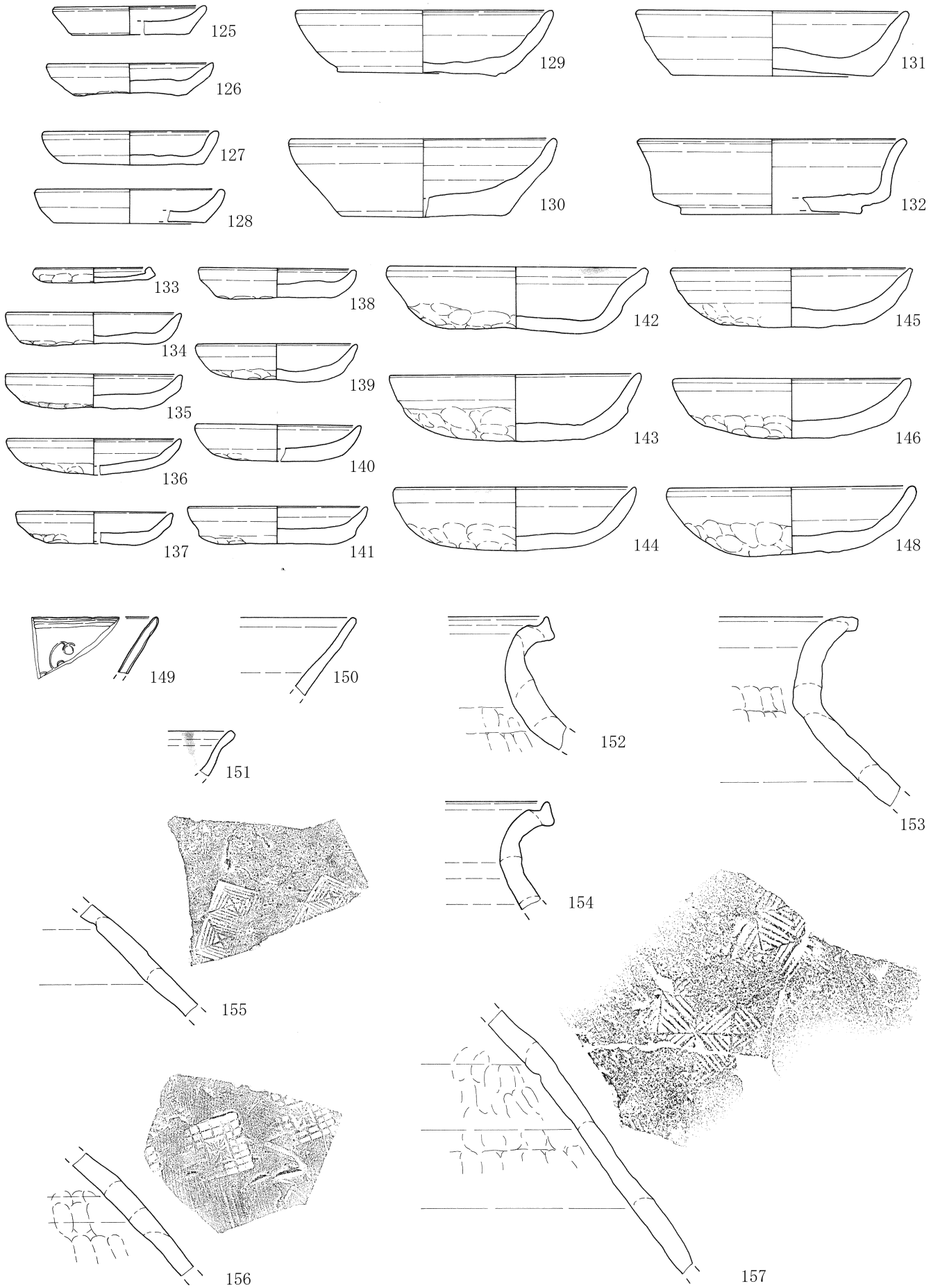
遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		桁 [°]	桁 ^ヲ 状	板状	ス ^コ 状		
7	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.0)	1.9	口小～ 底1/2					橙	白針
8	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.8	1.8	1/2	○		○		黄橙	白針
9	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	7.4	1.8	4/5	○		○		橙	白針
10	土器	ロクロ かわらけ・小	9.5	7.8	1.9	1/3	○				黄灰	白針、粉質
11	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	8.5	2.0	2/3	○		○		黄灰	白針
12	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(6.3)	1.6	1/2	○		○		黄灰	
13	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	(7.4)	2.0	1/3	○		○		黄橙	
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	6.8	2.1	2/3	○		○		黄橙	白針
15	土器	ロクロ かわらけ・小	8.9	7.3	2.1	完形	○		○		橙	白針
16	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(6.8)	2.0	1/4	○		○		橙	白針
17	土器	ロクロ かわらけ・小	—	6.0	[1.1]	底完存	△		○		黄橙	砂質
18	土器	ロクロ かわらけ・小	—	5.5	[1.3]	底完存					橙	砂質
19	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(5.6)	2.0	1/4			○		黄橙	砂質
20	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(7.9)	1.1	1/3	○				黄橙	白針
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	6.0	1.3	3/4	△		○		黄灰	白針
22	土器	ロクロ かわらけ・小	—	4.7	[1.3]	底完存	△				黄灰	白針、砂質
23	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	6.8	2.0	口小～ 底1/2	△				黄橙	白針 口縁部二次加工の可能性有り
24	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	6.2	1.8	口小～ 底完存	○		○		橙	白針、粉質 口縁部に擦痕
25	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	1.7	4/5	○				橙	焼成後に底部穿孔、口唇部打ち欠き
26	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	9.0	3.1	1/2	○		○		黄橙	白針
27	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.1)	(9.8)	3.4	1/3	○		○		黄橙	白針
28	土器	ロクロ かわらけ・大	—	7.4	[2.2]	底完存					橙	白針、砂質
29	土器	ロクロ かわらけ・大	—	7.9	[2.6]	底完存					黄白	砂質 搬入品カ

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サワリ状	板状	スコ状		
図115 3面下～4面上出土遺物(2)												
30	土器	ロクロ かわらけ・大	—	8.1	[2.2]	底完存					黄橙	白針
31	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	9.1	3.6	2/3	○		○		黄灰	雲母
32	土器	ロクロ かわらけ・大	12.2	8.0	3.5	4/5	○		○		黄橙	白針 粘土紐積み上げ痕
33	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	8.8	3.5	4/5	○		○		黄灰	粘土紐積み上げ痕
34	土器	手づくね かわらけ・極小	(5.2)	—	1.3	1/4	△				暗灰	内折れ 白針
35	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	1.6	3/4	○				黄灰	白針
36	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.8	1/3	○				黄灰	白針、やや粉質
37	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	—	1.5	1/4	○				黄橙	白針
38	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	1.8	2/3	○				黄灰	白針
39	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	2.0	完形	○				黄橙	白針、やや粉質
40	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.6	2/3	○				黄灰	やや粉質
41	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	1.7	3/4	△				黄灰	白針
42	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	1.8	3/4	○				黄灰	やや粉質
43	土器	手づくね かわらけ・小	(9.7)	—	1.6	1/4	○				黄灰	粉質
44	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	1.9	完形	△				黄橙	やや粉質 内外面に煤付着
45	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	1.9	完形	○				橙	白針 口縁部に煤付着
46	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	2.0	完形	○				黄橙	
47	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	1.9	完形	○				橙	白針
48	土器	手づくね かわらけ・小	8.3	—	1.8	ほぼ完形	○				橙	白針
49	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.8	1/3	○				黄灰	白針
50	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.8	1/3	○				橙	白針 砂質
51	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	2.2	2/3	△				黄橙	白針、やや粉質
52	土器	手づくね かわらけ・小	(9.5)	—	2.0	1/3	○				黄灰	白針 口縁部に煤付着
53	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	2.0	1/4	○				橙	白針
54	土器	手づくね かわらけ・小	9.5	—	1.9	1/2	○				黄灰	白針、やや粉質
55	土器	手づくね かわらけ・小	(9.5)	—	2.0	1/2 歪み大	○				黄橙	白針、やや粉質
56	土器	手づくね かわらけ・小	9.5	—	2.1	ほぼ完形	○				黄灰	白針 やや粉質
57	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	2.1	3/4	○				橙	白針、やや粉質
58	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	2.1	1/4	○		○		黄橙	雲母、やや粉質
59	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	2.1	2/3	○				黄灰	白針
60	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.3	1/3 歪み大	○				黄灰	白針、やや粉質
61	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	2.3	1/3	○				黄橙	白針
62	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	2.4	3/4	○				黄橙	白針
63	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	2.5	完形	○				橙	白針、粉質 口唇部と内外面に煤付着
64	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.9	2/3	○				黄橙	
65	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.6	1/3	○				黄橙	白針
66	土器	手づくね 白かわらけ・小	(7.9)	—	1.8	1/5	○				乳白	

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	斜ラ状	板状	スコ状		
67	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	1.9	4/5	○				黄灰	白針、粉質 底部外面に擦痕、口縁部に3ヶ所の押捺
図116 3面下～4面上出土遺物(3)												
68	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	3.0	1/3	○		○		橙	白針 口縁注口
69	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	2.8	1/3	○				黄橙	白針 やや粉質
70	土器	手づくね かわらけ・大	12.8	—	3.2	1/2	○				橙	白針
71	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	2.9	1/3	○				黄橙	白針
72	土器	手づくね かわらけ・大	(13.7)	—	3.6	1/3	○				黄橙	白針
73	土器	手づくね かわらけ・大	13.4	—	3.6	1/2	○				黄灰	白針 口唇部に煤付に凹み
74	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	3.5	1/6	○				黄橙	白針、やや粉質
75	土器	手づくね かわらけ・大	(14.2)	—	3.3	1/3	○				黄灰	白針、やや粉質
76	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	(3.3)	1/4	○				黄橙	灯明皿 やや粉質
77	土器	手づくね かわらけ・大	(13.2)	—	3.0	1/3	○		○		橙	白針
78	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	3.1	1/3					黄橙	白針 口唇部煤付着
79	土器	手づくね かわらけ・大	(14.8)	—	3.3	1/3	○		○		黄橙	白針
80	土器	手づくね かわらけ・大	(12.7)	—	3.0	1/3					黄橙	白針
81	土器	手づくね かわらけ・大	13.9	—	3.4	3/4	○				黄橙	白針
82	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	(3.5)	1/3	○				黄灰	
83	土器	手づくね かわらけ・大	(11.1)	—	3.1	1/3	○				黄橙	白針、やや粉質 底部内面煤付着
84	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	—	3.6	2/3	○				黄橙	白針、密
85	土器	手づくね かわらけ・大	12.9	—	4.0	3/4	○				黄灰	やや粉質
86	土器	手づくね かわらけ・大	(12.7)	—	3.9	1/3	○				黄橙	白針、やや粉質
87	土器	手づくね かわらけ・大	13.1	—	3.8	4/5 歪み大	○				黄橙	白針
88	土器	手づくね かわらけ・大	(14.7)	—	3.3	1/3					黄灰	灯明皿 粘土版結合法による成形 白針
89	土器	手づくね かわらけ・大	13.9	—	3.8	3/4	○		○		黄橙	白針、やや粉質 底部内面に凹痕多い
90	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文皿	(10.0)	—	[2.2]	口1/8					薄褐 透明	大宰府1類
91	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文皿	(8.8)	(3.6)	2.2	口1/3					緑灰 透明	大宰府 I-2類
92	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	(16.1)	—	[3.9]	口片1/6～ 体片					緑灰 透明	大宰府 I-2類
93	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.7]	口小片					緑灰 透明	大宰府 I-2類カ
94	磁器	龍泉窯系青磁 無文碗	—	—	[3.7]	口小片					青灰 半透明	大宰府 I-1類カ
95	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.9]	口小片					青白 透明	
96	磁器	白磁 碗	—	(4.7)	[2.4]	底1/3～ 体部					薄青白 不透明	高台接地面～高台内無軸
97	磁器	青白磁 皿	—	—	[1.7]	口小片					白 透明	
98	磁器	青白磁 広口小壺蓋	5.9	天頂径 7.8	1.6	4/5					青白 透明	天頂部に蓮弁文
図117 3面下～4面上出土遺物(4)												
99	陶器	瀬戸 御皿	—	—	[3.1]	口小片					薄緑	口縁～外面に灰釉
100	陶器	常滑 広口壺	(12.6)	—	[3.8]	口1/6					暗茶	長石
101	陶器	常滑 壺	—	(12.6)	[7.5]	底1/3					灰褐	長石
102	陶器	常滑 甕	(26.4)	—	[27.6]	口小～ 胴片					茶褐	長石
103	陶器	常滑 甕	—	—	[7.8]	口小片					灰	長石

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サヲ状	板状	スコ状		
104	陶器	常滑甕	—	—	[7.9]	口小～胴片					明褐灰	
105	陶器	常滑甕	—	—	[7.4]	口小～胴片					暗赤	
106	陶器	常滑甕	—	(15.6)	[6.3]	底1/3					赤褐	長石
107	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[6.1]	口小片					暗灰	長石
108	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	[10.1]	口小～体片					暗褐	長石
109	陶器	渥美壺か	—	—	[6.5]	口小～胴片					黒灰	
110	陶器	渥美壺	—	(9.8)	[5.8]	底1/3					灰	白色粒
111	陶器	渥美甕	—	—	—	胴小片					黒灰	白色粒
112	陶器	渥美甕	—	—	—	体片					灰	黒色粒・黒色粒
113	陶器	渥美甕	—	—	[3.5]	口小片					暗灰	白色粒
図118 3面下～4面上出土遺物(5)												
114	瓦器	坏	—	—	[2.9]	口小片					黒灰	楠葉型カ 115と同一個体カ
115	瓦器	皿	(9.2)	(5.5)	3.0	口1/6					黒灰	楠葉型カ 輪花形 114と同一個体カ
116	土器	吉備系碗	—	(5.8)	[1.5]	底1/3					黄白	白色粒
117	瓦	平瓦	—	幅15.0	厚さ2.4	広端面					暗灰	永福寺女瓦A類 熨斗瓦カ(縦に半裁後、研磨) 黒色粒
118	瓦	丸瓦	—	—	厚さ2.1～2.4	筒部片側面					灰	永福寺男瓦A類 白色粒
119	瓦	丸瓦	—	—	厚さ1.5～1.7	玉縁部片側面					暗灰	永福寺男瓦A類 黒色粒・白色粒
図119 3面下～4面上出土遺物(6)												
120	土器	南伊勢系鍋	—	—	[1.8]	口小片					乳白	
121	土製品	輪の羽口	長さ[5.5]	幅[6.3]	厚さ3.1	鍛冶炉結合部片					暗黒褐	
122	石製品	硯	長さ[11.5]	幅[6.5]	厚さ[1.3]	1/2					灰	楕円硯
123	石製品	砥石	長さ[3.7]	幅4.1	厚さ[2.8]	不明					暗灰	中砥
124	弥生土器	台付甕	—	—	残存高(4.3)	—					黄橙	
図120 3面下～4面上出土遺物(7)												
125	土器	ロクロかわらけ・小	(8.2)	(6.2)	1.6	1/4	○		○		黄橙	白針
126	土器	手づくねかわらけ・小	(9.1)	—	1.6	1/3	○				黄橙	白針
127	土器	ロクロかわらけ・小	9.4	7.7	1.8	完形	○		○		黄橙	白針
128	土器	ロクロかわらけ・小	(10.2)	(8.3)	1.8	1/6	○		○		黄橙	白針
129	土器	ロクロかわらけ・大	13.9	9.2	3.4	ほぼ完形			○		黄橙	白針
130	土器	ロクロかわらけ・大	(14.5)	(9.0)	4.2	1/4	○		○		黄橙	白針
131	土器	ロクロかわらけ・大	(14.7)	(11.0)	3.5	1/3	○				黄橙	
132	土器	ロクロかわらけ・大	(14.5)	(9.8)	4.1	3/4	△				黄橙	白針
133	瓦器	内折れ皿	6.3	—	0.8	3/4					暗灰	
134	土器	手づくねかわらけ・小	9.5	—	1.6	3/4	○				橙	白針
135	土器	手づくねかわらけ・小	9.6	—	1.8	4/5	○				黄橙	白針
136	土器	手づくねかわらけ・小	(9.5)	—	1.9	1/2	○				黄灰	白針
137	土器	手づくねかわらけ・小	(8.4)	—	1.7	1/4	○				黄橙	白針 外面に煤付着
138	土器	手づくねかわらけ・小	8.5	—	1.6	完形	○				橙	白針
139	土器	手づくねかわらけ・小	8.7	—	1.8	4/5	○				黄橙	白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サヲ状	板状	スコ状		
140	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	2.0	1/2	○				黄橙	白針
141	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	2.0	1/4	○				黄橙	白針
142	土器	手づくね かわらけ・大	14.0	—	3.3	完形	○				黄橙	白針 内面に煤付着
143	土器	手づくね かわらけ・大	13.7	—	3.6	1/3	○				黄橙	白針
144	土器	手づくね かわらけ・大	13.1	—	3.4	完形	○				黄橙	白針 内外面に煤付着
145	土器	手づくね かわらけ・大	(12.9)	—	3.2	1/2	○				橙	白針
146	土器	手づくね かわらけ・大	(12.9)	—	3.2	1/2	○				黄灰	白針
148	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	—	3.6	ほぼ完形	○				黄橙	白針
149	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.1]	口小片					灰緑 半透明	大宰府 I-4類
150	陶器	瀬戸 直縁大皿カ	—	—	[4.2]	口小片					灰白	
151	陶器	渥美・湖西型 山茶碗	—	—	[2.5]	口小片					灰	内外煤付着
152	陶器	常滑 甕	—	—	[7.2]	口小～胴 片					明茶褐	4～5型式 長石
153	陶器	常滑 甕	—	—	[10.3]	口小～胴 片					明褐	4～5型式 長石
154	陶器	常滑 甕	—	—	[5.8]	口小～胴 片					暗褐	4型式 長石
155	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					明茶褐	
156	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					明茶褐	
157	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					明茶褐	長石
図121 3面下～4面上出土遺物(8)												
158	陶器	常滑 片口鉢 I 類	(24.6)	(16.6)	10.8	1/4					灰	内面の摩耗顕著
159	陶器	常滑 片口鉢 I 類	—	—	[13.2]	口小～ 底小片					灰	内面の摩耗顕著
160	陶器	渥美 甕	—	—	—	胴片					灰	
161	瓦器	坏	—	—	[2.7]	口小片					暗灰 ～黒	
162	瓦	軒丸瓦	瓦当径 (15.0)	内区幅 11.5	中房径 3.0	瓦当部					灰	額面幅3.0 外区幅2.7 外縁高さ1.2 八葉復弁蓮華文 永福寺YA I カ
163	瓦	軒丸瓦	—	—	厚さ 2.6	瓦当部					灰白	三巴文 永福寺YA II カ
164	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	広端面 片側辺					暗灰	永福寺女瓦A類
図122 3面下～4面上出土遺物(9)												
165	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.7	不明					灰	
166	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.0	筒部					灰	永福寺男瓦A類
167	石製品	滑石鍋転用品 用途不明	長さ 5.9	幅 3.4	厚さ 1.4	不明					灰	加工途中カ 1ヶ所穿孔



0 5 10cm (1/3)

图 120 3 面下~4 面上出土遺物 (7)

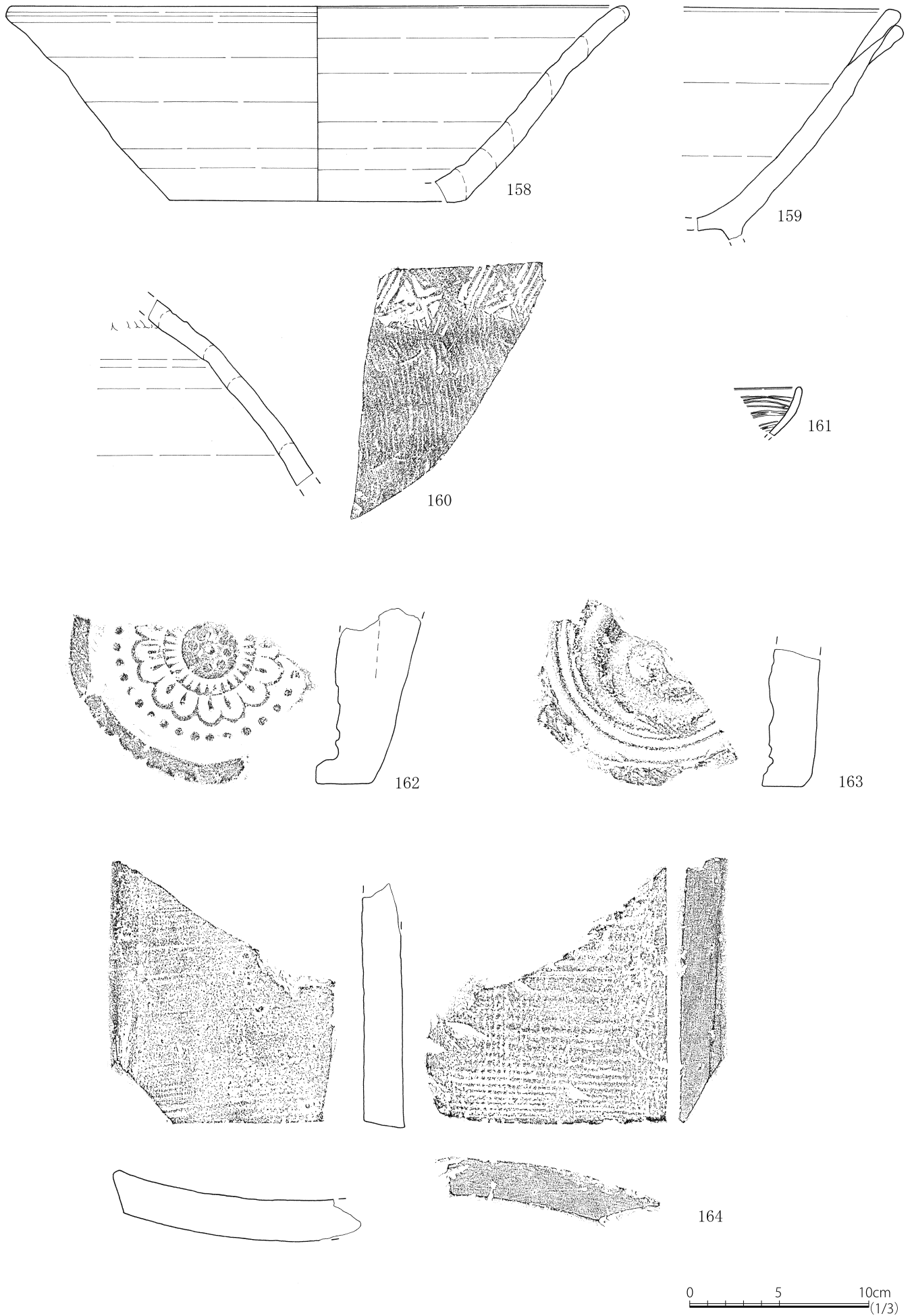


图 121 3 面下~4 面上出土遗物 (8)

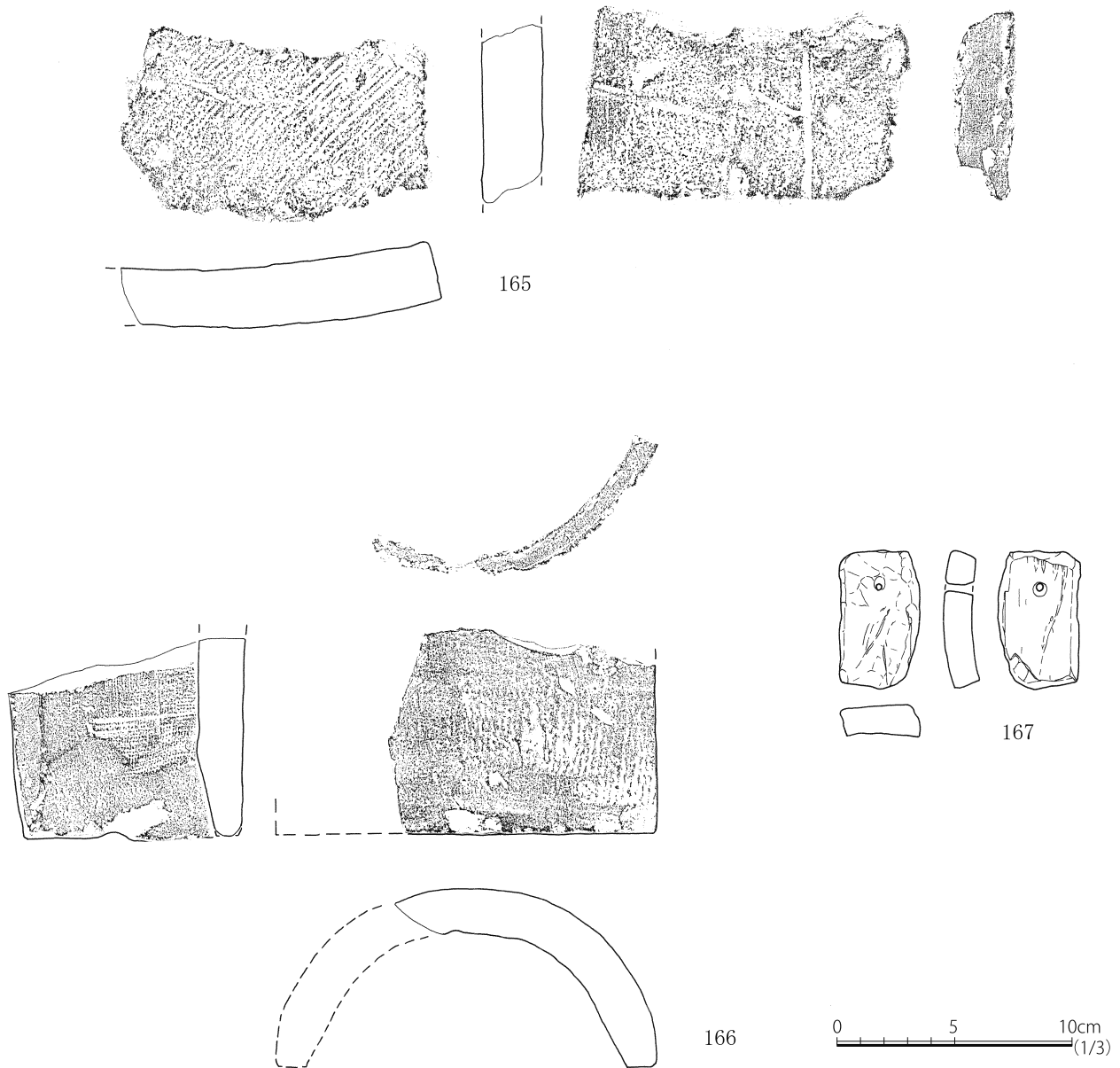


図 122 3 面下～4 面上出土遺物 (9)

第 8 節 4 面の遺構と遺物

4 面の検出遺構 (図 123 ～ 130)

4 面は標高 11.5 ～ 11.7 m で確認された。地点Ⅱの 1 ～ 3 面で継続していた道路状遺構はなく、土坑とピットが多数検出され、整理作業の段階で掘立柱建物 3 棟と柱穴列 3 列を復元するに至った。地点Ⅰでは建物を構成せず、南北の単一方向に延びる柱穴列のみの復元となったが、他に多くのピットも残るので建物が皆無であったとは断言できない。地点Ⅱでの復元建物も可能性の範囲に留まり、確定的とは言えない。

4 面の掘立柱建物 1 は桁行 2 間以上×梁行 2 間の南北棟として復元したが、構成ピットの欠落も多く不確定要素が強い。総柱式の建物となる可能性もある。南北 5.7 m 以上×東西 4.2 m = 約 24 m² 以上と

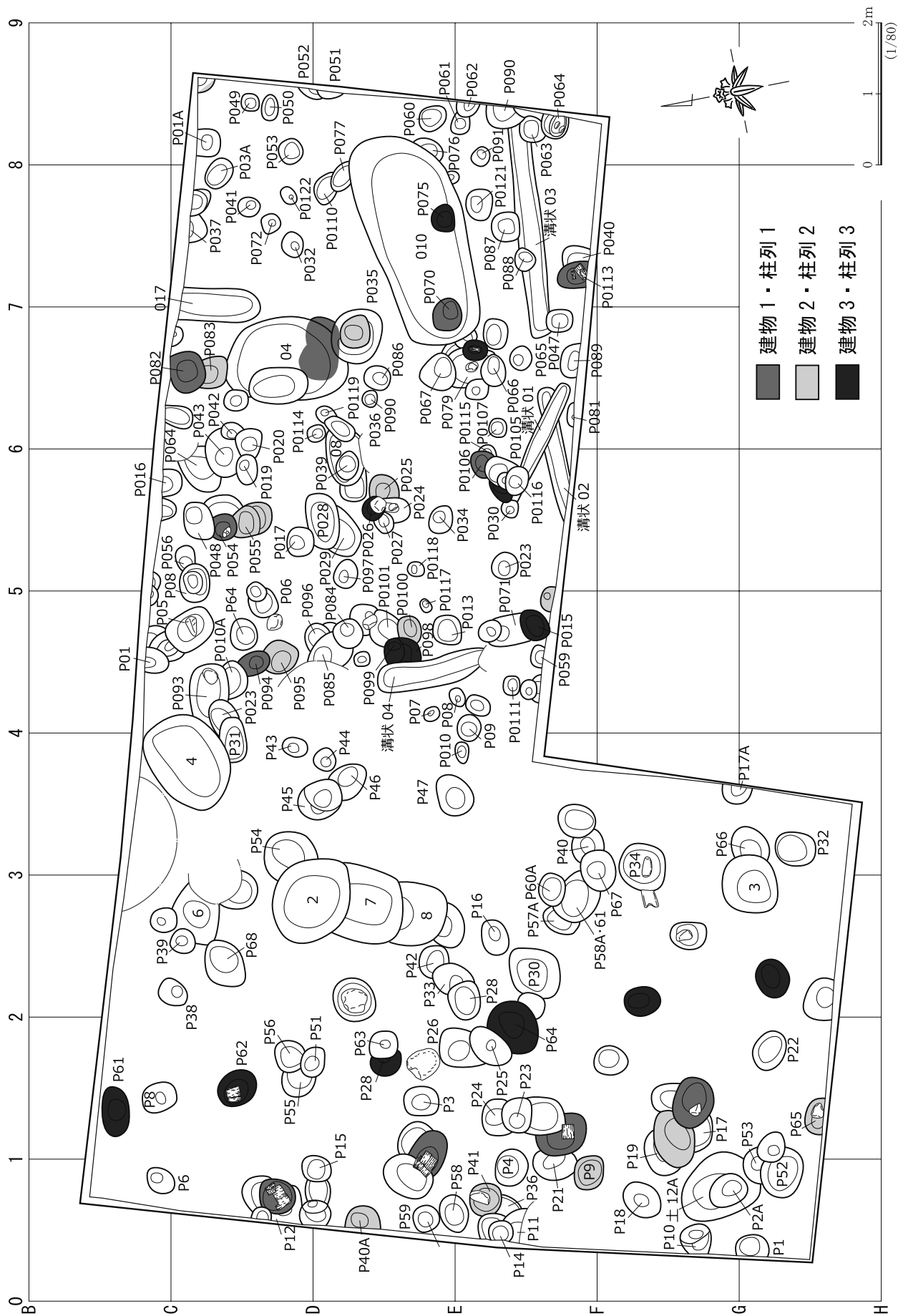


图 123 4面全体图

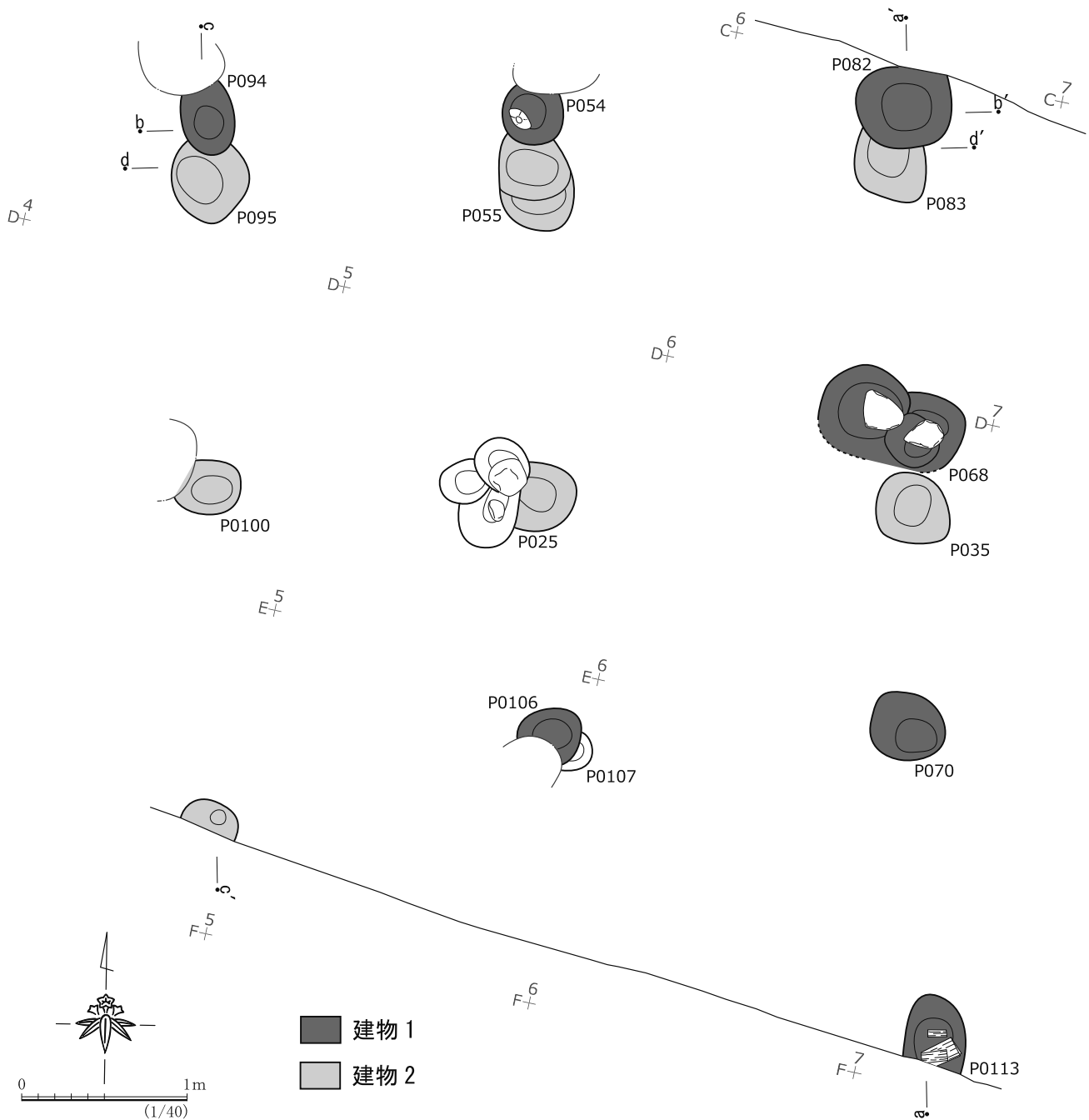


図 124 4面 掘立柱建物1・2平面図

復元した。柱間距離は180～230cmで一定でない。建物の軸線は、 $N2^{\circ}W$ を指す。

掘立柱建物2は建物1と概ね位置が重なり、これに切られるピットを抽出して復元した。桁行が2間以上×梁行2間の総柱式建物として復元し、南北3.9m以上×東西4.2m＝約16.4㎡以上の床面積となる。柱間距離は桁行が190cm前後、梁行が210～220cm前後を測る。建物軸線は概ね真北方向を取る。

掘立柱建物3は東西3間×南北1間で、なお北東側の柱穴2基を持たない形での復元となった。桁行・梁行は不分明で、東西5.9×南北2.1m＝約12.4mを測る。建物の東西軸は $N89^{\circ}E$ を取り、柱間距離は2.0mを基調としていたと考えられる。

柱穴列は3列とも南北方向に展開し、地点I西半部での確認となった。この周辺には多くのピットが分布しているため、さらなる柱穴列、もしくは掘立柱建物が存在していた可能性がある。建物の展開を想定するならば、西側の調査区外にその中心を求めるべきであろう。図127・128には、各列の平面図と断面図を掲げた。

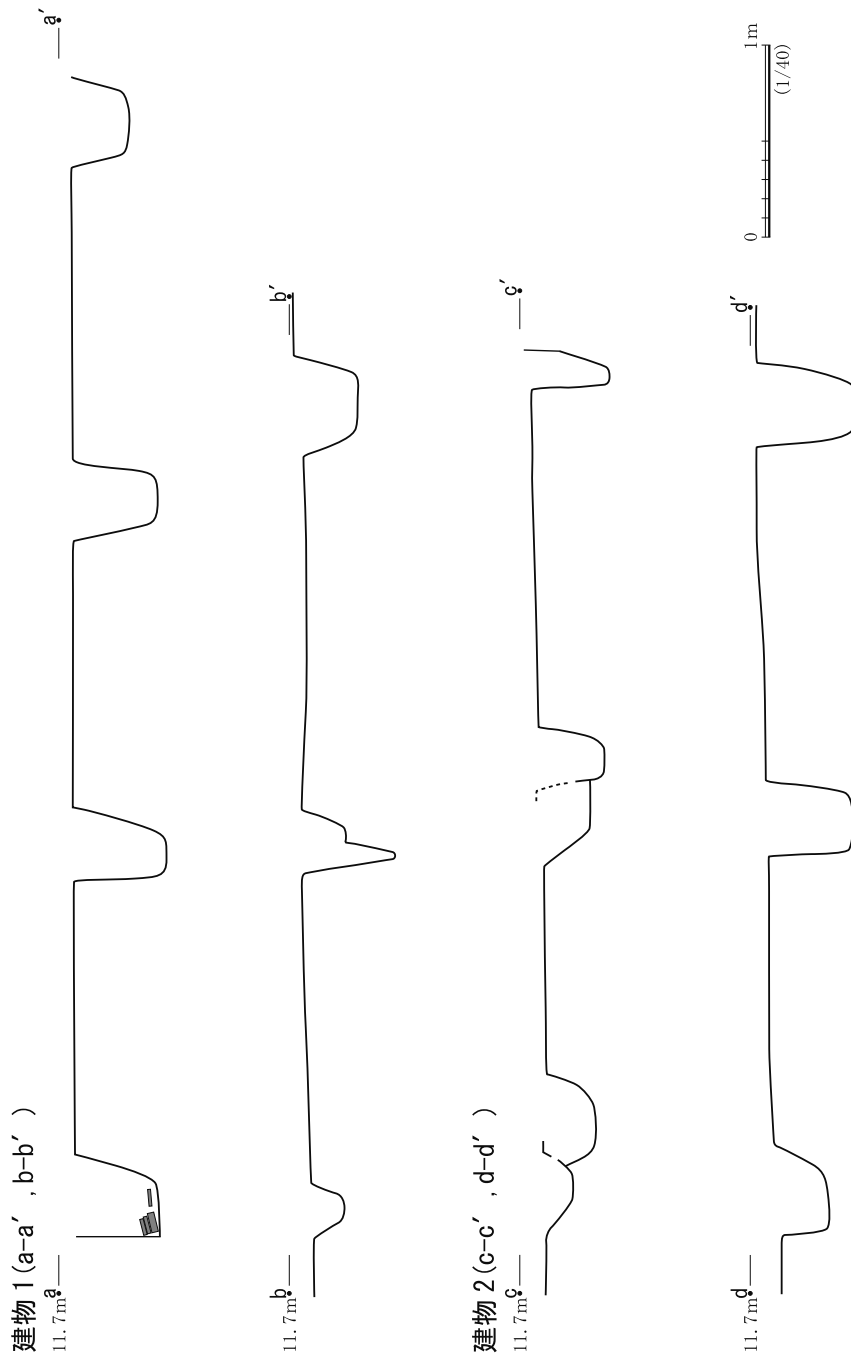


図 125 4面 掘立柱建物1・2断面図

柱穴列1は西側に柱穴列2と接して展開し、一部ピットの切り合い関係から、柱穴列1の方が新しいものと判断された。調査範囲内では3間分6mまでが確認され、柱間距離は概ね200cmと等間隔である。列の中心軸はN2°Eを指し、基本的に真北を意識した規格が取られていたのであろう。3基のピット底に礎板が残っていた。

柱穴列2は列1より古く、調査範囲内では4間分6.7mが検出された。柱間距離は130～200cmまでバラツキが目立ち、明確な規格が見出せない。列の中心軸は、概ね真北方向を指す。

柱穴列3は5間分9.4mを確認し、南北とも調査区外に続く可能性がある。柱間距離は180cm規格であったと見られるが、一部200cm前後の箇所もある。中心軸はN2°Wを指し、基本的には真北を意識した軸線を取っていたものと考えられる。1基のピット底に礎板が残っていた。

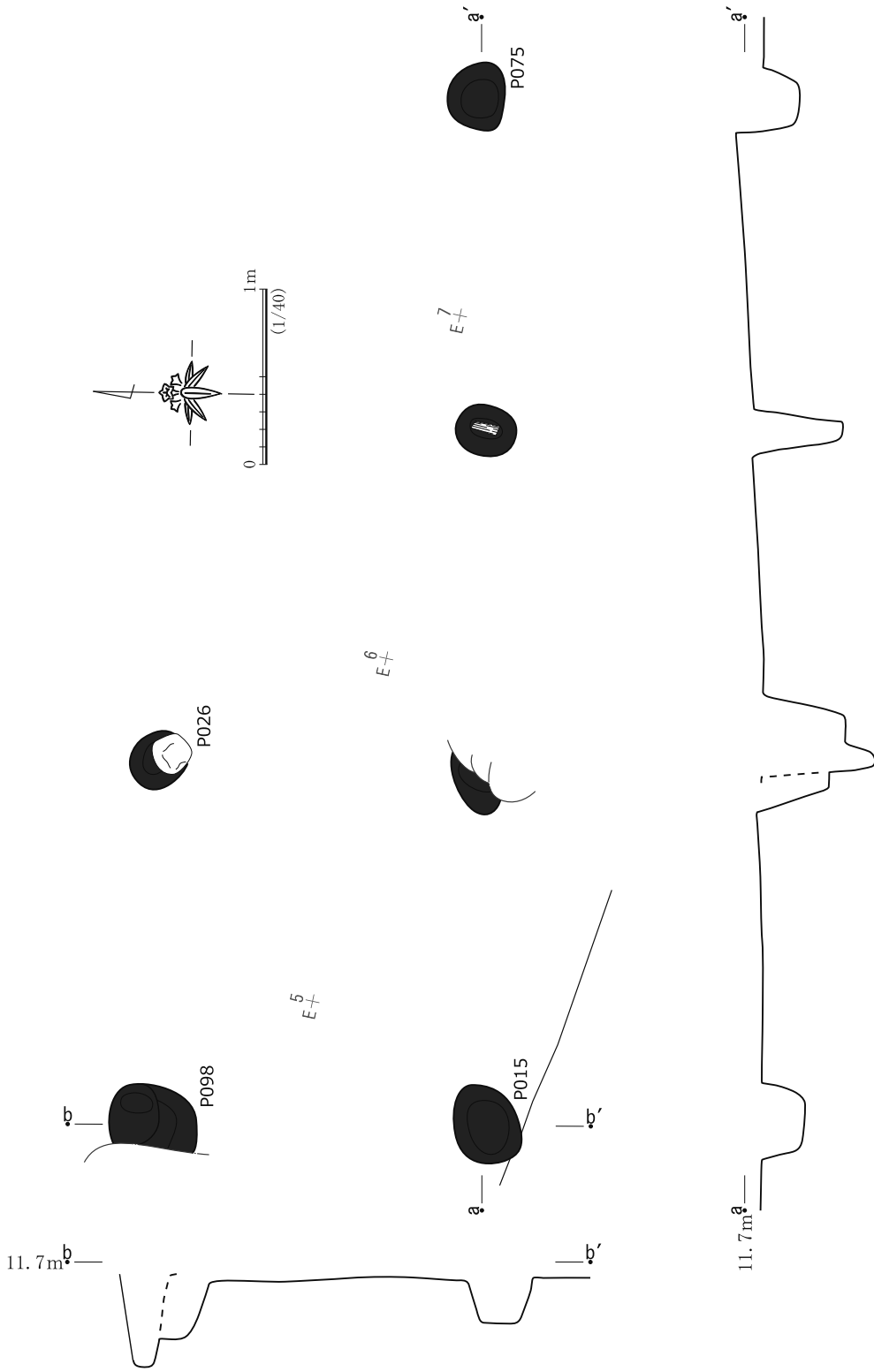
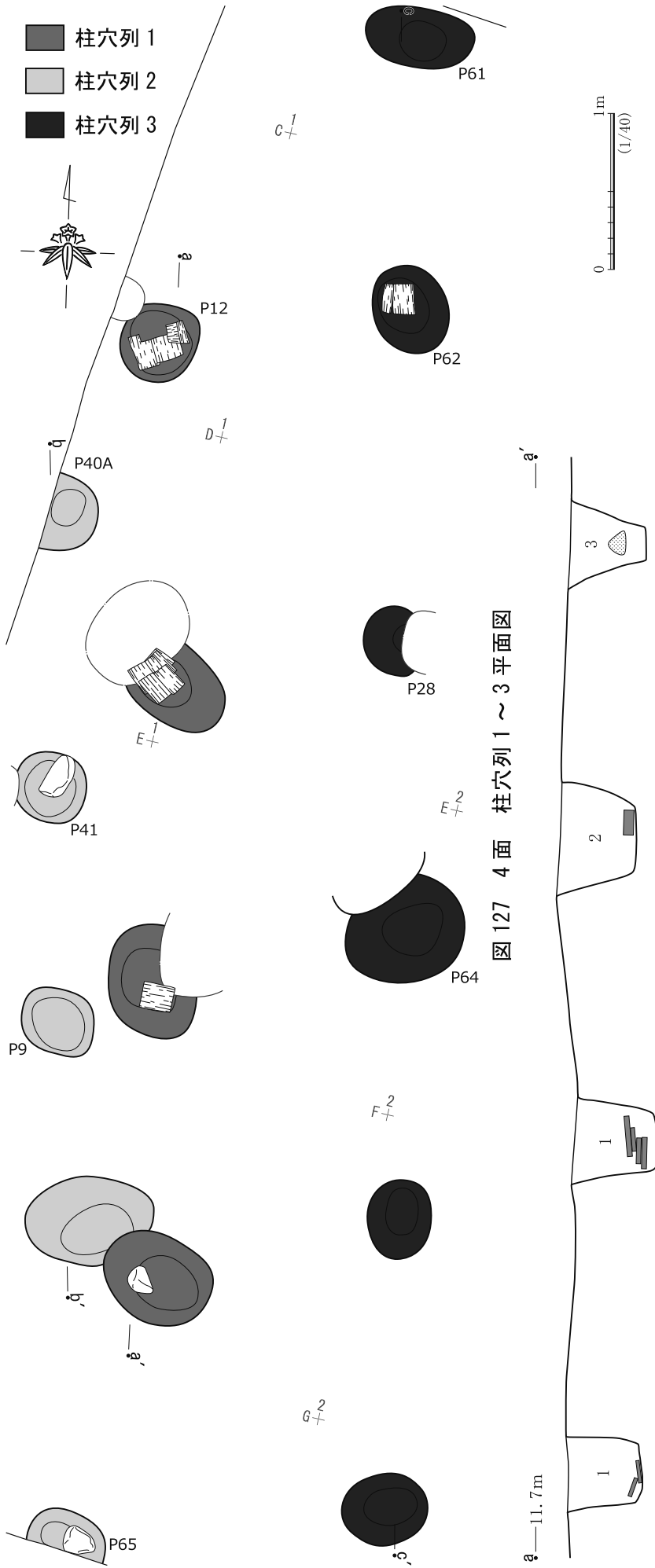
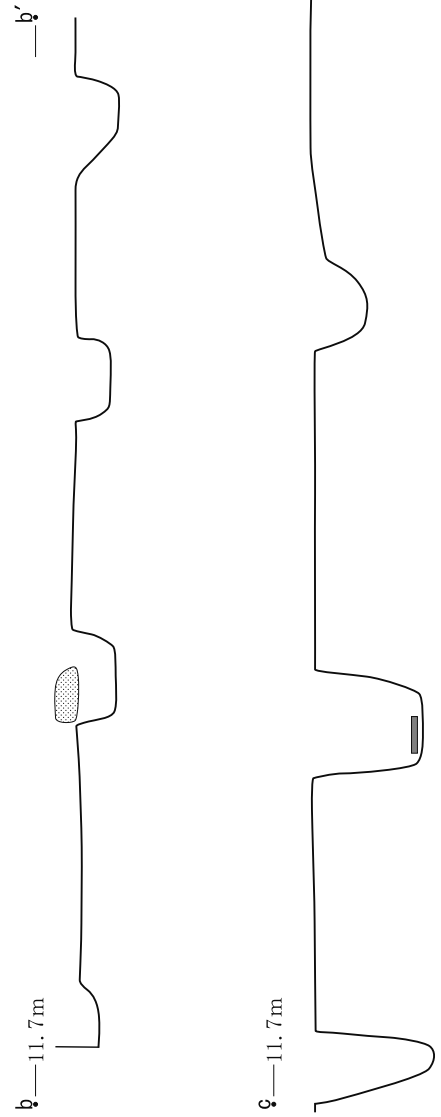


图 126 4 面 掘立柱建物 3



4 面 柱穴列 1 土層説明

- 1 褐色土 粘質土。泥岩粒多量、褐鉄粒少量。縮まりややあり。
- 2 暗褐色土 粘質土。炭粒多量、泥岩粒少量。縮まりなし。
- 3 褐色土 粘質土。泥岩粒、炭粒少量。縮まりややあり。



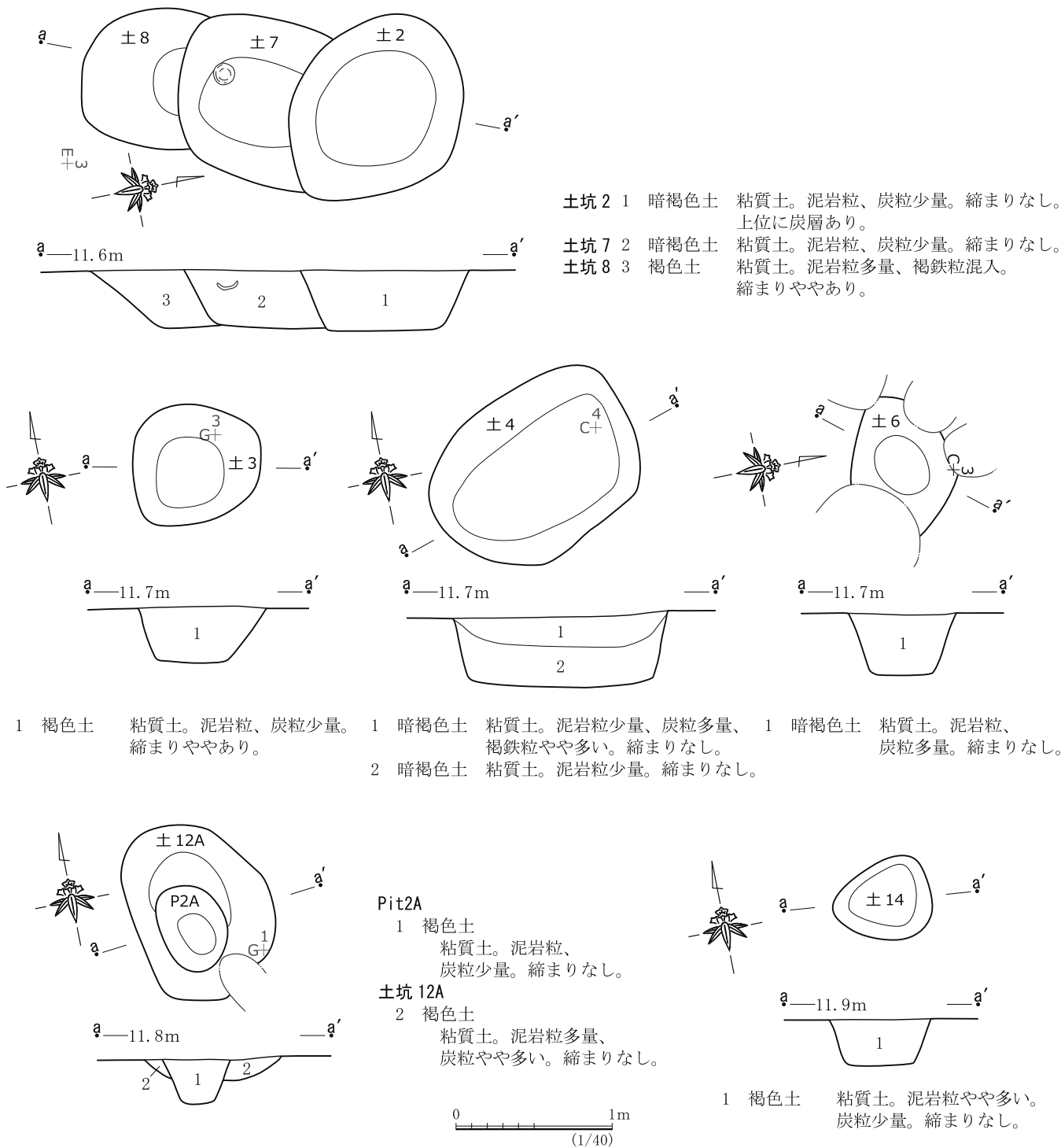
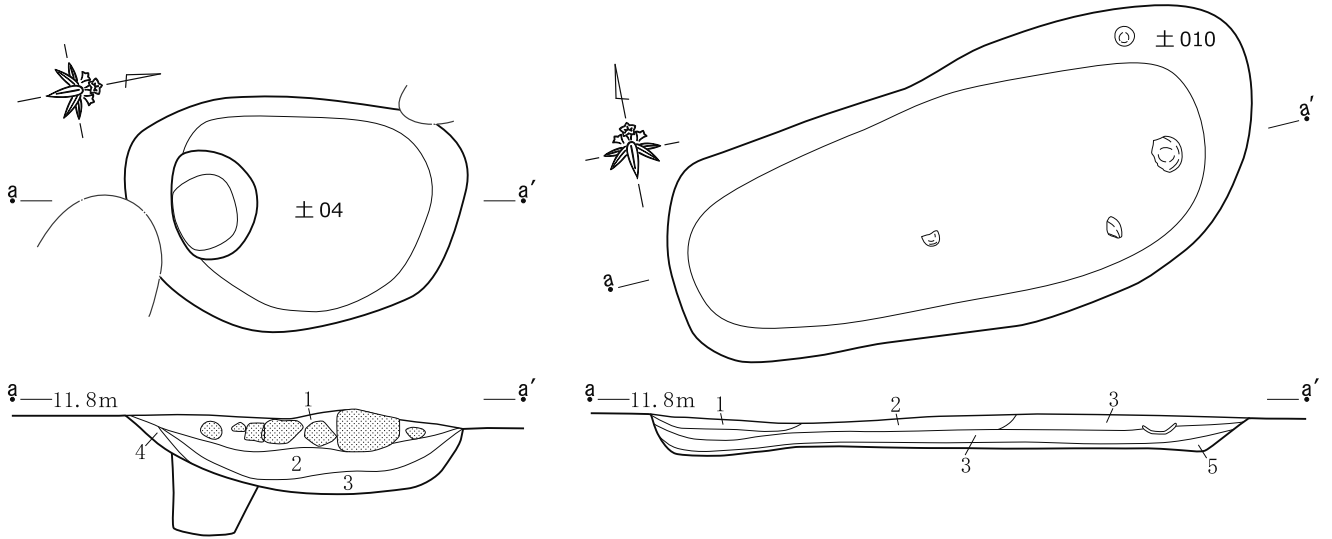


図 129 4面 土坑

表 9 4面直上・4面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	ナヲ状	板状	スコ状		
図131 4面直上・4面遺構出土遺物												
1	瓦	丸瓦	—	幅 17.0	厚さ 2.5	筒部					黒灰	永福寺男瓦A類 白色粒
2	土器	かわらけ質 小壺	—	(6.0)	[2.7]	1/3					黄橙	4面溝状遺構02 白針
3	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.1	1/2	○				橙	4面溝状遺構03 白針
4	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	1.6	1/4					黄橙	4面溝状遺構04 白針



- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗黄褐色土 粘質土。泥岩ブロック多量。縮まりあり。 | 1 赤褐色土 砂質土。焼土多量。縮まりなし。 |
| 2 暗黄褐色土 弱粘質土。泥岩粒多量。縮まりなし。 | 2 炭層 かわらけ片含む。 |
| 3 灰黒色土 粘質土。泥岩粒、粘土ブロック、炭化物で構成。縮まりなし。 | 3 暗黄褐色土 砂質土。泥岩粒、炭ブロック少量。縮まりなし。 |
| 4 暗黄褐色土 砂質土。泥岩粒多量。下位に炭層あり。 | 4 暗黄褐色土 砂質土。泥岩粒多量。下位に炭層あり。 |
| | 5 灰黒色土 粘質土。夾雑物なし。 |

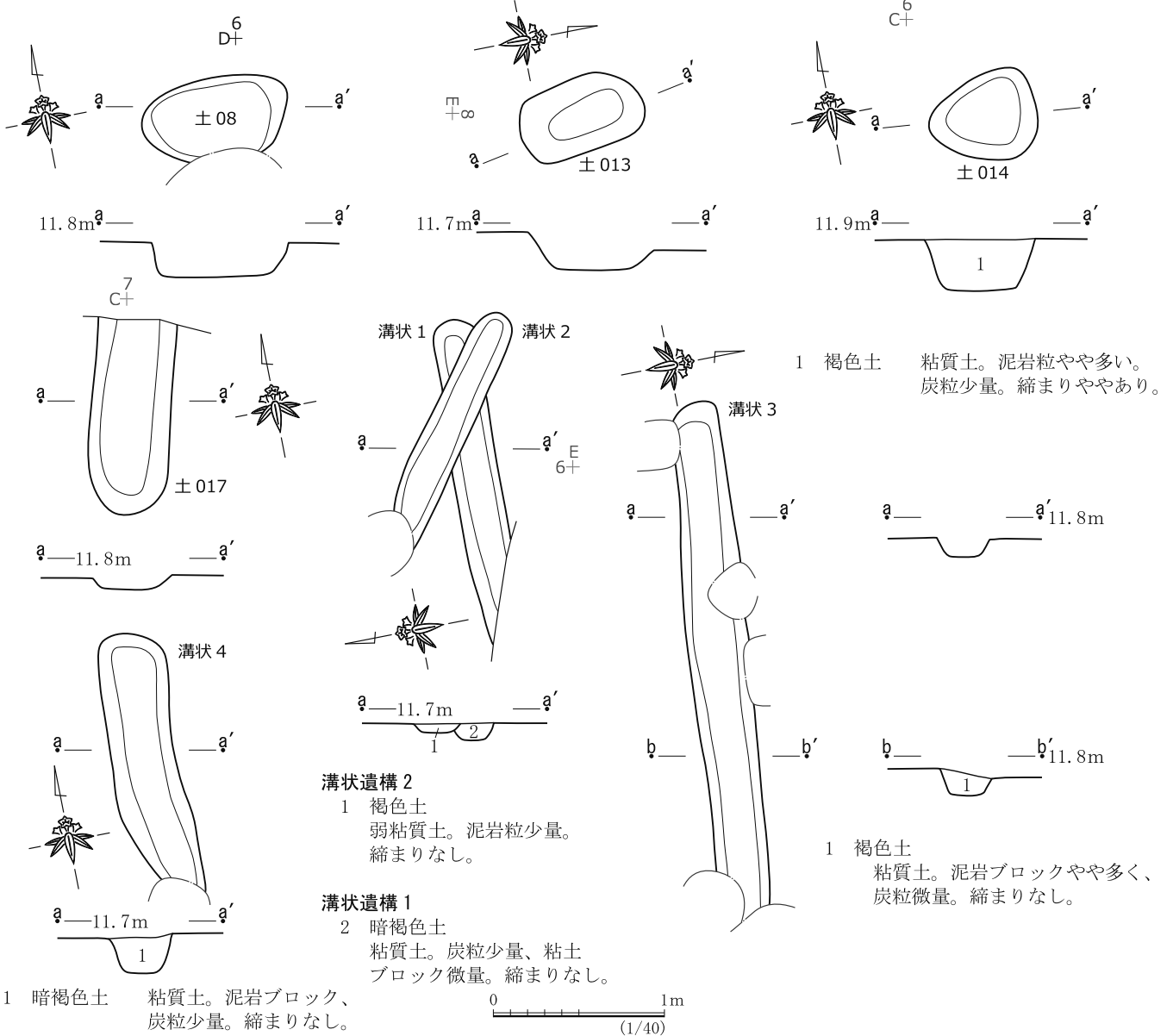


図 130 4面 土坑・溝状遺構

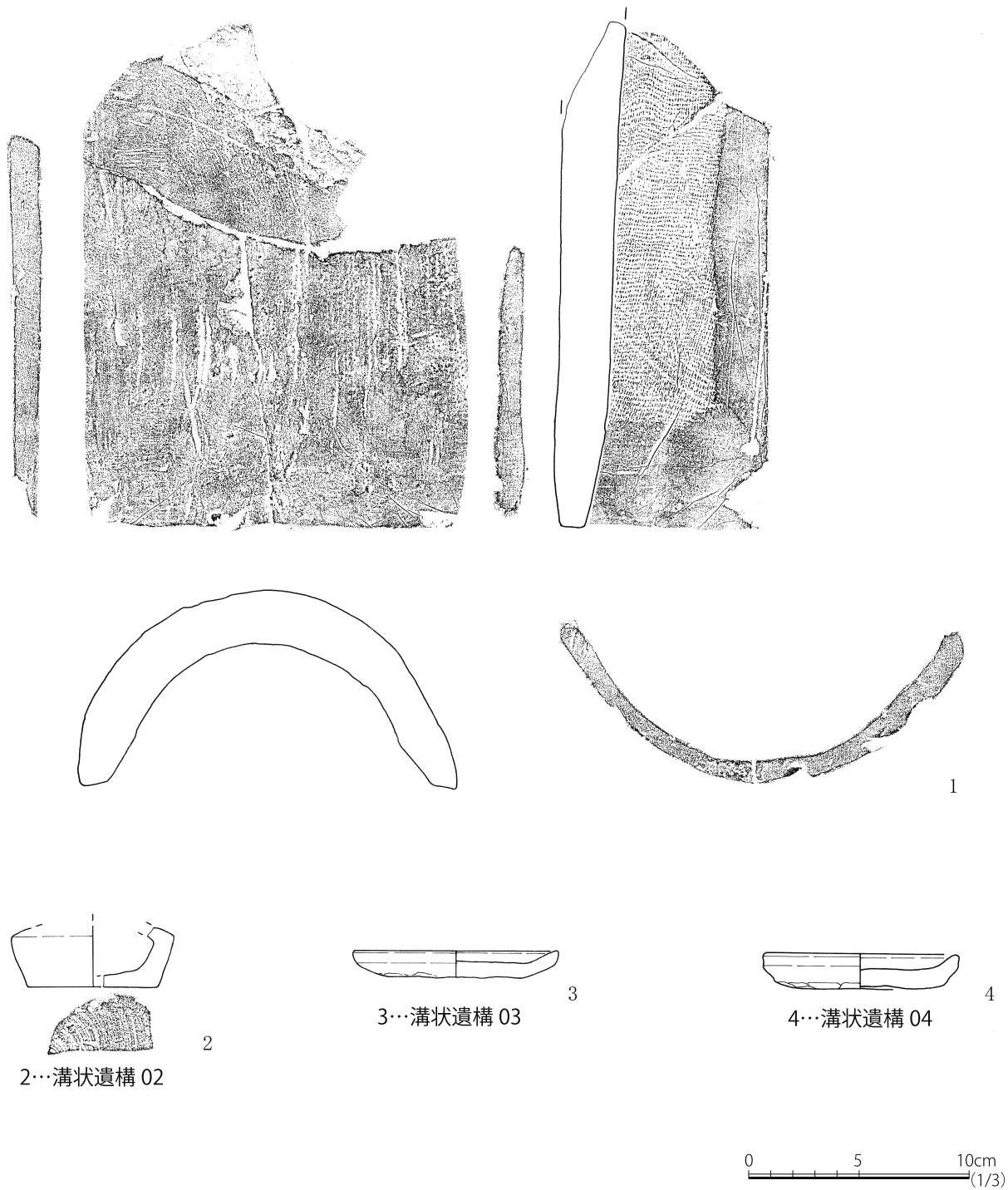


図131 4面直上・4面遺構出土遺物

表10 4面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テラ°	テラ状	板状	スコ状		
図132 4面遺構出土遺物(1)												
1	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	1.6	1/4	○				黄橙	4面土坑1 白針
2	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.6)	(6.2)	2.5	3/4	○		○		黄橙	4面土坑2 白針 底部外面黒色に変色
3	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	1.8	1/2	○				黄橙	4面土坑2 白針
4	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.6	ほぼ完形	○				黄橙	4面土坑2 白針

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サヲ状	板状	スコ状		
5	土器	手づくね かわらけ・小	(9.8)	—	1.8	1/3	○				橙	4面土坑2 白針
6	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	2.0	2/3 歪み大	○				黄橙	4面土坑2 白針、砂質 口縁部に煤付着
7	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	2.5	1/4	○				黄橙	4面土坑2 白針
8	土器	手づくね かわらけ・小	9.8	—	2.8	ほぼ完形	○				黄橙	4面土坑2 白針
9	土器	手づくね かわらけ・大	14.8	—	3.8	完形					黄橙	4面土坑2 白針
10	土器	手づくね かわらけ・大	13.7	—	3.2	ほぼ完形	○				黄橙	4面土坑2 白針
11	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.3	1/3					黄橙	4面土坑2 白針 内面に煤付着
12	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.5	1/2	○				橙	4面土坑2 白針
13	土器	手づくね かわらけ・大	(14.6)	—	3.0	1/4	○				黄灰	4面土坑2 白針
14	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.5	1/2	○				黄橙	4面土坑2 白針
15	土器	手づくね かわらけ・大	13.7	—	3.4	2/3	○		○		黄灰	4面土坑2 白針
16	土製品	かわらけ転用 円盤	長径 5.4	—	厚さ 1.0	完形					黄橙	4面土坑2
17	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.4	広端面 片側辺					灰	4面土坑2 永福寺女瓦A類
18	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	5.8	1.7	2/3 歪み大	○		○		黄橙	4面土坑4 白針 口縁部と底部外面に煤付着
19	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	1.5	ほぼ完形	○				黄橙	4面土坑4 白針
20	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.6	1/3	○				黄橙	4面土坑4 白針 内面黒色に変色
21	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.5	1/4	○				黄橙	4面土坑4 白針
22	土器	手づくね かわらけ・小	10.0	—	1.8	1/2	○				黄橙	4面土坑4 白針

図133 4面遺構出土遺物(2)

23	土器	手づくね かわらけ・小	(10.2)	—	2.1	口小～底 1/2	○				黄橙	4面土坑6 白針
24	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	3.1	1/4	○				黄橙	4面土坑6 白針
25	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	5.5	[2.4]	体片～ 底完存					灰緑 透明	4面土坑6 大宰府1-2類
26	陶器	常滑 甕	—	—	[11.9]	口小～ 胴片					明茶褐	4面土坑6 長石
27	土器	南伊勢系 鍋	—	—	[1.6]	口小片					灰褐	4面土坑6
28	石製品	軽石	長径 7.3	短径 4.8	厚さ 2.5	完形					灰黄	4面土坑6 条痕あり
29	土器	ロクロ かわらけ・小	9.0	6.6	1.6	4/5	○		○		黄橙	4面土坑7、白針
30	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.6	2/3	○				黄灰	4面土坑7、白針
31	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	1.6	4/5					橙	4面土坑7、白針
32	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	1.7	3/4					淡橙	4面土坑7、白針
33	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.9	1/3	○				黄灰	4面土坑7、白針
34	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.9	3/4					黄橙	4面土坑7、白針
35	土器	手づくね かわらけ・小	10.0	—	2.1	ほぼ完形					黄橙	4面土坑7、白針
36	土器	手づくね かわらけ・小	8.9	—	2.3	ほぼ完形					黄橙	4面土坑7、白針
37	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	2.4	4/5	○				黄灰	4面土坑7、白針
38	土器	手づくね かわらけ・大	13.4	—	3.0	完形	○				黄橙	4面土坑7 底部焼成後に穿孔
39	土器	手づくね かわらけ・大	(15.4)	—	3.2	1/6	○				黄灰	4面土坑7、白針
40	土器	手づくね かわらけ・大	(13.0)	—	3.1	1/2	○				黄橙	4面土坑7 白針 口縁部に煤付着
41	土器	手づくね かわらけ・大	(14.8)	—	3.1	口小1/3					黄橙	4面土坑7 白針 口縁部に煤付着

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ ⁺	サヲ ⁺ 状	板状	スコ状		
42	土器	手づくね かわらけ・大	13.6	—	3.2	完形	○				黄灰	4面土坑7 白針 口縁部に煤付着
43	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.2	2/3	○				黄橙	4面土坑7 白針 口縁部に煤付着
44	土器	手づくね かわらけ・大	13.9	—	3.9	3/4	○				黄橙	4面土坑7 白針 口縁部に煤付着
45	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.8)	—	2.1	口小～ 底1/4	○		△		黄灰	4面土坑8
46	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.6	3/4	○				黄灰	4面土坑04 白針
47	土器	手づくね かわらけ・小	(9.7)	—	2.0	1/4	○				黄橙	4面土坑04 白針
48	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.5)	(9.1)	3.2	1/4	○		○		黄灰	4面土坑04 白針
49	土器	ロクロ かわらけ・小	9.3	7.3	2.0	3/4	○		○		橙	4面土坑010 白針
50	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(7.2)	1.5	1/4	○		○		黄橙	4面土坑010 白針
51	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.6)	7.0	1.5	2/3	○		○		黄灰	4面土坑010 白針
52	土器	手づくね かわらけ・小	9.6	—	2.1	完形	○				黄橙	4面土坑010 白針
53	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	—	3.1	1/3	○				黄灰	4面土坑010 白針 内外面黒色に変色
54	土器	手づくね かわらけ・大	13.1	—	3.2	1/2	○				橙	4面土坑010
55	土器	手づくね かわらけ・大	13.7	—	3.5	4/5	○				黄灰	4面土坑010 白針
56	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	1.7	2/3	○				黄灰	4面土坑016 白針 口縁部全体に煤付着
57	陶器	常滑 片口鉢I類	—	—	[4.8]	口小片					明灰	4面土坑016

図134 4面遺構出土遺物(3)

58	磁器	同安窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.3]	口小片					ナテ ⁺ 透明	4面P3 大宰府I類
59	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.6]	口小片					灰 ナテ ⁺	4面P8 大宰府I-2類
60	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	—	3.6	1/3	○				黄橙	4面P9 白針
61	石製品	滑石鍋転用品 温石	長さ 8.6	幅 14.5	厚さ 1.7	一部欠損					黒灰	4面P9
62	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.0	1/6	○				黄橙	4面P10 白針
63	磁器	青白磁 合子蓋	—	—	[1.6]	体小片					青白 透明	4面P11
64	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(6.8)	1.4	口小～ 底1/3	○		○		橙	4面P12 白針
65	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片					暗灰	4面P13 長石
66	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.0	1/3	○				黄灰	4面P14
67	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	片側辺					黒灰	4面P14 永福寺女瓦A類
68	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	—	2.0	1/2弱	○				橙	4面P16 白針
69	磁器	白磁 端反碗	—	—	[1.7]	口小片					褐白	4面P17 大宰府V類
70	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(5.4)	1.9	1/4					黄灰	4面P18
71	土器	手づくね かわらけ・小	9.1	—	2.0	4/5	○				黄橙	4面P18 底部焼成後に穿孔
72	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.4	筒部 片側面					灰色	4面P19 永福寺男瓦A類

図135 4面遺構出土遺物(4)

73	磁器	青白磁 合子身	—	—	[1.4]	口小片					灰白	4面P20 蓋受け部無釉
74	瓦	平瓦	—	—	厚さ 1.9	広端面 片側辺					灰	4面P21 永福寺女瓦A類
75	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.7	1/4	○				黄灰	4面P22 白針
76	磁器	白磁 壺類	—	—	—	胴小片					褐白	4面P22
77	土器	手づくね かわらけ・小	(9.8)	—	2.8	1/4	○				黄灰	4面P25
78	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.1	狭端面 片側辺					暗灰	4面P26 永福寺女瓦A類

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		テラ	テラ状	板状	スコ状		
79	土器	手づくね かわらけ・大	(13.7)	—	2.7	1/3	○				黄灰	4面P28 白針、粉質
80	土器	手づくね かわらけ・小	(11.7)	—	[3.2]	1/4	○				黄灰	4面P33 白針
81	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.9)	(4.0)	2.1	—	○		○		黄灰	4面P34 白針、砂質
82	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.6	1/2弱	○				黄橙	4面P34
83	陶器	尾張型カ 小皿	—	(5.6)	[1.4]	底1/4					明灰	4面P34 白色粒 外底面に墨書「上」
84	磁器	白磁 櫛搔文端反碗	—	—	[3.7]	口小片					緑白 透明	4面P35 大宰府V-4aカb類 外面回転ケズリ、内面に櫛搔文
85	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	2.0	1/2 歪み大	○				黄灰	4面P37
86	土器	手づくね かわらけ・小	(7.8)	—	1.9	1/4	○				黄灰	4面P38 白針
87	土器	手づくね かわらけ・大	(15.8)	—	3.1	1/4	○				黄橙	4面P38 白針 口縁部に擦痕・内底面に条痕
88	陶器	渥美 壺	—	—	2.4	口小片					黒褐	4面P41
89	土器	手づくね かわらけ・大	13.3	—	3.0	2/3	○				黄灰	4面P42 白針
90	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	1.8	1/2弱	○				黄灰	4面P45 白針
91	土器	手づくね かわらけ・小	(9.6)	—	2.2	1/3	○				黄橙	4面P46 白針
図136 4面遺構出土遺物(5)												
92	土器	手づくね かわらけ・大	14.0	—	3.4	1/2	○				黄灰	4面P52 白針
93	土器	手づくね かわらけ・大	(14.0)	—	3.8	1/6	○				黄灰	4面P52 白針
94	土器	手づくね かわらけ・大	(14.6)	—	3.6	1/4	○				黄灰	4面P52 口縁部内外面に煤付着
95	土器	手づくね かわらけ・大	(13.1)	—	3.3	1/3	○				黄灰	4面P52 雲母、白針
96	磁器	白磁 碗	—	—	[2.8]	体小片					灰白 透明	4面P52
97	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴小片					暗灰	4面P52 長石
98	土器	ロクロ かわらけ・小	—	(6.2)	[2.4]	底1/2	○		○		黄灰	4面P53 内外面～割れ口に煤付着
99	土器	手づくね かわらけ・小	(9.3)	—	1.7	1/4					橙	4面P53
100	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.3	2/3	○				黄灰	4面P53
101	土器	手づくね かわらけ・小	—	—	[2.0]	1/4					黄灰	4面P53 内面に煤付着
102	陶器	渥美 壺	—	—	[3.5]	口小片					暗灰	4面P53 白色粒、砂質
103	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.6]	底小片					褐	4面P53 白色粒 内面摩耗
104	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	4.2	1.7	口小～ 底完存	○		○		橙	4面P54 白針 内外面に煤付着
105	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.3]	口小片					灰サテ 透明	4面P56 大宰府Ⅰ-4類
106	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	1.5	1/3	○				黄灰	4面P60 白針、やや粉質
107	土器	ロクロ かわらけ・小	9.7	—	1.6	3/4	○		○		黄灰	4面P61
108	土器	手づくね かわらけ・大	(13.6)	—	2.9	1/3	○				黄灰	4面P61 白針
109	土器	手づくね かわらけ・小	(13.3)	—	4.2	1/4	○				黄灰	4面P61 白針
110	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	—	[2.4]	体小片					浅 サテ	4面P61 大宰府Ⅰ-1類
111	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.1]	体小片					サテ	4面P61 大宰府Ⅰ-1類
112	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[2.4]	口小片					灰	4面P61
113	陶器	渥美・湖西型 山茶碗	—	7.3	[3.9]	底4/5					灰	4面P61 高台に靱殻圧痕 内外面～割れ口黒変
114	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(5.5)	1.8	1/4	○		○		黄橙	4面P63
115	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.8	1/4	○				黄灰	4面P63 口縁内面擦痕

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	サテ状	板状	スコ状		
116	磁器	同安窯系青磁碗	—	—	[1.5]	口小片					オリーブ 透明	4面P63 大宰府Ⅲ類カ
117	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	[3.7]	体小片					オリーブ 透明	4面P63 大宰府Ⅰ-2類
118	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(6.6)	1.7	1/4	○		○		黄橙	4面P64 白針
119	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.7	1/4					黄灰	4面P66 白針、白針
120	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	[3.0]	口小片					灰 オリーブ	4面P66 大宰府Ⅰ-2類
121	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.0)	(7.8)	3.3	1/3	○		○		橙	4面P67 砂質、白針
122	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	[3.0]	口小片					オリーブ 透明	4面P68 大宰府Ⅰ-2類
123	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	—	[2.6]	口小片					青灰 透明	4面P68 大宰府Ⅰ類
124	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	—	—	口小片					灰オリーブ	4面P69
125	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	—	口小片					オリーブ 透明	4面P69 大宰府Ⅰ-3類カ
126	磁器	白磁碗	—	5.0	—	体～ 底完存					灰白 透明	4面P69 端反碗・大宰府Ⅴ-4類カ

図137 4面遺構出土遺物(6)

127	土器	ロクロ かわらけ・小	8.6	7.4	2.1	4/5	○		○		黄灰	4面P03
128	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.5)	2.0	1/6	○		○		黄灰	4面P05
129	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.6)	2.2	1/6	○		○		黄橙	4面P05
130	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	(6.0)	2.4	口小～ 底1/2	○		○		黄橙	4面P031 砂質
131	土器	手づくね かわらけ・大	(15.5)	—	3.1	1/4	○				黄灰	4面P031
132	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.1	1.8	3/4	○		○		黄橙	4面P035
133	土器	手づくね かわらけ・大	(13.8)	—	3.5	1/3					黄橙	4面P035 白針 口縁下の内外面に煤付着
134	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	2.1	1/2	○				黄灰	4面P045
135	瓦質土器	皿	—	—	[0.9]	口小片					灰	4面P055
136	陶器	渥美甕	—	—	[5.5]	口小～ 胴片					暗灰	4面P055 白色粒 4面P075-142と同一個体
137	陶器	常滑甕	—	—	[2.3]	口小片					茶	4面P059 白色粒
138	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.5	1/3					黄灰	4面P060 白針 体部内面に工具痕 内外面煤付着
139	瓦	丸瓦	—	幅 15.0	厚さ 2.1	筒部					暗灰	4面P067 永福寺男瓦A類
140	磁器	龍泉窯系青磁碗	—	5.1	[2.7]	体片～ 3/4底存					灰オリーブ 透明	4面P072 大宰府Ⅰ-1類
141	土器	手づくね かわらけ・小	(8.0)	—	1.6	1/3	○				黄橙	4面P074 白針 外面一部黒色に変色
142	陶器	渥美甕	—	—	[6.1]	口小～ 胴片					暗灰	4面P075 白色粒 4面P055-136と同一個体カ
143	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	8.7	3.0	3/4	○		○		黄灰	4面P078 白針
144	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	(6.5)	1.8	1/4	○		○		橙	4面P082 白針 口唇部に煤付着
145	土器	手づくね かわらけ・小	8.4	—	1.8	完形	○				橙	4面P083 白針 底部内面黒色に変色
146	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	(7.1)	1.5	1/4	○		○		黄橙	4面P084 白針 底部外面に黒色の付着物
147	土器	手づくね かわらけ・小	9.2	—	1.9	完形	○				黄灰	4面P085 白針
148	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.0)	(6.2)	1.8	1/4	○				橙	4面P085 白針
149	磁器	龍泉窯系青磁劃花文碗	—	—	[3.2]	口小片					灰オリーブ 透明	4面P085 大宰府Ⅰ-2類
150	陶器	渥美甕	—	—	[3.8]	口小片					緑黒	4面P093
151	土器	ロクロ かわらけ・大	—	(8.2)	[1.6]	1/4	○		○		黄橙	4面P099 白針 焼成前に非貫通の穿孔
152	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	1.5	1/3	○				黄灰	4面P0100 白針、砂質

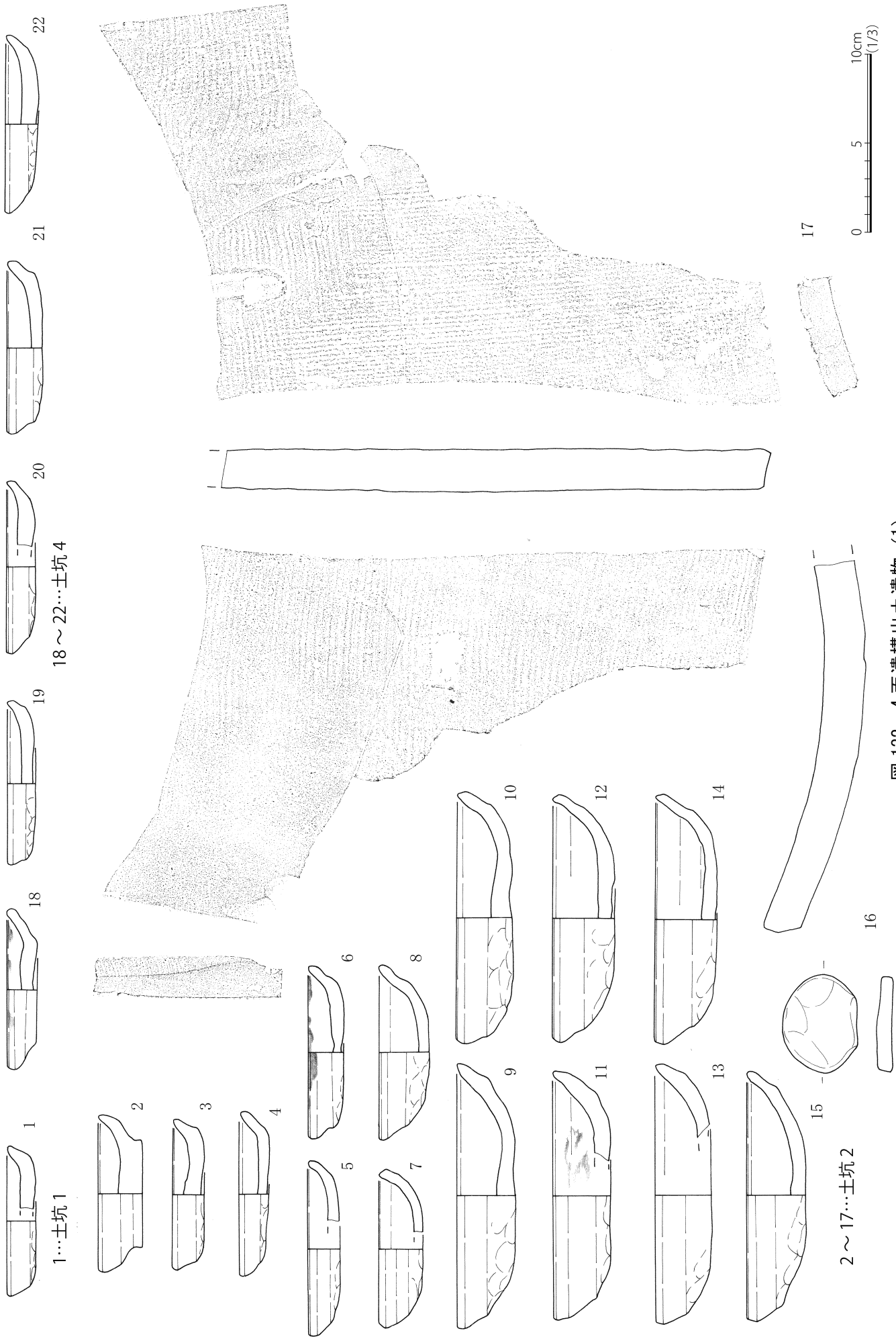


图 132 4面遺構出土遺物 (1)

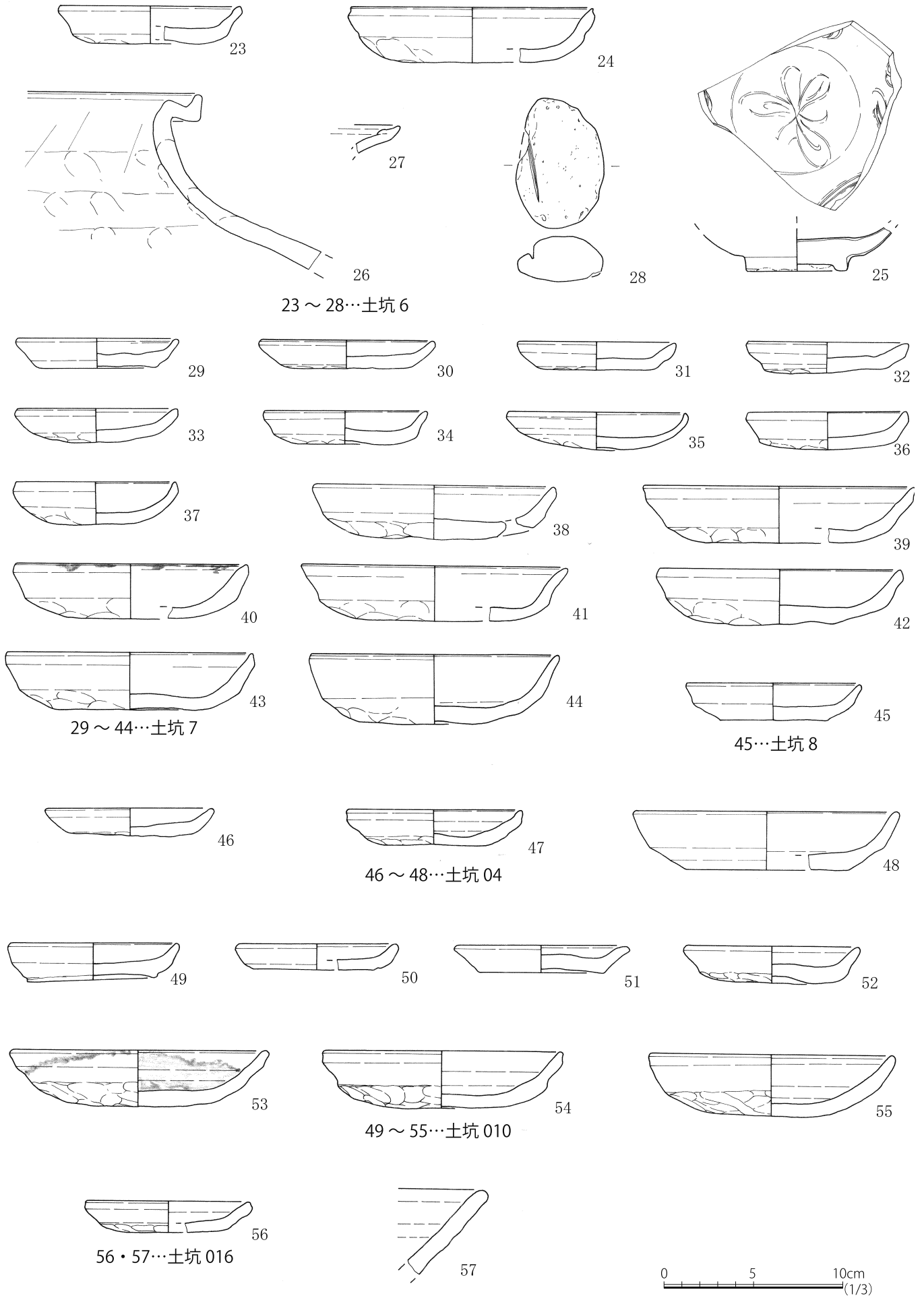


图 133 4 面遺構出土遺物 (2)

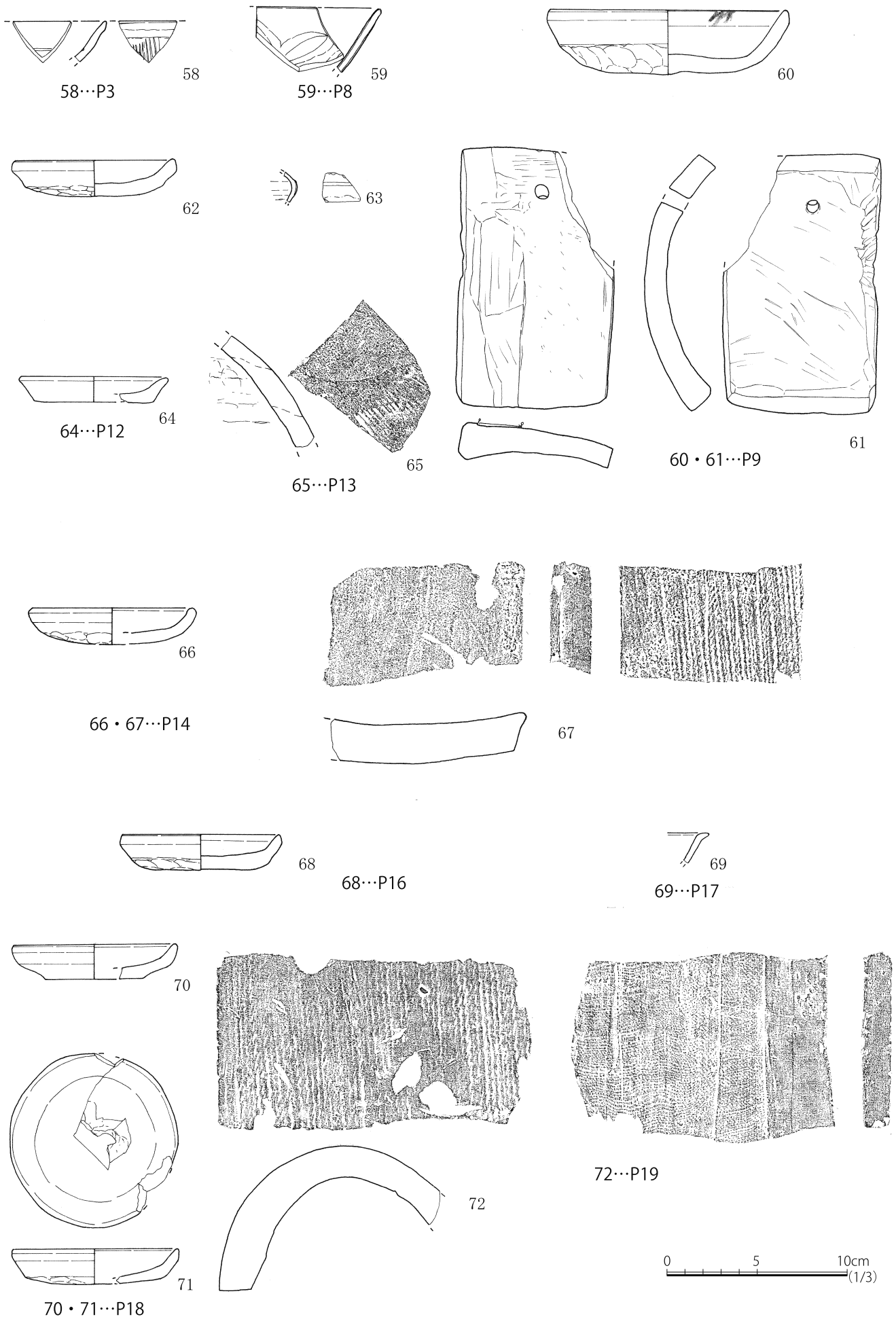


图 134 4面遺構出土遺物 (3)

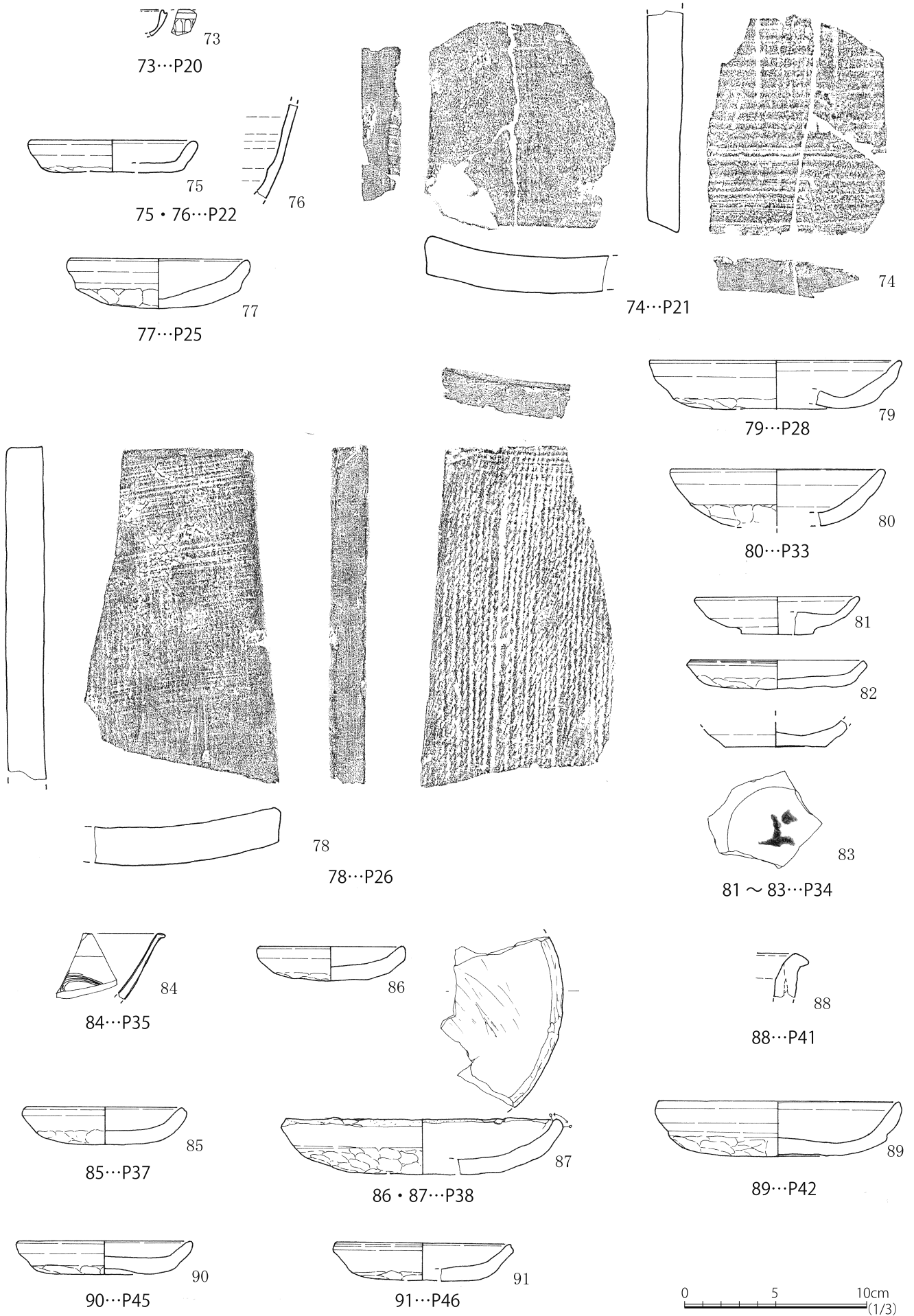


图 135 4面遺構出土遺物 (4)

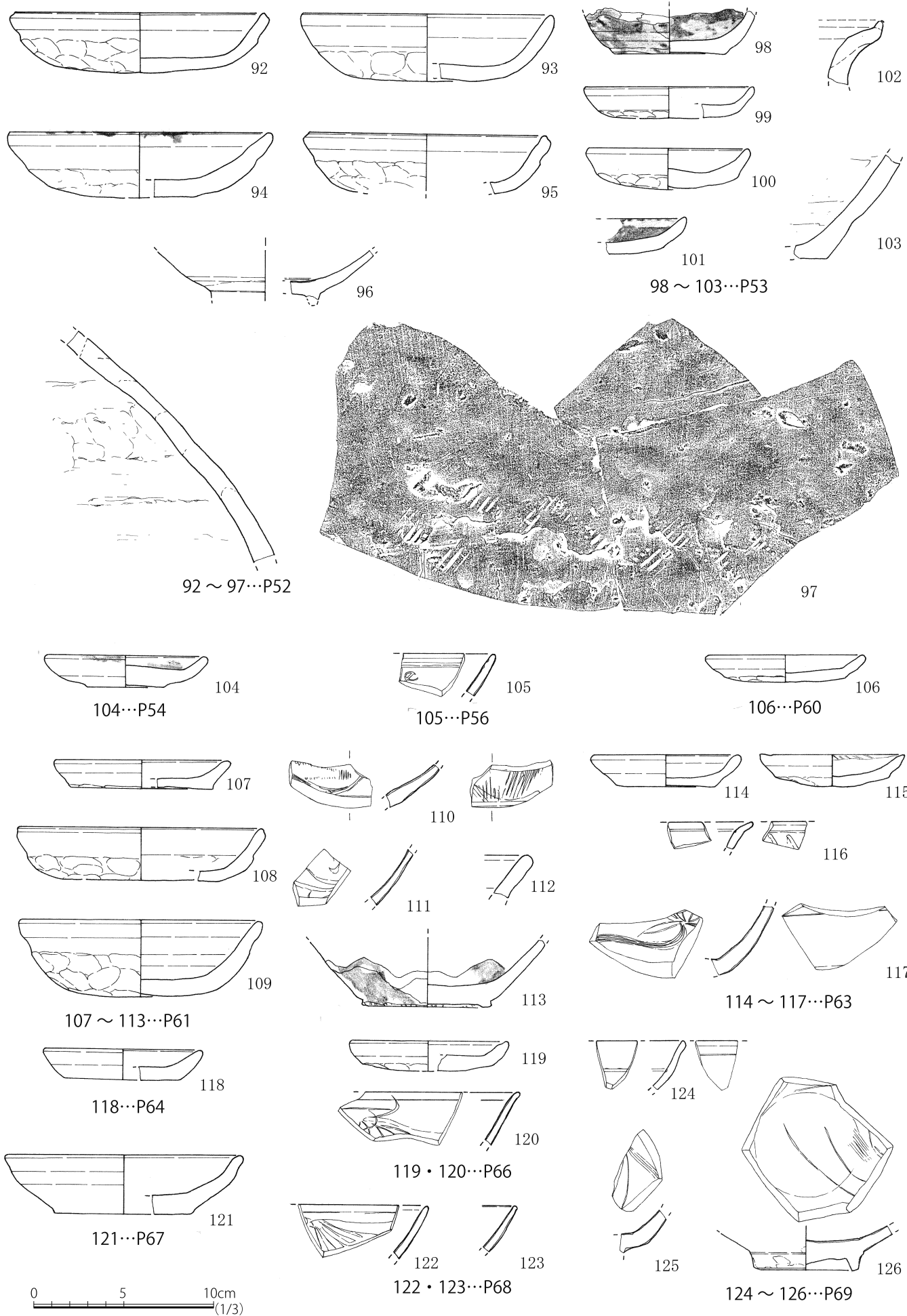


图 136 4 面遺構出土遺物 (5)

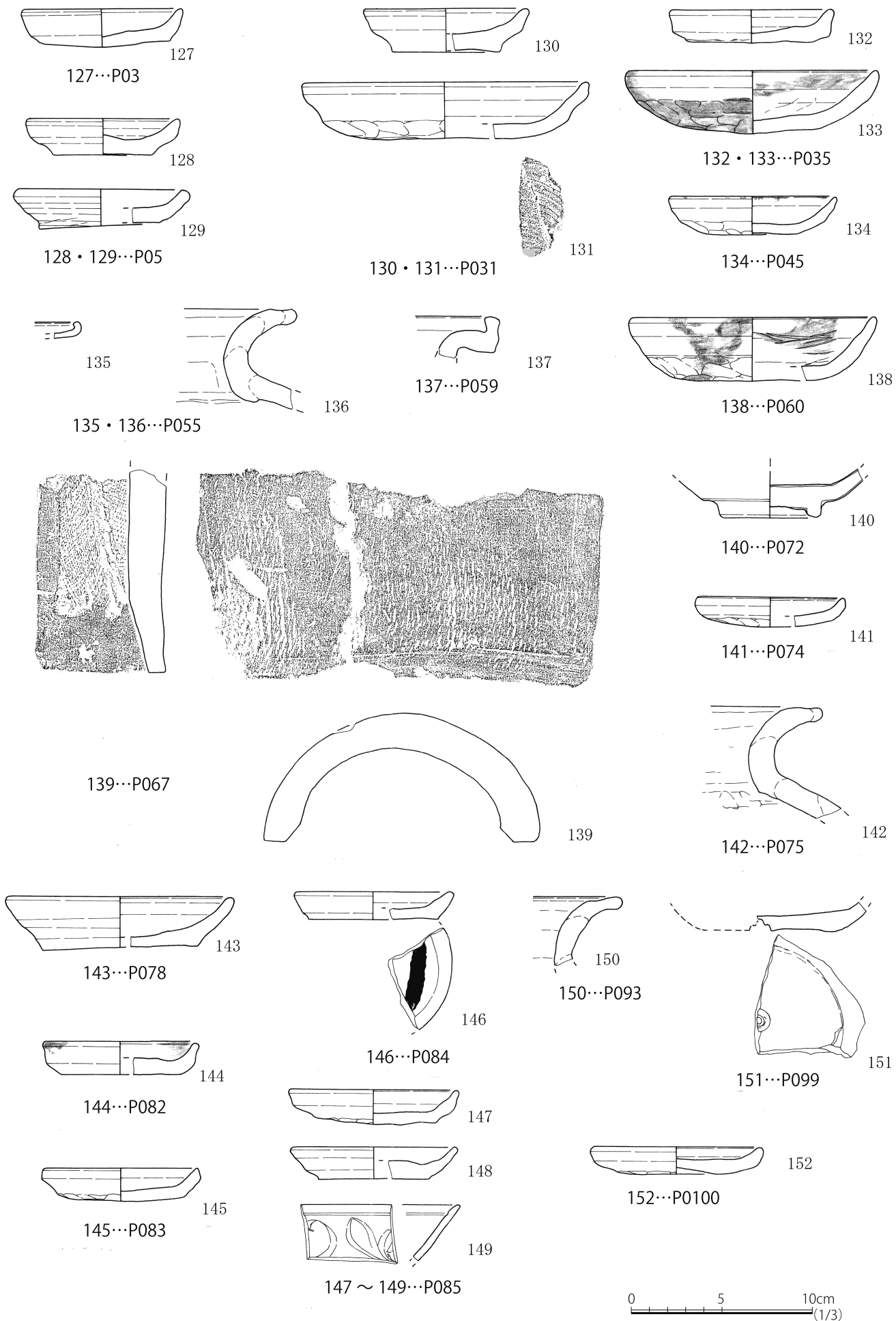


图 137 4面遺構出土遺物 (6)

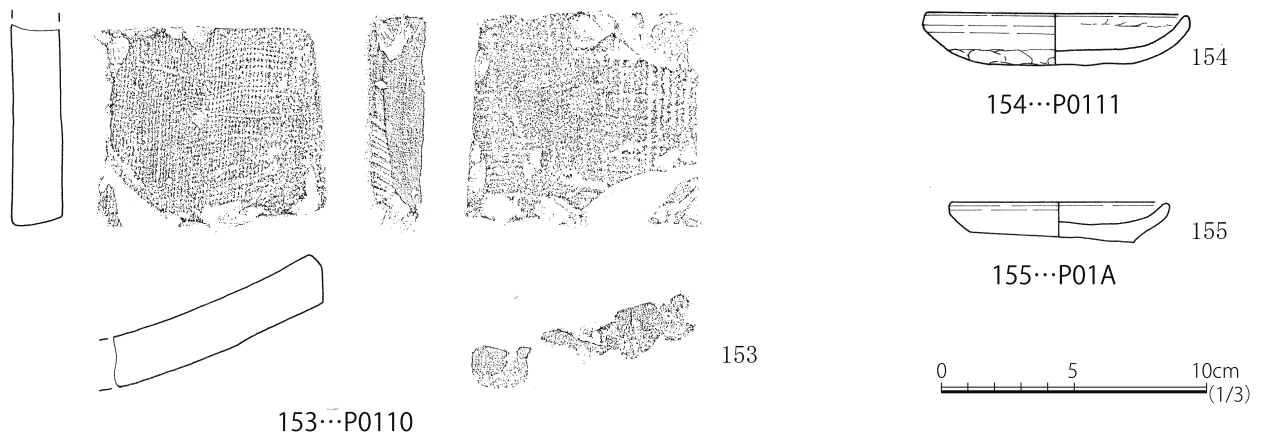


図 138 4面遺構出土遺物 (7)

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ナデ状	板状	スノ状		
図138 4面遺構出土遺物(7)												
153	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.0	広端面 片側辺					暗灰	4面P0110 永福寺女瓦A類 白色粒・黒色粒
154	土器	手づくね かわらけ・小	9.8	—	2.0	3/4	○				黄灰	4面P0111 白針
155	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	6.2	1.5	完形					黄灰	4面P01A 白針、砂質

4面遺構の出土遺物 (図 131 ~ 139、表 9・10)

4面遺構の出土かわらけは手づくね成形品が主体を占め、少量のロクロ成形品がこれを補う形を取る。手づくねにも薄手・低平な器形を呈し口唇部面取りナデを施す古相のものと、厚手・身深器形で面取りナデを省略した新相の資料が混在する。舶載磁器は龍泉窯系青磁碗・皿Ⅰ類(劃花文)が大半を占め、同安窯系青磁の碗が若干量含まれる。常滑の甕は細片ばかりだが4~5型式が混在し、瓦は永福寺Ⅰ期の所用瓦が占めている。これらは13世紀初頭~前葉の年代幅で捉えることができ、3面下~4面上の出土資料も含め、龍泉窯系青磁碗Ⅱ類(蓮弁文碗)を含まない点は留意すべきである。今回は整理作業において細かな器種分類を行っていないため、あくまでも図示し得た遺物に限った傾向として言及しておく。

第9節 5面上の遺物（図139、表11）

5面上出土のかわらけは手づくね成形品が主体となり、小皿を中心にロクロ成形品を少量含む。舶載陶磁器では龍泉窯系I類・同安窯系I類があり、小片であるが白磁端反碗（V類か）も見られる（13）。瓦は永福寺I期所用の有段式丸瓦（7）がある。全体としては、12世紀末～13世紀初頭の遺物構成と見なせよう。

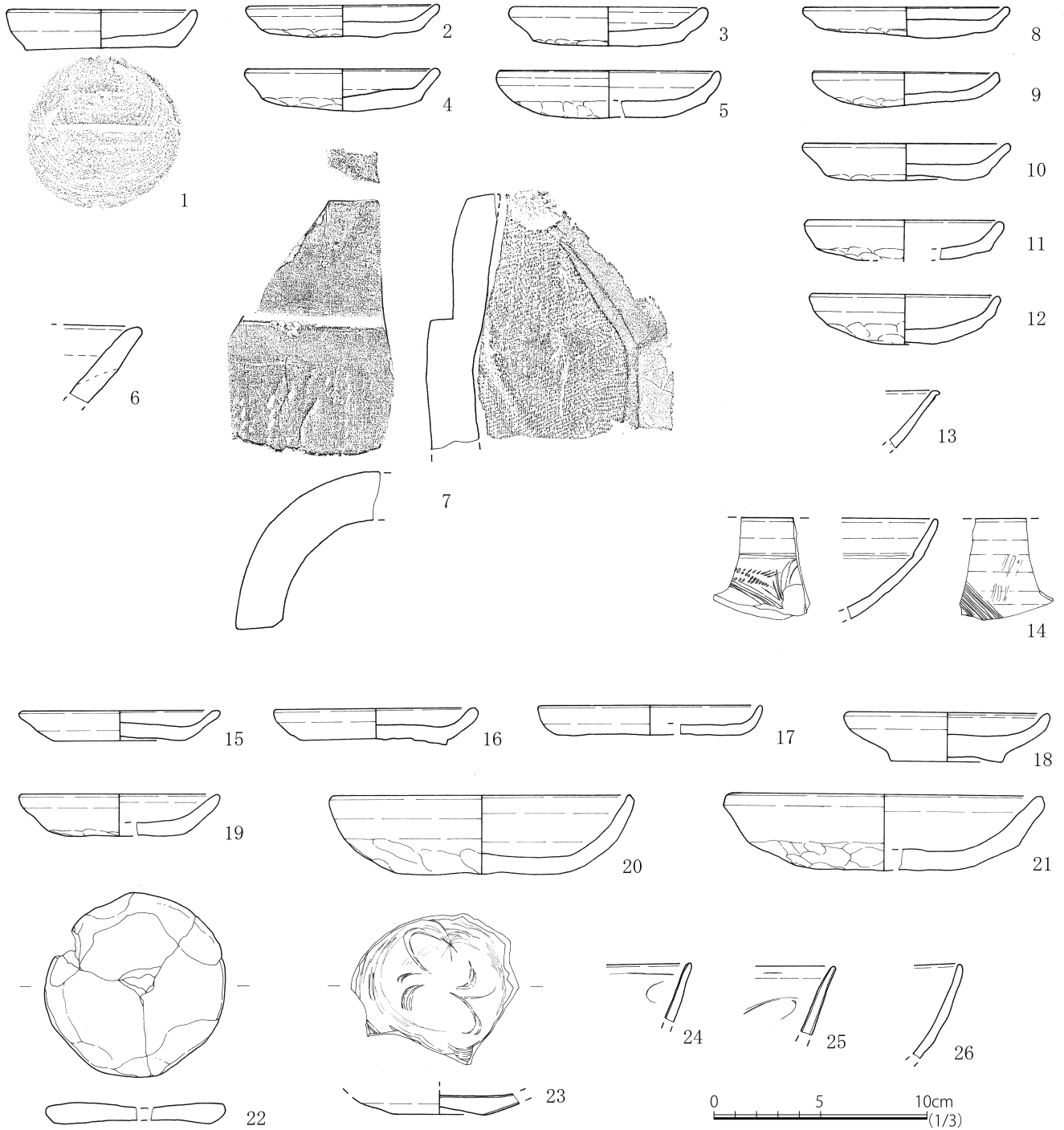


図139 4面下～5面上出土遺物

表 11 4 面下～5 面上 出土遺物観察表

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サヲ状	板状	スノ状		
図139 4面下～5面上出土遺物												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	7.2	1.9	4/5	○				橙	4面下～5面トレンチ1 白針、砂質 内面一部に煤付着
2	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.5	1/3	○				黄橙	4面下～5面トレンチ1 白針
3	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.8	1/3	○				橙	4面下～5面トレンチ1 白針
4	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	2.0	1/3	○				黄橙	4面下～5面トレンチ1 白針
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(10.7)	(9.2)	2.3	1/4	○				橙	4面下～5面トレンチ1 白針
6	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	口小片					灰	4面下～5面トレンチ1 長石
7	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.3	玉縁～ 筒部片側片					灰	4面下～5面トレンチ1 永福寺男瓦A類 白色粒
8	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	1.5	3/4	○				黄灰	4面下～5面トレンチ2 粉質
9	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	—	1.7	1/3	○				黄橙	4面下～5面トレンチ2 白針
10	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	—	1.7	1/4	○				黄橙	4面下～5面トレンチ2 白針
11	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	(1.9)	1/3					黄橙	4面下～5面トレンチ2
12	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	—	2.3	1/5					橙	4面下～5面トレンチ2 白針
13	磁器	白磁 端反碗	—	—	[2.7]	口小片					乳白 透明	4面下～5面トレンチ2 大宰府V類カ
14	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	—	[4.7]	口小～ 体片					薄緑褐 透明	4面下～5面トレンチ2 大宰府Ⅰ類
15	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(6.1)	1.4	1/2	○			△	橙	白針 内外面黒色に変色
16	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	6.8	1.7	3/4	○		○		橙	白針
17	土器	手づくね かわらけ・小	(10.4)	(8.4)	1.4	1/4	○				橙	白 口唇部一部に煤付着
18	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	5.2	2.3	1/3	○		○		橙	白針、砂質 底部内面黒色に変色
19	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	(6.7)	(1.9)	1/4	○				黄灰	白針 内外面黒色に変色
20	土器	手づくね かわらけ・大	(13.9)	(13.0)	(3.7)	1/3	○				黄橙	白針 内外面に煤付着
21	土器	手づくね かわらけ・大	(14.4)	(12.7)	(3.5)	1/3	○		○		黄橙	白針
22	土器	かわらけ転用 円盤	直径 8.5	—	厚さ 1.0	ほぼ完形					黄橙	白針 底部片を擦って加工
23	磁器	龍泉窯系青磁 櫛搔劃花文皿	—	(4.1)	[0.9]	底完存					灰青 透明	大宰府Ⅰ-2a類カ
24	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.7]	口小片					灰 透明	
25	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.2]	口小片					灰青 透明	
26	陶器	須恵器 坏カ	—	—	[4.4]	口小片					灰	

第 10 節 5 面の遺構と遺物

5 面の検出遺構（図 140～145）

5 面は中世基盤層となる黒褐色粘質土層（ネチャ）の上面とし、標高 11.2～11.3 m で確認された。地点Ⅰ東端部と地点Ⅱ北半部を主な調査対象とし、これを除く部分では 5 面までの掘り下げ作業を実施しなかった。地点Ⅰの東端部では南北方向の溝 1 が検出され、地点Ⅱでは溝 1 と同方向で延びる溝 2 と掘立柱建物 1 棟が検出された。これらは総じて真北を意識した規格で構築されており、3 面段階に出現する、現行の荏柄社参道に沿った南北道とは 20° 前後の差がある。道路構築以後も、真北基調の軸線は 3 面の掘立柱建物 1 や 2 面の溝 1 に継承され、1 面になると道路関連遺構以外の軸線は不鮮明になる。

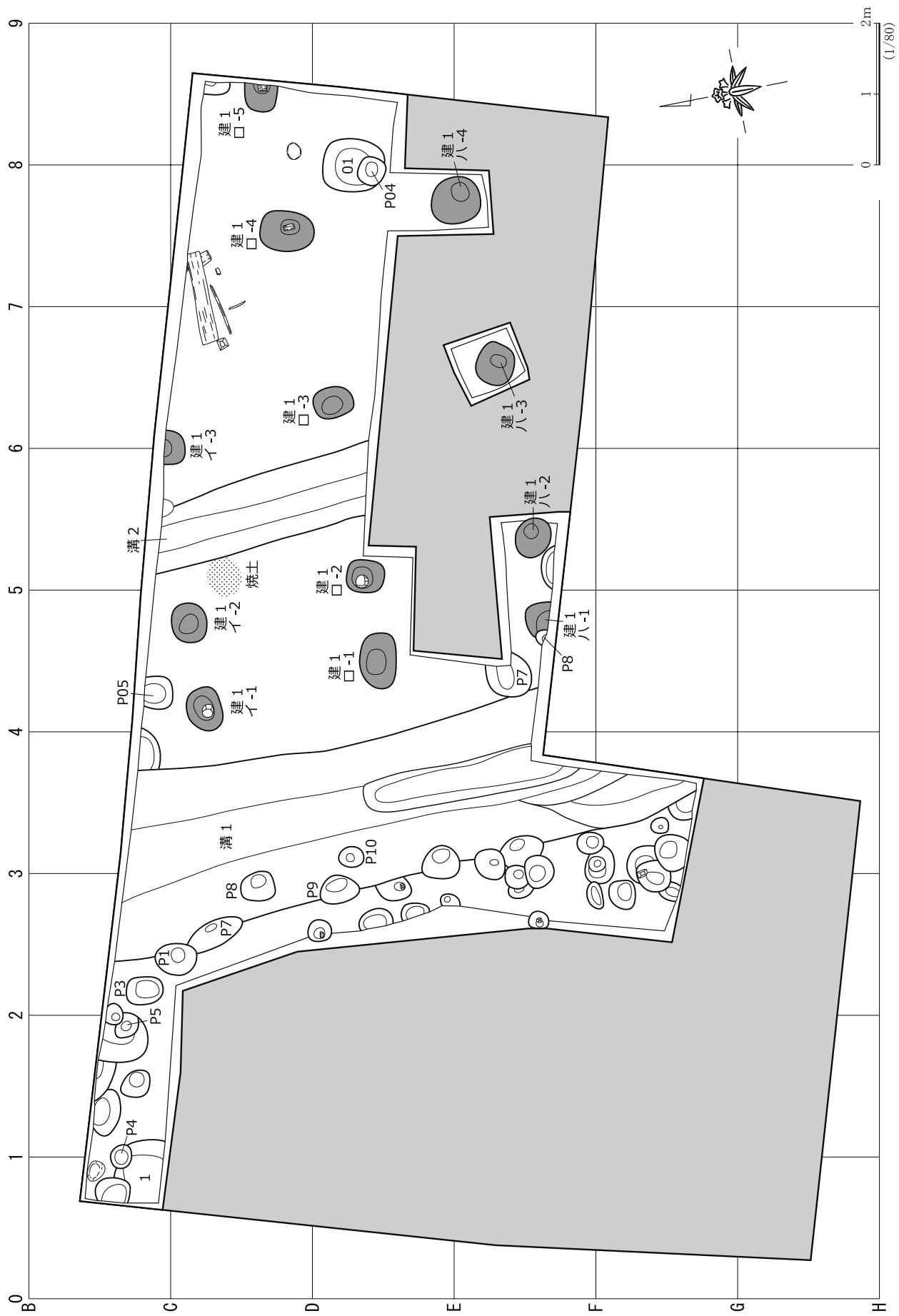


图 140 5 面全体图

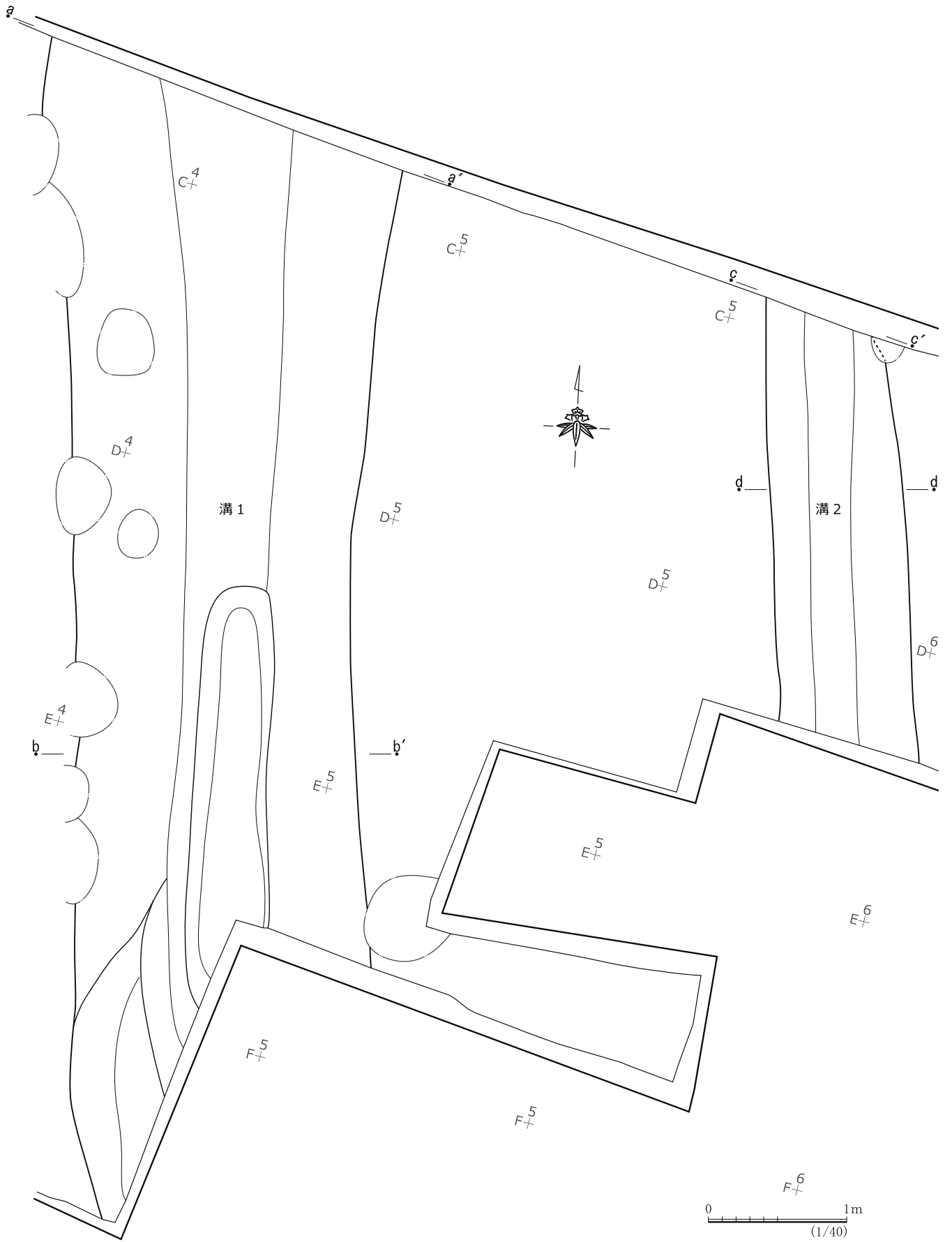
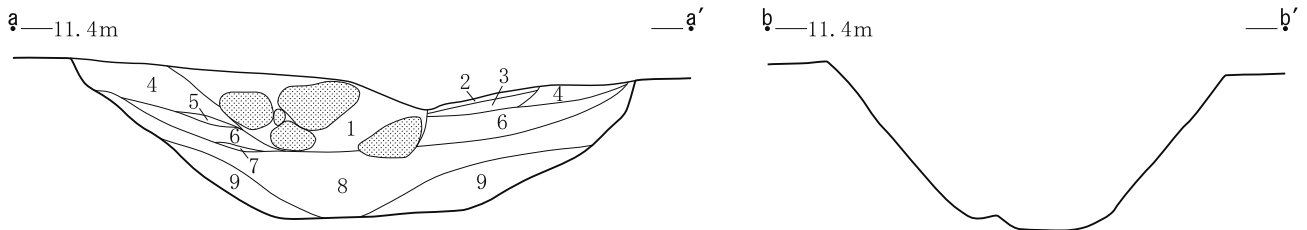
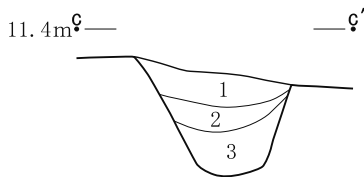


图 141 5面 沟1·2平面图



5面 溝1 土層説明

- | | |
|---------|--------------------------|
| 1 暗褐色土 | 弱粘質土。泥岩ブロックやや多い。縮まりなし。 |
| 2 暗褐色土 | 粘質土。有機質腐植物多量、炭粒少量。縮まりなし。 |
| 3 褐色土 | 粘質土。有機質腐植物多量。縮まりなし。 |
| 4 暗灰褐色土 | 粘質土。有機質腐植物、炭粒少量。縮まりややあり。 |
| 5 暗灰褐色土 | 粘質土。貝殻粒多量。縮まりなし。 |
| 6 暗灰褐色土 | 粘質土。有機質腐植土主体。縮まりなし。 |
| 7 炭層 | 縮まりなし。 |
| 8 暗褐色土 | 有機質腐植土が主体。木片多量。縮まりあり。 |
| 9 暗灰褐色土 | 有機質腐植物少量。縮まりあり。 |



5面 溝2 土層説明

- | | |
|---------|---------------------|
| 1 暗青灰色土 | 弱粘質土。木片少量。縮まり非常に強い。 |
| 2 黒褐色土 | 粘質土。木片、炭粒少量。縮まりなし。 |
| 3 青灰色土 | 粘質土。混入物なし。縮まりなし。 |

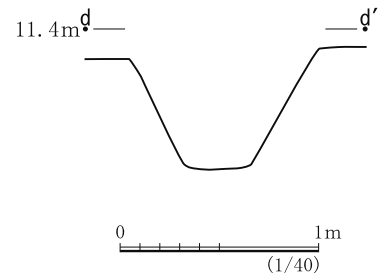


図 142 5面 溝1・2 断面図

溝1は南北とも調査区外へと続き、上幅が最大で260cm、底面幅は30～90cmを測る。確認面からの深さは90cm弱を測り、底面の標高は10.4～10.5mで、わずかながら南に向けて低くなる。走行軸は、ほぼ真北方向を取る。埋土は暗灰褐色の粘質土がベースで、有機質腐植土を多く含んでいた。

溝2は上幅100cm、底面幅30cmで横断面は逆台形を呈する。確認面からの深さは60cmを、底面標高は10.7mで推移し、いずれか一方への傾斜は認められなかった。埋土は青～黒色基調の粘質土である。

掘立柱建物1は地点Ⅱの全域で検出され、東と南北は調査区外に続くものと考えられる。東西3間×南北2間分が確認でき、西側に縁と見られる半間分の柱穴列が並ぶ。身舎部分の柱間距離は240cm規格であったと見られ、東西7.2×南北4.8m＝34.56㎡以上の床面積となる。身舎と縁との柱間距離は、120cmを測る。柱筋の軸線はN1°Wで、真北を指向した規格であったと見られる。各柱穴は平面の長径が50～80cmで、確認面から70～110cmの深さをもつ比較的規模の大きなものであった。身舎部分と縁部分では柱材が各1本ずつ残されており、他の柱穴でも底面に礎板を残すものが2基認められた。縁を構成する柱穴イ-1柱材は直径15cmの面取り丸柱で、高さ73cmが遺存していた。下端部から14.5cm上位には方2cmで深さ4cmの方孔が削られ、さらに10cm上位にも方2cmで深さ2cmの方孔が削られていた(図版17-4)。身舎西辺の柱穴ロ-2柱材は短径8cm、長径15cmの面取り丸柱で、高さ90cmが遺存していた(図版17-3)。240cmという柱間距離や丸柱を使う構造は、古代的要素を残しているといえる。

また、正確な平面図として現地記録は残っていないが、柱穴イ-2南東側の中世基盤層上では、中央が赤く焼け、その外周が黒く変色(炭化?)した範囲が検出されている。この東端部を溝2が切っているように見える(図版17-1)。建物1との関連性については明らかでない。図141・143に示した範囲は、写真記録から大よその位置を復元したものである。

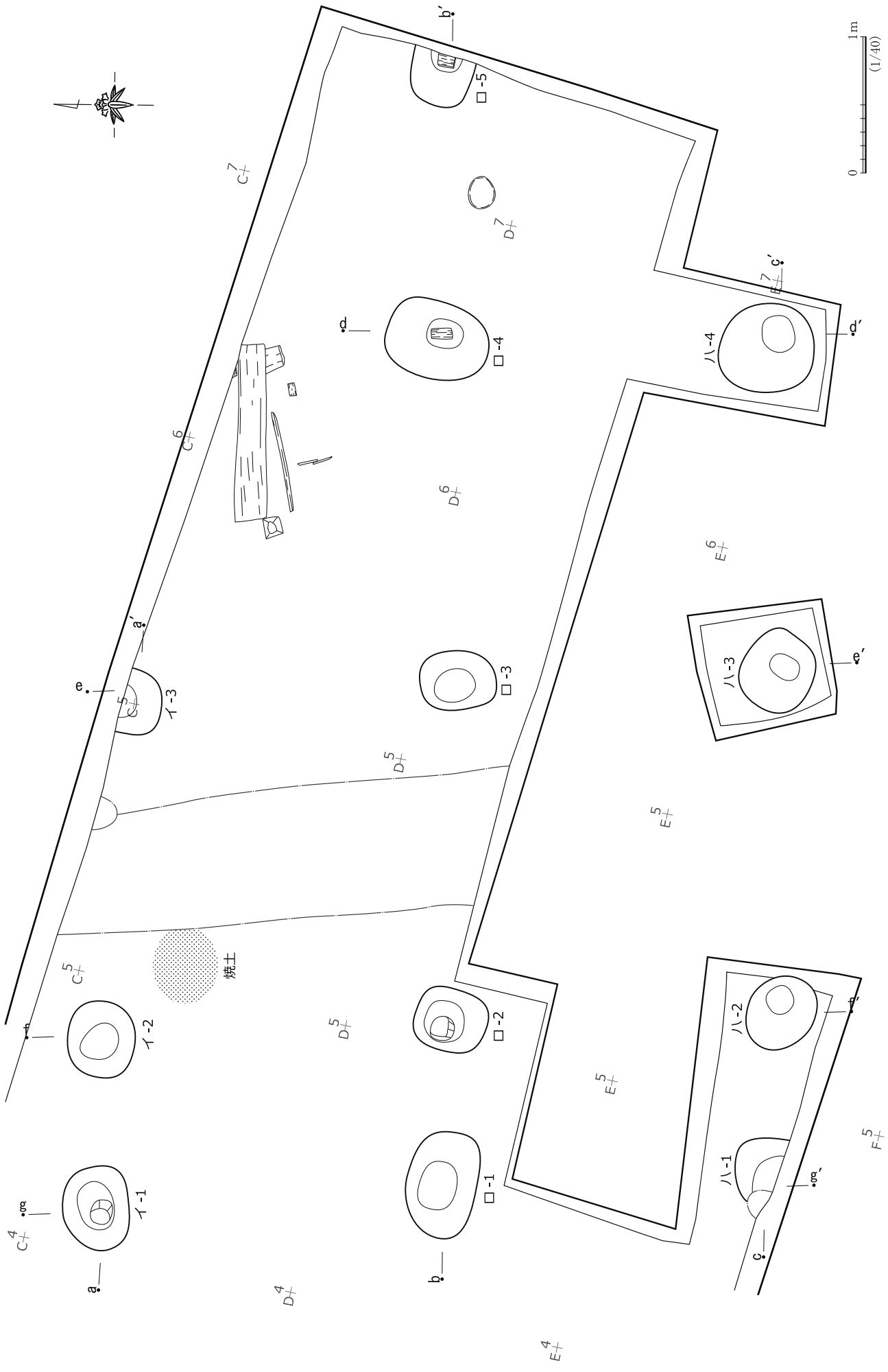


图 143 5 面 掘立柱建物 1 平面图

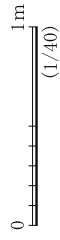
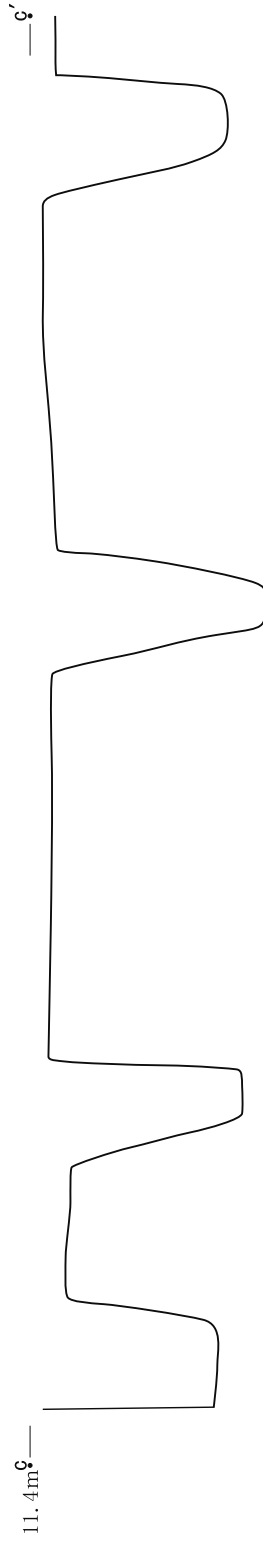
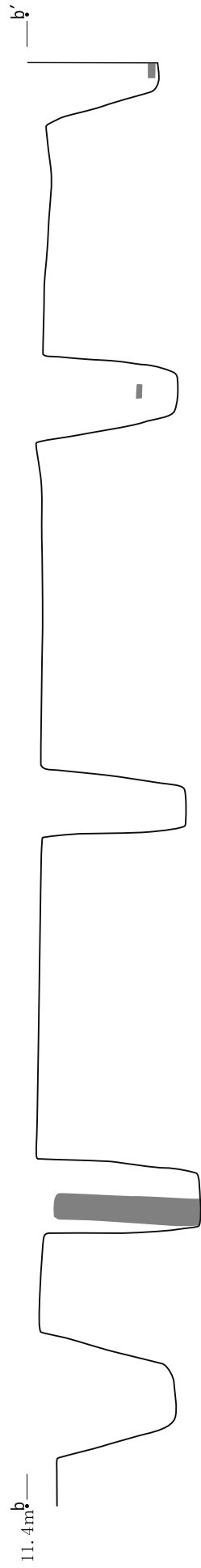
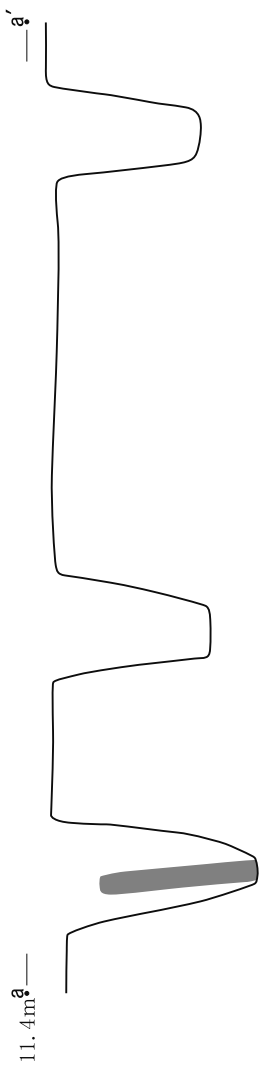


图 144 5 面 掘立柱建物 1 断面图

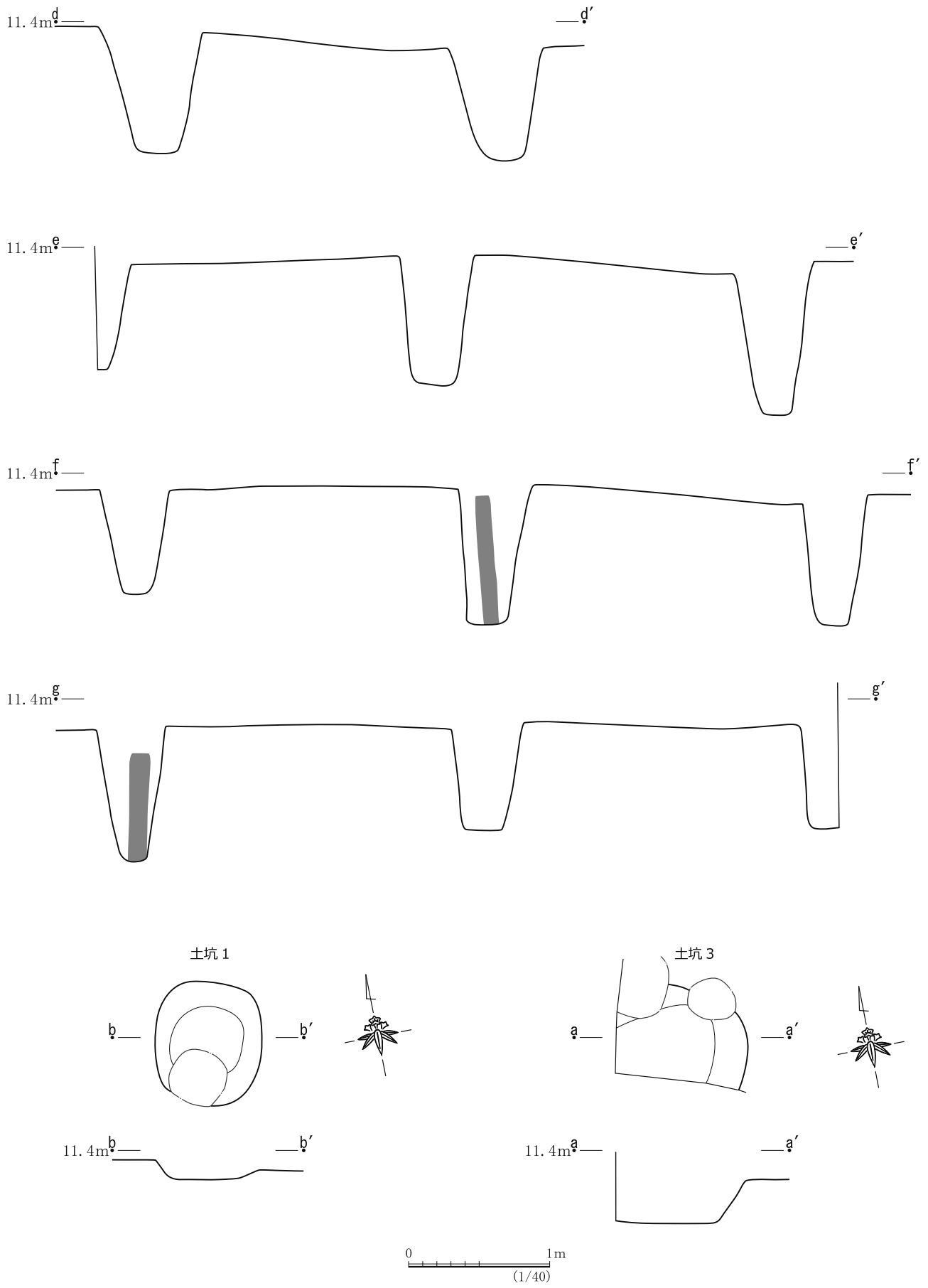


图 145 5 面 掘立柱建物 1 断面图、土坑 1·3

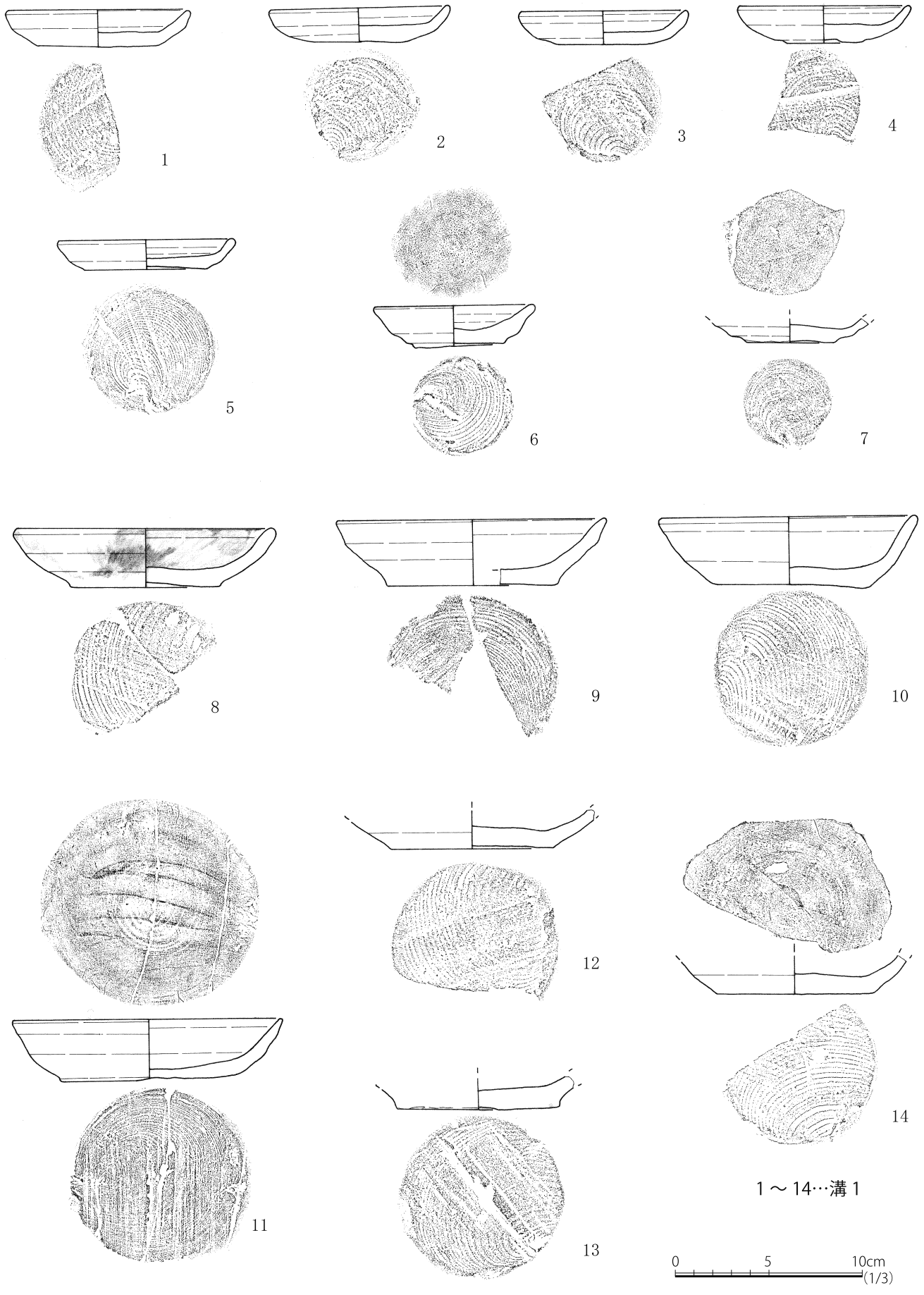


图 146 5 面遺構出土遺物 (1)

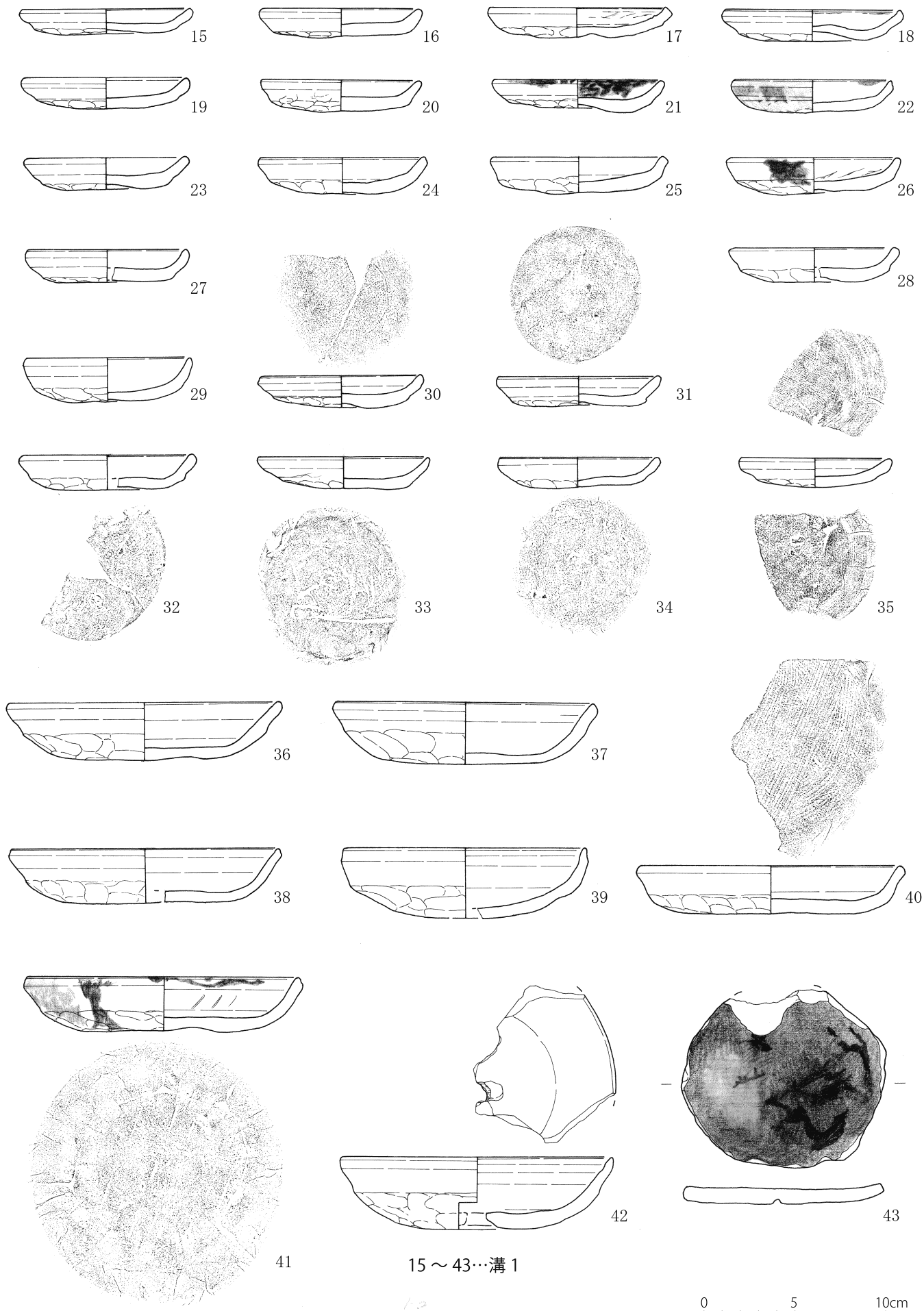


图 147 5 面遺構出土遺物 (2)

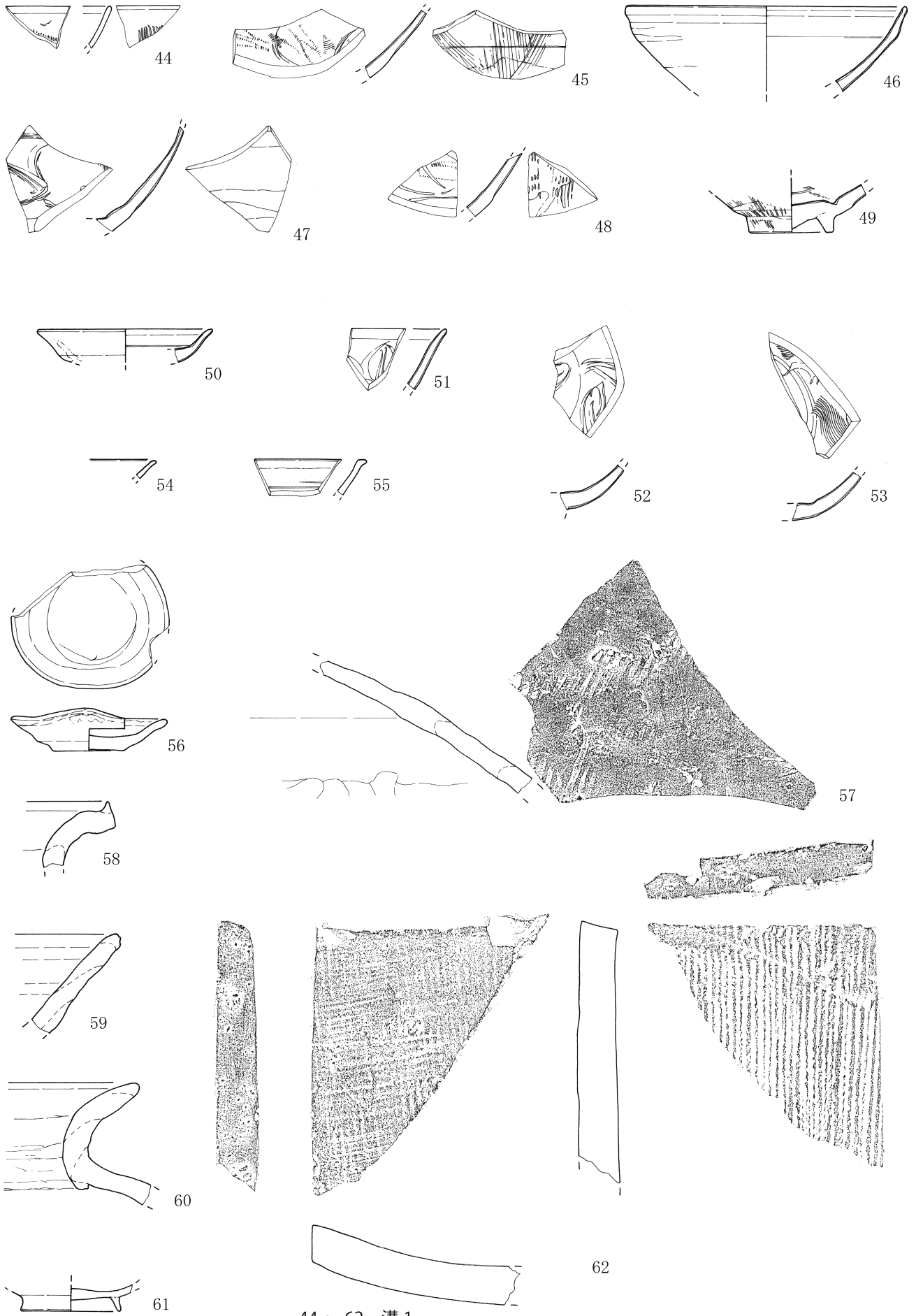
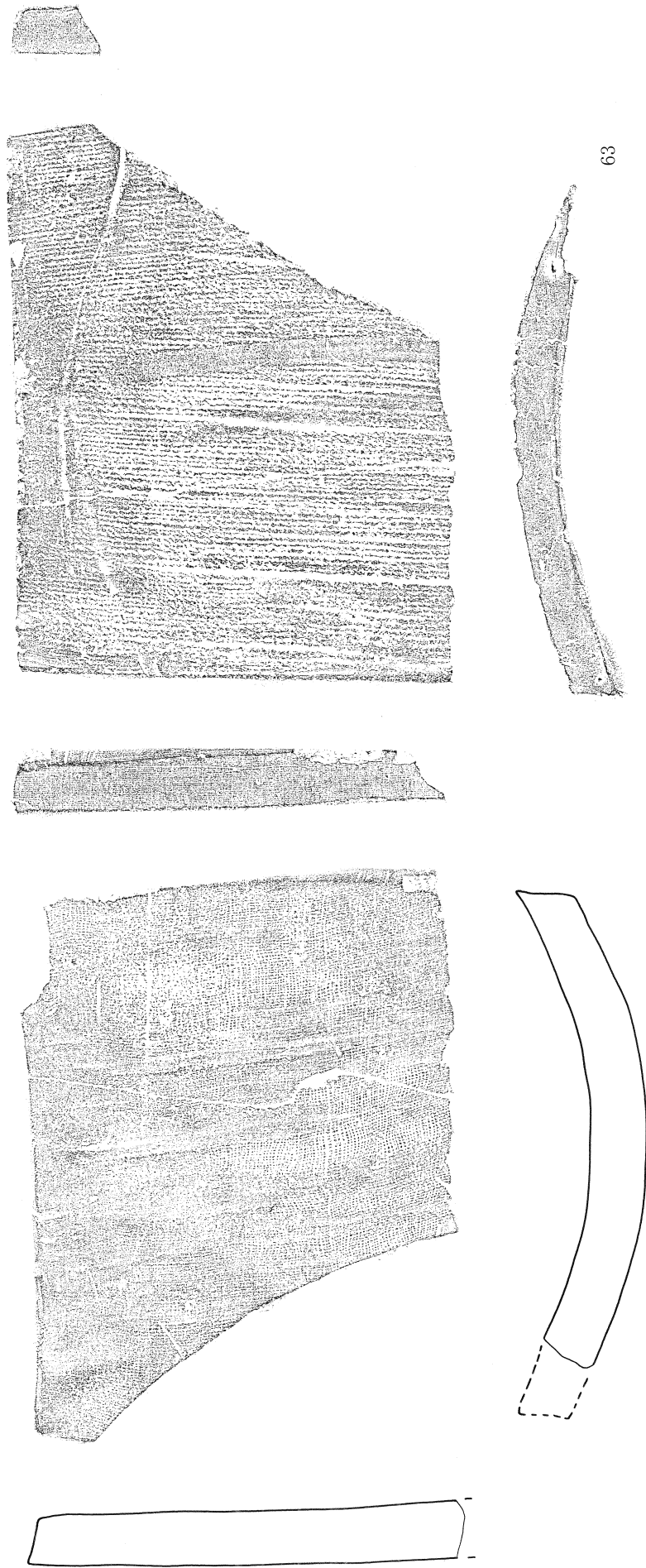


图 148 5 面遺構出土遺物 (3)



63…溝 1

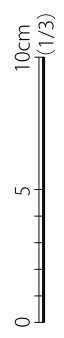
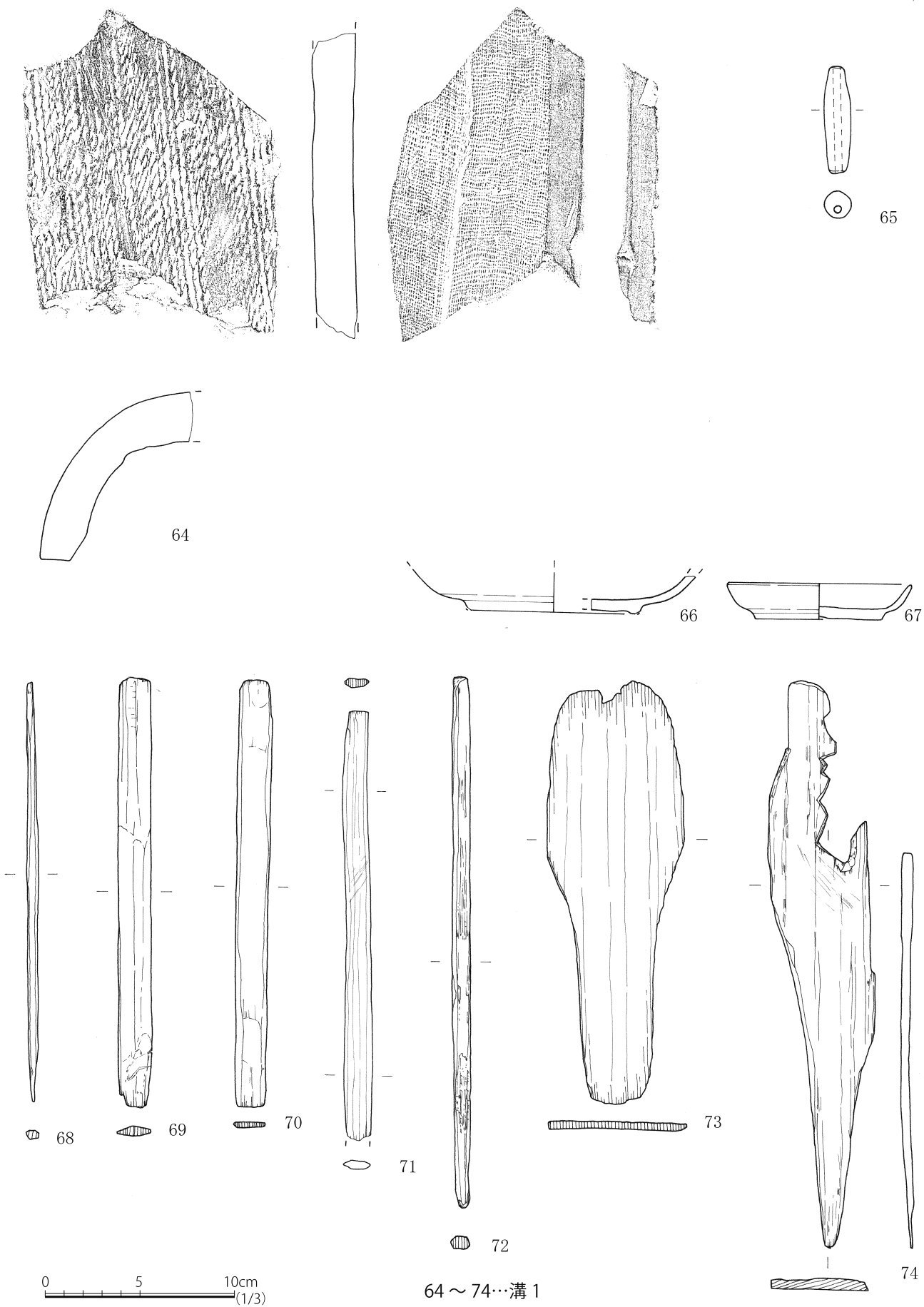
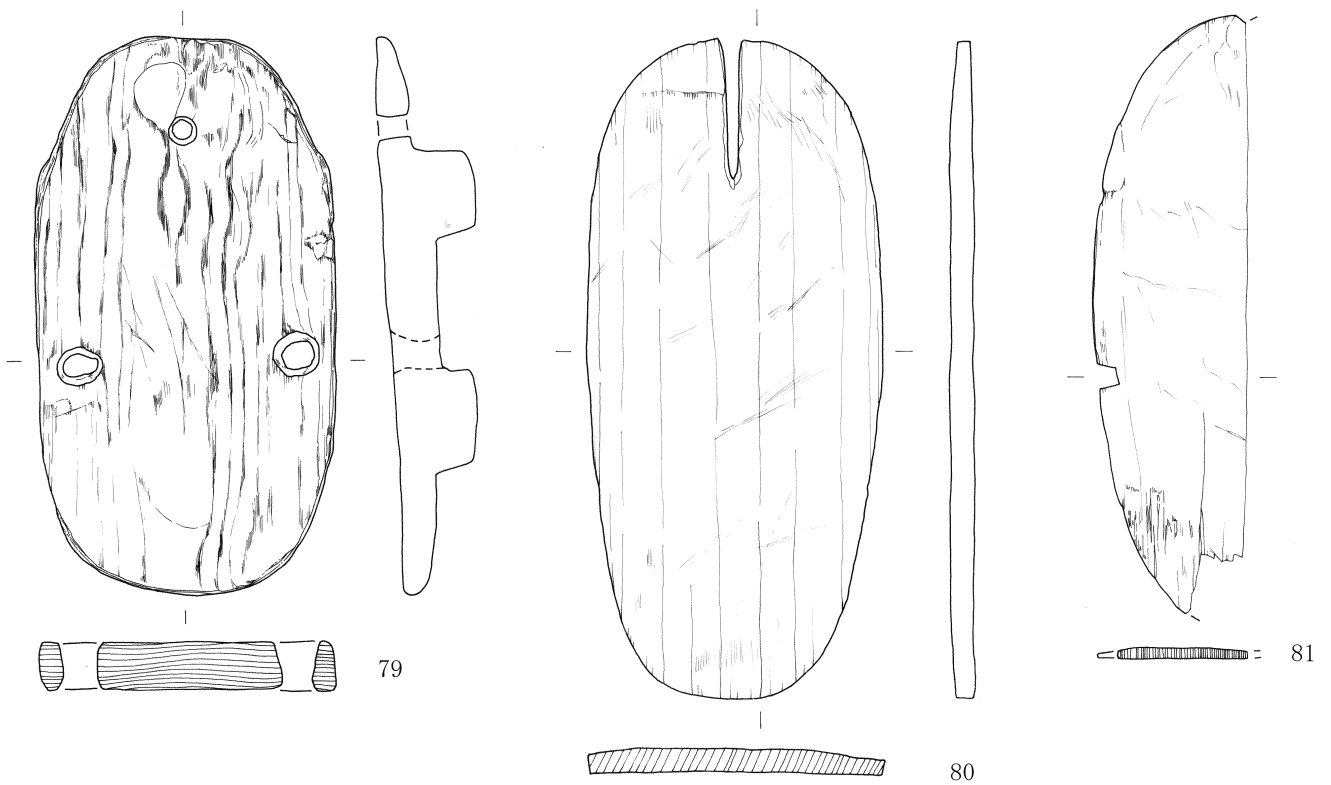
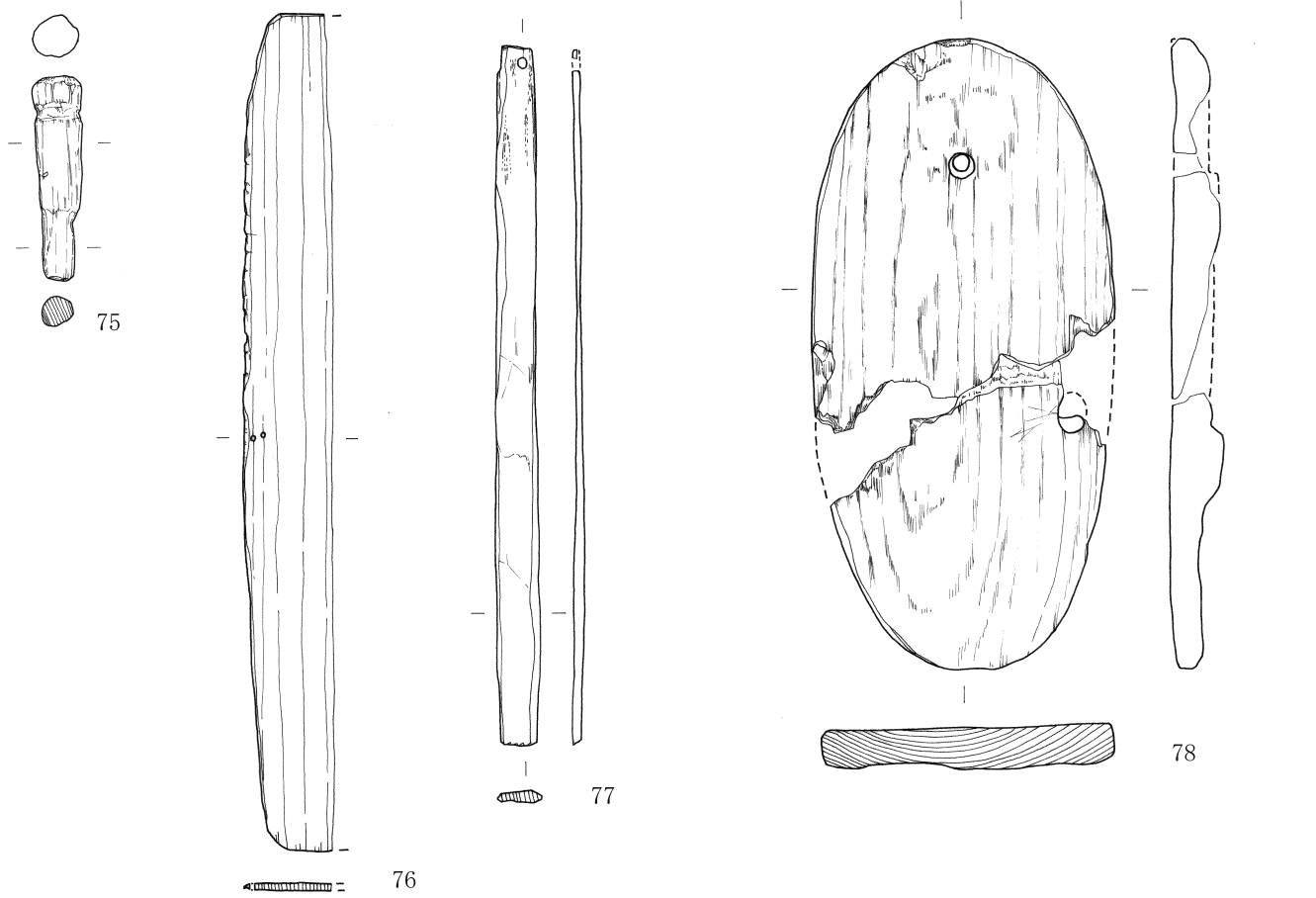


图 149 5 面遺構出土遺物 (4)



64 ~ 74...溝 1

图 150 5 面遺構出土遺物 (5)



75 ~ 81...溝1

0 5 10cm
(1/3)

图 151 5面遺構出土遺物 (6)

5面遺構の出土遺物（図146～152、表12）

5面遺構の出土かわらけは手づくね成形品が主体で、ロクロ成形品がこれを補う。手づくねは大・小ともに薄手で低く開き、口唇部に面取りナデを施す資料が主体となる。やや身深となる図147-42なども口縁部のナデは丁寧であり、比較的古い様相を残している。古手の要素といえば、40の底部内面に見える「ササラ状」ナデ調整も該当しよう。ロクロかわらけにも、底径が小さく内湾気味に立ち上がる器形の資料が認められ、糸切り時の回転速度が緩いなど古手の要素を見出させる。舶載磁器は龍泉窯系I類と同安窯系の青磁碗・皿が混在しており、細片ながら白磁の端反碗なども見られる。常滑4型式や渥美2b期の甕を含むほか、瓦は永福寺I期の所用瓦が占めている。漆器の碗・皿は黒色系漆を塗ったのみで、無施文である。総体として、12世紀末～13世紀初頭の遺物構成と言えよう。

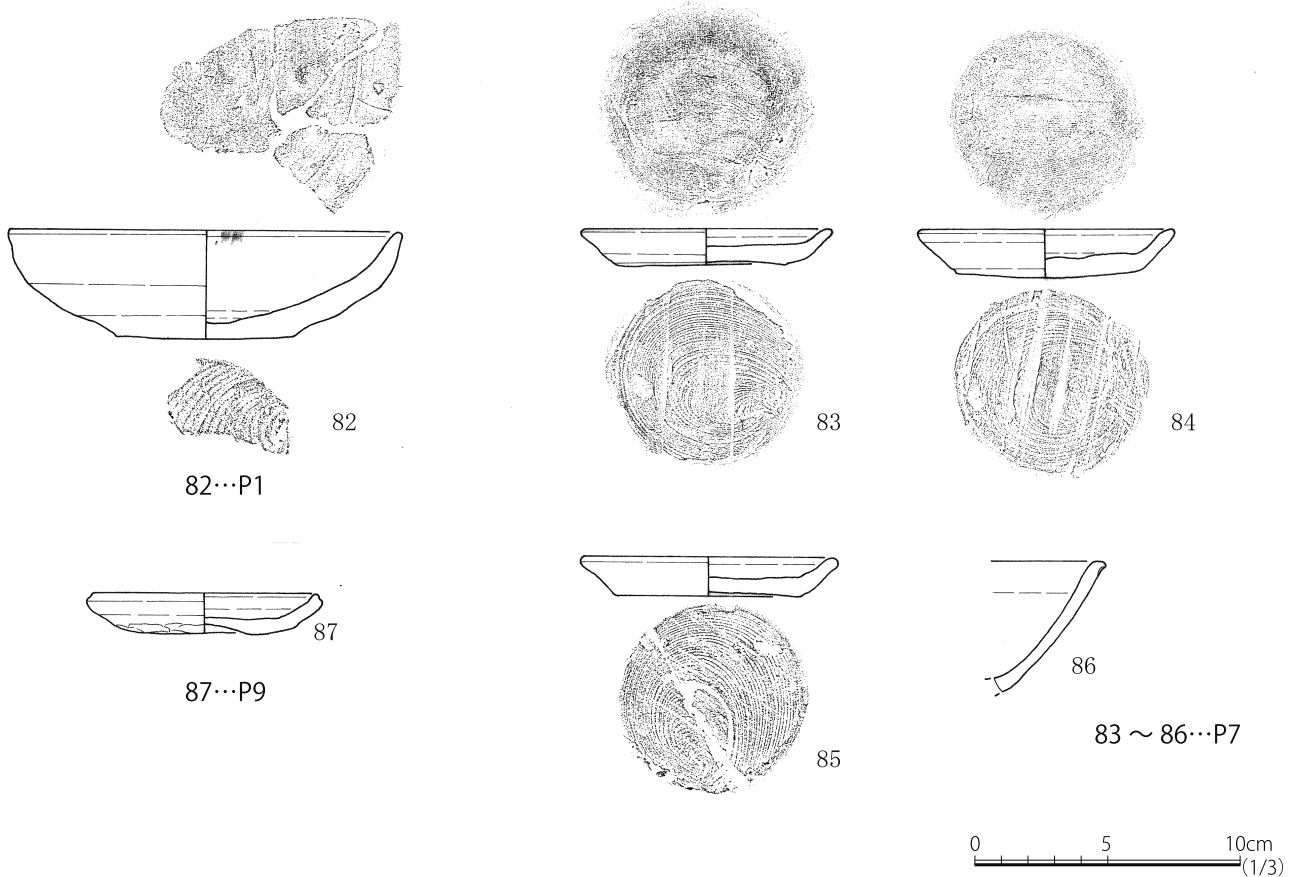


図152 5面遺構出土遺物（7）

表12 5面遺構 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	ササラ状	板状	スコ状		
図146 5面遺構出土遺物(1)												
1	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.5)	(6.4)	2.0	1/6	○		○		黄灰	5面溝1 白針
2	土器	ロクロ かわらけ・小	9.8	4.9	1.9	4/5	○		○		橙	5面溝1 白針、砂質
3	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	(4.8)	1.8	1/3	○		○		黄灰	5面溝1
4	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.1)	(4.0)	2.0	1/3	○		○		黄灰	5面溝1 白針、砂質
5	土器	ロクロ かわらけ・小	(9.2)	6.7	1.6	1/3	○		○		黄橙	5面溝1 白針
6	土器	ロクロ かわらけ・小	8.4	5.3	2.1	4/5					黄灰	4面下～5面トレンチ1 白針
7	土器	ロクロ かわらけ・小	—	4.8	[1.3]	底完存	○		○		黄灰	5面溝1

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナゲ	ナラ状	板状	スコ状		
8	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.7)	(8.0)	3.2	1/3	○		○		黄灰	5面溝1 白針 内外面に煤付着
9	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.3)	9.1	3.5	1/3	○		○		橙	5面溝1 白針、砂質
10	土器	ロクロ かわらけ・大	13.6	8.4	3.9	2/3	○		○		黄灰	5面溝1 白針、砂質
11	土器	ロクロ かわらけ・大	14.3	9.3	3.3	3/4	○		○		黄橙	5面溝1 白針
12	土器	ロクロ かわらけ・大	—	8.8	—	底4/5	○		○		橙	5面溝1 白針
13	土器	ロクロ かわらけ・大	—	8.5	[1.7]	底完存	○		○		黄灰	5面溝1 砂質
14	土器	ロクロ かわらけ・大	—	8.3	[2.0]	底1/2	○		○		黄橙	5面溝1 白針

図147 5面遺構出土遺物(2)

15	土器	手づくね かわらけ・小	(9.4)	—	1.4	1/4	○				黄橙	5面溝1
16	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.6	完形	○				橙	5面溝1 白針、砂質
17	土器	手づくね かわらけ・小	9.7	—	1.7	3/4	○				黄灰	5面溝1
18	土器	手づくね かわらけ・小	(9.7)	—	1.7	1/4	○		○		黄灰	5面溝1 白針
19	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.7	1/3	○				黄灰	5面溝1 白針
20	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.8	完形	○				橙	5面溝1 白針、砂質
21	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	1.8	2/3	○				黄灰	5面溝1 粘土板結合法による成形 白針、やや粉質 内外面に煤付着
22	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.8	ほぼ完形	○				黄灰	5面溝1 白針、内外面全体に煤付着
23	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	1.8	1/3	○				黄橙	5面溝1 白針
24	土器	手づくね かわらけ・小	9.0	—	2.0	2/3	○				黄灰	5面溝1 白針
25	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	2.1	3/4	○				黄灰	5面溝1 白針
26	土器	手づくね かわらけ・小	9.3	—	2.0	完形	○				黄橙	5面溝1 白針 内外面一部に煤付着
27	土器	手づくね かわらけ・小	(8.8)	—	1.7	1/4	○				黄灰	5面溝1 白針、やや粉質
28	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	—	(1.9)	1/4	○				黄橙	5面溝01 白針
29	土器	手づくね かわらけ・小	(9.1)	—	2.4	1/3	○				橙	5面溝1
30	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	1.8	3/4	○				黄灰	5面溝1
31	土器	手づくね かわらけ・小	8.8	—	1.7	完形	○				黄灰	5面溝1 白針
32	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	—	1.9	1/3	○				黄橙	5面溝1
33	土器	手づくね かわらけ・小	9.4	—	1.8	ほぼ完形 歪み大	○				黄灰	5面溝1 白針、やや粉質
34	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	1.7	完形	○				橙	5面溝1 白針、砂質
35	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	—	1.6	1/5		○			黄灰	5面溝1 粘土板結合法による成形 白針、やや粉質
36	土器	手づくね かわらけ・大	(15.0)	—	3.2	2/3		○		○	黄橙	5面溝1
37	土器	手づくね かわらけ・大	(14.3)	—	3.4	1/2	○				黄橙	5面溝1 やや粉質
38	土器	手づくね かわらけ・大	14.9	—	3.0	2/3	○				黄橙	5面溝1 白針
39	土器	手づくね かわらけ・大	(13.3)	—	3.8	1/2	○				黄灰	5面溝1 白針
40	土器	手づくね かわらけ・大	(14.4)	—	2.6	1/3 歪み大		○			黄灰	5面溝1 白針
41	土器	手づくね かわらけ・大	14.9	—	3.1	完形	○		○		黄橙	5面溝1 白針 内外面全体に黒く変色
42	土器	手づくね かわらけ・大	(15.0)	—	4.0	1/8	○				黄灰	5面溝1 白針 焼成後穿孔 復元口径不確か
43	土器	手づくね かわらけ加工品	縦 [9.7]	横 11.1	厚さ 0.8	不明					黄灰	5面溝1 外底面に非貫通孔 内面に炭化物付着

図148 5面遺構出土遺物(3)

44	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	—	[2.2]	口小片					薄緑褐 透明	5面溝1 大宰府1類
----	----	----------------	---	---	-------	-----	--	--	--	--	-----------	---------------

遺物番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナデ	サワラ状	板状	スコ状		
45	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	—	[3.8]	体小片					薄緑褐 透明	5面溝1 大宰府Ⅰ類
46	磁器	同安窯系青磁 碗	(15.0)	—	[4.6]	口1/6~ 体片					緑褐 透明	5面溝1 大宰府Ⅰ類
47	磁器	龍泉窯系青磁 櫛搔劃花文碗	—	—	[5.7]	体小片					緑灰 透明	5面溝1 大宰府Ⅰ-2類
48	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	—	[3.5]	体小片					緑褐 透明	5面溝1 大宰府Ⅰ類
49	磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	—	(4.4)	[2.6]	底3/4					薄緑灰 透明	5面溝1 大宰府Ⅰ類
50	磁器	同安窯系青磁 皿	(9.5)	—	[1.8]	口1/6					緑灰 透明	5面溝1 大宰府Ⅰ類
51	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[3.3]	口小片					薄緑 透明	5面溝1 大宰府Ⅰ-2類
52	磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	—	—	[2.6]	体小片					灰青 透明	5面溝1 大宰府Ⅰ-2類
53	磁器	龍泉窯系青磁 櫛搔劃花文碗	—	—	[2.6]	体小片					薄サ-フ 透明	5面溝1 大宰府Ⅰ-3a類カ
54	磁器	白磁 碗	—	—	[1.0]	口小片					黄白 透明	5面溝1
55	磁器	白磁 端反碗	—	—	[2.0]	口小片					灰白 透明	5面溝1 大宰府Ⅰ類カ
56	陶器	尾張型 小皿	最大値 8.1	3.9	2.3	2/3					明灰	5面溝1 口縁部弱い押捺で耳皿状に
57	陶器	常滑 甕	—	—	—	胴片					暗灰	5面溝01 長石
58	陶器	常滑 甕	—	—	[3.4]	口小片					緑褐	5面溝1 長石
59	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	[5.3]	口小片					灰色	5面溝1 長石
60	陶器	渥美 甕	—	—	[6.6]	口小片					黒灰	5面溝1 白色粒
61	土器	吉備系 碗	—	(5.5)	[1.5]	底1/2					乳白	5面溝1
62	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.2	狭端面 片側片					灰色	5面溝1 永福寺女瓦A類 白色粒
図149 5面遺構出土遺物(4)												
63	瓦	平瓦	—	—	厚さ 2.7	一部欠損					黒灰	5面溝1 永福寺女瓦A類 白色粒
図150 5面遺構出土遺物(5)												
64	瓦	丸瓦	—	—	厚さ 2.1~2.6	片側面					白灰	5面溝1 永福寺男瓦A類 白色粒
65	土製品	管状土錘	長さ 5.6	最大径 1.5	孔径 0.4	一部欠損					褐白	5面溝1
66	木製品	漆器 碗	—	(8.8)	[2.1]	底小1/2					—	5面溝1
67	木製品	漆器 皿	(9.8)	(6.7)	1.9	1/2					—	5面溝1
68	木製品	箸	長さ 22.2	幅 0.6	厚さ 0.5	完形					—	5面溝1
69	木製品	用途不明	長さ 22.7	幅 1.8	厚さ 0.5	完形					—	5面溝1
70	木製品	用途不明	長さ 22.6	幅 1.7	厚さ 0.3	完形					—	5面溝1
71	木製品	棒状製品	長さ [22.6]	幅 1.5	厚さ 0.5	先端欠損					—	5面溝1
72	木製品	菜箸	長さ 28.2	幅 1.0	厚さ 0.6	完形					—	5面溝1
73	木製品	杓状	長さ 22.1	幅 7.2	厚さ 0.4	ほぼ完形					—	5面溝1
74	木製品	用途不明	長さ 30.1	幅 5.2	厚さ 0.6	完形					—	5面溝1 加工途中カ
図151 5面遺構出土遺物(6)												
75	木製品	栓	長さ 7.8	長径 1.7	短径 1.3	完形					—	5面溝1
76	木製品	折敷	長さ 32.0	幅 [3.3]	厚さ 0.3						—	5面溝1
77	木製品	扇骨	長さ 26.8	幅 1.7	厚さ 0.4						—	5面溝1
78	木製品	下駄	長さ 24.2	幅 11.6	厚さ 1.5	ほぼ完形					—	5面溝1
79	木製品	下駄	長さ 21.0	幅 11.4	厚さ 3.5	完形					—	5面溝1
80	木製品	草履芯	長さ 24.9	幅 11.2	厚さ 0.9	完形					—	5面溝1

遺物 番号	種別	器種	法量(cm)			残存率	内底面調整		外底面圧痕		色調	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
			口径	底径	器高		ナテ	サテ状	板状	スコ状		
81	木製品	草履芯	長さ [22.5]	幅 [5.6]	厚さ 0.4	片側欠損					—	5面溝1
図152 5面遺構出土遺物(7)												
82	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.7)	(6.6)	4.1	1/3	○				黄橙	5面P1 内面一部に煤付着
83	土器	ロクロ かわらけ・小	9.2	7.0	1.4	完形	○		○		黄橙	5面P7 白針
84	土器	ロクロ かわらけ・小	9.5	6.8	1.9	ほぼ完形	○		○		黄橙	5面P7 白針
85	土器	ロクロ かわらけ・小	9.4	7.1	1.5	完形	○		○		黄橙	5面P7 白針
86	磁器	白磁 端反碗	—	—	[5.0]	口小～ 体片					乳白	5面P7 大宰府V類カ
87	土器	手づくね かわらけ・小	(8.4)	—	1.5	1/4	○				黄橙	5面P9 白針

出土遺物カウント表（表 13）について

表 13 には、出土遺物の点数を掲げた。遺物の器種分類は大まかなものであり、青磁などは龍泉窯系か同安窯系なのかの類別も行っていない。今日的に要求されている分類の基準・精度を満たしていないだろうが、ご容赦いただきたい。また、地点 I については、カウント台帳の原本からは個別遺構の遺物点数を示し得ず、地点 II とは異なる提示方法となってしまった。不備をお詫びしたい。

なお、本文中の出土遺物に関する記述は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。

- ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗基秀明 2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』
- ◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡 X V—陶磁器分類編一』太宰府市教育委員会 2000
- ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- ◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史』別編窯業 3 中世・近世常滑系 愛知県 2012
- ◆瓦質土器：河野眞知郎 1993「中世鎌倉火鉢考—東国との関連において—」

『考古論叢神奈河』第 2 集 神奈川県考古学会

表 13 出土遺物カウント表

↓地点 I ①

地点 I 遺構外	土器 (かわらけ)						白かわらけ	土器		青磁	青白磁	白磁	高麗青磁	船載施種陶器 壺類	瀬戸	渥美・湖西		尾張・常滑		南部茶系碗	北部茶系碗	瓦器	瓦質鉢	瓦
	ロクロ		手づくね		転用円盤	南伊勢鍋		古備系碗	壺							片口鉢	壺	片口鉢 I類	片口鉢 II類					
	大・中	小	大	小																				
表土～1面	1085	8	340	4			1			75	1	4	6	8	50	389	6	48	20	6			21	130
1～2面	3695		1071	335	138	1	15	7	1	78	28	20	20	5	132	725	28	91	10	14		5	10	157
2～3面	336		190	765	124	14	1	1	1	26	7	3	3	2	207	459	5	20	20	6		7	1	
3～4面	100		114	875	234	4	2	1	1	24	1	1	1		94	86	2	12	1	5	1	1		30
4～5面	3		3	46	24					2					1	2								1
合計	5219	8	1718	2025	520	1	34	9	3	75	51	39	30	15	484	1661	41	172	51	31	1	13	32	318

地点 I 遺構外	銅銭	鉄製品				石製品・石				骨															
		釘	蓋	鉄滓	硯	砥石	滑石	石英	軽石		その他														
												大・中	小	大	小										
表土～1面	10	11			1	9																			
1～2面	25	46	1	3	5	6	22	5	2	12	4														
2～3面	5	18			8			1			1														
3～4面		4			1	1																			
4～5面		1																							
合計	40	80	1	3	6	8	40	5	3	12	5														

↑地点 I ②

地点 I 各面遺構	土器 (かわらけ)	白かわらけ	土器		転用円盤	転用取瓶	白かわらけ	土器	白磁	青白磁	青磁	船載施種陶器 壺類				
			ロクロ	手づくね									南伊勢鍋	古備系碗		
				大・中											小	大
1面	土坑	1073	8	329	9	3	1	2	13	9	27	6	5			
2面	ピット	641		252	3	2	3	2	8	5	24	28	9			
3面	土坑	717		288	437	86	23	5	12	3	16	5	3			
4面	土坑	791		228	241	98	4	4	6	6	16	4	3			
5面	溝・かわらけ集中	394		133	26	15	3	1	7	2	12	2	1			
合計	土坑	100		81	286	90	3	1	1	1	11	1	1			
	ピット	94		45	386	89	2		4		10		4			
	土坑	11		6	133	55		2			2					
	ピット	45		40	283	60	2	1	6	2	12					
	溝	7		1	12	10			1							
	溝	21		13	102	87			2	1	15					
合計		3894	8	1416	1918	595	1	1	41	17	2	60	29	145	26	17

↓地点 I ③

地点 I 各面遺構	瀬戸	渥美・湖西		尾張・常滑		瓦	土鍾	瓦質鉢	銅銭	鉄製品・鉄滓			砥石	滑石	石英	石製品・石	漆器	加工木材						
		壺	片口鉢	壺	片口鉢 I類					片口鉢 II類	刀子	釘							鍋	鉄滓・不明	砥石	碁石	滑石	石英
1面	6	6	1	198	2	28	8	76	3	1	18		6					2						
2面	2	4	1	168	2	24	4	41	3		12		2	4										
3面	1		1	238	10	34		21		20			2	1	1									
4面	2	49	2	165	2	2	1	25	1	20	1		1	1	2									
5面	1	35	2	59	2	13	1	22	1	4				4	1									
合計	11	183	4	5	1029	21	110	14	36	12	39	1	13	1	13	3	2	5	310					

↓地点 I ④

地点II I面遺構	かわらけ				白 か わ ら け	白磁	青 白 磁	青 磁	舶 載 陶 器 軸 盤	瀬 戸	瀬美		尾張・常滑			南 部 系 椀	東 播 鉢	瓦 器	瓦質土器		瓦								
	大	中	小	小							壺	壺	壺	I類	片口鉢 II類				火鉢	香炉	平瓦	丸瓦	軒平	軒丸	不明				
建IP1-イ	9		3										2	I						1									
建IP1-ロ	8	2	4							1			1																
建IP1-ハ	16		2										1																
建IP1-ニ	5			1									1																
建IP1-ホ	6												1																1
建IP2-イ	3		1					1					2																
建IP3-イ	75		2							1			2																
建IP3-ロ													2																
建IP3-ハ	13												2																
建IP3-ニ	3		1	1									3																
建IP3-ハ													1																
P01	2		3										2																
P03	7		2										1																
P05	7																												
P06	5																												
P08	4		1																										
P09	2		1																										
P010	1	1																											
P011	31	1	14				1		1				4								1								
P012																													
P013	1												1																
土坑01	10	2											3																
土坑02	9	3	1										6																
土坑04	9		5		2			2				1																	
土坑05	1	1		1									2																
土坑06	4		2										1																
土坑07	63		12	46	7			2				9																	
土坑08	61		12										3																
土坑09	15		2										6																
土坑10	50		16							1			4																
土坑011	31		4				1	5					4																
土坑012	53							2					4																
土坑013				3									7																
道路遺構上	157	8	15									2	9																
土塁状遺構	94		16				2	1			1		45																
土塁状遺構	38		15	1			1	2	4				19																
土塁状遺構	102	5	9					3					29																
土塁状遺構	54	1	9				2		4				14																
溝01	9	2						1	3				5																
溝02	15		1					1				3																	
合計	973	26	153	53	9	1	3	24	8	52	4	10	27	2	308	9	46	17	4	2	1	16	1	103	61	2	2	2	2

地点Ⅱ I面遺構	銅 銭	鉄製品			石製品・石				ガラス	骨
		釘	蓋	その他	砥石	石臼	滑石	軽石		
建1P1-イ										
建1P1-ロ										
建1P1-ハ		1						1		
建1P1-ニ										
建1P1-ホ		1								
建1P2-イ										
建1P3-イ										
建1P3-ロ										
建1P3-ハ				1						
建1P3-ニ										
建1P3-ハ										
P01										
P03		1								
P05		2								
P06										
P08										
P09										
P010										
P011										
P012	2									
P013										
土坑01										
土坑02										
土坑04										
土坑05										
土坑06										
土坑07										
土坑08										
土坑09										
土坑10		2								
土坑11			1							
土坑12										1
土坑13										
道路遺構上										
土塁状遺構								1		
土塁状遺構	1	2						2		
土塁状遺構										
土塁状遺構								1		
土塁状遺構								2		1
溝01									1	
溝02										
合計	3	19	1	1	4	1	6	1	1	2

地点Ⅱ 2面遺構	かわらけ			白 か わ ら け	白 磁	青 白 磁	青 磁	船載 施釉陶器		渥美 甗	尾張・常滑		南 山 部 茶 系 碗	北 山 部 茶 系 碗		
	ロクロ		手づくね					壺	盤		甗	I類			II類	
	大	中	小													大
P01	1		1							1						
P02	11		1													
P03	1									3		2				
P04	2															
P05	7		4													
P06	2		1													
P07	3		2									3				
P08	3		4							1		1				
P09	1		1													
P010	8		2	1						1						
P011	6		4	1								1				
P015	12		3	3			1			3		2		1		
P016	10		1	1				1				3				
P017	1		1	1												
P018	1		1	2				1				2		2		
P019	8									1				2		
P021	7		1													
P022	4		6	2						3						
土坑01	6		1									1				
土坑02																
土坑02	43		16	7	1			1	2		7	1				
土坑03	7	1	5	8				1	1		2					
土坑04	24		2								3		1			
土坑05																
土坑05	60		12	1	1	1					6	2				
土坑06	94		23	15	2						20	1				
土坑06	67		23	1							6			1		
土坑08	15		2									5	3			
道路遺構	32		6	2							4	12	3	1		
道路遺構雑土	55		3									25		2		
溝01	14		2	5	2	1				2		8				
合計	505	1	121	54	9	2	3	4	18	1	16	112	10	5	6	1

↑地点Ⅱ⑦

←地点Ⅱ⑥

地点Ⅱ 2面遺構	瓦器	瓦質 鉢	瓦			銅製品		鉄製品・鉄滓		石製品・石								
			平瓦	丸瓦	鬼瓦	不明	銭	不明	刀子	釘	鉄滓	硯	砥石	基石	滑石			
P01				3														
P02		1																
P03		1																
P04									1									
P05			1	2						2								
P06									1									
P07			2															
P08				1						1								
P09				1														
P010			2	3						1								
P011						2												
P015			1	1					1					1				1
P016									1									
P017																		
P018		1	1															
P019									1									
P021			1	1														
P022						1			1									
土坑01																		
土坑02														1				
土坑02				1										1				
土坑03			1															
土坑04			2						1									
土坑05																		
土坑05			4	4						1								1
土坑06	1								1						1		1	
土坑06										2								
土坑08																		
道路遺構			19	4														
道路遺構覆土			6															
灌01			1	1	1													1
合計	1	3	41	22	1	3	6	1	1	1	38	2	3	3	1	1	2	

←地点Ⅱ⑤

地点Ⅱ 4面遺構	かわらけ			白磁	青磁	渚美 甕	尾張・常滑		北部 山茶系 碗	瓦器	土器・土製品		瓦			銅錢	鉄釘	滑石	土 台 付 甕	骨
	大	ロクロ					甕	片口鉢 I類			土錘	壺	平瓦	丸瓦	不明					
		小	大																	
P01	1	1														1				
P01A							6													
P02			1			2														
P03	13	3	4	1			1							1		1				
P04			4	1																
P05	2	2	3																	
P06			2																	
P07			1																	
P08			1																	
P013				2																
P015			2	1																
P017	2		1																	
P019			1																	
P021			2			1														
P022			1																	
P024			3																	
P025	1		1			1	1	1	1											
P026			1																	
P028			5	2																
P029			2			1														
P031	1	18	3				1													
P032			2	2																
P033			1	2				2												
P035	1	3	1																	
P036			1	1																
P041			1																	
P042			2	1																
P044			2																	
P045			1	1																
P046	2	3	3																	
P047	1		1																	
P048			1	1	1															
P050			2																	
P052	1		1																	
P053			3					1												
P054			2	2																
P055			2					1		1										
P059								1												
P060			2	1																
P061																				
P064			1																	
P065			1																	
P066			2	2																

←地点Ⅱ ㊸

地点Ⅱ 4面遺構	かわらけ			白磁	青磁	渥美 甗	尾張・常滑		北部 山茶系 碗	瓦器	土器・土製品		瓦			銅錢	鉄釘	滑石	土師器 付甗	骨
	ロクロ	手づくね					甗	片口鉢 I類			土錘	壺	平瓦	丸瓦	不明					
		大	小																	
P067			1				1						1							
P068			2																	
P070			2																	
P071			4																	
P072					1															
P074		1	2																	
P075						1														
P077			2			1														
P078	1		1		1															
P079								1												
P080																				
P081			1																	
P081					1															
P082	2		2																	
P083			1				1													
P084	2		1			1										1				
P086						1														
P093						1														
P096						1														
P099	1		3																	
P0100			6			1														
P0102			1																	
P0104																				
P0105			3											1						
P0110																				
P0111																				
P0122					1															
土坑03	2	3	35	8			5	2												
土坑04	2	1	9	3			6		1					1						
土坑012			5	1										1						
土坑016	1	2	7	8			2	1	3							1				
道路遺構	4	2	32	8	1		19	21	4					1		1		2	1	
溝状遺構02			6	2																
溝状遺構03			2	1																
溝状遺構04			4	2																
合計	11	13	128	50	4	1	28	37	10	1	0	1	1	1	1	4	1	2	1	

↑地点Ⅱ⑩

地点Ⅱ⑫→

地点Ⅱ 5面遺構	かわらけ			
	ロクロ	手づくね		
	大	小	小	
建物1-ハ-1			3	
建物1-ハ-2				
建物1-ロ-3			1	
P05				
溝01	2	1	6	2
溝02				
合計	2	2	7	5

地点Ⅱ⑬→

地点Ⅱ 5面遺構	尾張・常滑 甗	片口鉢 I類	加工 木材	種子
建物1-ハ-1			2	
建物1-ハ-2			4	
建物1-ロ-3			1	1
P05				
溝01	1	1	8	
溝02			2	
合計	1	1	17	1

第五章 調査成果のまとめ

ここまで、検出された遺構および出土遺物についてが概略を述べてきた。遺物実測が終わってのち、調査担当者の離職などもあり、暫く時間を置いてからの整理作業再開となった。筆者自身が現地調査に従事していないため図面・写真など記録類の掲載に留まり、それ以上の踏み込んだ所見を示せなかった点、レイアウト上の余白の多さと併せてお詫びしたい。

以下、本章では各遺構面の年代観と遺構変遷の特徴を整理し、併せて周辺での発掘成果との関連にも目を向けながら、本調査成果のまとめを述べたい。

第1節 各遺構面の年代観と変遷

1面を検出するまでに、大きく2段階の遺物が出土した。新しいところでは14世紀中葉以降の資料が主体となり、一部15世紀代に下る要素も見て取れる。古い段階は13世紀後葉～14世紀前葉の遺物構成を示している。

1面では、地点Ⅱの東半部で現行の荏柄天神社参道と同一方向で延びる南北道路と、これに付随する側溝や柱穴列を検出し、地点Ⅰではピット・土坑が多数検出されたものの、遺構分布の基本軸が不明瞭なこともあり、建物復元には至らなかった。遺構からの出土遺物はロクロかわらけを主体に龍泉窯系の青磁碗Ⅱ・Ⅲ類や白磁碗・皿Ⅸ類、常滑5～6b型式の甕など、中世鎌倉で消費の最盛期を迎える段階の遺物構成を見て取れる。古瀬戸中-I期頃の仏供を模したと思しき在地土器(図34-327)等を含むことから、1面の存続年代としては13世紀後葉～14世紀前葉の幅で考えておきたい。

1面下から2面までの掘り下げ時の出土遺物は、概ね13世紀中葉頃の様相を示しているが、2面との相対から13世紀後葉まで含まれるものと理解したい。

2面でも1面と概ね同位置に南北道路と両側溝を確認し、地点Ⅰでは建物復元に至らなかったもののピット多数と、真北に近い軸線を取る溝1条を検出した。後者は、部分的とはいえ鎌倉時代初期となる5面時の遺構軸線が2面段階まで継承された可能性を窺わせる事例と言える。2面遺構からの出土遺物はロクロかわらけを主体に、少量の手づくねかわらけを含んでいる。常滑の甕には少量ながら6型式の資料も含まれるので、13世紀中葉を中心に、後半まで下る要素も見出せた。

2面下から3面検出に至る掘り下げ時の出土遺物は、ロクロかわらけが主体となるも手づくねの存在感は確実に増しており、総じて13世紀第2四半期頃の遺物構成と見なすことができる。

3面においても1・2面と同じ位置に南北道路と両側溝が展開し、調査区の西半部では真北軸を取る掘立柱建物3棟を確認できた。この段階には、建物軸線として5面以来の真北軸が採用されていたことを明らかにできた。3面遺構の出土かわらけは、手づくねの出土量がロクロ成形品と拮抗、ないし凌駕するようになる。5型式の常滑甕や龍泉窯系青磁碗Ⅰ類など、総体として13世紀第2四半期～中葉頃の遺物構成と見なすことができる。

3面下から4面までの掘り下げ時には、手づくねかわらけの出土量がロクロかわらけを大きく上回る(表13参照)。図示できた遺物でも両者の数量は拮抗しており、3面段階に比べ、手づくねの存在感は確実に増していると言える。これに常滑5型式の甕や龍泉窯系青磁碗・皿Ⅰ類などが伴い、全体として13世紀前葉の遺物構成を示している。

4面段階では地点Ⅱ東半部での南北道路は認められず、調査区の全域で多くのピットが重複して検出された。このうち、地点Ⅰでは掘立柱建物3棟が、地点Ⅰでは柱穴列3列を復元できた。柱穴間の距離が一定しない箇所もあり多少の疑問は残るが、基本的に真北を意識した建物軸線が採用されていた様子が窺える。柱間距離は掘立柱建物が210cm、柱穴列では200cmが基調となっていたと思われるが、前記のように一定しない部分も散見される。

4面遺構の出土かわらけは手づくね成形品が主体を占めている。青磁の碗・皿は龍泉窯系Ⅰ類に加え同安窯系の資料が見られ、繰り返しになるが、図示し得た遺物の中に龍泉窯系青磁碗Ⅱ類（蓮弁文碗）がない点には留意したい。この他、常滑4～5型式の甕や永福寺Ⅰ期の所用瓦が含まれ、総体として13世紀初頭～前葉の遺物構成を示している。

4面下から5面への掘り下げ時に出土した遺物のうち、かわらけは手づくね成形品が大部分を占めるようになる。その他の遺物は非常に僅少であり、龍泉窯系Ⅰ類と同安窯系の青磁碗が若干量認められる。概ね、12世紀末～13世紀初頭の遺物構成と見なすことができる。

5面は中世基盤層となる黒褐色土層の上面で、地点Ⅰ・Ⅱとも未発掘部分を多く残した中、ほぼ真北の軸線を取る2条の溝と、地点Ⅱのほぼ全域を占める格好で総柱式の掘立柱建物が検出された。後者は東西2間×南北3間までを確認でき、西辺には縁となろう、半間分の柱穴が付随していた。身舎部分の柱間距離は240cm規格と見られ、4面以降の200～210cmスパンに比べ大幅に長い。溝と同じく真北を意識した建物軸が取られている。建物範囲内にある溝2とは新旧関係があるものと見なせるが、西辺に沿って延びる溝1については、同時存在していた可能性も考えられる。

5面遺構からの出土遺物は非常に僅少であり、かわらけの数量は手づくねがロクロを上回っている。手づくねは薄手で低平な器形を呈し、ロクロでは底径が小さく内湾気味に立ち上がる資料が含まれる。後者は古代末における土師質土器の器形的特徴を留めたものと言え、これ以後、京都系手づくね土器の影響を受けて低平化していくと考えられている。溝1からは永福寺Ⅰ期の所用瓦が3点出土しており、同寺の創建開始期までは埋没していなかったことを物語っている。他の陶磁器類の様相も併せ見れば、12世紀末～13世紀初頭の遺物構成と見なせよう。この時期、柱間240cmで縁の取り付く掘立柱建物が存在した事実は特筆すべきで、鎌倉でもごく早い段階の屋敷地が当地一帯に展開していた可能性を示している。調査範囲の制約から建物全体の規模を知り得ない以上、この主が属していた階層などを特定することは難しいが、今後、周辺で発掘調査を進めるに当たり留意すべき事例となろう。

第2節 周辺調査成果との関連

次に、近隣の調査成果を参照しつつ、遺構の方向軸を中心に検討を試みたい。

図153には、溝や道路・土塁といった土地区画に関わる遺構の検出地点のうち、代表的な事例を抽出して掲げた。図中の地点番号は、図1および表1と対応しているので、併せて参照されたい。

地点7と26では、二階堂大路の側溝と見られる東西溝が確認されている。地点7では北側溝の北岸が、地点26では南側溝が検出されている可能性があり、この間に挟まれた現行の市道下に中世二階堂大路も延びていたことが考えられる。ともに、鎌倉時代の初期段階まで遡及し得る。

地点6では、東側調査区のトレンチⅡにおいて、表土直下から荏柄天神社参道に並行する土塁状遺構が検出され、西側調査区となるトレンチⅠの中世基盤層上（標高11.1m）では、ほぼ真北方向へと延びる溝が検出されている。層位的には前者が確実に新しくなり、本地点の3面段階で荏柄社参道に並行

する道路が出現し、その後、1面段階まで継続する状況と合致する。地点6では「土塁状遺構」と報告され、中世の荏柄社参道や築地塀などとなる可能性にも言及されている。図153における展開状況から見て、本地点の道路と連続する遺構と見て大過なく、その機能・用途については、改めて検討していく必要があるだろう。荏柄社参道に近似した方向軸は、地点25検出の複数の溝にも見ることができる。現時点では正式報告が未刊行であるため、他の軸線を取る溝や柱列との前後関係については明らかでないが、当地域では、時間経過や空間構成の違いに伴う複数の軸線が採用されていた様子が窺い知れよう。引用した報告書、参考文献については、表1および第1章末尾を参照されたい。



図153 周辺調査地の遺構展開図



1. 地点 I 1面全景 (南から)



2. 地点 I 1面土坑8 (東から)



4. 地点 I 1面土坑41出土遺物 (四葉硯)



3. 地点 I 1面土坑41 (北から)



5. 地点 I 1面土坑42 (北から)

図版2



1. 地点I 1面土坑42 遺物出土状況(北から)



5. 地点I 1面ピット34(西から)



2. 同上 土製円盤アップ



6. 地点I 1面ピット9 遺物出土状況(東から)



3. 地点I 1面 遺物出土状況(西から)



7. 地点I 1面 遺物出土状況(西から)



4. 同上 ローアングル(西から)



8. 地点I 1面泥岩ブロック集中範囲(南から)



1. 地点 I 2 面全景 (南から)



2. 地点 I 2 面溝 1 (南から)



3. 地点 I 2 面土坑 35 (北から)



4. 地点 I 2 面ピット 23 (東から)



1. 地点 I 3面全景 (東から)



2. 地点 I 3面掘立柱建物 1 (北から)



4. 地点 I 3面 礎石・遺物出土状況 (北から)



3. 地点 I 3面掘立柱建物 1 Pニ-2 (東から)



5. 地点 I 3面 遺物出土状況 (東から)



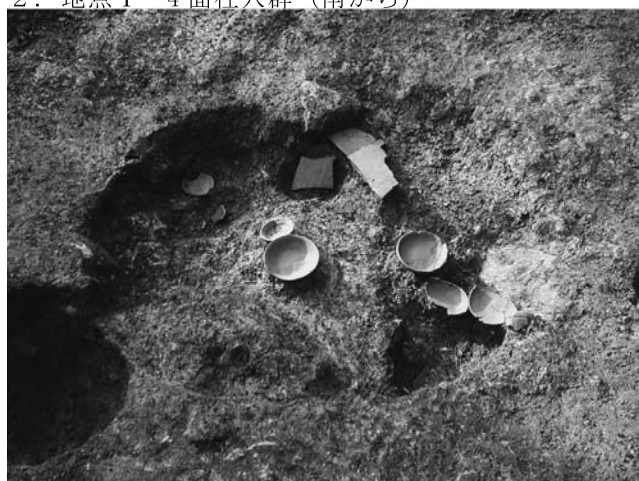
1. 地点 I 4面全景 (東から)



2. 地点 I 4面柱穴群 (南から)



4. 地点 I 4面掘立柱建物 1 P12 (東から)



3. 地点 I 4面土坑 2 (東から)



5. 地点 I 4面掘立柱建物 1 P10 (西から)



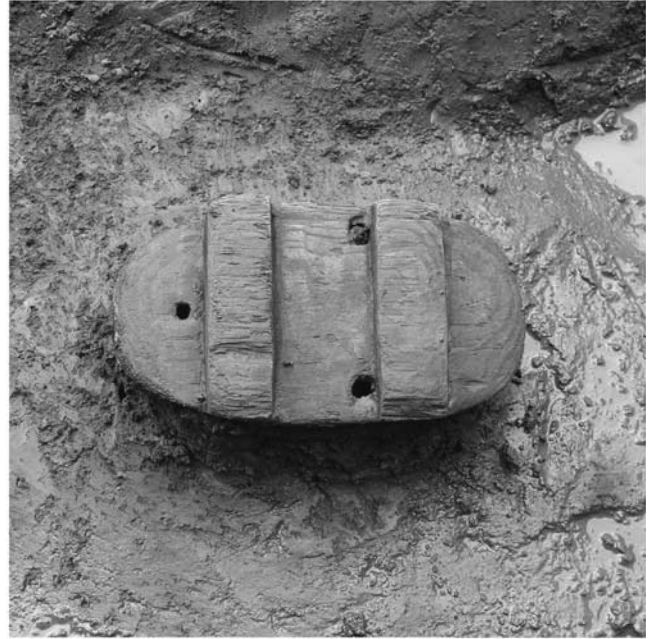
1. 地点 I 調査区壁土層断面 (南から)



2. 地点 I 5面全景 (南から)



3. 地点 I 5面溝1断面 (南から)



4. 地点 I 5面溝1 下駄出土状況 (東から)



5. 地点 I 5面溝1 (北から)



1. 地点Ⅱ 表土掘削作業（北東から）



2. 地点Ⅱ 1面道路状遺構（北から）



3. 地点Ⅱ 1面道路状遺構・溝02（北から）



4. 地点Ⅱ 1面全景（西から・手前の水溜まりが地点Ⅰ）



1. 地点Ⅱ 1面全景（東から）



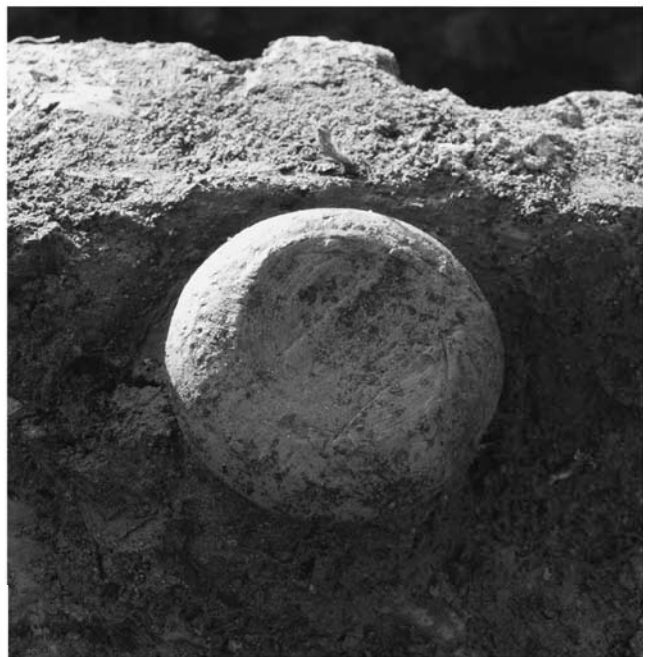
2. 地点Ⅱ 1面道路状遺構・柱穴列（北から）



3. 地点Ⅱ 1面柱穴列1・溝01（北から）



4. 地点Ⅱ 1面柱穴列2・溝02（北から）



5. 地点Ⅱ 1面土坑011 かわらけ出土状況（東から）



1. 地点Ⅱ 1面道路状遺構下①（北から）



2. 地点Ⅱ 1面柱穴列1・3（北から）



3. 地点Ⅱ 1面 清掃作業（北から）

図版 10



1. 地点Ⅱ 2面土坑02 (南から)



2. 同上 遺物出土状況 (南から)



3. 地点Ⅱ 2面土坑06 (南から)



4. 地点Ⅱ 2面土坑08 合わせ口かわらけ (北から)



5. 地点Ⅱ 1面道路状遺構下② (北から)



6. 地点Ⅱ 2面作業風景 (北から)



1. 地点Ⅱ 2面道路状遺構 (北から)



2. 地点Ⅱ 2面溝02 遺物出土状況 (かわらけ)



3. 地点Ⅱ 3面木組み遺構断面 (西から)



4. 地点Ⅱ 2面下～3面 道路状遺構断面 (北から)



5. 地点Ⅱ 2面道路状遺構下～3面溝01断面 (北から)



1. 地点Ⅱ 3面全景（東から）



2. 地点Ⅱ 3面道路状遺構（北から）



4. 地点Ⅱ 3面西半部（北から）



3. 地点Ⅱ 3面下整地土（南から）



1. 地点Ⅱ 3面道路状遺構下（北から）



2. 地点Ⅱ 4面全景（西から）

図版 14



1. 地点Ⅱ 4面溝状遺構03 (東から)



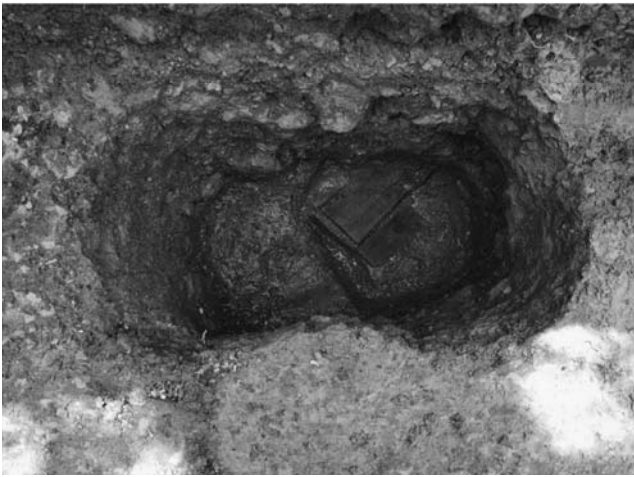
2. 地点Ⅱ 4面土坑01断面 (南から)



3. 地点Ⅱ 4面土坑03断面 (西から)



4. 地点Ⅱ 4面土坑04断面 (西から)



5. 地点Ⅱ 4面ピット040 (北から)



6. 地点Ⅱ 4面ピット093 (北から)



1. 地点Ⅱ 5面全景（西から）



2. 地点Ⅱ 5面溝2（北から）



3. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1（西から）



4. 同上（東から）



1. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴イ-1 (北から)



4. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1-ロ-3 (北から)



2. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴ロ-2断面 (北から)



5. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴ロ-4 (北から)



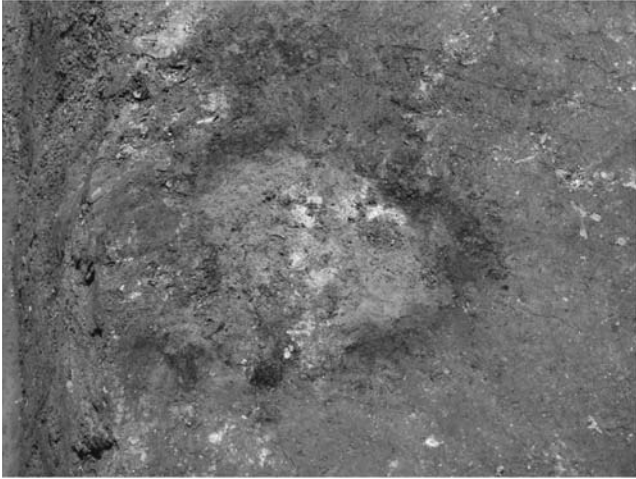
3. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴ロ-2 (北から)



6. 地点Ⅱ 5面上 板材出土状況 (北から)



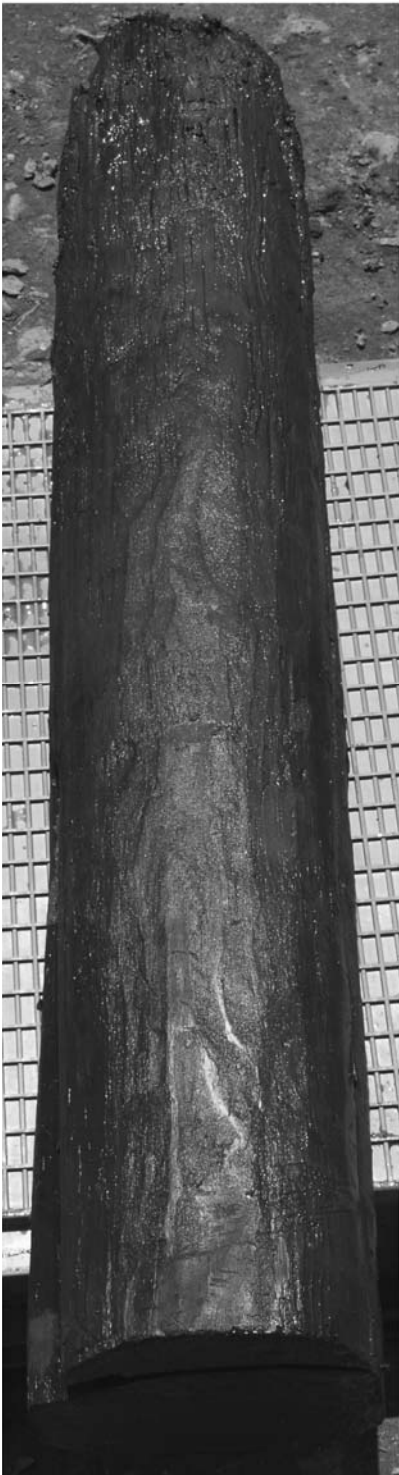
7. 地点Ⅱ 調査区北壁断面 (南から)



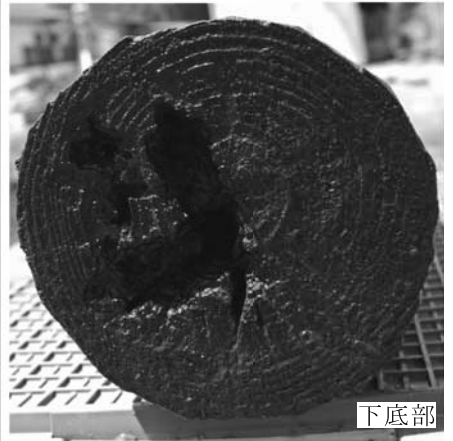
1. 地点Ⅱ 5面上 焼土検出状況（北から）



2. 地点Ⅱ 5面 掘立柱建物1 柱穴口・ハ列（北から）

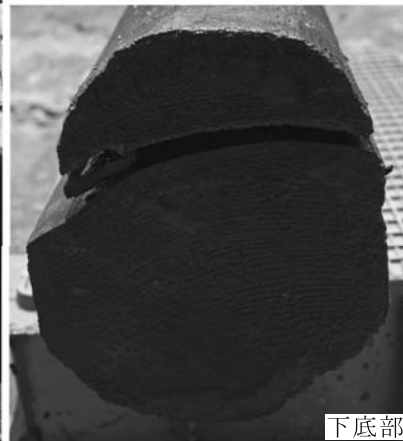


◀▼ 4. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴イ-1 柱材



下底部

◀▼ 3. 地点Ⅱ 5面掘立柱建物1 柱穴ロ-2 柱材



下底部

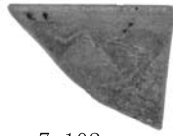




7-99



7-100



7-102



7-103



7-105



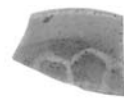
7-106



7-107



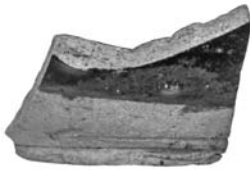
7-111



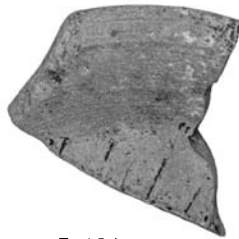
7-118



7-119



7-122



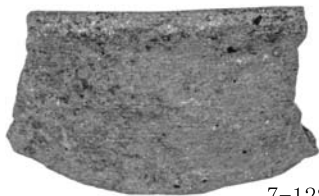
7-124



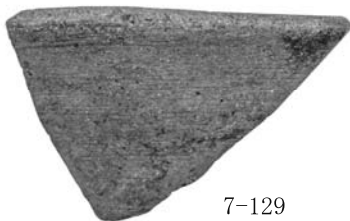
7-126



7-127



7-128



7-129



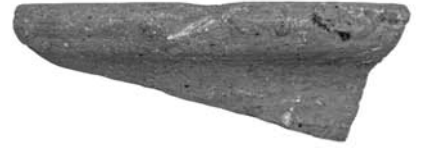
7-130



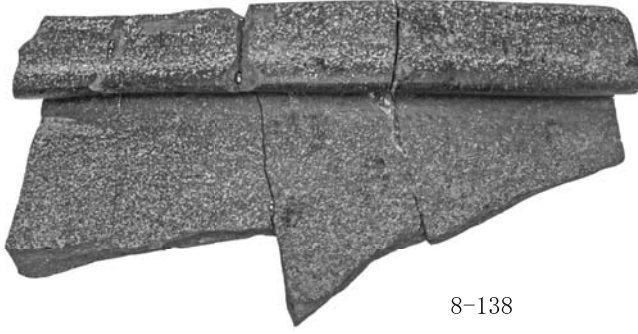
8-134



8-135



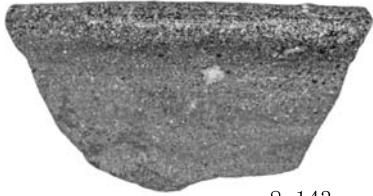
8-140



8-138



8-142



8-143



8-147



8-148



8-149



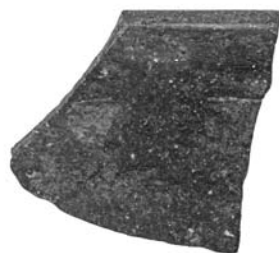
8-150



8-151



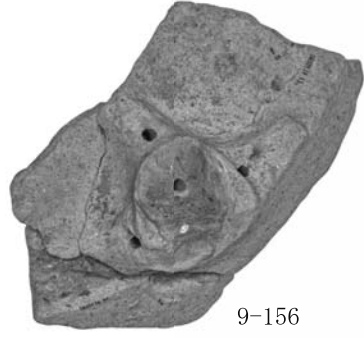
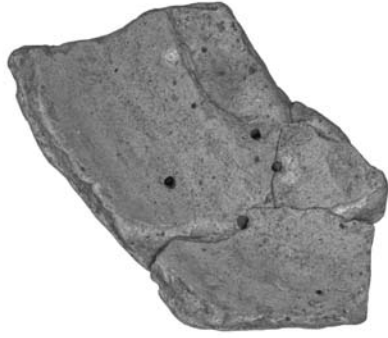
8-152



8-153



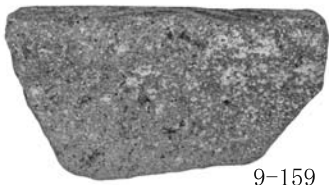
8-155



9-156



9-158



9-159



9-161



9-164



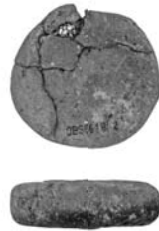
9-165



10-170



11-173



12-175



12-176



12-177



12-178



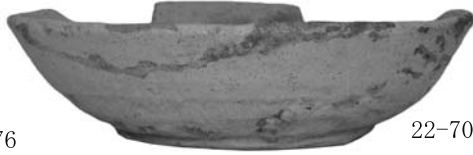
21-47



23-87



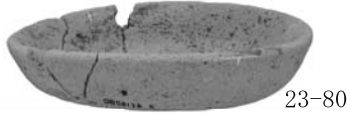
23-76



22-70



23-78



23-80



23-88



23-89



24-93



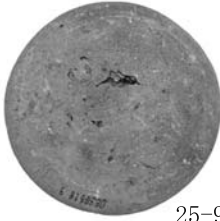
25-103



25-114



25-134



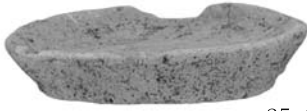
25-95



25-104



25-135



25-100



26-142



27-149



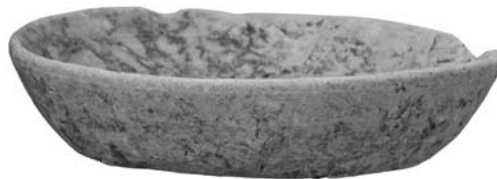
27-153



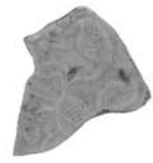
27-159



27-162



27-170



27-171



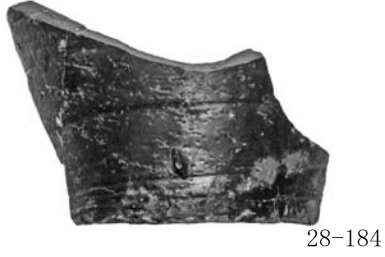
27-172



28-179



28-183



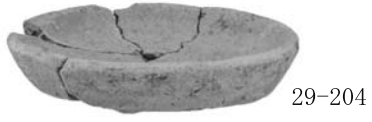
28-184



28-198



29-203



29-204



29-205



29-206



29-210



29-212



29-218



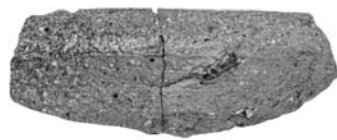
29-222



29-224



29-225



29-226



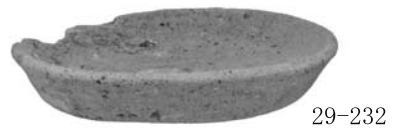
29-228



29-229



29-230



29-232



30-238



30-239



31-242



31-243



31-244



31-245



31-251



31-256



31-264



31-267



32-285



32-286



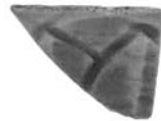
32-292



33-298



33-299



33-309



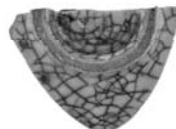
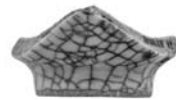
33-312



33-300



33-310





33-314



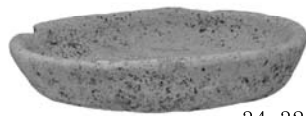
33-321



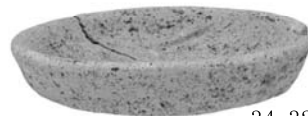
33-322



34-323



34-325



34-326



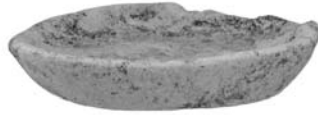
34-327



34-328



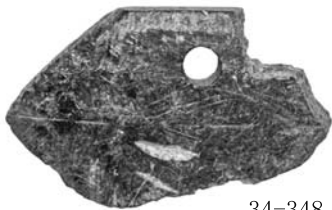
34-341



34-343



34-345



34-348



35-356



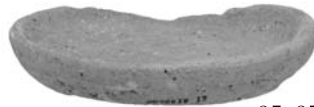
35-357



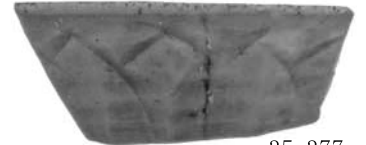
35-368



35-371



35-373



35-377



35-381



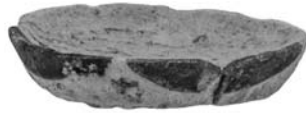
35-383



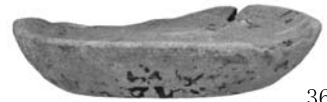
35-384



36-4



36-5



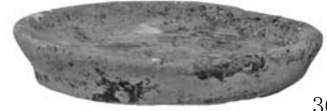
36-12



36-13



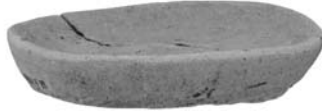
36-21



36-29



36-31



36-33



36-48



36-56



36-60



36-64



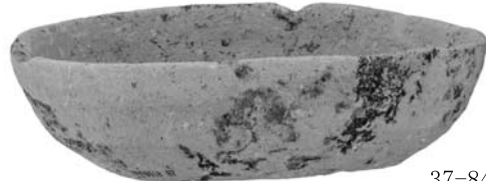
36-69



37-70



37-73



37-84



37-93



37-94



37-101



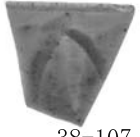
37-102



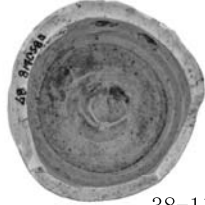
37-103



38-105



38-107



38-114



38-116



38-117



38-118



38-119



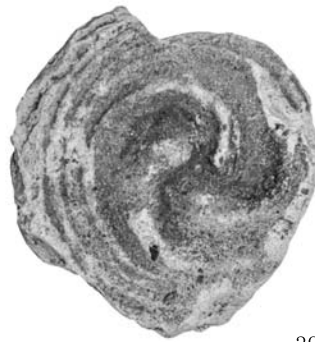
38-132



38-135



38-123



39-136



39-137



40-143



40-144



41-5



41-6



41-14



41-29



41-33



41-34



41-38



41-45



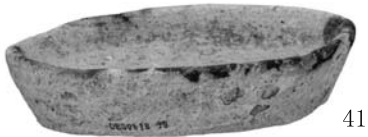
41-47



41-51



41-52



41-53



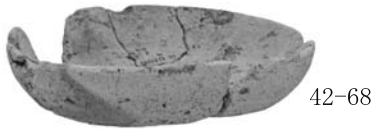
41-56



41-57



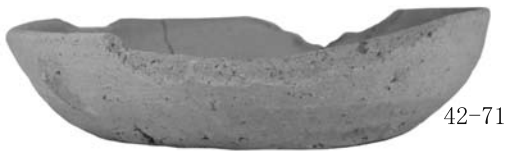
41-59



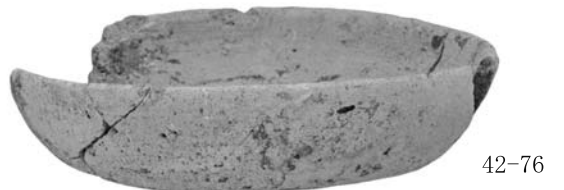
42-68



42-69



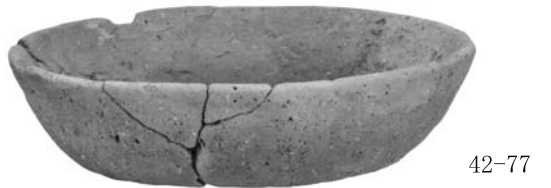
42-71



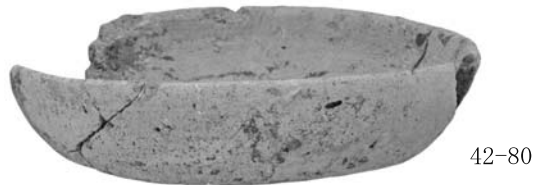
42-76



42-79



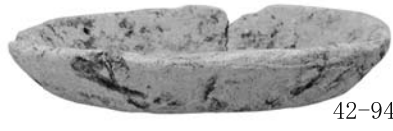
42-77



42-80

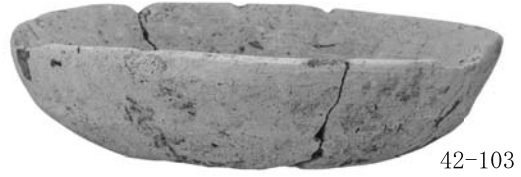


42-86



42-94

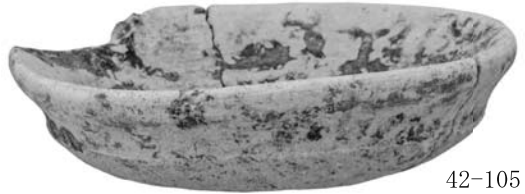
42-96



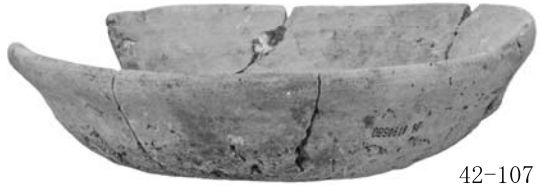
42-103



42-88



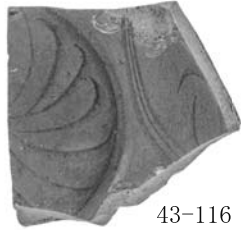
42-105



42-107



43-113



43-116



43-118



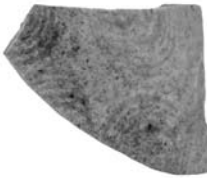
43-119



43-125



43-129



43-130



43-131



43-132



44-138



44-142



44-144



44-145



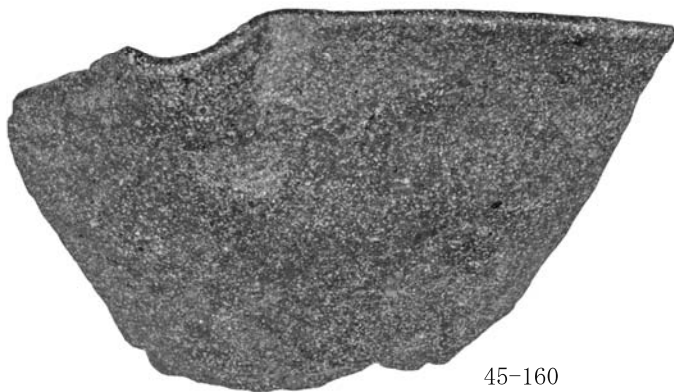
45-155



45-157



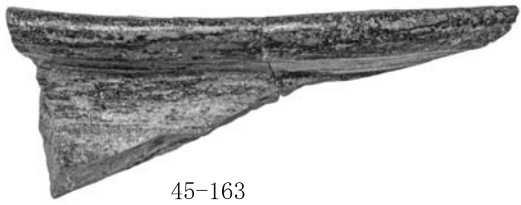
45-159



45-160



45-161



45-163



45-164



46-165



46-170



46-172



47-175



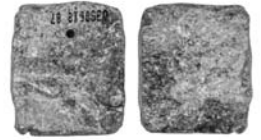
49-181



49-182



49-183



50-184



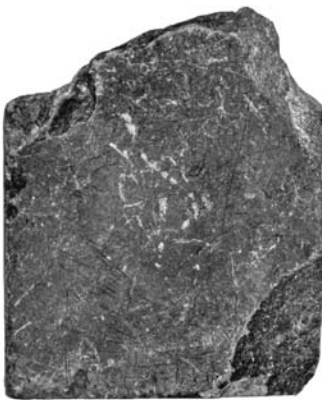
50-185



50-186



50-187



50-188



50-189



50-190



50-193



59-1



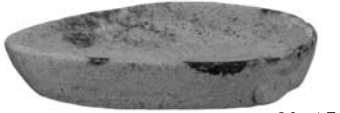
59-2



60-13



60-14



60-15



60-37



60-31



60-32



60-34



60-36



60-38



60-41



61-42



61-43



61-44



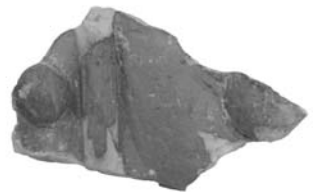
61-45



61-47



62-48



62-49



62-53



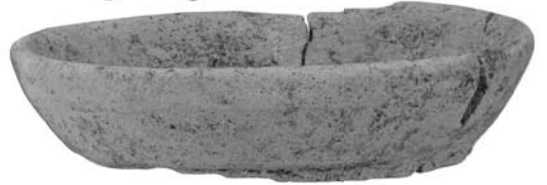
62-55



63-62



63-70



63-76



63-67



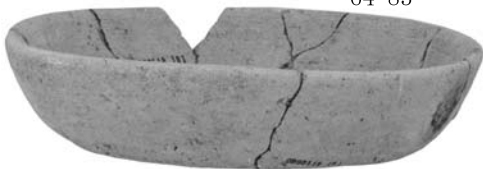
63-79



64-83



64-89



64-93



64-98



64-106



65-111



65-127



65-114



65-129



66-148



66-145



66-151



66-153



66-154



67-158



67-155



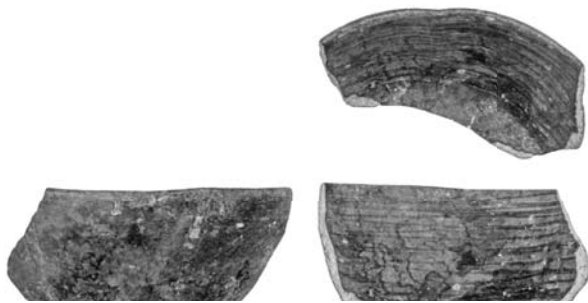
67-162



67-165



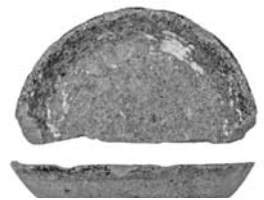
67-166



67-156



67-176



67-177



68-192



68-201



68-202



68-196



68-198



69-205



69-207



69-212



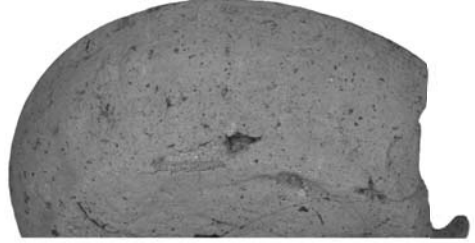
69-208



70-214



71-224



71-226



71-227



70-215



70-216



71-231



71-232



71-236



72-238



72-246



72-248



72-249



72-250



72-251



72-252



72-255



72-259



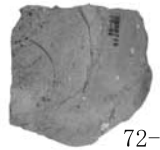
72-253



72-265



72-267



72-268



72-282



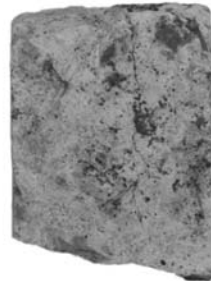
73-286



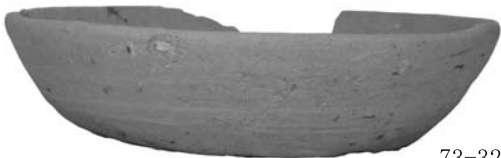
73-239



73-293



73-304



73-321



73-322



74-326



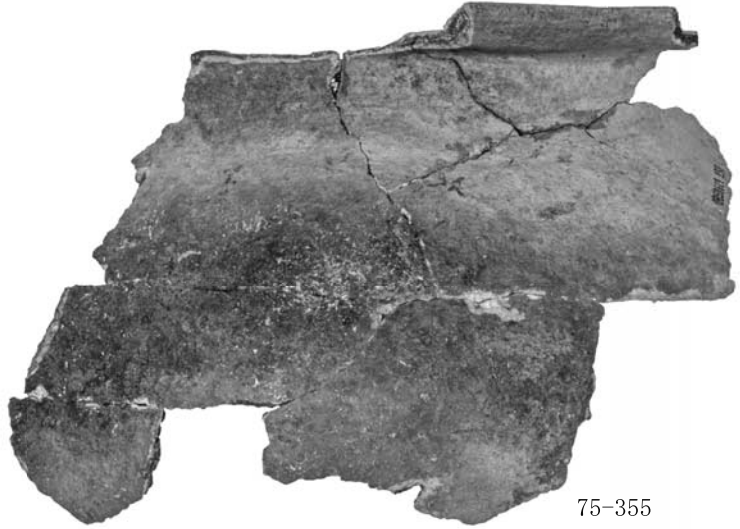
74-329



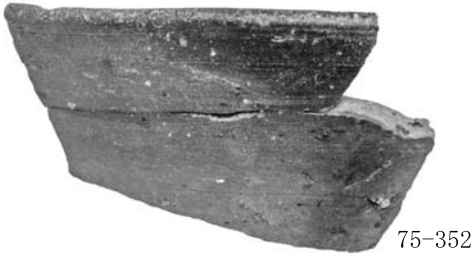
75-346



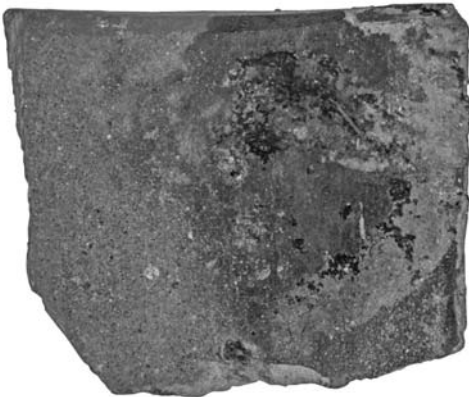
74-327



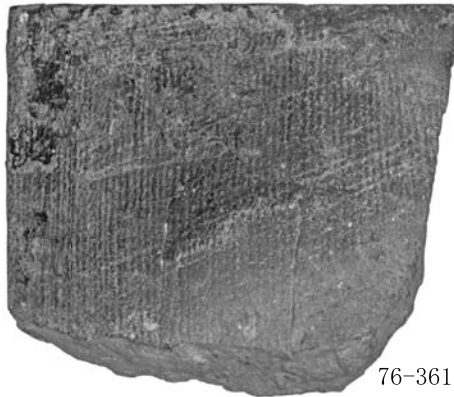
75-355



75-352



76-361



76-363



77-367



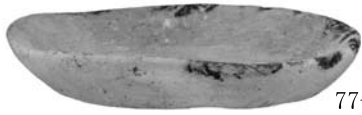
77-368



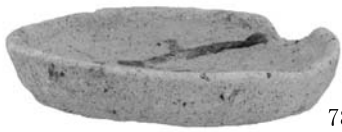
77-372



77-381



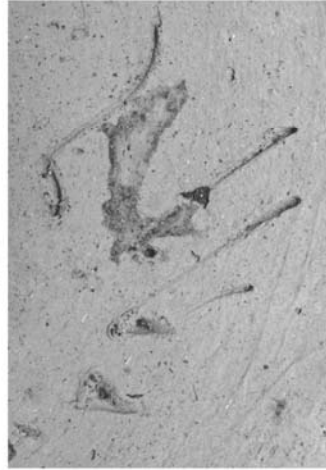
77-386



78-392



78-390



内面拡大



78-399



78-397



78-400



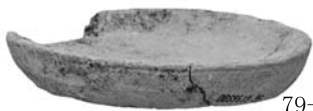
78-401



78-406



79-409



79-410



79-411



79-421



79-422



79-414



79-426



79-427



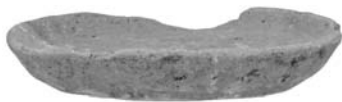
79-430



81-437
(各パーツ)



81-442



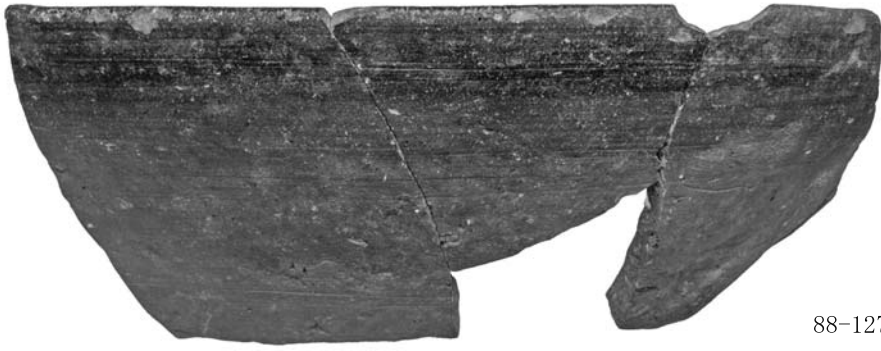
81-443



82-450







88-127



88-130



88-134



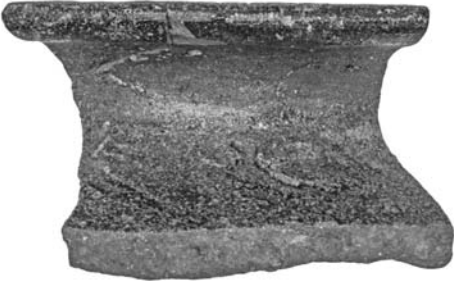
88-135



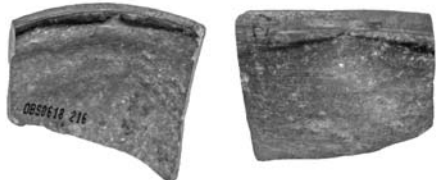
89-138



89-140



89-139



89-145



89-146



89-147



90-151



92-155



92-156



92-158

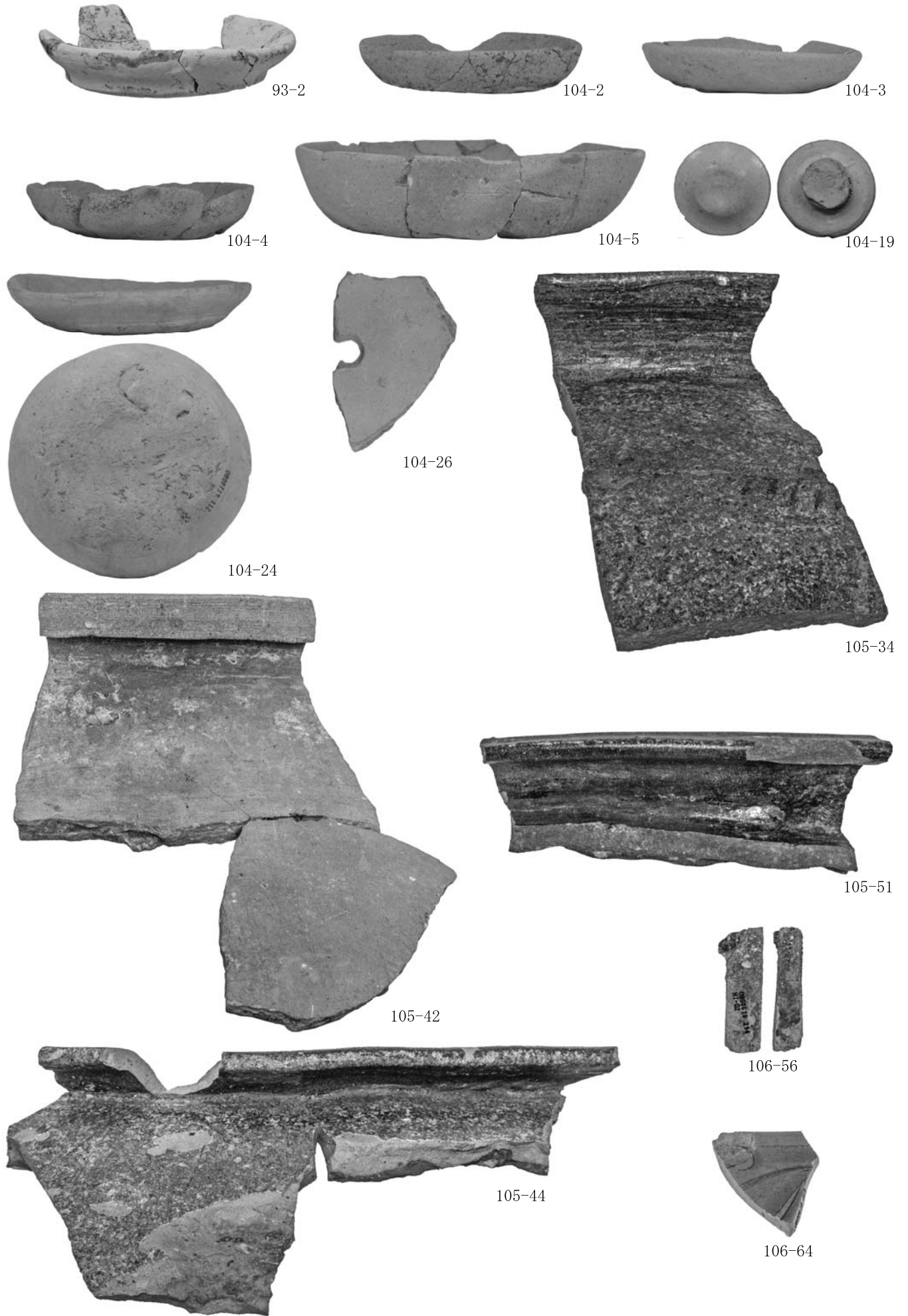


92-161

扩大

92-159

图版 50





106-65



107-104



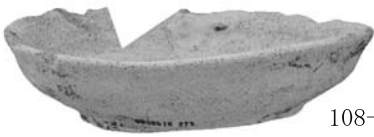
106-71



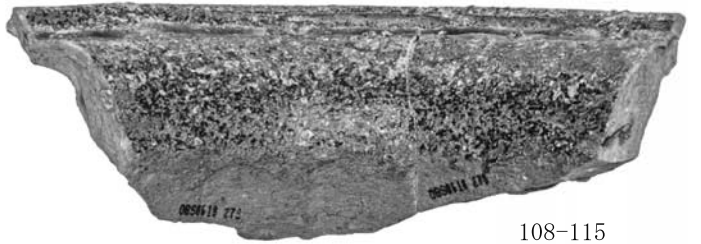
106-72



107-78



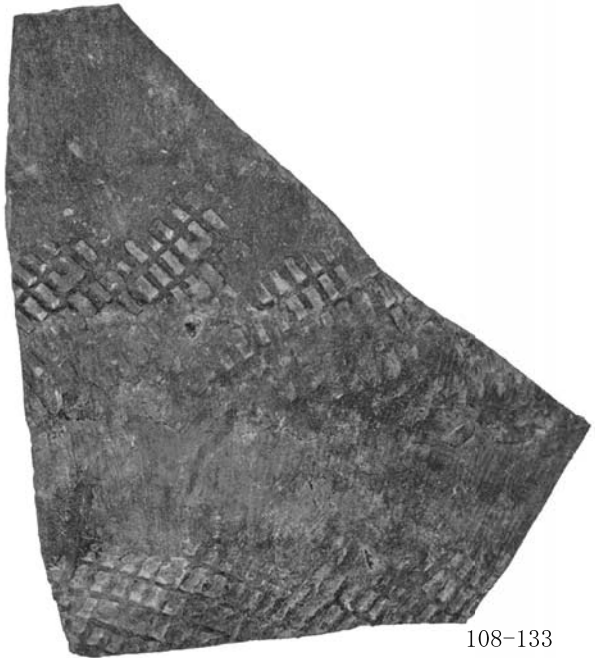
108-112



108-115



108-116



108-133



108-122



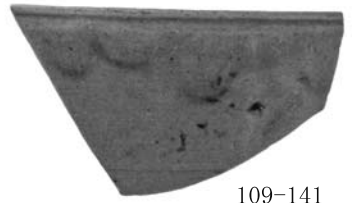
108-132



108-134



109-136



109-141



109-153



109-157



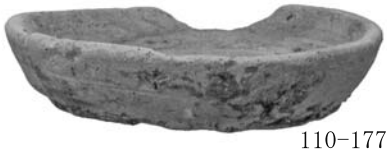
110-159



110-165



110-174



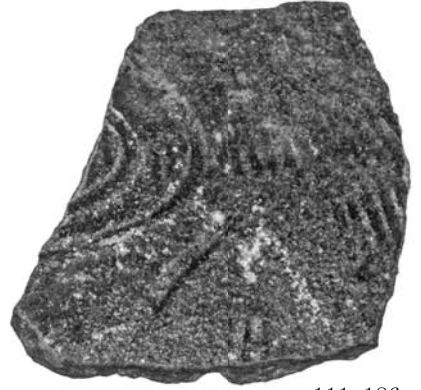
110-177



111-180



111-184



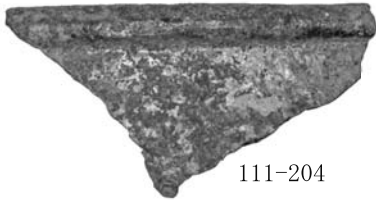
111-186



111-194



111-201



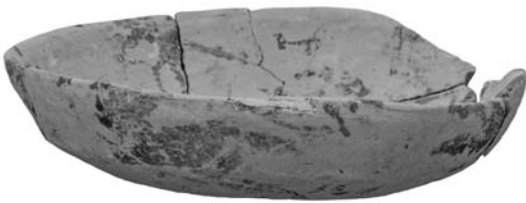
111-204



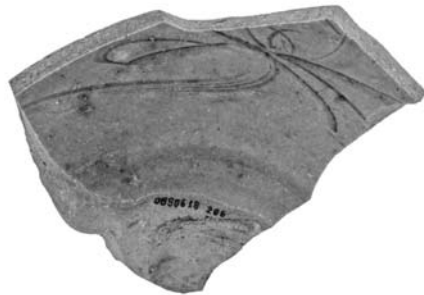
111-205



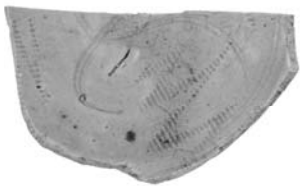
112-219



112-220



112-238



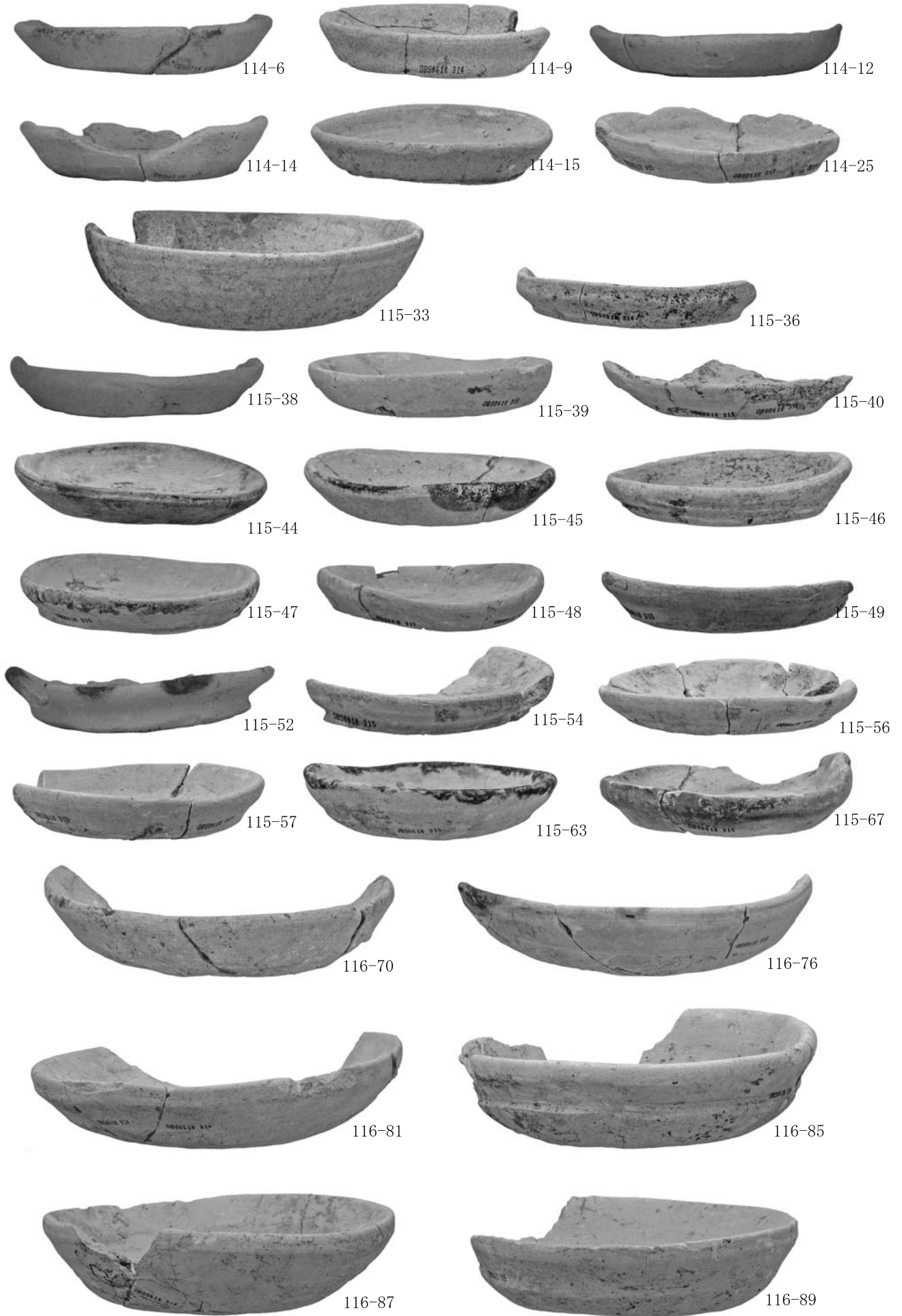
112-229



112-230



113-240





116-91



116-92



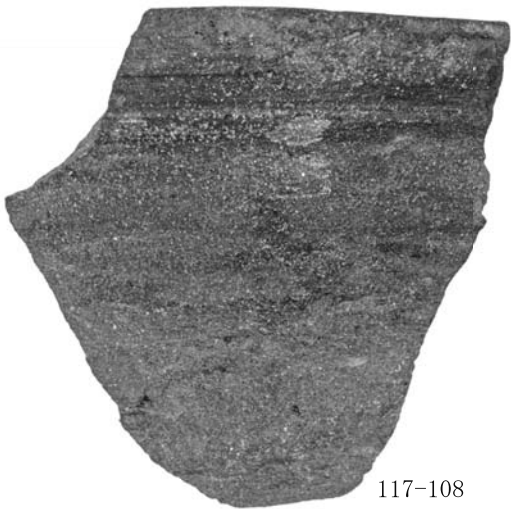
116-98



116-103



116-102



117-108



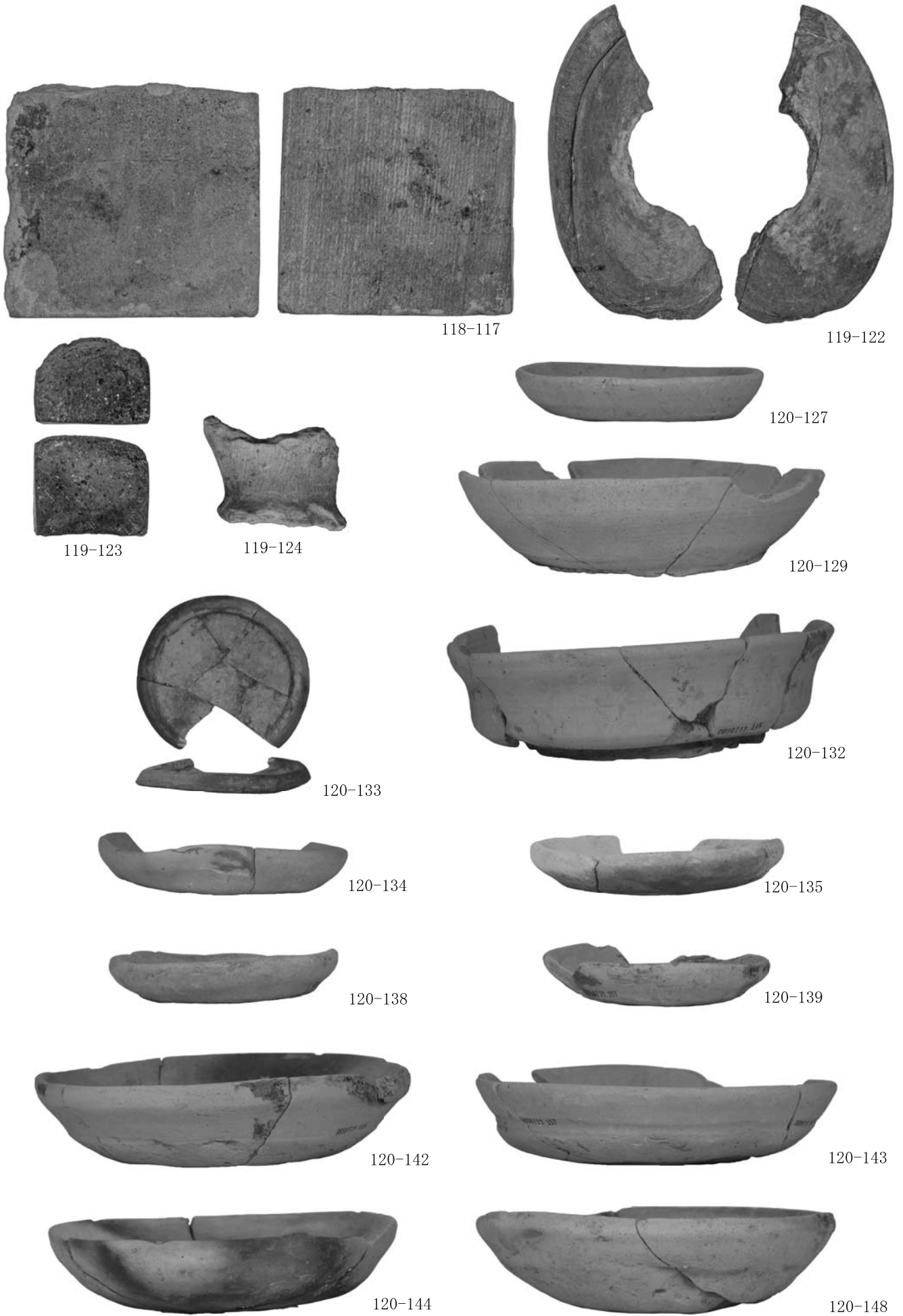
117-112



117-111



118-115





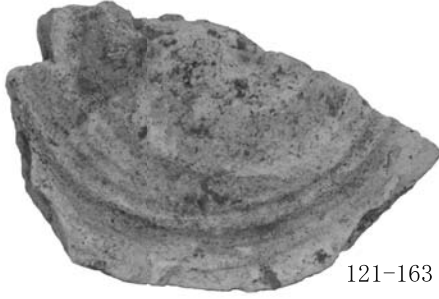
120-153



121-158



121-162



121-163



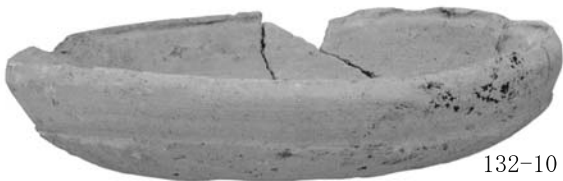
122-167



131-1



132-8



132-10



132-9



132-19



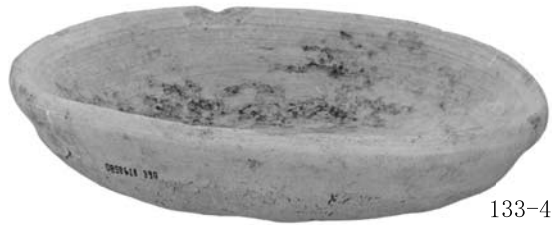
133-26



133-26



133-28



133-42



133-46



133-49



133-52



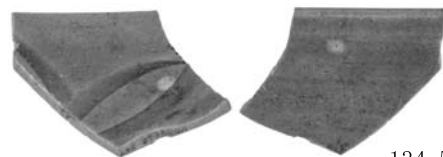
133-55



133-38



133-56



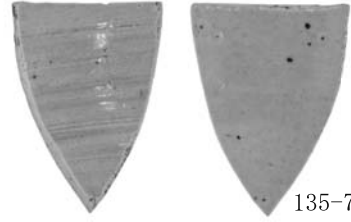
134-59



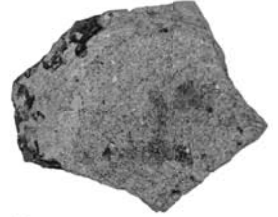
134-61



134-71



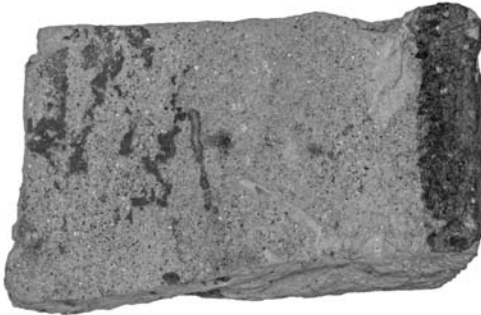
135-76



135-83



135-88



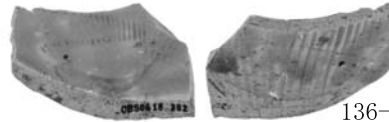
134-67



136-101



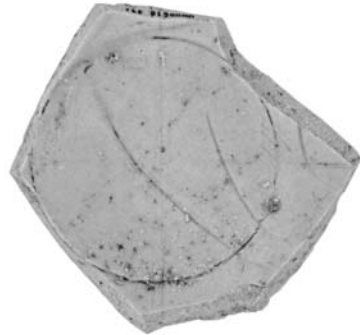
136-107



136-110



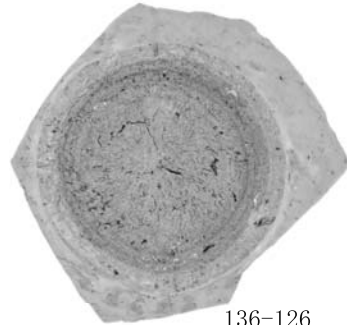
136-113



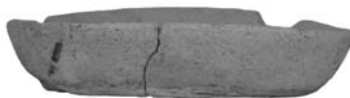
136-120



136-122



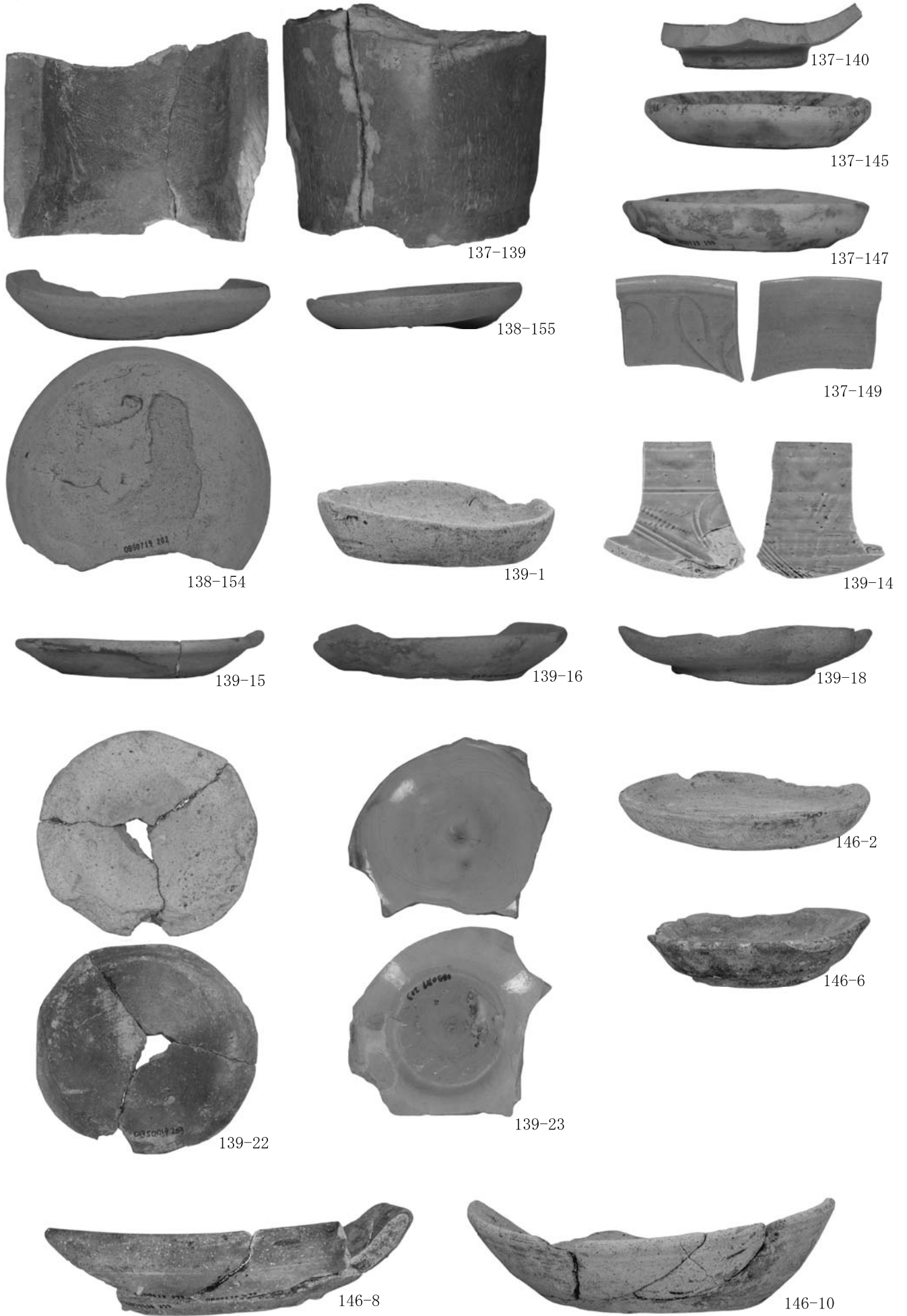
136-126



137-127



137-132





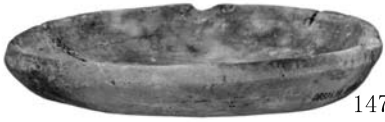
146-11



147-16



147-20



147-22



147-25



147-26



147-33



147-34



147-41



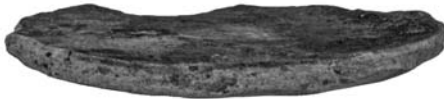
147-43



148-45



148-51



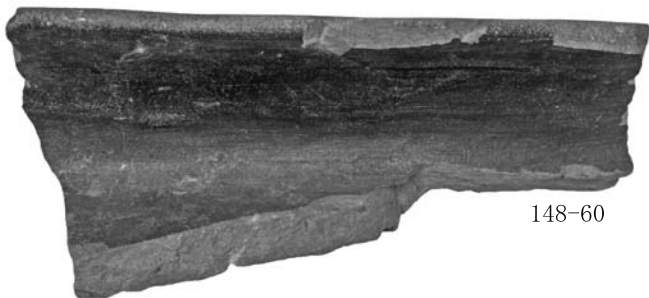
148-52



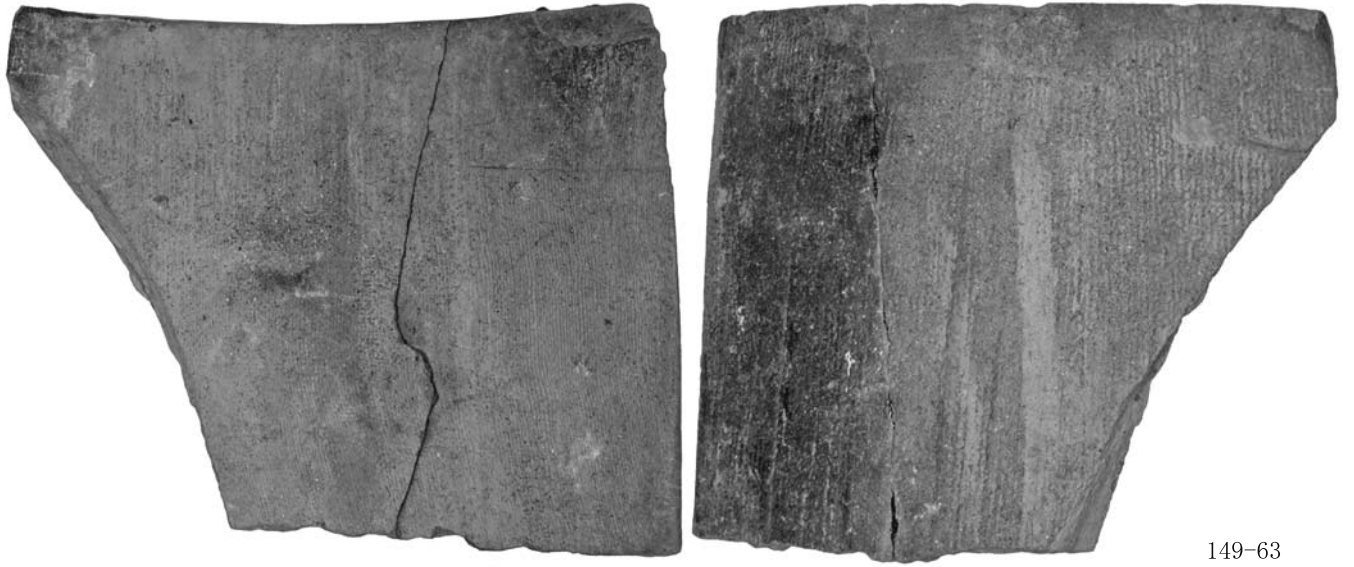
148-56



148-53



148-60



149-63



150-65



150-66



150-67



150-68



150-69



150-70



150-71



150-72



150-73



150-74



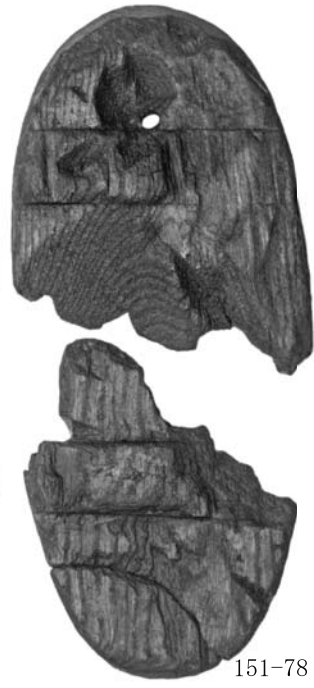
151-75



151-76



151-77



151-78



151-79



151-80



151-81



152-83



152-84



152-85

